

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第416集

どい た ろう
台太郎遺跡第26次発掘調査報告書

盛岡南新都市計画整備事業関連遺跡発掘調査

盛 岡 市
(財)岩手県文化振興事業団
埋蔵文化財センター

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第416集

だいたろう

台太郎遺跡第26次発掘調査報告書

盛岡南新都市計画整備事業関連遺跡発掘調査

序

豊かな自然に恵まれた岩手県には、縄文時代をはじめとする数多くの遺跡や重要な文化財が残されております。これら多くの先人達の創造してきた文化遺産を保存し、後世に伝えていくことは、県民に課せられた責務であります。

一方では、地域開発に伴う社会資本の充実に重要な施策であります。発掘により遺構が消滅することはまことに惜しいことではありますが、その反面それまで間に包まれていた先人の営みに光明が当たるのも事実であります。

このように埋蔵文化財の保護・保存と開発との調和も今日的課題であり、(財)岩手県文化振興事業団は、埋蔵文化財センター創設以来、岩手県教育委員会の指導と調整のもとに、開発によってやむを得ず消滅する遺跡の緊急発掘調査を行い、記録保存する処置を取って参りました。

本報告書は、盛岡南新都市計画整備事業に関連して、平成12年度に調査した台太郎遺跡第26次調査の結果をまとめたものであります。調査によって奈良～平安時代並びに中世の集落跡などが発見され、貴重な資料を提供することができました。

この報告書が広く活用され、斯学の研究のみならず、埋蔵文化財に対する理解の一助となれば幸いです。

最後になりましたが、これまでの発掘調査及び報告書作成にご援助・ご協力を賜りました盛岡市開発部盛南開発課・盛岡市教育委員会をはじめ、関係各位に心より謝意を表します。

平成14年10月

財団法人 岩手県文化振興事業団
理事長 合 田 武

例 言

1. 本報告書は、盛岡市向中野字向中野3-5ほかに所在する、台太郎遺跡第26次調査の発掘調査結果を取録したものである。
2. 本遺跡の発掘調査は、盛岡南新都市計画整備事業に伴う事前の緊急発掘調査である。調査は、岩手県教育委員会と盛岡市・地域振興整備公団の協議を経て、(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが担当した。
3. 岩手県遺跡登録台帳に記載される遺跡番号・遺跡略号は次の通りである。
LE16-2269・ODT-00-26
4. 発掘調査期間は、平成12年4月19日～10月30日、発掘調査面積は13,662㎡である。
室内整理期間は、平成12年11月1日～平成13年3月31日、
平成13年8月1日～10月30日である。
野外調査担当：杉沢昭太郎・半澤武彦・吉田里和・古館貞身・原美津子
室内整理担当：杉沢昭太郎・半澤武彦・吉田里和
5. 本報告書の執筆は、Iを高橋與右衛門が、それ以外を杉沢・半澤・古館が担当し、編集は杉沢が行った。
6. 遺物等の分析・鑑定は次の方々へ依頼した。
 - ・石質鑑定…花崗岩研究会
 - ・鉄器保存処理…岩手県立博物館
 - ・炭化材同定…木炭協会
7. 座標点の測量、空中写真撮影は、次の機関に委託した。
 - ・座標点の測量…(株)吉田測量設計
 - ・空中写真…東邦航空(株)
8. 発掘調査において、次の機関の協力を得た。
盛岡市教育委員会・盛岡市開発部盛南開発課・地域振興整備公団
9. 野外調査や整理・報告書の作成には次の方々の協力・指導を頂いた。(50音順・敬称略)
井上雅孝(滝沢村教育委員会) 宇部則保(八戸市教育委員会)
杉本良(北上市立埋蔵文化財センター) 長島栄一・松本知彦(仙台市教育委員会)
村田晃・(宮城県教育庁)
10. 野外調査では盛岡市・滝沢村をはじめとする地元の方々の協力をいただいた。
11. 本遺跡で出土した遺物及び調査資料は、岩手県立埋蔵文化財センターが保管している。

[本文目次]

序 例言

I 調査に至る経過	5	10 出土遺物	223
II 遺跡の位置と立地	5	(1) 土師器・須恵器	223
1 遺跡の位置と地形・地質	5	(2) 陶磁器	266
2 遺跡の立地	7	(3) 縄文土器ほか	266
3 基本層序	7	(4) 金属製品	266
4 周辺の遺跡と歴史的環境	8	(5) 土製品ほか	267
III 調査の方法と室内整理	15	(6) 石器・石製品	267
1 野外調査の方法	15	V まとめ	294
2 室内整理	17	土坑類観察表	146
IV 検出された遺構と遺物	29	焼土・炉跡観察表	170
1 古墳時代末から 平安時代の竪穴住居跡	29	溝跡観察表	190
2 中世の竪穴建物跡	130	柱穴計測表	215
3 竪穴状遺構	134	土師器・須恵器観察表	279
4 掘立柱建物跡	136	陶磁器観察表	291
5 土坑および墓坑(中世)	145	縄文土器ほか観察表	291
6 焼土・炉跡	170	金属製品観察表	292
7 溝跡	172	銭貨観察表	292
8 井戸跡	193	土製品ほか観察表	293
9 その他の遺構	196	石器・石製品観察表	293

[図版目次]

第1図 岩手県図に見る遺跡の位置	1	第21図 R A 406竪穴住居跡	37
第2図 遺跡の位置図	2	第22図 R A 407竪穴住居跡	38
第3図 遺跡周辺地形図	3・4	第23図 R A 409竪穴住居跡	39
第4図 遺跡周辺地形分類図	6	第24図 R A 410竪穴住居跡	40
第5図 基本土層柱状図	7	第25図 R A 412竪穴住居跡	42
第6図 周辺の遺跡分布図(古代)	9	第26図 R A 414竪穴住居跡	43
第7図 周辺の遺跡分布図(中・近世)	14	第27図 R A 416竪穴住居跡	44
第8図 グリッド配置図	15	第28図 R A 417竪穴住居跡	45
第9図 台太郎遺跡26次調査遺構配置図	19・20	第29図 R A 418竪穴住居跡	47
第10図 台太郎遺跡26次調査遺構配置図(1)	21・22	第30図 R A 421竪穴住居跡	48
第11図 台太郎遺跡26次調査遺構配置図(2)	23	第31図 R A 438竪穴住居跡	49
第12図 台太郎遺跡26次調査遺構配置図(3)	24	第32図 R A 439竪穴住居跡	50
第13図 台太郎遺跡26次調査遺構配置図(4)	25・26	第33図 R A 441竪穴住居跡(1)	51
第14図 台太郎遺跡26次調査遺構配置図(5)	27・28	第34図 R A 441竪穴住居跡(2)	52
第15図 R A 210竪穴住居跡	30	第35図 R A 442竪穴住居跡(1)	53
第16図 R A 234竪穴住居跡	31	第36図 R A 442竪穴住居跡(2)	54
第17図 R A 237竪穴住居跡	32	第37図 R A 444竪穴住居跡	56
第18図 R A 281竪穴住居跡	33	第38図 R A 445竪穴住居跡	58
第19図 R A 402竪穴住居跡	35	第39図 R A 446竪穴住居跡	60
第20図 R A 404竪穴住居跡	36	第40図 R A 447竪穴住居跡(1)	62

第41回	R A 447 竖穴住居跡 (2)	63	第91回	R A 232 竖穴建物跡	131
第42回	R A 448 竖穴住居跡	64	第92回	R A 443 竖穴建物跡	132
第43回	R A 449 竖穴住居跡	66	第93回	R A 450 竖穴建物跡	132
第44回	R A 451 竖穴住居跡	67	第94回	R A 454 竖穴建物跡	133
第45回	R A 455 竖穴住居跡	68	第95回	R F 048・049 竖穴灶遺構	135
第46回	R A 456 竖穴住居跡	70	第96回	R B 031・034 掘立柱建物跡	137
第47回	R A 457 竖穴住居跡	71	第97回	R B 035・036 掘立柱建物跡	139
第48回	R A 458 竖穴住居跡	73	第98回	R B 038 掘立柱建物跡	140
第49回	R A 459 竖穴住居跡	74	第99回	R B 039・040 掘立柱建物跡	142
第50回	R A 460 竖穴住居跡	75	第100回	R B 037・041 掘立柱建物跡	144
第51回	R A 461 竖穴住居跡	76	第101回	R D 土坑 (1)	151
第52回	R A 214 竖穴住居跡	78	第102回	R D 土坑 (2)	152
第53回	R A 218 竖穴住居跡	80	第103回	R D 土坑 (3)	153
第54回	R A 312 竖穴住居跡	81	第104回	R D 土坑 (4)	154
第55回	R A 316 竖穴住居跡	82	第105回	R D 土坑 (5)	155
第56回	R A 397 竖穴住居跡	84	第106回	R D 土坑 (6)	156
第57回	R A 399 竖穴住居跡	85	第107回	R D 土坑 (7)	157
第58回	R A 400 竖穴住居跡	87	第108回	R D 土坑 (8)	158
第59回	R A 401 竖穴住居跡	88	第109回	R D 土坑 (9)	159
第60回	R A 403 竖穴住居跡 (1)	90	第110回	R D 土坑 (10)	160
第61回	R A 403 竖穴住居跡 (2)	91	第111回	R D 土坑 (11)	161
第62回	R A 406 竖穴住居跡	92	第112回	R D 土坑 (12)	162
第63回	R A 408 竖穴住居跡	93	第113回	R D 土坑 (13)	163
第64回	R A 411 竖穴住居跡	95	第114回	R D 土坑 (14)	164
第65回	R A 413 竖穴住居跡	96	第115回	R D 土坑 (15)	165
第66回	R A 415 竖穴住居跡 (1)	97	第116回	R D 土坑 (16)	166
第67回	R A 415 竖穴住居跡 (2)	98	第117回	R D 土坑 (17)	167
第68回	R A 419 竖穴住居跡	100	第118回	R D 土坑 (18)	168
第69回	R A 420 竖穴住居跡	101	第119回	R D 土坑 (19)	169
第70回	R A 422 竖穴住居跡	102	第120回	R F 焼土・灰跡 (1)	171
第71回	R A 423 竖穴住居跡	104	第121回	R F 焼土・灰跡 (2)	172
第72回	R A 424 竖穴住居跡	106	第122回	R G 溝跡 (1)	173・174
第73回	R A 425 竖穴住居跡	107	第123回	R G 溝跡 (2)	175
第74回	R A 426 竖穴住居跡	108	第124回	R G 溝跡 (3)	176
第75回	R A 427 竖穴住居跡	110	第125回	R G 溝跡 (4)	177・178
第76回	R A 429 竖穴住居跡	111	第126回	R G 溝跡 (5)	179・180
第77回	R A 430 竖穴住居跡 (1)	113	第127回	R G 溝跡 (6)	181
第78回	R A 430 竖穴住居跡 (2)	114	第128回	R G 溝跡 (7)	182
第79回	R A 431 竖穴住居跡	116	第129回	R G 溝跡 (8)	183
第80回	R A 432 竖穴住居跡	117	第130回	R G 溝跡 (9)	184
第81回	R A 433 竖穴住居跡	119	第131回	R G 溝跡 (10)	185
第82回	R A 434 竖穴住居跡	120	第132回	R G 溝跡 (11)	186
第83回	R A 435 竖穴住居跡	121	第133回	R G 溝跡 (12)	187
第84回	R A 437 竖穴住居跡	122	第134回	R G 溝跡 (13)	188
第85回	R A 440 竖穴住居跡	123	第135回	R G 溝跡 (14)	189
第86回	R A 452 竖穴住居跡	125	第136回	R I 011・012・013 井跡	195
第87回	R A 398 竖穴住居跡	126	第137回	R Z 027 方形周溝跡	197
第88回	R A 428 竖穴住居跡	127	第138回	R Z 028 川形周溝・R Z 023 性格不明遺構	198
第89回	R A 436 竖穴住居跡	128			198
第90回	R A 453 竖穴住居跡	129	第139回	柱穴群 (1)	200

第140图	柱穴群 (2)	201 · 202
第141图	柱穴群 (3)	203 · 204
第142图	柱穴群 (4)	205 · 206
第143图	柱穴群 (5)	207 · 208
第144图	柱穴群 (6)	209
第145图	柱穴群 (7)	210
第146图	柱穴群 (8)	211
第147图	柱穴群 (9)	212
第148图	柱穴群 (10)	213
第149图	柱穴群 (11)	214
第150图	土師器·須惠器 (1)	225
第151图	土師器·須惠器 (2)	226
第152图	土師器·須惠器 (3)	227
第153图	土師器·須惠器 (4)	228
第154图	土師器·須惠器 (5)	229
第155图	土師器·須惠器 (6)	230
第156图	土師器·須惠器 (7)	231
第157图	土師器·須惠器 (8)	232
第158图	土師器·須惠器 (9)	233
第159图	土師器·須惠器 (10)	234
第160图	土師器·須惠器 (11)	235
第161图	土師器·須惠器 (12)	236
第162图	土師器·須惠器 (13)	237
第163图	土師器·須惠器 (14)	238
第164图	土師器·須惠器 (15)	239
第165图	土師器·須惠器 (16)	240
第166图	土師器·須惠器 (17)	241
第167图	土師器·須惠器 (18)	242
第168图	土師器·須惠器 (19)	243
第169图	土師器·須惠器 (20)	244
第170图	土師器·須惠器 (21)	245
第171图	土師器·須惠器 (22)	246
第172图	土師器·須惠器 (23)	247
第173图	土師器·須惠器 (24)	248
第174图	土師器·須惠器 (25)	249
第175图	土師器·須惠器 (26)	250
第176图	土師器·須惠器 (27)	251
第177图	土師器·須惠器 (28)	252
第178图	土師器·須惠器 (29)	253
第179图	土師器·須惠器 (30)	254

第180图	土師器·須惠器 (31)	255
第181图	土師器·須惠器 (32)	256
第182图	土師器·須惠器 (33)	257
第183图	土師器·須惠器 (34)	258
第184图	土師器·須惠器 (35)	259
第185图	土師器·須惠器 (36)	260
第186图	土師器·須惠器 (37)	261
第187图	土師器·須惠器 (38)	262
第188图	土師器·須惠器 (39)	263
第189图	土師器·須惠器 (40)	264
第190图	土師器·須惠器 (41)	265
第191图	陶磁器 (1)	268
第192图	陶磁器 (2)	269
第193图	縄文土器	270
第194图	金屬製品 (1)	271
第195图	金屬製品 (2)	272
第196图	錢貨	273
第197图	土製品他	274
第198图	石器·石製品 (1)	275
第199图	石器·石製品 (2)	276
第200图	石器·石製品 (3)	277
第201图	石器·石製品 (4)	278
第202图	出土土師器集成图1	302
第203图	出土土師器集成图2	303
第204图	出土土師器集成图3	304
第205图	出土土師器集成图4	305
第206图	出土土師器集成图5	306
第207图	出土土師器集成图6	307
第208图	出土土師器集成图7	308
第209图	出土土師器集成图8	309
第210图	出土土師器集成图9	310
第211图	出土土師器集成图10	311
第212图	出土土師器集成图11	312
第213图	出土土師器集成图12	313
第214图	出土土師器集成图13	314

付图1 台太郎遺跡15・18・23・26次、向中野館跡遺構配置区

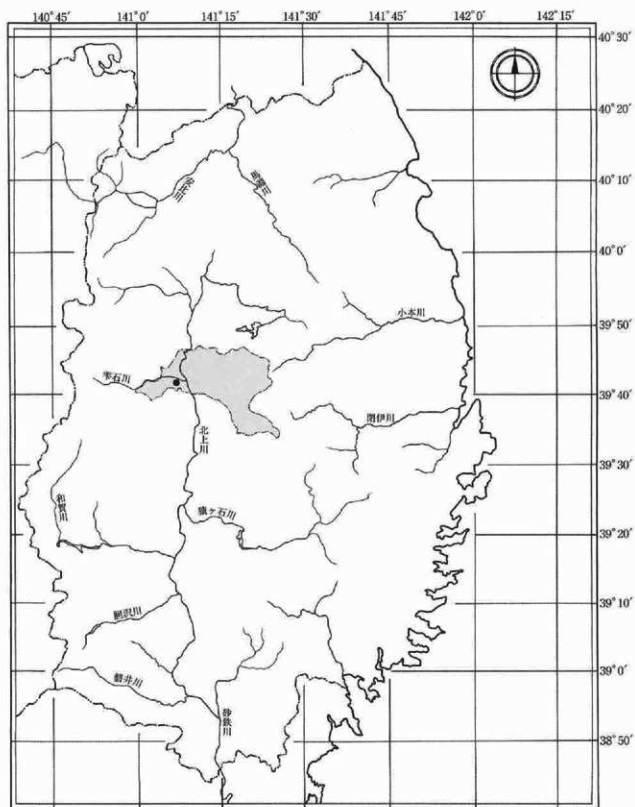
付图2 柱穴群

付图3 柱穴群

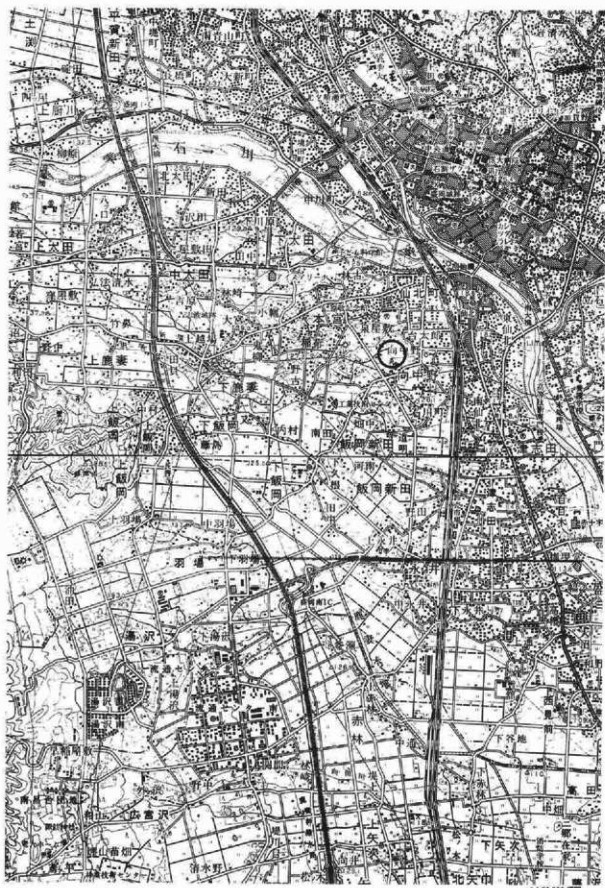
[写真図版目次]

写真図版 1	遺跡全景	319	写真図版 48	R A406 竪穴住居跡	366
写真図版 2	遺跡近景 2 - D 他	320	写真図版 49	R A408 竪穴住居跡	367
写真図版 3	遺跡近景 4 - C ~ 5 - B	321	写真図版 50	R A411 竪穴住居跡	368
写真図版 4	遺跡近景 2 D ~ 4 B	322	写真図版 51	R A413 竪穴住居跡	369
写真図版 5	遺跡全景	323	写真図版 52	R A415 竪穴住居跡	370
写真図版 6	R A210 竪穴住居跡	324	写真図版 53	R A419 竪穴住居跡	371
写真図版 7	R A234 竪穴住居跡	325	写真図版 54	R A420 竪穴住居跡	372
写真図版 8	R A237 竪穴住居跡	326	写真図版 55	R A422 竪穴住居跡	373
写真図版 9	R A402 竪穴住居跡	327	写真図版 56	R A423 竪穴住居跡	374
写真図版 10	R A404 竪穴住居跡	328	写真図版 57	R A424 竪穴住居跡	375
写真図版 11	R A405 竪穴住居跡	329	写真図版 58	復元した R A424 竪穴住居跡	376
写真図版 12	R A407 竪穴住居跡	330	写真図版 59	R A425 竪穴住居跡	377
写真図版 13	R A409 竪穴住居跡	331	写真図版 60	R A426 竪穴住居跡	378
写真図版 14	R A410 竪穴住居跡	332	写真図版 61	R A427 竪穴住居跡	379
写真図版 15	R A412 竪穴住居跡	333	写真図版 62	R A429 竪穴住居跡	380
写真図版 16	R A414 竪穴住居跡	334	写真図版 63	R A430 竪穴住居跡 (1)	381
写真図版 17	R A416 竪穴住居跡	335	写真図版 64	R A430 竪穴住居跡 (2)	382
写真図版 18	R A417 竪穴住居跡	336	写真図版 65	R A426・431・432・434 竪穴住居跡	383
写真図版 19	R A418 竪穴住居跡	337	写真図版 66	R A431・432 竪穴住居跡	384
写真図版 20	R A421 竪穴住居跡	338	写真図版 67	R A433 竪穴住居跡	385
写真図版 21	R A438・439 竪穴住居跡	339	写真図版 68	R A435 竪穴住居跡	386
写真図版 22	R A441 竪穴住居跡	340	写真図版 69	R A437 竪穴住居跡	387
写真図版 23	R A442 竪穴住居跡	341	写真図版 70	R A440 竪穴住居跡	388
写真図版 24	R A444 竪穴住居跡	342	写真図版 71	R A452 竪穴住居跡	389
写真図版 25	R A445 竪穴住居跡	343	写真図版 72	R A398 竪穴住居跡	390
写真図版 26	R A446 竪穴住居跡	344	写真図版 73	R A428 竪穴住居跡	391
写真図版 27	R A447 竪穴住居跡 (1)	345	写真図版 74	R A436 竪穴住居跡	392
写真図版 28	R A447 竪穴住居跡 (2)	346	写真図版 75	R A232 竪穴建物跡	393
写真図版 29	R A448 竪穴住居跡	347	写真図版 76	R A443 竪穴建物跡	394
写真図版 30	R A449 竪穴住居跡	348	写真図版 77	R A450 竪穴建物跡	395
写真図版 31	R A451 竪穴住居跡 (1)	349	写真図版 78	R A454 竪穴建物跡	396
写真図版 32	R A451 竪穴住居跡 (2)	350	写真図版 79	R E018・049 竪穴状遺構	397
写真図版 33	R A453・455 竪穴住居跡	351	写真図版 80	R B031・034 掘立柱建物跡	398
写真図版 34	R A456 竪穴住居跡	352	写真図版 81	R B035~037 掘立柱建物跡	399
写真図版 35	R A457 竪穴住居跡	353	写真図版 82	R B038・039 掘立柱建物跡	400
写真図版 36	R A458 竪穴住居跡	354	写真図版 83	R B040・041 掘立柱建物跡	401
写真図版 37	R A459 竪穴住居跡	355	写真図版 84	R D586・596・622・626 土坑	402
写真図版 38	R A460 竪穴住居跡	356	写真図版 85	R D633~637 土坑	403
写真図版 39	R A461 竪穴住居跡	357	写真図版 86	R D639・643~645 土坑	404
写真図版 40	R A214 竪穴住居跡	358	写真図版 87	R D660・692・796・808・810 土坑	405
写真図版 41	R A312 竪穴住居跡	359	写真図版 88	R D814・819・820・822・823・825 土坑	406
写真図版 42	R A316 竪穴住居跡	360	写真図版 89	R D826~829 土坑	407
写真図版 43	R A397 竪穴住居跡	361	写真図版 90	R D830~833・926 土坑	408
写真図版 44	R A399 竪穴住居跡	362	写真図版 91	R D927~930 土坑	409
写真図版 45	R A400 竪穴住居跡	363	写真図版 92	R D931・933~936 土坑	410
写真図版 46	R A401 竪穴住居跡	364	写真図版 93	R D937・939~941 土坑	411
写真図版 47	R A403 竪穴住居跡	365			

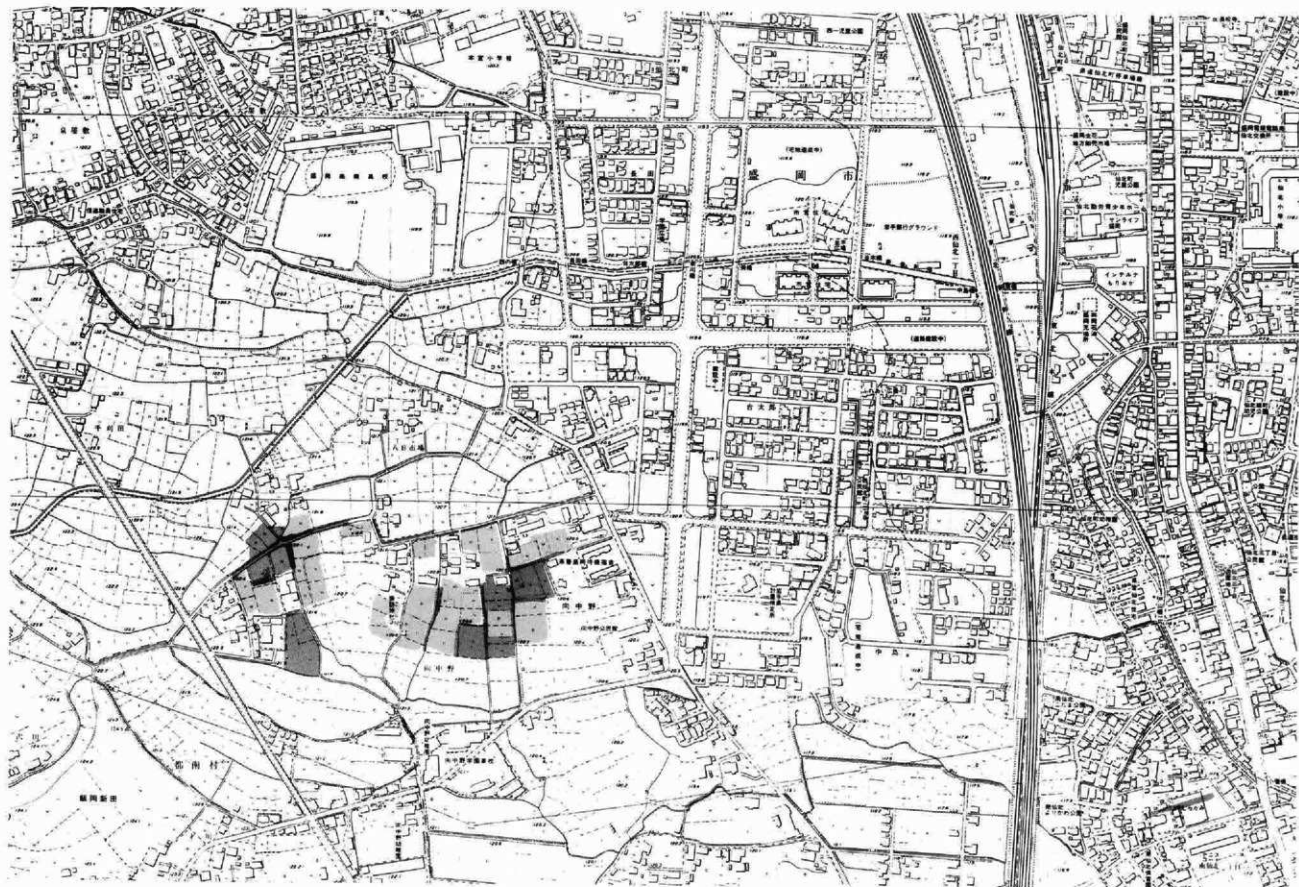
写真図版94	R D942~944土坑	412	写真図版139	土師器・須恵器(8)	457
写真図版95	R D945~948土坑	413	写真図版140	土師器・須恵器(9)	458
写真図版96	R D949~951・953土坑	414	写真図版141	土師器・須恵器(10)	459
写真図版97	R D954~956・971土坑	415	写真図版142	土師器・須恵器(11)	460
写真図版98	R D972~975土坑	416	写真図版143	土師器・須恵器(12)	461
写真図版99	R D976~979土坑	417	写真図版144	土師器・須恵器(13)	462
写真図版100	R D980~983土坑	418	写真図版145	土師器・須恵器(14)	463
写真図版101	R D984~987土坑	419	写真図版146	土師器・須恵器(15)	464
写真図版102	R D988~991土坑	420	写真図版147	土師器・須恵器(16)	465
写真図版103	R D992~995土坑	421	写真図版148	土師器・須恵器(17)	466
写真図版104	R D996~999土坑	422	写真図版149	土師器・須恵器(18)	467
写真図版105	R D1001・1002土坑	423	写真図版150	土師器・須恵器(19)	468
写真図版106	R D1003~1006土坑	424	写真図版151	土師器・須恵器(20)	469
写真図版107	R D1007~1011土坑	425	写真図版152	土師器・須恵器(21)	470
写真図版108	R D1012~1015土坑	426	写真図版153	土師器・須恵器(22)	471
写真図版109	R D1016~1019土坑	427	写真図版154	土師器・須恵器(23)	472
写真図版110	R D1020~1023土坑	428	写真図版155	土師器・須恵器(24)	473
写真図版111	R D1024~1027土坑	429	写真図版156	土師器・須恵器(25)	474
写真図版112	R D1028~1031土坑	430	写真図版157	土師器・須恵器(26)	475
写真図版113	R D1032~1035土坑	431	写真図版158	土師器・須恵器(27)	476
写真図版114	R D1036~1038土坑	432	写真図版159	土師器・須恵器(28)	477
写真図版115	R F024・052焼土・炉跡	433	写真図版160	土師器・須恵器(29)	478
写真図版116	R F053~056焼土・炉跡	434	写真図版161	土師器・須恵器(30)	479
写真図版117	R F057~059焼土・炉跡、R F1011井戸跡	435	写真図版162	土師器・須恵器(31)	480
写真図版118	R F1012・013井戸跡、R G045溝跡	436	写真図版163	土師器・須恵器(32)	481
写真図版119	R G045・229・231・235・352溝跡	437	写真図版164	土師器・須恵器(33)	482
写真図版120	R G073・088・170・200溝跡	438	写真図版165	土師器・須恵器(34)	483
写真図版121	R G223・224・228溝跡	439	写真図版166	土師器・須恵器(35)	484
写真図版122	R G242・319・321~323溝跡	440	写真図版167	土師器・須恵器(36)	485
写真図版123	R G307・315・318溝跡	441	写真図版168	土師器・須恵器(37)	486
写真図版124	R G320・324・325・327溝跡	442	写真図版169	土師器・須恵器(38)	487
写真図版125	R G326・328・329・331・332溝跡	443	写真図版170	土師器・須恵器(39)	488
写真図版126	R G331~336・338溝跡	444	写真図版171	土師器・須恵器(40)	489
写真図版127	R G339~342・354~358溝跡	445	写真図版172	土師器・須恵器(41)	490
写真図版128	R G340・351・354~358溝跡	446	写真図版173	土師器・須恵器(42)	491
写真図版129	R Z023性態不明遺構、R Z0281形周溝跡	447	写真図版174	土師器・須恵器(43)	492
写真図版130	R Z027方形周溝跡	448	写真図版175	土師器・須恵器(44)	493
写真図版131	現地説明会	449	写真図版176	土師器・須恵器(45)、縄文土器(1)、陶磁器(1)	494
写真図版132	土師器・須恵器(1)	450	写真図版177	縄文土器(2)	495
写真図版133	土師器・須恵器(2)	451	写真図版178	陶磁器(2)	496
写真図版134	土師器・須恵器(3)	452	写真図版179	陶磁器(3)	497
写真図版135	土師器・須恵器(4)	453	写真図版180	土製品・鉄製品(1)	498
写真図版136	土師器・須恵器(5)	454	写真図版181	鉄製品(2)	499
写真図版137	土師器・須恵器(6)	455	写真図版182	銭貨	500
写真図版138	土師器・須恵器(7)	456	写真図版183	石器・石製品(1)	501
			写真図版184	石器・石製品(2)	502
			写真図版185	石器・石製品(3)	503
			写真図版186	石器・石製品(4)	504



第1図 岩手県図に見る遺跡の位置



第2図 遺跡の位置図



第3図 遺跡周辺地形図 (1:5,000)

(濃: 26次調査、薄: 23次調査)

I 調査に至る経過

盛岡南新都市開発計画は、盛岡市が21世紀に向けて、経済・文化などに対する各機能を兼ね備えた北東北の拠点都市を目指して、現在の既成市街地の他に南部地域を新市街地として開発し、両者が有機的に結びついた軸状都心を形成するために策定された土地区画整理事業である。

この事業は、平成2年9月に岩手県、盛岡市、都南村（現盛岡市）の三者が、地域振興整備公団に対して事業申請を行い、これを受けて公団は実施計画を作成した。平成3年12月に建設大臣と国土庁長官から事業の実施許可が下り、平成3年度から平成17年度までの15年間で事業予定期間とし、面積313haを対象とした土地区画整理事業が実施される事となった。

この間、事業の対象地域に係わる埋蔵文化財の取扱いについても協議が重ねられた。その結果、盛岡市教育委員会が試掘調査を行い、本調査を必要とする範囲を確定し、本調査は（財）岩手県文化振興事業団の受託事業とすることになった。

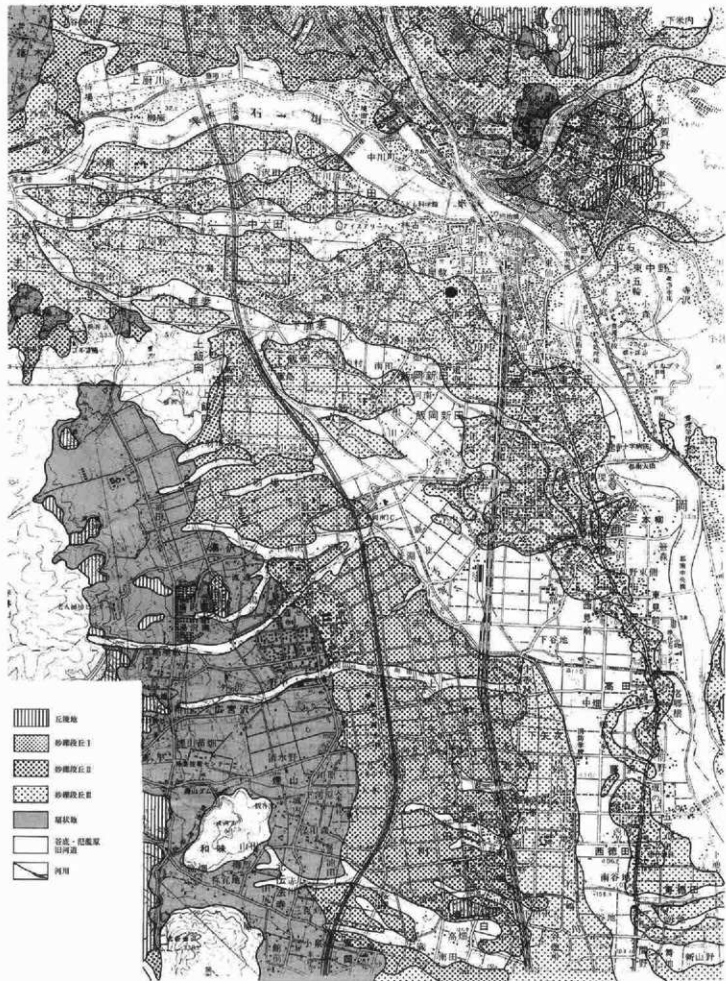
当遺跡については、岩手県教育委員会が盛岡市と協議の結果、平成11年の事業として確定した。これを受けて、平成11年4月1日に（財）岩手県文化振興事業団理事長と盛岡市長の間で委託契約を締結し発掘調査を実施する事となった。台太郎遺跡の23次調査は平成11年4月16日に開始され、同年11月15日に終了した。

II 遺跡の位置と立地

1 遺跡の位置と地形・地質

台太郎遺跡の所在する盛岡市は岩手・宮城両県を全長249kmに渡って流れる東北地方最大の河川、北上川の中流域に発達した都市であり、市内には更に支流として季石川・中津川・桑川が合流する非常に河川と関係が深い街である。第4図に盛岡市周辺の地形分類図を示すが、遺跡が存在する盛岡市南部は奥羽山脈から供給された土砂を季石川が運び、下流に平野を形成する扇状地の中にある。扇状地の形成後、支流の開析が及び、結果として遺跡周辺の現地形は低位段丘面として残されている。

低位段丘面の下には支流の河川地積による沖積面が広がっているが、度重なる氾濫と流路の変化を繰り返した結果、しばしば部分的に旧川床が沼地や湿地の形で残ったのがこの地域の地形的特徴であり、今回の調査からも大小に及んでその影響と思われる堆積・地形・地質変化の痕跡が確認されている。また、地図や航空写真からもこの様子は明確に読みとることが可能である。



第4圖 遺跡周辺地形分類圖

2 遺跡の立地

台太郎遺跡の東約1.5kmには国道4号線が走り、その西側に隣接して遺跡の東約900mにはJR東日本旅客鉄道東北本線と仙北町駅、及び東北新幹線高架橋が存在している。隣接して旧「奥州道中」街道と江戸時代には南部藩の政策に伴って産業が発達した仙北町・同心町が作られた仙北領町があり、現在でも江戸の風情を今に伝える旧い商家等の町並みを見ることが出来る。

台太郎地区は街道筋から見て仙北町の裏手にあたり、遺跡の北1.5kmを流れる宇石川によって形成された低位段丘上に立地している。古くは流路がこの場所を貫流したこともあり、堆積物によって地味が肥えていたため近年まで同様の環境を持つ盛岡西部太田・飯岡地区へと続く水田・畑作地帯の一角を成し、今回調査を実施した区域の現況も田畑が広がる農村風景の一部であった。現在は調査の原因でもある盛南開発新市街地区区域の対象となった為、水田等からの開発造成が随所で進行中であり、遺跡名である「台太郎」も平成11年をもって全て字名を「向中野」内の町名に統合・廃止され、通称として残るのみとなっている。

3 基本層序

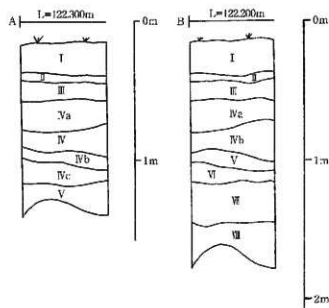
調査区は遺跡全体の中で中央から南側半分を部分的に調査する形となり、東から西へとなだらかに高くなっている。また旧地表面に関しては、これも河川の削割によって北側から南側へ緩やかに下がっている。しかしながら全体的に耕地整備により地形改変を受ける箇所も少なくはなく、各所にその影響は現れていた他、調査区の面積が13,662㎡強と広大なため、表土下の地層には部分的な個所でのみ含まれる層も存在し、決して一様ではない。その中で第5図はそれぞれ調査区東側4Eグリッドと西側3-Dグリッドで記録した代表的な基本層序を柱状模式図であらわしたものである。

I層：黒褐色～暗褐色土。現在の表土層で休耕田及び畑地の耕作土である。層厚は10～30cmである。

II層：褐色粘土で、層厚は3～4cm前後を調る。旧水田面の床土で下部には赤褐色の水酸化鉄の集積が顕著に見られる

III層：黒褐色シルト質土。上層の黒褐色土と下層の漸移層である。層厚は0～20cmで遺物を包含する。

IVa層：褐色シルト質土。層厚は10～60cmで本遺跡における遺構検出面である。全体に堅く締まり粘性がある。



第5図 基本土層柱状図

IV b 層：黄褐色シルト質土。締まりがあり粘性もある。層厚は10～30cm。

IV c 層：黄褐色砂質シルト。層厚は0～30cmで遺跡内では部分的に確認される。

V 層：段丘の基盤をなす砂礫層である。層厚は確認していない。遺跡南側の4 A区等ではIV層を挟まないでIII層の次に現れる。砂や礫の堆積状況により細分可能である。下部には径10～30cm大の礫が見られる。

4 周辺の遺跡と歴史的環境

(1) 古代

古代における盛岡周辺の歴史を文献に求めようとすると、限界がある。政権所在地から遠隔なる所以であろうか。丁度、中華帝国の縁辺にあって、東夷とさげすまれた古代の日本と同等の感がする。

今、古書を通じて岩手の古代を知ろうとすれば、最古の記録として上げられるのが『続日本紀』に靈龜元(715)年10月29日の条に次の様な記録である。「蝦夷の須賀君古麻比留等言上。先祖以来、貢獻昆布は、常にこの地に採りて、年時を欠かず。いま国府部下相い去ること道遠く、往還句を累ねて甚だ辛苦多し。閉村に便りて郡家を建て、百姓に同じくし、共に親族を率いて永く貢ぎを欠かさむと云う。」ここでいう閉村とは、今も昆布が採取される下閉伊郡内の沿岸部である事が想像される。あまりにも断片的な史料ではあるが、文中にはいくらかの示唆に富む記述がある。それは、「先祖以来」の4文字である。少なくとも715年段階で、中央政府への貢納が平和的に行われており、それが、以前から続けられていることを物語っている。

この時点では、中央政府の推進する律令体制には未だ組み込まれてはいないが、中央政府に入貢し、対する下賜が行われていたであろう事は、該期の古墳より出土する和同開珎、?帯金具等から推測される。

降って、宝龜五(774)年、海道(北上川流域)のエミシが反乱し、桃生城に反攻して西の郭を突破するという事件が起こる。これを契機として、以後中央政府とエミシとの関係は、俗に言う「東北大戦争」へと突入していく。

宝龜七(776)年には「出羽の国の志波村の賊、叛逆し西と相戦う」、「陸奥軍三千人を発して胆沢の賊を伐つ」(『続日本紀』)とあり、ここでは、明らかに中央政府の方針は賊に対しての征討に転換している。同時にこの条項は、志波、胆沢の地名の初見でもある。さらに、宝龜十一(780)年にはエミシの伊治郡大領の伊治公 麻呂が按察使の紀広純を伊治城で殺害し、さらに多賀城の国府をおそい、建物に放火するという事件が起こった。以後30年間に渡る中央政府による蝦夷征伐が行われることになる。

延暦八(789)年には征東大將軍紀古佐美等の討伐に対するアテルイ等の抵抗、降って延暦十三(794)年になると、時の桓武天皇による「新都の造営と奥羽両国の征討」という2大政策による征東大使人伴弟麻呂、副使坂上田村麻呂等の討伐が行われたが、不完全であった。さらに延暦二十(801)年には征東大將軍となった坂上田村麻呂による大がかりな征討が行われ、延暦二十一(802)年には胆沢城が造営されて、翌延暦二十二(803)年には志波城が築かれている。この事実を見れば、坂上田村麻呂による討伐は成功を収めており、弘仁二(811)年正月には和親、稚織、斯波の三郡がおかれ、中央政府の支配下におかれることになった。また、同年4月に征夷將軍となった文章館麻呂による志波城以北の磐伊・爾麻呂の征討が行われ、同年10月には蝦夷平定の報告がなされている。

但し、この間には、中央政府の所謂「夷をもって夷を制す」の方策が行われており、エミシ側には村ごと



第6図 周辺の遺跡分布図(古代)

に反政府的な、或いは親政府的な独自の行動が見られる。たとえば、延暦十一年(792)年に「新波村の夷祖沢公阿奴志己ら、王化に帰せんとするも伊治村の俘に妨げられて果たさざるを訴える」(『御製国史』)例や、弘仁二(811)年には「爾薩体の伊加占らが兵をととのえ、都母村にあった磐伊村の夷を誘っており、これを討たんとする巨良志閉の降俘都留岐に米100斛を与える」(『日本後期』)等の記事はこの辺りの事情をよく表している。

本遺跡の周辺を概観すると、幸石川を挟んで右岸と左岸では相対的な様相を呈している。左岸の台地上には大館遺跡群をはじめとした縄文時代の集落遺跡が数多く分布しているが、右岸の沖積段丘上には縄文時代の遺構は陥し穴状遺構が散在する程度となり、住居跡を持つ集落遺跡は確認されていない。しかし古代特にも7世紀代以降には遺跡数が急増する。しかも集落遺跡に止まらず古墳群、城柵跡も確認されている。

盛岡市周辺における古墳は所謂終末期古墳群であり古墳時代の終わり頃から奈良時代にかけて造られたものである。代表的なものとしては太田殿夷森古墳群があげられるが、他に上田殿夷森古墳群、飯岡地区に高館古墳、三木柳地区に大道西古墳、矢巾町には藤沢狄森古墳群、白沢狄森古墳群などが確認されている。

これらの古墳の形態を宮城県北部の古墳形態の退化形態と捉える考えもあるが、むしろ群馬県北部山間地域や埼玉県秩父地方あるいは東京都の丘陵などで7世紀ごろ発達していた積石塚古墳群との関係を指摘する考えもある。このように7世紀に入り、集落の急増と古墳群の形成という事実は、古墳文化圏からの人の移動、特に関東西部から中部山地、あるいは北陸との関係を示唆するものかもしれない。

7世紀代の古墳からの出土遺物は、上田殿夷森古墳群からは斬角付冑が、藤沢狄森古墳群からは直刀が出土しており何れも軍事的な雰囲気を感じさせるものである。8世紀代になると、太田殿夷森古墳群では竈手刀、直刀、勾玉、切子玉、ガラス製小玉、管玉の他に和同開珎、?帯金具が出土しており、軍事的のみならず、中央勢力との結びつきを運想させるものである。

またこれら古墳群と対応する集落遺跡として、八卦・百目木・西施渡・台太郎・本宮熊堂B等の存在が知られている。この中で、現在も発掘調査が継続して行われている遺跡もあるが、百目木遺跡については昭和53年に旧都南村教育委員会により調査が行われ報告書が刊行されている。ここからは奈良時代の竪穴住居跡が約40棟、平安時代の竪穴住居跡が約40棟検出されている。奈良時代の竪穴住居跡について見ると、大形の住居が7棟で、その他は小形であり、大形住居の周囲に小形の住居が存在するという傾向が見られる。しかもこれらは住居同士の重複は見られず、ほぼ同時代と思われるものである。これが平安時代になると大形住居は減少し、やや小形に均一化され、配置も散在的となる。このことは、本宮熊堂B遺跡に於いても同様の傾向が見られ、台太郎遺跡についても一部同様の傾向が見て取れる。この変化の要因を考えるに、社会情勢の変革がその一因になっていると思われる。所謂、中央政府の進出により、それまでの社会体制が壊され志流城をセンターとする、行政下に組み込まれていくと考えるのは早計であろうか。(古館貞身)

引用参考文献

- 「志波城跡 I」 1981 盛岡市教育委員会 「安倍館・里館遺跡」 - 昭和61年度発掘調査報告 - 1987 盛岡市教育委員会
「安倍館遺跡」 - 柳川城跡の調査 - 1999 盛岡市教育委員会 「盛岡市の歴史」(上) 1991 長岡高人
「西説 岩手県の歴史」 1995 河出書房 「岩手県の歴史」 1999 山川出版

周辺の遺跡一覧表

番号	遺跡名	類別	時代	遺構・遺物など
1	古太郎	集落跡	古代・中世・近世	土師器・須恵器・陶器類・古銭・鉄器・木簡・石製品・羽門、壱穴住居跡・溝・朽積物跡、土坑、溝、割跡、井戸跡、加跡
2	向中野飯	埴輪跡・集落跡	古代・中世	土師器、陶器類、壱穴住居跡、土坑、溝、土厚、溝跡
3	飯沼沢田	集落跡	古代	壱穴住居跡、古銭
4	飯沼才川	集落跡	縄文・古代	土師器、陶器類、壱穴住居跡、土坑、溝、土厚、溝跡
5	飯谷池	土師器跡	古代	土師器、壱穴住居跡
6	矢倉	散布地	古代	土師器
7	本宮原A	集落跡	古代	土師器、壱穴住居跡
8	本宮原B	集落跡	古代	土師器
9	朽寄	集落跡	古代	土師器
10	野古A	集落跡	古代	土師器、壱穴住居跡
11	野古B	散布地	古代	土師器
12	宮沢	埴輪跡	古代	土師器
13	小堀	集落跡	古代	土師器、壱穴住居跡、溝跡、土坑、朽積物
14	東塚A	集落跡	古代	土師器
15	東塚B	土師器跡	古代	土師器
16	東塚C	埴輪跡	古代	土師器
17	八ツコ	散布地	古代	土師器
18	八郎	土師器跡	古代	土師器、土坑、壱穴住居跡
19	田中	散布地	古代	土師器
20	中崎	集落跡	古代	土師器、須恵器、壱穴住居跡、獨立柱建物跡
21	小沼	集落跡	古代	土師器、埴輪跡、壱穴住居跡
22	志波城	埴輪跡	古代	土師器、須恵器、壱穴住居跡、獨立柱建物跡、門跡、溝跡、堀跡、大溝
23	大宮北	集落跡	古代	土師器
24	大宮	集落跡	古代	土師器、壱穴住居跡
25	東塚一塚塚	近世	中世	
26	新塚通	埴輪跡	縄文・古代	縄文土器（埴輪）、土師器、土坑、人溝、壱穴住居跡
27	石化沼	埴輪跡	古代	土師器、埴輪跡、壱穴住居跡
28	川貝	埴輪跡	古代	土師器、壱穴住居跡
29	石伏	集落跡	古代	土師器
30	水門	集落跡	古代	土師器
31	上越原A	集落跡	古代	土師器
32	上越原B	埴輪跡	古代	土師器
33	堀	散布地	縄文・古代	縄文土器、土師器
34	高沼古墳跡	古墳	古代	鹿子刀、切子木、土師器
35	大柳Ⅰ	集落跡	古代	土師器、須恵器
36	大柳Ⅱ	散布地	古代?	土師器?
37	江原敷	埴輪跡	古代	土師器
38	大島Ⅰ	集落跡	縄文・平安	縄文土器、土師器、須恵器
39	大島Ⅱ	散布地	平安	土師器
40	二又	散布地	古代	土師器、須恵器
41	西田A	集落跡	古代	土師器
42	西田B	集落跡	古代	土師器、須恵器
43	内村	集落跡	古代	土師器、須恵器
44	前田	集落跡	古代	土師器
45	中野敷	散布地	古代	土師器
46	笠原名小堀	散布地	古代	土師器、須恵器
47	奥宮原Ⅱ	集落跡	古代	土師器、須恵器、壱穴住居跡
48	奥宮原Ⅰ	集落跡	古代	土師器
49	深田Ⅰ	集落跡	古代	壱穴住居跡
50	深田Ⅱ	埴輪跡	古代	壱穴住居跡
51	高尾敷Ⅰ	散布地	古代	須恵器
52	高尾敷Ⅱ	散布地	古代	土師器、須恵器
53	上新田	集落跡	古代	土師器、壱穴住居跡
54	野古Ⅰ	集落跡	縄文・古代	縄文土器、石器、土師器、壱穴住居跡
55	野古Ⅱ	集落跡	古代	土師器、須恵器、壱穴住居跡
56	野古Ⅲ	集落跡	古代	土師器、須恵器、壱穴住居跡
57	野	埴輪跡	古代	土師器、須恵器、壱穴住居跡
58	下久保Ⅰ	散布地	縄文・古代	縄文土器、土師器
59	下久保Ⅱ	散布地	縄文・古代	縄文土器、土師器
60	石持	散布地	古代	土師器、須恵器
61	夕家	散布地	古代	土師器
62	法郎御現塚	埴輪跡		土師器
63	菅谷尾	集落跡	古代	土師器、須恵器、壱穴住居跡
64	田中	埴輪跡	古代	土師器、須恵器、打製石器、石斧
65	松島	集落跡	古代	土師器、須恵器
66	葛木	散布地	古代	土師器、打製石器
67	藤宮	埴輪跡	古代	土師器、須恵器
68	藤宮	集落跡	古代	土師器、須恵器
69	長沼	散布地	古代	土師器
70	嶋田	散布地	古代	土師器
71	坂Ⅰ	散布地	平安?	土師器
72	砂子塚	散布地	古代	埴
73	塚崎	散布地	縄文・古代	縄文土器、土師器、須恵器
74	新井Ⅰ	散布地	古代	土師器、須恵器
75	新井Ⅱ	散布地	古代	土師器、須恵器
76	新田	集落跡	古代	土師器、須恵器

(2) 中世

本道跡が位置する盛岡市及びその周辺における中世の様相について年表を作成し、簡単にまとめてみた。

西暦	和暦	事	考
1189	文治5年	源頼朝が奥州藤原氏を討討。その際、功績のあった御家人としてT.藤小次郎行光が岩手郡今、北上川東岸の岩手郡と東波郡を河村秀清が、新波郡を南部光行などがそれぞれを賜る。志和郡は足利義家(後の新波氏)、岩手郡は石川氏。	岩手・新波郡地方の地頭として勢力を振るった上藤・比羅・栗谷川・雄山・飯坂等は上藤の一族、酒宮内・川口・清民・下田・玉山・月戸・乙部・大栗生・大巻・佐北内・長岡・江崎などは河村の一族。
1333	建武3年	鎌倉幕府倒れる。北高師家、義良親土らと奥州に下向。鎌倉時代の末頃、新波家氏は奥州新波郡に下向、河部高水寺城に居城、新波氏の姓になったと伝える。	
1336	建武3年、延元元年	室町幕府成立。後醍醐天皇、吉野へ移る。	この頃、福士氏が不束方領に入る。
1340	興国元年	南部政長、岩手郡の内郡を固めている(医振衆等)。論石氏は当時有力な南朝方で新波氏に振振。	相賀一族、南北両朝に分かれる(孫孫城攻撃)
1341	興国2年	4月、盛岡付近に於いて、南朝勢と北朝勢が衝突、神貫川附近その地討ち取る。(南朝方は南部氏・漢石氏・相賀氏・河村氏等)そのまま南進。	1341年2月、北朝方の利賀郡岩崎城を攻撃。その巧足利方の免郎三郎兵衛が討死。
1342	興国3年	南朝勢、三道(宮城原)で石塔良房等に大敗。	南朝勢の南進計画が挫折、石塔良房はそのままた地方に退却。
1343	興国4年	敗れた南朝方の陸奥国司、北高師等は論石城に逃れる。	石塔勢の北方進軍は不成功に終わり、代わって1346建永2年、吉良貞家・北高師氏の両探達が奥州に下る。
1348	貞和4年	北高師侯が論石に在ることにより、相賀氏内部にも動揺。	免郎盛胤(嫡孫)が北高氏に逃げる。
1349	貞和5年	吉良貞家の指令で、櫻野伊賀氏(曾根郡)・宮城留守氏・相賀貞勝氏と共に論石方面の攻略を策して進軍。	
1350	観応元年	戦心の揺らにより北朝方分裂。	
1351	観応2年	上田流の政隆と相話を伝える言状あり。(源朝から南部氏へ)	北高師侯、多賀洞府を引渡。南朝方の相賀行義の所領出羽仙北山本部を経て國府へ。
1352	(正平7年)	多賀洞府は再び北高師の手に落ちる。	論石氏の動向はこのころ明らかではない。
1353	(正平8年)		宮城郡方面の合戦に吉良方が大勝して以来、奥州の南朝勢力は次第に衰微していった。
1354	文和3年	新波家氏が奥州管領として多賀洞府に入る。大崎氏を称する。	
1362	明徳2年	南北両朝合休なる。	盛岡以南は新波氏の勢力圏、岩手山以北は南部氏。
1365	応永2年	盛岡市本宮、大宮神社の御口	応永年間頃には岩手郡に南部氏とつながりのある福士氏が不束方に在り、近郷を振っていたようである。幸石にはこの頃河沢氏。
1365	永享7年	相賀・奥賀両郡中に兵乱起り大騒動になるといふ。	南部氏は新波御所とにも軍を派遣したとある。
		天文頃より更に地方豪族の騒動絶えず、永林・天正年間には特に甚だしかった。	
1340	天文9年	南部(三戸)晴政は叔父の高師を岩手郡進取に当て、漢石城に河沢氏を攻略した。	酒宮内・川口・清民・玉山・一方井・平銀・相賀の諸氏はこれに従い、郡内諸族の大半を傘下に収めた。

西暦	和暦	事 項	備 考
1540	天文9年	高信軍が渡石より引くや斯波氏勢力が岡子郡に侵入。岡子郡の大平を掌握。	斯波氏は一族を岡子郡の酒石、備前に配属し、高水寺城とあわせて斯波の三御所と称せられた。
		以後、大正14・15年頃まで岡岡軍方は斯波氏の影響下に置かれた。	斯波氏では尉川・藤原氏と姻戚。
1572	元亀3年	南部・斯波領の農民の紛争。南部勢が斯波領に攻め込む。村貫氏の兵隊で和議を結ぶ。	斯波安芸守、備前館の頼岡氏を攻撃。
1582	天正10年	岡子城主信直、三戸南部家を襲く。	新波氏では九戸政実の弟を養子として迎える(高田吉兵衛)。時期不明:不承方に福上氏(三戸南部の城主)に浅原氏、尉川に工藤(上田方面)に上田氏、米内には米内氏(秋田安東氏の分派と称する)。中津川の南に浅原氏、尉川に工藤(または葉谷川氏)。大谷氏(柏原氏の支流と称する)、武田氏(甲州武田の分かれと称する)。幸石川南には新波支流の藤去氏、太田領の遠藤部氏、水内宮中野の田村氏らが居住していた。
1586	天正14年	南部信直は岩手郡に南進して満石原政氏を討った。	南部氏が盛岡方面を攻め占拠。(大釜・鶴賀・工藤・福土・金山・日戸・米内・浪民・川口・沼宮内の諸士を従える)
		新波氏、中野城を圍む(高田吉兵衛・九戸政実の弟で中野修理と改、新波氏の女将で赤田を領していたが川津)が福上伊勢の加勢により退散。	中野在城は僅かて天正19(1591)年頃に既に志和藤片雲に移っていたようである。
1588	天正16年	南部信直は志和郡に侵入。高水寺城を奪とす。斯波氏滅亡。	
1590	天正18年	南部信直、小田原参陣。奥州仕度。	信直、秀吉より南部内七郡(渡部・横角・開伊・岩手・志和・久慈・遠野)を安堵される。
1591	天正19年	九戸政実の乱。	
1609	慶長4年	南部信直、初國滅で没し、判官があとを嗣ぐ。	

参考文献

盛岡市史 第1巻 昭和26年 盛岡市史編纂委員会
 岩手県史の歴史 阿部日本の歴史 3 1985 藤井計郎 河山博房新社
 岩手県の歴史 1972 藤森武衛 山田出版社

岩手史観 第1~4巻 昭和48・49・50年 岩手県文化財保護協会
 南越史書 第1・2・5巻 昭和2~4年 南部藩書刊行会
 盛岡市の歴史 上 昭和3年 岩手県文化財保護協会
 岩手縣史 第2巻 小田原上 昭和36年

台太郎遺跡23次調査 周辺の遺跡一覧表(中・近世)

番号	遺跡名	種 別	時 代	遺構・遺物など
1	向中野館	城館跡・集落跡	平安・中世	土師器・陶磁器、竪穴住居跡・土坑・土器・漆器
2	台太郎	集落跡	古代・中世・近世	土師器・須恵器・西磁器・古銭・鉄器・木製品・石製品・羽刀、竪穴住居跡・副立柱建物跡・土坑・溝・濠跡・井戸跡・新築
3	浪海町一里塚	一里塚	近世	築城存せず
4	花塚館 (花塚館)	城館跡	中世	郭
5	中野館	城館跡	中世	
6	新山館	城館跡・集落跡	古代・中世・近世	土師器、竪穴住居跡、井戸、漆器跡
7	島内館	城館跡	縄文~古代・中世	縄文土器、郭、屋敷
8	安盛館	城館跡・散布地	縄文~小世	縄文土器(中・後期)、土師器、郭、漆器
9	安盛館 (御川城)	城館跡・散布地	縄文・中世	縄文土器(早期)・陶磁器、郭、堀跡
10	稻田南	集落跡	中世・近世	南磁器・建物跡
11	愛宕山	寺院跡	近世	寺院基礎跡
12	寒岡城	城館跡	中世・近世	かわらけ、陶磁器、瓦、石垣、堀・堀跡
13	鹿寺跡 (不承方北側)	城館跡	中・近世	
14	渡路館 (不承方南側)	城館跡	中・近世	



第7図 周辺の道跡分布図(中・近世)

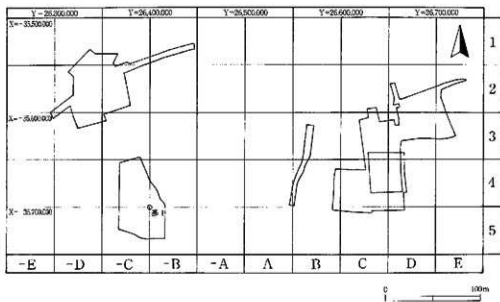
Ⅲ 調査の方法と室内整理

1. 野外調査の方法

(1) グリッドの設定と遺構名

グリッドは平面直角座標（第Ⅹ系）に合わせた。本遺跡のこれまでの調査で用いられたグリッドと同じ方式である。調査区内に基点を数ヶ所設け、これを東西及び南北方向に結んで基準線を設定した。基準線を延長して大グリッドは一辺が50m、小グリッドは大グリッドの各辺を25等分して一辺2mとしている。大グリッドは原点から南方向にはⅠ・Ⅱ・Ⅲ…の番号、東方向にはA・B・C…のアルファベットを付してⅠA・ⅡAと呼称した。さらに小グリッドも北から1～25、西からa～yを付しⅠA1a・ⅠB3d等の基本グリッドを設定した。26次調査の基準杭の座標は以下の通りである。

基1 X = -35,700.000 Y = 26,400.000



第8図 グリッド配置図

(2) 粗掘り・遺構検出

雜物撤去後に調査区内にトレンチを設定し遺物の包含状況、層位の検討、遺構の確認面を把握した。現況が休耕田・畑地であったために調査区の大部分では古代・中世の生活面は残存しておらず、多くは遺構確認面まで重機を用いて表土及び耕作土を除去した。ただ遺物を多く包含する層は人力によって表土を除去した。遺構の確認は表土を除去した面を芝ジョレン、両刃鍬で平滑にしプランを確認するようにした。

(3) 遺構の命名

検出された遺構の命名については盛岡市教育委員会の方法に従い、次の通りを行っている。各遺構の番号は昨年度調査からの通し番号と欠番となっていたもの等で付した。

竪穴住居跡……R A〇〇	掘立柱建物跡……R B〇〇	柱穴列 ……R C〇〇
上 坑……R D〇〇	竪穴状遺構 ……R E〇〇	炉・焼土……R F〇〇
溝跡・堀跡……R G〇〇	井戸跡 ……R I〇〇	その他 ……R Z〇〇

(4) 遺構の精査と遺物の取り上げ

検出された遺構は、竪穴住居跡・竪穴状遺構を4分法、土坑類・焼土については2分法を原則として精査を行ったが、必要に応じてその他の方法も併用した。記録として必要な図面及び写真の撮影は、精査の各段階において適宜これを行った。遺構の平面実測にあたっては原則として簡易測り方測量で1m方眼に細分したメッシュを用いて行った。また平板測量も用いた。実測図は原則として1/20の縮尺を用い、平面図と断面図を作成した。なお、カマド・焼土・炉については1/10の縮尺を用いた。遺構内出土の遺物は、埋土の場合上層・下層に分けて取り上げ、床面及び床面直上の遺物は、必要に応じて番号を付け、写真撮影、図面作成後に取り上げた。遺構外出土遺物については、調査区毎に出土した層位を記して取り上げた。

古墳時代末～平安時代の竪穴住居跡には貼床が施されるものが多かった。基本的に竪穴住居跡は4分法により断面図を2方向で作成しているが、この内の断面1方向にのみ貼床の掘り方を実測し、もう一つの断面図は省略している。これは作業の迅速化を狙ってのことで、竪穴住居跡の断面図の一方に貼床が表現されていれば素直に両方の断面図に本来、表現されるものだと解釈して頂きたい。それから貼床の除去方法であるが、竪穴住居跡に伴う柱穴や諸施設を検出するという目的を優先させるため、平坦に掘り下げを行った。そのため当時の掘り方を平面図に記録する作業はやらなかった。掘り方についてはこれまでの事例と大きく異なるものは無かったことを前提として本文をみて頂きたい。

(5) 写真撮影

野外調査での写真撮影は、6×7cm判カメラ2台(モノクロ)と35mm判カメラ4～6台(モノクロ、カラー・リバーサル)を使用した。この他にボラロイドカメラを補助的な用途として用いた。撮影に当たっては

撮影状況を記した「撮影カード」を事前に写し、整理時の混乱を防止した。また各遺跡の調査終了直前には空中写真を撮影した。

(6) その他

現地説明会を平成12年6月23日と9月30日に開催した。また5月17日には盛岡市教育委員会の小学校社会科研究会の研修に協力した。その他、個人や団体の見学希望があった場合はすべてに応じ、遺跡の内容、出土遺物の説明をした。

2 室内整理

室内での作業は、遺構図面の点検と修正及びトレース、遺物の注記、接合・復元を優先させて行った。次に仕分け・登録、写真撮影・実測・拓本の作成を並行してすすめた。この後実測図の点検とトレースを行い、図版・写真図版の作成を順に行った。個々の整理方法及び図版の凡例は下記の通りである。

(1) 遺構

遺構配置図は発掘調査時に作成した図面をもとに1/400・1000・2000で掲載した。

各遺構図面は以下の縮尺を原則としたが、一部に変更もあり、図面にはそれぞれスケールを付した。

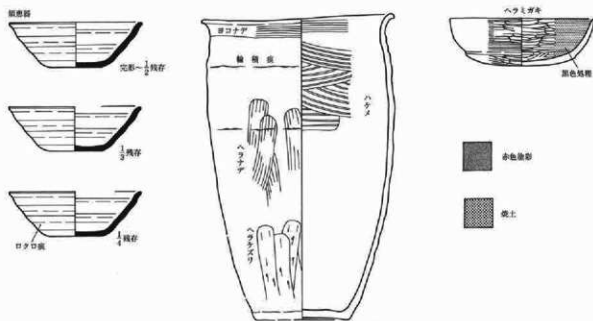
竪穴住居跡・竪穴状遺構・井戸跡・その他の遺構…1/60、掘立柱建物跡…1/100、焼上・炉断面…1/30、土坑…1/50、溝跡…平面1/300、断面1/40、柱穴…1/150 竪穴住居跡や掘立柱建物跡の軸方向は、座標軸からの角度で、平面図における北印も座標北を示す（調査区の基準点1における真北方向角は、0度11分55秒西偏する）。竪穴住居跡の床面積は、壁面の下端をデジタル式のプランメーター（エアーカーブメーター）によって3回計測し、この平均値を記載した。

(2) 遺物

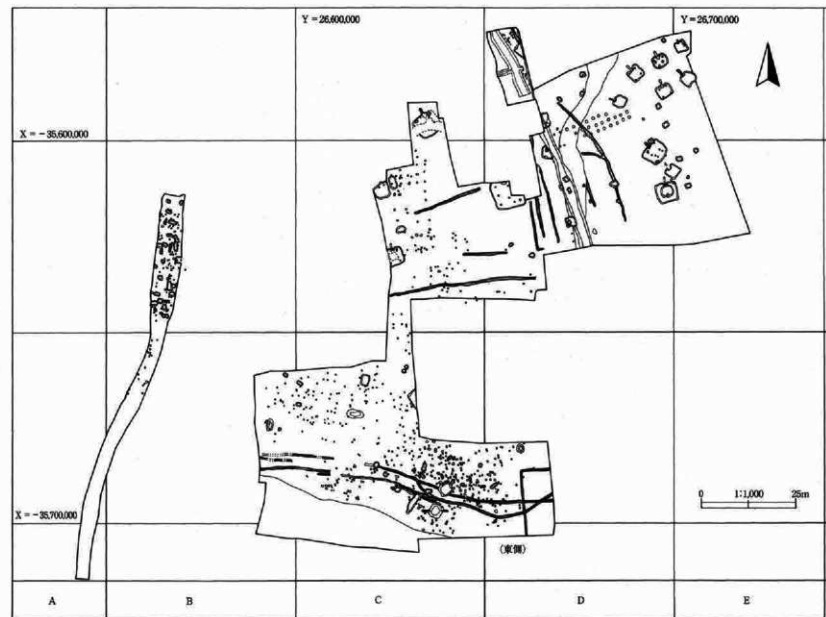
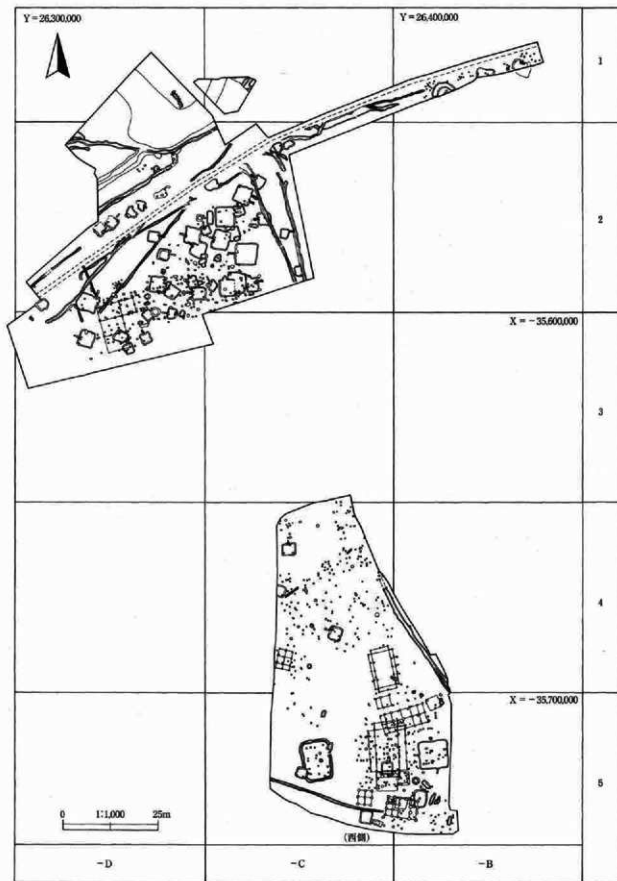
土器の実測図は原則として、反転実測が可能なもの（口縁・底部が $1/4$ 以上残存）に限ったが、一部は平面実測して掲載した。また、須恵器や銭貨などは拓本を用いた。掲載遺物の縮尺率は下記の通りであるが、これらにも一部変更があり図版には縮尺率を付けた。

土器・雑石器・拓本… $1/3$ 、大型の土器・石器… $1/4$ ・ $1/5$ 、その他の遺物… $1/2$ ・ $1/3$

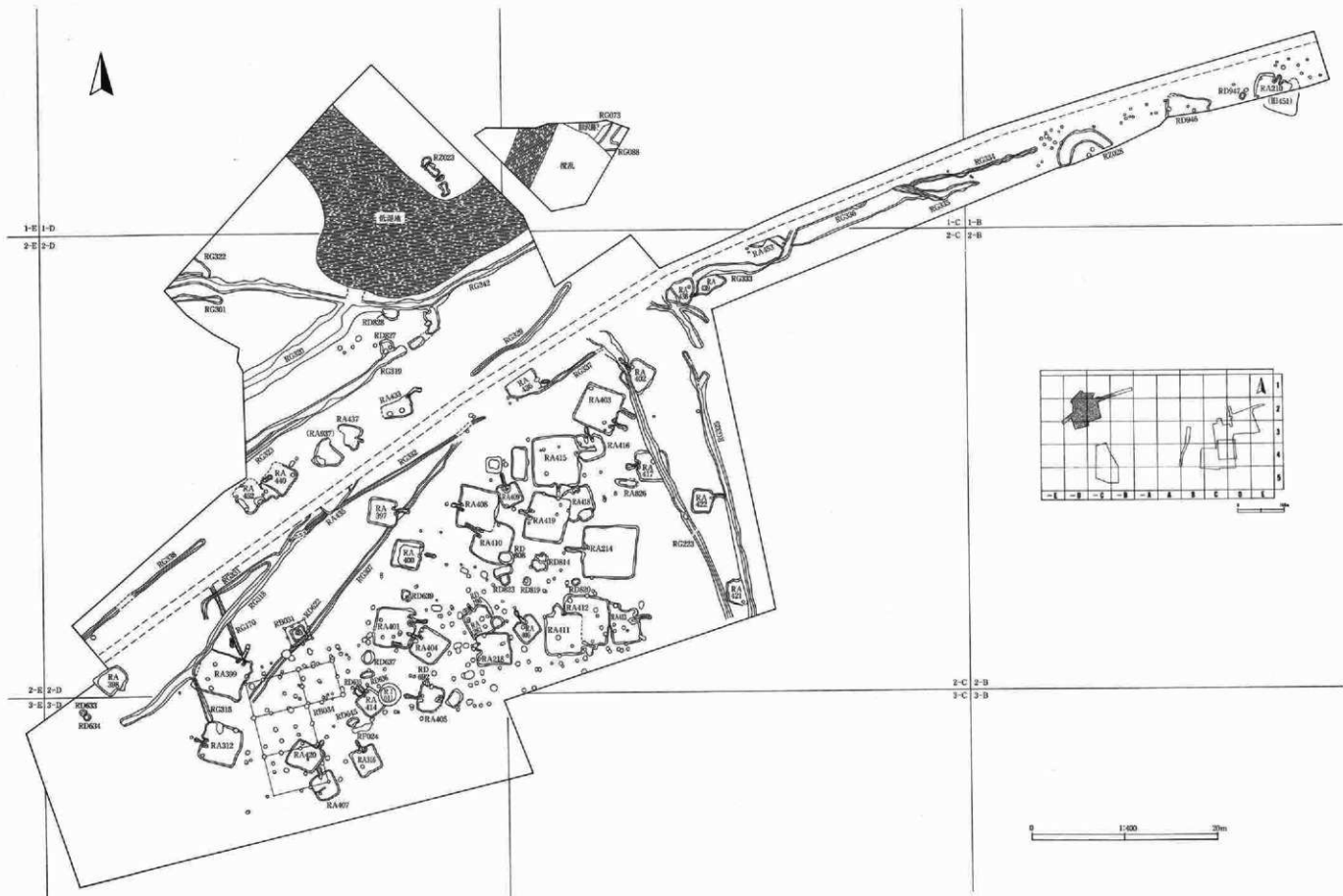
なお、遺物写真の縮尺については、概ね実測図に準じている。また、実測図版中に土器の調整技法の表現や、使用したスクリーントーンの指示については以下に示した。



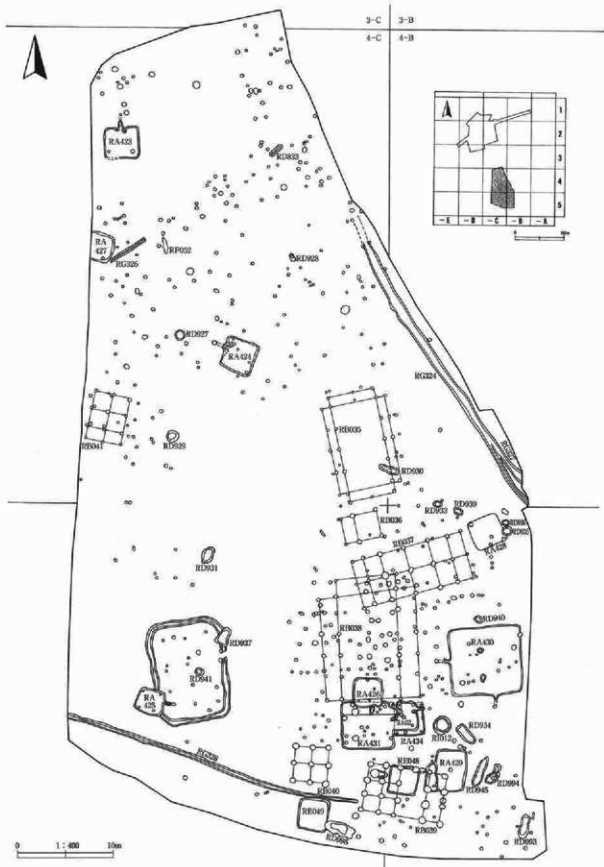
凡 例



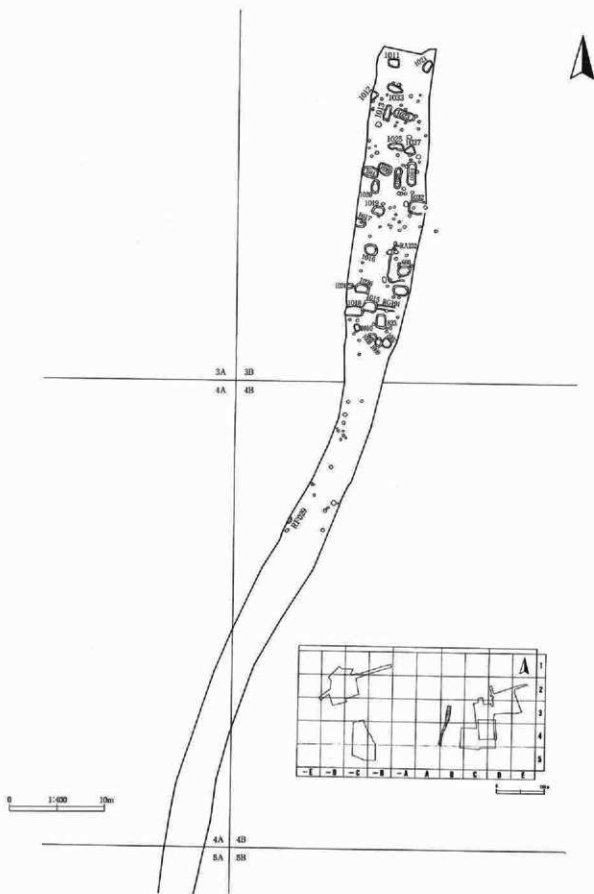
第9圖 台太路遺跡第26次調査遺構配置圖



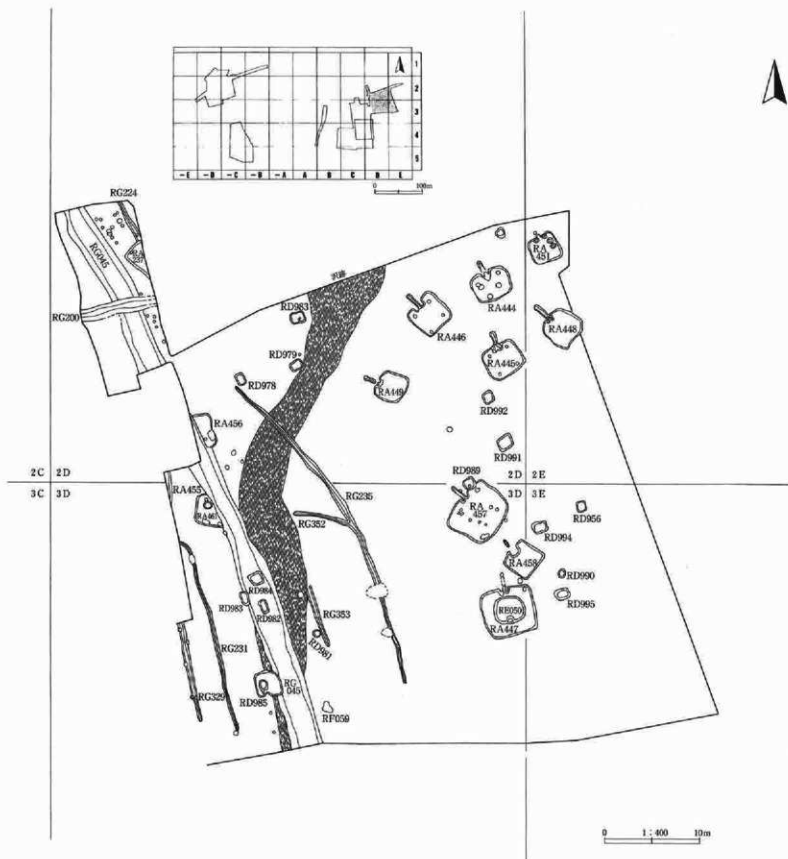
第10図 台太郎遺跡26次調査遺構配置図 (1)



第11図 台太郎遺跡26次調査遺構配置図(2)



第12図 台太郎遺跡26次調査遺構配置図(3)



第13圖 台太郎遺跡26次調査遺構配置圖 (4)



第14圖 台太部遺跡26次調査遺構配置圖(5)

IV 検出された遺構と遺物

1 古墳時代末から平安時代の竪穴住居跡

竪穴住居跡は古墳時代末から奈良時代・平安時代に属するものが合計68棟検出されている。台太郎遺跡の範囲は東西約700m、南北約500mと広大で、今回の26次調査ではこの遺跡の南半部において東部から南東端までと西側及び南西端に少し届かない地点を対象とし、その中の第3図で示した範囲を調査している。竪穴住居跡の分布を見ると古墳時代末から奈良時代の竪穴住居跡は調査区東側及びやや南東側と調査区西側に分布しており、平安時代の竪穴住居跡は調査区西側及び南西部にのみ分布する傾向がみられる。各遺構の事実記載に際し所在はグリッドと本遺跡中のどの辺に位置するかを簡単に記した。遺物については出土状況を中心とし、各遺物の諸特徴は第10節及び遺物観察表を別に作成した。なお、出土遺物に関しては、土器や石器がどれだけ出土しているのかを表現する一手段として遺物の個体数を示した。これは担当者が出土遺物のすべてを実見し、土器類でいえば口縁部や底部の破片を中心に各個体を見比べて主観的に数えたものであり破片数・重量などから計算式を用いて算出したものではない。また、遺構内出土遺物という括りにして埋土出土、床面出土の遺物を一緒にして数えている。つまりその遺構に伴うものと、そうでないものとを混ぜて示している。但し掲載した遺物に関しては遺構に伴うものを前提としている。

R A210竪穴住居跡（第15図、写真図版6）

<位置・重複関係>遺跡の西側にあたる1-B18rグリッドに位置している。

<規模・形態・方向>北西壁-南東壁で3.9mを測り平面形は隅丸方形となる。主軸方向はN-21°-Eで、床面積は7.0㎡である。本遺構の南側部分は23次調査で調査されている。

<埋土>自然堆積の様相を呈する。黒褐色土を主体とし、底面付近には黒褐色土と褐色土の混土が堆積。

<壁>検出面から46cm程残存しており、床面からは直立から外傾して立ち上がっている。

<床面>平坦で全面に貼床を施している。溝溝は見られなかった。

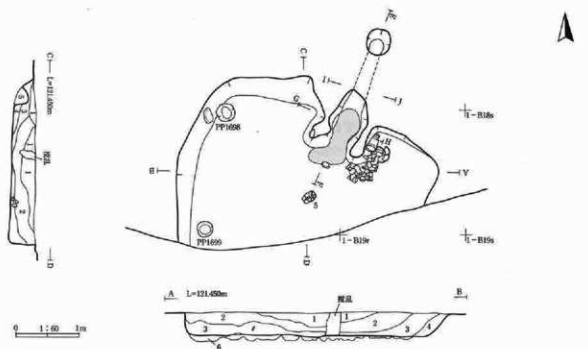
<カマド>北東壁のほぼ中央に構築されている。側壁は褐色土等でつくられ、側壁の内側から突き口部には焼土がよく残っていた。犬井部は崩落し失われていたが支脚に使われたと見られる自然礫が倒立した状態で残っていた。煙道部は斜り貫き式で燃焼部から煙出し底部へ向かう途中で一段低く折り込まれている。

<柱穴>北西壁に沿って2基検出されている。

<遺物>（第150図、写真図版132・175）埋土及び床面から個体数にして土師器1点、甕4点、球胴甕2点、甌1点が出土した。

長胴甕1～3・甕4・球胴甕6はカマド袖部東脇からその場で潰れたような状態で出土した。5の甌は突き口のやや南から同じくその場で潰れた状態で出土している。

<時期>奈良時代。



RA210 A-B-C-D

1. 10YR2/2黒褐色土 粘性、締まり有り。地山プロック少量含む。(7-10%)
2. 10YR2/2黒褐色土 粘性に富む。締まりやや弱。
3. 10YR2/2黒褐色土と10YR4/4褐色土との混合土。粘性有り。締まりやや弱。

4. 10YR2/3黒褐色土と10YR4/4褐色土プロック(地の底にのみ?)との混合土。粘性有り。締まりやや弱。
5. 10YR4/4褐色土(層)
6. 10YR4/4褐色土と10YR2/2黒褐色土との混合土。粘性やや弱。締まり有り。



RA210 I-J

1. 地山
2. 10YR2/2黒褐色土 粘性、締まり有り。地山プロック少量含む。

RA210 E-F

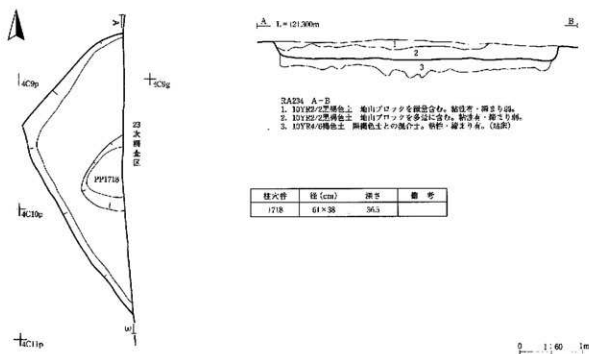
1. 10YR2/3黒褐色土 粘性弱。締まり有り。
2. 10YR4/4褐色土 (地山) 粘土粒多く含む。
3. 10YR2/2黒褐色土 粘性、締まり有り。
4. 10YR2/2黒褐色土 粘性、締まり有り。地山プロック多く含む。
5. 10YR2/3黒褐色土 粘性有り。締まりやや弱。地山プロック少量含む。
6. 10YR2/2黒褐色土と地山土との混合土 粘性やや弱。灰・粘土粒多く含む。
7. 10YR2/3黒褐色土 粘土粒多く含む。粘性やや弱。締まり有り。灰・粘土粒少量含む。
8. 10YR4/4褐色土 粘土と混合している。

RA210 G-H

1. 地山 (10YR4/4褐色土 粘性、締まり有り)
2. 粘土・灰。10YR2/3黒褐色土との混合土。粘性、締まり有り。
3. 地土
4. 炭化層 (粘土粒10YR2/3黒褐色土と混合する) 粘性、締まり有り。
5. 10YR2/3黒褐色土 粘性有り。締まりやや弱。地山プロック少量含む。
6. 10YR2/2黒褐色土と地山土との混合土 粘性、締まり有り。

0 1:30 50m

第15図 RA210竪穴住居跡



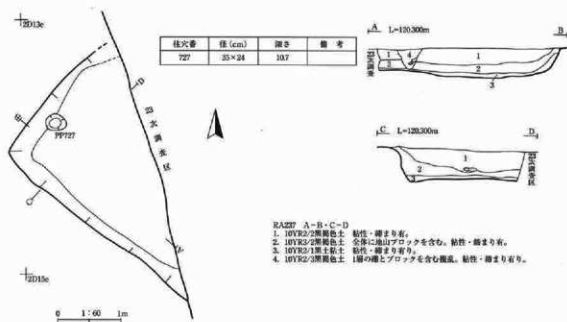
第16図 RA234竪穴住居跡

RA234 竪穴住居跡 (第16図、写真図版7)

- <位置・重複関係>遺跡の南東側にあたる4C9pグリッドに位置している。
- <規模・形態・方向>北西壁部分のみの検出である。残りの部分は23次調査で報告している。
- <埋土>自然堆積の様相を呈する。
- <壁>遺構の検出面からは24cm程が残存しており床面から直立気味に外傾している。
- <床面>平坦で全面を貼床とし埃溝はない。
- <その他>PP1718は柱穴というよりも土坑に近い。
- <遺物>今回の調査では出土しなかった。
- <時期>奈良時代。

RA237 竪穴住居跡 (第17図、写真図版8)

- <位置・重複関係>調査区東、2D区西寄りに位置する。昨年度の調査区に隣接し、本遺構の大半は、23次調査で報告している。
- <遺物>今回の調査では出土しなかった。
- <時期>奈良時代。



第17図 RA237竪穴住居跡

RA281竪穴住居跡 (第18図)

<位置・重複関係>遺跡の西側にあたる2-D21x区に位置する。RA218竪穴住居跡とRD796と重複関係にあり何れも本遺構の方が古い。23次調査で遺構の大半を検出しており報告書にも同じ遺構名で掲載している。

<規模・形態・方向>北西壁-南東壁が3.1m、北東壁-南西壁で3.0mの隅丸方形プランを呈するが北東壁はやや歪である。床面積は5.5㎡で主軸方向はN-36°-Wである。

<風土>自然堆積の様相を呈する。

<壁>遺構検出面からの残存値は約25cmで、底面から幾分傾して立ち上がっている。

<床面>全面を貼床とし平坦であるが硬く締まるものではない。壁溝は見られなかった。

<カマド>北西壁のほぼ中央に設置されている。カマド本体は自然礫を褐色土等で覆って作られていたようだが、側壁の一部が残存するのみである。燃焼部には35×25cmの範囲で焼土が見られ、その中に2個積み重ねた状態で自然礫を検出した。煙道部は例り貫き式で燃焼部から煙出し底部へと緩やかに掘り下げられている。

<柱穴>1基検出されたが、本遺構にともなうものか判然としない。

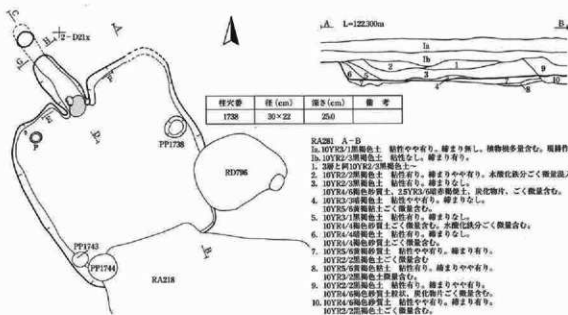
<遺物> (第197図、写真図版180) 今回の調査ではカマド袖部西脇から紡錘車 (502) が出土している。

<時期>奈良時代。

RA402竪穴住居跡 (第19図、写真図版9)

<位置・重複関係>遺跡西部にあたる2-C9hグリッドに位置する。RG223と重複し本遺構の方が古い。

<規模・形態・方向>北西壁-南東壁が3.0m、北東壁-南西壁で3.2mを測り、平面形は方形を基調とする。



- RA281 A-B
- 1a. 10YR2/1黒褐色土 粘性やや有り。締まり無し。植物残多量含む。植群作土。
 1b. 10YR2/3黄褐色土 粘性なし。締まり有り。
 2. 10YR2/2黄褐色土 粘性有り。締まりやや有り。未消化炭分ごく微量混入。
 3. 10YR2/3黄褐色土 粘性有り。締まりなし。
 4. 10YR4/6褐色砂質土。25YR3/6暗赤褐色土。炭化物片、ごく微量含む。
 5. 10YR2/3黄褐色土 粘性やや有り。締まりなし。
 6. 10YR5/6黄褐色土ごく微量含む。
 7. 10YR2/1黒褐色土 粘性有り。締まりなし。
 8. 10YR4/4暗褐色土 粘性有り。締まり無し。炭化物片ごく微量含む。
 9. 10YR4/4暗褐色土 粘性有り。締まり有り。
 10YR4/4暗褐色砂質土ごく微量含む。
 10YR2/2黄褐色土ごく微量含む。
 11. 10YR5/6黄褐色砂土 粘性有り。締まりやや有り。
 10YR2/2黄褐色土ごく微量含む。
 12. 10YR2/2黄褐色土 粘性有り。締まりやや有り。
 10YR2/2黄褐色土 微量含む。
 13. 10YR2/2黄褐色土 粘性有り。締まりやや有り。
 10YR4/6褐色砂質土炭化。炭化物片ごく微量含む。
 14. 10YR4/6褐色砂質土 粘性やや有り。締まり有り。
 10YR2/2黄褐色土ごく微量含む。

0 1:60 3m



- RA281 C-D-E-F-G-H
1. 10YR2/2黄褐色土 粘性。締まりなし。炭化物。25YR3/4暗赤褐色土ごく微量含む。
 2. 10YR2/2黄褐色土 粘性なし。締まりやや有り。
 3. 10YR4/4褐色砂質土ブロックごく微量含む。
 4. 10YR2/2黄褐色土 粘性。締まり有り。
 5. 25YR3/4暗赤褐色土塊土ブロックごく微量含む。
 6. 10YR2/2黄褐色土 粘性やや有り。締まりなし。
 7. 10YR4/4褐色砂質土ごく微量含む。
 8. 10YR2/2 粘性。締まりやや有り。
 9. 25YR3/4暗赤褐色土。10YR2/1黒色土ごく微量含む。
 10. 10YR2/2黄褐色土 締まり。粘性やや有り。
 11. 10YR3/2黄褐色土 粘性。締まり有り。
 12. 25YR3/4暗赤褐色土塊土ごく微量含む。
 13. 10YR3/6褐色砂質土。粘性やや有り。締まり有り。
 14. 10YR3/2黄褐色土 粘性。締まりやや有り。
 15. 10YR2/2黄褐色土。粘性。締まりやや有り。
 10YR2/2黄褐色土ごく微量含む。1のカーマド細土に続く。

G. L=121800m H.



0 1:20 50cm

第18図 RA281竪穴住居跡

床面積は8.1㎡、主軸方向はN-52° -Wである。

<土>黒褐色土に褐色土ブロックを含むが自然堆積で良いと思われる。

<壁>遺構検出面から15~25cm程残存しており、底面から外傾或いは直立気味に立ち上がっている。

<床面>全面に貼床を施し、平坦である。壁溝は見られなかった。

<カマド>北西壁の中央部に設置されているがR G 223に切られているため残りが悪い。

<柱穴>なし。

<遺物> (第151図・写真図版 133、165) 床面及び埋土から個体数にして土師器坏2~3点・甕3点・球磨甕1点・甕? 1点、平安時代の坏1~2点・甕1点、剥片石器1点が出土した。

住居中央や北東の床面より土師器坏7が上向きにほぼ完形の状態で見つかり、その隣りに9土師器甕があった。10の土師器甕片も南壁近くの床面から出土した。

<時期>奈良時代。

RA404 竪穴住居跡 (第20図、写真図版10)

<位置・重複関係>本遺跡の西側にあたる2-D23v区に位置している。RA401と重複し、本遺構の方が古い。

<規模・形態・方向>北東壁-南西壁が3.5m、北西壁-南東壁で3.5mと平面形は隅丸方形を呈する。床面積は10.2㎡、主軸方向はN-61° -Wである。

<土>自然堆積でよいと思われる。

<壁>遺構検出面からの残存値は11~19cm程しかない。上面は遺構検出の際にかなり削ってしまった。

<床面>全面を貼床にしており、やや硬く締まっている。壁溝は持たない。

<カマド>北西壁のほぼ中央に構築されていた。本体の天井部は残っておらず、側壁も崩壊が進んでいた。燃焼部の焼土も焚き口の外側へも散乱していた。側壁は黒褐色土で20~30cm程の河原石を覆ってつくられていた。芯材の礫は5個検出されている。煙道部は燃焼部から外側に緩やかに掘り下げられて焼出し底部が最も低くなっている。掘り込み式か割り貫き式か不明である。

<柱穴>床面まで下げた段階で1基検出されているが本遺構に伴うものか判然としない。

<その他>床面直上で焼土の広がりを検出した。その状況から本住居が焼失した際のものといった印象を持ったが、具体的な焼失状況については判らなかった。

<遺物>本遺構に伴う遺物は出土しなかった。

<時期>RA401との重複関係とカマドの設置場所から奈良時代と思われる。

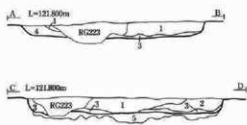
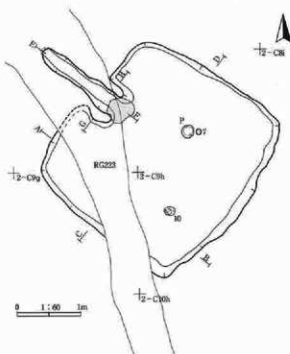
RA405 竪穴住居跡 (第21図、写真図版11)

<位置・重複関係>本遺跡の西側にあたる3-D1vグリッドに位置している。RD692と重複し本遺構の方が古い。

<規模・形態・方向>北壁-南壁で3.0m、東壁-西壁が2.6mで平面形は不整な台形を呈する。床面積は約6.3㎡で主軸方向はN-80° -Wである。

<土>黒褐色土中に地山ブロックを少量含む。自然堆積か人為堆積か不明である。

<壁>残存する壁は10cmに満たない。南東側の壁は遺構検出の段階で削ってしまった。

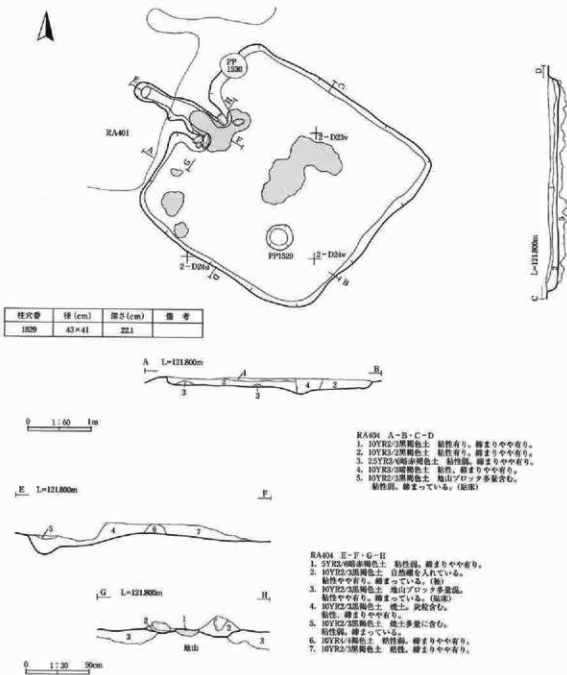


- RA402 A-B・C-D
1. 10YR3/2黒褐色シルト 粘性やや有り。締まりやや有り。
10YR4/4褐色土ブロック含む。セクション面に見られないが、焼土、炭化物混入。
※焼土、炭化物が混入している所では、遺物が集中的に出土している。またその出土状況は直道に立っている様子が、蓋が透りにかぶっていることからセクション面には現れていないが、一部分入土が混入している可能性がある。
 2. 10YR2/3黒褐色シルト 粘性やや有り。締まりやや有り。10YR4/4褐色土ブロック少量含む。
 3. 10YR3/2黒褐色シルト 粘性やや有り。締まりやや有り。10YR4/4褐色土ブロック (40%) 混在。
 4. 10YR3/2黒褐色シルト 粘性無し。締まりやや有り。
下層部に10YR4/4褐色土ブロックが混在。
 5. 10YR4/6褐色土 粘性。締まりやや有り。
10YR2/3黒褐色土 (85%程) と混じっている。



- RA402 E-F・G-H
1. 10YR2/3黒褐色シルト 粘性無し。締まり有り。
(深の黄土の可能性有り) 炭化灰を部分的に含む。
 2. 10YR2/1-3/2黒褐色-暗褐色シルト 粘性やや有り。締まりやや有り。褐色土 (10YR4/4-6) を混在に含む。
※腐化した天降の土 (暗褐色) 含むと考えられる。
 3. 10YR4/6褐色シルト 粘性無し。締まりやや有り。2層の黒褐色土を少量含む。
 4. 10YR4/4褐色シルト 粘性無し。締まりやや有り。黒褐色土が混在する。
 5. 10YR2/3暗褐色シルト 粘性無し。締まり有り。焼土、炭化物が混入する。
 6. 5YR4/3暗褐色 (直道した焼土) 粘性無し。締まりやや有り。炭化物少量含む。

第19図 RA402竪穴住居跡



第20図 RA404竪穴住居跡

<床面> 礫層に達したところを床面とし、平坦であるが貼床は施されていなかった。

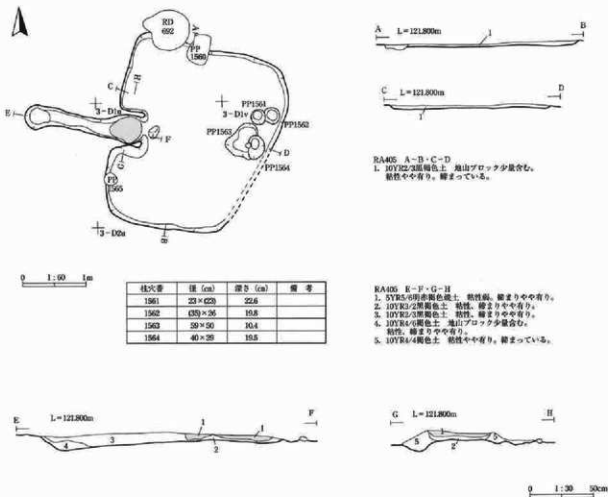
<カマド> 西壁の中央やや南側に構築されている。本体部の側壁は褐色土でつくられているが、天井部は崩落し残っていないかった。燃焼部には52×40cmの範囲で焼土が見られ、煙道部はこの燃焼部から煙出し底部へと緩やかに下がっている。

<柱穴> 東壁際から4基検出したが本遺構には伴わないかもしれない。

<遺物> (第151図、写真図版133・165) 埋土及び床面などから個体数にして土師器甕1点・球副甕1点が出土した。

12・13土師器甕は共にカマド精査中に出土した。

<時期> 奈良時代。



RA405 A-B・C-D
1. 10YR2/3黒褐色土 地山ブロック少量含む。粘性やや有り。締まっている。

RA405 E-F・G-H
1. 5YR5/6赤褐色土 粘性弱。締まりやや有り。
2. 10YR2/3黒褐色土 粘性。締まりやや有り。
3. 10YR2/3黒褐色土 粘性。締まりやや有り。
4. 10YR5/6褐色土 地山ブロック少量含む。粘性。締まりやや有り。
5. 10YR4/4褐色土 粘性やや有り。締まっている。

第21図 RA405竪穴住居跡

RA407 竪穴住居跡 (第22図、写真図版12)

<位置・重複関係> 遺跡西部にあたる 3-D5 p グリッドに位置している。RA420 竪穴住居跡と重複し木遺構の方が古い。

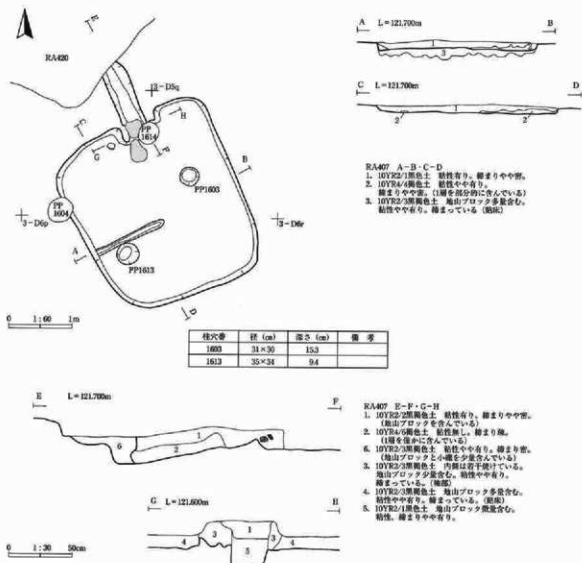
<規模・形態・方向> 北西壁-南東壁が2.9m、北東壁-南西壁では2.6mあり平面形は方形を基調としている。床面積は9.6㎡で主軸方向はN-25°-Wである。

<埋土> 黒色土と褐色土で構成される自然堆積。

<壁> 遺構検出面から8~14cm程しか残っていない。壁溝は南西壁から北東壁方向へ1.1m程直線的に延びている。

<床面> 平垣で全面貼床にしている。

<カマド> 北西壁のほぼ中央に設置されているが残りは悪い。カマド本体部の側壁は地山の土でつくられており焚き口及び燃焼部底面には焼土の広がりが検出された。煙道部の構造も不明であるが、燃焼部から外側



第22図 RA407 竪穴住居跡

へ徐々に深く掘り下げられている。

<柱穴>床面から2基検出されたが本遺構に伴うものが把握できなかった。

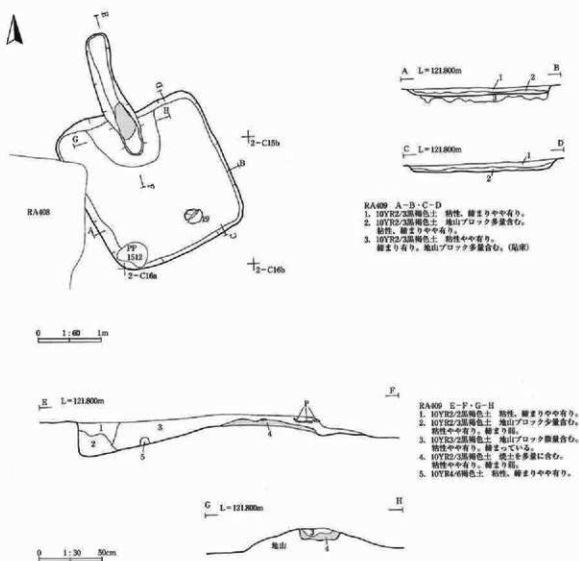
<遺物> (第151図、写真図版133・165) 埋土及び床面から個体数にして奈良時代の土師器高環1点・球脚壺1点・瓶1点、平安時代の須恵器環1点が出土している。

カマド精査中に14土師器高環や17土師器瓶が出土している。

<時期>奈良時代。

RA409 竪穴住居跡 (第23図、写真図版13)

<位置>重複関係>遺跡西部にあたる2-C15aグリッドに位置している。RA408住居跡と重複し、本遺構の方が古い。



第23図 RA409竪穴住居跡

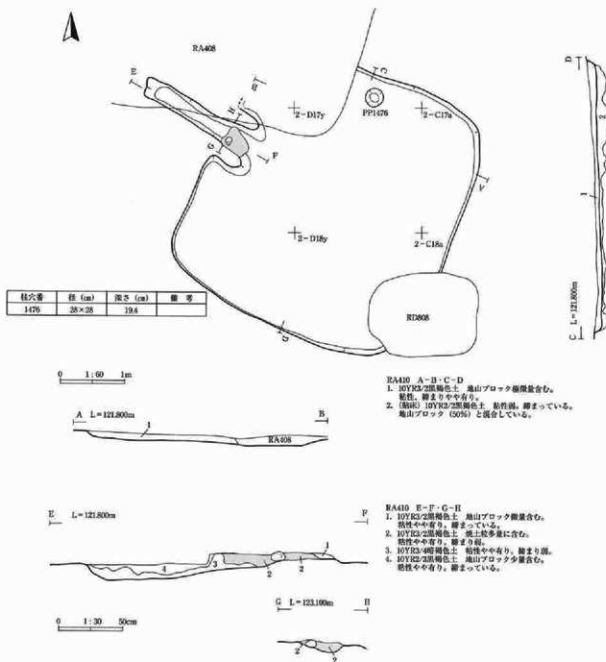
<規模・形態・方向>北西壁-南東壁2.5m、北東壁-南西壁で2.3mを測り、平面形は隅丸方形を呈する。床面積は4.6㎡で主軸方向はN-15°-Wである。

<埋土>黒褐色土を主体とし、床面付近には地山ブロックを含むが自然堆積でよいと思われる。

<壁>遺構検出面からの残存値は15~10cm程で、底面から外傾して立ち上がっている。

<床面>全面を貼床するが硬く締まるものではない。壁溝は見られなかった。

<カマド>北西壁のほぼ中央に設置されている。本体部の側壁は地山を生かして構築されていたようだが、天井部は崩落し遺存しない。煙道は燃焼部から煙出し底部へと緩やかに下っている。割り貫き式か掘り込み式かは不明である。



第24図 RA410竪穴住居跡

<柱穴>本遺構に伴う柱穴は検出されなかった。

<遺物> (第151図、写真図版133・165) 床面及び埋土から個体数にして土師器大型環1点・甕1～2点・版1点が出土した。

19の大型環は南東壁近くの床面から上向きのまま少し潰れた状態で出土している。

<時期>奈良時代。

RA410 竪穴住居跡 (第24図、写真図版14)

<位置・重複関係>本遺跡の西側中央部、2-D17y区に位置している。RA408とRD808と重複が認められ本遺構の方が古い。

<規模・形態・方向>北東壁-南西壁が4.4m、北西壁-南東壁で3.9mを測り、床面積は15.5m²である。平面形は概ね隅丸方形を呈し、主軸方向はN-60°-Wを指す。

<埋土>地山ブロックをごく微量含む黒褐色土の単層。

<壁>13～10cm程しか残存していないが、底面からやや外傾して立ち上がっている。

<床面>底面は概ね平坦で全面を貼床としているが、硬く締まるものではない。

<カマド>北西壁のほぼ中央に設置されている。カマド本体は地山を削りだしてつくられていたようだが、袖の下部のみしか残存しない。燃焼部付近には40×36cmの範囲で焼土があり、その中に自然礫が1点見られた。この礫が支脚であったと思われる。煙道部は燃焼部から煙出し底部へ緩やかに下っている。掘り込み式か割り貫き式かは不明である。

<柱穴>北東壁近くより1基検出されている。

<遺物> (第152図、写真図版134・165) 埋土及び床面から個体数にして奈良時代の土師器環2点、甕2～3点、平安時代の土師器環1点・甕1点、赤焼土2点が出土した。

土師器環21・甕22・23は何れも埋土から出土している。

<時期>奈良時代。

RA412 竪穴住居跡 (第25図、写真図版15)

<位置・重複関係>本遺跡の西側にあたる2-C21e区に位置している。RA411・413と重複し、何れも本遺構の方が古い。

<規模・形態・方向>北壁-南壁が5.2m、東壁-西壁で4.9mあり、平面形は隅丸長方形を基調とする。床面積は23.2m²で主軸方向は不明である。

<埋土>埋土下位に地山ブロックを少量含む黒褐色土の単層。

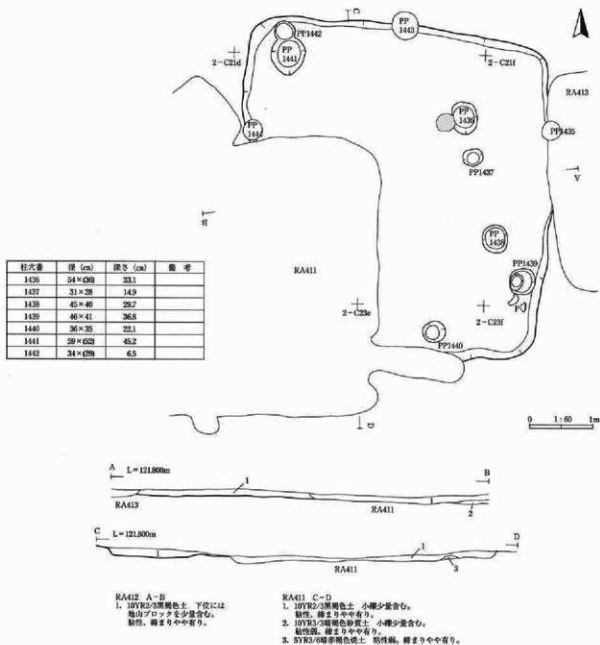
<壁>遺構検出面からの残存値は12～14cmしかない。

<床面>概ねは平坦であるが北西側では礫層が露出し幾分凹凸が見られる。貼床は施されない。

<カマド>検出されていない。恐らくは西壁もしくは南壁のRA411竪穴住居跡と重複しているところに位置していたと思われる。

<柱穴>本遺構内からは7基の柱穴を検出したが、その配置に規則性を見出せない。本遺構に伴わない柱穴を含んでいる可能性も高い。

<その他>床面直上から30×27cmの範囲で焼土が見られた。



第25図 RA412竪穴住居跡

<遺物> (第152・191・195図、写真図版134・179・181) 埋土及び床面から個体数にして奈良時代の土師器
 坏3点・長胴甕1点・球胴甕1点、平安時代の土師器坏1点、赤焼き坏2点、須恵器坏1～2点・壺類1点、
 近世以降の陶器碗1点(432)、煙管雁首1点(467)が出土している。

RA414 竪穴住居跡 (第26図、写真図版16)

<位置・重複関係>遺跡の西側にあたる3-D1rグリッドに位置している。RD414・RI011と重複し本遺構の方が古い。

<規模・形態・方向>北西壁-南東壁が2.65m、北東壁-南西壁では2.6mを測り平面形は台形状を呈する。床面積は約4.9㎡で主軸方向はN-42°-Wである。

<土壌>黒褐色土を主体とし壁際に暗褐色砂質土が堆積する自然堆積。

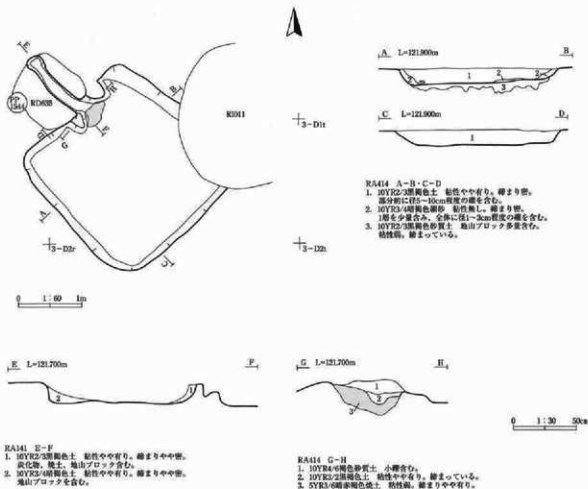
<壁>遺構を検出した面からは27~16cm程残存し、底面からは外傾して立ち上がっている。

<床面>平坦で硬く全面に貼床を施しており壁溝は見られなかった。

<カマド>北西壁のほぼ中央に設置されていた。本体部の残りは良くないが袖部の状況から地山を削り出して構築されていたと思われ、燃焼部には焼土がみられる。煙道部は掘り込み式か削り貫き式か不明で、RD635との重複もあり詳細を把握することはできなかった。

<遺物>なし。

<時期>遺物がなく断定はできないがカマドの方向から奈良時代と推測される。



第26図 RA414竪穴住居跡

RA416 竪穴住居跡 (第27図、写真図版17)

<位置・重複関係>遺跡の西側中央部にあたる2-C12eグリッドに位置している。RA415竪穴住居跡と重複し本遺構の方が古い。

<規模・形態・方向>西壁がRA415との重複により失われているが一边が約2.9mの隅丸方形プランを呈すると思われる。主軸方向はN-10°-Wである。

<埋土>黒褐色土の単層で自然堆積か人為堆積か不明である。

<壁>遺構検出面からは13~16cm位残存し、底面からは外傾して立ち上がっている。

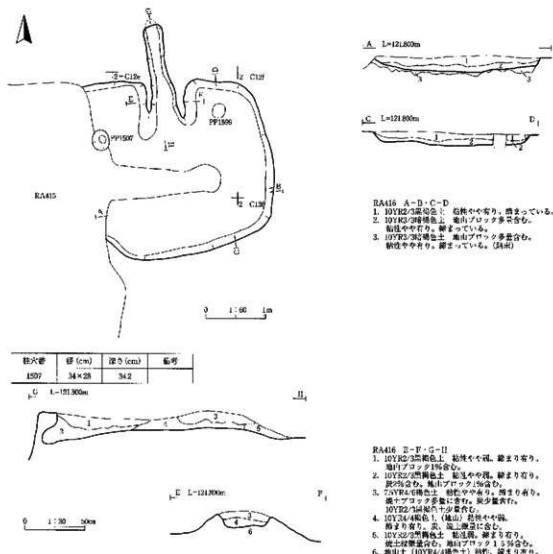
<床面>全面を粘床としており平坦でやや硬い。壁溝はもたない。

<カマド>北壁のほぼ中央に設置されていた。本体部は天井が崩落し残っていないものの軸部断面の状況から地山をそのまま使って構築していたようである。煙道は煙出し底部へ向けて緩やかに掘り下げられて反り返って立ち上がっている。

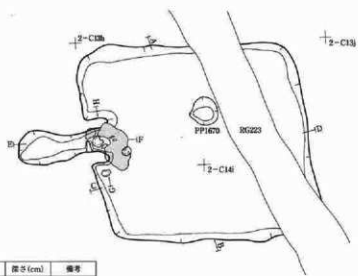
<柱穴>1基検出されているが本遺構に伴うものか判らなかった。

<遺物>出土しなかった。

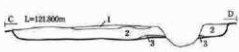
<時期>RA415竪穴住居跡との重複関係から奈良時代の可能性がある。



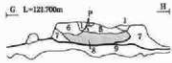
第27図 RA416竪穴住居跡



柱穴番号	径 (cm)	深さ (cm)	備考
1670	65×40	16.5	



- RA417 A-B・C-D
- 10YR2/2黒褐色土 粘性やや有り。締まり弱。
 - 10YR2/2黒褐色土 粘性有り。締まりやや密。
(地山ブロック、炭化物を僅かに含む)
 - 10YR2/2黒褐色土 粘性有り。締まりやや密。
(地山ブロックを多く含む)
 - 10YR2/2黒褐色土 粘性有り。締まり密。
地山ブロック90%程と混入している。



- RA417 E-F・G-H
- 10YR2/2黒褐色土 地山ブロック少量含む。
粘性やや有り。締まり弱。
 - 10YR2/2黒褐色土 焼土ブロック少量含む。
粘性やや有り。締まり弱。
 - 10YR2/2黒褐色土 焼土ブロック少量含む。
粘性やや有り。締まり弱。
 - 10YR4/4褐色土 焼土。黒褐色土が混じる。
粘性。締まりやや有り。
 - 10YR2/2黒褐色土 黄褐色土との混入。
粘性やや有り。締まっている。

- 10YR2/2黒褐色土 粘性弱。締まり有り。
- 10YR4/4褐色土 焼土少量含む。
- 10YR2/2黒褐色土 少量混じる。
- 7.5YR4/6褐色土 (焼土) 粘性やや有り。締まり有り。
炭少量。焼土ブロック (GYR4) 少量含む。
- 10YR2/2黒褐色土 粘性やや有り。締まり有り。
10YR4/4褐色土少量含む。

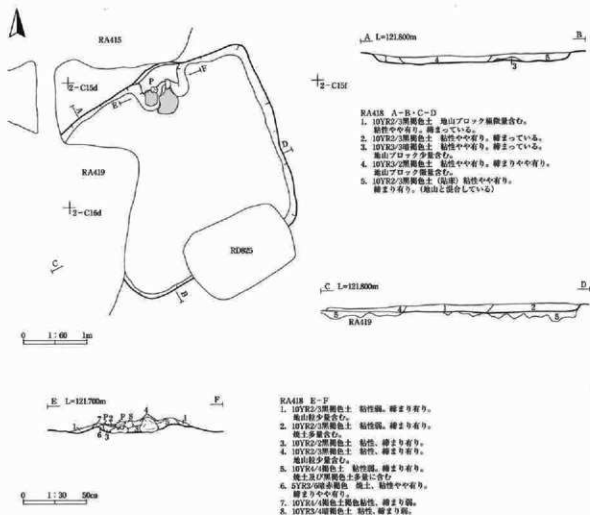
第28図 RA417甃穴住居跡

RA417 竪穴住居跡 (第28図、写真図版18)

- <位置・重複関係>本遺跡の西側、2-C13h区に位置している。RG223と重複し、本遺構の方が古い。
- <規模・形態・方向>北壁-南壁が3.1m、東壁-西壁で3.5mを測り、平面形は隅丸長方形を呈する。床面積は11.7㎡、主軸方向はN-90°-Wを指す。
- <埋土>黒褐色土に地山ブロックと炭粒を僅かに含む自然堆積。
- <壁>検出面からの残存値は15~20cm程で、底面からやや外傾して立ち上がっている。
- <床面>全面を貼床とし、平土だが硬く締まるものではない。
- <カマド>西壁の中央やや南側に構築されている。本体部は天井が崩壊し残っておらず、袖部のみを確認した。袖部は褐色土等でつくられていたと思われる。燃焼部を中心に80×45cmの範囲に焼土が広がり、土師器坏が置かれていた。煙道部は燃焼部から煙出し底部へと緩やかに下がっているが、握り込み式か割り貫き式か不明である。燃焼部から下がり始めたところには仕切状の施設が見られた。
- <柱穴>1基検出されたが、本遺構に伴うものか判らなかつた。
- <遺物> (第152図、写真図版134・135) 床面及び埋土から個体数で奈良時代の土師器坏4点・甕2~3点、平安時代の土師器坏1点、赤焼坏2~3点、須恵器坏1点・甕1点・壺1点が出土している。
- カマド焚き口部分に上向きの状態で土師器坏26が、燃焼部内には土師器坏27が上向きであり、その脇に甕28が破片の状態で見られた。
- <時期>奈良時代。

RA418 竪穴住居跡 (第29図、写真図版19)

- <位置・重複関係>本遺跡の西側、2-C15dグリッドに位置している。RA415・419竪穴住居跡・RD825と重複し本遺構の方が古い。
- <規模・形態・方向>北西壁-南東壁が3.1m、北東壁-南西壁で3.1mを測り平面形は隅丸長方形を呈するであろう。床面積は約9.1㎡で主軸方向はN-22°-Wと推定した。
- <埋土>自然堆積の様相を呈する。
- <壁>遺構検出面からは約11cm残存しており、底面からは外傾して立ち上がっている。
- <床面>平土で中央より東側は貼床を施している。壁溝はなかつた。
- <カマド>北西壁のはほぼ中央に構築されている。本体部の袖は自然礫を褐色土で覆って作られており、焚き口付近に焼土の広がりを確認した。煙道部はRA415との重複により尖われている。
- <柱穴>床面及び貼床を除去し探したが検出されなかつた。
- <遺物> (第153図、写真図版135・165) 埋土及び床面等から個体数にして奈良時代の土師器坏2点・甕1~2点・埴輪甕(塗彩有り)1点、平安時代の土師器坏1点、赤焼き坏1~2点、須恵器坏1点が出土した。
- カマド袖部からは土師器甕30が、埋土からは赤色塗彩された埴輪甕29が出土した。
- <時期>奈良時代。



第29図 RA418竪穴住居跡

RA421竪穴住居跡 (第30図、写真図版20)

<位置・重複関係>遺跡の中では西側になる2-C20mグリッドに位置している。R G325溝跡と重複し本遺構が古い。

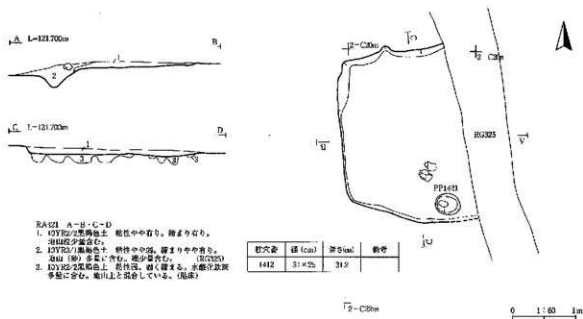
<規模・形態・方向>北壁-南壁が2.7m、東壁はR G325溝跡により失われているが平面形は兩丸方形を呈していたと推測される。

<埋土>黒褐色土の単層。

<壁>遺構検出面から5~14cm程と残りが悪い。壁溝はない。

<床面>平坦で全面を貼床としているが硬く締まるものではない。

<カマド>残存しない東壁に設置されていたが、カマドを持たない住居跡であったと思われる。



第30図 RA421竪穴住居跡

<柱穴>南壁際に1基検出されたが木遺構に伴っているか不明である。

<遺物>埋土及び床面から個体数にして奈良時代の土師器坏1点・壺1〜3点、平安時代の須恵器坏1点・壺1点が出土している。

<時期>奈良時代。

RA438 竪穴住居跡 (第31図、写真図版21)

<位置・重視関係>北西調査区のほぼ中央、2-C4 jグリッド付近で、RG325溝跡の延長部分と思われる遺構と重複するように位置しており、IV層の下面から検出された。

<規模・平面形・方向>残存している部分の計測値は2.9×2.6mで、床面積は約7.5㎡、平面形は隅丸方形を呈していたものと思われる、軸方向はN-20°-Eを示している。

<埋土>自然堆積と思われる、黒褐色土が主体を占めるが、全体に垣山粒と水酸化鉄を含んでいる。

<壁>底面からほぼ垂直に立ち上がっており、壁高は10〜20cm程度であるが、東壁部分のみ緩やかに立ち上がる形状を示している。喉溝は検出されていない。

<床面>床面は中央部分がやや高くなっているが、貼り床は判然としない。遺構全体が割半を受けているため、薄い埋土部分が貼り床部分を形成していた可能性も考えられる。

<カマド>おそらく北側に位置しているものと思われるが、北西〜北側部分が近年に構築されたコンクリート用水路によって壊されているため、位置や有無を含めた詳細は不明である。

<柱穴>検出されていない。

<その他>当該竪穴住居跡は、周辺の竪穴住居跡よりも深い位置から検出され、周囲が削平や燻炭を受けていたこともあり、残存状況はよくない。RA439竪穴住居跡の煙道部分と重複しているが、煙道が当該竪穴住居跡を切るように存在していることから、RA439よりも以前のものと思われる。

<出土遺物>床面から、奈良時代の土師器（球胴甕）の一部が出土している。

<時期>出土遺物等から、奈良時代のものと推定される。

RA439竪穴住居跡（第32図、写真図版21）

<位置・重複関係>北西側調査区のほぼ中央、2E13aグリッド付近に独立して位置しており、IV層の上面から検出された。

<規模・平面形・方向>2.9×2.7mで、床面積は約3.3㎡、平面形は正方形に近い隅丸方形を呈し、主軸方向はS-73°-Wを示している。

<埋土>自然堆積と思われ、黒褐色土が主体を占めるが、下層には地山ブロックを含んでいる。

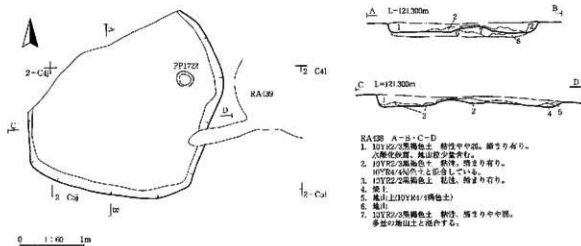
<壁>重複した部分を除いては、底面から緩やかに立ち上がる形状を示しており、壁高は12cm程度である。壁溝は検出されていない。

<床面>ほぼ平坦で、貼り床は確認できなかった。底面には細かい砂質の土壌が分布しており、貼り床は不要であったことも考えられる。

<カマド>南西壁に位置しており、袖と思われる部分は黒褐色土が主体で、一部地山を削りだして形成されたものと推定している。煙道は朝り抜き式であったと思われる。埋土には焼土と炭化物のブロックが全体に含まれているものの遺構全体が削平を受けているため、構造や形態の詳細は不明である。

<柱穴>主柱穴を形成するような柱穴は検出されていない。

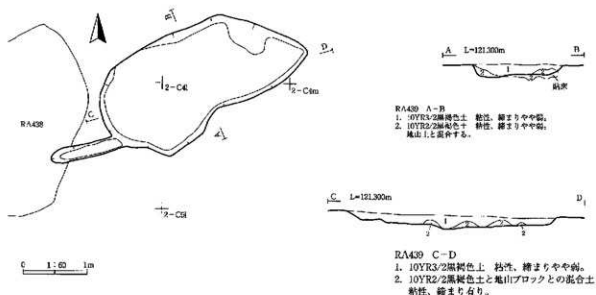
<その他>奈良時代のRA438竪穴住居跡と煙道部分が重複しているが、切り合った状況から、当該遺構



- RA438 A-B-C-D
1. 10YR2/3黒褐色土、粘性やや強。硝子有り。小礫石散在。地山の少量含む。
 2. 10YR2/3黒褐色土、粘性、硝子有り。10YR4/6石灰土と混合している。
 3. 10YR2/2赤褐色土、粘性、硝子有り。
 4. 焼土。
 5. 地山土(10YR4/1褐色土)。
 6. 地山。
 7. 10YR2/3黒褐色土、粘性、硝子やや強。多量の地山土と混合する。

柱穴名	径 (cm)	深さ (cm)	備 考
172	38×24	46	

第31図 RA438竪穴住居跡



第32図 RA439竪穴住居跡

の方が新しいものと推定される。

<出土遺物> (第153図、写真図版135) 埋土及び床面から個体数にして1部器環1点(31)・堯1点が出上した。

<時期>出土遺物等から、奈良時代のもものと推定される。

RA444 1 竪穴住居跡 (第33・34図、写真図版22)

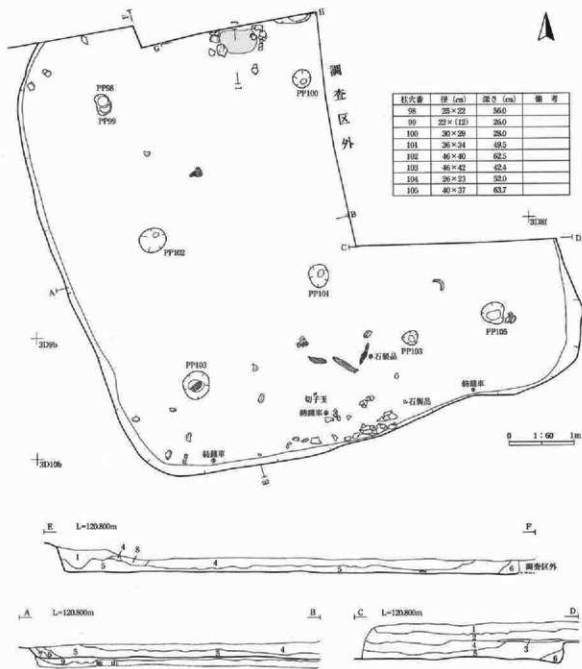
<位置・重複関係>調査区東側の3D区に位置している。検出面はⅢ層である。この地点に入れたトレンチで、表土除去直後にその一部を検出し、後に全体的に表土を除去してプランを確認した。一部調査区外に広がる。なお表土は畑の耕作土であるが、下位に旧水田面があり、この床土に酸化鉄の層が見られる。この面までを表土と捉えた。この地点での層厚は20~30cmである。重複は残存箇所においては観察されない。

<規模・平面形・方向>前述のとおり、一部調査区外に広がるため、北側壁が検出できず、さらに東側壁も北よりの所で調査区外に入っている。よって規模については、残存値からみて東西に7.5mを測り、南北については7.5m以上となるものと思われる。床面積も推定で57.2㎡である。平面形も、全体像が検出できていないので不明であるが、残存箇所から類推するに兩丸の方形で、正方形に近いものとなるのではなからうか。主軸方向はN-20°-Wと思われる。

<埋土>周囲に壁の崩壊土と思われる堆積が見られる。それ以外は黒褐色土主体に黄褐色土とやや暗い黒褐色土混合する層が2層分かれて堆積しているが、その堆積状況から自然堆積と思われる。

<壁>検出面からの壁高は最大で28cm、最小で11cmを測り、床面から緩やかに立ち上がっている。

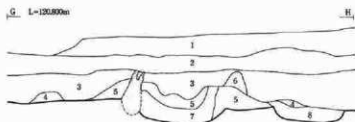
<床面>ほぼ平坦であるが、西壁中央付近にわずかに高まりが見られる。また、南西角はややマウンド状になり黒褐色土で堅く締まっており、長めの櫓が住居の中心に向いて並行に置かれている。



1. 表土 10YR2.2黒褐色土 粘性、締まり無し。草木類小石など。
2. 10YR2.2黒褐色土 粘性、締まりのやや有り。酸化鉄皮(鱗片)を全体に含む。(水田の土であらう)
3. 酸化鉄屑 水田の泥と混ざれる。
4. 10YR2.3黒褐色土 粘性、締まり中、黄褐色土。やや細かい砂質土がアツクから混入される混合土。
5. 4層に同じ。但し、酸化鉄の割合が多い。
6. 10YR2.2黒褐色土。7の最厚の層に混入したものと考えられる。

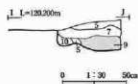
7. 10YR5.6黄褐色土(地山土と混ざれる)と10YR2.2黒褐色土の混合土(半々くらい)の黄褐色土と混ざれる。
8. 10YR5.6に近い黄褐色土 粘性有り、締まり中、水。
9. 10YR4.6褐色土(粘土質) 粘性あり、締まり有り。下に酸化鉄を層状に含む。

第33図 RA441竪穴住居跡(1)



RA441 G-H

1. 黄土 10YR3/3暗褐色シルト 粘性强、締まりやや硬。
2. 10YR3/2黒褐色シルト 粘性强、締まりやや硬。
3. 10YR2/1暗褐色シルト 粘性、締まりやや。
4. 10YR2/1暗褐色シルト 粘性、締まりやや。
5. 10YR4/4褐色シルト (粘) 粘性强や強、締まりやや硬。
(カマドの上部が崩落?)
6. 10YR2/2と10YR4/4の混合 粘性、締まりやや。
7. 10YR2/3暗褐色シルト 焼土不プロックを含む。
(燃焼部の崩壊部?)
8. 10YR4/4に焼土プロックと暗褐色土を含む。



RA441 I-J

1. 10YR4/4褐色土 粘性强や強、締まりやや硬。
(カマド上部が崩落?)
2. 10YR3/3暗褐色シルト 焼土不プロック、炭化材を含む。
3. 10YR4/4暗褐色土 粘性、締まりやや強、焼土。
4. 10YR4/4暗褐色土 粘性强や強、締まりやや硬。
(焼土?)

第34図 RA441竪穴住居跡(2)

貼り床はほぼ全面に行われていたようである。褐色の粘土質の土で、厚いところは10cmほどあるが、薄いところは殆ど無い箇所もある。

<カマド> 北壁のほぼ中央部に設置している。その本体は調査区外に入り込んでおり、全体を検出できなかったが、袖の一部と燃焼部らしき箇所を検出した。袖部は一部地山を削り出して、芯材と思われる人頭大の垂角礫や土師器片を置いていたらしいが、崩壊が激しく、芯材しか残存していなかった。燃焼部も、カマド上部の崩落土らしいものが観察されたが、調査区内でははっきりと確認することが出来なかった。調査区境に設定した断面観察では、袖部は確認できないが、カマド上部の崩落土は観察できている。

燃焼部は住居床面に焼土の広がりを確認した。規模は幅60cm、奥行き40cmの不整形円で、焼土の厚さは最大で10cm程である。なお、この焼土上面は住居床面より5cmほど下位になっており、その上位には炭化材混じりの暗褐色土が5~10cm堆積している。煙道部も、調査区外に延びており、精査できなかった。

<柱穴> 7基検出したが、西側壁に並行して4基 (PP98・99、102、103)、東南角に1基 (PP105)、カマド軸線上の中央よりやや南側の1基 (PP101) が主柱穴と思われる。

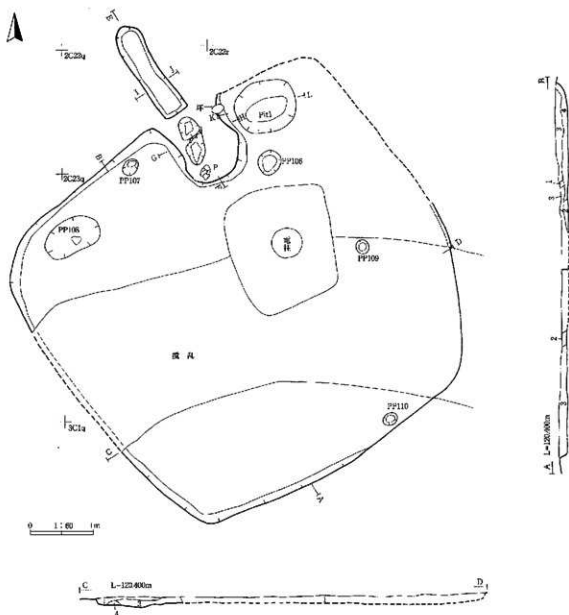
<Pit> カマド右 (東側) に甍み部分を検出したがその大半は調査区外になり、はっきりした土坑になるかどうか不明である。

<その他> 床面下中央部には酸化鉄の層が発達しており、中には植物に付着したと思われる空洞状で鉄製品と間違えられるようなものが多く見受けられた。

<出土遺物> (図版153・154・197図、写真図版135・136・165・180) 床面及び埋土から個体数にして土師器杯5点・甕2~3点・壺1点・球胴甕3~4点、土製紡錘車3点、切子玉1点、玉1点、粘土塊1点が出土した。

カマド周囲と南壁際からまともな土師器、さらにその内側で、土製紡錘車(496~498)、切子玉(486・487)(穿孔部にガラス玉装着)、扶杖石製品(所在不明)、土師器甕(40・41)が一定のラインの中から出土している。何れも床面直上での出土であった。33土師器杯はカマド袖部から、37甕は北西壁際から破片の状態、39甕は南壁際に横倒しに潰れた状態で出土している。

<時期> 出土した土師器の形態より奈良時代と思われる。



RA442 A-B

1. 10YR4/1黄棕色土 粘状有り、埋まり中。
腐植質を伴った腐化層。木片、腐、炭を含む。
2. 10YR5/3に近い黄褐色土 粘状有り、埋まり中。
1の層下に有り。砂、炭化物を含む。
3. 10YR2/2暗褐色土 粘状有り、埋まり中や弱。
黄褐色土を完全に覆い合む。
4. 10YR6/0暗褐色土 粘状有り、埋まり中、腐蝕孔あり。
腐化炭を少量含む。

RA442 C-D A-L

1. 10YR2/2暗褐色土 粘状中、埋まり中や弱。炭土。
腐化炭を少量含む。黄褐色土を完全に覆い合む。
2. 10YR4/0暗褐色土 粘状有り、埋まり中や弱。
腐植質を伴った腐化層。
3. 埋り中 (地中)



坑穴番号	幅 (cm)	長さ (cm)	埋り方
106	39 × 37	27.8
107	38 × 19	17.5
108	53 × 54	27.0
109	22 × 22	24.5
110	23 × 19	16.3

第35図 RA442竪穴住居跡(1)



RA442 E-F

1. 10YR2/3暗褐色シルト 粘性弱、締まりやや強、黄褐色土を小ブロック状に含む、炭化物少量含む。
2. 10YR2/3暗褐色シルト 粘性やや弱、締まりやや強。
3. 10YR4/3濃い黄褐色土 粘性やや弱、締まり強。
4. 10YR4/3濃い黄褐色土 粘性やや弱、締まり強。
5. 10YR2/3暗褐色シルト 1と同じだがブロック状に見える。
6. 10YR4/3濃い黄褐色土 凝結した土である。
7. 10YR2/3暗褐色土 炭化物を多く含むが黒く見える、焼土ブロックも多い、粘性弱、締まり中、やや砂質。
8. 5YR5/6赤褐色土 焼土 粘性、締まり無し。



RA442 G-H

1. 10YR4/4褐色土 砂質 粘性弱、締まり中。
〔埋土〕
2. 5YR3/4暗赤褐色土 粘性無し、締まり中、焼土。
3. 10YR4/4褐色土に焼土ブロック混入
〔ヤマド上位の土？〕
4. 10YR2/3暗褐色土に焼土ブロック、炭化物混入 粘性弱、締まりやや強。
5. 10YR4/4褐色土 やや砂質 粘性弱、締まり中。
6. 5と同じやや湿っぽい。
7. 10YR4/4褐色土と10YR2/3暗褐色土の混合 粘性、締まり中。
〔埋土の埋土？〕



RA442 I-J

1. 10YR2/3暗褐色シルト 粘性弱、締まりやや強。

0 1:30 30cm

第36図 RA442竪穴住居跡 (2)

RA442 竪穴住居跡 (第35・36図、写真図版23)

<位置・重複関係>調査区東側の2C区南寄りに位置し、23次調査区に隣接する。現況は現用道路およびその法面となっているので、これを切り替えて検出作業を行った。また現用道路端に電柱があり、この撤去はかなり困難なため、電柱を残したまま周囲を検出することとした。プランは23次の調査区で、煙道の一部を確認していたため、それに続く住居本体の検出を行った。その結果、IV層中に褐色土と黒褐色土の混合する広がりを確認し、これをもって住居跡と認定したが、道路建設以前に、すでに上部をかなり削平されている模様であった。また、住居プランの中央に、幅2m強の攪乱が東西に横切っている。他に重複はない。

<規模・平面形・方向>住居中央に攪乱が走り、また東壁のほとんどは調査区外、及び上部削平につき検出できなかったが、残存値で計測すると、東西に6.2mを測り、南北には6.0mを測るものと思われ、隅丸の正方形に近いものとなる。床面積は推定33.6㎡を下らない。主軸方向はN-32°-Wとなる。

<埋土>攪乱のため住居中央部の埋土は確認できないが、壁寄りには黒褐色土と黄褐色土が斑に混在して堆積している。中央の攪乱部分はグライ化した層であり、ここからは杭の残骸や礫、ガラス片、プラスチック片等が入り込んでいた。住居部分は残存部が浅いため、人為堆積か自然堆積か判断できなかった。

<壁>残存個所の最高値で12cmであるがほとんどは10cm以下である。緩やかに立ち上がっているように見受けられる。

<床面>平坦であり、やや堅く締まる。褐色の砂質土を床面としており、特に貼床は確認されなかった。

<カマド>北壁のほぼ中央に設置されている。残存状況はよくない。燃焼部の上に覆い被さるように黄褐色上の薄い層があり、カマドを覆っていた上のようなものである。袖部は手の平大の円礫が一個残るだけで、他に袖部の痕跡は黄褐色の上が僅かにマウンド状に散乱しているだけである。右袖部付け根と燃焼部手前にまともな土師器片（環）が表れていた。燃焼部の焼土は層厚最大で6cm、径30cm程に広がっていた模様であるが、平面では部分的にしか残っていない。一部煙道部にも広がっている。煙道部はすでに上部を削平されていたが、長さ1.5mを測り、燃焼部から緩やかな下り勾配で煙り出し部に続いている。煙り出し部は幅30cmほど（底部径）で深さは残存値で12cmである。外傾して立ち上がり、途中から垂直に立ち上がる。掬り貫き式か、掘り込み式かの判断は付かない状況であったが、燃焼部境の様子から見ると掬り貫き式の可能性が高い。

<柱穴>5基検出したが、この作居に伴うものという確証はなく、上位からの掘り込みの可能性もある。

<Pit>カマド右袖部の脇に径100×86cm、深さ36cmの楕円形のPitを検出した。この埋土上位から土師器が出土している。

<その他>住居中央部を斜めに横切る掘込みは、水路跡らしい。最近まで機能していたらしく、ガラス片等が出土しているが、掘られた時期については不明である。

<出土遺物>（図版155・196図、写真図版136・137・165・182）埋土及び床面から個体数にして土師器環5～6点・堯3点・球胴堯1～2点、自然石1点、寛永通寶1点（478）、近代の染付皿1点が出土している。

土師器は何れもカマド周辺からの出土である。45土師器環は北側の袖から伏せた状態で、51土師器は南側の袖から潰れた状態で出土している。

<時期>出土遺物より、奈良時代に比定される。

RA444 壑穴住居跡（第37図、写真図版24）

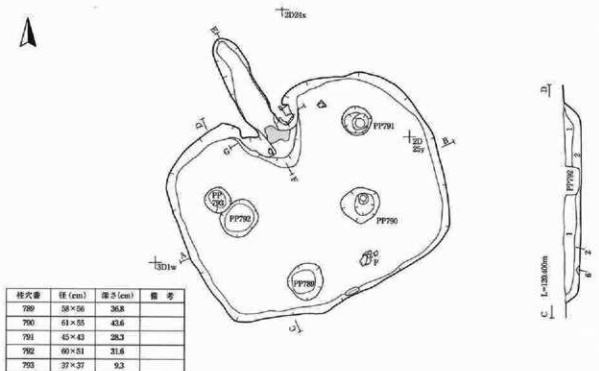
<位置・重複関係>調査区東側の2D区南東隅で、一部3D区にかかる。周囲には南隣にRA445、西隣にRA446、南東隣りにRA448、北東隣にはRA451があり重複することなく一定間隔をもって建っていたらしい。検出面はⅢ層下位～Ⅳ層上位である。現況は畑地と一部現用道路であった。耕作土を除去し、現地表面より3～40cm下位で暗褐色土の広がりを確認した。本遺構の中央部辺に一边が1m前後の方形のRD956土坑を検出した。断面はピーカー状。埋土は単層で、粘土質の灰色と褐色上の混在したものである。出土遺物は無く時期は不明であるが、本遺構を検出した時点でその埋土にブランが表れていたため本遺構より後世のものであると思われる。

<規模・平面形・方向>東西に4m、南北に3.2mを測り、やや横長の隅丸形状をなすが、各辺とも僅かに弧状に膨らみをもっている。床面積は10.5㎡である。主軸方向はN-28°-Wである。

<埋土>上位を耕作により削平された可能性があり、埋土は完全に残存しているとは思われないが、残存する部分では、大きくは2層に分けられる。全体的に暗褐色土主体に褐色土と、黄褐色土がブロック状に混在しており、人為堆積の様に見えるが確証は無い。

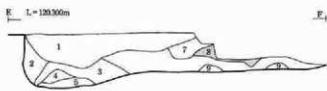
<壁>壁そのものは直立するが、床との接地面で湾曲する。壁高は最大で30cmを測る箇所があるが、殆どは20cm前後で回っている。

<床面>平坦であるが、堅く締まるというほどではない。一部に貼り床らしきものが観察されたが、全面に行われているかどうかは確認できなかった。貼り床は、黄褐色土混じりの土が使われており、一部住居の埋



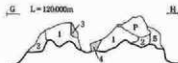
RA444 A-B-C-D

- 10YR2/2黒褐色土 粘性中、締まりやや弱。黄褐色土ブロックを含む。
- 10YR2/3黒褐色土と10YR4/6褐色土がブロック状に混在。
- 1と同じだが黄褐色土ブロックの含有率が多い。
- 10YR2/2黒褐色土 粘性中、締まりやや弱。
- 10YR3/3暗褐色土 粘性やや弱、締まり弱。
- 10YR2/2黒褐色土 粘性やや弱、締まり中。
- 10YR2/2黒褐色土 粘性弱、締まり有り。地山较多を含む。



RA444 E-F

- 10YR3/3暗褐色土 粘性やや弱、締まりやや弱。
- 10YR2/2黒褐色土 粘性中、締まり中。
- 7.5YR3/3暗褐色土 粘性中、締まりやや弱。
- 2より赤みを帯びている。
- 10YR2/2黒褐色土 粘性やや弱、締まりやや弱。炭化植物1-2cm含む。
- 10YR3/3暗褐色土 粘性やや弱、締まりやや弱。2より褐色土の混入が少い。地上段、炭を少し含む。
- 10YR4/6褐色土 粘性やや弱、締まりやや弱。硬土状。炭を含む。キマドからの流れ込み?
- 10YR4/6褐色土に3YR3/6暗赤褐色の硬土を多数に含む。粘性弱、締まり中、骨を含む。
- 7.5YR2/4暗褐色土 粘性やや弱、締まりやや弱。硬土状が混在しているため10YRより赤っぽく見える。



RA444 G-Hキマド

- 10YR2/3 暗褐色土 粘性やや弱、締まりやや弱。
- 10YR4/6褐色土と5YR4/6黄褐色土との混合粘性、締まり中。
- 10YR4/6褐色土 粘性やや弱、締まりやや弱。硬土状。炭を含む。(硬土前面?と同じ?)
- 10YR4/6褐色土 粘性弱、締まり中。硬土状。骨を含む。(硬土前面?と同じ?)
- 10YR4/6褐色土 粘性、締まり中。



第37図 RA444壁穴住居跡

1と酷似するものである。

埋土の一定レベルの箇所までまもって土師器の出土を見たが、もしかするとこのレベルが床面であった可能性もある。そう考えると、住居埋土と貼り床の土が酷似するという事も在る程度信憑性をもつが、柱穴の検出が土師器Ⅲ土面より若下がることを考えると、床面の位置は流動性をもつ。

<カマド>北壁のほぼ中央部に設置している。崩落と上部削平により、全体像は不明であるが、残存部位からその一部を知ることが出来る。右袖部には土師器、左袖部には人頭大の円礫を芯材として使っていたらしく、検出した時点で、これらが露出していた。燃焼部は径40cmほどの広がりがあったらしいが、残りは悪い。焼上層は断面に層厚最大で10cm弱観察されたが、汚れており、骨片や炭化物泥じりの土が混在している。煙道部は、検出した時点で煙出し部とともにそのプランが表れていた。長さ1.1mを測り、緩やかな下り勾配で煙り出し部へと続いている。上部が削平されており、割り貫き式であったか掘り込み式であったか不明である。掘り出し部は、幅20cm（底部径）、深さは残存値で40cm、ほぼ垂直に立ち上がっている。

<柱穴>5基検出した。カマド袖脇からやや離れた箇所に3基、住居中央部からやや南東寄りに1基、住居の軸線から西よりの南端付近に1基で在るが、カマド袖脇のp p 793は掘り込みが浅く、主柱穴となりうるかどうか不明である。他の4基は25~40cmの深さをもっている。配置に定形性はないが本住居に伴うものと思われる。

<出土遺物> (図版156・198図、写真図版137・138・184) 埋土及び床面から個体数にして土師器Ⅲ1点・Ⅳ4点・小型土器1点・平安時代のような甕1点、砥石1点(510)、近世陶器Ⅲもしくは鉢1片が出土している。

55~58の土師器Ⅲはカマド袖部からの出土であるが、一部煙道部から出土した破片と接合している。他に埋土中から砥石、手捏ねの小型土器520が出土している。

<時期>出土遺物から奈良時代に比定される。

RA445 竪穴住居跡 (第38図、写真図版25)

<位置・重複関係> 調査区東側の2D区東端に位置する。北隣りにRA444、北西隣りにはRA416、西隣りにはRA448が、やや離れて西側にRA449がある。検出面はⅢ層下位からⅣ層上位である。現況は畑地であり、耕作土を除去後、現地表面から3~40cm下位で暗褐色土の広がりを確認した。重複関係はない。

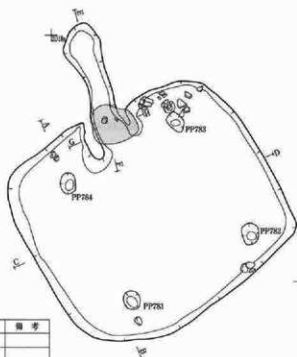
<規模・平面形・方向>東西に3.8m、南北に3.4mを測る。平面形は東西方向にやや長い隅丸方形を呈すし、床面積は11.1㎡である。主軸方向はN-28°-Wでこの周辺の住居跡とはほぼ同方向である。

<埋土>本遺構の埋土は暗褐色土及び黒褐色土を主体とする。従ってベルト断面図の3層はすでに床をさらに下げてしまった状態である。従って3層は貼り床と見なすことが出来る。4層や11層は褐色土を主体とする。本来は地山に近いものであり、これらが埋土上位に入っていると言うことから、人為堆積の可能性があるが、最上層の1層はレンズ状に堆積しているため、在る程度人手により埋められた後の窪地が、自然堆積により埋まりきったものと考えたい。

<壁>床面は下げられすぎており、前述のように3層上面を床面とすると、検出面からの壁高は最大で14cmを測り、やや外傾気味に直立する。

<床面>精査時に床面を下げすぎたため、ベルト部分にしか残っていないが、ほぼ平坦であったと思われる。全面に褐色の砂質土で10cm前後の貼り床が行われていたようである。

<カマド>北壁のほぼ中央部に設置している。残存状況は決して良くなく、カマドの範囲がおおよそ把握で



柱穴番	径 (cm)	高さ (cm)	備考
781	29×26	50.5	
782	36×26	42.9	
783	35×22	59.2	
784	32×25	43.1	



0 1:60 1m

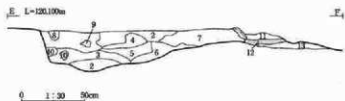


RA445 A-B-C-D

- 10YR2/3暗褐色土 粘性やや有り。締まり中。
- 10YR2/3暗褐色土 粘性やや有り。締まり中。
- 10YR4/4褐色土 粘性やや弱。締まりやや弱。黒褐色土を多少含む砂質。

4. 10YR4/3に灰い黄褐色土 粘性。締まり中。
5. 10YR4/6暗褐色砂質シルト 粘性無し。締まり弱。
6. 10YR3/3暗褐色土 粘性弱。締まり中。
7. 10YR4/6暗褐色砂質シルト 粘性無し。締まり弱。概く5層より弱。

8. 10YR2/2暗褐色土 粘性。締まり中。
9. 10YR1/6暗褐色土 粘性。締まり中。
10. 10YR3/3暗褐色土 粘性。締まり中。(遺跡)
11. 10YR4/4褐色土 粘性やや弱。締まり中。砂質。



RA445 E-F-G-H

1. 7.5YR2/2暗褐色土 粘性やや弱。締まりやや弱。
- 10YR4/4褐色土 粘性中。締まりやや弱。黒褐色土を多少含む。
- 7.5YR2/3暗褐色土 粘性やや弱。締まりやや弱。
- 10YR3/4暗褐色土 粘性弱。締まり弱。
- 10YR3/4暗褐色土 粘性弱。締まり弱。
- 7.5YR4/4褐色土 粘性弱。締まりやや弱。

7. 7.5YR3/4暗褐色土 粘性中。締まりやや弱。粘土質。骨片を含む。
- 10YR3/4暗褐色土 粘性中。締まり弱。
- 10YR2/2暗褐色土と10YR2/2暗褐色土の混在。粘性中。締まりやや弱。
- 10YR5/6黄褐色砂質シルト 粘性弱。締まり弱。
- 10YR3/4暗褐色土 粘性。締まりやや有り。粘土質。



12. 5YR3/6暗褐色粘土 粘性弱。締まりやや有り。
- 10YR4/6暗褐色砂質土 粘性弱。締まっている。
- 5YR2/6暗褐色粘土 黒褐色土との混在。粘性。締まりやや有り。
- 7.5YR4/4褐色土のものは粘土質層中に含有の為中層にだけ見える。

第38図 RA445型穴住居跡

きる程度である。焼土範囲が74×68cmの隅丸方形に広がっており、此処が燃焼部跡と思われる。焼土は暗赤褐色であり焼上周辺は黒褐色上に混じり込んでいる。層厚は最大で5cm程度形成されている。袖部は一部地山を削り出して作られている。芯材は特に残存しないが、袖部周囲で、重門礫を多数検出しており、これらが構成材だった可能性は高いと思われる。煙道部は、長さ1.3mを測り、燃焼部から煙り出し部に向けて下り勾配の構造になっている。埋土の1、3、5、7層は焼土粒を微量に含む層であるため、周囲に比し赤みが強く見える。此処の部分が当時の煙道であったと思われる。とすれば煙道上位はすでに削平されており、例り貫き式か掘り込み式かの判別はつかない。煙り出し部は幅40cm程（底部径）、深さは残存値で30cmを測り、やや住居外に向けて外傾して立ち上がる。

<柱穴>住居の四隅から若干内側に入った箇所それぞれ1基ずつ、計4基検出した。何れも4～50cm程度の深さをもつ。配図、規模等からみてこれらは土柱穴と思われる。

<出土遺物>（第157図、写真図版138～140・166）埴土及び床面から土師器1点・埴4～5点・球胴埴1点・小型土器1点が出土したほか河原石が少量確認された。カマド右袖部周辺から土師器の坏、寛（56・57）、球胴埴（63・65）の破片であるがまとめて出土している。

<時期>出土遺物より奈良時代に比定される。

RA446 壁穴住居跡（第39図、写真図版26）

<位置・重複関係>調査区東側の2D区のやや東南よりに位置する。周囲には南隣りにRA444、451、東南隣りにRA445、448、南西隣りにRA449がある。また西側には沢跡が北東から南西に蛇行して走っている。現代のゴミ坑と思しきものに、東南隅を壊されている。現況は畑地と一部現用道路であり、この耕作土、及び盛土、所謂表土を除去した時点で現地表から3～40cm下位で焼土の広がりを検出し、さらに暗褐色土の広がりを検出した。層位はⅢ層下位からⅣ層上位である。

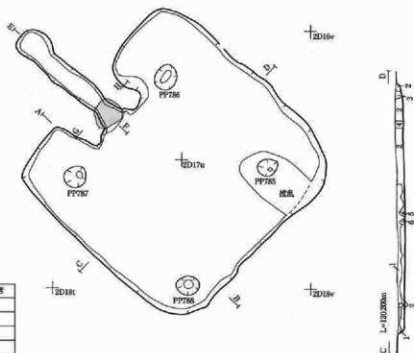
<規模・平面形・方向> 3.6×3.6mの隅丸方形を呈する。床面積は11.4㎡である。主軸方向はN-48°-Wである。

<埴土>木造構検出時に、すでにカマド燃焼部焼土が露出しており、上部が深く削平されていることが考えられる。このことを考慮して観察すると、残存するベルトは埋土下位ということになる。埋土は暗褐色土の上に黒褐色土が堆積しているが、かなり複雑に入り組んでおり、少なくともこれら埋土下位については人為堆積の可能性がある。

<壁>検出面からの壁高は最高でも13cmで、殆どが10cmに満たない数値で囲っており、床面から鋭く外反気味に立ち上がる。

<床面>床面としての一定の締まり、堅さを確認できず埴土との境がはっきりしなかったため、床面を検出するのに手間取ったが、土器片がまとめて出した地点を床面レベルと認定した。平坦である。

<カマド>北西壁の中央に設置している。すでに検出時に燃焼部焼土が露出しており、カマド本体の天井部は残存していなかった。燃焼部の焼土範囲は50×40cmに広がり、焼土層は最高で6cmを測る。袖部も殆ど残存せず、かろうじて褐色土の散乱する範囲を袖部と認定したのみである。煙道部は、長さ1.3mを測り、燃焼部からはほぼ水平に延び、煙り出し部で急勾配に下がる。煙り出し部は径35cm前後の円形（底部）であったらしく、深さは残存値で24cmほどで、垂直に立ち上がる。燃焼部に近い箇所には、燃焼部に見られた骨片類も混在している。すでに上部が削平されており、例り貫き式であったか、掘り込み式であったかは不明である。



柱穴番	径 (cm)	深さ (cm)	備考
785	30×28	80.3	
786	30×21	38.2	
787	35×34	44.8	
788	34×30	7.6	



RA446 A-B・C-D

1. 10YR4/4褐色土 粘性弱、締まりやや硬、砂少量含む。
2. 10YR3/4暗褐色土 粘性中、締まりやや硬。
3. 10YR3/3暗褐色土 粘性、締まり中。

4. 10YR2/3黒褐色土 粘性中、締まりやや硬、木炭。
5. 10YR4/6褐色砂質シルト 粘性弱、締まりやや硬。
6. 10YR3/3暗褐色土 粘性、締まり中。



RA446 E-F・G-H

1. 10YR3/3暗褐色土 粘性やや強、締まりやや硬。
2. 10YR3/4暗褐色土 粘性、締まり中。
3. 10YR2/3暗褐色土 粘性中、締まりやや硬。
4. 10YR1/7黒色土 粘性弱、締まり硬。

灰層の地土層を形成。

5. 10YR2/3暗褐色土 粘性、締まり中。
6. 10YR4/3(2)に多い黄褐色土 粘性、締まり中。
7. 10YR4/3(2)に多い黄褐色土 粘性、締まり中。
8. 10YR3/4暗褐色土 粘性、締まり中。断崖面にある骨片層と関係する。
9. 5YR4/6赤褐色土 粘性弱、締まりやや硬。(地土)
10. 2.5YR2/4暗褐色土 粘性、締まり中。
11. 10YR4/4 褐色土 粘性弱、締まり中。
12. 灰褐色土を含まない。
13. 10YR4/6褐色土 粘性弱、締まり中。
14. 黒褐色土をモヤッと含む。
15. 5YR2/6赤褐色土 粘性弱、締まりやや硬。
16. 灰褐色土を含まない。

第39図 RA446竪穴住居跡

<柱穴>4基検出した。何れも住居のコーナーに近いところである。PP788は掘り込みが浅いが、その配置から主柱穴となりうると思われる。PP785は攪乱の底部にその痕跡を残していた。

<出土遺物>なし。

<時期>検出状況から、及び周囲の隣接する住居跡と比し、奈良時代と思われる。

RA447 竪穴住居跡 (第40・41図、写真図版27・28)

<位置・重複関係>本遺跡東部となる調査区東側、3D区東端に位置し、一部は3E区にもかかる。北に隣接してRA458、さらに西北西にRA457がある。現況は畑地で、耕作土を除去したあと現地表から3~40cm下位で黒褐色土の細い溝状の方形プランと暗褐色土の広がりを検出した。検出面はⅢ層下位からⅣ層上位である。(埋土に黒褐色土の壁溝のプランが出ていているという事は、この住居が完結され、埋まり始めた後も壁溝に構築物が存在していたことを示している。またこの壁溝の埋土は溝だけにとどまらず、一部壁溝から住居内部にも広がっており、この上に住居の埋土が重なっていた。)

<規模・平面形・方向>東西に最大で5.5m、南北に最大で5mを測り、平面形は隅丸方形を呈している。床面積は24.4㎡、主軸方向はN-10°-Wである。

<埋土>自然堆積で黒褐色土を主体とし、その中に褐色土や炭粒等を含んでいる。

<壁>遺構検出面からは20~14cm程が残存している。ほぼ全域に壁溝を巡らせている。

<床面>Ⅳ層の褐色土を掘り込んで床面としている。概ね平坦であるが硬く締まるものではない。

<カマド>北西壁の中央に設置されている。天井部は崩落して残っていないが、備置の状況から地山をそのまま使って本体部を構築しているようである。燃焼部付近には58×25cm位の範囲に焼土の広がりを確認し、その中に文脚に川いられたと見られる自然礫2点を検出した。煙道部はトンネル式で燃焼部から煙出し底部へと緩やかに掘り下げられ、煙出しへ垂直気味に立ち上がっている。

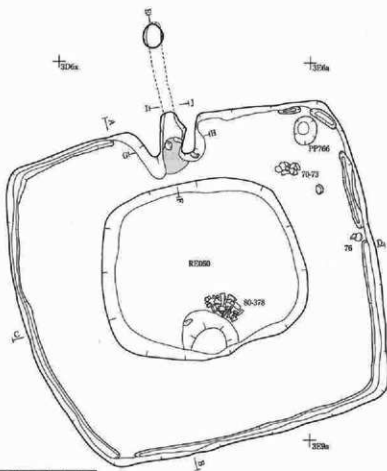
<柱穴>北壁コーナーに1基検出された。床面から若干下げて再度柱穴を探したがほかに見られなかった。

<その他>本住居跡の床面、ややカマドに近い場所に315×285cm程の平面形が隅丸長方形を呈する掘り込みを確認した(R E050)。深さは床面から約35cmを測り、その底面は平坦で南東端のほぼ中央に階段状の段が地山を掘り残して構築されていた。何かを収納するスペースと考えられ、床の面には板のようなものを敷いて蓋をしていたと推測される。

<遺物>(第158・197図、写真図版139・140・166・180) 埋土及び床面から個体数にして土師器埴9~10・坏大型1~2点・長胴壺4~5点・球胴壺2~3点・高坏1点・壺1点、土製紡錘車1点(499)・勾玉2点(489・490)が出土している。

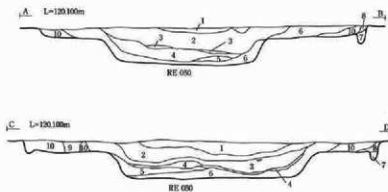
70・73土師器埴は北東壁近くの床面から上向きで並んだ状態で出土した。76土師器壺は東壁際の床面で倒れた状態で出土している。土師器球胴壺80・378はR E050とした掘り込みの埋土中位から投げ込まれたような状態で見つかった。

<時期>奈良時代。



柱穴番号	径 (cm)	深さ (cm)	備考
1766	55×53	479	

0 1:60 1m



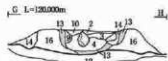
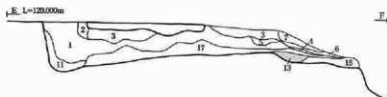
RA447 A-B-C-D

1. 10YR2/2黒褐色土 粘性やや有り。固く締まる。地山ブロッケ多数含む。水酸化鉄質少量含む。
2. 10YR2/1黒褐色土 粘性。締まり有り。水酸化鉄質多く含む。
3. 10YR2/2黒褐色土 地山ブロッケ (10YR3/4黒色土) 10YR2/2黒褐色土との混合土 粘性。締まり有り。水酸化鉄質。炭含む。

4. 10YR2/1黒褐色土 粘性。締まり有り。炭少量含む。水酸化鉄質含む。
5. 10YR2/3黒褐色土 10YR3/2黒褐色土 地山砂との混合土 粘性。締まり有り。
6. 10YR2/1黒褐色土 地山ブロッケ 10YR2/2黒褐色土との混合土 水酸化鉄質多く見える。(層9以下)

7. 10YR2/2黒褐色土 粘性やや有り。締まり有り。
8. 10YR2/2黒褐色土 地山ブロッケ多く含む。粘性やや有り。締まり有り。
9. 10YR2/2黒褐色土 粘性。締まり有り。水酸化鉄質含む。(炭) 炭含む。
10. 地山 (10YR2/3黒褐色土少量含む)

第40図 RA447竪穴住居跡 (1)



RA447 E-F-G-H-I-J

1. 10YR2/2黒褐色土 粘性有り。締まりやや弱。
2. 10YR2/2黒褐色土 粘性有り。締まりやや弱。地山ブロック多量含む。
3. 10YR2/2黒褐色土 粘性やや弱。締まり有り。
4. 10YR2/3黒褐色土 粘性。締まり弱。灰、炭土混入。

5. 10YR2/4暗褐色土 粘性やや弱。締まり弱。(カマド灰層?)
6. 炭化物
7. 10YR4/4褐色土 10YR2/3暗褐色土が混入している暗褐色。やや締まり有り。(カマド灰層?)
8. 10YR2/1黒褐色土 粘性。締まりやや弱。炭、焼土が少量含む。
9. 10YR2/4暗褐色土 粘性やや有り。締まり弱。
10. 10YR4/4褐色土 粘性。締まり弱。(カマド灰層?)

11. 地山土 10YR2/1黒色土(上層に)多量混合する粘性有り。締まり弱。
12. 地山土
13. 5YR4/6赤褐色土(地山)
14. 10YR2/2黒褐色土 粘性。締まり弱。多量の地山ブロック含む。
15. 10YR4/4褐色土(地山) 粘性弱。締まり有り。炭多量含む。
16. 地山土 10YR2/4暗褐色土多量含む。粘性。締まりやや有り。
17. 10YR2/2黒褐色土 粘性有り。締まり弱。地山ブロック多量含む。

第41図 RA447竪穴住居跡(2)

RA444B竪穴住居跡(第42図、写真図版29)

<位置・重複関係>調査区東側、2E区西端に位置し、西隣りにRA445、北西隣りにRA444、北隣りにRA451があり、東側は調査区外となっている。本遺構の東コーナー部分は、調査区外に僅かに入り込んでいる。現況は畑地であり、耕作土を除去し現地表面から2~30cm下位で暗褐色、黒褐色、黄褐色の混在する範囲を確認した。検出面はⅢ層下位である。

本遺構の床面は東西方向に斜に横断する現代の溝により切られており、同時にその部分の壁も壊されているが、それ以外の重複はない。

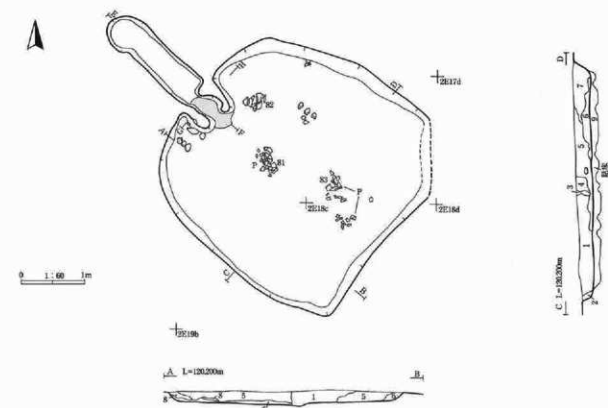
<規模・平面形・方向>3.4×3.4mの隅丸形状を呈すると思われるが、前述のように、東コーナー部分は現代の溝に切れ、また調査区外に僅かに入り込んでいるため正確な壁出しは出来なかった。床面積は10.3㎡となり、主軸方向はN-49°-Wである。

<埋土>埋土中の1層は現代の溝によるもので本遺構の埋土は2層以降である。その中で主体をなすのは5層であり、これは黒褐色土に褐色土をブロック状に含んでいる。また、8層は下位に焼土粒を含んでおり、これはカマド崩壊時のものかもしれない。全体に人為堆積の様子がうかがえる。

<壁>壁は検出面から最大値で26cmを測る箇所があるが、大体は15cm前後で回っており、床面からやや外傾して立ち上がる。壁溝は検出されていない。

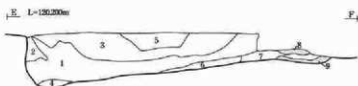
<床面>東側にかけて僅かに上がる傾斜が観察された。床面は褐色土と暗褐色土の混じった土でやや締まった感じがする。厚さ10cm前後で貼り床がなされている。

<カマド>北西壁のほぼ中央部に設置している。燃焼部はカマド本体のほぼ中央部に30×70cmの径で煙道に向かって長軸をもつ範囲に広がっている。焼土層は最高で7cm程形成されている。袖部は、地山を残し



RA448 A-B・C-D

1. 10YR6/25赤褐色土と10YR5/6黄褐色土がブロック状に混在。締まり中。
2. 10YR2/3暗褐色土と10YR4/4褐色土との混在。粘性中。締まりやや弱。
3. 10YR6/3Lより黄褐色土。粘性やや有り。締まり中。
4. 10YR2/3暗褐色土。粘性中。締まりやや弱。
5. 10YR2/3暗褐色土 10YR4/4褐色土との混在をブロック状に含む。粘性中。締まり中。
6. 10YR2/3暗褐色土と10YR4/4褐色土との混在。粘性中。締まりやや弱。
7. 10YR2/3暗褐色土。粘性中。締まりやや弱。
8. 10YR2/3暗褐色土。粘性やや弱。締まり中。下部に砂土を含む。
9. 10YR2/3暗褐色土。粘性やや弱。しまり有。



RA448 E-F

1. 10YR4/4褐色砂質シルト。粘性弱。締まりやや弱。
2. 10YR2/3暗褐色土。粘性。締まり中。
3. 10YR2/3暗褐色土。粘性。締まり中。
4. 10YR2/3暗褐色土。粘性。締まり中。
5. 10YR2/3暗褐色土。粘性中。締まりやや弱。
6. 7.5YR5/2暗褐色土。粘性やや弱。締まり強。骨片を含む。
7. 10YR2/3暗褐色土。粘性中。締まり強。骨片を多く含む。
8. 5YR2/4暗赤褐色土。粘性弱。締まりやや弱。
9. 5YR2/4暗赤褐色土。粘性弱。締まり中。



RA448 G-H

1. 10YR4/4褐色土。粘性やや弱。しまり有。
2. 10YR2/3暗褐色土少量含む。
3. 5YR2/4暗赤褐色土。粘性。しまり有。地山土多量含む。

0 1:30 50cm

第42図 RA448竪穴住居跡

でその上に暗褐色土をかぶせて作られているようである。左袖部脇にこぶし大の垂円礫が散乱しており、芯材の残骸かもしれない。それ以外の芯材となりうるものは見あたらない。煙道は煙り出し部に向けて下り勾配に作られており、長さは1.7mを測る。煙り出し部は底部径40cmの円形に掘られていたらしく、残存値で、深さは40cmほどである。ほぼ直立して立ち上がっている。燃焼部にもともとあったと思われる骨片が煙道半ばまで多数流れ込んでいる。割り貫き式か掘り込み式かは不明である。

<柱穴>検出されなかった。

<出土遺物> (第159・160・195・197図、写真図版141・142・181) 埴土及び床面から個体数にして土師器片3点・壺3～4点・球罎差3点、土製装飾品1点(491)、鉄器1点(461)が出土している。本遺構は現代の溝に切られているが、この溝の埋土の住居床面と同レベルに土師器片がまとまって散乱していた。

カマド袖部右側に完形の土師器壺84がそのまま置かれていたかのような状態で出土した。中は空洞であったが、接地面に若干の土が入り込んでいたようである。その隣には82土師器壺がその場で潰れたような状態で出土した。他に住居中央にかけて土師器壺が二個体分(81・83)横倒し潰れたような状態で散乱していた。

<時期>出土遺物より奈良時代に比定される。

RA449 壁穴住居跡 (第43図、写真図版30)

<位置・重複関係> 調査区東側、2D区の南東よりに位置している。西側には沢跡が北から南西に向けて走っている。また、本遺構の北東にはRA446、東にはRA445、やや離れて南西にはRA437がある。

現況は埋地で、掘り土を除去し、現地表から3～40cm下位で、黒褐色土の広がりを確認した。検出面はⅢ層下位～Ⅳ層上位である。

ほぼ南北に走る溝跡がこの遺構を斜に切っており、さらにこれより新しい柱穴状ピットがその上に観察される。これらの溝跡、柱穴は、他の同じ埴土を持つ遺構からガラス瓶等が出土しているもので、現代のものと同判断した。これ以外の重複は見られない。

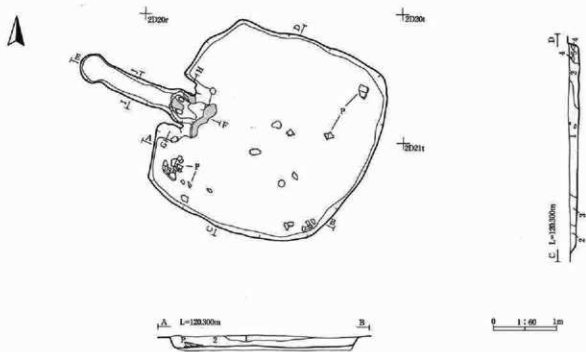
<規模・平面形・方向> 3.1×3.1mの隅丸方形を呈する。床面積は7.9㎡。主軸方向はN-67°-Wとなる。

<埋土> 一部に壁の崩落土と思われる箇所が観察されるが、総じて埋土は2層に大別される。黒褐色土がレンズ状に堆積しており、自然堆積のように思われる。ベルトの一部に褐色土主体に黒褐色土が混在した部分があるがこれは前述の、本遺構を切っている溝跡である。

<壁> 検出面からの壁高は最大で18cmを測る箇所があるが、殆どは10cm前後で回っている。床との接地面は緩やかであるが、壁そのものはほぼ直立している。上位を削平されている。

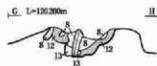
<床面> 平埴で堅く締まっている。所々に酸化鉄を含む堅い面が露出しており、住居の南半分の範囲には手のひら大の垂角礫が散乱している。地山をもって床面としているようである。

<カマド> 西北西に面する壁の中央寄りやや左寄りに設置している。削平が激しく、本体部は袖の一部がかなり残っている程度であった。袖部は地山を削り出して作られていたようである。芯材と思われるようなものは周囲からも出土していない。燃焼部は焼土の広がりが3カ所に点在する状況で、その範囲を特定出来ないが、縦横とも60cmを超えない範囲であつと思われる。焼土層は最高で10cm程形成されている。燃焼部のやや左よりの箇所へ最大径7cm、長さ25cmの楕円柱状の礫が直立して置かれており、支脚であったと思われる。煙道部は長さ1.4mを測り、燃焼部から下り勾配で煙り出し部に続いている。煙り出し部は底部径で36cmの円柱状に掘られており、深さは残存値で25cm程で、垂直に立ち上がっている。検出時に煙り出し部のプランのみが確認できたため、割り貫き式であったと思われる。



RA449 A-B-C-D

1. 10YR2/2黒褐色土 粘性やややわ、締まりやや硬。
2. 10YR2/2黒褐色土 粘性中、締まり中。
3. 10YR4/6褐色土と10YR3/2黒褐色粘土と 10YR2/2黒褐色土の混合土 粘性弱し、締まり中、塊の乏。
4. 10YR4/6褐色土はプロット。
5. 10YR2/2黒褐色土 粘性中、締まりやや硬。褐色土の混入の割合が大きい。



0 1:30 50cm

RA449 E-F-G-H-I-J

1. 10YR3/4暗褐色土 粘性やや硬、締まりやや硬。
2. 10YR3/2暗褐色土 粘性中、締まりやや硬。
3. 10YR2/2黒褐色土 粘性中、締まりやや硬。黄褐色土プロットを下部に含む。
4. 10YR4/4褐色土 粘性中、締まりやや硬。
5. 10YR3/4暗褐色土 粘性、締まり中。
6. 10YR4/4褐色土 粘性、締まり中。黒褐色土を塊状に含む。
7. 10YR4/6褐色土 粘性やややわ、締まりやや硬。(塊?) 砂質。
8. 10YR4/4褐色土 粘性やややわ、締まっている。塊土混じる。
9. 10YR5/6黄褐色土 粘性弱、締まっている。
10. 10YR3/4暗褐色土 粘性、締まりやや硬。塊土、其れ多量含む。
11. 4YR4/6赤褐色土 粘性、締まり硬。
12. 5YR4/8暗褐色粘土と褐色土の混合土。
13. 10YR4/4褐色土 粘性強、締まりやや硬。
14. 10YR4/4褐色土と黄褐色土との混合土。粘性やや硬、締まっている。

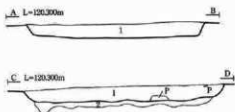
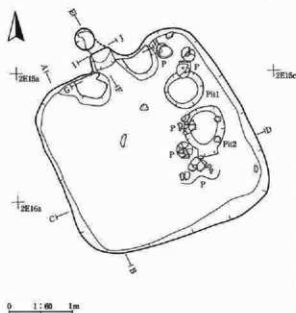
第43図 RA449竪穴住居跡

<柱穴>検出されなかった。もともと無かったと思われる。

<出土遺物> (第160図、写真図版142・166) 埋土及び床面から個体数にして土師器環1点・甕1点・球胴甕1〜2点・平安時代?の甕1点が出土している。

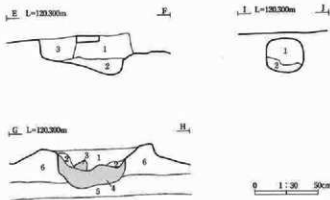
土師器甕89は東側と西側の離れた場所で出土したものが接合した。

<時期> 出土遺物より奈良時代に比定される。



RA451 A-B-C-D
 1. 10YR2-2黄褐色土 全体に焼山ブロックを含む。粘性・締まり密。
 2. 10YR3-4暗褐色土 1層のブロックを多く含む。粘性弱・締まり有。

RA451 E-F
 1. 10YR2-3黄褐色土 粘性有り。締まり密。焼山ブロックを少量含む。
 2. 10YR3-4暗褐色土 粘性やや有り。締まり密。1層と焼土のブロックを全体に含む。炭化物を含む。
 3. 10YR3-2黄褐色土 粘性有り。締まり密。焼山ブロックを少量含む。



RA451 C-H-I-J
 1. 10YR2-2黄褐色土 粘性有り。締まり密。焼山ブロックを少量含む。
 2. 10YR3-4暗褐色土 粘性やや有り。締まり密。1層をブロック状に少量含む。
 3. 10YR4-4暗褐色土 粘性やや有り。締まり密。1層と焼土のブロックを全体に含む。
 4. 10YR3-3黄褐色土 粘性やや有り。締まりやや密。全体に焼土と炭化物のブロックを含む。
 5. 10YR3-3黄褐色土 粘性やや有り。締まりやや密。
 6. 10YR3-4暗褐色土 粘性弱。締まり密。1層のブロックを含む。

第44図 RA451竅穴住居跡

RA451 竪穴住居跡 (第44図、写真図版31・32図)

<位置・重複関係>東側調査区の北東隅、2E13a グリッド付近に独立して位置しており、IV層の上から検出された。

<規模・平面形・方向>2.9×2.7mで、床面積は約7.5㎡、平面形は正方形に近い隅丸方形を呈し、主軸方向はN-30°-Wを示している。

<埋土>自然堆積と思われる、黒褐色土が主体を占めるが、全体に地山ブロックを含んでいる。

<壁>底面からほぼ垂直に立ち上がっており、壁高は17~22cm程度であるが、南東壁部分のみ緩やかに立ち上がる形状を示している。溝溝は検出されていない。

<床面>ほぼ平坦で、底面には細かい砂質の土壌が分布しており、ほぼ全面を貼床としていた。

<カマド>北西壁に位置しており、袖部分は暗褐色土が主体で、一部地山を削り出して形成されたものと推定している。カマド燃焼部の全体には、焼土と炭化物がブロック状に広がっていた。煙道は削り抜き式であったと思われるが、遺構全体が後年の激しい削平を受けているため、天頂部は僅かに残されていたに過ぎない。煙出しは、径33×30cm・深さ21cmの円形土坑の形態を呈しているが、カマドの基部と煙出し部分との距離が短く、この間隔で果たして排煙が可能であったものかどうか判断するのは困難である。

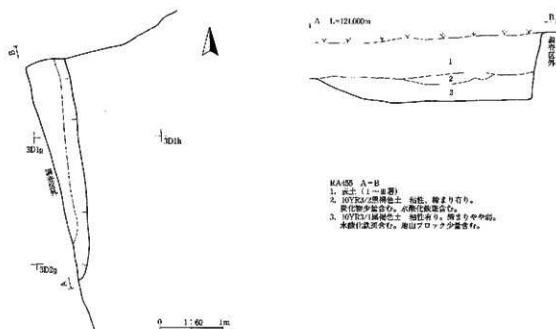
<柱穴>主柱穴を形成するような柱穴は検出されていない。

<Pit>東側の壁面付近から、円形~楕円形を呈する2基のPitが検出された。それぞれの規模はPit 1が59×58cm・深さ22.7cm、Pit 2が68×64cm・深さ11.7cmで、埋土は黒褐色土が主体である。

<その他>近隣から検出された奈良時代の竪穴住居跡と比較して、規模は小さいものの遺物の量が多いのが特徴である。

<出土遺物> (第160・161図、写真図版142・143) 埋土及び床面から個体数にして土師器杯3点・反割甕3~4点・甌1点、骨片・炭粒等が出土した。

カマドの東壁部分からは93壺と96球胴壺が、そのすぐ傍の東壁際の床面からは横倒しの状態で出土した



第45図 RA455竪穴住居跡

94号と底部のみ残存していた球胴甕98が出土した。Pit 2周辺の床面からは坏91～92や甕99、また甕95、球胴甕97がその場で潰れたような状態で出土している。

東壁の床面、およびカマドの右脇部分から、完形に近い奈良時代の土師器の甕（球胴・長胴甕）および坏が出土している。

<時期>出土遺物等から、奈良時代のもものと推定される。

RA455 竪穴住居跡（第45図、写真図版33）

<位置・重複関係>本遺跡の東側、2D区と3D区にかかる。周囲にはRA456が東北隣りに、また南東隣にはRA461がある。この2棟は何れも平安時代のRG045溝跡によって切られている。若干離れるが西南方向には7.5m以上の規模のRA441がある。現況は休耕田後の畑地でありこの耕作土を除去した後に暗褐色の広がりを確認した。現地表面から4～50cm下位である。検出面はⅢ層下位～Ⅳ層上位である。また西側と北側は調査区外となり、本遺構はその東壁の一部と床面を検出したに過ぎず、大半は調査区外に延びている。

<規模・平面形・方向>前述のとおり、東壁の一部のみの検出のため、不明であるが、規模、平面形、方向とも周囲の住居と大差ないものようである。

<埋土>2層に大別される。黒褐色土を主体とする自然堆積であろう。

<壁>遺構検出面から43cm程残存しており南壁は底面から緩やかに外傾して立ち上がっている。

<床面>貼床は見られず、Ⅳ層を掘り込んで床面としている。特に硬く締まるものではない。

<遺物>なし。

<時期>周囲の遺構分布から奈良時代の可能性が高い。

RA456 竪穴住居跡（第46図、写真図版34）

<位置・重複関係>調査区東側、2D区西寄りの南端に位置する。周囲にはRA455が西南隣りに、RA461が南隣に在る。さらに東側には東北方向から南西方向に走る沢跡がある。本遺構もが調査区外となり、東壁と、北、南壁の一部を検出したに過ぎず全体像は不明である。現況は畑地で、表土除去後Ⅲ層下位～Ⅳ層上位で暗褐色土の広がりを確認した。地表から30cm程下位である。平安時代のRG045溝跡に中央部を南北に切られている。

<規模・平面形・方向>残存部から推定すると、南北に3.5mを測る隅丸方形で、N-15°-Wと思われる。

<埋土>黒褐色土を主体とする自然堆積の様相を呈する。

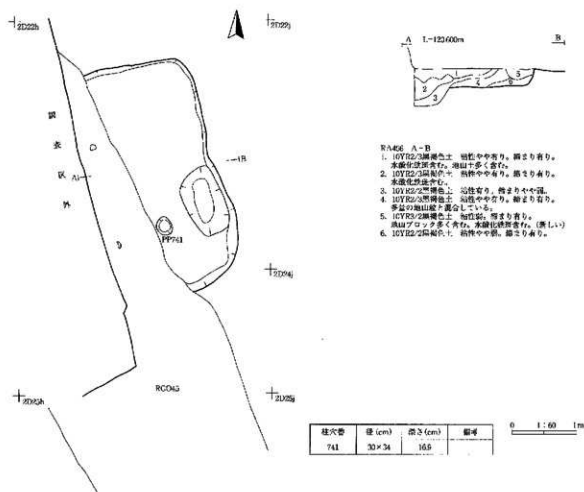
<壁>遺構検出面からは27cm前後残存し、垂直気味に外傾して立ち上がっている。

<床面>平坦である。整溝や貼床は施されない。

<柱穴>1基のみ検出されている。

<遺物>（第162・197図、写真図版144・180）埋土及び床面から割体数にして土師器坏2点・甕2～3点、土製紡錘車1点（500）、近代陶器甕1片が出土した。この中から実測可能な土師器坏100を掲載した。

<時期>奈良時代。



第46図 RA456竪穴住居跡

RA457竪穴住居跡 (第47図、写真図版35)

<位置・重複関係>遺跡の東側にあたる3D区東北隅に位置する。周囲にはRA458が東南隣りに、RA447が南方にある。現況は畑地で、表土除去後、現地表から3~40cm下位で暗褐色土の広がりを確認した。検出面はIV層上位である。RD989上坑に本遺構の西北壁の一部を切られている。

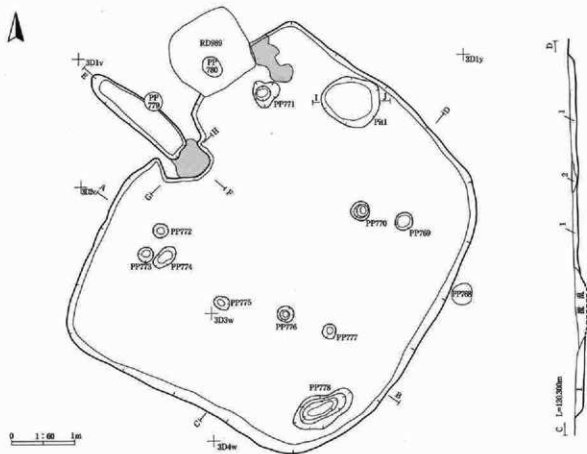
<規模・平面形・方向>5.8×5.0mの隅丸方形を呈するが、西側コーナーが若干張り出す形状となっている。床面積は25.2㎡。主軸方向はN-49°-Wである。

<埋土>黒褐色土と褐色土を主体としておりこれが貼床になるとと思われる。

<壁>残存せず噴濺も認められない。

<床面>全面を貼床としている。

<カマド>北西壁の中央に設置されている。天井部・袖部共に残存しないが恐らくは地山の造り付けであったと思われる。燃焼部には60×45cmの範囲で焼土の広がりが認められた。煙道部は燃焼部から煙出し底部へ



0 1:60 1m

A L=120.000m



I L=120.000m



RA457 A-B-C-D

1. 10YR2/3黒褐色土と黒山土(10YR4/4褐色土)との混合土 粘性やや弱。締まり有り。
2. 10YR2/1黒褐色土。粘性弱。固く締まる。水酸化鉄質混入。地山ブロック多く有り。

RA457 Ph1-I-J

1. 10YR2/3黒褐色土と地山ブロックとの混合土 粘性やや弱。締まり有り。炭。焼土粒少々混入。



E L=120.000m

0 1:30 50cm

RA457 E-F-G-H

1. 10YR2/3黒褐色土。粘性弱。締まり有り。地山土多量有り。炭質混入。
2. 10YR2/3黒褐色土。粘性弱。締まり有り。地山ブロック。炭多量混入。
3. 10YR2/3黒褐色土。粘性やや有り。締まり弱。炭粒。地山土多量に含む。
4. 10YR2/3黒褐色土。粘性弱。締まり有り。炭化物。焼土多量に含む。
5. 地山土。



G L=120.000m

柱穴番号	径 (cm)	深さ (cm)	備考
769	29×26	9.9	
770	30×28	47.1	
771	43×40	47.7	
772	24×21	44.1	
773	24×21	41.8	
774	39×24	24.0	
775	22×19	10.9	
776	25×23	20.1	
777	21×20	14.6	
778	101×52	39.2	

第47図 RA457竪穴住居跡

と緩やかに掘り下げられている。

<柱穴>10基の柱穴を検出した。主柱穴はPP771・769・777・773であろうか。

<その他>北東壁際から土坑1基を検出した。

<遺物> (第162図、写真図版144・166) 埋土から個体数にして土師器坏2点・甕1～2点・球刷甕1点が出土した。

土師器坏100はL縁部と体部の境界が不明瞭な沈線でごまかされている。102の甕のL縁部は沈線状に窪み口縁部には複数の段をもっている。

<時期>奈良時代。

RA458 竪穴住居跡 (第48図、写真図版36)

<位置・重複関係>調査区東側、3D区と3E区にまたがる。直ぐ南RA447、北西隣りにはRA457がある。現況は畑地で、表土除去後、現地表面より3～40cm下位で暗褐色土の広がりを確認した。検出面はIV層上位である。重複関係は見られないが、かなり深く削平を受けているようであった。

<規模・平面形・方向>3.1×3.0mの方形を呈する。床面積9.2㎡、主軸方向はN-43°-Wである。

<埋土>貼床の土である。黒褐色土に多量の地山土をブロック状に含んでいる。

<壁>遺構検出面では残っていないかった。

<床面>全面を貼床とし、幾分硬く締まっている。

<カマド>殆ど残っていないが北西壁のほぼ中央に構築されている。本体部は地山をそのまま使った構造でよいと思われる。煙道部は燃焼部から煙出し底部へと緩やかに掘り下げられている。

<遺物>なし。

<時期>周辺の遺構分布から奈良時代であろう。

RA459 竪穴住居跡 (第49図、写真図版37)

<位置・重複関係>遺跡の南東側、3C区中央のやや南寄りに位置する。現況は畑地で、表土除去後、現地表面より20cm下位で黒褐色土の広がりを確認した。北方にはRA460がある。検出面はIII層下位である。

住居の東壁とそれに続く床の一部を検出したが、住居の主たる部分は、畦畔及び用水路の下に入り込んでおり、調査できなかった。しかし、後刻工事の設前変更により、この畦畔と用水路の切り替えが可能となり、本遺構の全面調査が可能となった。昨年度調査区で西壁がすでに検出されていたが、その時点では住居跡とは認定できずRD379土坑として登録されたものである。重複関係は見られない。

<規模・形態・方向>概ね4.5m四方の隅丸方形プランを呈する。主軸方向はN-15°-Wとなる。

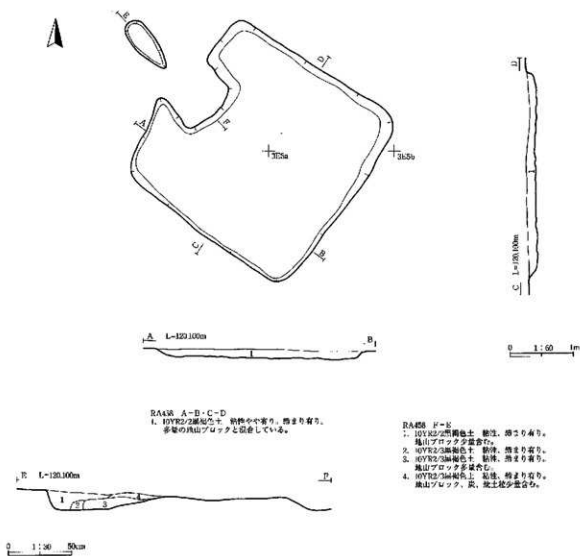
<埋土>黒褐色土を主体とし自然地積の緑相を呈する。

<壁>遺構検出面からは17～20cm程が残存しており底面から外傾して立ち上がっている。壁溝はない。

<床面>全面を貼床としており、中央部には乱瓦があった。

<カマド>北西壁の中央に設置されている。天井及び袖部は地山を生かしつつ比較的大きな河原石などを用いて構築されていたようである。燃焼部付近には焼土の広がりと共にこれらの河原石が検出された。煙道部はトンネル式で煙出し底部は竈道より若干低く掘り込まれている。

<柱穴>各壁際近くを中心に4基検出されている。



第48図 RA458 竪穴住居跡

＜その他＞北西壁及び南東壁際の床面から掘り込みに焼土が入ったような状態のものが5ヶ所で確認された。本住居が焼失しているわけではなく、穴に捨てたような状況であった。

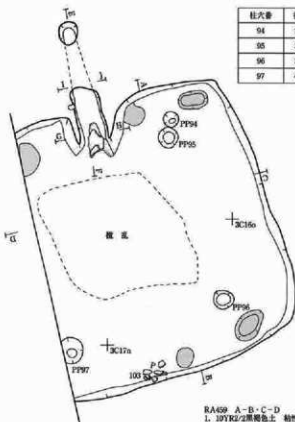
＜遺物＞（第162・197図、写真図版144・166）埋土及び床面から個体数にして長筒甕2点・球胴甕1点・土製装飾品3点（492・493）、近代以降の磁器碗1片が出土している。

103の長胴甕は南東壁際の床面から破片の状態でも出土した105は同一個体であろう。土製装飾品はカマド東側の床面と埋土から出土している。

＜時期＞奈良時代。



柱穴番号	径 (cm)	深さ (cm)	備考
94	26×24	8.8	
95	32×22	51.9	
96	32×49	49.1	
97	42×20	32.1	



C L=120.400m



0 1:60 1m

E L=120.300m



0 1:30 50cm

RA459 A-B-C-D

1. 10YK2/2黄褐色土 粘性やや有、締まり有。
2. 10YK2/3黄褐色土 粘性やや有、締まり有。
3. 5Y2/1原色土 粘性有り、しまりやや有、10YR4/2区黄褐色土、ブロック状に多量含、未炭化炭灰含。
4. 10YR2/2黄褐色土 粘性有、締まり弱、地山土と混入している、未炭化炭灰含、10YR4/6区黄褐色土、5Y2/1大含。
5. 地山土
6. 10YK2/3黄褐色土 地山ブロック多量含、粘性やや有、締まっている (粘土)

G L=120.200m



0 1:30 50cm

I L=120.300m



0 1:30 50cm

RA459 E-F-G-H-I-J

1. 10YK2/2黄褐色土 粘性やや有、締まっている、未炭化炭灰有。
2. 10YK2/3黄褐色土 粘性やや有、締まっている、未炭化炭灰有。
3. 10YR4/6黄褐色土 粘性、締まりやや有。
4. 10YK2/2黄褐色土 粘性、締まりやや有、未炭化炭灰含。
5. 10YK2/2黄褐色土 粘性、締まりやや有。
6. 10YK2/3黄褐色土 粘性、締まりやや有、地山ブロック多量含。
7. 10YK2/3黄褐色土 粘性有、締まり弱、地山ブロック多量含。
8. 10YK2/2黄褐色土 粘性有、締まり弱、地山ブロック多量含。
9. 10YR4/6黄褐色土 粘性弱、締まりやや有。
10. 10YK2/3黄褐色土 粘性弱、締まっている。
11. 10YK2/3黄褐色土 地山ブロック多量含、粘性やや有、締まっている。(泥状)

第49図 RA459竪穴住居跡

RA460 竪穴住居跡 (第50図、写真図版38)

<位置・重複関係>遺跡南東側、3C区ほぼ中央の北寄りに位置する。南方にRA459がある。本遺構も前述のRA459と同様に、畦畔、用水路にその主体部分を覆われていたが、それらの切り替えにより調査可能となった。但し、北側部分は、住宅の敷地に入り込んでいたため、調査できず、よって、本遺構のカマドをもつてであろうと思われる箇所は検出できなかった。検出は、現表土から25cm下げた地点で、検出面はⅢ層下位である。検出した範囲には重複は認められなかった。

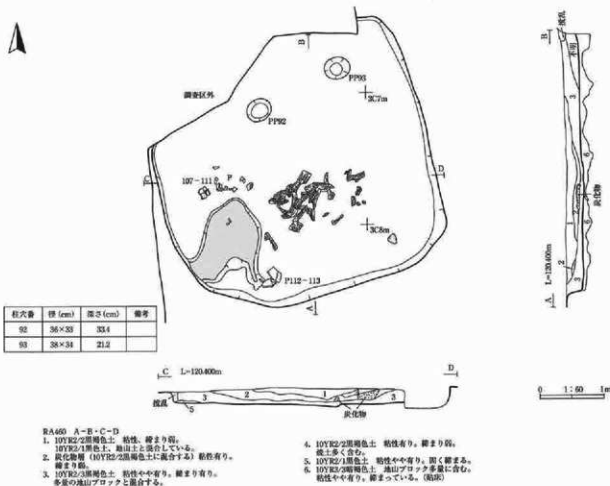
<規模・平面形・方向>東西4.0m、南北は残存値で3.7mとなり、隅丸方形を呈すると思われるが、北壁部分が検出できていないので不明である。床面積は残存値で12.7㎡、主軸方向はN-19°-Wと思われる。

<埋土>床面に近い部分は自然堆積でよいと思われる。埋土上位に関しては地山ブロックを多量に含み埋めた可能性もある。

<壁>遺構検出面からは17~24cm位残存し、底面から垂直気味に立ち上がっている。壁溝はない。

<床面>全面を貼床とし平坦である。現在の排水路が近くにあるため水気を帯びており堅さは不明である。

<カマド>調査区外の北西側に構築されていると思われる。



第50図 RA460竪穴住居跡

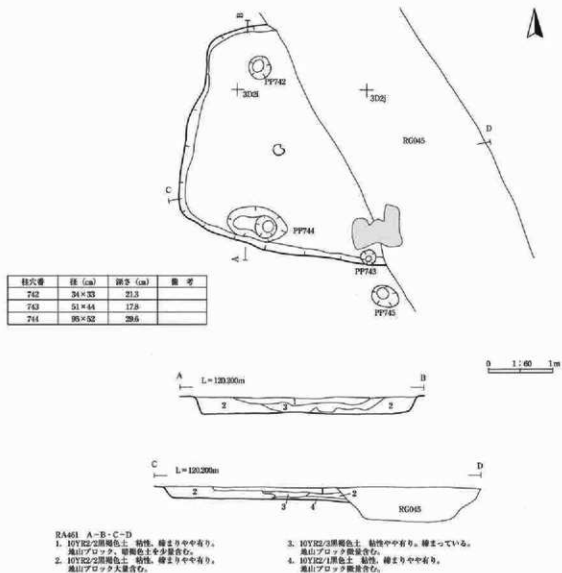
<柱穴> 2基検出されたが本遺構に伴うか不明である。

<その他> 床面及び床からやや高い所に焼土及び炭化材が検出された。主に南半部から多く見られ、同じ場所に土師器も散乱していた。この状況から本遺構は焼失していると考えられるが焼土及び炭化材の多くは床面より少しだけ高い所に見られることから廃絶後に焼けたものかもしれない。同定された炭化材にはナラとケヤキがあった。

<遺物> (第162・163図、写真図版144・145・175) 埴土及び床面から個体数にして土師器坏4点・碗? 1点・長胴甕6点・球胴甕2点が出土した。

112・113の球胴甕は同一個体のようで南壁近くの床面直上から破片の状態で出土した。107~111の土師器坏・甕・壺は中央やや西側に破片が散乱する状態で見つかっている。

<時期> 奈良時代。



第51図 RA461竪穴住居跡

RA461 竪穴住居跡 (第51図、写真図版39)

<位置・重複関係>遺跡の東から南東側、3D区北端に位置する。北西隣りにはRA456が、北側にはRA456があり、東側は沢跡になっている。現況は畑地で、表土除去後現地表面より30cm下位で黒褐色土の広がりを確認した。検出面は3層下位～IV層上位である。本遺構の東側を斜に半分程、平安時代のRG045溝跡が切っている。

<規模・平面形・方向>残存箇所で最大値は南北に3.2mを測るが、東西については不明である。また隅丸の方形をなすと思われるが、長方形か正方形かは不明である。カマドを検出できなかったため、主軸方向は判断できないが、仮に北壁にカマドをもっていたとすると周辺の住居跡は全て北西方向に軸線をもっているのに比し、本遺構だけは若干北から東に逸れた線を軸とすることになる。

<埋土>黒褐色土を主体とするが、地山ブロックを多く含んでいるため人為堆積と思われる。

<壁>検出面からの壁高は最高で24cmを測る箇所があるが、殆どは20cm強の敷で固まっている。

<床面>平坦でやや硬いが畳床は施されておらず、IV層の黄褐色土を掘り込んで床面としている。

<カマド>検出されていない。北壁か東壁に構築されていたと考えられる。

<柱穴>3基検出されている。PP742・744が本遺構に作る。

<その他>割壁際のRG045との重複部分に焼土の広がりを確認した。床面及び床面よりやや高い所にみられ焼土は現地性のものではないと思われる。ただし未検出のカマドに関係するものかもしれない。

<遺物> (第163図、写真図版163・175) 埴土及び床面から個体数にして土師器坏1～2点(114)・鉢1点・甕2点(115)・球胴甕1点が出土した。

<時期>奈良時代。

RA214 竪穴住居跡 (第52図、写真図版40)

<位置・重複関係>本遺跡の西側、2-C18f区に位置する。23次調査では本遺構の北東部分のみを検出し同じ遺構名で掲載している。

<規模・形態・方向>北壁・南壁5.6m、東壁・西壁5.8mの概ね方形を基調とする。床面積は29.9㎡、主軸方向はN-5°-Eである。

<埋土>地山ブロックを多量に含む黒褐色土が主体で人為堆積の可能性がある。

<壁>14～25cm程残存していた。底面からは外傾して立ち上がっている。

<床面>概ね平坦で硬いが畳床は施されていなかった。壁溝も見られなかった。

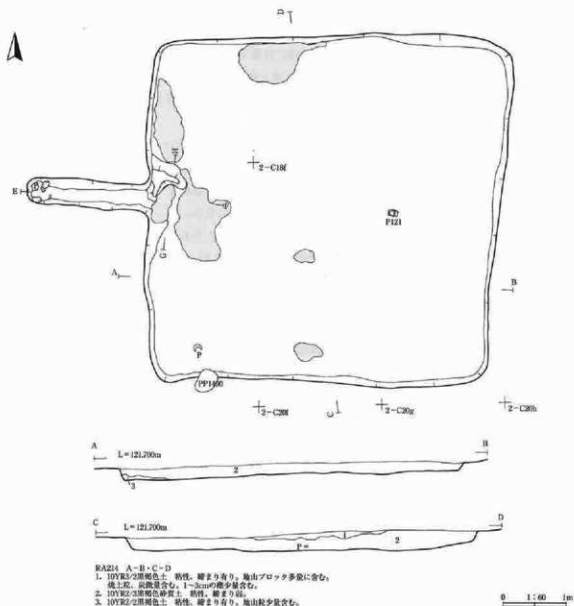
<カマド>西壁の中央部に構築されていたが、本体部は殆ど崩落し残りが悪い。袖部は地山を生かしてつくられていたと思われる。燃焼部や焚き口及び袖部北側等に焼土が散乱した状態で見られた。樋道部は割り貫き式か掘り込み式か不明である。煙出し部には自然産物が多数流れ込んだ状態で検出された。

<柱穴>床面及び床面を若干掘り下げて探したが検出されなかった。

<その他>床面まで下げた段階で何方所かに炭粒が混じる焼土の広がりを検出した。このことから本遺構が焼失している可能性があると思われる。

<遺物> (第164・197図、写真図版145・167・180) 床面及び埋土から個体数にして土師器坏7点・高台付坏1点・鉢?1点・甕2点、赤焼き坏3点・甕2点、須恵器坏3～4点・甕1～2点、紡錘車1点(495)が出上している。

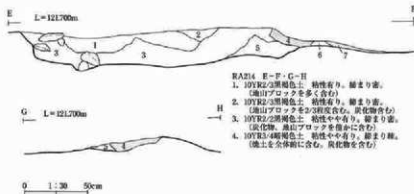
116の土師器坏は掘出し底部付近で河原石などと共に出土した。121の上師器高台付坏は住居中央やや東側



RA214 A-B-C-D

1. 10YR3/2黄褐色土 粘性、締まり有り、地山ブロック多量に含む。
(焼土灰、炭灰量含む、1-3cmの炭少量含む)
2. 10YR2/3黄褐色砂質土 粘性、締まり弱
3. 10YR2/2黄褐色土 粘性、締まり有り、地山少量含む。

0 1:40 1m



RA214 E-F-G-H

1. 10YR2/3黄褐色土 粘性有り、締まり強。
(地山ブロックを多く含む)
2. 10YR2/3黄褐色土 粘性有り、締まり強。
(地山ブロックを2/3程度含む、炭化物含む)
3. 10YR2/2黄褐色土 粘性やや有り、締まり強。
(炭化物、焼土ブロックを量に含む)
4. 10YR3/4黄褐色土 粘性やや有り、締まり強。
(焼土を全体部に含む、炭化物を含む)

5. 10YR3/2黄褐色土 粘性強。
(締まりやや強)
6. 10YR4/4褐色土 粘性有り。
(締まり強)
7. 10YR2/2黄褐色土 粘性有り。
(締まりやや強、炭化物多く含む)
(焼土を多く含む)

第52図 RA214竪穴住居跡

の床面付近で出土している。

<時期>平安時代。

RA218 竪穴住居跡 (第53図)

<位置・重複関係>本遺跡の西側、2-D23y区に位置している。RA281竪穴住居跡と重複し本遺構の方が新しい。

<規模・形態・方向>西壁-東壁3.7m、北壁-南壁が3.6mを測り平面形は方形を基調としている。床面積は10.5㎡あり主軸方向はN-90°-Wである。

<埋土>自然堆積の様相を呈する。

<壁>遺構検出面から26~34cm残存していた。床面から外傾して立ち上がっている。

<床面>全面に貼床が施され平坦だが硬く締まるものではない。壁溝もみられない。

<カマド>西壁の中央部に位置している。側壁は褐色土でつくられているが天井部は残存しない。火床部には40×35cmの範囲に焼土を検出した。煙道部は割り貫き式で煙出し底部を一段深く掘り込んで構築している。

<柱穴>2基の柱穴を検出したが本遺構に伴うか判然としない。

<その他>カマドの北隣り付近で床面直上から自然礫2個が見られた。

<遺物>23次調査の報告書に掲載した。

<時期>平安時代。

RA312 竪穴住居跡 (第54図、写真図版41)

<位置・重複関係>本遺跡の西側にあたる3-D3jグリッドに位置しIV層上面にて検出された。RG315よりは古いと思われる。

<規模・形態・方向>北西壁-南東壁が4.2m、北東壁-南西壁で4.2mを測り平面形は隅丸方形を呈する。床面積は15.7㎡、主軸方向はN-65°-Wである。

<埋土>黒褐色土の単層であるが自然堆積でよいと思われる。

<壁>底面からやや外傾して立ち上がっており16~24cm程残存している。壁溝は確認されていない。

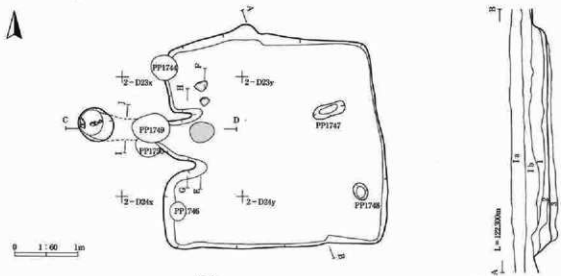
<床面>平坦でやや硬く全面を貼床としていた。

<カマド>北西壁に構築されていた。カマド本体の残りは黒く天井部は崩落して残存していない。袖部は地山を生かしつつ河原石などを芯材に用いて造られていたようである。燃焼部から焚き口にかけて45×42cmの範囲で焼土が見られ、それと共に河原石が数個検出された。煙道は割り貫き式で燃焼部から煙出し底部へと緩やかに下っている。

<柱穴>検出されなかった。

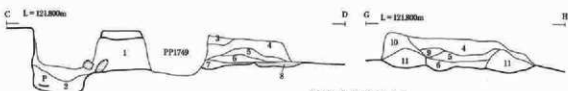
<その他>南西壁隅や北西壁のやや北側に炭粒及び炭化材が床面直上から検出された。また南壁の東側では同じく床面直上に焼土の広がりを確認した。これに加えて埋土及び床面からは比較的多くの遺物と自然礫が出土していることから本住居跡は使用時に焼失している可能性があると考えられる。同定された炭化材にはケヤキの他に多量のススキの籾(茅か)が束になった状態のものあり、これは床に敷かれていたものであろうか。

<遺物>(第164~167・194・195図、写真図版145~148・167・180・181) 埋土及び床面から個体数にして



柱穴番号	径 (cm)	深さ (cm)	備考
1747	55×22	146	
1748	30×22	28.0	

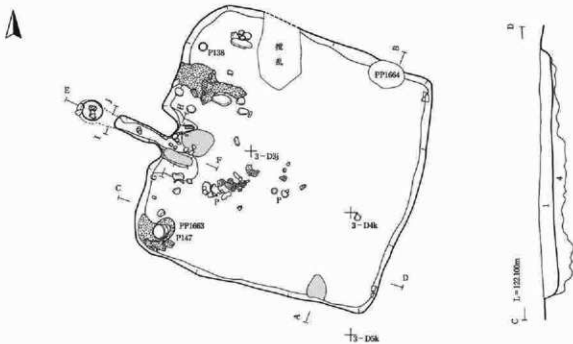
- A-B
- 1a. 10YR2/2 黒褐色土 粘性有り。
締まり中々有り。
赤褐色土 (25YR4/3) 無磁器含む。
 - 1b. 10YR2/3 黒褐色土 粘性有り。
締まり中々有り。
褐色砂質土 (10YR4/6) 無磁器含む。
 1. 10YR3/1 黒褐色土 粘性、締まり中々有り。
 2. 10YR3/2 黒褐色土 粘性、締まり中々有り。
 3. 10YR4/6 褐色砂質土 粘性中々有り、締まり有り。
黒褐色土 (10YK5/4) 磁器含む。



- RA218 C-D-G-H-I-J
1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性有り、締まり中々有り。
25YR4/6 赤褐色土 無磁器含む。
 2. 10YR2/3 黒褐色土 粘性有り、締まり中々有り。
10YR4/6 褐色砂質土 無磁器含む。
 3. 10YR3/1 黒褐色土 粘性、締まり中々有り。
 4. 10YR3/2 粘性、締まり中々有り。
10YR2/1 黒褐色土、炭片、25YR4/4 赤い黄褐色土、
炭土アツク 無磁器含む。
 5. 10YR3/2 黒褐色土 粘性、締まり中々有り。
10YR3/4 黒褐色土、10YR4/4 褐色土、25YR4/4 赤い
赤褐色土 無磁器含む。
 6. 10YR2/2 黒褐色土 粘性、締まり中々有り。
 7. 10YR2/3 黒褐色土 粘性、締まり中々有り。
25YR4/6 赤褐色土 無磁器含む。
 8. 25Y2/6 赤褐色土 粘性、締まり中々有り。
炭化物、無磁器含む。
 9. 10YR3/2 黒褐色土 粘性なし、締まり中々有り。
10YR4/6 褐色土 無磁器含む。
 10. 10YR3/2 黒褐色土 アツク 粘性なし、締まり有り。
10YR4/6 褐色土 無磁器含む。
 11. 10YR4/6 褐色砂質土 粘性中々有り、締まりなし。
10YR2/2 黒褐色土 無磁器含む。
 12. 10YR3/2 黒褐色土 粘性中々有り、締まり有り
10YK5/6 黄褐色砂質土を含む。



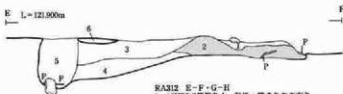
第53図 RA218 竪穴住居跡



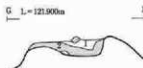
RA312 A-B・C-D

1. 10YR2/2黒褐色土 粘性やや有り。締まりやや有り。表層に炭化物を稀に含んでいる。
2. 5YR4/6赤褐色粘土で構成されている。締まりやや有り。1層のブロックを少量含んでいる。

3. 炭化物
4. 10YR3/2黒褐色土。地山ブロック多数を含む。粘性やや有り。締まっている。



- RA312 E-F・G-H
1. 10YR2/3黒褐色土 粘性。締まりやや有り。
 2. 10YR2/3黒褐色土 炭土ブロック多数含む。粘性やや有り。締まり強。
 3. 10Y2/3暗褐色土 粘性やや有り。締まりやや有り。
 4. 10YR2/3黒褐色土 粘性やや有り。締まり強。
 5. 10YR2/2黒褐色土 粘性やや有り。締まり強。
 6. 地山

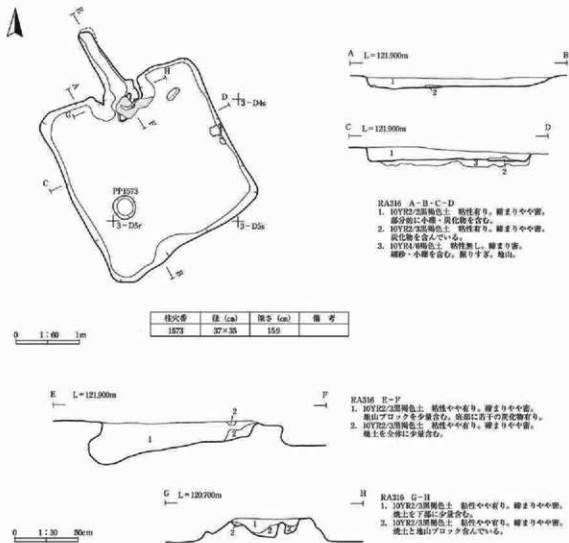


第54図 RA312竪穴住居跡

土師器環3点・甕4点・小型甕1点、赤焼き環12点・高台付環1点・甕3～4点・鉢?1点、須恵器6～7点・高台付1点・甕1点・小型甕1点・壺1点、鉄製品2点(452・456)、鉄滓1点(533)、剥片1点、近世の染付皿1片が出土している。

カマド精査中に129・131赤焼き環、146・150赤焼き甕、151土師器甕などが、煙道部からは134赤焼き環、148赤焼き甕などが出土した。138須恵器環は北壁際の床面に置かれた状態で出土した。147赤焼き甕は西壁隅の床を掘り込み、その中に体部中程まで入った状態で見つかった。152の鉢は焼き口付近の床面から炭化材や他の土師器片と共に散乱した状態で出土している。

<時期>平安時代。



第55図 RA316竪穴住居跡

RA316 竪穴住居跡 (第55図、写真図版42)

<位置・重複関係> 遺跡西部の3-D2 r グリッドに位置している。

<規模・形態・方向> 北西壁-南東壁が3.0m、北東壁-南西壁は2.7mで平面形は隅丸長方形を基調とする。床面積は6.7㎡、主軸方向はN-30°-Wである。

<埋土> 黒褐色土を主体とし床面付近には炭化物が堆積する。自然堆積で良いと思われる。

<壁> 床面から12~24cm程残存している。壁溝をもたない構造のようである。

<床面> 全面を貼床としており、平坦であるが硬く締まるものではない。

<カマド> 北西壁の中央に構築されている。本体部は地山を掘り残してつくられていたようだが天井部は崩落してない。焚き口から燃焼部にかけて焼土が分布していた。煙道部は焚き口から緩やかに煙出し底部へと抉るように掘り下げられている。

<柱穴> 1基のみ検出されたが本遺構に伴わないかもしれない。

<遺物> (第167図、写真図版148) 埋土及び床面から個体数にして土師器甕2点、赤焼き杯1点、須恵器甕1点が出土している。154の土師器甕は東壁際から破片の状態で出土した。

<時期> 平安時代。

RA397 竪穴住居跡 (第56図、写真図版43)

<位置・重複関係> 本遺跡の西側地区にあたる2-D16 s グリッドに位置している。RG307溝跡と重複し本遺構の方が古いようである。

<規模・形態・方向> 北壁-南壁2.8m、東壁-西壁で3.2mを測り平面形は隅丸長方形に近い。床面積は6.6㎡で主軸方向はS-86°-Eである。

<埋土> 黒褐色土を主体としその中に暗褐色土・褐色土ブロックを不規則に含むが自然堆積で良いと思われる。

<壁> 遺構を検出した面から底面までは15~12cm程しかない。壁は底面から緩やかに外傾して立ち上がっている。壁溝は見られなかった。

<床面> 平坦で南東壁際と南西壁際付近を貼床としている。

<カマド> 東壁の中央よりやや北側に設置されている。竈部は壁際では地山を生かし焚き口付近では自然礫と黒褐色土を使い、天井部にも扁平な自然礫を置いていたようである。煙道部は本体部から煙出し底部へ向けて緩やかな斜面で掘り下げられている。

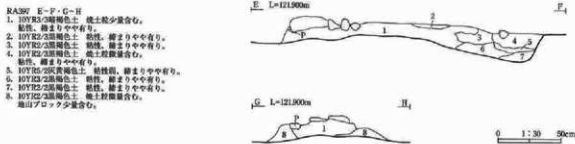
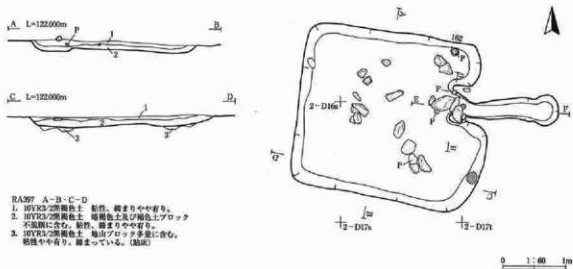
<柱穴> 検出されなかった。

<その他> 遺構検出面から床面直上にかけて10~30cm程の河原石が本遺構内に散乱した状態で10数個確認された。検出した状況から本住居の廃絶後に入ったものと思われる。また西壁壁際と南東壁の一部に小規模な焼土が検出された。

<遺物> (第167図、写真図版148・167) 埋土及び床面から個体数にして土師器杯2点・甕3~4点、赤焼き杯5点・甕1点、須恵器杯3点、甕2~3点・壺?1点、奈良時代の甕1点が出土している。

162の土師器甕底部破片はカマド脇北壁際の床面近くから出土した。163須恵器甕は南壁近くから散乱する河原石と共に出土している。

<時期> 平安時代。



第56図 RA397竪穴住居跡

RA399竪穴住居跡 (第57図、写真図版44)

<位置・重複関係>遺跡全体から見ると西側中央部、2-D24k区に位置している。RG315・318と重複関係にあり、本遺構の方が古い。

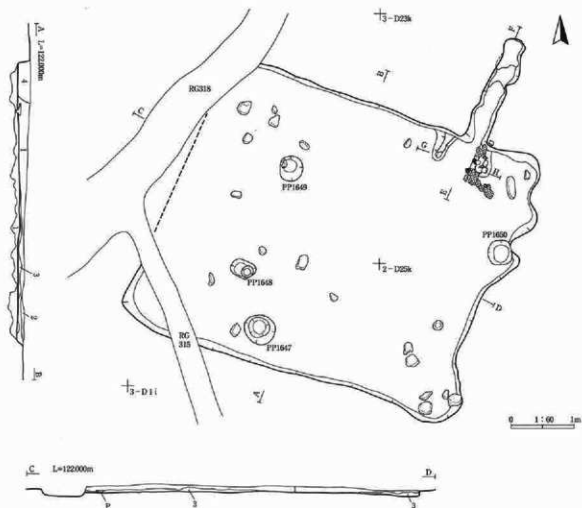
<規模・形態・方向>北東壁-南西壁が4.6m、北西壁-南東壁で5.4mを測り、隅丸長方形のプランを呈する。床面積は22.6㎡で主軸方向はN-23°-Eである。

<埋土>黒褐色土を主体とする自然堆積。

<壁>20-10cm程しか残っておらず詳細は不明であるが、床面から若干外傾して立ち上がっている。

<床面>本住居跡は裸層面に達したところを床面としているようで、貼床は施されていない。概ね平坦だが裸層上面が露出している。

<カマド>北東壁の東端に設置されている。本体部は袖部が河原石を芯材にし、褐色土と黄褐色土で覆い、



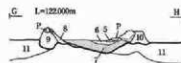
RA399 A-B・C-D

1. 10YR2/2黒褐色土 粘性有り。跡残り。
2. 10YR2/2黒褐色土 粘性やや有り。跡残り。
3. 10YR2/2黒褐色土 粘性やや有り。跡残り。
4. 10YR2/2黒褐色土 粘性やや有り。跡残り。

柱穴番	径 (cm)	深さ (cm)	備考
1647	52×45	27.8	
1648	40×29	28.8	
1649	41×41	30.1	
1650	43×41	11.6	

RA399 C-H

5. 10YR2/2黒褐色土 粘性やや有り。跡まっています。
6. 10YR4/4褐色土 黒褐色土ブロック少量含む。粘性弱。跡まっています。
7. 2.5YR4.8赤褐色土 粘土。粘性弱。跡まっています。
8. 10YR3/2黒褐色土 粘性。跡残りやや有り。
9. 10YR2/2黒褐色土 粘性。跡残りやや有り。
10. 10YR3/3黒褐色土 粘性やや有り。跡まっています。
11. 10YR3/3黒褐色土と黒褐色土の混合土。粘性弱。跡まっています。



RA399 E-F

1. 10YR2/2黒褐色土 粘性有り。跡残り。跡山ブロックを含んでいる。
2. 10YR2/2黒褐色土 跡残り。粘性有り。
3. 10YR2/2黒褐色土 粘性なし。跡残りやや有り。
4. 5YR2.8/8赤褐色土。

0 1:30 50cm

第57図 RA399竪穴住居跡

天井部には自然礫を用いているようである。燃焼部には40×25cmの焼土の広がりを見出した。煙道部は炬出し底部へ向けて緩やかに下がっている。

<柱穴>住居内からは4基の柱穴を見出した。PP1650は本遺構には伴わないかもしれない。

<その他>床面直上から埋土下層にかけて10～40cm位の河原石が散在する状態で検出されたが、どのような性格をもつものなのか不明である。

<遺物> (第168・169図、写真図版148～150・167) 埴土及び床面から個体数にして土師器は坏5点・高台付坏1点・甕類7、赤焼土器は坏7点・甕類3点、須恵器坏1点が出土した。

164土師器坏・170赤焼き坏・173須恵器坏・175・177土師器甕・181赤焼き甕はカマドを精査中に出土した。171・172赤焼き坏・183赤焼き甕は焚き口付近の床面及び床面直上から出土している。

<時期>平安時代

RA400 竪穴住居跡 (第58図、写真図版45)

<位置・重複関係>本遺跡の西側地区にあたる2-D18tグリッドに位置している。重複関係なし。

<規模・形態・方向>北東壁-南西壁3.0m、南東壁-北西壁で3.1mを測り平面形は隅丸長方形を基調とする。床面積は約7.8㎡、主軸方向はS-76°-Eである。

<埋土>炭粒をごく微量含む黒褐色土。自然堆積であろう。

<壁>8～17cm程残存するのみである。底面から外傾して立ち上がっている。

<床面>平坦で西壁際を除き貼床としていた。壁溝は見られなかった。

<カマド>南東壁の北よりに構築されていたが残存状況は悪い。天井部は残っておらず燃焼部付近とその周辺に焼土が散乱していた。袖部は暗褐色土を使ってつくられており、煙道は燃焼部から一旦立ち上がった後、炬出し底部へと斜めに掘り下げられている。

<柱穴>なし。

<その他>遺構検出面から床面直上にかけて10～30cm位の河原石が10数個確認された。検出状況から廃絶後に入ったものと思われる。

<遺物> (第169・170・194・195・199図、写真図版150・168・181・184) 埴土及び床面から個体数にして土師器坏3～4点・高台付坏1点・甕4～5点、赤焼き坏9～10点・甕1～2点、須恵器坏2～3点・甕2点、砥石2点(511・513)、鉄器2～3点(448・449・457)、鉄滓(534)が出土した。

186赤焼き坏はカマド脇の北壁際床面から出土した。187赤焼き坏は住居中央床面直上に広がる焼土と共に出土した。193の須恵器甕片は南西壁際より出土している。

<時期>平安時代。

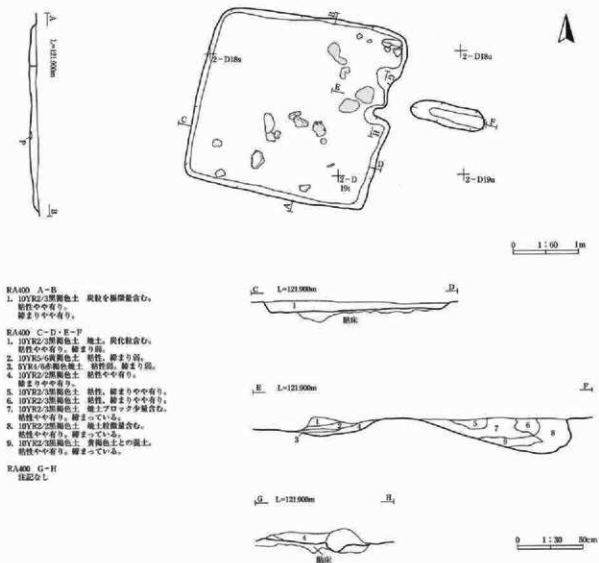
RA401 竪穴住居跡 (第59図、写真図版46)

<位置・重複関係>遺跡西側にあたる2-D22tグリッドに位置している。RA404住居跡と重複関係にあり本遺構の方が新しい。

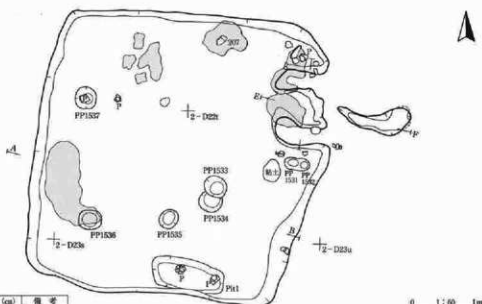
<規模・形態・方向>北壁-南壁が4.3m、東壁-西壁で4.2mの隅丸方形プランを呈する。床面積は15.6㎡で主軸方向はS-84°-Eである。

<埋土>黒褐色土を中心とし、西壁際には焼土が堆積している。

<壁>床面から緩やかに外傾して立ち上がっている。遺構検出面から7cm位しか残存しない。
 <床面>全面を貼床とし、平坦に構築されている。壁溝は見られなかった。
 <カマド>東壁の北端部に構築されていた。袖部は暗褐色土等でつくられ、燃焼部の焼土は一部北袖側にも散乱している。煙道はカマド本体から一旦立ち上がった後、煙出し底部へと斜めに掘り下げられている。
 <柱穴>7基の柱穴を確認したが配置が不規則で本遺構に伴わない柱穴も含んでいると思われる。
 <土坑>南壁際に開口部112×42cm程の土坑を1基検出した。
 <その他>西壁側と北壁側で床面及び床面直上において焼土及び炭化材(ケヤキの若木)の広がりが見られた。その状況から本遺構が焼失している可能性があると思われる。



第58図 RA400竪穴住居跡

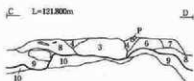


柱穴番号	径 (cm)	深さ (cm)	備考
1531	22 × 18	—	
1532	22 × 17	—	
1533	35 × 28	28.5	
1534	36 × 25	9.9	
1535	32 × 28	5.8	
1536	35 × 30	21.7	
1537	34 × 33	7.9	



RA401 A-B

1. IYR2/2原褐色土 粘性やや有り。締まっている。
2. ZSYR5/5明赤褐色土 粘性弱。締まっている。
3. IYR2/2原褐色土 粘性やや有り。締まっている。
4. IYR2/3原褐色砂質土 地山ブロック少量。礫少量含む。粘性。締まりやや有り。(底床)



RA401 C-D-E-F

1. IYR5/5原褐色土 粘性。締まり弱。
2. ZSYR5/5明赤褐色土 粘性弱。締まっている。
3. IYR2/4原褐色土 粘土粒含む。粘性やや有り。締まりやや有り。
4. ZSYR3/4原褐色土 粘土多量に含む。粘性。締まり弱。
5. ZSYR2/5原褐色土 粘土粒少量含む。粘性やや有り。締まりやや有り。
6. IYR2/3原褐色土 粘土粒少量含む。粘性やや有り。締まっている。



7. IYR5/5原褐色土 黒褐色ブロック少量含む。粘性。締まりやや有り。
8. IYR3/3原褐色土 黄土ブロック少量含む。粘性やや有り。締まっている。
9. IYR3/2原褐色土 地山ブロック少量含む。粘性。締まりやや有り。
10. IYR2/3原褐色土 地山ブロック多量含む。粘性やや有り。締まっている。(底床)

第59図 RA401 竪穴住居跡

<遺物> (第170～172・194・195図、写真図版150・151・168・169・180・181) 埋土及び床面から個体数にして土師器環10～11点・高台付環2点・甕8～9点、赤焼き環8～10点・甕4～5点、須恵器環2～3点・甕2～3点、軽石1点、燧先1点(447)・鉄器1点(466)・鉄滓?2点(535ほか1点)、炭化材などが出土した。

カマド袖部の北隣りからは土師器甕201・205が床面から出土した。反対の袖部南隣りからは須恵器甕片が出土した。この他カマドの精査中に202・204土師器甕が出土している。南壁際に位置するP i t 1からは184土師器甕・192土師器環・199赤焼き環が出土した。194土師器環はPP1537の検出面からその東隣りで床面から196土師器環が出土している。北壁付近の焼土中からは床面から赤焼き甕207が出土している。

<時期>平安時代。

RA403 竪穴住居跡(第60・61図、写真図版47)

<位置・重複関係>本遺跡の西側となる2-C10fグリッドに位置している。重複関係なし。

<規模・形態・方向>北東壁・南西壁が4.6m、南東壁・北西壁では4.5mを測り平面形は方形を呈する。床面積は16.1㎡、主軸方向はS-62°-EとS-66°-Eである。

<埋土>自然堆積の様相を呈する。黒褐色土を主体とし、十和田a火山灰が粒状に堆積。

<壁>竪溝検出面から26～30cm程残存しており底面から垂直気味に外傾して立ち上がっている。

<床面>全面を粘土とし平坦だが硬く締まるものではない。壁溝は見られなかった。

<カマド>南東壁から2基並んで検出され、北側を1号カマド、南側を2号カマドとした。互いに重複関係はないが、両者を比べて残存状況が良い2号カマドの方が新しいと思われる。

1号カマド：本体部分は残存せず、燃焼部付近にも焼上は見られなかった。煙道は割り貫き式と思われ、天井部が崩落していると思われる。本体部から煙出し底部へ斜めに掘り下げている。

2号カマド：燃焼部周辺に焼土が120×52cmの範囲で散らばり、その中に土師器も混じっていた。本体部の側壁は自然礫を黒褐色土等で覆ってつくられていたようである。本体部から煙道部に続く部分は扁平な自然礫を天井として使っている。煙出し底部は一段深く掘り下げられている。

<柱穴>検出されなかった。

<その他>西壁や北壁付近の床面及び床面直上から焼土及び炭化材(ケヤキ)が検出された。本住居の使用時か廃絶後かは不明だが焼失していると思われる。

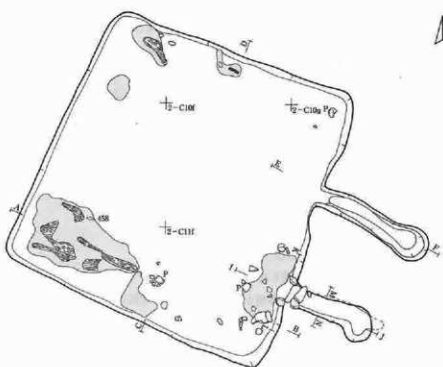
<遺物> (第172・173・195図、写真図版151・152・169・181) 埋土及び床面から個体数にして土師器環3点・甕5点、赤焼き環6～7点・高台付環1点・甕1点、須恵器環6～7点・甕2～3点、剥片1点、鉄器1～2点(458)が出土した。

北側のカマド煙道部からは216・218土師器甕が出土した。南側のカマド燃焼部付近には212赤焼き環・215土師器甕・219赤焼き甕・222須恵器甕などが散乱した状態で出土した。この他、211土師器環は床面からその場で潰れた状態で、458鉄器は住居西側の焼土・炭化材と共に出土している。

<時期>平安時代。

RA406 竪穴住居跡(第62図、写真図版48)

<位置・重複関係>遺跡西側にあたる2-C22aグリッドに位置している。



RA403 C-D

1. 10YR2/3黒褐色シルト 粘性やや強、締まり物、10YR5/6黄褐色1%含む、To-a 0.2%含む。
2. 10YR2/3黒褐色シルト 粘性やや強、締まりやや強、10YR5/6黄褐色2%含む、To-a 0.2%含む。
3. 7.5YR3/3暗褐色シルト 粘性やや強、締まり中、10YR5/6黄褐色シルトを2%含む、To-aを反映してアーク状に2%含む、炭化物を1%含む、土器片を含む。
4. 10YR2/1黒色シルト 粘性やや強、締まりやや強、(炭化物を含む)

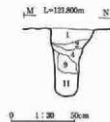
0 1:60 1m



RA403 A-B

1. 10YR2/3黒褐色土 粘性無し、締まりやや強、炭化物10YR4/6褐色土3%、10YR7/6明黄褐色の火山灰を含む。
2. 10YR2/3黒褐色土 粘性無し、締まりやや強、炭化物10YR4/6褐色土1%。
3. 10YR2/3黒褐色土 粘性無し、締まりやや強、10YR4/6褐色土33%、10YR7/6明黄褐色火山灰小ブロック2%含む。
4. 10YR2/3黒褐色土 粘性無し、締まりやや強、10YR5/6黄褐色土1%混入、10YR7/6明黄褐色火山灰小ブロック3%含む。

5. 10YR2/3黒褐色土 粘性無し、締まりやや強、炭化物10YR4/6褐色土1%以下。
6. 10YR2/3黒褐色土 粘性無し、締まりやや強、10YR4/6褐色土約10%。
7. 10YR4/6に多い黄褐色土 粘性少し、締まりやや強、炭化物10YR7/6明黄褐色土40%。
8. 10YR2/3黒褐色土 粘性無し、締まりやや強、炭化物土器片、10YR5/6黄褐色土(炭)1%。
9. 暗赤10YR2/3黒褐色土 粘性有、固く締まっている、地土50%炭と炭化している。



1:5 L=121,900m



第60図 RA403竪穴住居跡(1)

RA403 E-F, M-N

1. 75YR2/2黒褐色シルト 粘性やや弱、締まり強、塊土粒10個/1立方体約に占める5%。(標高を覆っていたものを掘けたものか?) 炭化物混入を含む。
2. 10YR2/2黒褐色シルト 粘性やや弱、締まりやや強。黄褐色シルト1%を含む。
3. 10YR2/2黒褐色シルト 粘性やや弱、締まりやや強。黄褐色シルト5%を含む。
4. 10YR2/6黒褐色シルト 粘性やや弱、締まり強。地山本来の土であると考えられる。

5. 10YR2/1黒褐色シルト 粘性弱、締まり強。
6. 7.5YR2/2黒褐色赤褐色シルト 粘性やや弱、締まりやや強。塊土粒10個/3%。
7. 10YR2/2黒褐色シルト 粘性やや弱、締まり中。黄褐色シルト質に占める50%。
8. 7.5YR2/1黒褐色シルト 粘性やや強、締まりやや強。(粘着部は砂質土)

9. 7.5YR2/1黒褐色シルト 粘性やや強、締まりやや強。壁面の崩落を認め込みの土の混入、トンネル状になっている部分。
10. 10YR2/6黒褐色シルト 粘性中、締まりやや弱。
11. 10YR2/6黒褐色シルトとの混合土(同量)

K L=121.900m



J L=121.900m



0 1:30 50cm

RA403 K-L

1. 10YR2/2黒褐色土 粘性無し、締まり強。
2. 10YR2/2黒褐色土 粘性無し、締まり強。
3. 10YR2/6黒褐色土(地山土)を1%含む。
4. 10YR2/6黒褐色土 粘性無し、締まり強。(物の土であると認められている)
5. 10YR2/2黒褐色土 粘性無し、締まり強。
6. 10YR2/7黒褐色土 粘性無し、締まり強。

7. 10YR2/1黒褐色土 粘性無し、締まり強。
8. 10YR2/1黒褐色土(地山土)を1%含む。(オマケの標高と区別される) (7層は物の部分であるとされる)
9. 10YR2/1黒褐色土 粘性無し、締まり中。
10. 2.5YR4/6赤褐色土を粒状に2%を含む。

RA403 I-J

1. 10YR2/2黒褐色シルト 粘性無し、締まり強。
2. 10YR2/6黒褐色シルト 粘性無し。
3. 10YR2/2黒褐色シルト 粘性やや弱、締まり中。
4. 2.5YR4/6赤褐色シルト 粘性やや弱、締まり中。
5. 10YR2/3黒褐色シルト 粘性やや弱、締まりやや強。塊土ブロックあり。

第61図 RA403竪穴住居跡(2)

<規模・形態・方向>北西壁-南東壁が2.4m、北東壁-南西壁で2.6mの方形プランを呈する。床面積は5.3㎡で主軸方向はN-34°-Wを示す。

<埋土>黒褐色土に地山ブロック・炭粒を微量含む単層。

<壁>遺構検出面からは12~8cm程度しか残存せず、底面からやや外傾して立ち上がっている。

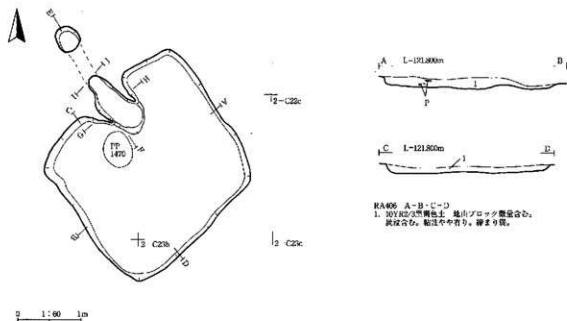
<床面>概ね平坦で硬いが、南西側には凹凸が認められた。壁溝は検出されなかった。

<カマド>北西壁の中央部に設置されている。本体部の細壁は地山の作りつけで構築されていたようだが、天井部は崩落し残存しない。焚き口から燃焼部にかけて床面より一段低く掘り下げられ、煙道部は倒り貫き式で煙出し底部は煙道より10cm程深く掘り込まれている。

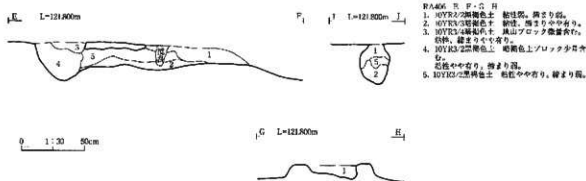
<柱穴>本遺構に伴う柱穴は検出されていない。

<遺物>(第173図、写真図版152・169) 埋土及び床面などから個体数にして土師器環2点・甕1~2点、赤焼き環1~2点・甕1点、須恵器甕1点が出土している。何れも本遺構に伴っていると考えられる。

<時期>平安時代。



RA406 A-B・C-D
 1. 10YR2/2黒褐色土 粘土質、粘りあり。
 灰灰を含む。粘土やや有り。粘りあり。



第62図 RA406壁穴住層跡

RA408壁穴住層跡 (第63図、写真図版49)

<位置・重複関係>遺跡西側の2-D15x区に位置している。R A409とR A410と重複し本遺構の方が新しい。

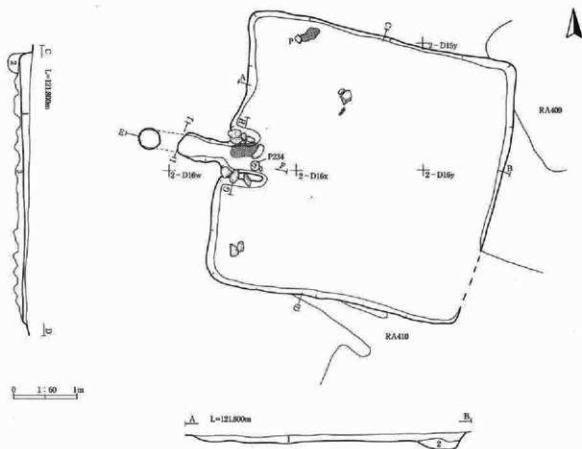
<規模・形態・方向>北壁-南壁4.3m、東壁-西壁は4.3mを測り隅丸方形プランを早する。床面積は16.8㎡で主軸方向はN-78°-Wである。

<壁土>黒褐色土の単層、自然堆積であろうか。

<壁>遺構検出面からの残存値は8~21cm程しかないが床面から外傾気味に立ち上がっている。

<床面>平坦につくられており、全面を貼床としていた。壁溝は見られなかった。

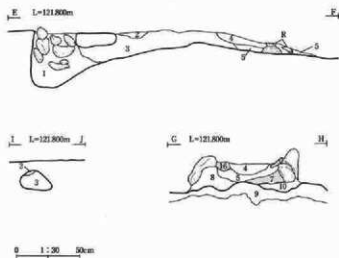
<カマド>西壁の中央やや南側に設置されていた。袖部には10~30cm位の自然礫を芯材に用い、それを暗褐色土等で覆って本体部を構築していたと見られる。燃焼部には45×20cmの範囲で焼土があり、支脚として使われていたと思われる高台付杯が伏せた状態で出土した。煙道部は列り貫き式で煙出し部の壁土には多量の自然礫が含まれていた。本来は煙出し上面の周りに積まれていたものと思われる。



RA408 A・B・C・D

1. 10YR2/2黒褐色土 粘性やや有り。硬まっている。
2. 10YR2/3黒褐色土 火山ブロック多量含む。粘性やや有り。締まりやや有り。

3. 10YR3/2黒褐色土 火山ブロック多量含む。粘性やや有り。硬まっている。



RA408 E・F・G・H・J

1. 10YR2/2黒褐色土 粘性有り。硬く締まっている。10~20cm大の礫多く含む。
2. 5YR2/3黒褐色土 粘性。締まり有り。
3. 10YR3/2黒褐色土 粘性。締まり有り。火山礫2~3%含む。
4. 10YR4/4褐色土 粘性弱。やや締まっている。(GYR4/4赤褐色土) 粘土少量含む。
5. 10YR3/2黒褐色土 5YR2/3黒褐色土と混じっている。粘性有り。締まりやや弱。
6. 10YR2/2黒褐色土 粘性。締まり有り。礫土層 (GYR4/4) を多量に含む。
7. 10YR2/2黒褐色土 粘性有り。締まりやや弱。礫土層 (GYR4/4) を多量に含む。
8. 10YR3/2黒褐色土 粘性弱。締まり有り。
9. 10YR3/2黒褐色土 粘性やや弱。硬く締まっている。
10. 10YR2/3黒褐色土 粘性やや弱。硬く締まっている。

第63図 RA408竪穴住居跡

<柱穴>床面及び貼床を除去した段階でも検出されなかった。

<その他>床面直上まで掘り下げた段階で自然礫が検出され図に示したがその性格は不明である。

<遺物> (第173・174・192・194・195・197～199図、写真図版152・153・169・181・184・185) 床面及び埋土から個体数にして土師器坏4～5点・高台付坏3点・鉢1点・甕類2～3点・瓶1点、赤焼き坏2～3点、須恵器坏10～11点・甕3点・大甕1点・壺類1点、鉄製品7点(450・464)、奈良時代の球胴甕? 2点、砥石2点(509・512)、石重1点(514)、土製品(494)、陶器挿鉢(446)が出土している。

234土師器高台付坏はカマド燃焼部内から伏せた状態で見つかった。そのすぐ脇に土師器坏片228があった。229土師器坏や231須恵器坏は床面から破片の状態ですり出している。

<時期>平安時代。

RA411 竪穴住居跡 (第64図、写真図版50)

<位置・重複関係>本遺跡の西側にあたる2-C22d区に位置している。RA412住居及びRD810と重複関係にあり本遺構のほうが新しい。

<規模・形態・方向>北壁-南壁4.5m、東壁-西壁で4.3mを測り、床面積は16.5㎡である。平面形は隅丸方形を呈し主軸方向はN-90°-Eを指す。

<埋土>黒褐色土主体で床面付近には暗褐色砂質土が堆積する。自然堆積と思われる。

<壁>遺構検出面から床面までは23～8cmしかなく残存状況は悪い。

<床面>隙間に達した面を床としているため狭く、貼床は施されていない。

<カマド>東壁の南端に構築されている。本体部は殆ど残存せず南東壁際に燃焼部の焼土が散乱していた。煙道部は掘り込み式か割り貫き式か不明である。煙出し底部が一段深く掘り込まれている。

<柱穴>2基の柱穴を検出したが本遺構に伴うか判然としない。

<遺物> (第175図、写真図版153) 埋土及び床面から土師器坏2点・高台付坏1点・甕類3点・瓶1点、赤焼き坏1～2点、須恵器坏1点・甕類1点が出土した。

246土師器甕はカマド精査中に出土した。244赤焼き坏は西壁際床面から、245土師器高台付坏は北東側の床面から出土している。

<時期>平安時代。

RA413 竪穴住居跡 (第65図、写真図版51)

<位置・重複関係>本遺跡の西側にあたる2-C22gグリッドに位置している。RA412竪穴住居跡と重複関係にあり、本遺構の方が新しい。

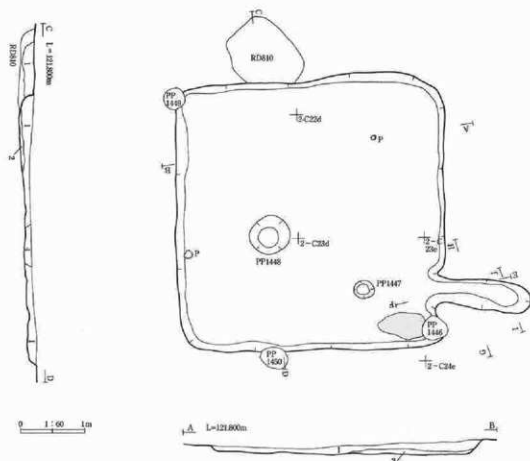
<規模・形態・方向>北壁-南壁が3.5m、東壁-西壁で3.3mを測り、平面形は概ね方形を基調としている。床面積が9.6㎡で主軸方向はN-88°-Wを指す。

<埋土>埋土下位に地山ブロックを微量含む黒褐色土の単層。

<壁>遺構検出面から18～12cm程残存し底面から外傾して立ち上がっている。

<床面>平気で全面を貼床としやや硬く締まる。壁溝は見られなかった。

<カマド>東壁の北側に設置されている。本体部は崩落が著しいが、10～40cmの自然礫を黒褐色土で覆い、側壁と天井を構築していたようである。煙道部は割り貫き式か掘り込み式か不明で、煙出し部の埋土には40

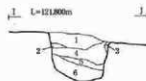


柱穴番号	径 (cm)	深さ (cm)	備考
1447	32×29	174	
1448	65×64	279	

RA411 A-H・C-D

1. 10YR2/3暗褐色土 小礫少量含む。
粘性、締まりやや有り。
2. 10YR3/3暗褐色砂質土 小礫少量含む。
粘性弱、締まりやや有り。

3. 5YR2/6暗赤褐色土 粘性弱、締まりやや有り。
4. 10YR2/3暗褐色土 地山ブロック微量含む、粘性やや有り、締まり弱。



- RA411 E-F・G-H・I-J
1. 10YR2/3暗褐色土 焼土粒微量含む。
粘性、締まりやや有り。
 2. 2.5YR2/6暗褐色土 焼土粒少量含む。
粘性、締まりやや有り。
 3. 10YR3/3暗褐色土 焼土粒少量含む。
粘性、締まりやや有り。
 4. 10YR2/3暗褐色土 細小礫微量含む。
粘性やや有り、締まっている。

5. 10YR2/3暗褐色土 細小礫微量含む。
粘性やや有り、締まっている。
6. 10YR2/3暗褐色土 粘性やや有り、締まっている。
7. 10YR2/3暗褐色土 地山ブロック微量含む、粘性やや有り、締まっている。

0 1:30 50cm

第64図 RA411竪穴住居跡

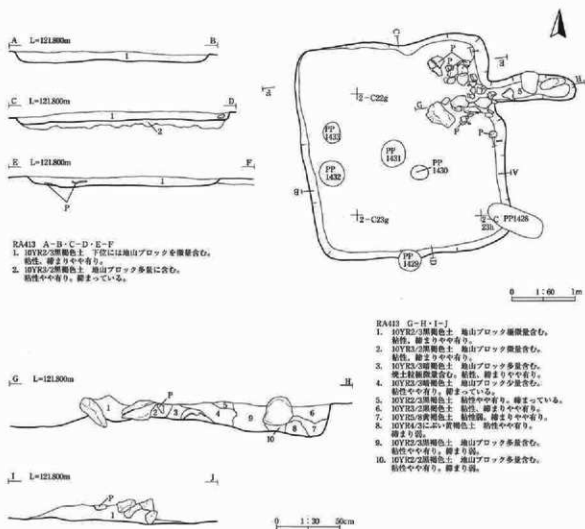
cm程の河原石が含まれていた。

<柱穴>本遺構に伴う柱穴は検出されなかった。

<遺物> (第175・176・195図、写真図版154・155・170・181) 埋土及び床面等から個体数にして土師器坏1~2点・甕2~3点、赤焼き坏4~5点・甕4~5点、須恵器坏1片・甕2点、鉄器2点(458ほか1点)が出土している。

煙道部埋土からは256土師器甕のほか土師器坏247や土師器高台付坏253などが出土した。カマドからは多数の礫と共に床面及び床面直上から254赤焼き高台付坏、258・260・261赤焼き甕、262須恵器甕などが散乱した状態で出土している。

<時期>平安時代。



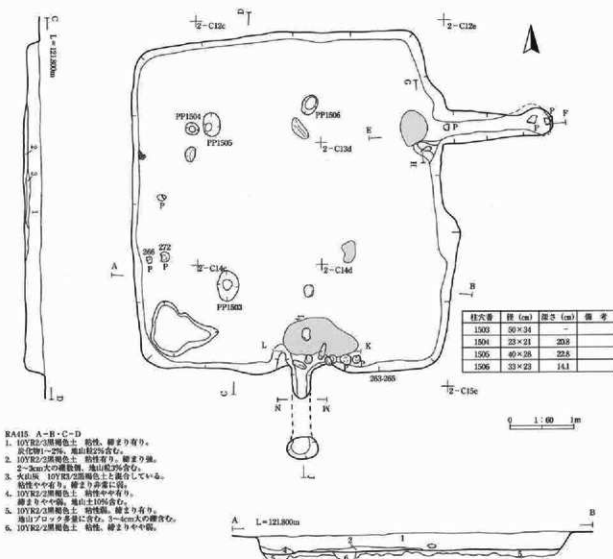
第65図 RA413竪穴住居跡

RA415 竪穴住居跡 (第66・67図、写真図版52)

<位置・重複関係>本遺跡の西側、2-C12c区に位置している。RA416竪穴住居跡と重複関係にあり、本遺構の報が新しい。またRA419竪穴住居跡とも南側のカマドの煙出部が重複しているが、新旧関係は把握できなかった。

<規模・形態・方向>東辺5.5m、西辺5.2m、南辺4.8m、北辺4.6mを測り、隅丸長方形のプランを呈する。床面積は約242㎡、主軸方向はS-3°-E-N-85°-Eである。

<埋土>自然堆積の様相を呈する。黒褐色土を主体とし、床面からやや浮いた所に十和田a火山灰ブロック



第66図 RA415竪穴住居跡(1)

RA415 E-F-G-II
 1. 10YR2/3黒褐色土 粘性弱、
 固く締まっている。
 焼土粒を含む。

2. 10YR2/3黒褐色土 多量の焼土
 (5YR4/6)と混合している。
 粘性、締まり有り、灰少量含む。

3. 7.5YR3/4暗褐色土(焼土)
 粘性、締まり有り。

4. 10Y2/2黒褐色土 粘性やや弱。
 固く締まっている。
 5YR4/6赤褐色ブロッカ(焼土)
 5%含む。

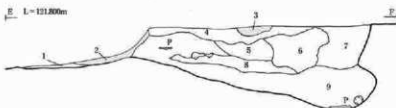
5. 10YR2/3黒褐色土 粘性、締まりやや弱。
 焼土粒微量含む。

6. 7.5YR3/4暗褐色土 粘性、締まり有り。

7. 7.5YR3/4暗褐色土(焼土) 10%含む。

8. 7.5YR2/2黒褐色土 粘性有り、締まりやや弱。

9. 7.5YR2/2黒褐色土 焼土粒微量含む、粘性有り。
 締まりやや弱。



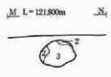
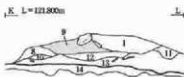
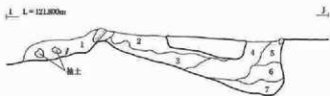
10. 10YR2/3黒褐色土 粘性弱、締まり有り。
 灰、焼土粒微量含む。

11. 7.5YR2/2黒褐色土 粘性やや弱、締まり有り。

12. 10YR2/3黒褐色土 粘性弱、締まり有り。

13. 10YR2/3黒褐色土 粘性弱、締まり有り。

14. 10YR2/3黒褐色土 粘性弱、締まりやや弱。
 焼土土多量に含む。



RA415 I-J-K-L-M-N

1. 10YR2/3黒褐色土 粘性やや弱、固く締まっている。
 (オマドの焼土をブロッカ状に含む)

2. 10YR2/3黒褐色土 粘性、締まり有り。

3. 10YR2/3黒褐色土 粘性、締まり有り。

4. 10YR2/3黒褐色土 粘性、締まり有り。

5. 10YR2/3黒褐色土 粘性、締まり有り。

6. 10YR2/3黒褐色土 粘性、締まり有り。

7. 10YR2/3黒褐色土 粘性、締まり有り。

8. 10YR2/3黒褐色土 粘性やや弱、締まり有り。

焼土粒5%含む。

9. 10YR2/3黒褐色土 粘性、締まり弱。

焼土粒(5YR4/6)多量に含む。

(オマドの焼土と混合している)

10. 焼土粒焼山上(10YR4/6)と灰の混合土、粘性弱。

やや締まっている。

11. 焼山上(10YR4/6)焼土粒微量含む、粘性弱。

やや締まり有り。

12. 10YR2/3黒褐色土 粘性、締まり有り。

焼土、焼土土多量に含む。

13. 10YR2/3黒褐色土 粘性、締まり有り。

焼土粒少量、焼土土20%含む。

14. 10YR2/2黒褐色土と焼土土の混合土 粘性、締まり有り。

0 1:30 50cm

第67図 RA415竪穴住居跡(2)

が見られる。

<壁>概ね底面から外傾して立ち上がっている。各壁中央部の壁の残存値は東壁30cm、西壁29cm、南壁20cm、北壁30cmである。

<床面>ほぼ平坦に構築され、全面に3～12cm程の掘り方を持ち黄褐色土と暗褐色土を主体として貼床されている。

<カマド>2基のカマドを確認した。

1号カマド：東壁の中央からやや北側に設置されており全体的に残存状況は良くない。燃焼部の焼上は60×43cmの広がりを持ち、層厚は2～7cmを測る。南側の袖部は自然礫を芯材に用い、黒褐色土で覆って構築しているが北側は失われている。煙道部は割り貫き式か掘り込み式か不明である。燃焼部から煙出し底部へ緩やかに下がっており、底部は船首状に反り返っている。

2号カマド：南壁のほぼ中央に設置されている。本体部文の残りは良くない。燃焼部の焼上は120×64cmの広がりを持ち、層厚は2～12cmを測る。東袖部付近からは芯材に用いられていたと見られる自然礫が4個検出された。煙道部は割り貫き式で燃焼部から煙出し底部へは緩やかに下がっている。

<柱穴>貼床を除去する段階で4基の柱穴を確認した。PP1503とPP1505は位置的に主柱穴の可能性もあるが、対応するであろう地点から柱穴は検出されなかった。

<その他>南西壁隅に掘り込みを確認したが、詳細は不明である。

<遺物>（第177・178図、写真図版155～157・170）埋土中及び床面から個体数にして土師器9～10点、高台付坏1点、甕7点、赤焼坏11～13点、甕1～2点、須恵器坏10～11点、甕類1～2点、甍類1点が出土している。

南カマドの東袖端に並んで土師器坏263～265が出土した。南カマドからはこの他に270赤焼き坏、271須恵器坏、283須恵器壺が出土している。東カマドの煙出部埋土からは土師器甍274～277が出土した。266土師器坏と272須恵器坏は並んだ状態で西壁際床面から出土している。

<時期>平安時代。

RA419 壁穴住居跡（第68図、写真図版53）

<位置・重複関係>本遺跡の西側、2-C16cグリッドに位置している。RA418壁穴住居跡と重複関係にあり本遺構の方が新しい。

<規模・形態・方向>北東壁・南西壁が5.1m、北西壁・南東壁では4.3mを測り、平面形は長方形を基調としている。床面積は20.2㎡で主軸方向はN-67°-Wとなる。

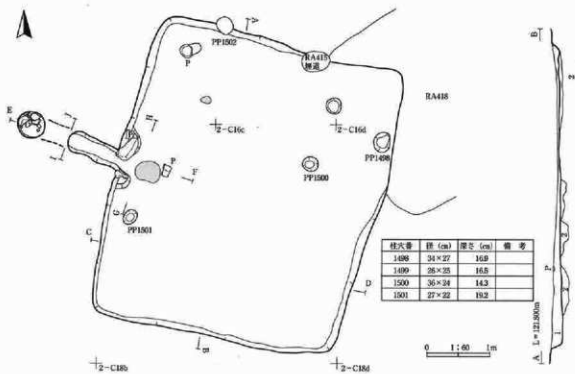
<埋土>黒褐色土の単層で自然堆積でよいと思われる。

<壁>遺構検出面からの残存値は16～6cmでRA418との重複部分は壁が立ち上がらない。壁は概ね底面から外傾して立ち上がっているが、北西壁ではやや垂直気味に立ち上がっている。

<床面>平坦で硬く全面を貼床としていた。壁溝は検出されなかった。

<カマド>北西壁の中央やや南側に設置されている。本体部の残りは悪いが袖部は河原石を芯材としそれを土で覆って構築されていたようである。燃焼部から焚き口部分に相当するところに45×35cmの範囲で焼土が確認された。煙道部は割り貫き式で煙出し底部からややあがったところには10数個の河原石がまとまって入っていた。

<柱穴>5基の柱穴を検出したが、不規則な配置を呈している。



RA419 A-B・C-D

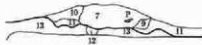
- 10YR2/3黒褐色土 粘性やや有り。締まりやや弱。
- 10YR2/3黒褐色土 粘性やや有り。固く締まっている。地山土 (10YR4/6褐色土) 50%程と混合している。(地山)



RA419 E-F・G-H・I-J

- 10YR2/3黒褐色土 粘性やや有り。地山土少量。灰炭混入。
- 10YR2/3黒褐色土 粘性有り。締まりやや弱。焼土殻。灰少量含む。
- 10YR2/3黒褐色土 粘性有り。締まりやや弱。こぶし土の層多量に含む。
- 5YR3/4暗赤褐色 (地土) 粘性。締まり有り。
- 10YR2/3黒褐色土 粘性。締まり有り。地山土。焼土混入含む。
- 10YR2/3黒褐色土と地山土との混合土 粘性。締まり有り。焼土混入含む。
- 10YR2/3黒褐色土 粘性。締まり有り。焼土 (5YR3/4) 5%程。地山土多量含む。
- 10YR2/3黒褐色土 粘性。締まり有り。焼土土10%程多量に含む。
- 10YR2/3黒褐色土 粘性。締まり有り。地山土多く含む。

G L=121.700m



- 10YR2/3黒褐色土 粘性弱。固く締まる。地山土。焼土少量含む。
- 10YR2/3黒褐色土 粘性弱。締まり有り。地土少量。地山土ブロック多量含む。
- 5YR4/6暗赤褐色砂質土 粘性弱。締まり有り。
- 10YR4/6褐色砂質土 粘性弱。締まり有り。10YR2/3黒褐色土少量含む。

H L=121.700m



第68図 RA419竪穴住居跡

<その他>北側の床面直上付近に小規模な焼土の広がりが見られた。

<遺物> (第179図、写真図版157・170・171) 埴土及び床面等から個体数にして土師器坏4～5点・鉢1点・甕2点、赤焼き坏2～3点、須恵器坏4点・甕1～2点・壺? 1点が出土している。

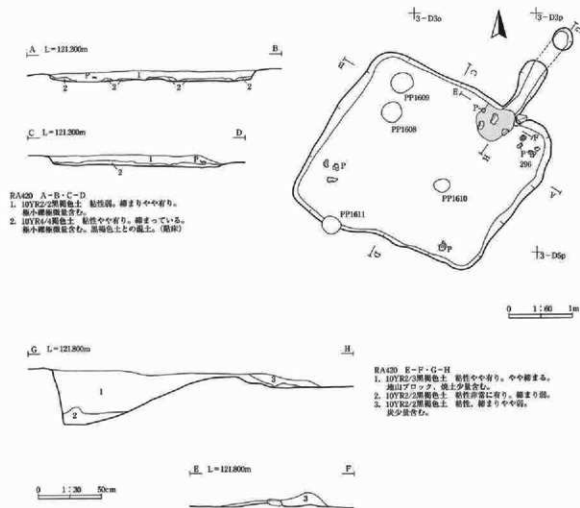
288土師器甕は北壁際床面からほぼ完形のまま傾いた状態で出土した。カマドでは焼き口部から土師器甕287が、袖部からは須恵器甕291が出土している。

<時期>平安時代。

RA420 竪穴住居跡 (第69図、写真図版54)

<位置・重複関係>遺跡西側の3-D4のグリッドに位置している。RA407とは重複関係にあり本遺構のほうが新しい。

<規模・形態・方向>北東壁-南西壁が3.1m、北西壁-南東壁では3.3mを測り南東壁がやや歪な隅丸長方



第69図 RA420竪穴住居跡

形を測る。床面積は8.5㎡で主軸方向はN-36°-Eである。

<埋土> 極小礫を微量含む黒褐色土の単層で自然堆積である。

<壁> 遺構検出面からは20~10cm程しか残っていない。何れも底面から外傾して立ち上がっており、壁溝は認められなかった。

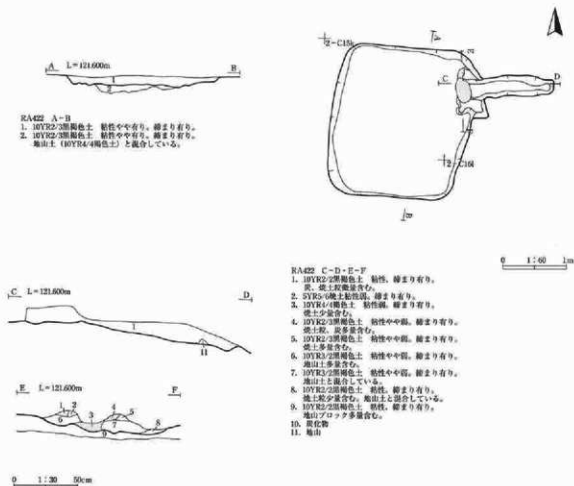
<床面> 概ね平坦に構築されている。貼床にはしていないようである。

<カマド> 北東壁の東端付近に設置されている。本体部の残りが悪く詳細な規模は把握できないが燃焼部付近に焼土と共に自然礫が幾つか残っていることから、個壁をこれらの礫と黄褐色土等で構築していたであろう。煙道部は地山をトンネル状に削り貫いてつくられており、燃焼部から急角度で煙出し底部へと掘り込まれている。

<柱穴> 床面を中心に4基の柱穴を検出したが本遺構より新しい柱穴と判断した。

<遺物> (第180・199図、写真図版157・171・185) 埋土及び床面等から個体数にして土師器環2点・甕2点、赤焼き環1点、須恵器環3~4点・甕1~2点、台石1点(515)が出土した。カマド東脇の床面からは296土師器甕が出土し、南西及び西側壁近くの床面からは295甕と293赤焼き環が出土している。

<時期> 平安時代。



第70図 RA422壁穴住居跡

RA422 竪穴住居跡 (第70図、写真図版55)

<位置・重複関係>遺跡西部にあたる2-C15kグリッドに位置している。RG325溝跡に煙出し部分を切られている。

<規模・形態・方向>東壁-西壁が2.3m、北壁-南壁では2.5mを測り平面プランは隅丸方形を基調としている。床面積は4.7㎡で主軸方向はN-89°-Eである。

<埋土>黒褐色土の単層。自然堆積でよいと思われる。

<壁>遺構検出面から床面まで8~15cm程しか残っていない。壁構は持たないようである。

<床面>やや凹凸が認められた。壁に近い場所を除いて貼床としている。

<カマド>東壁の北端に設置されている。カマド本体の側壁を見ると黒褐色土を中心に構築されているように、側壁の内側と燃焼部底面は被熱により赤変している。煙道及び煙出し部は残りが悪いが、本体部から緩やかな傾斜を持って掘り下げられている。

<柱穴>貼床を除去して探したが検出されなかった。

<遺物> (第196図、写真図版182) 478宛永通寶が出土した。

<時期>周囲の遺構分布状況から平安時代と思われる。

RA423 竪穴住居跡 (第71図、写真図版56)

<位置・重複関係>南西調査区の北西隅、4-C6kグリッド付近に独立して位置する。IV層の上面から検出された。

<規模・平面形・方向>3.5×3.3mで、床面積は約10.5㎡、平面形はほぼ隅丸の正方形を呈し、主軸方向は、N-15° Wでほぼ真北を示している。

<埋土>自然堆積で、黒褐色のシルトが主体を占め、一部に後世の擾乱(杖の跡)が見られる。

<壁>上面が全体的に削平を受けていると思われるが、残存する壁高は10~12cmで、床面から急な傾斜で立ち上がる形態を示している。壁溝は検出されていない。

<床面>黒褐色土が主体となり、全体的に平坦で堅く締まっている。貼り床はほぼ全体に施されており、層は厚いところで12cm、薄いところでは殆ど見られないところもある。全体に褐色土と水酸化鉄のブロックを少量含んでいる。

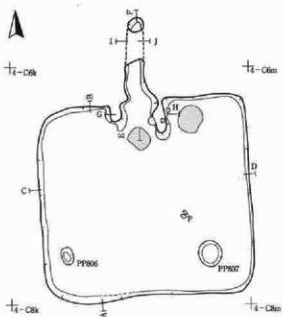
<カマド>北側のほぼ中央部に位置している。カマドの焚き口、および右側袖の蓋に焼土が分布し、合わせて右側袖の上面には、土師器片と12cm火の隙が分布している。袖部分は黒褐色のシルトが主体で、一部地山を削りだして形成されているものと思われる。煙道は削り抜かれ、焚き口から煙出しへ一度落ち込んで立ち上がる構造となっており、煙出しは、径26×22cm・深さ45.6cmの円形土坑の形態を示している。

<柱穴>南側の隅に2基の柱穴状土坑が存在するが、南西側のPP806 (径28×18cm、深さ13.7cm)、南東側のPP807 (径44×38cm、深さ13.8cm) は、主柱穴の一部を形成しているものと推定される。これらの埋土は、黒褐色を主体とするシルトで構成され、堅く締まっていた。

<出土遺物> (第180図、写真図版158・171) 埋土及び床面から個体数にして土師器環1点、赤焼き環1点、須恵器甕1点が出土している

床面の中央付近から、300須恵器の甕(体部片)および、298土師器の環(底部)が出土している。カマド東側部からは299赤焼き環が出土している。

<時期> 床面から出土した出土遺物等から、平安時代の遺構と推定される。



柱穴番号	径 (cm)	深さ (cm)	備考
806	28×18	13.7	
807	44×30	13.8	

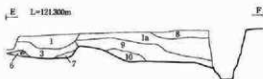
RA423 G-H

1. 10YR2/3黄褐色土 シルト 粘性中、締まりやや弱。焼土粒2%、炭化物1%混入。
2. 10YR4/4黄褐色土 シルト 粘性中、締まりやや密。褐色土20%混入。
3. 10YR2/3黄褐色土 シルト 粘性中、締まりやや密。焼土粒20%、炭化物1%混入。
4. 10YR4/4褐色土 シルト 粘性中、締まりやや密。褐色土 (10YR4/6) 20%混入。
5. 10YR2/3黄褐色土 シルト 粘性中、締まりやや密。褐色土 (10YR4/6) 2%混入。
6. 10YR2/2黑褐色土 粘性、締まり有り。炭、焼土较多く含む。
7. 10YR2/3黄褐色土 粘性、締まり有り。10YR2/2黑褐色土と混入している。
8. 10YR4/4褐色砂質土 粘性弱、締まりやや有り。木炭(炭)粒少量含む。
9. 10YR2/2黑褐色土 (やや砂) (F) 粘性、締まり弱。
10. 10YR2/2黑褐色砂質土 粘性弱、やや締まる。焼土5%。



RA423 A-B・C-D

1. 10YR2/2黄褐色土 シルト 10YR5/6黄褐色~4/6褐色シルト中ブロック10%含む。
2. 10YR2/4黄褐色土 シルト 粘性やや有り。10YR5/6黄褐色シルト大ブロック40%含む。
3. 10YR2/3黄褐色土 粘性、締まり有り。木炭(炭)粒少量含む。10YR4/4褐色土ブロック少量含む。焼土。
4. 10YR4/4褐色土 粘性、締まり有り。木炭(炭)粒多量含む。焼土。



0 1:30 90cm

RA423 E-F・I-J

1. 10YR2/3黄褐色シルト 粘性中、締まりや 7. 10YR4/3に多い黄褐色土 シルト 粘性中、やや密。焼土粒1%混入。締まり中。焼土粒2%、炭化物1%混入。炭化物3%混入。
- 1a. 10YR3/3黄褐色土 シルト 粘性中、締まり 8. 10YR4/4褐色土 シルト 粘性中、締まり有り。褐色土2%混入。褐色土 (10YR4/6) 20%混入。
3. 10YR2/3黄褐色土 シルト 粘性中、締ま 9. 10YR3/4黄褐色土 シルト 粘性中、締まり中。焼土粒20%、炭化物1%混入。褐色土 (10YR4/6) 2%混入。
6. 10YR4/3に多い黄褐色土 シルト 粘性中、 10. 10YR4/2に多い黄褐色土 シルト 粘性中、締まり中。褐色土 (10YR4/6) 中ブロック混入。焼土粒10%混入。

第71図 RA423竪穴住居跡

RA424 竪穴住居跡 (第72図、写真図版57)

<位置・重複関係> 南西調査区のほぼ中央、4-C17q グリッド付近に独立して位置する。IV層の上から検出された。

<規模・平面形・方向> 3.2×3.1mで、床面積は約9.4㎡、平面形は正方形に近い隅丸方形の形態を呈し、主軸方向は、N-70°-Wを示している。

<埋上> 自然準積で、黒褐色土が主体を占める。

<壁> 壁高は33~35cmで、床面からはほぼ垂直に立ち上がる形態を示している。壁澤は検出されていない。

<床面> 黒褐色土が主体となり、全体的に平坦で堅く締まっている。貼り床はほぼ全体に施されており、層は厚いところで10cm、薄いところでは殆ど見られないところもある。黒褐色土が主体となり、地山のブロックを含んでいる。

<カマド> 西隔壁のほぼ中央部に位置している。カマドの焚き口と左袖部分、および住居北西隅の床面に焼土が、焚き口の手前には炭化物がそれぞれ分布する。焚き口の中央には、土師器片と焼けた痕跡が残った径10cm程度の礎が、左袖の上面からは土師器片が出土した。袖部分は黒褐色土が主体で、一部地山を削りだして形成されているものと思われる。煙道は整った円形に削り抜かれ、焚き口から煙出しへ一度落ち込んで立ち上がる構造となっており、煙出しは、径46×43cm・深さ42.3cmの円形土坑の形態を示している。煙出しの底部には、大小2個の自然石が出土している。

この住居は、カマドの残りが比較的良好であったため、調査終了直前に開催された現地説明会において、カマドの復元を行った。復元した状態については写真図版を参照して頂きたい。

<柱穴> 北西隅のPP963、南東隅のPP966は、ともに主柱穴を形成しているものと推定される。

カマド正面に近いPP964と、東壁中央付近のPP965は、その配置から、主柱穴を形成しないものと考えられる。

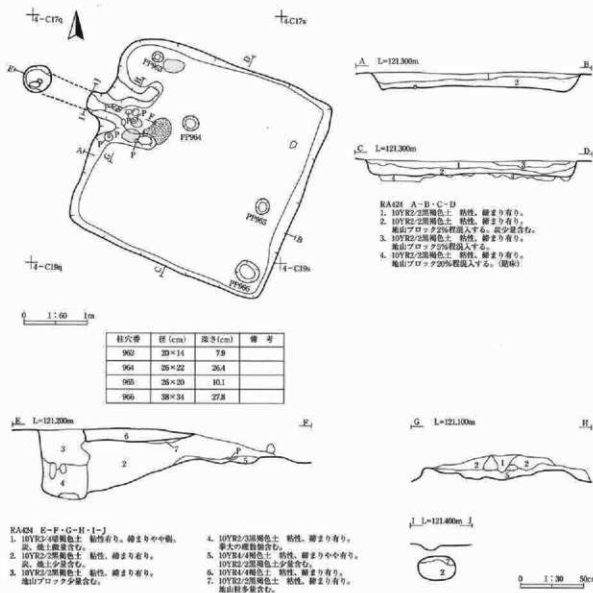
<その他> 周囲には竪穴住居跡は存在せず、この住居跡は他と独立した状態で立地している。この遺構の北東隅区域や貼り床を剥がした床面、および柱穴を掘り上げた箇所においては、少量の降雨でも浸水し、水はけが良くない状況であった。このようなことからみて、おそらく当時も居住するには難儀な区域であったのかもしれない。

<出土遺物> (第180・181図、写真図版158・159・171) 埋上及び床面から個体数にして土師器杯4点、赤焼き杯3点、須恵器杯2点・甕2点が出土している。

埋上内から、土師器と須恵器の杯、および須恵器の甕の一部が出土している。

カマド燃焼部から302土師器杯が伏せた状態で、304赤焼き杯・306須恵器杯や307須恵器甕は破片の状態でも出土した。303土師器杯は南袖の上から伏せた状態で出土している。301土師器杯は東壁近くの床面付近から出土した。

<時期> 出土遺物等から、平安時代の遺構と推定される。



第72図 RA424竪穴住居跡

RA425 竪穴住居跡 (第73図、写真図版59)

<位置・重複関係>南西調査区の南西隅、5-C11 j グリッド付近に位置する。IV層の上面から検出された。方形周溝 R Z 027 と重複しているが、埋土の堆積状況等から、当該竪穴住居跡の方が、より以前に造られたものと思われる。

<規模・平面形・方向>2.5×2.4mで、床面積は5.8㎡、平面形は正方形に近い隅丸方形の形態を呈し、主軸方向は、S-80°-Eを示している。

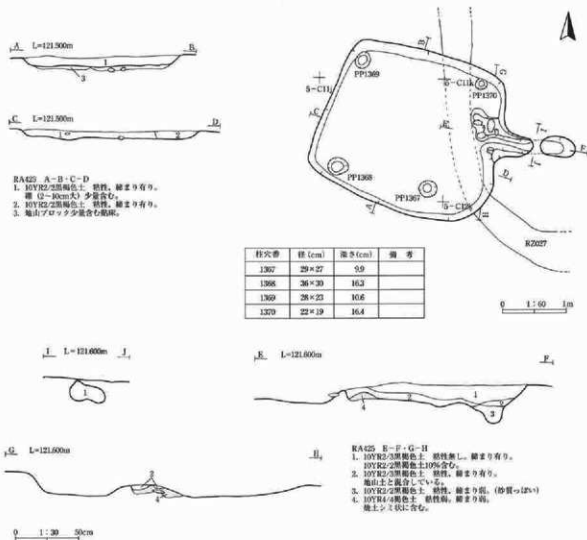
<埋土>自然堆積で、黒褐色土が主体となっており、埋土の断面から、東側のカマド手前付近を南北方向に方形周溝のR Z027が切っている。

<壁>底面からやや緩やかな傾斜で立ち上がっている。壁高は10~15cmを示す。壁溝は検出されていない。

<床面>黒褐色土が主体となり、全体的に平坦で、堅く締まっている。貼り床は、ほぼ全体に施されており、10cm程度の厚さを持つ部分がある一方で、薄いところでは、殆ど見られないところもある。黒褐色土が主体となり、地山のブロックを含んでいる。

<カマド>東壁のほぼ中央部に位置している。カマドの焚き口、および袖の部分から、芯材に使われていたと思われる小径の礎数点と、径20cm程度の礎が3個出土した。袖部分は黒褐色土が主体で、一部地山を削りだして形成されているものと思われる。

煙道は削り抜き式と思われるが、全体の上部層が後年の耕作により削平を受けているため、推定すること



第73図 RA425竪穴住居跡

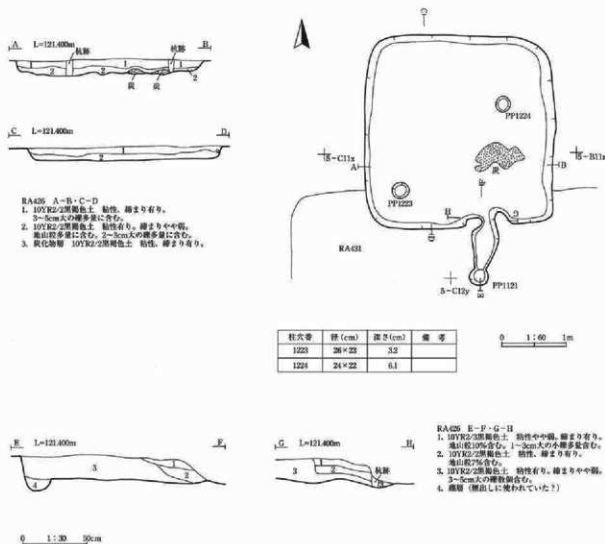
どまる。吹き口から煙出しへは、緩やかに一度落ち込んで立ち上がる構造となっており、煙出しは、径43×32cm・深さ33.2cmの楕円形土坑の形態を呈している。煙出し部分は、隣接する方形周溝R Z 027の、内部に広がる柱穴群の一部（PP1788）と重複していることも考えられる。

<柱穴>遺構内床面の四隅に、4基の主柱穴（南東隅P P 1367）（南西隅P P 1368）（北西隅P P 1369）（北東隅P P 1370）と思われる遺構が存在する。埋土は黒褐色土が主体で、堅く締まっていた。

<その他>当該遺構の東壁部分をR Z 027方形周溝と重複しているが、埋土の堆積状況から、当該遺構が廃棄された後に、重複して周溝が形成されたようである。

<出土遺物>出土していない。

<時期>出土遺物はないものの、近隣の竪穴住居跡（平安時代）と類似する点が多いことから、平安時代の遺構と推定している。



第74図 RA426竪穴住居跡

RA426 竪穴住居跡 (第74図、写真図版60・65)

<位置・重複関係> 南西調査区の南東隅、5-C10xグリッド付近に位置する。IV層の上面から検出された。RA431と重複しているが、検出時と埋土の状況から、当該竪穴住居跡の方が、より後の時代に造られたものと思われる。また、中世の掘立柱建物跡R B038とも重複している。

<規模・平面形・方向> 2.9×2.8mで、床面積は約7.5㎡、平面形は正方形に近い隅丸方形の形態を呈し、主軸方向はS-2°-Wをがしている。

<埋土> 自然堆積と思われる、黒褐色土が主体を占めるが、全体に径3~5cmの礫を、特に下層では多量の地山粒と径2~3cmの小礫が、ともに多く含まれている。

<壁> 底面からほぼ垂直に立ち上がり、壁高は17~19cm程度である。壁溝は検出されていない。

<床面> 床面南側に若干の凹凸が確認できるが、全体的にはほぼ平坦である。貼り床は確認できなかったものの、床面の南東隅に炭化物が分布している。

<カマド> 南壁のやや東寄りに位置している。黒褐色土が主体となり、重複するRA431の埋土を削りだして形成されたものと推定している。袖部分の上位は、径1~3cmの多量の小礫と少量の地山粒を含み、また下位には、径3~5cmの礫の分布が見られる。煙道は、例り抜き式であったと思われるが、遺構全体が後年の激しい削平を受けているため、又上部は残されておらず詳細は不明である。煙出しは、径30×28cm・深さ28cm程掘り込まれているが、掘立柱建物跡R B038の一部となるPP1121と重複しているため、原型をとどめていない可能性が高い。

<柱穴> 南西隅の柱穴 (PP1223) と北東隅の柱穴 (PP1224) は、その配列から主柱穴となりうるものと考えられる。その他の柱穴については、中世の掘立柱建物跡R B038の一部をなすものである。

<その他> RA431と重複しているが、両遺構を検出した時点において、当該遺構の煙道やカマドを含めたプランが揃ったことから、RA431が廃棄された後に構築されたものと思われる。

<出土遺物> 出土していない。

<時期> 出土遺物はないが、近隣の竪穴住居跡 (平安時代) と類似する点が多いことから、平安時代の遺構と推定している。

RA427 竪穴住居跡 (第75図、写真図版61)

<位置・重複関係> 南西調査区の北西隅、4-C16kグリッド付近に位置する。全体の3分の1程度が調査区域外へ延びているため、カマドを含めた全体像はつかめない。IV層上面から検出された。

<規模・平面形・方向> 2.6×(2.3:残存値)m、床面積は約6㎡で、平面形は隅丸方形を呈するものと推定されるが、南西隅の部分、およびカマドを含めた西壁全体が調査区外へかかっているため、全容は不明である。主軸方向は定かでないが、W-15°-Nを示すものと思われる。

<埋土> 自然堆積で、黒褐色土が主体である。

<壁> 壁高は15~25cmで、壁は緩やかに立ち上がる形状である。壁溝は検出されていない。

<床面> 全体がほぼ平坦で堅く締まっており、層の厚さが5~15cmの黒褐色土を主体とする、地山と水酸化鉄のブロックを全体に含んだ貼り床が施されていた。

<カマド> 調査区外に延びているものと思われる、今回の調査では検出されていない。

<柱穴> 南東隅の床面に、主柱穴の一部と思われるPP932が検出されている。径は34×32cm、深さは7.6cmであり、埋土は黒褐色土が主体で、やや堅く締まっていた。

<その他>南東側に、R G326が隣接して位置するものの、当該遺構とは関連しないものと思われる。
 <出土遺物> (第181図、写真図版159) 須恵器の帯の底部 (309) が出土したのみである。
 <時期>出土遺物等から、平安時代の遺構と推定される。

RA429 竪穴住居跡 (第76図、写真図版62)

<位置・重複関係>南西調査区の南東端、5-B14cグリッド付近に位置し、掘立柱建物跡のRB039と重複している。南西側部分には、張り出しのような部分が存在するが、建て替えによる過去の痕跡である可能性もある。遺構は表土の削平が著しいため、IV層の上面～下面において検出されている。

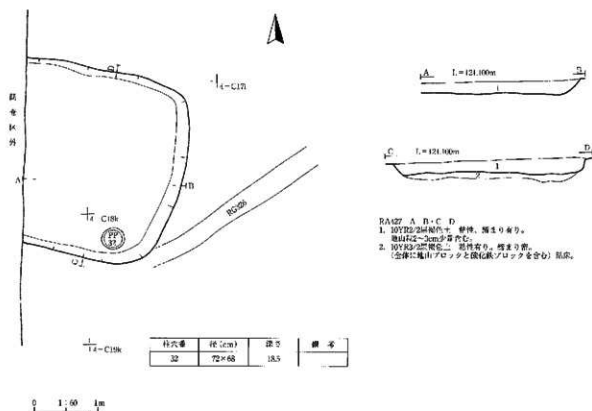
<規模・平面形・方向>4.1×3.0mの隅丸方形を呈し、2.7×1.0mの長方形をした、床面より一段高い段状の張り出し部分が南西隅に付随しており、床面積は約14.6㎡である。主軸方向は、N-55°-Eを示している。

<埋土>自然堆積で、黒色土が主体を占めている。南西側の壁面に、暗褐色細砂で構成される約1mの幅を持った床面よりやや高い段差が存在するが、この段状の部分に堆積していた埋土との相違は見られない。

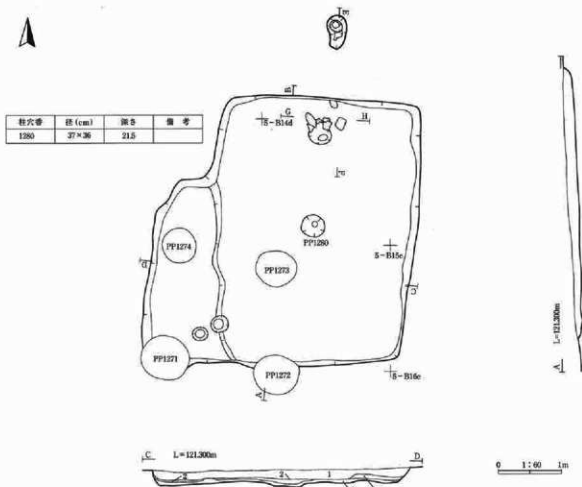
<壁>壁高は10~17cmで、壁は緩やかに立ち上がる形状を示している。壁溝は検出されていない。

<床面>全体がほぼ平坦で堅く締まっている。1層の埋土下位には、締まった暗褐色の細砂層が分布しており、貼り床は見られない。細砂層のすぐ下には、径2~10cmの礫層が分布している。

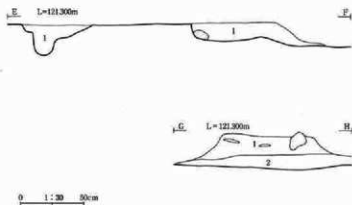
<カマド>北壁のほぼ中央部に位置しており、カマドの焚き口、および抽らしき部分から、芯材の一部と思われる焼けた炭跡のある比較的人径の礫が出土している。僅かに残る軸の部分には、少量の炭化物を含んだ黒



第75図 RA427竪穴住居跡



- RA429 A-B・C-D
1. 10YR2/1黒色土 締まりのや密、粘性やや有り。
 2. 10YR3/4黄褐色面砂 粘付きし、締まり密、(2層の下層に径2-10cmの礫層が分布する)
 3. 10YR2/1黒色土 締まりのや密、粘性やや有り。



- RA429 E-F・G-H
1. 10YR2/2黒棕色土 粘付き有り、締まりのや密、(全体に少量の炭化物を含む)
 2. 10YR2/2黒棕色土、粘付き有り、締まりのや密、(全体に少量の炭化物と黒山アロックを含む)

第76図 RA429竪穴住居跡

褐色土が主体となり、一部地山を削りだして形成されたものと推定している。煙道は、遺構全体が後年の激しい削平を受けているため、残されておらず詳細は不明である。煙出しは、径53×32cm・深さ22.7cmの楕円形に掘り込まれ、底部のみ残存したものと推定される。

<柱穴>遺構の中央、および張り出し部分との境界付近に2基存在しているが、主柱穴は形成しないものと思われる。

<その他>南西隅に、段状に張り出した部分が存在するが、建て替えもしくは何らかの目的のもとに構築されたものと思われるが、詳細は不明である。

<出土遺物> (第181・194図、写真図版159・171・181) 埴土及び床面から個体数にして土師器杯1点・甕3～4点、赤焼き杯5点・甕1点、須恵器杯1～2点・甕1～2点、鉄器1点(451)が出土した。その中から310赤焼き高台付杯、311須恵器甕を掲載した。

<時期>出土した遺物等から、平安時代の遺構と推定される。

RA430 竪穴住居跡 (第77・78図、写真図版63・64)

<位置・重複関係>南西調査区の南東端、5-B7dグリッド付近に独立して位置し、遺構は表土の削平が著しいこともあり、IV層上面～下面において検出されている。

<規模・平面形・方向>7.2×7.0mの正方形に近い隅丸方形を呈し、床面積は約50.4㎡、主軸方向は、南カマドがS-2°-W、西カマドがN-86°-Wを示している。

<埋土>自然堆積で、黒褐色土が主体を占めるが、後年の耕作による上部層の削平により埴土が薄く、貼り床である可能性も考えられる。

<壁>埴土が全体的に薄く、特に北側の削平が著しいため詳細はつかみにくいが、緩やかに立ち上がる形状を示している。壁溝は検出されていない。

<床面>床を検出した時点で、全体に黒褐色・褐色の細砂が、径3～5cmの礫を全域に含む状態で現れた。砂礫が多いため、貼り床なしでの居住は困難であったと思われ、検出時点での埋土部分が貼り床であることも考えられる。

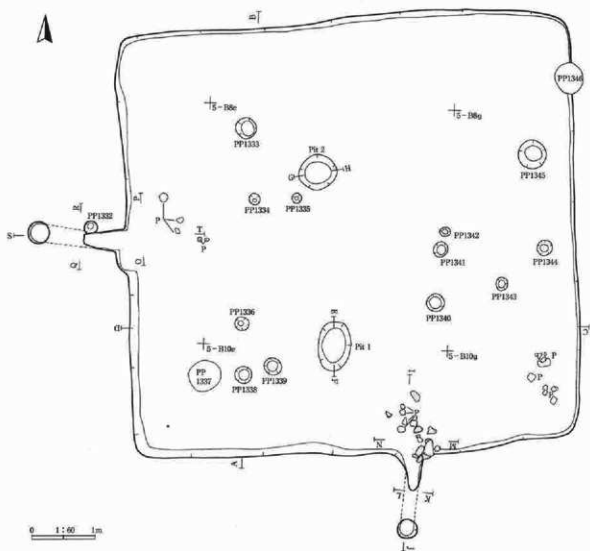
<カマド>西と南から2基検出されている。

(西カマド) 西壁のはほぼ中央部に位置しており、カマドの両袖部分から、芯材に使われていたと思われる、焼けた痕跡のある礫が少量出土している。カマドは黒褐色土が主体となり、一部地山を削りだして形成されたものと推定している。

煙道は整った円形に削り抜かれ、焚き口から煙出しへ一度落ち込んで立ち上がる構造となっており、煙出しは、径37×36cm・深さ35cmの円形に掘り込まれている。煙道部で切り合うPP1332は後年のもので、当該住居跡との関連はないと思われる。

(南カマド) 南壁のやや東寄りに位置しており、カマドの両袖部分から、芯材に使われていたと思われる焼けた痕跡のある礫と、多数の土師器片が出土した。カマドは黒褐色土と暗褐色土が主体となり、一部地山を削りだして形成されたものと推定している。煙道は整った円形に削り抜かれ、焚き口から煙出しへ一度落ち込んで立ち上がる構造となっており、煙出しは径32×30cm・深さ37cmの円形土坑の形態を示している。煙出しの内部からは、径10～15cmの大きな礫が数点出土している。

<柱穴>床面部分に14基の柱穴が存在するが、規則性は見られず、いずれも当該住居跡に係わる主柱穴であ



RA430 A-B
 1. 10YR2/3弱褐色土 粘性有り、締まり密。
 (下部に鉄粒(3-5cm)の塊を含む)
 2. 10YR2/3弱褐色細砂 粘性無し、締まりやや密。
 (全体に鉄粒(3-5cm)の塊を多量に含む)



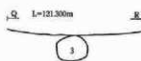
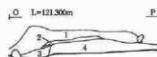
RA430 C-D
 1. 10YR2/3弱褐色土 粘性やや有、締まり有、2層のプロックを少量含む。
 2. 10YR4/6褐色 細砂、粘性弱、しまりやや有。
 3. 10YR2/3弱褐色土 粘性、締まりやや有、全体に炭化物と少量の礫山プロックを含む。

第77図 RA430竪穴住居跡(1)



RA430M-N-O-P-K-L

1. 10YR2/3黒褐色土 粘性・締まり有。
2. 10YR2/3黒褐色土 全体に粘土粒を少量含む。粘性・締まりやや有。
3. 10YR2/3黒褐色土 部分的に粘土粒を含む。粘性・締まりやや有。
4. 10YR2/3黒褐色土 全体に火山ブロックを径5-20cm程度の硬を含む。粘性・締まりやや有。
5. 10YR2/3黒褐色土 粘性・締まり有。
6. 10YR2/3黒褐色土 灰化物と粘土を全体に少量含む。粘性やや有・締まり有。
7. 10YR4/4褐色土 中央部に少量の灰化物と粘土を含む。粘性・締まり有。



RA430 Q-R

1. 10YR1/2黒褐色土 粘性やや有り。締まりやや密。(火山ブロックを数個に含む)
2. 10YR2/3黒褐色土 粘性やや有り。締まりやや密。(火山ブロックと小礫を含む)
3. 10YR2/3黒褐色土 粘性やや有り。締まりやや密。(全体に粘土ブロックを含んでいる)
4. 10YR2/3黒褐色土 粘性有り。締まりやや密。(1期を含んでいる)
5. 10YR4/4褐色土 粘性やや有り。締まり密。

RA430 O-P

1. 10YR1/2黒褐色土 粘性やや有り。締まり密。(火山ブロックを僅かに含む)
2. 10YR2/3黒褐色土 粘性やや有り。締まり密。(火山ブロックと小礫を含む)
3. 10YR1/2黒褐色土 粘性やや有り。締まり密。
4. 10YR2/3黒褐色土 粘性強し。締まり密。(2-5cmの礫を全体に少量に含む)

0 1:60 50m



RA430 Pit E-F

1. 10YR2/3黒褐色土 全体に火山ブロックと少量の灰化物を含む。粘性・締まり有。
2. 灰化物 径2-5cmの礫を含む。



RA430 Pit G-H

1. 10YR2/3黒褐色土 全体に2-3cmの礫を含む。粘性・締まり有。

0 1:60 1m

柱穴番	径 (cm)	深さ (cm)	備考
1302	21×18	24.5	
1303	35×35	29.6	
1304	19×17	8.8	
1305	17×16	10.6	
1306	20×22	16.3	
1307	32×56	19.6	
1308	29×29	16.3	
1309	30×28	10.3	
1310	33×30	12.6	
1311	25×24	8.3	
1312	21×12	15.1	
1313	21×19	7.7	
1314	30×24	11.6	
1315	48×46	39.2	
1316	54×48	58.0	

第78図 RA430竪穴住居跡(2)

ると断定することは困難である。

<Pit>中央南寄りPit1(径82×52cm・深さ30.2cmの楕円形土坑)と中央北寄りPit2(径65×55cm・深さ29.2cmの楕円形土坑)が検出しているが、出土遺物はなく、当該住居跡に係わるものかは不明である。

<その他>今回の第26次調査範囲の中では、最も規模が大きい竪穴住居跡であり、当該遺構から南西15mにある「古代の米倉」と推定される掘立柱建物跡との関連も考えられるとともに、出土した遺物も多いことから、有力者が居住していたことも推測される。

<出土遺物>(第182~184・192・195図、写真図版159・160・171・172・179・181)埋土及び床面から個体数にして土師器坏12~15点・高台付坏4点・甕7~10点、赤焼き坏20~23点・高台付坏2点・甕6点、須恵器坏2~3点・甕3~4点・甕1点・小型の甕1点、時期不明の播鉢1点(44)、鉄製品1点(460)、炭粒等が出土した。

住居の規模に見合う位、土師器と須恵器の坏・高台付坏、および甕・壺などが多量に出土している。

<時期>出土した遺物等から、平安時代の遺構と推定される。

RA431竪穴住居跡(第79図、写真図版65・66)

<位置・重複関係>南西調査区の南東隅、5-C11wグリッド付近に位置しており、IV層の上から検出された。RA426・432・434と重複しているが、検出時と埋土の状況から、いずれの竪穴住居跡よりも以前に造られたものと推定される。また、中世の掘立柱建物跡RB038と、北側部分が重複している。

<規模・平面形・方向>5×4.8mの正方形に近い隅丸方形を呈し、床面積は約24㎡、カマドが確認されていないため主軸方向は定かでないが、磁北を基準にほぼ真北を示している。

<埋土>自然堆積で、黒褐色土が主体を占める。埋土を重複する北側のRA426、西側のRA432と比較して、堆積状況から当該竪穴住居跡は、これらの住居跡より、以前に造られたものと判断している。

<壁>底面からほぼ垂直に立ち上がり、壁高は19~20cmを示す。壁溝は検出されていない。東壁と北壁の大部分は、他の竪穴住居跡と重複しているため詳細は不明である。

<床面>全体的に平坦で堅く締まっている。貼り床は褐色細砂を主体として、厚いところでは8cm程度であるが、薄いところでは、殆ど見られない部分もある。

<カマド>住居跡が重複している、北側と東側のいずれかに存在していたものと思われる。

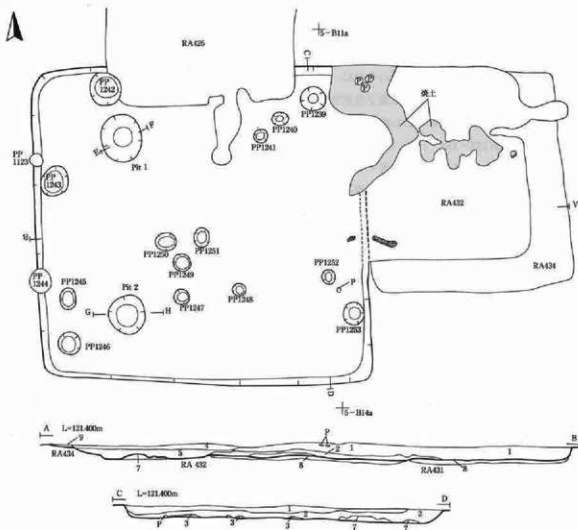
<柱穴>16基の柱穴が存在するが、うちPP1121・1123は、中世の掘立柱建物跡RB038の一部を形成するので、その他の柱穴については規則性が見られず、いずれも当該住居跡に係わる柱穴であると判断することは困難である。

<Pit>南西隅のPit2(径60×55cm・深さ23.4cmの円形土坑)と北西隅のPit1(径75×65cm・深さ30.4cmの楕円形土坑)が検出された。いずれも黒褐色土で単層の埋土であるが出土遺物はなく、当該住居跡に係わるものかは不明である。

<その他>北側をRA426、東側をRA432と重複するものの、そのいずれよりも当該遺構の方が先に存在していた様子がうかがわれる。

<出土遺物>(第184・185図、写真図版160・161・172)埋土及び床面から個体数にして土師器坏3点・甕4点、赤焼き坏5点・甕2点が出土している。

<時期>出土遺物等から、平安時代の遺構である。



RA431-432 A-B-C-D

1. 10YR2/2黒褐色土 全体に焼山粒を微かに含む。粘性・締まり有。
2. 10YR2/1黒色土 粘性やや弱・締まり有。
3. 10YR2/2黒褐色土 全体に焼山粒と灰土ブロックを含む。粘性強・締まり有。
4. 10YR2/2黒褐色土 全体に灰化物を含む。粘性・締まりやや弱。
5. 10YR2/2黒褐色土 全体に焼山粒・灰化物を含み、部分的に焼土粒を含む。粘性弱・締まり有。
6. 10YR4/6褐色細砂。粘性弱・締まりやや弱。
7. 10YR2/2黒褐色細砂。全体に径2-5cmの礫を含む。足跡。粘性・締まり有。
8. 10YR4/6褐色細砂。粘性強・締まり有。
9. 10YR2/2黒褐色土 粘性・締まりやや弱。

E L=121.300m F



RA431P91 E-F
1. 10YR2/2黒褐色土 下部に小礫を含む。粘性・締まりやや弱。

G L=121.300m H

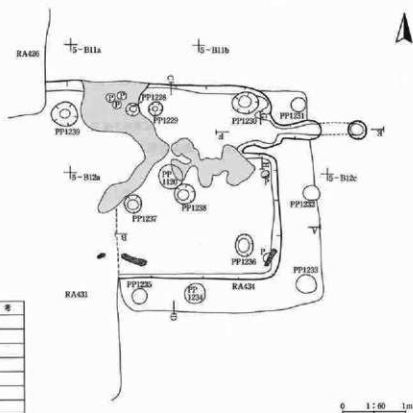


RA431P102 G-H
1. 10YR2/2黒褐色土 粘性・締まりやや弱。

0 1:60 1m

柱穴番	径 (cm)	高さ (cm)	備考
1230	40×35	14.6	
1240	26×20	15.8	
1241	22×20	7.3	
1242	55×48	21.9	
1243	49×45	22.3	
1245	32×34	6.8	
1246	39×37	6.9	
1247	25×24	5.3	
1248	21×20	6.1	
1249	29×29	7.9	
1250	33×28	5.4	
1251	32×34	30.6	
1252	24×22	12.7	
1253	35×32	18.5	

第79図 RA431竪穴住居跡



柱穴番	径 (cm)	深さ	備考
1228	22×19	30.0	
1229	21×21	13.5	
1230	30×34	17.8	
1236	35×36	9.4	
1237	29×26	14.9	
1238	33×31	22.3	
1239	40×35	14.6	



RA431・432 A-B-C-D

1. 10YR2/2黒褐色土 全体に黒油粒を僅かに含む。粘性・締まり有。
2. 10YR2/1黒色土 粘成や中骨・締まり有。(1・2はRA431の硬土)
3. 10YR2/2黒褐色土 全体に黒油粒と硬土ブロックを含む。粘性強・締まり有。
4. 10YR2/2黒褐色土 全体に炭化物を含む。粘性・締まりやや有。
5. 10YR2/2黒褐色土 全体に油粒・炭化物を含む。部分的に硬土粒を含む。粘性有・締まり有。

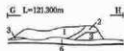


6. 10YR4/6暗色磁砂。粘性弱・締まりやや有。
7. 10YR2/2黒褐色磁砂。全体に10YR2/3色の礫を含む。粘成・粘性・締まり有。
8. 10YR4/6暗色磁砂。粘性弱・締まり有。灰化。
9. 10YR2/2黒褐色土 粘性・締まりやや有。(RA434の硬土)



RA433 E-F・G-H

1. 10YR2/2黒褐色土 炭化物と硬土ブロックを全体に多く含む。粘性弱・締まりやや有。
2. 10YR3/4暗褐色土 部分的に硬土ブロックを含む。粘性やや有・締まり有。
3. 10YR4/6暗色土 硬土粒を僅かに含む。粘性やや有・締まり有。
4. 10YR2/2黒褐色土 高比例的に硬土粒を含む。粘性・締まりやや有。
5. 10YR2/2黒褐色土 硬土ブロックを僅かに含む。粘性やや有・締まり有。
6. 10YR4/6暗色磁砂。下層に小礫を含む。粘性やや有・締まり有。



0 1:30 90cm

第80図 RA432竪穴住居跡

RA432 竪穴住居跡 (第79・80図、写真図版65・66)

<位置・重複関係> 北西調査区の南東隅、5-B11a グリッド付近に位置しており、IV層の上面から検出された。RA426・431・434と重複しているが、検出時と埋土の状況から、RA426よりは旧く、RA431・434よりは新しい時期に造られたものと思われる。また、中世の竪穴柱建物跡RB038の底部分と一部重複している。

<規模・平面形・方向> 南北方向2.8m、床面積は約6.5㎡で、東西方向はRA431と重複しているため、境界が不明であるが、平面形は正方形に近い隅丸方形を呈していたものと思われる。主軸方向は貞東を示している。

<埋土> 自然堆積で、黒褐色土が主体を占めるものの、全体的に炭化物と地山のブロックを含んでおり、特に中央から北側の下層には、おびただしい焼土の分布も見られる。埋土を重複する西側のRA431と比較して、当該竪穴住居跡は、これより後に造られたものと推定している。

<壁> 底面からゆるやかに立ち上がり、壁高は約10cmを示すが、東と南側の壁がRA434と重複しているため、正確な値は不明である。壁溝は検出されていない。

<床面> 黒褐色土が主体となり、全体的に凹凸が見られ、やや締まっている。貼り床は、黒褐色細砂を主体として8cm程度の厚さを持ち、薄いところでは殆ど見られない部分もある。

<カマド> 東壁の北寄りに位置しており、カマドは黒褐色土と暗褐色土が主体となり、一部地山を削りだして形成されたものと推定している。煙道は、焚き口から煙出しへほぼ水平な構造となっているが、上面は削平を受けたものと思われる詳細な構造は不明である。煙出しは、径27×27cm・深さ27.2cmで掘り込まれている。

<柱穴> 8基の柱穴が検出されたが、その中から、北東隅のPP1230と南東隅のPP1236が主柱穴を形成するものと思われる。北西隅のPP1229については、重複するRA434の主柱穴と推定している。

<その他> 床面の中心から北側にかけて広がるおびただしい量の焼土と、南壁の隅に散らばる丸木材(ナラ、樹皮付き)の炭化物等から、焼失した住居跡である可能性が高い。

<出土遺物> (第185図、写真図版161) 埋土及び床面から個体数にして土師器杯2～3点・高台付杯1点・甕2～3点、赤焼き杯4～5点・甕1点、須恵器壺1点、炭化材などが出土した。特徴のある遺物としては、焼土の上面から、底径が小さく器高が低い土師器の杯が出土している。その他にも、土師器の杯・高台杯・甕、および須恵器の壺の一部が出土している。

<時期> 上記の出土遺物等から、平安時代の遺構と推定される。

RA433 竪穴住居跡 (第81図、写真図版67)

<位置・重複関係> 北西調査区の中央、2-D11s グリッド付近に位置しており、IV層の上面から検出された。遺構の北側半分は、近年に造成された用水路によって攪乱を受けている。

<規模・平面形・方向> 東西方向3.2m、南北方向2.1m(ともに推定値)、床面積は約5.7㎡で、境界が不明であるが、平面形は隅丸方形を呈していたものと思われる。主軸方向は、N-80°-Eを示している。

<埋土> 自然堆積で、黒褐色土が主体を占め、全体的に地山のブロックが多く含まれている。

<壁> 底面からゆるやかに立ち上がり、壁高は約5～20cmを示すが、全体的に削平を受けているため、東側と北側の壁の残存は僅かである。壁溝は検出されていない。

<床面> 褐色土が主体となり、全体的に凹凸が見られやや締まっている。貼り床は、殆ど見られない。

<カマド> 東壁の北寄りに位置しているものと推定されるが、削平が著しく、カマドの本体部分を検出する

ことはできなかった。煙道と運出し部分が辛うじて残され、埋土には少量の炭化物と焼土粒が含まれていたが、上面の大部分が削平を受けているため、詳細な構造は不明である。

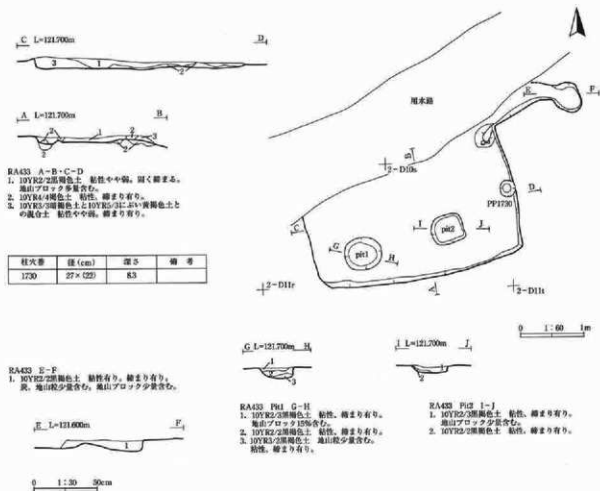
<柱穴> PP1730が東壁に接して検出されているが、主柱穴を形成するものではないと考えられる。

<Pit>南壁に沿って2基のPit (Pit 1 = 径55×45cm・深さ16.7cmの楕円形跡) (Pit 2 = 径60×50cm・深さ12.4cmの楕円形跡)が存在する。

<その他>遺構の北半分が、後年の耕作・土木工事による削平を受け、また表土〜埋土の一部も攪乱されていたため、検出されたのは床面に近い部分のみに止まった。

<出土遺物> (第185図、写真図版161・173) 個体数にして土師器環1〜2点・甕1〜2点、赤焼き坏4点、須恵器甕1点が出土した。354赤焼き坏は袖部から、355須恵器甕はカマド精査中に出土している。

<時期>出土遺物等から、平安時代の遺構と推定される。



第81図 RA433竪穴住居跡

RA434 竪穴住居跡 (第82図、写真図版65)

<位置・重複関係> 南西調査区の南東隅、5-B11aグリッド付近に位置しており、IV層の上面から検出された。RA431・432と重複しているが、検出時と埋土の状況から、当該遺構がより以前に造られたものと思われる。また、中世の掘立柱建物跡RB038の底部分と一部重複している。

<規模・平面形・方向> 東西方向3.1m、南北方向3.4m (北壁が不確定のため推定値)、床面積は約12.6m²で、平面形は隅丸方形を呈していたものと思われる。カマドが確認されていないため主軸方向は定かでないがN-3°-Wを示している。

<埋土> 自然堆積で、黒褐色土が主体を占めるが、RA432と大部分が重複しており、当該遺構の純粋な埋土は、縁辺部のごく僅かな部分にとどまる。堆積状況から、RA432よりも以前に造られたものと推定している。

<壁> 底面からごくゆるやかに立ち上がり、壁高は5~6cm程度を示す。壁溝は検出されていない。

<床面> 大部分がRA432と重複するため、床面の詳細は不明であるが、僅かに残る残存部から、ほぼ平坦で堅く締まっていたものと推測される。貼り床は確認できなかった。

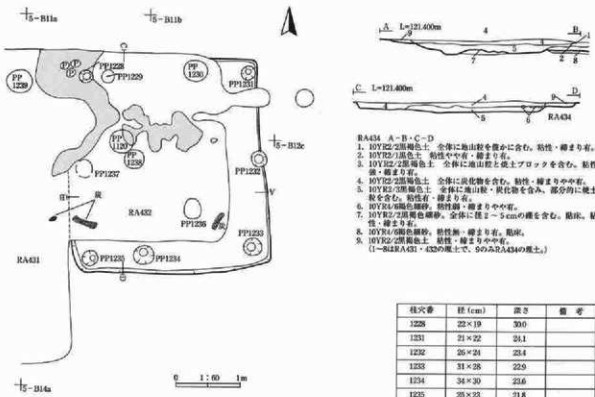
<カマド> 住居跡が重複している、西側に存在していたものと思われる。

<柱穴> 6基の柱穴の中から、北東隅のPP1231と南東隅にあるPP1233、南西隅のPP1235および北西隅RA431内のPP1229が主柱穴を形成するものと思われる。

<その他> 埋土の堆積状況から重複するRA432は、当該遺構が廃棄された後に、別の住居として構築されたものと推定している。

<出土遺物> 出土していない。

<時期> 近隣の竪穴住居跡 (平安時代) と類似する点が多いものの、判断する材料に乏しく、時期は不明である。



第82図 RA434竪穴住居跡

RA435 竪穴住居跡 (第83図、写真図版68)

<位置・重複関係>北西側調査区の中央西寄り、2-D15aグリッド付近に、RG318・337溝跡と重複して位置しており、IV層の上面から検出された。

<規模・平面形・方向>残存している部分の計測値は3.68×1.15mで、床面積は約4.2㎡、平面形は隅丸方形を呈しているものと思われ、軸方向はN-40°-Eを示している。

<埋土>一部が攪乱を受けているものの、大部分が自然堆積と思われ、黒褐色土が主体を占めている。中へ下層では、地山ブロックと炭化物が少量含まれている。

<壁>底面から緩やかに立ち上がっており、壁高は17~22cm程度であるが、南東壁部分のみ緩やかに立ち上がる形状を示している。壁溝は検出されていない。

<床面>床面はほぼ平坦であるが、貼り床は確認できなかった。

<カマド>南壁部分を残し、大部分が近年に構築されたコンクリート用水路によって壊されていたため、カマドの有無・位置を含めた詳細は不明である。

<その他>重複して検出された2本の溝跡は、埋土の地積状況から、当該竪穴住居跡よりも後に構築されたものと思われる。

<出土遺物> (第185図、写真図版161・173) 埴土及び床面から個体数にして土師器杯1点・甕1~2点、赤焼き杯1点、須恵器甕1点が出土している。南端の床面から、ロクロ調整が施された土師器の杯の一部、および須恵器の杯の一部が出土している。

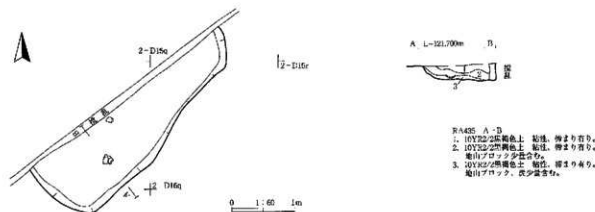
356赤焼き杯と357須恵器甕は共に床面からの出土である。

<時期>出土遺物等から、平安時代のもものと推定される。

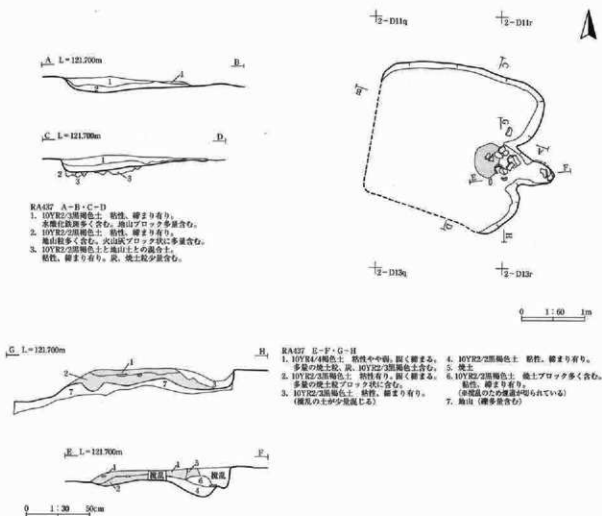
RA437 竪穴住居跡 (第84図、写真図版69)

<位置・重複関係>北西側調査区の中央西寄り、2-D11vグリッド付近に独立して位置しており、IV層の上面から検出された。

<規模・平面形・方向>残存した部分の計測値は2.56×2.5mで、床面積は約5.2㎡、平面形は隅丸方形を呈しているものと思われるが、北西隅が削平を受けているために詳細は不明である。主軸方向はS-79°-E



第83図 RA435竪穴住居跡



第84図 RA437壁穴住居跡

を示している。

<埋土>ほとんどが自然堆積と思われ、黒褐色土が主体を占めるが、全体に地山ブロックと水酸化鉄を多く含んでいた。

<壁>削平された北側部分を除いて、底面から緩やかに立ち上がる形状を示している。壁高は3~25cm程度で、北~西壁部分のみ緩やかに立ち上がる形状を示している。壁溝は検出されていない。

<床面>床面はほぼ平坦で、貼り床は確認できなかった。

<カマド>南東壁に位置しており、黒褐色土が混じっているが、一部褐色土の地山を削りだして形成されたものと推定している。カマド燃焼部の全体には、焼土と炭化物がブロック状に広がっていた。煙道は朝り抜き式であったと思われるが、遺構全体および東側部分が後年の激しい削平・攪乱を受けているため、詳細な構造は不明である。

<柱穴>主柱穴を形成するような柱穴は検出されていない。

＜その他＞西脇に位置するRD937土坑は、当初竪穴住居跡とも考えられたが、当該竪穴住居跡とともに削平・攪乱が著しく、不明な点が多かったこともあり土坑として登録した。当該竪穴住居跡と関連する遺構であった可能性も考えられる。

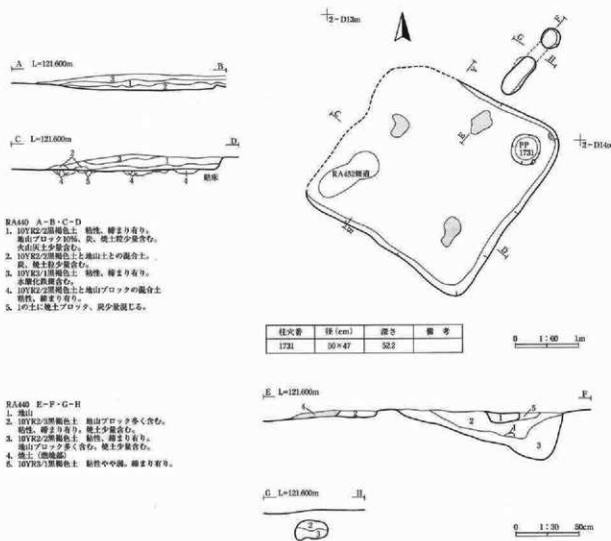
＜出土遺物＞（第186図、写真図版161・162・173）埋土及び床面から個体数にして土師器環3点・甕3～4点、赤焼き環2点、甕1～2点、須恵器環1点・甕1点が出土した。

カマドの燃焼部と思われる箇所から、359土師器環・361土師器甕・367赤焼き甕などが破片となって散乱した状態で出土したのをはじめ、煙道部埋土内から363・364土師器甕が出土している。

＜時期＞出土遺物等から、平安時代のもつと推定される。

RA440 竪穴住居跡（第85図、写真図版70）

＜位置・重複関係＞北西側調査区の西端、2-D14mグリッド付近に、RA452竪穴住居跡と隣接して位置



第85図 RA440竪穴住居跡

しており、IV層の上面から検出された。

<規模・平面形・方向>残存している部分の計測値は3.1×2.9mで、床面積は約7.9㎡、平面形は隅丸方形を呈しているものと思われ、主軸方向はN-40°-Eを示している。

<埋土>自然堆積と思われる、黒褐色土が主体を占めるが、上層には水酸化鉄と下層には焼土と炭化物のプロックを含んでいる。

<壁>底面から緩やかに立ち上がっており、壁高は15~18cm程度であるが、北壁部分は後年の耕作等による削平を受けている。壁溝は検出されていない。

<床面>床面はほぼ平坦で、貼り床は確認できなかった。

<カマド>北東壁に位置しており、袖部分は褐色土が主体で、一部地山を削りだして形成されたものと推定している。煙道は、遺構全体が後年の激しい削平を受けているため詳細は不明であるが、埋土を観察すると一度下がる形状を示していることから、削り抜き式であった可能性が高い。

<柱穴>北東隅から1基検出されている。柱穴ではなく土坑としたほうがよいのかもしれない。

<その他>当該竪穴住居跡、および西側から検出されているRA452型穴住居跡は、北側部分が削平を受けているため詳細は不明であるが、当該竪穴住居跡の床面付近からRA452の煙道部分が検出されたことから、当該竪穴住居跡の方が後に構築されたものと推測している。

<出土遺物> (第187図、写真図版162) 埋土及び床面から個体数にして土師器甕2点、赤焼き杯1点(368)、須恵器杯2点・甕1点が出土した。

<時期>出土遺物等から、平安時代のもものと推定される。

RA452竪穴住居跡(第86図、写真図版71)

<位置・重複関係>北西隅調査区の西端、2-D14kグリッド付近に、RA440と隣接して位置しており、IV層の上面から検出された。

<規模・平面形・方向>残存している部分で計測した値は3.6×2.3mで、床面積は約8.2㎡、平面形は隅丸方形を呈しているものと思われ、主軸方向はN-58°-Eを示している。

<埋土>擾乱を受けた箇所が一部あるものの、大方は自然堆積と思われる。黒褐色土が主体を占めており、上層には水酸化鉄が、下層には炭化物と焼土の粒が少量含まれていた。

<壁>底面からほぼ垂直に立ち上がっており、壁高は8~16cm程度であるが、完全に残存しているのは南壁部分のみで、北壁部分は残存しておらず、それ以外も削平を受けている箇所が多いため全容を掴むことは不可能である。壁溝は検出されていない。

<床面>床面はほぼ平坦で、貼り床らしき痕跡は確認できなかったものの、西壁付近の粘性がある地山と混合した土が、その一部である可能性が考えられる。

<カマド>北東壁に位置しているが、削平が激しいため袖部分は確認できなかった。カマドの燃焼部と思われる部分には焼土が広がり、土師器片がその上から出土している。煙道は、削り抜き式で煙出し部分も存在していたものと思われるが、遺構全体が激しい削平を受けているため、詳細は不明である。

<柱穴>主柱穴と思われるものとして、北東隅からPP1733、北西隅からPP1735(土師器片が底部から出土)がそれぞれ検出されている。

<Pit>南側の壁面付近から検出された、不整形楕円形を呈するPit 1は、120×76cm・深さ20.2cmを呈している。底部からは土師器片が、またその周囲からもある程度まとまって同様な土師器片が出土していることから、

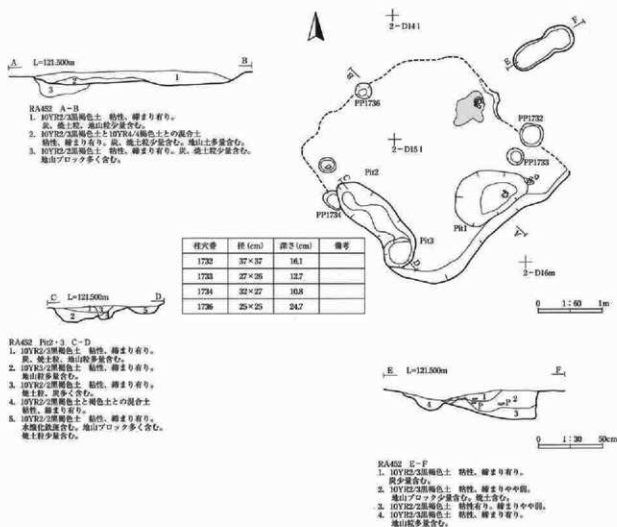
貯蔵穴の可能性が考えられる。南西隅から検出された不整な楕円形のPit 2は、擾乱を受けた埋土が分布しており、当該堅穴住居跡と関連しない遺構と推定される。

<その他>隣接する平安時代のRA440堅穴住居跡は、当該RA452堅穴住居跡の煙道部分を切るように検出されており、当該堅穴住居跡よりも後のものと推定される。

<出土遺物> (第187図、写真図版162・174) 埋土及び床面から個体数にして土師器環2点・甕3～4点、赤焼き環3点・甕3点、須恵器甕1点が出土した。

カマドの熱焼部付近から375赤焼き甕ほか、南東隅部分から赤焼き環370ほかが集まって出土している。

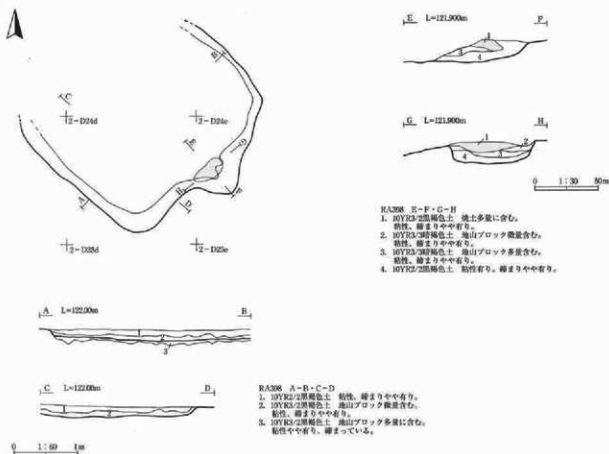
<時期>出土遺物等から、平安時代のもものと推定される。



第86図 RA452堅穴住居跡

RA398 竪穴住居跡 (第87図、写真図版72)

- <位置・重複関係> 遺跡の西側中央部にあたる2-D24dグリッドに位置している。重複関係なし。
- <規模・形態・方向> 北東壁-南西壁で3.15mあるが、北西壁は現況では道路の下にあったため失われている。平面形は隅丸方形を呈していたと思われ、主軸方向はS-41°-Eで、床面積は7.3㎡ある。
- <埋土> 黒褐色土を主体とし自然堆積の様相を呈する。
- <壁> 遺構検出面から9-12cm位しか残っていない。底面から外傾して立ち上がっている。
- <床面> 全面を貼床とし平坦に構築されている。
- <カマド> 南東壁のほぼ中央に50×23cmの範囲で焼土の広がりが見られたが、カマドであったかどうかは判然としなかった。
- <柱穴> なし。
- <遺物> (第187図、写真図版162) 埋土から飯1点(376)、器種不明の土師器の細片が2-3片、縄文土器の細片が2片、近代の陶器碗1点が出土した。
- <時期> 不明である。



第87図 RA398竪穴住居跡

RA428 竪穴住居跡 (第88図、写真図版73)

〈位置・重複関係〉南西調査区の東端中央部、5-B1 f グリッド付近に位置し、土坑のRD935と接している。接する部分は、当該遺構の埋土が削平を受け、著しく薄くなっていたため、それぞれの新旧関係は判別できなかった。IV層上面～下面において検出されている。

〈規模・平面形・方向〉 3.2×3.2 m、床面積は約9.6㎡で、平面形はほぼ正方形をした隅丸方形を呈するものと推定される。カマドが確認されていないため主軸方向は定かでないが、磁北を基準に約22°北西へ傾いている。

〈埋土〉自然堆積で、黒褐色土が主体を占めているものごく薄く、上層が後年の耕作による激しい削平を受けていることもあり、埋土部分イコール貼り床である可能性も考えられる。

〈壁〉全体が削平を受けているため、壁高は3～8cmで、緩やかに立ち上がる形状を示している。壁溝は検出されていない。

〈床面〉埋土が極めて薄いため、検出時点での埋土が貼り床部分を構成していることも考えられる。この直下は堅く締まった径2～5cmの砂礫層で、貼り床の存在なしには日常の居住は不可能と思われる。

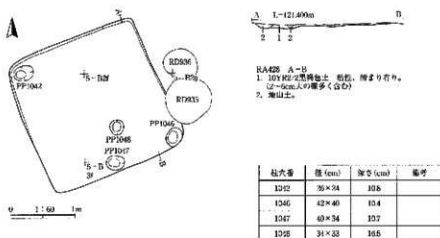
〈カマド〉削平を床面付近まで受けているため、存在が確認できなかった。

〈柱穴〉遺構の隅から検出された、南東隅のPP1046北西隅のPP1049は、その配置から主柱穴を形成していたものと推定され、遺構の南壁中央付近に並ぶ2基の柱穴は、主柱穴ではないと思われる。

〈その他〉全体に渡って削平を受けているため詳細は不明であるが、検出された時点での状況等から、東側に隣接するRD935・936上坑は、当該遺構とは関連せず、また同一時期のものとも考えにくい。

〈出土遺物〉出土していない。

〈時期〉出土遺物はないが、近隣の竪穴住居跡(平安時代)と類似する点が多いことから、平安時代の遺構と推定している。



第88図 RA428竪穴住居跡

RA436 竪穴住居跡 (第89回、写真図版74)

<位置・重複関係>北西側調査区のほぼ中央、2-C9a グリッド付近で、RG337と南壁を接するように位置しており、IV層の上面から検出された。

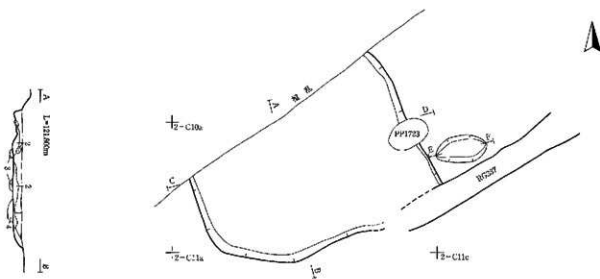
<規模・平面形・方向>残存している部分の計測値は3.6×2.3mで、床面積は約8.3㎡、平面形は隅丸方形を呈するものと思われ、主軸方向はN-65°-Eを示している。

<埋土>ほとんどが自然堆積と思われ、黒褐色土が主体を占めている。水酸化鉄を全体に含んでおり、北-北西側には径10~15cmの礫が数個分布していた。

<壁>底面からやや急に立ち上がっており、壁高は10~18cm程度であるが、北-北西壁部分がコンクリートの水路で壊されており残存状況はよくない。壁溝は検出されていない。

<床面>床面は東側がやや高くなっており、地山ブロックが混入した貼り床が部分的に確認できた。

<カマド>東壁中央付近に煙道らしきものが確認され、カマドが存在していたものと思われるが、残存状況がよくないため詳細は不明である。



RA196 A-B-C-D

1. 10YR2/3黄褐色土 粘土、締まり有り、水酸化鉄を豊富に含む。10~15cmの層含む。
2. 10YR2/3黄褐色土 粘土、締まり有り、灰土多量を含む。
3. 10YR2/3黄褐色土 粘土、締まり有り、水酸化鉄を多く含む。
4. 10YR2/2黄褐色土 粘土やや粘、粘り有り。地山土と混在する (見取)。

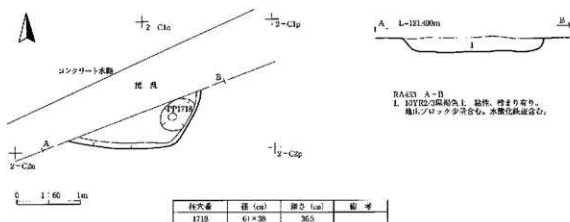


RA436 E-F

1. 10Y2/2-2黄褐色土 粘土、締まりやや弱。
2. 10Y2/4/4黄褐色土 粘土、締まり有り。

0 1:30 50cm

第89回 RA436竪穴住居跡



第90図 RA453竪穴住居跡

<柱穴>検出されていない。

<その他>南壁はRG337溝跡と重複しているが、埋土の堆積状況等から、当該竪穴住居跡のほうがより以前に構築されたものと思われる。

<出土遺物>出土していない。

<時期>出土した遺物はなかったものの、近隣の同様な形態をもつ竪穴住居跡と比較・推測して、平安時代のものと思われる。

RA453 竪穴住居跡 (第90図、写真図版33)

<位置>重複関係>北西側調査区の東寄り、2-C1グリッド付近に位置し、大部分が近年に構築されたコンクリート水路で壊されている。IV層の上面から検出された。

<規模・平面形・方向>残存している部分で計測した値は3.6×2.3mで、床面積は約8.3m²、平面形は隅丸方形を呈しているものと思われ、軸方向はN-20°-Eを示している。

<埋土>自然堆積と思われる、黒褐色土が主体を占めており、全体に水酸化鉄と地山ブロックを少量含む。

<壁>底面からはほぼ垂直に立ち上がっており、壁高は8~16cm程度であるが、完全に残存しているのは南壁部分のみで北壁部分は残存しておらず、それ以外にも削平を受けている箇所が多いため全容を掴むことは不可能である。壁溝は検出されていない。

<床面>床面はほぼ平坦で、貼り床は確認できなかった。底面には細かい砂質の土壌が分布している。

<カマド>検出されていない。

<柱穴>南隅からPP1718が検出されているが、主柱穴を形成するものかどうかは不明である。

<その他>大部分が近年に構築されたコンクリート水路で壊されているため、遺構の全容は掴みにくい。カマドも遺物も見つかっていないが、現れている部分の壁の立ち上がりや全体の形状から竪穴住居跡とした。

<出土遺物>出土していない。

<時期>詳細は不明であるが、平安時代以降のものとして推定している。

2 中世の竪穴建物跡

RA232 竪穴建物跡 (第91図、写真図版75)

<位置・重複関係>本遺跡の南側中央にあたる3 B19 i グリッドに位置している。RD660・688と重複関係にあるが、本遺構の方があたらしいと判断した。本遺構は23次調査でも東半部を調査しており、今回の調査で全体を精査したことになる。

<規模・平面形>検出面での規模は4.7×2.8m、隅丸長方形プランで北西壁は削平により残存しない。

<埋土>黒褐色土及び黒色土を主体とするが黄褐色土ブロックを不規則に含み人為堆積の可能性もある。

<壁・床面・柱穴>遺構検出面から床面までは20cm前後の深さがあり、壁は垂直気味に立ち上がっている。16本の柱穴を床面まで埋土を下げた段階で検出したが、すべて本遺構に伴っているわけではないと思われる。壁隅にみられるpp682・1832は伴っていると思われるがその他は判然としない。

<遺物>出土していない。

<時期>中世に属する。

RA443 竪穴建物跡 (第92図、写真図版76)

<位置・重複関係>遺跡南東端に相当する4 C24wグリッドに位置している。ほぼ東西方向に7m程延びる溝状の施設と重複するが、これは一連の遺構とみるべきかもしれない。埋土からは本遺構の方が新しいか同時期と判断される。

<規模・平面形>検出面での規模は3.6×3.1mを測り、平面形は不整な方形を基調としている。溝は7×0.6mで深さは30cm前後、溝の東西端はそれ以上延びずにその場で止まるようである。

<埋土>自然堆積の様相を呈し多量の河原石を含んでいた。すぐ南側が湿地であることから埋土は溶性が強く、水分を多く含んでいた。

<壁・床面・柱穴>遺構検出面から底面までは55cmを測る。底面は概ね平坦で壁は緩やかに外傾して立ち上がっている。柱穴はもたない。

<遺物> (第53・199~201図、写真図版137・185・186) 多量の河原石と共に埋土中から台石とみられる515・518・519が出土している。また奈良時代の甕53が出土している。

<時期>中世の可能性が高い。

RA450 竪穴建物跡 (第93図、写真図版77)

<位置・重複関係>遺跡の南東端に近い4 C7 jグリッドに位置している。重複関係はない。

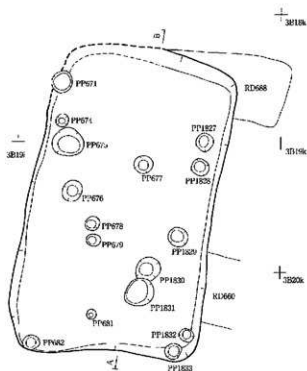
<規模・平面形・方向>検出面での規模は2.8×2.1m、隅丸長方形プランを呈する。

<埋土>殆ど埋土下位しか残っていないが地山ブロックを多量に含み、人為堆積の様相を呈する。

<壁・床面・柱穴>底面から外傾して立ち上がっているが10cm前後しか残存しない。概ね平坦な床面からは柱穴・炉跡などは検出されていない。

<遺物>なし。

<時期>中世に属すると推測される。



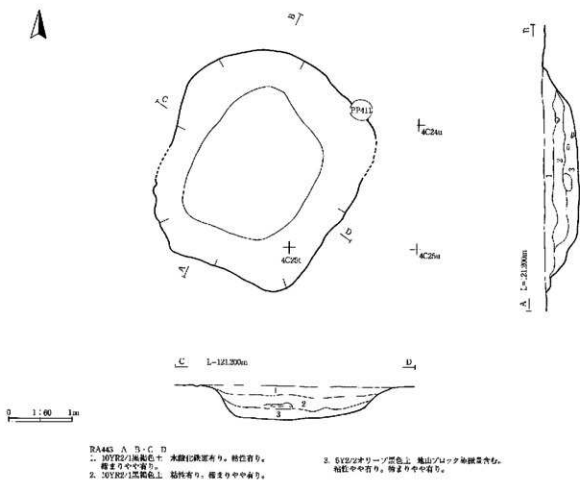
柱穴番号	径 (cm)	深さ (cm)	備考
671	28×22	9.7	
672	21×18	14.9	
673	46×44	12.5	
676	34×30	22.9	
677	28×27	17.5	
678	29×19	15.4	
679	23×18	8.2	
681	16×14	13.1	
1827	28×27	25.1	
1828	28×26	12.9	
1830	30×26	18.8	
1831	35	14.2	
1832	43×41	29.0	
1833	22×18	5.0	
1833	23×24	31.5	



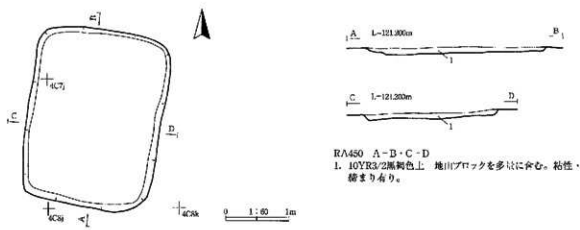
WAZE

1. 1CVR2/2黒褐色土。粘性なし。締まり有り。にぶい黄褐色土 (10YR5/6) 硬・灰少量含む。水浸化跡混入。
2. 10YR2/2黄褐色土。粘性なし。締まり有り。黄褐色土 (10YR5/6) 粒含む。硬・灰少量。灰多量含む。
3. 10YR2/1黒色土。粘性ややなし。締まり有り。にぶい黄褐色土 (10YR6/4) 灰多量含む。灰少量含む。水浸化跡混入。
4. 10YR2/2黄褐色土。粘性やや有り。締まりなし。黄褐色土 (10YR5/6) 粒多量含む。硬。白色砂少量含む。
5. 10YR2/2黄褐色土と10YR5/6黄褐色土との混成土。粘性やや有り。締まり有り。
6. 10YR2/2黄褐色土。粘性有り。径30mm以下の硬石多量含む。
7. 10YR2/1灰色土。粘性・締まり有り。にぶい黄褐色土 (10YR6/4) プロック少量含む。水浸化跡混入。
8. 10YR2/1灰色粘土質土。粘性にとみ。締まりやや有り。

第91図 RA232竪穴建物跡



第92図 RA443竪穴建物跡



第93図 RA450竪穴建物跡

RA454 竪穴建物跡 (第94図、写真図版78)

<位置・重複関係>遺跡南東端に近い4 C21 u グリッドに位置している。RG339よりは新しい。

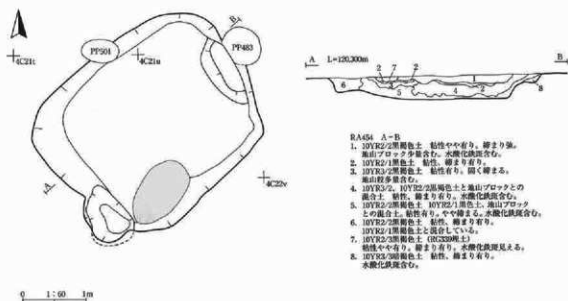
<規模・平面形>検出面での規模は3.4×2.9mを測り、平面形は隅丸長方形を呈する。南側の壁隅に抉るような不整な掘り込みを持ち、北東壁には地山を削り出して階段状の段差を設けている。

<埋土>黒褐色土を主体とした自然堆積の様相を呈する。

<壁・床面・柱穴>壁は概ね平坦な底面から外傾して25~40cm程立ち上がっている。南壁際に125×65cm程の範囲で焼土の広がりを検出したが、現地性のものか判然としなかった。柱穴は検出されていない。

<遺物>なし。

<時期>中世に属すると推測される。



第94図 RA454竪穴建物跡

3 竪穴状遺構

RE048 竪穴状遺構 (第95図、写真図版79)

<位置・重複関係>南西調査区の南端、5-B15a グリッド付近に、R B039掘立柱建物跡と重複して位置する。IV層の上面から検出された。

<規模・平面形・方向>2.9×2.8mで、床面積は約8.1㎡、平面形はほぼ隅丸の正方形を呈し、北に対して約10° 東へ傾いている。

<埋土>黒褐色土と暗褐色土がほぼ同じ割合で分布している。

<壁>残存する壁高は8cm程度で、床面からゆるやかに立ち上がる形態を示しているが、上面は全体的に削平を受けていると思われる。壁溝は検出されていない。

<床面>暗褐色土が主体となり、全体的に平坦でやや締まった状態である。貼り床はほぼ全体に施されており、層の厚さは5～14cmで、黒褐色土と地山のブロックを全体に含んでいる。

<出土遺物>出土していない。

<時期>時期を特定できる遺物が出土していないものの、近隣の遺跡から見つかっている同様な遺構から、中世に構築されたものと推定される。重なって検出されたR B039掘立柱建物跡は、当該遺構と同じ中世のものでありながら、重複の状況から後年の遺構である可能性が高い。

RE049 竪穴状遺構 (第95図、写真図版79)

<位置・重複関係>南西調査区の南端、5-C16a グリッド付近に位置する。IV層の上面から検出され、R G328溝跡が当該遺構の北端をかすめている。

<規模・平面形・方向>3.1×2.9mで、床面積は約9㎡、平面形はほぼ隅丸の正方形を呈し、北に対して約10° 東へ傾いている。

<埋土>自然堆積で黒褐色土が主体を占めており、全体に少量の地山ブロックを含んでいる。

<壁>残存する壁高は15cm程度で、床面からやや垂直に立ち上がる形態を示しており、上面は全体的に削平を受けているものと思われる。壁溝は検出されていない。

<床面>褐色細砂が主体となり、全体的に平坦でやや締まっている。貼り床はほぼ全体に施されており、層の厚さは2～7cmで、黒褐色土のブロックを全体に少量含んでいる。

<出土遺物> (第188図、写真図版163) 377ロクロ整形の高台付坏が1点出土している。

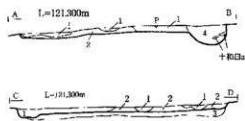
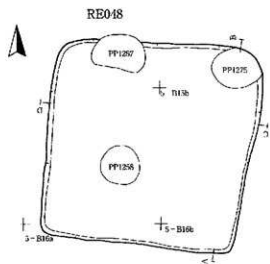
<時期>出土遺物等から、平安時代に構築された遺構と推定される。

RE050 竪穴状遺構 (第40図)

<位置・重複関係>東側調査区の東側、3D6w グリッド付近で、R A447竪穴住居跡の床面から入れ子のような状態で検出された。R A447の検出面はIV層の上面である。

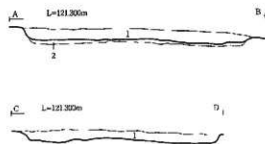
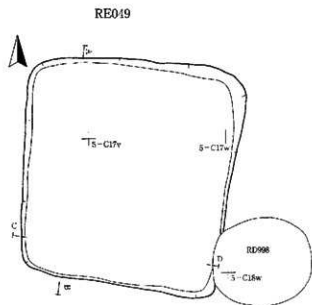
<規模・平面形・方向>2.8×2.6mで、床面積は約7.3㎡、平面形は円形にやや近い隅丸方形を呈し、北に対して約15° 西へ傾いている。

<埋土>自然堆積で、黒褐色土が主体を占めており、埋土堆積状況から外周のR A447竪穴住居跡と一連



- 297348 A B C D
1. MY222 広範囲上 全体に土層のブロックを含む。砂質・礫多量あり。
 2. MY256 広範囲上 全体に土層を少量含む。砂質・礫多量あり。
 3. MY275 広範囲上 全体に土層と塊状のブロックを含む。砂質・礫多量あり。
 4. MY222 広範囲上 砂質・礫多量あり。砂質・礫多量あり。砂質・礫多量あり。

0 1:60 1m



- RE049 A-B C-D
1. MY222 広範囲上 全体に土層のブロックを含む。砂質・礫多量あり。(砂はブロックを全体に少量含む)
 2. MY275 広範囲上 砂質・礫多量あり。

0 1:60 1m

第95図 RE048・049 堅穴状遺構

の遺構であることが判明した。

<礎>当該遺構を内包するように存在する、外側のRA447竪穴住居跡の床面から計測した壁高は40～42cmで、床面からやや垂直に立ち上がる形態を示している。

<床面>全体に黒褐色土と地山をブロック状に含み、水酸化鉄も層状に分布するほぼ平坦で堅く締まった状況を呈している。南壁中央には、88×70cmの半円形をした段状の張り出し部分が存在する。

<出土遺物> (第188図、写真図版163) 奈良時代の土師器が、埋土の上位～下位にかけて出土している。

球鬮甕378は埋土中層から破片ながらも、カ所からまとまって出土した。

<時期ほか>はじめはRA447竪穴住居跡(奈良時代)よりも新しい遺構になると想定しRE050として登録した。しかし埋土の堆積状況は本遺構がRA447に伴って構築された様相を呈しており、住居の床面を掘り込んだ床下取納的な施設であったと解釈したい。

4 掘立柱建物跡

広範な第26次調査区のなかで、調査区北西側と南西側から集中して検出された。掘立柱建物跡が存在していた時期について、北西側で検出されたものは近世(2棟)、南西側は平安時代(1棟)と中世(6棟)のものと、それぞれ推定している。平面図には代表的な柱間寸法を付けた。括弧内の数字の単位は尺、括弧の無い数字の単位はcmである。1尺を30.3cmとして計算している。

RB031 掘立柱建物跡 (第96図、写真図版80)

<位置・重複関係>北西調査区の西側、2-D22nグリッド付近に位置する。IV層の上面から検出され、当該遺構の内側には、RD622土坑が存在する。

<平面形式・建物方位>掘立柱建物跡で南北方向2間(212cm)・東西方向3間(236cm)で、中に方形な掘り込みをもっている。北を基準に20°西偏している。

<柱間寸法>様々な寸法が用いられているが3.5尺(106cm)と2.6尺(79cm)を意識しているようである。

<付属施設・建物の性格>本遺構がRB034の付属施設(便所)と思われ、PP1658・1659の間が入り口であろう。

<出土遺物>なし。

<時期>近世。

RB034 掘立柱建物跡 (第96図、写真図版80)

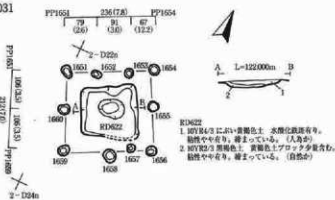
<位置・重複関係>北西調査区の西側、2-D25lグリッド付近に位置し、IV層の上面から検出された。南側でRA407・420竪穴住居跡と重複し、本遺構のほうが新しい。

<平面形式・建物方位>掘立柱建物跡で桁行1254cm、梁間985cmである。恐らくは上屋柱と下屋柱からなる構造と考えられるが下屋柱は掘り込みが浅く検出されなかったと解釈したい。桁行の軸方向はN-15°-Wである。

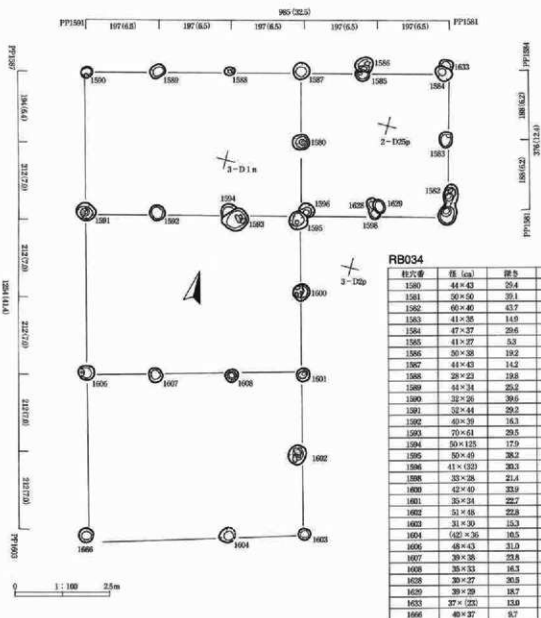
RB031

柱穴番	径 (cm)	長さ	備考
1601	25×26	26.7	
1602	26×23	16.3	
1603	25×23	19.2	
1604	27×25	23.6	
1605	28×28	18.2	
1606	28×26	23.4	
1607	22×21	15.7	
1608	35×35	16.0	
1609	31×26	17.6	
1610	29×23	25.0	

RB031



RB034



第96図 RB031・034掘立柱建物跡

<柱間寸法>桁行が7尺(212cm)、梁行には6尺5寸(197cm)を使用している。柱材や根固め石のある柱穴も見られる。

<付属施設・建物の性格>大きさから母屋と考えられ、その柱穴配置から曲屋を想定した。また、この民家は礎部分を建て替えていると考えられる。R B 031が付属小屋に、R 1 011が井戸になると思われる。

<出土遺物>なし。

<時期>近世。

R B 0 3 5 掘立柱建物跡 (第97図、写真図版81)

<位置・重複関係>南西調査区のほぼ中央4-C21vグリッド付近に独立して位置し、遺構検出面はIV層上面である。

<平面形式・建物方位>掘立柱建物跡で身舎に庇が付く形態である。比較的柱穴分布の薄い所で検出されたため平面プランを容易に把握できた。身舎は4間×2間で身舎の内に柱穴は見られず、庇を含めた桁行は1115cm(36尺8寸)、梁間は667cm(22尺)を測る。桁行の軸方向はN-10°-Wである。

<柱間寸法>多くの寸法を使用しているが身舎の桁行は7尺5寸(227cm)、梁間が8尺(242cm)を基準にしているようで、庇には3尺~3尺5寸を使用している。

<付属施設・建物の性格>大きさや構造から単なる農民の屋敷とは考えられない。

<出土遺物>なし。

<時期>建物の構造から中世と考えたい。

R B 0 3 6 掘立柱建物跡 (第97図、写真図版81)

<位置・重複関係>南西調査区のほぼ中央、5-C1wグリッド付近に独立して位置し、遺構検出面は、IV層上面である。北側に、R B 035・037掘立柱建物跡(中世)に挟まれている。

<平面形式・建物方位>掘立柱建物跡で桁行2間(388cm)、梁間1間(279cm)、桁行の軸方向はN-77°-Wである。

<柱間寸法>桁行は8尺(242cm)と4尺8寸(145cm)、梁間は9尺2寸(279cm)を使用している。

<付属施設・建物の性格>建物の大きさから付属小屋的な用途が推測される。

<出土遺物>なし。

<時期>中世の所属と考えられる。

R B 0 3 8 掘立柱建物跡 (第98図、写真図版82)

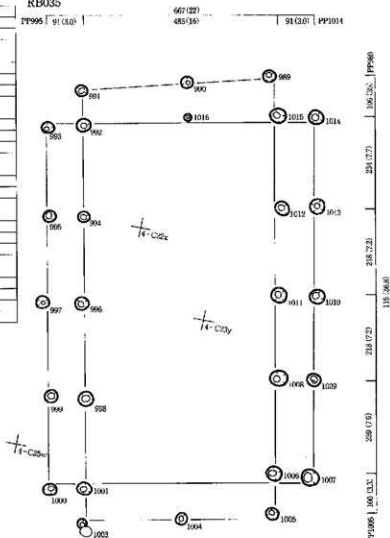
<位置・重複関係>南西調査区の南側、5-C5wグリッド付近に位置し、遺構検出面は、後年の耕作等により表土が薄くなっていたため、IV層上面~下面で、遺構の中央から東側半分は多量の礫を含んだ層が現れている。北東側にR B 037掘立柱建物跡と重複しているが、相互の新旧関係は不明である。

<平面形式・建物方位>掘立柱建物跡で身舎に庇が付く形態である。柱穴が密に分布する中でも比較的容易にプランを想定できた。身舎は5間×2間の総柱で庇を含めた規模は桁行49尺3寸(1494cm)、梁間では32尺2寸(976cm)あり、桁行の軸方向はN-4°-Wである。平面図にして見ると桁行に対して梁間が帯ん

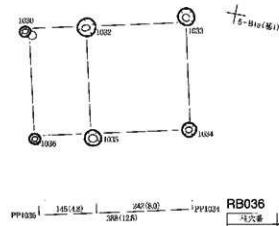
RB035

柱大番	径 (cm)	高さ	備考
989	37×37	16.5	
990	37×37	30.8	
991	37×37	15.5	
992	33×32	38.5	
993	33×37	24.5	
994	36×34	33.0	
995	28×24	14.0	
996	33×32	35.3	
997	30×26	20.7	
998	26×26	32.8	
999	34×28	23.9	
1000	30×26	17.6	
1001	34×21	26.7	
1003	20×18	6.5	
1004	26×26	25.8	
1005	32×26	25.0	
1006	26×26	33.6	
1007	38×34	24.8	
1008	49×38	40.6	
1009	32×32	11.1	
1010	34×32	32.3	
1011	40×32	43.6	
1012	37×29	32.4	
1013	32×30	30.4	
1014	37×34	25.0	
1015	41×37	53.2	
1016	18×16	13.2	

RB035



RB036

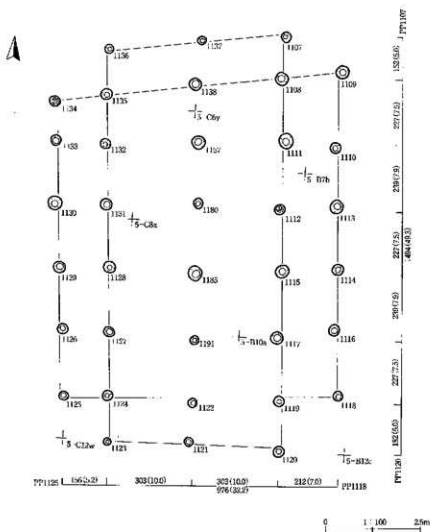


RB036

柱大番	径 (cm)	高さ	備考
1020	28×28	9.9	
1021	46×46	24.0	
1023	44×28	25.1	
1024	26×26	12.6	
1025	41×40	18.0	
1026	27×26	12.2	

0 1:100 2.5m

第97図 RB035・036独立柱建物跡



RB038

柱次番	径 (cm)	高さ	梁本	柱次番	径 (cm)	高さ	梁本
1107	32×30	19.8		1122	24×22	—	
1108	45×42	14.9		1123	21×19	—	
1109	47×41	14.1		1124	25×24	44.5	
1110	34×30	11.5		1125	35×30	28.1	
1111	53×49	30.8		1126	32×29	28.1	
1112	36×32	29.1		1127	34×34	26.5	
1113	45×44	20.6		1128	42×32	27.5	
1114	38×36	23.6		1129	58×37	25.7	
1115	46×45	27.1		1130	48×42	26.5	
1116	42×38	21.9		1131	49×38	27.4	
1117	40×40	36.6		1132	34×32	22.9	
1118	32×31	24.9		1133	58×30	22.2	
1119	33×33	24.0		1134	39×34	25.8	
1120	40×38	15.6		1135	30×27	6.4	
1121	34×29	10.5		1136	36×25	—	

柱次番	径 (cm)	高さ	梁本
1137	36×26	8.6	
1138	44×40	8.7	
1139	44×40	26.1	
1140	32×27	9.6	
1145	39×40	8.1	
1151	24×24	10.8	

第98図 RB038掘立柱建物跡

でいるが実際その場で見ても気づかない程度である。

<柱間寸法>身舎を見ても桁行では7尺9寸(239cm)と7尺5寸(227cm)を多用し、梁間は10尺を基準にしているようである。底は7尺-5尺である。

<付属施設・建物の性格>建物の大きさや構造から、単なる一般農民の住居とは考えられない。

<出土遺物>なし。

<時期>中世に構築されたものであろう。

R B O 3 9 掘立柱建物跡 (第99図、写真版82)

<位置・重複関係>南西調査区の南端、5-C14yグリッド付近に位置し、遺構検出面は、後年の耕作等により表土が薄くなっていて、IV層上面~下面である。遺構の中央をR E 048壁穴状遺構、北東側をR A 429壁穴住居跡とそれぞれ重複しているが、検出時の状況から、当該掘立柱建物跡の方が後年に構築されたものと推定される。

<平面形式・建物方位>掘立柱建物跡で、周りに分布する柱穴よりも明らかに大きい柱穴によって構成されているため容易に桁行5間×梁間3間の建物を想定できた。規模は桁行で26尺1寸(790cm)、梁間が16尺8寸(509cm)を測り、桁行の軸方向はE-9°-Sを指す。

<柱間寸法>桁行は5尺3寸(161cm)を基準とし、梁間は5尺5寸(167cm)を意識しているようである。全体に各柱穴の上面は削平を受けているものの、深さ・直径ともに、前述の中世掘立柱建物跡の柱穴よりも規模が大きいのが特徴である。北東部分の柱穴は、他の遺構との重複や上面の削平が激しく、礎層も露出しているため、柱穴の原型があまり残されていない。PP1275の埋土には、1和田a火山灰のブロックが含まれていたが、二次堆積によるものであり、柱痕については、いずれの柱穴からも確認できず、鎌や時期をさすような遺物も出土していない。

<付属施設・建物の性格>不明であるが、単なる付属小屋とは考えにくい。

<出土遺物>なし。

<時期>中世に構築されたものと考えられる。

R B O 4 0 掘立柱建物跡 (第99図、写真版83)

<位置・重複関係> 南西調査区の南端、5-C13uグリッド付近に独立して位置し、遺構検出面は、後年の耕作等により表土が若干薄くなっており、IV層上面である。

<平面形式・建物方位>掘立柱建物跡で2間×2間の総柱建物である。軸方向はN-3°-Eとなる。

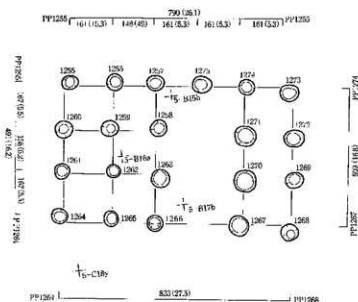
<柱間寸法>6尺(364cm)を基準にしている。柱穴の平面形は円形~楕円形を基調としており、全体に各柱穴の上面は、削平を受けていると思われるものの、深さ・直径ともに、中世の掘立柱建物跡の柱穴よりも規模が大きいのが特徴である。柱痕は3基から確認されており、うち1基からは根間の一部と思われる礫が出土している。

<付属施設・建物の性格>PP1210・1211が梯子となる倉庫と考えられる。

<出土遺物>なし。

<時期>平安時代。

RB039

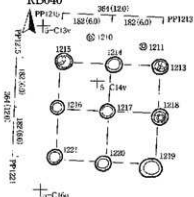


RB039

柱式番	径 (cm)	長さ	備考
1255	59 × 55	29.0	
1256	60 × 60	3.7	
1257	58 × 52	19.3	
1258	67 × 66	27.1	
1259	62 × 60	17.6	
1260	63 × 62	32.0	
1261	53 × 54	23.7	
1262	60 × 67	22.3	
1263	62 × 58	30.9	
1264	60 × 50	20.2	
1265	56 × 50	22.3	
1266	58 × 54	21.5	
1267	77 × 69	39.4	
1268	67 × 62	—	
1269	69 × 50	21.3	
1270	78 × 78	15.1	
1271	78 × 69	42.6	
1272	71 × 64	30.8	
1273	65 × 53	12.9	
1274	58 × 54	13.9	
1275	72 × 58	18.1	

0 1:100 25m

RB040



RB040

柱式番	径 (cm)	長さ	備考
1210	26 × 26	21.6	
1211	35 × 33	20.8	
1212	56 × 50	43.4	
1213	60 × 56	36.2	
1214	61 × 56	49.2	
1215	48 × 48	35.0	
1216	54 × 52	43.8	
1217	53 × 57	42.2	
1218	60 × 66	40.9	
1219	53 × 53	36.6	
1220	53 × 52	46.0	

第99圖 RB039・040掘立柱建物跡

R B O 3 7 掘立柱建物跡 (第100図・写真図版82)

<位置・重複関係>南西調査区のほぼ中央、5-C4 x グリッド付近に位置し、遺構検出面は後年の耕作等により表土が薄くなっていたため、IV層上面～下面である。南西側でR B O38掘立柱建物跡と重複しているが、相互の新旧関係は不明である。

<平面形式・建物方位>掘立柱建物跡である。柱穴分布がそれほど密ではないため比較的容易にプランを把握できた。桁行6間(1176cm)×梁間2間(509cm)の総柱の建物を想定し、桁行の軸方向はN-75°-Eを指す。

<柱間寸法>桁行は中央部分が広く8尺7寸・8尺5寸などを使っており、両端に行くほど6尺8寸～4尺といった具合に間尺は狭くなっている。平均値で見れば6尺5寸を意識しているようである。一方、梁間は8尺4寸を基準にしているようである。柱穴は検出面で既に露層が露出していたため浅いものが多く、各柱穴の上面は削平を受けているものと思われる。柱痕はいずれからも確認されず、柱穴の1基から根固めの一部として用いられたものと思われる標が、僅かに出土した程度である。

<付属施設・建物の性格>建物の大きさや構造から単なる一般農民の屋敷とは考えられない。

<出土遺物>なし。

<時期>中世に構築されたものと思われる。

R B O 4 1 掘立柱建物跡 (第100図・写真図版83)

<位置・重複関係>南西調査区の西端、4-C21 k グリッド付近に独立して位置し、遺構検出面はIV層上面である。

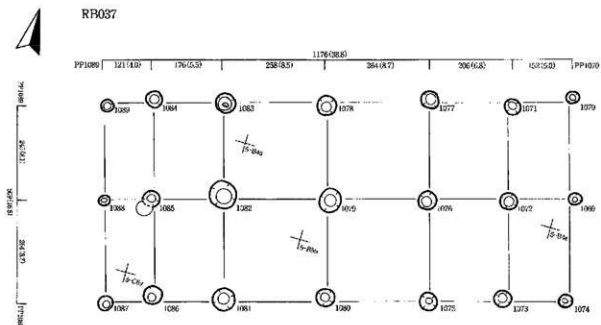
<平面形式・建物方位>桁行3間、梁間2間の総柱建物を想定した。規模は桁行500cm、梁間が364cmを測り、桁行の軸方向はN-13°-Eである。

<柱間寸法>6尺(182cm)を基準とし、桁行には4.5尺(136cm)も使われている。南側にある3基の柱穴は、他の部分と比較して南北方向の間尺が狭くなっており、住居部分に付属する庇の可能性も考えられる。

<付属施設・建物の性格>小規模な家屋、もしくは付属小屋としての用途が考えられる。

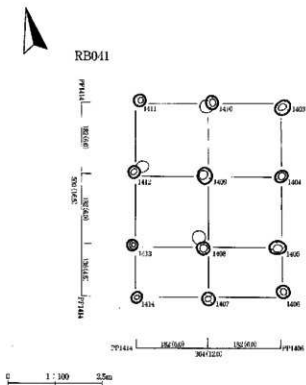
<出土遺物>なし。

<時期>中世に構築された可能性が高い。



RB037

柱号码	径 (cm)	高さ	備考
1069	30 × 25	16.6	
1070	31 × 26	14.8	
1071	33 × 27	22.5	
1072	41 × 36	24.1	
1073	44 × 39	17.3	
1074	29 × 26	8.7	
1075	50 × 42	31.1	
1076	49 × 46	33.3	
1077	46 × 44	30.8	
1078	48 × 46	26.2	
1079	62 × 50	14.3	
1080	40 × 42	28.6	
1081	59 × 48	22.1	
1082	72 × 68	13.9	
1083	48 × 48	21.8	
1084	42 × 37	12.1	
1085	(43) × (3)	17.7	
1086	31 × 42	20.2	
1087	41 × 36	17.5	
1088	25 × 24	7.2	
1089	31 × 29	11.2	



RB041

柱号码	径 (cm)	高さ	備考
1403	36 × 25	42.6	
1404	33 × 29	14.3	
1406	42 × 30	37.1	
1408	30 × 28	27.8	
1407	32 × 30	20.4	
1408	31 × 31	20.5	
1409	42 × 40	37.9	
1410	32 × 30	39.7	
1411	28 × 28	31.0	
1412	31 × 25	31.2	
1413	28 × 26	36.6	
1-14	26 × 26	20.1	

第100图 RB037・041掘立柱建物跡

5 土坑及び墓塚（中世）

今回の26次調査では122基の墓塚及び土坑が検出された。調査区のほぼ全域から検出されるが、その中でも密に分布するのは遺跡南側中央部で、ここには中世の墓塚が多数みられ墓塚を形成していた（第12図）。この他には調査区の西側（2-Dグリッド）や南西側（5-Bグリッド）には土坑が比較的多く分布している。時期別に見てみると平安時代のもの1基、中世に属するもの並びにその可能性が高いと判断したものの55基（この内、墓塚は37基）、近世～近代14基、時期不明52基である。

個々の遺構の諸特徴や出土遺物については観察表にまとめたので、ここでは代表的なものについてのみ触れたい。R D622はR B031に伴う施設で近世民家R B034の付属施設（便所か）の一部と見られる。R D644は平面形が隅丸長方形を呈し、埋土上層は地山ブロックを多量に含む人為堆積であった。こうした埋土と共に赤焼き杯（381～383）や甕（384）等の破片が投げ込まれた状況で出土しており、平安時代の遺構と判断される。但し土坑の性格については判然としなかった。R D808からも土師器杯385、赤焼き杯386、甕387が出土したが、R D822より切り合い関係で新しく見え、中世の土坑と思われる。

中世の銭貨が出土したR D822は埋土が人為堆積を呈する事からも墓塚ではないかと位置付け、これより重複関係において旧いと思われるR D823も埋土が人為堆積を呈することから中世の墓塚と解釈したい。中世の墓塚はこの他に3-Bグリッドを中心とし、かなりの密度で分布しており（R D596・660・823・1007～1021・1023～1028・1031～1033）、隣接地域を対象とした23次調査の成果からこの地が大規模な中世墓域であることが明らかとなっている。埋葬方法は基本的に直葬のようで、棺の痕跡を残すものではなく遺物を伴う墓塚も極端に少ない。一連の中世墓群の広がりには4-Cグリッド付近にもみられR D975・976・1002～1005等が検出されている。これらの墓塚は平面形が長方形・方形を呈するものが主体で長軸が極端に長い長方形も見られる。この長軸が極端に長い墓塚は他のものに比べて掘り込みが浅いものが多く、遺体を伸ばした状態で埋葬したためにこうした形態を呈するものと考えられる。他の墓塚は身体を折り曲げて埋葬されていたといえ、掘り込みも前述した長軸が極端に長い長方形プランの墓塚よりも深いものが多数を占める。

規模は底面積で2.2～1.2㎡位で長軸方向を見ると北～南側を向くものと東～西側を指すものと大きく分けられそうだが、それに何らかの規則性を見出すことはできなかった。墓塚の年代は23次調査の成果から13世紀後半～15世紀頃と想定され、その中でも14・15世紀が中心になると思われる。副葬品が極端に少ないこと、埋葬形態は単純な土坑塚が大平を占めること、これまでに確認された墓塚が330基を越え、それらが激しく重複していることなどから周辺集落の一般的な人々の墓地であったと推測される。

R D933・953からは寛永通寶（478～480）が出土しているが墓とは考えにくい。R D1001と1006はやや不整形に掘り込まれた土坑で規模も似ている。周囲の遺構分布から中世に属する可能性が高いが、どういった目的で使われたのが不明である。同じくR D1038も中世に位置付けられるとみているが、性格は判然としなない。埋土中には自然礫を多く含んでいた。R D1034には焼土を廃棄している痕跡がみられた。

土坑観察表

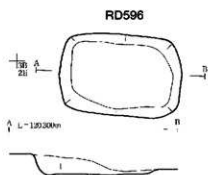
通称名	位置	平面形		深さ(cm)	傾き方向	組上	出土遺物	備考	図版	植類
		開口幅長(cm)	幅						写真	時期
R D586	2-C	不整形		14.5		黒褐色土の草屑。				-
R D596	3 R211	隅丸長方形		28.5		人為堆積。黒褐色土に地山ブロックを少量含む。			84	不明
		100×108	N-88°	-W					101	草屑
R D622	2-D22n	方形		17.1		同上層は人為堆積と思われる。		R H031に伴う	84	近世
		155×154	N-63°	-E					96	便所か
R D626	2-D23k	長円形		3.6		黒褐色土の草屑。			84	近世
		98×39	N-10°	-W					101	土坑
R D633	3-D1c	不整形		12		黒褐色土に地山ブロックを少量含む。			101	不明
		75×54	N-51°	-E					85	不明
R D634	3-D1c	隅丸方形		11.9		黒褐色土の草屑。			101	土坑
R D635	2-D25r	不整形		27.5		黒褐色土を主体とする自然堆積。		R A414より新	101	土坑
		120×112	N-15°	-E					85	不明
R D636	2-D24r	長円形		12.4		黒褐色土主体。自然堆積か。			101	土坑
		151×67	N-73°	-R					85	不明
R D637	2-D24r	円形		70.9		灰色土。黄褐色土、黒褐色土の互層。自然堆積。	上層部遺物380		101	土坑
R D639	2-D20a	不整形		35.2		黒褐色土、暗褐色土主体。自然堆積と思われる。	赤焼き灰3点・土師器2点		84	不明
		114×110	N-13°	-E					101	不明
R D643	2-D14y	方形		21.4		地山ブロックを複数層含む黒褐色土。			101	土坑
		174×170	N-84°	-W					86	不明
R D644	2-C13a	隅丸長方形		48.3		庭園付近には暗褐色土、その上に地山ブロックを含む黒褐色土。人為堆積。	土師器381-384、この地帯焼き灰1点・土師器1点		102	墓塚か
		358×184	N-0°						86	平安時代
R D645	3-D2o	不整形		33.2		小礫を含む黒褐色土及び褐色土。自然堆積。			102	土坑
		142×92	N-61°	-E					86	不明
R D660	4 B20i	不整形		12		黒褐色土と地山ブロックとで構成される。			102	庭塚
		140×110							87	中世
R D692	2-D23u	不整形		18		黒褐色土に地山ブロックを含む人為堆積。			102	土坑
		74×68	N-67°	-W					87	不明
R D808	2-C18a	隅丸長方形		27.7		黒褐色土に地山ブロックを含む人為堆積。	土師器385-387、その他に土師器環2・赤焼き灰3・土師器7点	R A410より新	102	土坑
		172×136	N-90°	-W					87	不明
R D810	2-C21c	隅丸長方形		23.6		人為堆積。地山ブロックを含む黒褐色土及び暗褐色土からなる。			102	土坑
R D811	2 C18b	不整形		22		黒褐色土質上及び暗褐色土質土等で構成される自然堆積と思われる。			103	土坑
		196×20							88	不明
R D819	2 C20b	不整形		43.4		自然堆積を含む黒褐色土。地山ブロックを少量含む暗褐色土からなる自然堆積とよいと思われる。			103	土坑
		94×78	N-15°	-E					88	不明
R D820	2-C19d	不整形		182		自然堆積か否かわからない。			103	土坑
		88×74	N-52°	-R					88	不明
R D822	2-D16y	隅丸長方形		60.8		黒褐色土に地山ブロック・小礫を含む人為堆積。	瓦管169-171、概に平安時代の土師器環2片・赤焼き灰2・瓦5片	R D823より新	103	墓塚
		216×100	N-73°	-R					88	中世
R D823	2-D16y	隅丸長方形		47.6		黒褐色土と褐色土の混合土が庭園付近に堆積。人為堆積。	鉄器454・465、平安時代の土師器10数片	R D822より旧	103	墓塚
R D825	2 C16c	隅丸長方形		21.3		人為堆積であろう。			88	中世
		170×11	N-62°	-E					103	土坑
									88	不明

測点名	位置	平面形		深さ(m)	傾 斜	出土遺物	備 考	図版 写真	種類 時期
		開口形状(cm)	長軸方向						
RD826	2-C14g	長円形		42.2		黒褐色土を主体とし、地土粒・地山ブロック等を含む。自然堆積でよいと思われる。		103	土坑
		230×78	S	82°	E		89	不明	
RD827	2-D17s	不整形		28.7		黒色土及び黒褐色土を主体とする自然堆積と思われる。		104	土坑
		(164)×(168)	N	25°	W			89	不明
RD828	2-D15t	不整形		13.9		注記なし		104	土坑
		(200)×(156)	N	39°	W			89	不明
RD829	2-D	不整形		31.5		注記なし		89	不明
		(224)×(107)	N	15°	W			89	不明
RD830	2-C9k	隅丸長方形		31.5		地山ブロックを多数に含む人為堆積。		104	土坑
		116×114	N	16°	E			90	不明
RD831	5-C14y	円形		23		黒褐色土の単層。		104	土坑
		92×88	N	3°	E			90	不明
RD832	5-C4y	隅丸長方形		8.2		黒褐色土の単層。		104	土坑
		(84)×68	N	85°	W			90	不明
RD833	4-C7h	長円形		19.6		上位に黒褐色土、底面付近にふいす褐色土。		104	土坑
		60×45	N	46°	E			90	不明
RD926	5-C4o	円形		33.9		黒褐色土に地山ブロックを少量含む。		205	土坑
		76×72	N	83°	E			90	不明
RD927	4-C7o	円形		39.6		黒褐色土の単層。		105	土坑
		107×90	N	63°	R			91	不明
RD928	4-C13a	不整形円形		34.8		堆積であろう。		105	土坑
		90×45	N	24°	W			91	不明
RD929	4-C22n	円形		28.1		黒褐色土及びふいす褐色土・砂質土等で構成される自然堆積。		105	土坑
		130×118	N	61°	E			91	不明
RD930	4-H21a	不整形円形		22.3		地山ブロックを多数に含む人為堆積。		105	土坑
		236×74	N	68°	W			91	不明
RD931	5-C2f	菱形		26		小礫を多数に含む黒褐色土の単層。		105	土坑
		196×128	N	36°	E			92	不明
RD933	4-B25c	不整形円形		12.2		黒褐色土に地山ブロック少量含む人為堆積。		105	遺構 平土
		82×62	S	88°	W			92	不明
RD934	5-B12e	隅丸長方形		21.2		黒褐色土に地山ブロック・炭粒を含む人為堆積。		105	遺構
		240×110	N	45°	W			92	中堂
RD935	5-B2g	円形		18.1		小礫を含む黒褐色土の単層		106	土坑
		104×98	N	44°	E			92	不明
RD936	5-B2g	円形		18.2		小礫を含む黒褐色土の単層		106	土坑
		78×67	N	45°	W			92	不明
RD937	5-C7g	隅丸長方形		23.6		黒褐色土に地山ブロック・炭粒・礫を含む人為堆積。		106	土坑
		188×128	N	27°	E			93	中世以降
RD939	5-B1d	長円形		10.1		地山ブロックを多数に含む黒褐色土が主体。人為堆積か。		106	土坑
		95×62	N	64°	W			93	不明
RD940	5-B6c	不整形円形		18.1		小礫を多数に含む黒褐色土・砂質土。		107	土坑
		86×70	N	46°	W			93	不明
RD941	5-C9p	円形		10.5		注記なし		106	土坑
		88×82	N	38°	W			93	不明
RD942	5-B14f	楕円形		13.9		黒褐色土に褐色土が混じる。		106	土坑
		(10.5)×56	N	7°	E			94	不明
RD943	2-D2p	不整形		45.6		底面の一部に凝土、やや浮いた所には炭が見られる。		107	遺構
		314×(3.10)	N	48°	W			94	中世
RD944	5-B14g	不整形円形		22.1		黒褐色土と褐色土で構成される。		106	土坑
		166×100	N	64°	E			94	不明
RD945	5-B14f	楕円形		23.8		上位に黒褐色土、下位に褐色土が堆積。		107	土坑
		230×94	N	21°	E			95	不明

遺構名	位置	平面形		深さ(cm)	掘削方向	掘上	出土遺物	備考	図版	種類
		開口部径(cm)	長軸方向							
R D946	1-B19 l	方形基溝		18.5		地山ブロックを少量含む黒褐色土。			108	土坑
		458×620	N-83°-W						95	不明
R D947	1-B18 p	隅丸長方形		19.3		地山ブロックを含む黒褐色土。人為堆積か。			108	土坑
		85×63	N-20°-E						95	不明
R D948	4 C18 y	不整形		17.3		地山ブロックを多量に含む人為堆積。			106	土坑
		102×84	N-47°-E						95	中位小
R D949	4 C17 u	不整形		25.1		小規模に地山ブロックを含む人為堆積。			108	土坑
		181×67	N-50°-E						96	中位小
R D950	4 D21 b	隅丸長方形		14.3		黒褐色土に地山ブロックを微量含む。人為堆積か。			108	土坑
		224×75	N-48°-E						96	中位小
R D951 952	3 C13 o	不整形		-		黒褐色土及び褐色土等で構成される。		新旧関係不明	109	土坑
		246×170		21					69	不明
R D953	3 C6 m	隅丸長方形		42.1		自然礫を含む黒褐色土・褐色土・ぶい質褐色土等で構成される。自然堆積でよいと思われる。	鏡貫480、奈良時代の土師器片		109	土坑
		319×172	N-8°-W						96	近位
R D954	3 D15 g	方形		26		掘上上部に炭土・炭殻が見られた。自然堆積か。	奈良時代の薬20数片		109	土坑
		144×128	N-81°-W						97	不明
R D955	3 D14 d	不整形		16.9		人為堆積と思われる。黒褐色土中に地山ブロック雜らに人る。			109	土坑
		112×74	N-35°-E						97	不明
R D956	3 E2 d	隅丸長方形		32.7		暗褐色土に炭殻を含む。			109	土坑
		116×90	N11°-W						97	不明
R D971	4 D21 a	長方形		17.7		黒褐色土に地山ブロックを不規則に含む。自然・人為堆積不明。			110	土坑
		148×40	N 91°-W						97	不明
R D972	4 C20 x	長方形		20.2		黒褐色土に地山ブロックを不規則に含む。自然・人為堆積不明。			110	土坑
		166×62	N 11°-W						98	中位小
R D973	4 C19 t	不整形		14.1		黒褐色土中に地山ブロックを微量含む。人為堆積か。			110	土坑
		134×94	N 41°-W						96	中位小
R D974	4 C22 t	不整形		19.1		黒褐色土、黒褐色土と褐色土の混合土からなる。			110	土坑
		134×102	N-38°-E						98	中位小
R D975	4 C5 o	円形		15.8		地山ブロックを含む黒褐色土の単層。			110	土坑
		104×88	N-72°-W						98	中位小
R D976	4 C6 o	円形		16.1		地山ブロックを含む黒褐色土の単層。			110	土坑
		115×95	N-55°-E						99	中位小
R D977	3 D2 h	円形		28.8		黒褐色土の単層。			110	土坑
		88×84	N-19°-W						99	不明
R D978	2 D20 k	隅丸長方形		20.2		黒褐色土の単層。			110	土坑
		106×92	N-23°-W						99	新しいか
R D979	2 D1 h	隅丸長方形		19.6		黒褐色土を主体とする。			111	土坑
		134×100	N 31°-W						99	新しいか
R D980	2 D-3 D	隅丸長方形		-		注記なし			100	近代以降
R D981	3 D9 g	不整形		11.7		黒褐色土に地山ブロックを多量に含む人為堆積。			111	土坑
		88×82	N-35°-E						100	不明
R D982	3 C7 l	隅丸長方形		25.7		黒褐色土・褐色土ブロックを多く含む人為堆積の可能性が高い。	R G045より新		111	土坑
		138×68	N-23°-W						100	不明
R D983	3 D7 k	隅丸長方形		24.6		底面付近は黒褐色土に地山ブロック、その上は黒褐色土が堆積。	陶器等129・435、玉508、奈良時代の薬20数片	R G045より新	111	土坑
		143×90	N-11°-W						100	近世
R D984	3 D6 m	方形		34.1		人為堆積の様相を呈する。		R G045より新	111	土坑
		133×130	N 30°-W						101	不明
R D985	3 D11 l	不整形		21.9		黒褐色土・褐色土ブロックを多く含む人為堆積の可能性が高い。	奈良時代の埴輪壺(盗採1点) 2・壺3片・小蓋7器・片	R G045より新	111	土坑
		284×259	N 11°-W						101	不明

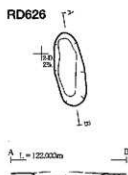
遺構名	位置	平面形		長さ(cm)	埋土	出土遺物	備考	版図	横断
		開口部径(cm)	長短方向						
R D 986	3 E	長方形	-	-	人為堆積。黒褐色土と黄褐色土の混合土				101 近代以降
R D 987	3 E	長方形	-	-	人為堆積。黒褐色土と黄褐色土の混合土				101 近代以降
R D 988	3 E	長方形	-	-	人為堆積。黒褐色土と黄褐色土の混合土	土師器300-305		102	近代以降
R D 989	3 D 1 u	方形基壇 126×115	24.1 N-58°-E		にぶい黄褐色土の厚層。		R A 457より新	112	土坑
R D 990	3 E 3 b	円形 88×73	13.2 N-29°-E		炭・焼土を含まない黒褐色土の厚層。			102	不明
R D 991	2 D 23 y	方形基壇 158×137	33.4 N-60°-E		炭を含む黒褐色土の厚層。			112	土坑
R D 992	2 D 21 x	方形 125×116	27.2 N-24°-W		黒褐色土の厚層。			102	不明
R D 993	5-B17 h	長円形 240×98	18.5 N-12°-R		地山ブロックを含む黒褐色土。	赤焼き灰6片、須磨器鉢2片		103	不明
R C 994	3 K 3 e	隅丸長方形 153×120	67.7 N-70°-E		人為堆積。			112	土坑
R D 995	3 R 6 h	隅丸長方形 154×121	68.9 N-71°-E		人為堆積。			103	不明
R D 996	2 D 12 x	不整形 105×95	24 N-57°-W		黒褐色土の厚層。			112	土坑
R D 997	3 E	長方形	-	-	注記なし			104	不明
R D 998	5-C18 m	不整形 630×140	48.2 N-78°-W		泥土下層に黒褐色粘土、その上に厚く黄褐色粘土が入り、その上には黒褐色土が堆積。		R B 049より新	113	土坑
R D 999	3 R	長方形	-	-	注記なし			104	近代以降
R D 1001	4 C 11 i	不整形円形 412×201	45.3 N-82°-W		黒褐色土を主体とした自然堆積の標本を採る。			113	土坑
R D 1002	4 C 10 a	隅丸長方形 142×84	32.7 N-90°-W		赤色土を主体とする。	骨片と炭粒		113	墓壇
R D 1003	4 B 13 w	不整形円形 90×78	12.2 N-83°-E		地山ブロックを含む黒褐色土の厚層。			106	中世
R D 1004	4 C 7 a	隅丸長方形 165×98	35.5 N-60°-W		人為堆積。地山ブロックを含む黒褐色土の厚層。			114	墓壇
R D 1005	4 B 6 f	隅丸長方形 116×90	34.9 N-63°-W		人為堆積。地山ブロックを含む黒褐色土の厚層。			106	中世
R D 1006	4 B 13 v	不整形 280×176	48.3 N-4°-W		黒褐色土、赤色土等からなる自然堆積。			114	土坑
R D 1007	3 B 23 h	不整形円形 114×(100)	11.3 N-20°-W		地山ブロックを含む黒褐色土の厚層。人為堆積。			106	中世
R D 1008	3 B 23 h	不整形 96×60	7.4 N-54°-W		人為堆積。地山ブロックを含む黒褐色土の厚層。			114	墓壇
R D 1009	3 B 23 h	不整形 96×76	16.8 N-1°-E		人為堆積。地山ブロックを含む黒褐色土の厚層。			114	中世
R D 1010	3 H 23 g	不整形方形 88×68	6 N-12°-W		地山ブロックを含む黒褐色土の厚層。人為堆積。			114	墓壇
R D 1011	3 B 8 i	方形基壇 108×92	12.9 N-88°-W		人為堆積。地山ブロックを含む黒褐色土の厚層。			107	中世
R D 1012	3 B 10 b	長方形基壇か (130)×(80)	10.5 N-39°-E		黒褐色土に地山ブロックを含む人為堆積。			115	墓壇
R D 1013	3 B 11 g	長方形基壇か 170×70	12.7 N-13°-E		黒褐色土に地山ブロックを含む人為堆積。	平安時代の土師器 甕2片		108	中世
R D 1014	3 B 14 h	隅丸長方形 180×114	25.8 N-81°-W		地山ブロックを多量に含む黒褐色土の厚層。人為堆積。			115	墓壇
R D 1015	3 B 22 g	隅丸長方形 146×117	42.9 N-74°-W		地山ブロックを多量に含む黒褐色土の厚層。人為堆積。		R C 1018より新	108	中世

遺構名	位置	平面形		向き	垣	土	出土遺物	備考	図版 写真	埋没 時期
		開口部径(cm)	長さ方向							
R D1016	3 B18h	方形基調 122×113	14.7	N-89°	-W	黒褐色土を主体とし地山ブ ロックが混じる。		R D1015より	115 109	墓塚 中世
R D1017	3 B17k	長方形基調 (112)×91	14.3	N-74°	-W	人為堆積。地山ブロックを 含む黒褐色土主体。			115 109	墓塚 中世
R D1018	3 B22k	隅丸長方形 (183)×106	26.7	N-90°	-E	地山ブロックを多量に含む 黒褐色土の単層。人為堆積。			113 109	墓塚 中世
R D1019	3 B16h	隅丸長方形 118×95	17.7	N-71°	-W	黒褐色土に地山ブロックを 含む人為堆積。			116 108	墓塚 中世
R D1020	3 B15h	隅丸長方形 142×68	14.9	N-15°	-W	黒褐色土の単層。人為堆積。			116 110	墓塚 中世
R D1021	3 B9k	隅丸長方形 125×76	19	N-30°	-E	黒褐色土の単層。人為堆積。	土師器片1片		110 110	中世 中世
R D1022	3 B22h	隅丸長方形 148×108	29.1	N-4°	-E	多量の地山ブロックを含む 人為堆積。			110 116	中世 墓塚
R D1023	3 B11i	隅丸長方形 224×100	21.1	K-71°	-W	人為堆積。灰・造止ブロッ クを含む黒褐色土。	土師器片1片		110 116	中世 墓塚
R D1024	3 B1g	不明 1100×40	41.9	N-78°	-W	黒褐色土の単層。			116 111	墓塚 中世
R D1025	3 B13i	隅丸長方形 166×90	35.8	N-76°	-W	黒褐色土の単層。人為堆積。			117 111	墓塚 中世
R D1026	3 B1j	隅丸長方形 140×94	41.9	N-72°	-W	人為堆積の様相を呈する。			116 111	墓塚 中世
R D1027	3 B13k	不整形 124×110	12.6	S-88°	-W	地山ブロックを多量に含む 土色土。人為堆積。	土師器片2片		117 111	墓塚 中世
R D1028	3 B14i	隅丸長方形 220×64	16.2	N-4°	-E	黒褐色土を主体とし、上位 に地山ブロックを多量に含 む。			117 112	墓塚 中世
R D1029	-	不整形 -	-	-	-	黒褐色土を主体に、その中 に地山ブロックを含む。			112	中世
R D1030	3 B14j	-	18.8	-	-	黒褐色土を主体とし、その 中に地山ブロックを多量に 含む。			117 112	墓塚 中世
R D1031	3 B14i	-	17.8	-	-	地山ブロックを多量に含む 人為堆積。			117 112	墓塚 中世
R D1032	3 B16j	-	25.6	-	-	地山ブロックを多量に含む 人為堆積。			117 113	墓塚 中世
R D1033	3 B10i	梅写形 158×81	20	N-65°	-W	黒褐色土中に地山ブロック を不規則に含む人為堆積。			118 113	墓塚 中世
R D1034	4 C18k	不整形 188×148	62.2	N-120°	-E	黒褐色土を主体としその隙 間に灰・焼土及び褐色土等 が混雑。人為堆積でよいと 思われる。	土師器396、その他奈良時代の要 1、環網壺1点、 鉄釘	溝より新	118 113	土坑 中世か
R D1035	4 C19p	隅丸長方形 100×61	16.2	N-83°	-E	注記なし。			118 113	土坑 中世か
R D1036	4 C19m	不整形 134×126	52.3	N-83°	-E	黒褐色土中に地山ブロッ クを不規則に含む人為堆積。			118 114	土坑 中世か
R D1037	4 C21n	不整形 251×190	38.1	N-78°	-W	黒色土、黒褐色土、地山ブ ロック等で構成される人為 堆積。			118 114	土坑 中世か
R D1038	4 C23p	長方形基調 587×174	17.8	N-32°	-E	地山ブロックを多量に含む 黒褐色土の単層。		R G358より新	119 114	土坑か 中世か



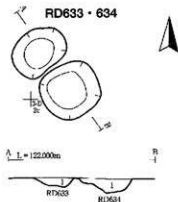
RD596

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘土やや有り。礫まじり有り。火山ブロック多量含む。



RD626

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘粒、礫まじりやや有り。

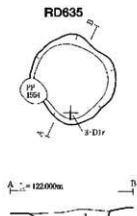


RD633

1. 10YR2/3 黒褐色土 火山ブロック多量含む。粘粒、礫まじりやや有り。

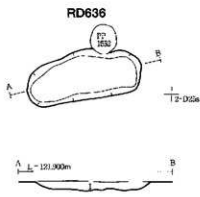
RD634

1. 10YR2/3 黒褐色土 粘粒、礫まじりやや有り。



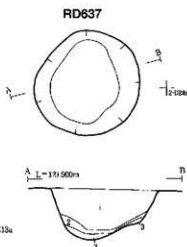
RD635

1. 10YR2/3 黒褐色土 部分的に粘土土ブロック含む。粘粒、礫まじりやや有り。(自然)



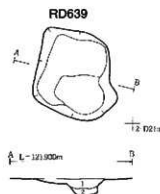
RD636

1. 10YR2/3 黒褐色土 部分的に褐色土ブロック少量含む。粘粒、礫まじりやや有り。(自然)



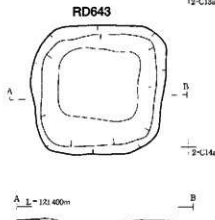
RD637

1. 10YR2/3 黒褐色土 粘土土ブロック少量含む。粘粒やや有り。礫まじり有り。
2. 10YR5/6 黄褐色砂質土 粘粒。礫まじりやや有り。
3. 10YR2/1 黒色土 小礫少量含む。粘土やや有り。礫まじり有り。



RD639

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘土、粘粒少量含む。粘粒やや有り。礫まじり有り。
2. 10YR2/3 黒褐色土 火山ブロック少量含む。粘土やや有り。礫まじり有り。

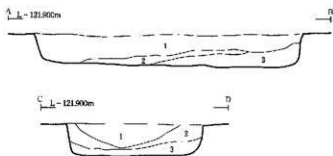
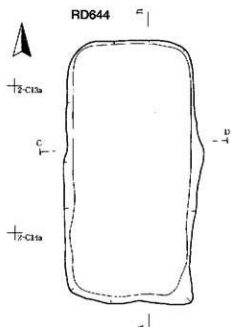


RD643

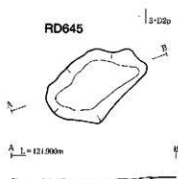
1. 10YR2/3 黒褐色土 火山ブロック少量含む。粘粒、礫まじりやや有り。



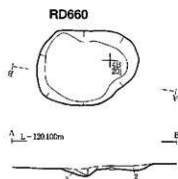
第101図 RD土坑(1)



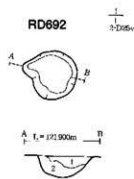
- RD644
1. 10YR2/3 緑褐色土 地山ブロック多量を含む。粘性、締まりや有り。
 2. 10YR2/2 黒褐色土 地山ブロック多量を含む。粘性、締まりや有り。
 3. 10YR3/3 紅褐色土 粘性やや有り、締まりや有り。



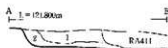
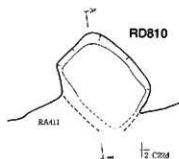
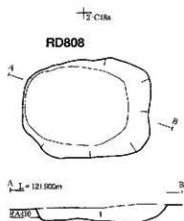
- RD645
1. 10YR2/3 緑褐色土 シルト 粘性やや有り、締まり有。(厚2~5mmの小礫を全体に含んでいる)
 2. 10YR4/1 褐色土 シルト 粘性やや有り、締まり有。(厚2mm~3cm程度の小礫を含んでいる)



- RD660
1. 10YR3/1 茶褐色土 粘性有り、締まり有。
 2. 10YR2/2 黒褐色土 粘性、締まり有り。多量の地山ブロックと混合する。
 3. 腐植



- RD692
1. 10YR2/3 緑褐色土 地山ブロック多量含む。粘性、締まりや有り。
 2. 10YR2/3 緑褐色土 地山ブロック多量含む。粘性、締まりや有り。



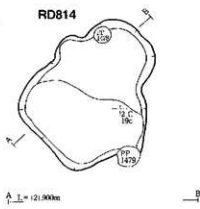
- RD810
1. 10YR3/2 茶褐色土 地山ブロック多量含む。粘性やや有り、締まっている。
 2. 10YR2/3 緑褐色土 粘性有。締まりや有り。



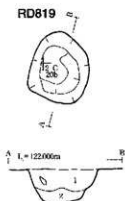
- RD808
1. 10YR3/2 茶褐色土 地山ブロック多量含む。粘性やや有り、締まっている。

0 1:50 1m

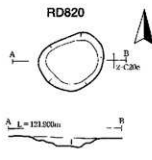
第102図 RD土坑(2)



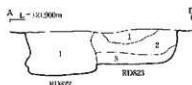
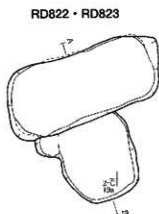
- RD814
1. 10YR2/2 黒褐色砂質土 柱小塚、地山ブロック埋込あり。
粘性强、粘まりやや有り。
2. 10YR3/3 灰褐色砂質土 粘性强、粘まっている。



- RD819
1. 10YR2/2 黒褐色土 自然層あり。
粘性、粘まりやや有り。
2. 10YR3/3 灰褐色土 地山ブロック多量含む。
粘性、粘まりやや有り。

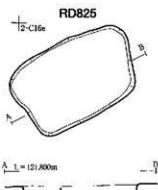


- RD820
1. 10YR2/2 黒褐色砂質土 地山ブロック埋込あり。
粘性、粘まりやや有り。

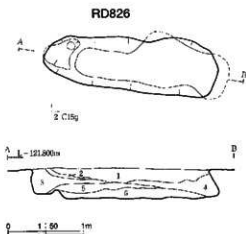


- RD822
1. 10YR3/2 黒褐色土 粘性强、粘まりやや有り。
300粒/3%有り、1-2cmの減少性含む。(5-7%)

- RD823
1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや有り、粘まり有り。
300粒/5%有り。
2. 10YR2/2 黒褐色土 粘性有り、粘まり有り。
地山約1%含む。
3. 10YR2/2 黒褐色土 10YR4/40層上との境面上。
粘性、粘まり有り。



- RD825
1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性、粘まり有り。
地山ブロック約10-15%含む。(人島と認む)



- RD826
1. 10YR2/1 灰褐色土 粘性、粘まり有り。
粘強含む。
2. 10YR2/1 灰褐色土 粘性、粘まり有り。
地山ブロック少量含む。
3. 10YR2/2 黒褐色土 粘性、粘まり有り。
地山ブロック多量含む。
4. 10YR2/2 黒褐色土 粘性、粘まり有り。
流土痕跡あり。(底の4cm以上は流土)
5. 10YR2/2 黒褐色土 粘性有り、粘まりやや有り。
底1穴僅量有り。地山約多量に含む。
6. 10YR2/2 黒褐色土 地山以上の境面上。
粘性やや有り、粘まり有り。

第103図 RD土坑(3)

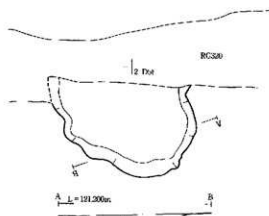
RD827



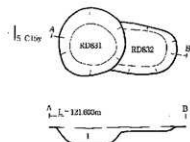
RD827

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘りやや有り、硬まり有。
(堀山ブロックと酸化鉄土全体に多く見込んでいる)
2. 10YR2/2 黒褐色土 粘り中なり、硬まりやや有。
(酸化鉄を少し含む)
3. 10YR2/2 黒褐色土 粘りやや有り、硬まりやや有。
(酸化鉄と堀山ブロックを少量含む)

RD828

RD828
記載なし

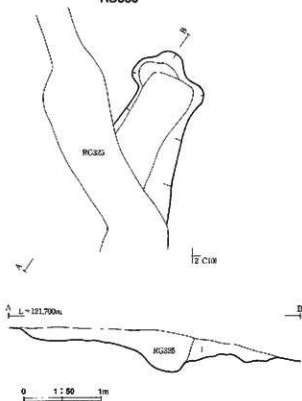
RD831・832



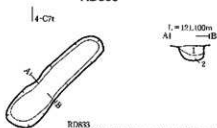
RD831・832

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘り有り、硬まりやや有。

RD830



RD833



RD833

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘り、硬まり有り。
水酸化鉄土多量を含む。
2. 10YR4/3 に近い黄褐色土。水酸化鉄土多量を含む。

RD830

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘りやや有、硬まり有り。
堀山ブロック多量を含む。水酸化鉄土少し見込める。

第104図 RD土坑(4)

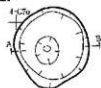
RD926



RD926

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性、締まり有り。
地山段少量含む。
2. 地山 (砂) (5%) 粘滞なし。締まりやや有り。

RD927



RD927

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性、締まり有り。
2. 地山土 (4%)

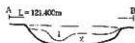
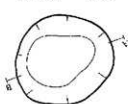
RD928



RD928

1. 10YR2/3 黒褐色土 粘性、締まり有り。
2. 10YR3/2 黒褐色土 粘性、締まり有り。

RD929



RD929

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや有り。締まりやや弱。
2. 10YR4/3 灰色黄褐色粘砂土 粘性、締まり弱。
3. 10YR3/2 黒褐色土少量含む。

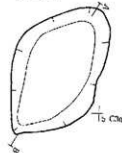
RD930



RD930

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや有り。締まりやや弱。
(地山ブロックも多く含む)
2. 黄土

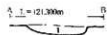
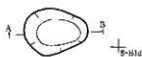
RD931



RD931

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性、締まり有り。
地山段少量含む。(厚に硬5-10cm大砂層含む)

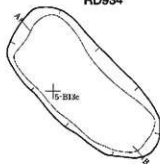
RD933



RD933

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性、締まり有り。
地山段少量含む。
(黄土)

RD934

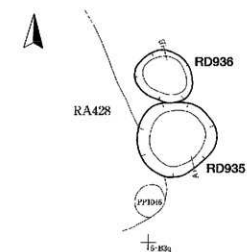


RD934

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性、締まり有り。
地山ブロック少量含む。灰砂層含む。
(硬土層に少量砂層が見える) 1. 陶器片
少量含む。(認めぬ)

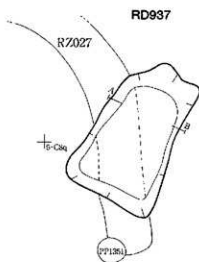
場所によって地山土の入れ込みの量が違ふ。
互率的に同じ土

第105図 RD土坑 (5)



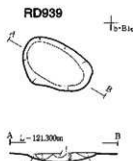
RD935 RD936

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・粘まり有り。
2. 1cm程度の礫多量に含む。断面はつきりしない。



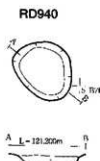
RD937

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・粘まり有り。実地物。断面はつきりしない。3-15cm程度の礫多量に含む。



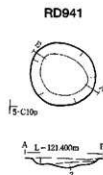
RD939

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや有り。粘まり有り。
2. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・粘まりやや有り。礫山土多量に含む。
3. 10YR2/2 黒褐色土 粘り・粘まりやや有り。断面はつきりしない。



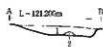
RD940

1. 10YR2/2 黒褐色粘り土 粘性無し。粘まりやや有り。
2. 2-3cm程度の礫多量に含む。



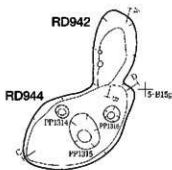
RD941

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや有り。粘まりやや有り。
2. 10YR2/4 暗褐色粘り土 粘り有り。(断面は深さ2-3cmの小礫あり)



RD942 A-B

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・粘まり有り。断面を全厚に少含む。
2. 10YR4/4 褐色粘り土 粘性無し・粘り有り。



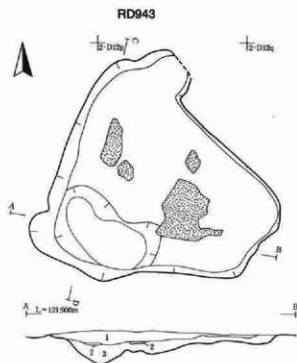
RD944



RD944 C-D

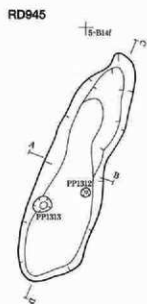
1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・粘り有り。断面中に小礫を僅かに含む。
2. 10YR4/4 褐色土 粘性・粘り有り。断面中に層をブロック状に含む。

0 1:50 1m



RD943

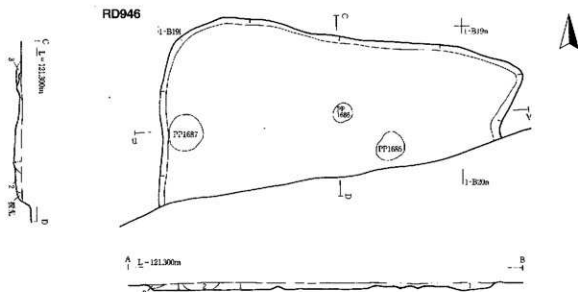
1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性弱、固く締まる。
※酸化鉄質、地山粒少量含む。
2. 灰化層
3. 10YR2/2 黒褐色土 粘性に富む、地山ブロックを多量含む。
凝合土、灰化物少量含む。
4. 10YR3/1 黒褐色土 粘性弱、締まり有り。
灰化物多く含む。
5. 10YR2/2 黒褐色土と10YR4/6 褐色土との混合土粘性有り。
締まり弱、凝土粒少量含む。



RD945

1. 10YR2/2 黒褐色土 凝合土ブロックを少量含む。
粘性やや有り、締まり有り。
2. 10YR4/6 褐色土 粘性弱、締まりやや有り。

第107図 RD土坑 (7)



RD946

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘質、粘り有り、
焼土は少量含む。
2. 10YR2/3 灰褐色土 粘質、粘り有り、
焼土は少量含む。

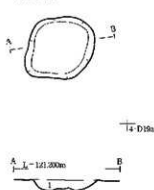
RD947



RD947

1. 10YR3/1 黒褐色土 粘質、粘り有り、
焼土ブロック少量含む、未酸化程度含む。
2. 10YR3/1 灰褐色土と黄土 (10YR4/4 褐色土)
との混合土、粘性に富む、粘りやや弱。

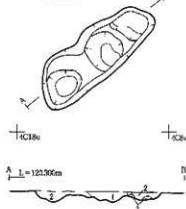
RD948



RD948

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや弱。
- 焼土ブロック少量含む。

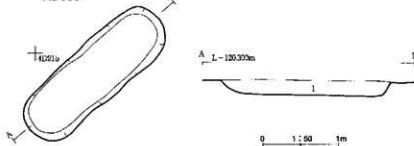
RD949



RD949

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘質やや弱、粘まっている。
焼土ブロック少量含む。
2. 10YR2/3 灰褐色土 粘性やや弱、粘まっている。
焼土ブロック少量含む。
3. 10YR4/4 褐色土 粘性やや弱、粘まっている。
焼土ブロック少量含む。

RD950

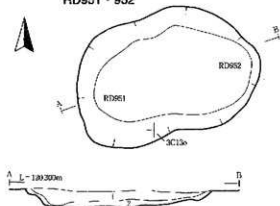


RD950

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘質、粘りやや弱、
焼土ブロック断片を少量含む。

第108図 RD土坑(8)

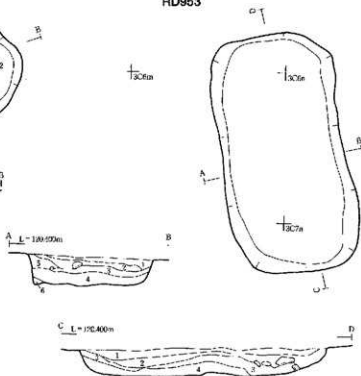
RD951・952



RD951・952

1. 10YR2/2 黒褐色シロト 粘性、締まり中、灰褐色土が小ソコック状に入る。
2. 10YR2/1 黒色シロト 粘性やや強、締まり中、前に10YR3/1を混雑。

RD953



RD953

1. 10YR2/2 黒褐色シロト 粘性やや強、締まり中。
2. 10YR2/1 黒色粘質シロト 粘性強し、締まりやや強、灰化斑点。
3. 10YR2/3 赤い灰褐色粘質シロト 粘性强、締まりやや強、灰化斑点多く含む。
4. 10YR2/4 赤い灰褐色粘質シロト 粘性強、締まりやや強。
5. 10YR2/2 黒褐色シロト 粘性、締まり中。
6. 10YR2/1 赤い黄褐色土 灰じりもの多し、粘性強、締まり中。

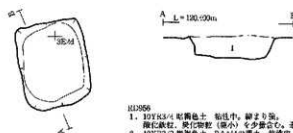
RD954



RD954

1. 10Y2/2 黒褐色土 粘性ややあり、締まりやや強、灰褐色土を少量含む。上部に硬土粒、灰少を含む。
2. 10Y2/4 赤色土 粘性ややあり、締まり中、土の上を多少含む。

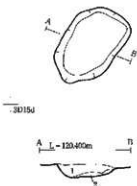
RD956



RD956

1. 10YR3/1 赤褐色土 粘性中、締まり強、灰化斑粒、灰化斑粒(微小)を少量含む、土物混入。
2. 10YR3/2 黒褐色土 RA444の硬土 粘性中、締まりやや強、灰化斑粒を少し含む。

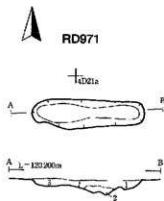
RD955



RD955

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性中、締まりやや無し、灰褐色の硬土、灰褐色土(10YR2/1)を少量含む、灰を少し含む。
2. 10YR2/4 赤色土 粘性ややあり、締まり中、灰褐色の上を少し含む、粘性が強い。

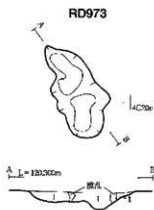
第109図 RD土坑(9)



RD971

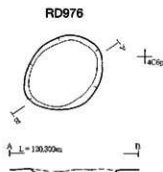
1. 10YR2/3 黒褐色土 粘土。締まりやや有り。
2. 10YR2/3 黒褐色土 粘土。締まりやや有り。堆山ブロッコ多量に含む。
3. 10YR3/3 暗褐色土 粘土。締まり弱。

堆山ブロッコ混入含む。



RD973

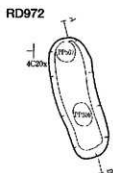
1. 10YR3/3 暗褐色土 粘土。締まりやや有り。堆山ブロッコ細小粒を混入含む。



RD976

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘土。締まり有り。締まり弱。

〔全体に堆山ブロッコを含まない〕

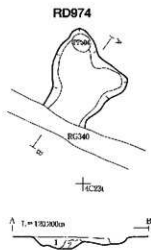


RD972



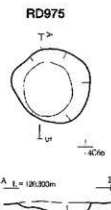
RD972

1. 10YR3/2 黒褐色土 粘土。締まりやや有り。堆山ブロッコ少量含む。
2. 10YR3/2 黒褐色土 粘土。締まりやや有り。堆山ブロッコ多量含む。
3. 10YR3/2 暗褐色土 粘土。締まりやや有り。堆山ブロッコ少量含む。
4. 10YR4/3 に近い暗褐色土と黒褐色土の混合土 粘土。締まりやや有り。



RD974

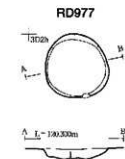
1. 10YR2/3 黒褐色土 粘土やや弱。締まり有り。
2. 10YR3/2 黒褐色土と堆山土 (10YR4/4 褐色土) との混合土。粘土非常に有り。締まりやや弱。



RD975

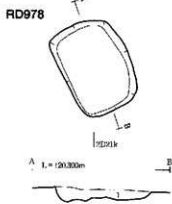
1. 10YR2/2 黒褐色土 粘土有り。締まり密。

〔全体に堆山ブロッコを含まない〕



RD977

1. 10YR3/2 黒褐色土 粘土やや弱。締まり有り。水酸化鉄質含む。



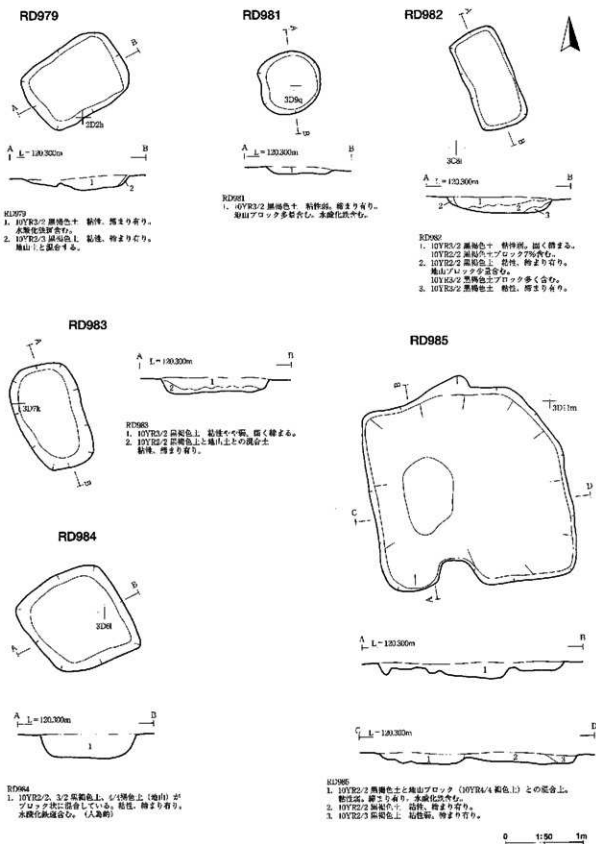
RD978

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘土やや弱。締まり有り。水酸化鉄質含む。

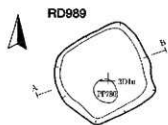
〔所しい 面とみだつ〕

0 1:50 1m

第110図 RD土坑 (10)



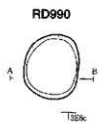
第111図 RD土坑 (11)



A L=120.300m B



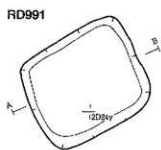
RD989
1. 10YR4/3 に近い黄褐色土。粘性ややあり、締まりや弱。水酸化鉄が少量見える。



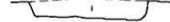
A L=120.300m B



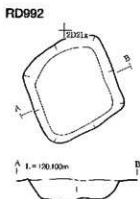
RD990
1. 10Y5/3 の黒褐色土。粘性やや弱・締まり有り。灰・焼土が少量を含む。



A L=120.300m B



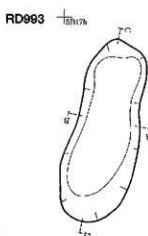
RD991
1. 10YR2/2 黒褐色土。粘性やや弱・締まり有り。水酸化鉄を含む。灰も少量含む。



A L=120.300m B



RD992
1. 10Y5/3 の黒褐色土。粘性やや弱・締まり有り。



A L=121.100m B



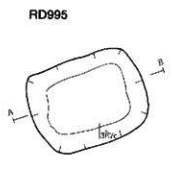
RD993
1. 10YR2/2 黒褐色土。粘性有り、締まり密。(灰作に黒山ブロックと水酸化鉄を含んでいる)



A L=120.300m B



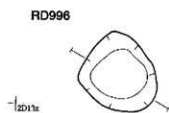
RD994
1. 10YR2/2 黒褐色土と黒山ブロック (10YR4/1 褐色土) との混合土。粘性やや弱。締まり有り。灰少量を含む。
2. 10YR3/2 黒褐色土。粘性。締まり有り。



A L=120.300m B



RD995
1. 10YR2/2 黒褐色土。粘性ややあり。締まり弱。黒山ブロック多量を含む。
2. 10YR4/3 に近い黄褐色土。粘性。締まりややあり。



A L=120.300m B



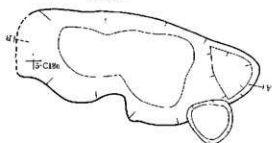
RD996
1. 10YR2/2 黒褐色土。粘性やや弱・灰く見える。

0 1:50 1m

第112図 RD土坑 (12)



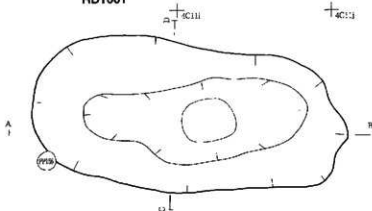
RD998



RD998

1. 10YR2/1 黒褐色土 粘質あり、膠まりやあり。
2. 10YR3/3 灰褐色土 粘性強、膠まりやあり。
3. 10YR1/1 黒色粘土 粘性強、膠まりやあり。
4. 10YR2/2 黒褐色土 粘質ややあり、膠まりやあり。
5. 10YR3/3 灰褐色土 粘質ややあり、膠まりやあり。
(4層を部分的に含む)
6. 10YR5/3 黄褐色粘土 粘性強、膠まりやあり。
(粘質層厚さ5cmを含んでいる)
7. 10YR3/3 灰褐色土 粘質あり、膠まりあり。
(堆山ブロックを少量含む)

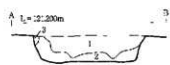
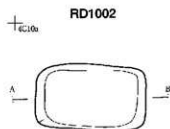
RD1001



RD1001

1. 10YR2/3 黒褐色土 堆山ブロックを少量含む。
水酸化鉄皮あり、粘性、膠まりあり。
2. 10YR2/3 黒褐色土 粘性、膠まりあり。
3. 10YR2/2 黒褐色土 堆山ブロックを少量含む。
粘性、膠まりあり。
4. 10YR2/3 黒褐色土 堆山ブロックを少量含む。
粘性、膠まりあり。
5. 10YR3/3 灰褐色土 明褐色砂質土。
粘性、膠まりあり。

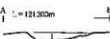
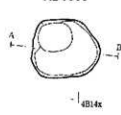
RD1002



RD1002

1. 10YR2/3 黒褐色土 多量の堆山塊と混合している。
粘土質をほとんど、粘性ややあり、膠まりあり。
2. 10YR2/3 黒褐色土 多量の堆山ブロックと混合。
水酸化鉄皮が少量見える。粘性、膠まりあり。
3. 10YR2/2 黒褐色土 粘質ややあり、膠まり弱。

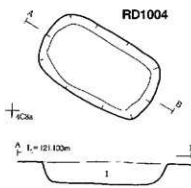
RD1003



RD1003

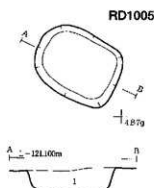
1. 10YR3/1 灰褐色土 粘性、膠まりあり。
堆山ブロックを少量含む。

0 1:50 1m



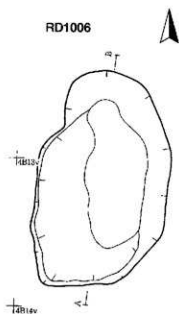
RD1004

1. 10YR2/3 灰褐色土 堆山ブロックを多量に含む。胎石有り・跡まり有り。



RD1005

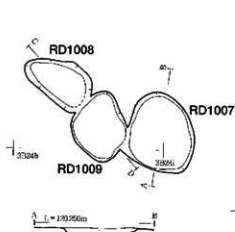
1. 10YR2/3 灰褐色土 堆山の土ブロックを多量に含む。胎石、跡まりやや有り。



RD1006

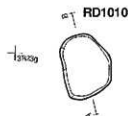
RD1006

1. 10YR2/3 灰褐色土 胎石、跡まりやや有り。
2. 10YR2/1 黒色土 胎石の土ブロックを少量含む。胎石、跡まりやや有り。
3. 10YR2/2 黒褐色土 胎石、跡まりやや有り。
4. 10YR2/3 灰褐色土 堆山の土ブロックを多量含む。胎石、跡まり有り。
5. 10YR2/3 灰褐色土 胎石、跡まりやや有り。
6. 10YR2/5 赤褐色砂質土 胎石、跡まりやや有り。



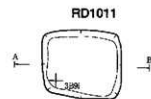
RD1007

1. 10YR2/3 灰褐色土 胎石やや有り、同く跡まっている。堆石は多く含む。少量含む。



RD1010

1. 10YR2/1 黒色土 胎石、跡まり有り。堆山が多量含む。水酸化鉄を含む。



RD1011

1. 10YR2/2 黒褐色土 胎石やや有り。跡まり有り。多量の堆山土と混合する。(部破、人海物)

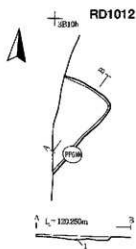


RD1008 - RD1009

1. 10YR2/3 灰褐色土 胎石、跡まり有り。堆山土多く含む。水酸化鉄含む。
2. 10YR2/3 灰褐色土 胎石、跡まり有り。

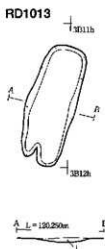


第114図 RD土坑 (14)



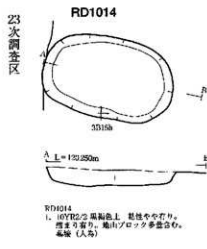
RD1012

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや有り。締まりやや弱。多量の堆山土と混入する。



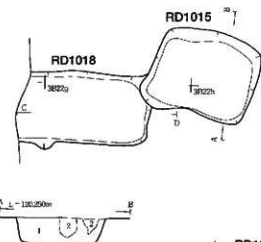
RD1013

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや有り。強く締まっている。水酸化鉄塊見える。堆山土を多量含む。鉄少量有り。(本邦によって大部分別られている)



RD1014

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや有り。締まり有り。堆山ブロック多量含む。腐植(入有)



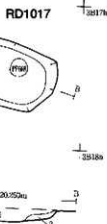
RD1015

1. 10YR3/3 黒褐色土 粘性やや有り。締まり有り。堆山ブロック多量含む。水酸化鉄塊有り。
2. 10YR2/1 黄褐色土 粘性やや有り。締まり有り。水酸化鉄塊含む。



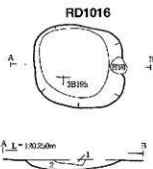
RD1016

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや弱。締まり有り。堆山土。水酸化鉄塊多く含む。(腐植)



RD1017

1. 10YR2/3 黒褐色土 粘性やや有り。締まり有り。堆山ブロック少量含む。
2. 10YR2/2 黒褐色土 粘性。締まり有り。鉄土との混入。(腐植)

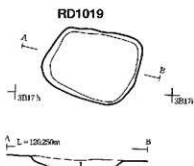


RD1016

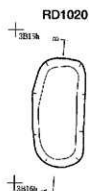
1. 10YR2/3 黒褐色土と堆山土の混合土 粘性。締まり有り。水酸化鉄塊少量含む。
2. 10YR2/1 黄褐色土 粘性。締まり有り。水酸化鉄塊多く含む。

0 1:50 1m

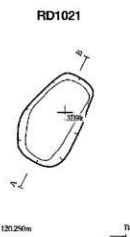
第115図 RD土坑 (15)



RD1019
 1. 10YR2/1 黒褐色土 粘性あり、締まりや中間、水酸化鉄多量を含む。地山は少量含む。

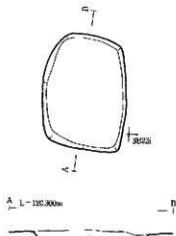


RD1020
 1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性あり、締まりや中間、水酸化鉄多量を含む。



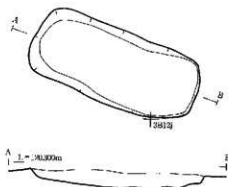
RD1021
 1. 10YR3/1 黒褐色土 粘性や中間、締まりあり、水酸化鉄多量を含む。

RD1022

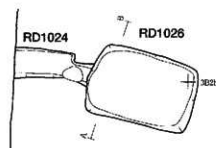


RD1022
 1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや有り、締まりあり、多量の焼山土と混合している。灰、炭土少量含む。

RD1023



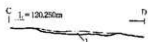
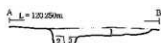
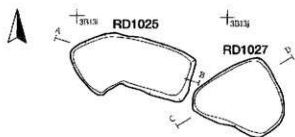
RD1023
 1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや有り、締まり有り、焼山ブロック、水酸化鉄多量を含む。炭土少量含む。



RD1026
 1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや有り、締まりあり、多量の水酸化鉄混入。



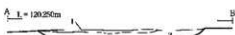
第116図 RD土坑 (16)



- RD1025
1. 10YR2/2 黒褐色土、粘性やや有り、固く締まる。水酸化鉄質多く含む。礫多量含む。
 2. 10YR2/1 赤土、粘性強、締まり弱。水酸化鉄質含む。堆山ブロッケ多く含む。(注欠?)
 3. 10YR2/1 赤土、粘性強、締まり弱。水酸化鉄質含む。

- RD1027
1. 10YR2/1 赤土、粘性、締まり有り。水酸化鉄質、堆山礫多量含む。灰少量含む。

RD1028



- RD1028
1. 10YR2/2 黒褐色土、粘性やや有り、締まり有り。堆山ブロッケ多量含む。
 2. 10YR2/1 赤褐色土、粘性有り、締まり弱。水酸化鉄質多量混入する。

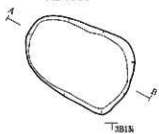
3B115

RD1031



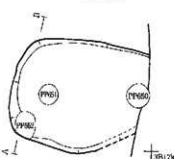
- RD1031
1. 10YR2/2 黒褐色土、粘性、締まり有り。堆山ブロッケ多量含む。水酸化鉄質含む。灰含む。

RD1030



- RD1030
1. 10YR2/2 黒褐色土、粘性やや強、締まり有り。水酸化鉄質多く含む。
 2. 10YR2/2 黒褐色土、粘性やや強。10YR2/2 赤褐色土、ブロッケ多量含む。水酸化鉄質含む。

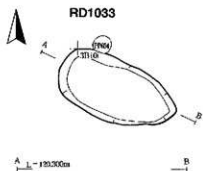
RD1032



- RD1032
1. 10YR2/2 黒褐色土、粘性有り、締まりやや弱。堆山ブロッケ多量含む。水酸化鉄質含む。
 2. 10YR2/2 黒褐色土、堆山ブロッケ(灰)多量含む。灰少量含む。水酸化鉄質含む。(注欠)

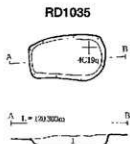
0 1:50 1m

第117図 RD土坑 (17)



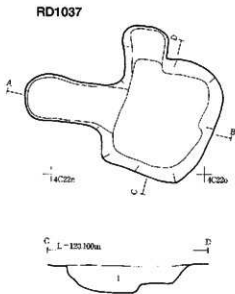
RD1033

1. 10YR2/3 黒褐色土 粘性あり。腐まっています。地山ブロック多量含む。
2. 10YR2/3 黒褐色土-灰色土 粘付きあり。腐まったりややろ。地山ブロック少量含む。



RD1035

1. 10YR2/3 黒褐色土 粘性ややろ。腐まったりあり。地山ブロック多量含む。



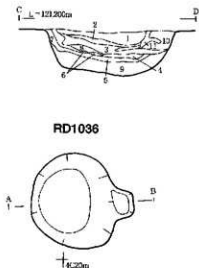
RD1037



RD1034

RD1034

1. 10YR2/1 黒色土 粘性ややろ。腐まったり。
2. 10YR2/2 黒色土 粘付きあり。腐まったりややろ。灰 土上少量含む。
3. 10YR2/2 黒色土 粘性あり。腐まったりややろ。灰。地山ブロック少量含む。
4. 5YR3-4 可水褐色粘土 粘性ややろ。腐まったりややろ。地山ブロック多量含む。
5. 10YR2/1 黒色土 粘性あり。腐まったりややろ。地山ブロック多量含む。
6. 灰化体層
7. 10YR2/2 黒褐色土 粘性弱。腐まったり。多量の粘土。灰。地山ブロックと混合している。
8. 10YR4-6 褐色土 粘性ややろ。腐まったり。10YR2/2 黒褐色土が少量に混合している。
9. 10YR4-6 褐色土 粘付き。腐まったり。
10. 10YR2/2 褐色土が少量に混合している。
11. 10YR2/3 暗褐色土 粘性弱。腐まったり。



RD1036

RD1036

1. 10YR2/2 黒褐色土 水酸化鉄斑有。地山ブロック少量含む。粘付き。腐まったりややろ。
2. 10YR2/2 黒褐色土 水酸化鉄斑を多量に含む。粘性あり。腐まったりややろ。
3. 10YR2/1 黒色土 地山ブロック (砂質) 多量含む。粘性あり。腐まったりややろ。

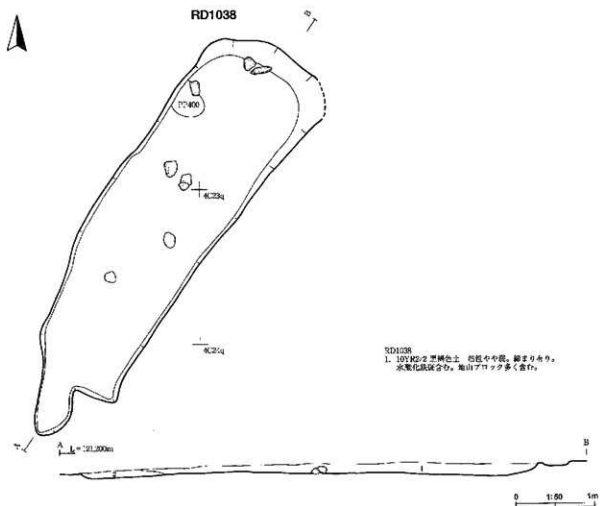


RD1037

1. 10YR2/1-2/2 黒色土-灰褐色土 地山ブロックの混合土。粘付きあり。腐まったり。水酸化鉄斑多く含む。
2. 10YR2/3 暗褐色土 地山ブロック多量含む。粘性ややろ。腐まっています。
3. 10YR2/1 黒色土 粘性ややろ。腐まったりややろ。(焼成体含む)

0 1:50 1m

第118図 RD土坑 (18)



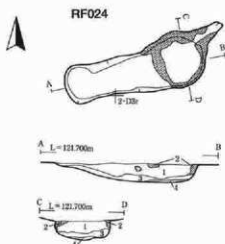
第119図 RD土坑 (19)

6 焼土・炉跡

今回の26次調査では8基の炉跡を検出した。検出された位置は、遺跡西側で2基、その他は遺跡南東部から6基と大きく2つに分かれる。RF024・052・054・056は所外に設置されたカマド状施設の下部だけが残存しているものと思われる。RF024は比較的残りが良く焼土の広がりからドーム状に作られた燃焼部の壁面を想定できる。加えて運出し状の張り出しも確認されている。RF055・056やRF057・058は同じ施設の作り替えてであろう。各遺構の詳細は「一覧表」にまとめてみた。

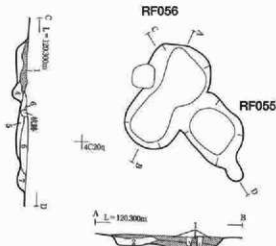
焼土・炉跡観察表

遺構名	位置、検出面	焼土の規模と厚さ (cm)	特 徴	出土遺物	備考(現地性か、重複、時期)	図版	写真
RF024	2-D2r N西	195×77 27	平野形は長円形で、その東側壁際に沿ってのみ焼土が円形に見られた。西側が突き口でこの東側が燃焼部という構造で東端の一部から運出し状の縦長い張り出しを確認。	出土遺物なし	平野されていないが、焼土のプランの上にはカマドがドーム状につくられていたであろう。時期は中貝か近世と思われる。	120	115
RF052	4-C17a N西	165×47 15	小整長円形プラン。その長辺部となる壁面が炭化している。南端部は煙出し、北端部が突き口、壁面が焼けている中央が燃焼部と考えられる。	出土遺物なし	所外カマド的な施設と考えられ、天井部は失われている。時期は中貝若しくは近世と思われる。	120	
RF054	4C18r N西	230×115 20	狭山を掘り込みその底面に一部炭が広がる。その上に焼土ブロック、さらに上に黒褐色土と焼土の混土が堆積。	出土遺物なし	現地性。天井部は失われた野外カマド状の施設と思われる。中世の遺構であろう。	120	116
RF055	4C19q N西	140×60 15	狭山を掘り込み、その中に焼土・炭粒・黒褐色土などが不規則に堆積。	出土遺物なし	現地性。屋外で中世の遺構と思われる。RF056より新。張り替え。	120	116
RF056	4C19q N西	155×87 20	狭山を掘り込み、その中に焼土・炭粒・黒褐色土などが不規則に堆積。	出土遺物なし	現地性。屋外で中貝の遺構と思われる。RF055より旧。張り替え。	120	116
RF057	4C21r N西	106×95 10		出土遺物なし	RF058より旧。張り替え。	121	117
RF058	4C21r N西	150×93 15		出土遺物なし	RF057より新。張り替え。	121	117
RF059	3D11p N西	110×100 8	浅い窪みに黒褐色土と焼土と炭粒が少量混じる。	出土遺物なし	現地性ではない。時期は新しいかもしれない。	121	117



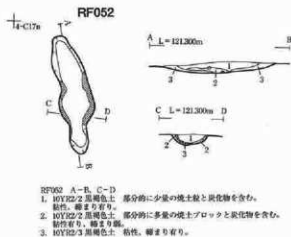
RF024 A-B, C-D

1. 10YR2/2 黒褐色土 中小礫層を含む。粘性。締まりやや有り。
2. 25YR4/6 赤褐色焼土 粘性弱。締まっている。(断面にあたる)
3. 10YR2/3 黒褐色土 焼土層を多量に含む。粘性。締まりやや有り。
4. 炭化物が埋められている。焼られた感じはない。



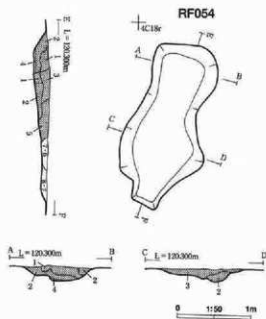
RF055・RF056 A-B, C-D

1. 10YR3/1 黒褐色土 多量の焼土ブロック、炭。火山ブロックの混合土。粘性。締まり有り。
2. 10YR3/2 黒褐色土 粘性有り。締まりやや弱。多量の火山ブロック。炭。焼土粒少量含む。
3. 10YR2/2 黒褐色土 粘性有り。締まりやや弱。多量の炭。焼土粒含む。(ほぼ炭化物)
4. 10YR2/2 黒褐色土 粘性有り。締まり弱。焼土粒少量含む。
5. 10YR2/2 黒褐色土 粘性。締まり有り。炭。焼土粒。火山粒少量含む。
6. 10YR3/1 黒褐色土 粘性やや弱。締まり有り。火山ブロック。炭。焼土粒多量含む。
7. 10YR3/3 暗褐色土 粘性。締まり有り。
8. 焼土土 (10YR4/4 黒褐色土)



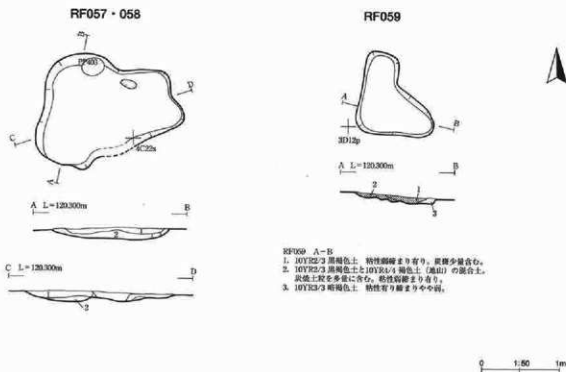
RF052 A-B, C-D

1. 10YR2/2 黒褐色土 部分的に少量の焼土粒と炭化物を含む。粘性。締まり有り。
2. 10YR2/2 黒褐色土 部分的に多量の焼土ブロックと炭化物を含む。粘性有り。締まり弱。
3. 10YR2/3 黒褐色土 粘性。締まり有り。



RF054 A-B, C-D

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性。締まり有り。火山ブロック多量含む。炭。焼土粒少量含む。
2. 10YR2/2 黒褐色土と炭。焼土粒の混合土 粘性。締まり有り。
3. 10YR2/2 黒褐色土 粘性。締まり有り。火山ブロック。炭。焼土粒少量含む。
4. 炭化物
5. 10YR2/2 黒褐色土 粘性。締まりやや有り。炭。焼土粒少量含む。
6. 10YR2/1 黒褐色土 粘性有り。固く締まる。火山粒少量含む。
7. 10YR3/2 暗褐色土と火山ブロックの混合土 粘性。締まりやや弱。



第121図 RF焼土・伊跡（2）

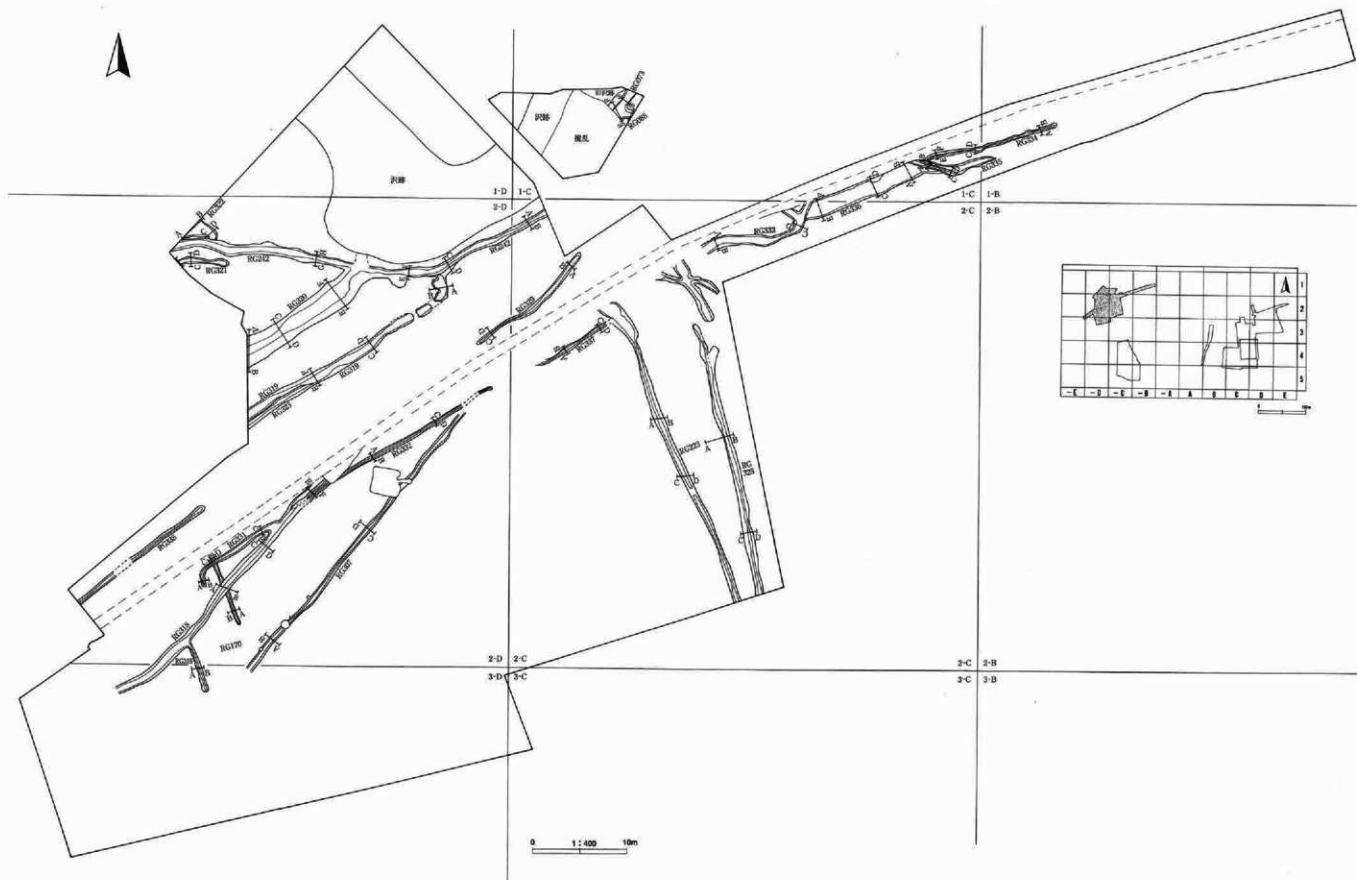
7 溝跡

調査区の全域に渡り、大小合わせて45条が検出されているが、これらは検出面において、後年の耕作や土木工事による削平を随所で受けており、溝跡が途中で出現・消滅している例がいくつも存在する。

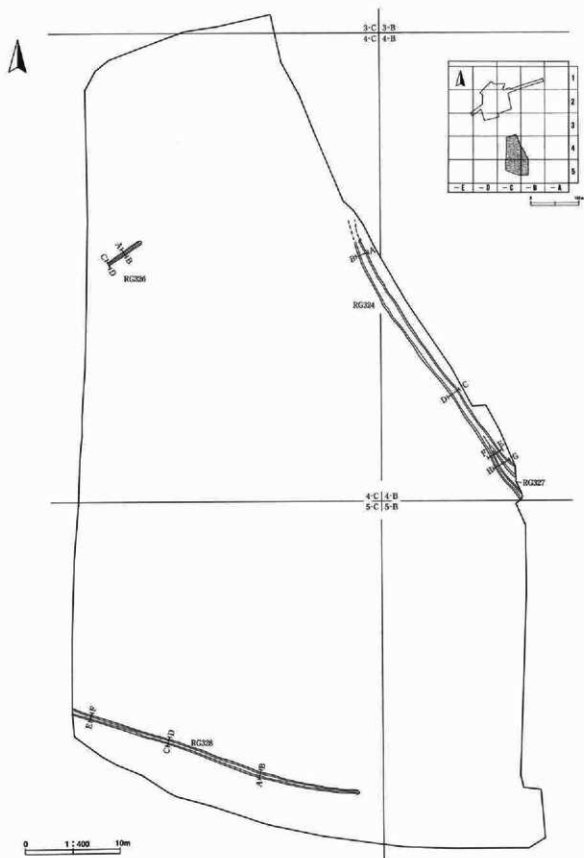
全域に渡り、ほぼ東西方向へ延びる溝跡が大半を占めているが、いずれも幅・深さともに小規模のものが多く、灌溉用水路または区画の溝、もしくは道の側溝などの用途が考えられるものの、詳細は不明である。

その一方で、以前の調査範囲から北西～南東方向へ延びている、壱状をした大溝のRG045は、長さ・幅ともに、今年度の調査で検出された溝の跡としては、最も規模が大きいもので、底面からは些少ではあるものの、平安時代のもとのと推定される土師器の壺の一部が出土している。また15・18次調査などではこの大溝の埋土に十和田a火山灰が堆積していた。

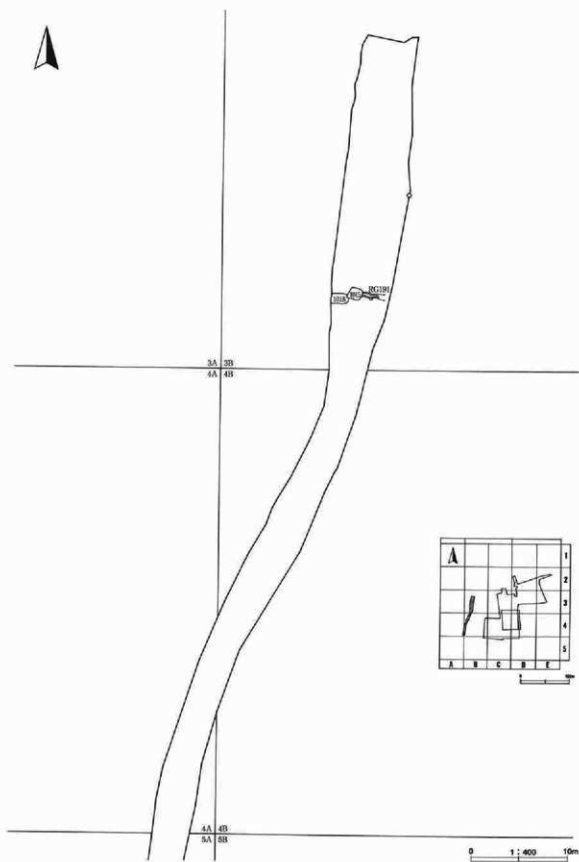
台太郎遺跡の発掘調査は多年度に渡って複数の組織により実施していることもあり、本来は同一溝であるものに、やむなく複数の遺構名を付けているものも存在する。今回の調査で検出された溝跡の規模・形態等についての詳細は、一覧表にまとめた。



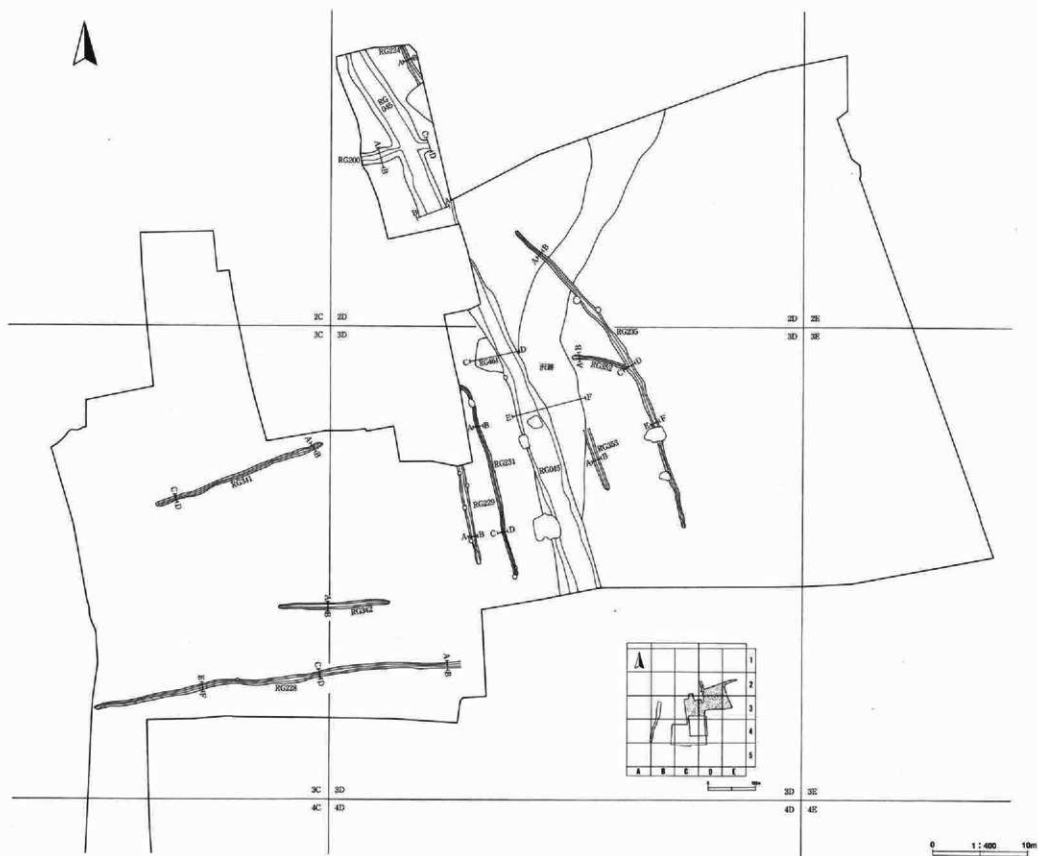
第122圖 RG清跡 (1)



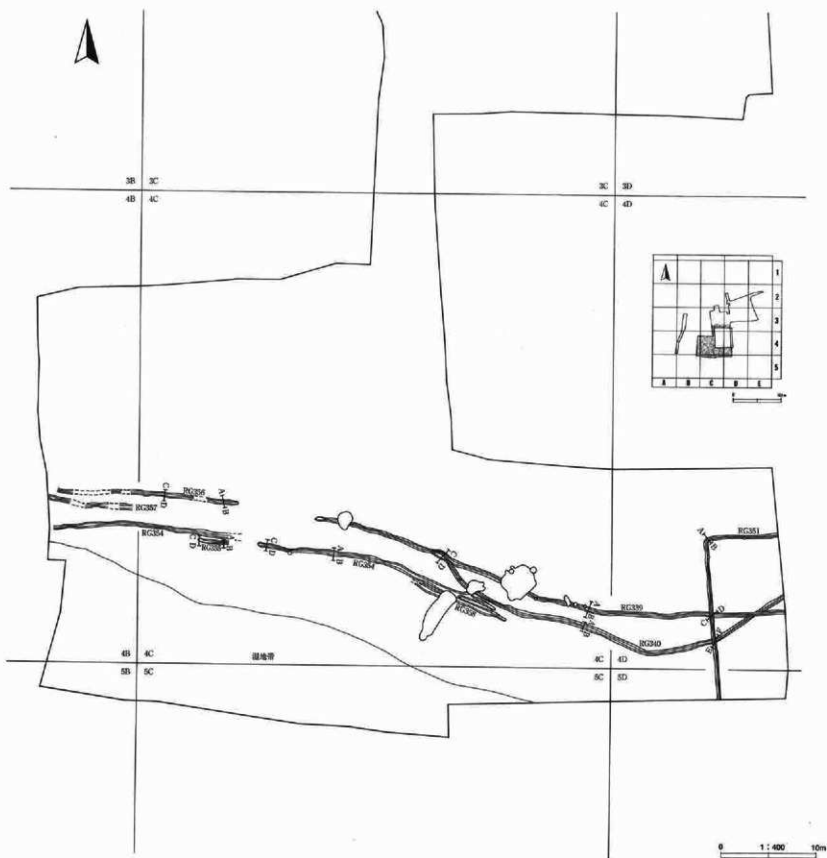
第123図 RG溝跡 (2)



第124園 RG清跡 (3)



第125図 RG清跡 (4)



第126図 RG清跡 (5)

FIG. 4A

A. L. = 1:20,000

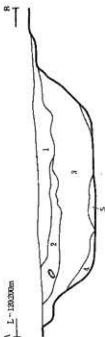


FIG. 4A-B

全体的な傾向は山アロクを北へ、南に、南東向きなり。
 1. 10V K2の凝結層
 2. 10V K2の凝結層
 3. 10V K2の凝結層
 4. 10V K2の凝結層
 5. 10V K2の凝結層

FIG. 4C-1)

1. 10V K2の凝結層
 2. 10V K2の凝結層
 3. 10V K2の凝結層
 4. 10V K2の凝結層
 5. 10V K2の凝結層

FIG. 4C

C. L. = 1:20,000

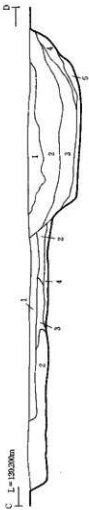


FIG. 4E

E. L. = 1:30,000

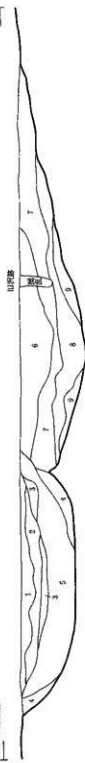
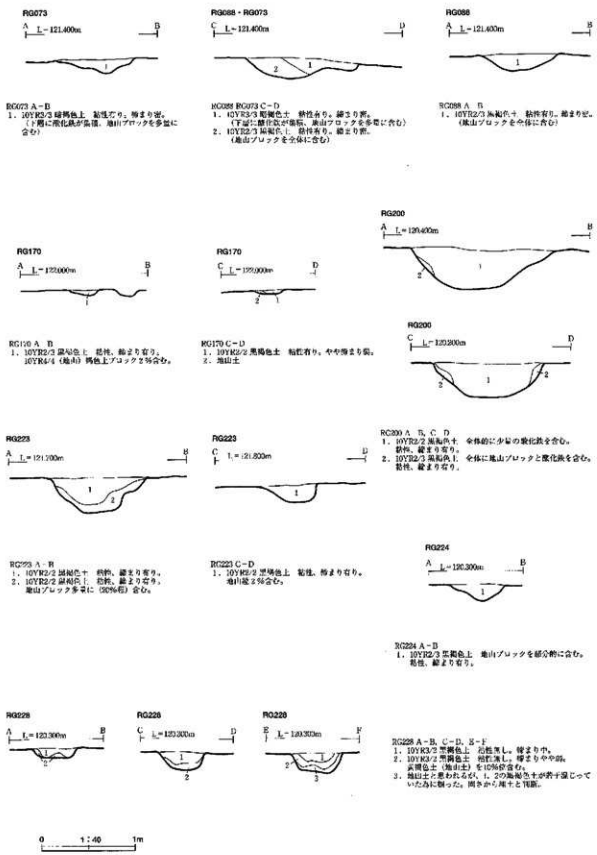


FIG. 4E-1)

1. 10V K2の凝結層
 2. 10V K2の凝結層
 3. 10V K2の凝結層
 4. 10V K2の凝結層
 5. 10V K2の凝結層
 6. 10V K2の凝結層
 8. 10V K2の凝結層

第127図 RG溝跡 (6)



第128図 RG溝跡 (7)

RG229



- RG229 A-B
 1. 10YR2/2 黒褐色土 粘りや中有り。締まり有り。
 2. 10YR2/3 黒褐色土 粘りや中有り。締まりや中弱。
 湧山アロックス多量含む。

RG231



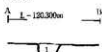
- RG231 ① A-B
 1. 10YR2/2 黒褐色土 粘り有り。締まりや中弱。
 湧山アロックス多量含む。

RG231



- RG231 ② C-D
 1. 10YR2/2 黒褐色土 粘り有り。締まりや中弱。
 湧山粘り多量含む。

RG235



- RG235 A-B
 1. 10YR2/2 黒褐色土 粘り弱。締まり有り。
 多量の湧山アロックス含む。

RG235 - RG235



- RG235 RG235 C-D
 1. 10YR2/3 黒褐色土 粘りや中有り。締まり有り。
 湧山アロックス多量含む。
 2. 10YR2/2 黒褐色土 粘りや中有り。締まり有り。
 多量の湧山アロックス含む。

RG242



- RG242 A-B
 1. 10YR2/3 黒褐色土 粘りや中有り。締まり弱。
 (湧山アロックス多量含む)
 2. 10YR2/2 黒褐色土 粘り有り。締まりや中弱。
 (下層はグライ化している)

RG242



- RG242 C-D
 1. 10YR2/3 黒褐色土 粘りや中有り。締まり弱。
 (湧山アロックスと腐化灰を含む)
 2. 10YR2/3 黒褐色土 粘りや中有り。締まりや中弱
 (湧山アロックス多量を含む)
 3. 10YR2/2 黒褐色土 粘り有り。締まりや中弱
 (全層に腐化灰を含む。下層はグライ化している)

RG242



- RG242 E-F
 1. 10YR2/3 黒褐色土 粘りや中有り。締まり弱。
 (湧山アロックスと腐化灰を含む)
 2. 10YR2/2 黒褐色土 粘り有り。締まりや中弱。
 (全層に腐化灰を含む。下層はグライ化している)

RG242



- RG242 G-H
 1. 10YR2/3 黒褐色土 粘りや中有り。締まり弱。
 (湧山アロックスと腐化灰を含む)
 2. 10YR2/2 黒褐色土 粘り有り。締まりや中弱。
 (全層に腐化灰を含む。下層はグライ化している)

RG307



RG307 A-B

- RG307 A-B
 1. 10YR2/2 黒褐色土 粘り。締まり有り。
 10YR4/4 褐色土アロックス多量含む。腐り弱含む。

RG307



RG307 C-D

- RG307 C-D
 1. 10YR2/2 黒褐色土 粘り弱。締まりや中弱。
 10YR4/4 褐色土アロックス多量含む。

0 1:40 1m

第129図 RG溝跡 (8)



RG318 A-B

1. 10YR2/3 黒褐色土 粘性弱、とても固く締まっていない。10YR4/4 (堆山) 褐色土段と混合。
2. 10YR2/2 黒褐色土 粘性、締まり有り。



RG318 A-B

1. 10YR2/3 黒褐色土 粘性やや弱、締まり有り。
 - 10YR4/4 褐色土段と混合、硬少量含む。
- ※取り合い不明 (本遺構の方が新しい)



RG318 C-D

1. 10YR2/3 黒褐色土 粘性やや有り、締まり有り。



RG318 RG332 E-F

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性、締まり有り。
- 堆山ブロック少量含む。



RG319 C-D

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性有り、締まり弱。
- (堆山ブロックと酸化鉄少量含む)
2. 10YR2/4 暗褐色細砂 粘性無し、締まりやや弱。
- (堆山ブロックと酸化鉄一部を含む)



RG319 A-B

1. 10YR2/3 黒褐色土 粘性やや有り、締まり弱。
- (堆山ブロックと酸化鉄を含む)
2. 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや有り、締まりやや弱。
- (堆山ブロックを多数に含み、全体に酸化鉄も含む)



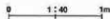
RG319 E-F

1. 10YR2/3 黒褐色土 粘性やや有り、締まり弱。
- (酸化鉄土厚=3cmの層を少量含む)
2. 10YR2/3 黒褐色土 粘性やや有り、締まり弱。
- (堆山ブロック多く含む)



RG320 A-B

1. 10YR3/3 暗褐色土 粘性有り、締まり弱。
 2. 10YR3/3 暗褐色土 粘性有り、締まりやや弱。
- (酸化鉄を全体に含む、炭化物を少量含む)
3. 10YR4/6 暗褐色細砂 粘性無し、締まり弱。
 4. 10YR5/4 に近い黄褐色細砂 粘性無し、締まり弱。
 5. 10YR2/2 黒褐色土 粘性有り、締まり強。
- (堆山ブロックを含む)
6. 10YR4/6 暗褐色細砂 粘性やや有り、締まり弱。
- (全体に酸化鉄を多く含む)



第130図 RG溝跡 (9)

RG320



RG320 C-D

1. 10YR3/3 暗褐色土 粘性やや有り。腐りやや弱。(酸化鉄を全体に含む。酸化鉄を少量含む)
2. 10YR4/6 褐色細砂 粘性無し。腐り弱。(酸化鉄を多く含む)

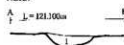
RG320



RG320 E-F

1. 10YR3/3 暗褐色土 粘性やや有り。腐り弱。(酸化鉄を全体に含む。酸化鉄を少量含む)
2. 10YR2/3 暗褐色土 粘性有り。腐り弱。(酸化鉄を全体に含む。酸化鉄を少量含む)
3. 10YR5/3 暗褐色細砂 粘性やや有り。腐り弱。(火山ブロック、炭化物、酸化鉄を全体に含む。酸化鉄を多く含む)
4. 10YR4/6 褐色土 粘性やや有り。腐り弱。火山

RG321



RG321 A-H

1. 10YR2/3 暗褐色土 粘性有り。腐り弱。(火山ブロックを全体に含む)

RG321



RG321 C-D

1. 10YR5/6 暗褐色土 粘性有り。腐り弱。(火山ブロックを多量に含む。10YR2/3に褐色土を少量含む)

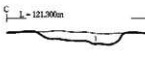
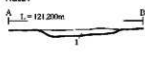
RG322



RG322 A-B

1. 10YR5/3 暗褐色土 粘性有り。腐り弱。(火山ブロック、酸化鉄を全体に含む)
2. 10YR2/3 暗褐色土 粘性有り。腐り弱。(火山ブロック、酸化鉄を含む)
3. 10YR6/4 に近い灰色細砂 粘性やや有り。腐り弱。(酸化鉄を含む)
4. 10YR2/3 暗褐色土 粘性有り。腐り弱。(火山ブロック、酸化鉄を全体に含む)

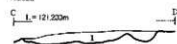
RG324



RG324 A-B, C-D

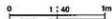
1. 10YR2/2 暗褐色土 粘性有り。腐りやや弱。火山ブロック少量含む。

RG322



RG322 C-D

1. 10YR3/3 暗褐色土 粘性有り。腐り弱。(火山ブロック、酸化鉄を全体に含む)



第131図 RG溝跡 (10)

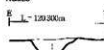
RG325



RG325 A-B

1. 10YR3/2 黒褐色土 粘性、締まり有り、崩山ブロッカ少量含む。
2. 崩山土 (10YR4/4 弱赤土) 等の崩落、粘付有り、締まりやや弱、水酸化鉄質含む。
3. 10YR2/2 黒褐色シルト質土 粘性やや有り、締まり弱、水酸化鉄質含む。
4. 10YR2/2 黒褐色土 粘性、締まり有り、炭素質含む、崩山粉少量含む。

RG325



RG325



RG325 C-D

1. 10YR2/3 弱褐色土 粘性やや弱、締まり有り、崩山ブロッカ多量に含む、水酸化鉄質少量含む。

RG325 E-F

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性、締まり有り、崩山粉少量含む、崩下層に多く含む。

RG327



RG327



RG327 E-F, G-H

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性、締まり有り。

RG326



RG326



RG326 A, B, C, D

1. 10YR2/2 弱褐色土 粘性、締まり有り。
2. 10YR3/3 赤褐色土 粘性、締まり有り。

RG328



RG328



RG328 A-B

1. 10YR3/2 黒褐色土 粘性やや弱、締まり有り、水酸化鉄質多量含む、崩山粉 (約) 30%含む。

RG328 C, D

1. 10YR3/2 黒褐色土 粘性やや弱、締まり有り、崩山土5.5%含む、礫 (2-3cm) 少量含む。

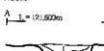
RG328



RG328 E-F

1. 10YR3/2 黒褐色土 粘性やや弱、締まり有り、崩山土少量含む。

RG329



RG329

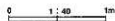


RG329 A-B

1. 10YR3/1 黒褐色土 (粘土質) 粘性、締まり有り、水酸化鉄質含む。
2. 10YR5/4 赤褐色土 粘性、締まり有り、赤褐色土をサブストラムに含む。

RG329 C-D

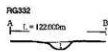
1. 10YR3/1 黒褐色土 (粘土質) 粘性、締まり有り、水酸化鉄質多量含む。
2. 10YR5/3 赤褐色土 粘性、締まり有り、水酸化鉄質少量含む、1-3cm程度の礫少量含む。



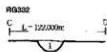
第132図 RG溝跡 (11)



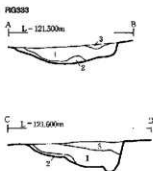
- RG331 A, B, C, D
1. 10YR2/2 黒褐色土 粘粒、粘まり有り。
 2. 10YR4/4 褐色土 粘粒、粘まり有り。
 - 10YR2/2 黒褐色土ブロック少量含む。



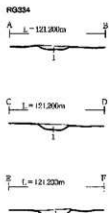
- RG332 A-B
1. 10YR2/2 黒褐色土 粘粒、粘まり有り。黒山アロックス少量含む。



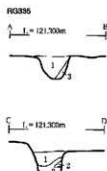
- RG332 C-D
1. 10YR2/2 黒褐色土 粘粒、粘まり有り。黒山アロックス少量含む。



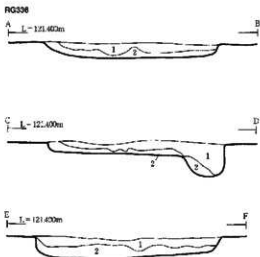
- RG333 A-B, C-D
1. 10YR2/2 黒褐色土 粘粒、粘まりやや弱。
 2. 10YR3/2 黒褐色土 粘粒、粘まりやや弱。
 - 10YR3/1 黒褐色土 粘粒、粘まり有り。



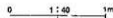
- RG334 A-B, C, D, E, F
1. 10YR2/3 黒褐色土 粘粒やや弱。粘まり有り。黒山アロックス少量含む。



- RG335 A-B, C-D
1. 10YR2/2 黒褐色土 粘粒有り、粘まりやや弱。水酸化鉄少量含む。
 - 粘粒土
 - 10YR3/3 黒褐色土と 10YR2/3 黒褐色土との混合。粘粒、粘まり有り。



- RG336 A, B, C, D, E-F
1. 10YR3/2 黒褐色土 粘粒やや弱。粘まり有り。黒山アロックス少量含む。水酸化鉄少量含む。
 - 10YR3/4 暗褐色土 粘粒弱。粘まり有り。水酸化鉄多量を含む。



第133図 RG溝跡 (12)

RG337



RG337 A-B

1. 10YR2/3 黒褐色土 褐色土ブロック少量含む。粘性、締まり有り。

RG337



RG337 C-D

1. 10YR2/3 黒褐色土 褐色土ブロック少量含む。粘性、締まり有り。

RG339



RG339 A-B

1. 10YR2/3 黒褐色土 粘性、締まりやや有り。水酸化鉄含有。
2. 10YR3/4 暗褐色土 粘性有り、締まりやや有り。

RG340



RG340 RG339 C-D

1. 10YR2/3 黒褐色土 粘性弱、固く締まる。水酸化鉄少量を含む。
2. 10YR2/2 黒褐色土 粘性弱、固く締まる。水酸化鉄少量を含む。

RG340



RG340 RG351 E-F

1. 10YR2/3 黒褐色土 粘性、締まりやや有り。水酸化鉄含有。
2. 10YR3/4 暗褐色土 粘性やや有り、締まり弱。水酸化鉄含有。

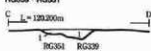
RG351



RG351 A-B

1. 10YR2/3 黒褐色土 粘性やや有り、締まっている。水酸化鉄含有。
2. 10YR7/2 に近い黄褐色土 粘性やや有り、締まっている。水酸化鉄含有。

RG339・RG351



RG339 RG351 A-B

1. 10YR2/3 黒褐色土 粘性やや有り、締まっている。水酸化鉄含有。

RG340



RG340 A-B

1. 10YR3/2 暗褐色土 粘性やや有り、締まりやや有り。水酸化鉄含有。

RG341



RG341 A-B

1. 10YR2/1 褐色シルト 粘性、締まり中。
2. 10YR2/1 褐色土と10YR4/4 褐色土がブロック状に混合 粘性中強、締まり中。
3. 10YR4/4 褐色土 粘性やや強、締まりやや中強。

RG341



RG341 C-D

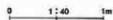
1. 10YR2/1 褐色シルト 粘性、締まり中。下に10YR4/4 褐色土をブロック状に含む。

RG342



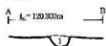
RG342 A-B

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性中、締まりやや有り。粘性強を含む。
2. 10YR4/6 褐色土 粘性やや有り、締まり中、進山の土に近いが、1の土が少し混入している為堅った。



第134図 RG溝跡 (13)

RG352



RG352 A-B

1. 10YR2/3 黒褐色土 粘性、粘り有り、崩山ブロック多く混入する。

RG353



RG353 A-B

1. 10YR2/3 黒褐色土 粘性、粘り有り、崩山ブロック少量含む。

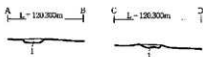
RG354



RG354 A-B, C-D
1. 10YR2/3 黒褐色土 粘性有り、粘り有り、崩山ブロック、多量の崩山ブロック、水酸化鉄混入。



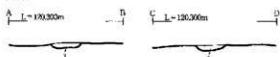
RG355



RG355 A-B, C-D

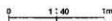
1. 10YR2/3 黒褐色土 粘性有り、粘り有り、多量の崩山ブロック、水酸化鉄混入。

RG356



RG356 A-B, C-D

1. 10YR2/3 黒褐色土 粘性弱、粘り有り、多量の崩山ブロックと混入する。



第135図 RG溝跡 (14)

溝跡観察表

遺構名	位置(グリッド) 検出面	長さ:m 深さ:cm	上幅:cm 下幅:cm	埋土	出土遺物	その他	図版	写真
RG045	2D11h~ 3D14o・N層	長:42.0 深:160	上:34.4 下:160	自然堆積と思われる。黒褐色土が主体である。水酸化鉄を土層に含んでいる。	(奈良) 環・鏝・球刺座の いずれも一部、 937	遺構の中央~南端にかけて、沢筋と重複しているが、当該遺構の方が新しい。遺物は流れ込みと思われる、平安時代の遺構と推定している。	125 ・ 127	118 ・ 119
RG073	1-C20g~1- C21f・N層	長:3.0 深:15	上:84 下:35	自然堆積と思われる。暗褐色土が主体である。地山ブロックが多く、下部に水酸化鉄が混入している。	不明298	RG088と重複しているが、端上の状況から、当該遺構が後に構築されたものと推定される。時期は不明である。	122 ・ 128	120
RG088	1-C21g~1- C21f・N層	長:(1.5) 深:18	上:82 下:30	自然堆積と思われる。黒褐色土が主体である。地山ブロックを全体に含む。	なし。	RG073と重複しているが、端上の状況から、当該遺構が先に構築されたものと推定される。時期は不明である。	122 ・ 128	120
RG170	2-D20j~2- D23k・N層	長:8.0 深:5	上:30 下:22	自然堆積と思われる。黒褐色土が主体である。地山ブロックを少量含んでいる。	なし。	北端は用水路で壊され、南端はRA399の埋込付近で消滅する。時期の詳細は不明だが、RG318-331より旧く、平安のRA399よりも後のものと思われる。	122 ・ 128	120
RG200	2D17h~ 2D16f・N層	長:8.0 深:45	上:150 下:50	自然堆積と思われる。黒褐色土が主体である。地山ブロックと水酸化鉄を全体に少量含んでいる。	なし。	RC045と重複しているが、当該遺構の方が新しい。平安時代以降のものと思われるもの、詳細な時期は不明である。	122 ・ 128	120
RG223	2-C26e~2- C22m・N層	長:35.0 深:24	上:154 下:100	自然堆積と思われる。黒褐色土が主体である。褐色土のブロックが少量含まれている。	なし。	奈良時代のRA402-417と重複するが、端上の状況から当該遺構の方が新しいものと思われる。奈良時代以降の溝跡と推定される。	122 ・ 128	121
RG224	2D11d~ 2D13e・N層	長:5.0 深:17	上:55 下:15	自然堆積と思われる。黒褐色土に地山ブロックを部分的に含んでいるが、一部隙間を受けている。	雑乱部分から (奈良時代) 環・鏝・球刺座の 一部、 (奈良・近江)陶器 454のほか土器・ 鏝の跡の一部443、	RA237と重複しているが、その付近が覆土を受けており、新旧関係、および詳細な時期は不明である。	125 ・ 128	121
RG228	3C21m~ 3D18g・N層	長:39.0 深:20	上:50 下:28	自然堆積と思われる。黒褐色土が主体であるが、下部に地山を10%程度含んでいる。	なし。	両端部は傾平を受けており、時期は不明である。	125 ・ 128	121
RG229	3D8g~ 3D13h・N層	長:10.6 深:26	上:57 下:30	自然堆積と思われる。黒褐色土が主体である。地山ブロックを少量含む。	なし。	両端部は傾平を受け、消滅しており、時期は不明である。	125 ・ 129	119
RG231	3D4g~ 3D14j・N層	長:22.0 深:3	上:25 下:15	自然堆積と思われる。黒褐色土が主体である。地山土を多く含む。	なし。	両端部は傾平を受け、消滅している。時期は不明である。	125 ・ 129	129
RG235	2D21i~ 3D13s・N層	長:36.5 深:16	上:23 下:15	自然堆積と思われる。黒褐色土が主体である。地山ブロックを多く含む。	なし。	両端部は傾平を受けており、時期は不明である。	125 ・ 129	119
RG242	2 D3h~2 C1b・N層	長:42.2 深:30	上:86 下:56	自然堆積と思われる。黒褐色土~粘土が主体である。地山ブロックと水酸化鉄を多く含み、土層はクライ化している。	(平安時代) 土師器の環・鏝、 埴土の環・鏝の 一部、瓦・土師 483	遺構の中央で、RG380と重複しているが、端上の状況から、当該遺構が後に構築されたものと推定される。平安時代以降のものと思われるが、詳細な時期は不明である。	122 ・ 122	122
RG307	3 D11~2 D12w・N層	長:36.0 深:15	上:48 下:35	自然堆積と思われる。黒褐色土が主体である。地山ブロックと小粒の礫を少量含んでいる。	なし。	内側は前年度の調査区へ伸びているもので、北端部はRG332と重複するものと推定される。時期は不明だが、平安時代以降のものと思われる。	122 ・ 123	123
RG315	2-D23i~3- D21・N層	長:5.5 深:23	上:33 下:23	自然堆積と思われる。黒褐色土が主体である。地山ブロックを少量含んでいる。	なし。	北端でRG318と重複し、南端はRA312の直前で消滅する。詳細は不明だが、平安時代の作りの土を切っていることから、平安時代以降のものと思われる。	122 ・ 130	123
RG318	3-D2e~2- D14q・N層	長:37.5 深:20	上:85 下:60	自然堆積と思われる。黒褐色土が主体である。地山ブロックを少量含んでいる。	(平安時代) 土師器の虎が十 数片出土。	西端は前年度の調査区へ伸び、東端は平安時代のRA435と重複しながら、用水路で消滅している。詳細は不明だが、平安時代以降のものと思われる。	122 ・ 130	123
RG319	2-D13i~2- D5v・N層	長:37.0 深:25	上:105 下:60	自然堆積と思われる。黒褐色土が主体である。地山ブロックと水酸化鉄を少量含んでいる。	(平安時代) 土師器の高台環・ 鏝の一部、 須恵器の環・鏝・ 鏝の跡。	遺構の両端でRG242・RG323と重複しているが、これらとはほぼ同時期の遺構と考えられ、同時に使用された可能性が高い。時期は平安時代以降のものとして推定される。	122 ・ 130	122

遺構名	位置(グリッド) 構造	長さ:m		上幅:m		土	出土遺物	その他	区画	写真
		深さ:cm	深さ:cm	下幅:cm	下幅:cm					
RG320	2-D9f~2-D4r・IV層	長:17.8f 深:35		上:250 下:115		自然堆積と思われる、黒褐色土が主体である。水酸化鉄を全体に含んでいる。	黒土内から縄文晩期群の土器やニホア土師交(413~415)、平安時代の土師器(299~509)・葛飾車(501)、灰土器の埴(401~405)・瓦(409)・土(410)、陶器(424)、瓦土器(480)・土師器(465)・土(491)、石(503~505)	RG242と重複するが、それ以前に構築されたものと考えられ、出土遺物等から、平安時代以降のものも想定される。今年度調査した溝跡のなかでも出土遺物が多く、規模も大きい。	122 130 131	124
RG321	2-D4h~2-D4j・IV層	長:5.8f 深:10		上:56 下:30		自然堆積と思われる、暗褐色土~黄褐色土が主体である。堆山ブロックを多く含んでいる。	なし。	北西端に竪立して存在するが、RG242と関連していた遺構である可能性が考えられる。形成時期は不明である。	122 122 131	
RG322	2-D2f~2-D3j・IV層	長:2.6f 深:12		上:140 下:65		自然堆積と思われる、暗褐色土が主体である。堆山ブロックと水酸化鉄を全体に含んでいる。	なし。	RG242と重複しており、相互に関連する遺構と考えられる。詳細な時期は不明である。	122 122 131	
RG323	2-D13f~2-D11o・IV層	長:(9.0f) 深:14		上:65 下:25		自然堆積と思われる、黒褐色土が主体である。堆山ブロックと水酸化鉄を全体に含んでいる。	(平安時代) 土師器の埴・甕類、土師器の埴・甕などいづれも一部。	遺構の東端でRG319と重複しているが、これらとはほぼ同時期の遺構と考えられ、同時に使用された可能性が高い。時期は平安時代以降のものと思われる。	122 122	122
RG324	4-C12a~5-1h・IV層	長:32.6f 深:13		上:188 下:70		浅い層土で、自然堆積と思われる。黒褐色土が主体で、堆山ブロックを少量含んでいる。	なし。	RG327と4-B23fグリッド付近で合流するが、当該遺構が古い。時期は不明である。	123 123 131	124
RG325	2-C7f~2-C21r・IV層	長:29.6f 深:55		上:115 下:40		比較的深い層土で、自然堆積と思われる。黒褐色土が主体で、水酸化鉄と礫を多く含んでいる。	(奈良時代) 土師器の埴・甕類の破片が出土している。	奈良時代のRA421~422と重複しているが、いずれの遺構よりも新しいものである。奈良時代以降のものも想定している。	122 122 132	124
RG326	4-C12m~4-C13k・IV層	長:4.5f 深:13		上:32 下:25		浅い層土で、自然堆積と思われる。黒褐色土が主体である。	なし。	竪立して位置する。両端は水平を受け、時期は不明である。	123 123 132	125
RG327	4-B33f~4-B24h・IV層	長:(5.4f) 深:6		上:63 下:30		浅い層土で、自然堆積と思われる。黒褐色土が主体で、堆山ブロックを少量含んでいる。	なし。	RG324と4-B23fグリッド付近で合流するが、当該遺構が新しい。時期は不明である。	123 132	124
RG328	5-C12f~5-C16a・IV層	長:31.5f 深:10		上:145 下:35		自然堆積と思われる、黒褐色土が主体である。水酸化鉄と礫を下層に含んでいる。	なし。	RF049の北端をかすめているが、関連はないと思われる。時期は不明だが、中世以降のものも想定している。	123 132	125
RG329	2-D8a~2-C4d・IV層	長:14.6f 深:24		上:60 下:35		自然堆積と思われる、黒褐色土が主体である。全体に水酸化鉄が含まれている。	なし。	両端部分が存在しないのは後年の耕作等により、削平を受けたためと考えられる。時期は不明である。	122 132	125
RG331	2-D21f~2-D18m・IV層	長:12.0f 深:8		上:48 下:25		自然堆積と思われる、黒褐色土が主体である。	なし。	西端は、ほぼ直角に南側へ折れた後遺構、東端はRG318と合流する。RG318と同様、平安時代以降のものと思われる。	122 133	125 126
RG332	2-D17o~2-D11x・IV層	長:23.8f 深:12		上:25 下:16		自然堆積と思われる、黒褐色土が主体である。堆山ブロックを少量含んでいる。	なし。	西端でRA105と重複しながら、RG318と合流し、東端はRG307と合流する遺構で消滅している。RG318と同様、平安時代以降のものも想定している。	122 133	125 126
RG333	2-C3k~2-C1p・IV層	長:13.4f 深:32		上:100 下:28		自然堆積と思われる、黒褐色土が主体を占めている。	なし。	RG336と重複するが、埋土の状況から当該遺構の方が新しいものと思われる。時期は不明である。	122 133	126
RG334	1-C23w~1-B21d・IV層	長:14.5f 深:8		上:34 下:18		自然堆積と思われる、黒褐色土が主体である。堆山ブロックが多く含まれている。	なし。	RG336と重複するが、埋土の状況から当該遺構の方が新しいものと思われる。時期は不明である。	122 133	126
RG335	1-C23v~1-C24x・IV層	長:4.8f 深:25		上:35 下:28		自然堆積と思われる、黒褐色土が主体である。上層に水酸化鉄を含んでいる。	なし。	RG336と重複するが、埋土の状況から当該遺構の方が新しいものと思われる。時期は不明である。	122 133	126

遺構名	位置(グリッド) 検出面	長さ:m 深さ:cm	上層:m 下層:cm	垣土	出土遺物	その他	調査 頁
RG336	2-C10~1 B23a・IV層	長:24.0 深:16	上:192 下:178	自然堆積と思われる、黒褐色土が主体である。水酸化鉄を多く含んでいる。	なし。	西側がRG333・335と重複する。堀土の状況から、これらの遺構より新しい時代のものと推定されるが、詳細は不明である。	122 126 133
RG337	2-C9b~2 C7c・IV層	長:9.0 深:15	上:140 下:115	自然堆積と思われる、黒褐色土が主体である。褐色のブロックが少量含まれている。	なし。	RA436と重複する。当該遺構の方が新しい時期のものと考えられるが、詳細は不明である。西側の溝跡と接続する可能性が高いものの、断定するには難しく、狭目の施を付記することとした。	122 134
RG338	Z-D22c~2 D17f・IV層	長:17.0 深:15	上:140 下:20	自然堆積と思われるが、擾乱が多く詳細は不明である。地山ブロックと礫を少量含んでいる。	(平安時代) 須恵器441のほか十師器の杯・甕の一部。	竈柱や後年の竈作・雨水路整備等の工事により、削平を受けている例が多い。時期は不明である。	122 136
RG339	4C18j~ 4D23j・IV層	長:52.0 深:8	上:58 下:25	自然堆積と思われる、黒褐色土が主体である。水酸化鉄を多く含む。	なし。	西側はRG356と接続する可能性が考えられるものの、断定するには難しく、独自の施を付した。時期は不明だが、中央~西側の状況から、RG35とともに関連の遺構としての用途が考えられる。	126 134
RG340	4C20p~ 4D22j・IV層	長:42.4 深:20	上:43 下:28	自然堆積と思われる、黒褐色土が主体である。水酸化鉄を多く含む。	なし。	東側でRG339と重複するが、堀土の状況から、当該遺構の方が新しいものと思われる。詳細な時期については不明である。	126 127 134 138
RG341	3C10p~ 3C7y・IV層	長:18.8 深:13	上:35 下:29	自然堆積と思われる、黒褐色土が主体であるが、下層に地山ブロックを含んでいる。	なし。	西側部は削平を受けており、時期は不明である。	125 127 134
RG342	3C15w~ 3D15c・IV層	長:11.8 深:10	上:50 下:30	自然堆積と思われる、黒褐色土が主体であるが、全体に水酸化鉄を含み、下層には地山ブロックを含んでいる。	なし。	南側部は削平を受けており、時期は不明である。	125 127 134
RG351	5D2f~ 4D18f・IV層	長:24.8 深:7	上:50 下:40	自然堆積と思われる、黒褐色土が主体である。水酸化鉄を含む。	なし。	RG339・340よりも新しい遺構である。調査地の地形では、この区画と合致するように埋没性の植物が生育していたことから、新しい時代のものと推定される。	126 134
RG352	3D2m~ 3D9p・IV層	長:6.0 深:12	上:29 下:15	自然堆積と思われる、黒褐色土が主体である。地山ブロックを多く含む。	なし。	東側がRG235と重複しており、同時期のものと推定されるが、詳細な時期は不明である。	125 129 135
RG353	3D6n~ 3D9o・IV層	長:7.0 深:8	上:50 下:20	自然堆積と思われる、黒褐色土が主体である。地山粒を少量含む。	なし。	北端が埋没と重複し、沢跡が存在していた時に以降に構築・使用されていたものと思われるが、詳細な時期は不明である。	125 135
RG354	4B18u~ 4C22s・IV層	長:(3.2) 深:15	上:40 下:30	自然堆積と思われる、黒褐色土が主体である。水酸化鉄を含み、地山ブロックを多く含んでいる。	なし。	遺構の西側で一部が消滅しているものの、西端部分が埋没した際の遺構と判断し、同じ施を付した。RG359と同様、道の側溝としての用途が考えられるものの、詳細な時期は不明である。	126 127 135 138
RG355	4C19d~ 4C19c・IV層	長:13.6 深:4	上:20 下:18	自然堆積と思われる、黒褐色土が主体である。地山ブロックと水酸化鉄を多量に含んでいる。	なし。	削平を受けているため、残存している部分は壁である。RG354との関係も考えられるものの、時期も含めて詳細は不明である。	126 127 135 138
RG356	4B16u~ 4C17f・IV層	長:(19.5) 深:14	上:32 下:25	自然堆積と思われる、黒褐色土が主体である。地山ブロックを多量に含む。	なし。	遺構の途中で削平を受けているが、RG354と平行しているため、同様な性格の遺構であることが考えられる。詳細な時期は不明である。	126 127 135 138
RG357	4B17u~ 4B17y・IV層	長:(9.2) 深:4	上:27 下:14	自然堆積と思われる、黒褐色土が主体である。地山ブロックを多量に含む。	なし。	遺構の途中で削平を受けており、詳細な性格・時期は不明である。	127 128
RG358	4C21o~ 4C23f・IV層	長:(10.8) 深:13	上:65 下:60	自然堆積と思われる、黒褐色土が主体である。水酸化鉄を含み、地山ブロックを多く含んでいる。	なし。	RD1038土坑と重複しているが、遺物等もなく、詳細な性格・時期は不明である。	127 128

8 井戸跡

北西・南西・東部の各調査区から1基ずつ検出された。北西側調査区から検出された近世の1基以外に井戸枠らしきものは見つからず、素掘りによるものと思われる。

これらの井戸跡は、検出・精査中も多量の湧水があり、調査区一帯は、現在でも地下水の供給が豊富で、地下水面も高い地域であることがうかがわれる。

R1011 井戸跡 (第136図、写真図版117)

<位置・重複関係>北西側調査区の南側、2-D25s グリッド付近に位置し、IV層の上面から検出された。RA414 堅穴住居跡と重複しているが、検出状況から当該遺構のほうがより新しいものである。

<規模・形態>平面は円形で、開口部径の計測値は230×225cm、検出面から170cm下に段状の平坦部があり、その部分の計測値が170×155cmで、底部付近の中心に内外2列の円形を呈する井筒の木枠が85×82cmの規模で巡っている。段状の平場から井筒底部までの深さは40cmで、底部の疎層からはおびただしい湧水があり、検出・精査には困難を極めた。

<埋土>埋土は8層で構成され、上層30cm位まで全体に径10～30cm大の礫がまんべんなく分布し、それ以下の底部までは、井筒の範囲内だけに同様な礫が密に堆積していた。これら井筒内の礫は、井戸が廃棄されたあとに何らかの理由で人為的に埋められたものと推測される。本遺構は砂礫層まで掘り込まれており、完掘するとおびただしい湧水が見られた。埋土断面の状況から、一度大きく掘り込まれた後に一回り小さい井筒を設置して、井筒の掘りを掘削時の残土等で再び埋め固めて構築されたものと思われる。

<その他>井筒の木枠は、細長い板を立て内外に2列、円形に巡らせて設置され、内側が深く外側が高い約40cmの段差を持たせた構造となっていた。

また、井筒の上端部は不揃いであったものの、中央～下層部分は比較的原形をとどめていた。このことから井筒の上端部分は、土中で腐食・分解し中央～下層の帯水面に常時浸かった部分のみが、往時の状況を示すように原形をとどめて残ったものと考えられ、井筒は底部付近のみでなく上部にも存在していた可能性がある。

<遺物>井筒以外は出土していない。

<時期>井戸の構造や、西側に隣接する厩部分を持った曲り屋との関連が想定できることから、近世のものと思われる。

R1012 井戸跡 (第136図、写真図版118)

<位置・重複関係>南西側調査区の南側、5-B12c グリッド付近に独立して位置し、IV層の上面から検出された。

<規模・形態>平面は円形を呈し、開口部の計測値は186×180cm、検出面から底部までの深さは78cmで、底部に向かうにつれて開口部が狭まる樽形のような形状である。底部付近には礫層が分布し、おびただしい湧水が見られた。

<埋土>埋土は2層で構成され、上層50～60cm位まで粘性がある黒褐色土の中に径2～10cm大の礫が多く分布し、それ以下の底部までは砂礫層となっていた。上層部分は、井戸が廃棄された後に人為的に埋められた

もの、あるいは層位がほぼ単一なことから、洪水等の影響を受けて埋まったものと考えられる。

<その他> 3mほど北西に、中世の遺構であるR B038掘立柱建物跡が見つかり、その配置や対応する関係から、互いに関連する時期の遺構と推察している。

またこの井戸跡は木枠を持たない素掘りの形状を持ち、精査時点での水面が手を伸ばせば届くような位置にあり、井戸としてはごく浅い部類に属するものと思われる。

これらのことからこの地点でかつて生活していた人々は、井戸を掘り抜いてもそれほど深くない位置において、容易に水を得ることができたのかもしれない。2台の小型エンジンポンプを使用しても汲み上げきれないほどの水量がこの井戸跡内に湛水していたにもかかわらず、一定の水位以上に水が溢れ出ることは一度もなかった。これは、おそらく井戸跡の底部付近に分布する砂礫層が地下水面上端部分を構成しているためであり、古くから当地の人々は、この利点を上手に利用しながら生活していたものと推察される。

<遺物> 埋土内から出土していない。

<時期> 北西側に隣接する庇部分を持った中世の掘立柱建物跡との関連が想定できることから、中世のものと思われる。

R 1 0 1 3 井戸跡 (第136図、写真図版118)

<位置・重複関係> 遺跡の南東端付近にあたる4 D16 f グリッドに位置している。IV層面で検出され重複関係はない。

<規模・形態> 検出面での規模は2.4×2.1m、底面付近で1.1×1.0mを測り、やや歪な円形プランを呈する。深さは1.4m程で底面まで完掘すると地下水が湧き出してきた。

<埋土> 基本的には地山ブロックを多量に含む人為堆積でよいと思われる。その中で水分を常に多く含んでいた埋土下層ではグライ化し暗緑灰色を呈している。

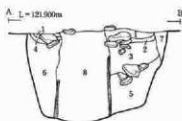
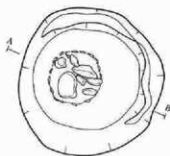
<その他> 地面を掘り込んだだけの単純な構造であったようである。

<遺物> なし

<時期> 周辺に分布する遺構の様相から中世に属する可能性が高い。



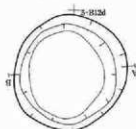
RI011



RI011

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや有り。締まり密。
2. 10YR3/3 暗褐色細砂 粘性無し。締まり有り。
(地山混含む。径1cm以上の小礫含む)
3. 10YR3/2 黒褐色土 粘性やや有り。締まり密。
(全体に径3~5cm自然礫含む。全体に酸化鉄含む)
4. 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや有り。締まり密。
(径2~3cmの小礫含む)
5. 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや有り。締まり密。
(全体に地山プロック含む。径30cm程度の礫を部分的に含む)
6. 10YR3/2 黒褐色土 粘性やや有り。締まり密。
(全所に地山砂少量含む。全所に径3~5cm礫少量含む)
7. 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや有り。締まり密。(小礫含む)
8. 10YR2/2 黒褐色粘土 粘性有り。締まり無し。
(100~30cm程度の礫多く含む)

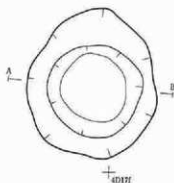
RI012



RI012

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性。締まり有り。
2~10cm程度の礫多量含む。
2. 黄砂 10YR2/2 黒褐色砂状土と混合している。
(厚1~15cm)

RI013



RI013

1. 10YR2/3 黒褐色土 粘性。締まりやや有り。
地山プロック多量含む。
 2. 7.5YR5/6 明褐色土 粘性弱。締まっている。
本層に混含む。
 3. 10CV3/1 暗緑灰色土 粘性強。締まっている。
地山プロック多量に含む。(小礫含む)
- ※ 1、3層は本層は同じもの。2層はクライ化しているだけ。

0 1:60 1m

第136図 RI011・012・013井戸跡

9 その他の遺構

南西調査区と北西調査区を中心に、性格不明の土坑列、および方形と円形の周溝が、それぞれ1基ずつ検出された。

南西側から検出された周溝は、約8×11mの長方形を呈し、囲む溝跡が切れた東側の一部分には、入り口らしき痕跡と、溝跡の内側には10基程度の柱穴を見つけることができた。

もう一方の周溝は、幅が約1.2m・径約6mの半円形で、北半分のみを検出となっている。南半分は既に調査を終えた18次の調査区へ続いていたものと推測されるが、削平を伴う整地を受けた痕跡があり、前年度の調査部分では、今回検出した円形周溝の対称部分を見つけることはできなかったものと考えられる。

RZ027方形周溝（第137図、写真図版130）

<位置・重複関係>南西調査区の南西端、5-C7mグリッド付近において、IV層の上面から検出された。北東側でR D937と重複しているが、埋土の状況から、当該周溝より後の時期に造られたものと思われる。また、RA425竅穴住居跡よりも新しい。

<規模・平面形>南北方向10.6～10.9m、東西方向7.8～8.2mの長方形で、溝幅は46～70cm、深さは10～22cm、溝の断面形は皿状～やや深いU字状を呈しているが、東側の溝において、20～50cmの幅が高まりながら消滅している部分がある。

<埋土>自然堆積で黒褐色土を主体としているが、溝の底部では黒褐色土の層に褐色土のブロックが多量に含まれていた。

<柱穴>18基の柱穴が、溝で囲まれた内側の部分から検出された。そのうちの一部に対応関係が認められるが、特に東側の溝が消滅する部分において、PP1351と1352の2基が対になるように存在している。なお、当該遺構の周辺に柱穴は一切存在していないこともあり、内部に分布する柱穴群の存在が際立っている。

<土坑>ほぼ中央部にR D941が存在するが、当該周溝と関連する遺構であるかは不明である。

<遺構の性格など>当該周溝は墓地として、または柱穴の並びから宗教的・儀礼的な建物で溝の内側に存在していた可能性がそれぞれ考えられ、溝が切れた部分に付随して存在する2基の柱穴PP1351・1352は、入り口としての機能を持っていた箇所ではないかと推定している。

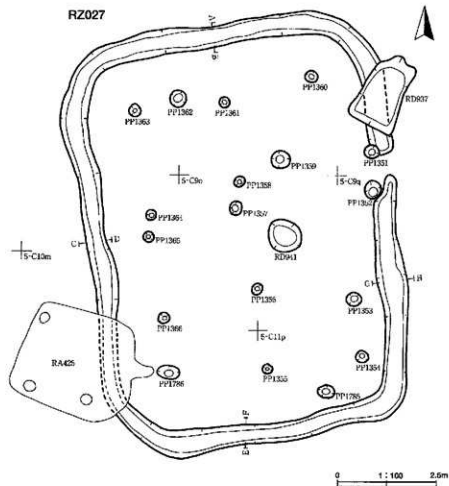
また、この方形周溝が中世の遺構であった場合、北東～東側に隣接して存在する中世の掘立柱建物跡群と関連する施設として存在していた可能性も考えられる。

<出土遺物>溝で囲まれた遺構の内側から須恵器の小片が出土しているが、遺構に係わるものであるのかは不明である。

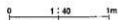
<時期>南西部で、平安時代のものであると思われるRA425竅穴住居跡と重複しているが、重複した部分の埋土の堆積状況から、当該周溝の方が後の時代に造られたものであると判断できた。このことから、おそらく平安時代以降～中世に存在していた遺構であると推定される。

RZ028円形周溝（第138図、写真図版129）

<位置>北西調査区の北東部、1-B21fグリッド付近において、IV層の上面から検出された。



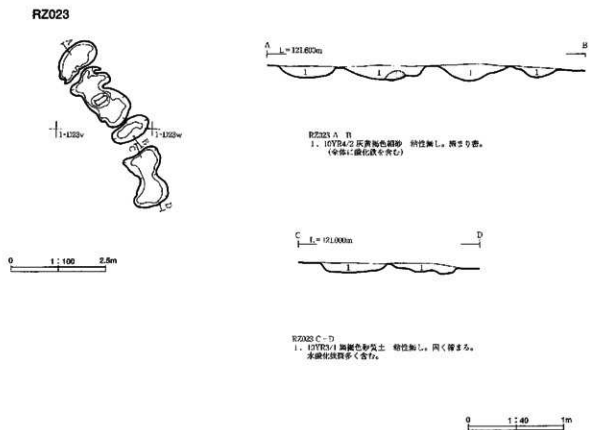
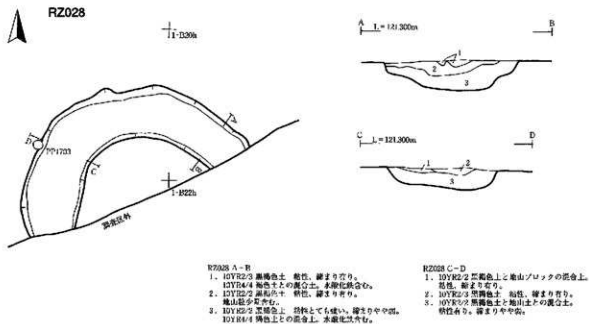
種次符	径 (cm)	高さ	備考
1351	31 × 33		
1352	50 × 37	13.0	
1353	27 × 32	4.4	
1354	29 × 35	10.0	
1355	36 × 33	15.5	
1356	27 × 26	12.6	
1357	38 × 27	15.2	
1358	28 × 28	14.5	
1359	30 × 41	12.9	
1360	32 × 28	16.8	
1361	23 × 22	7.8	
1362	43 × 38	22.0	
1363	29 × 27	6.4	
1364	36 × 34	19.6	
1365	22 × 21	—	
1366	39 × 35	19.6	
1367	45 × 32	21.4	
1368	44 × 32	33.2	



RZ027

- 1: 10YR2/2 黒褐色土、砂質、粘り有り。
 2: 10YR2/2 黒褐色土、砂質、粘り有り。
 10YR5/4 褐色土、アロックス多量を含む。

第137図 RZ027方形周溝跡



第138図 RZ028円形周溝・RZ023性格不明遺構

<規模・平面形>直径6.2m、溝幅1.2～1.5m、深さ15.2～20.4cmで平面はドーナツ状をした半円形態をしており、溝の断面形は、底がやや平らで緩やかに立ち上がるU字状を呈している。

<埋土>自然堆積と思われる、黒褐色土が主体で全体に地山ブロックと水酸化鉄を含んでいる。

<その他>当該周溝の残り半分が存在しているものと思われる南側部分では、過去に発掘調査を行っているものの同様な遺構は検出されておらず、おそらく過去の耕地整理や耕作によって削平を受け消滅したものと推定される。

<出土遺物>出土していない。

<時期>時期を判断するような出土遺物はないが、近隣遺跡から見つかっている同形態の遺構から推定し、古代の遺構と思われる。

R Z O 2 3 性格不明遺構 (第138図・写真図版129)

<位置>北西調査区の北端部1-D23vグリッドに位置し、IV層の上から検出された。

<規模・平面形>南北方向4.8m、東西方向0.5～1.2mの範囲に、アメーバ状の不定形な土坑が4基連なっている。遺構検出面から20～30cm程不規則に掘り込まれていた。

<埋土>灰黄褐色と黒褐色の細砂が主体となり、層の厚さは10～16cm程度で、全体に水酸化鉄が含まれ、堅く締まっていた。

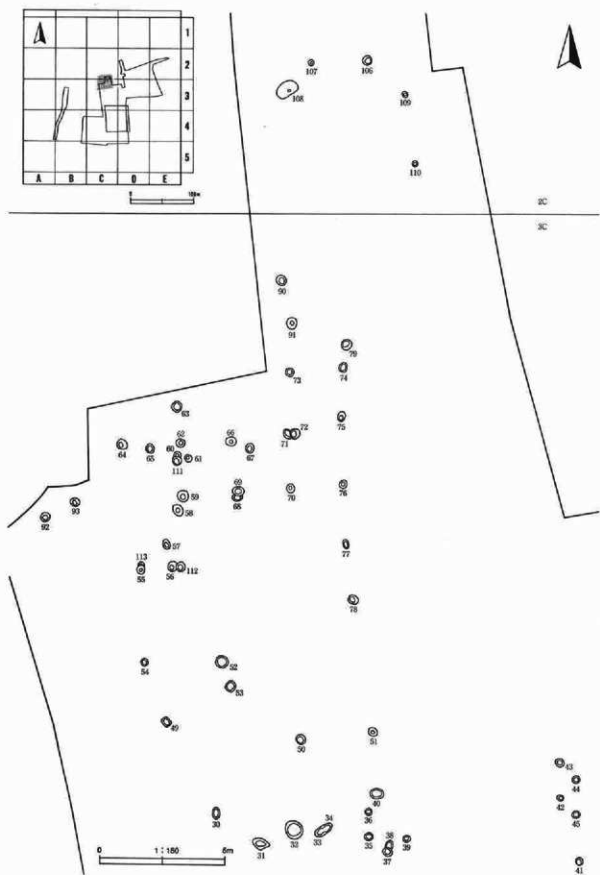
<出土遺物>底部から、小径の礫と剥片が数点出土したのみである。

<時期>時期が判断できるような出土遺物はなく、不明である。

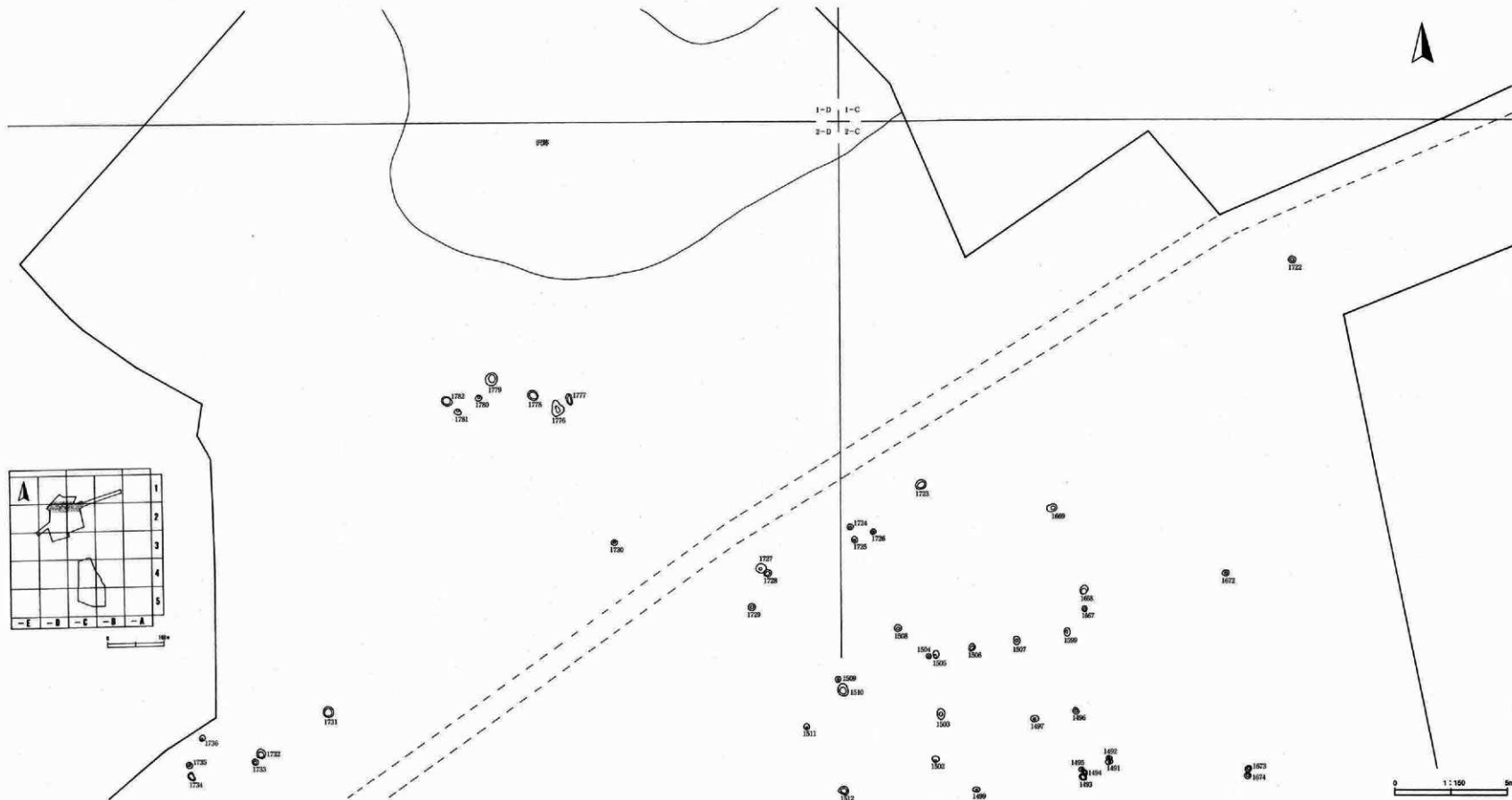
柱穴状土坑 (第139～149図)

今回の調査区からは合計1786基の柱穴状土坑を検出した。の中には古代の竪穴住居跡に伴う主柱穴や中世の竪穴建物跡に伴う柱穴も含まれている。また掘立柱建物跡と推定した9棟の遺構を構成する柱穴も含まれている。柱痕を明確に把握できない径30cm未満のものが多数を占め、その中には精査してみても柱穴かどうか疑わしいものもあった。

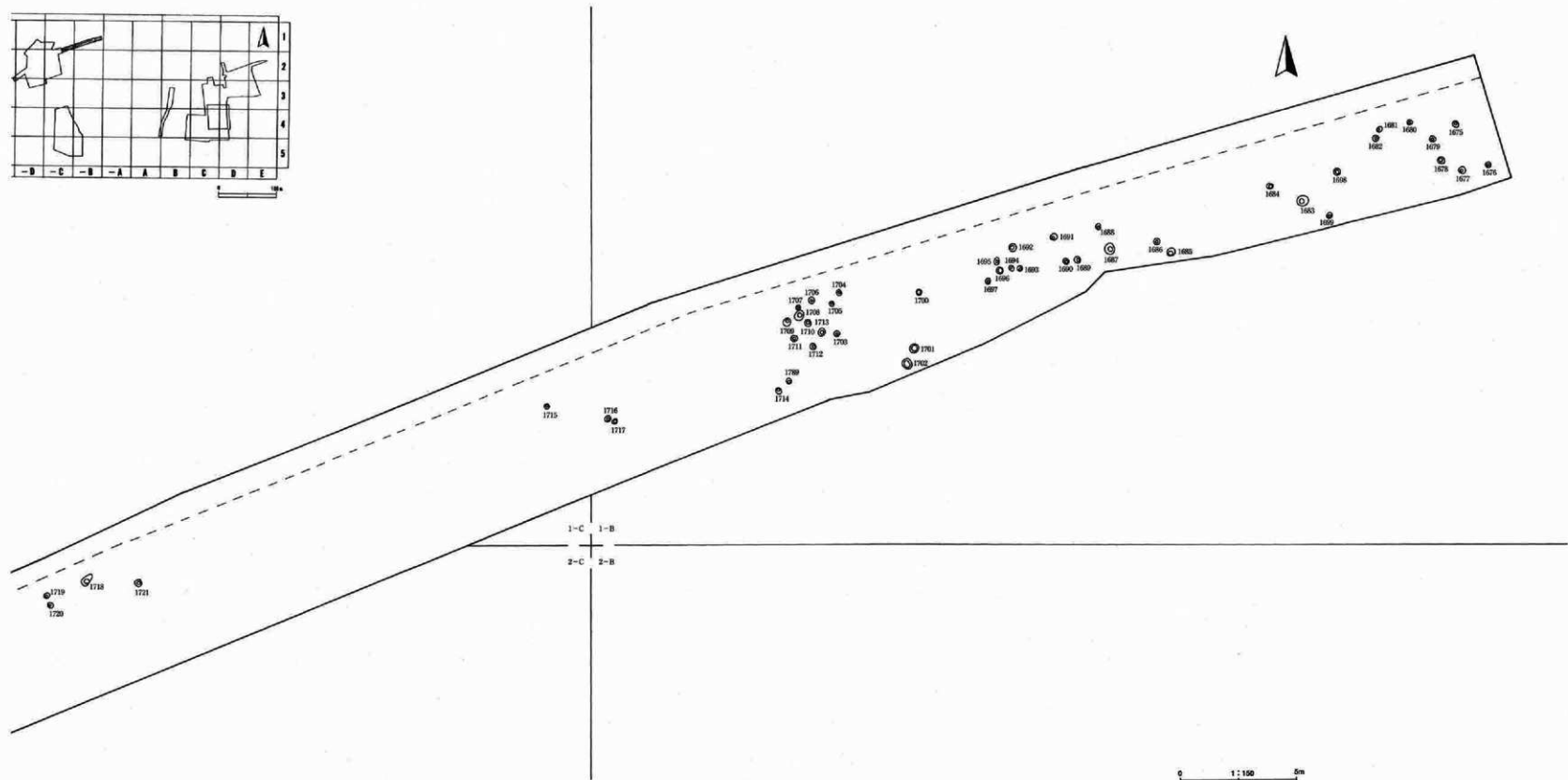
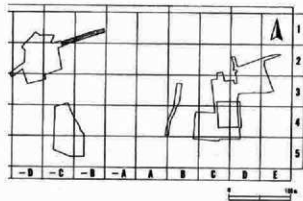
調査区の中でも分布には粗密が現れており、調査区西側の2-C～2-Dグリッドで検出された柱穴については近世民家R B031・034が検出されていることから同様に近世に属するものが多いと思われる。また調査区南西側の4-C～5-Bグリッドに分布する柱穴については中世の掘立柱建物跡R B035～039・041が検出されていることから大半は中世に位置付けられるのではないかと考えられる。同じく中世の基礎がまとも検出されている3-Bグリッドに分布する柱穴と4-C・4-Dグリッドに分布する柱穴についても中世に属する可能性が高い。3-Cグリッドで検出された柱穴については時期を推察する資料を欠き中世か近世か判断としない。個々の柱穴の規模や出土遺物については一覧表を作成しまとめた。柱穴間の重複関係については断面観察ではなく平面観察によって判断し、平面図には新旧関係が解るように表した。なお新旧不明の場合は不明瞭な表現で示している。



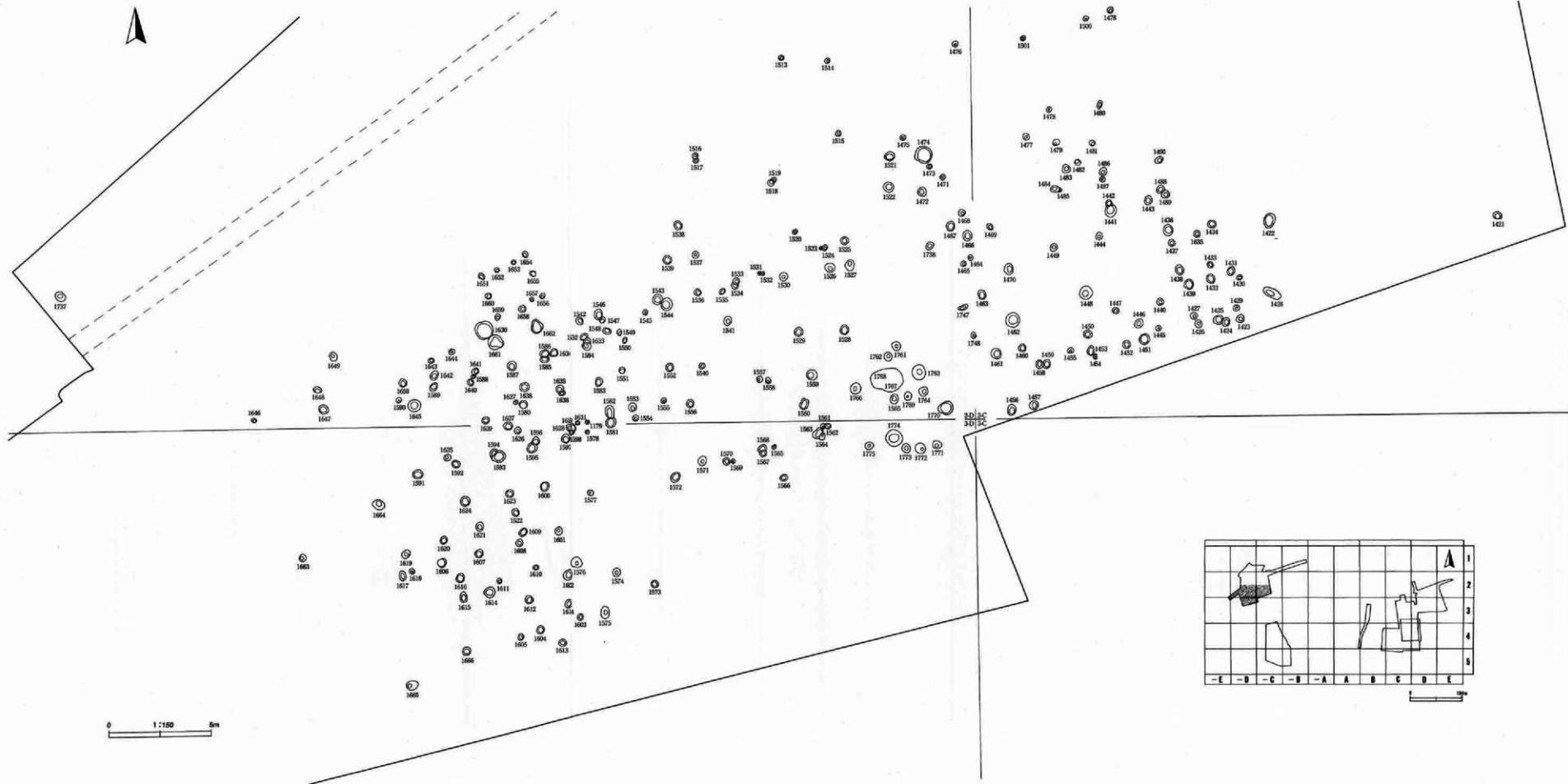
第139图 柱穴群 (1)



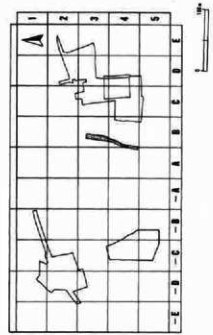
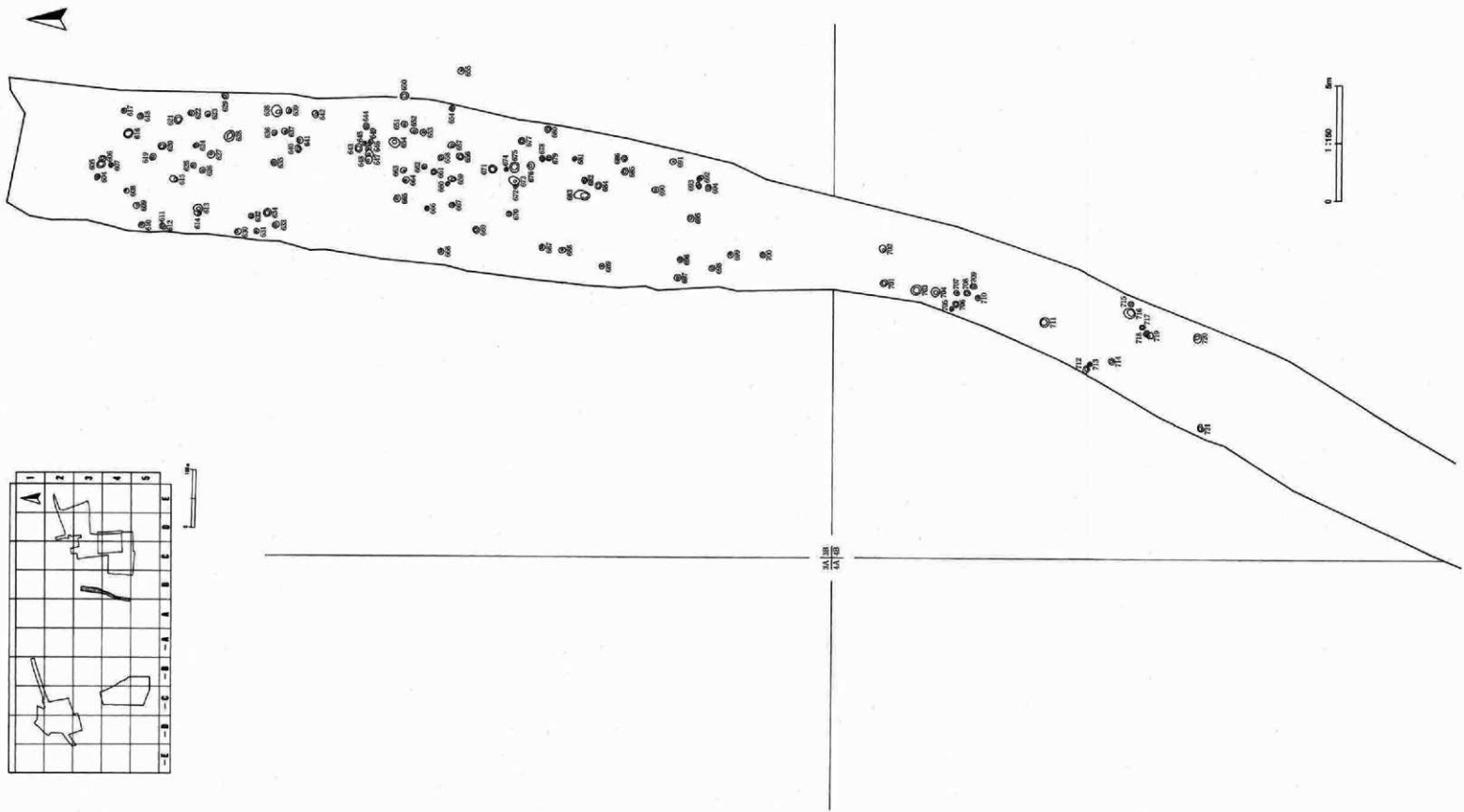
第140园 柱穴群 (2)



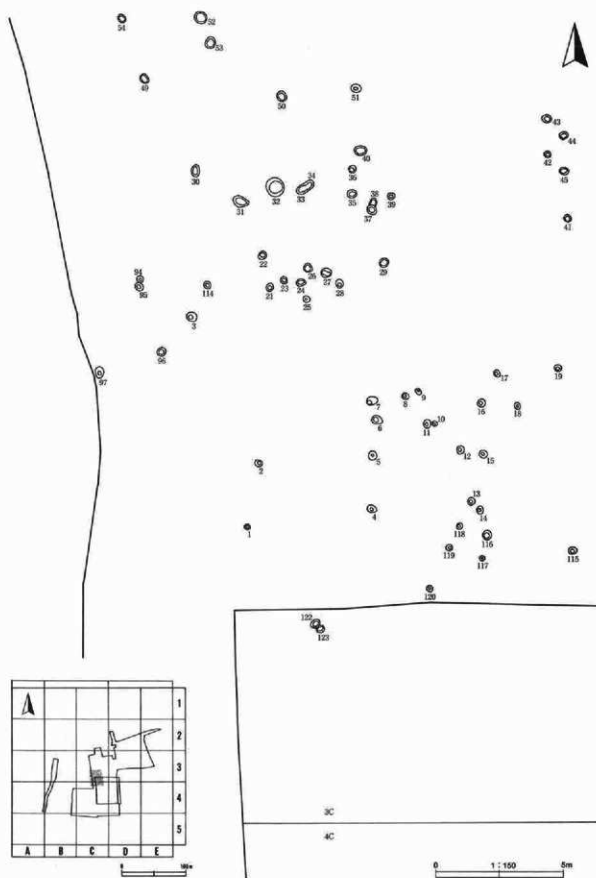
第141图 柱穴群 (3)



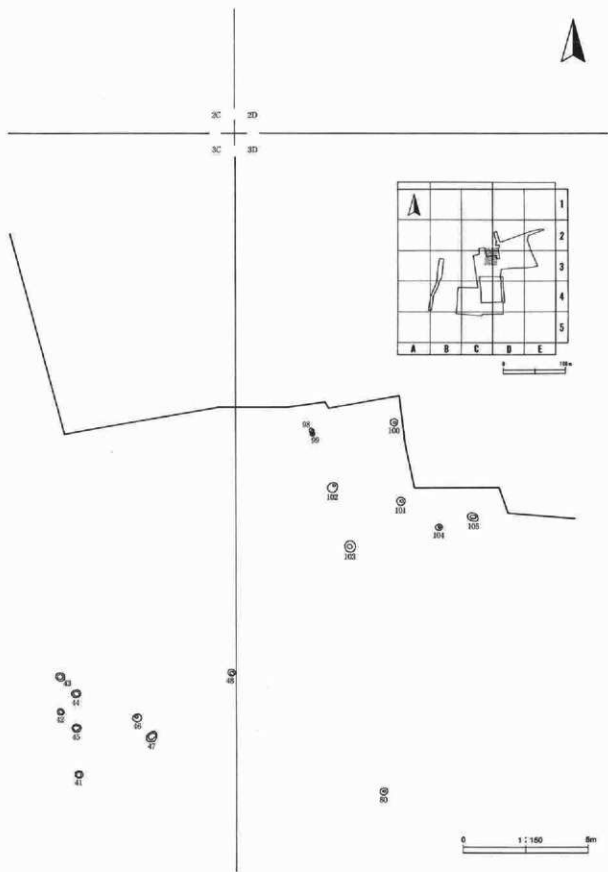
第142图 柱穴群(4)



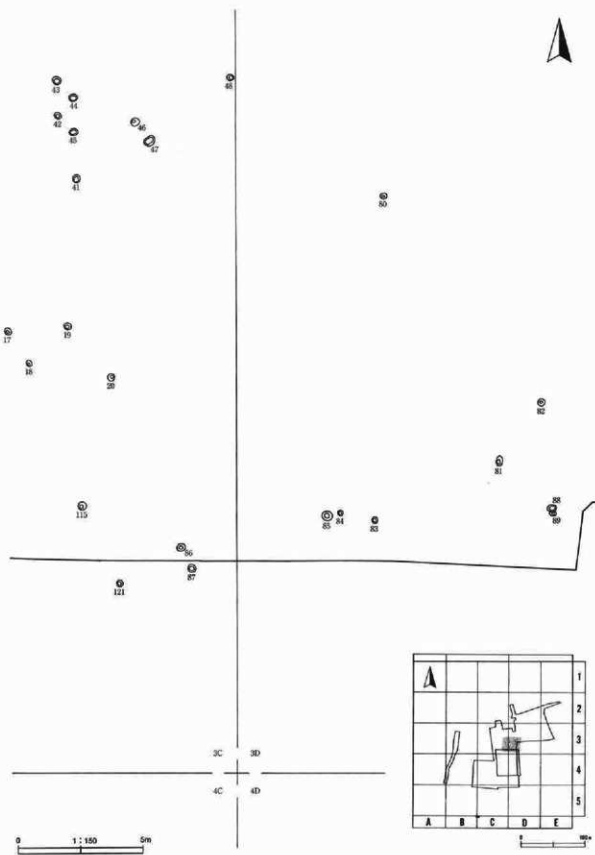
第143组 柱穴群 (5)



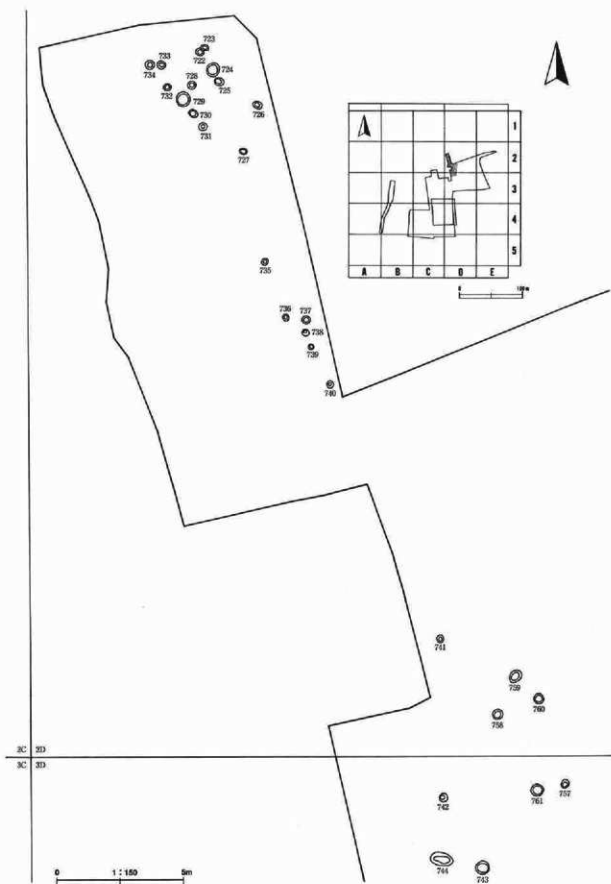
第144図 柱穴群（6）



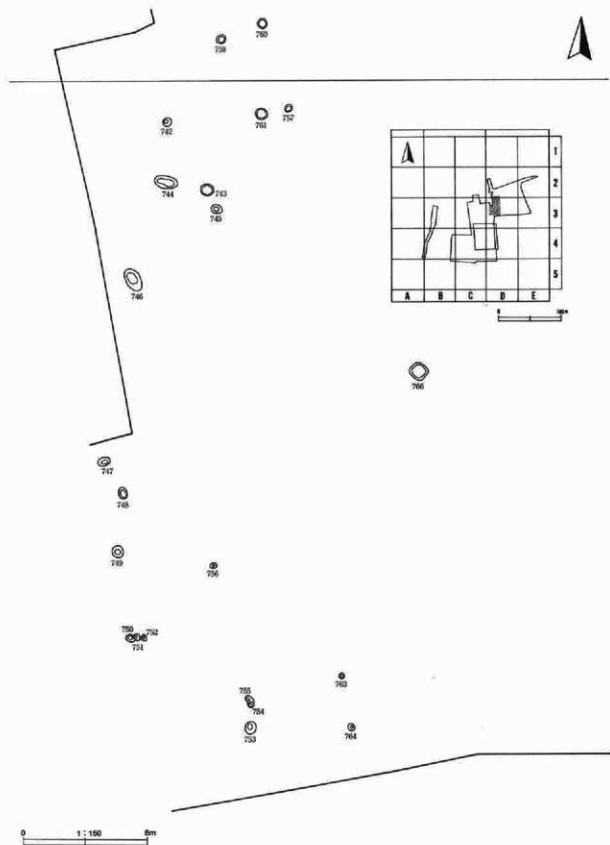
第145図 柱穴群(7)



第146図 柱穴群(8)



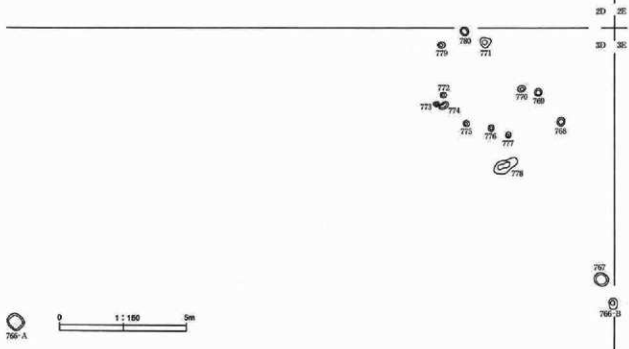
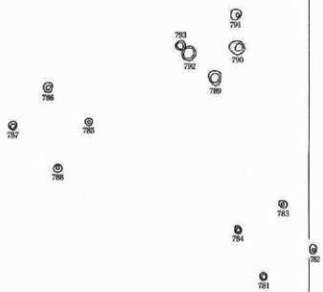
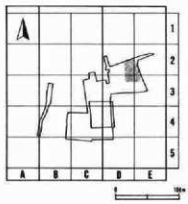
第147図 柱穴群(9)



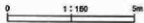
第148区 柱穴群 (10)



762



766-A



第149圖 柱穴群 (11)

柱六計測表

番号	開口幅 (cm)	深さ (cm)	備考	図面 No.	番号	開口幅 (cm)	深さ (cm)	備考	図面 No.	番号	開口幅 (cm)	深さ (cm)	備考	図面 No.
1	25×20	21.4		119	71	38×34	14.7		120	117	20×19	7.1		128
2	38×28	33.1		119	75	41×30	37.5		120	118	25×23	10.1		128
3	47×29	38.3		101	76	38×34	32.1		120	149	30×16	13.6		128
4	38×26	43.3		119	77	38×28	13.8		120	150	30×20	11.1		128
5	34×32	37.8		119	78	36×32	16.6		120	151	18×18	10.6		128
6	30×33	13.7		119	79	43×42	31.2		120	152	26×24	16		128
7	46×33	51.2		119	80	26×35	38.1		121	153	25×19	16.5		128
8	28×28	10.4		119	81	37×35	19.3		104	154	23×23	21.8		128
9	26×21	29.3		119	82	27×26	45		121	155	30×20	16.9		128
10	22×22	30.9		119	83	23×22	21.4		105	156	28×25	26.5		128
11	35×36	10.6		119	84	21×20	29.2		10b	157	25×19	22.3		128
12	30×28	22.5		119	85	41×40	22.8		10c	158	30×36	18.2		128
13	38×24	17.2		119	86	32×28	27.7		10d	159	32×32	37.6		128
14	31×21	36.7		116	87	28×25	17.2		10e	160	33×29	32.5		128
15	31×31	49		116	88	33×24	20.6		10f	161	120×17	21.4		128
16	37×30	47		116	89	40×30	27.5		10g	162	24×22	22.5		128
17	28×24	26.2		116	90	45×40	23.7		10h	163	22×21	16.5		128
18	26×22	22.1		116	91	50×42	35.4		10i	164	30×30	15.8		127
19	29×26	22.2		116	92	36×33	33.4		10j	165	27×20	15.8		127
20	31×31	13.4		116	93	38×34	21.2		10k	166	23×23	28.8		127
21	31×28	14.2		115	94	26×24	8.8		10l	167	16×16	10.7		127
22	36×33	34.2		114	95	32×32	51.9		10m	168	26×23	20.3		127
23	27×24	11.6		114	96	34×29	46.1		10n	169	22×20	22.1		127
24	39×24	28.5		114	97	42×35	32.1		10o	170	29×24	19.6		127
25	26×22	44.7		119	98	25×22	56		109	171	22×20	22		127
26	35×35	12.2		114	99	22×(12)	36		109	172	20×19	22.7		127
27	42×32	12.8		114	100	30×28	28		109	173	21×19	21.7		127
28	34×32	13.8		114	101	35×34	49.5		109	174	21×20	12.9		143
29	40×32	16.7		111	102	46×40	62.5		109	175	26×21	31		143
30	45×30	20.1		111	103	46×42	42.4		109	176	21×20	19.2		143
31	68×40	14.6		114	104	36×33	52		109	177	20×16	6.2		143
32	72×68	18.5		114	105	40×37	68.7		109	178	26×22	25.3		143
33	60×34	14.5		114	106	30×37	27.8		110	179	30×25	20.1		143
34	62×32	13		114	107	58×19	17.5		110	180	37×29	15.7		143
35	36×32	14.2		114	108	93×94	27		110	181	27×25	29.3		143
36	30×26	22.4		114	109	22×20	21.5		110	182	25×20	3.8		143
37	36×36	21.6		114	110	23×9	6.2		110	183	19×17	8.5		143
38	38×38	15		114	111	38×6	23.3		141	184	24×22	15.7		143
39	36×28	14.6		114	112	47×37	18.1		141	185	25×23	31.5		143
40	30×38	20		114	113	29×(2)	17.3		141	186	18×15	10.9		143
41	30×28	14.4		117	114	28×30	16.6		101	187	30×19	10.1		143
42	24×20	16.1		117	115	30×30	25.2		141	188	26×21	20.5		143
43	34×32	22		117	116	37×37	43.5		154	189	27×27	15.5		143
44	32×32	14.3		117	117	23×19	42.8		154	190	26×25	28.7		143
45	34×27	10.6		117	118	24×22	13.8		141	191	30×18	15.5		143
46	38×28	11.8		117	119	29×26	23.3		141	192	29×28	21.8		143
47	45×32	12.5		117	120	24×23	51.5		141	193	19×19	4.5		143
48	28×28	16.5		117	121	24×23	15.3		141	194	28×26	31.3		146
49	38×30	20.3		122	122	40×31	13.9		141	195	30×17	10.9		146
50	36×36	21.3		114	123	30×25	9.7		141	196	30×30	22.6		126
51	40×30	20.7		114	124	24×23	31		141	197	24×24	11.8		126
52	48×44	21.8		122	125	33×32	26.5		147	198	24×23	22.1		126
53	42×36	11.4		122	126	26×20	20.2		147	199	21×20	17.3		126
54	27×26	17		122	127	35×30	48.3		147	200	24×19	16		126
55	30×28	29.2		122	128	32×30	19.8		147	201	23×21	15.4		126
56	41×32	18.5		122	129	34×31	24.8		147	202	21×21	21.4		126
57	36×25	19		122	130	29×28	20.7		147	203	26×21	12.1		126
58	5×49	62.5		122	131	21×23	17.1		147	204	26×25	19.3		126
59	48×43	51.5		122	132	30×38	13.9		147	205	33×26	9.6		126
60	40×31	48.1		122	133	33×30	22.6		147	206	35×31	39.4		126
61	28×27	29.5		122	134	21×21	24.4		147	207	33×32	26.3		126
62	40×39	32.4		122	135	38×32	39.9		147	208	30×28	18.7		126
63	44×43	44.4		122	136	36×23	17.2		147	209	24×22	1.2		126
64	44×43	36		122	137	27×25	17.3		145	210	25×24	24.8		126
65	32×33	9.7		122	138	26×21	17.4		146	211	27×27	27.3		126
66	38×34	38.2		122	139	28×25	22.8		146	212	24×20	18.7		126
67	37×32	26.2		121	140	29×25	29.7		145	213	25×25	13.8		126
68	33×26	22.6		121	141	25×20	19.2		145	214	23×20	17.8		126
69	42×33	45		122	142	20×19	10.4		145	215	29×25	23		142
70	37×32	41.9		122	143	31×26	24.6		145	216	22×20	20		142
71	42×29	36.2		122	144	25×21	15.5		145	217	22×21	22.2		142
72	47×40	45.7		122	145	22×17	5.1		145	218	35×30	28.2		142
73	34×31	19.6		122	146	23×19	5.1		145	219	25×24	24.3		142

番号	開口部径 (cm)	長さ (cm)	備考	図面 No.
220	29 × 25	40.2		132
221	25 × 18	5		132
222	26 × 25	22.1		132
223	18 × 18	15.8		132
224	30 × 19	7.1		132
225	20 × 17	9.5		132
226	20 × 19	18.7		132
227	22 × 20	22.8		140
228	24 × 21	11.1		140
229	33 × 30	46.6		140
230	36 × 33	15.2		140
231	23 × 19	7.4		140
232	21 × 21	6.4		40
233	34 × 31	21.7		43
234	20 × 19	14.4		43
235	26 × 23	22.1		154
236	18 × 16	2.5		154
237	25 × 20	10.7		144
238	40 × 29	10.1		149
239	27 × 21	10.6		149
240	18 × 18	10.3		149
241	26 × 18	17.6		139
242	30 × 24	34.8		149
243	30 × 28	13.4		149
244	26 × 24	38.9		149
245	22 × 20	36.1		149
246	31 × 21	24.6		149
247	26 × 26	11		149
248	21 × 20	39.7		148
249	25 × 23	29.9		148
250	28 × 27	24.2		148
251	39 × 36	14.8		148
252	24 × 17	31.8		148
253	21 × 20	22.4		148
254	23 × 21	20.7		148
255	22 × 22	32.4		148
256	25 × 24	18		148
257	22 × 21	23.5		148
258	26 × 22	10.9		148
259	20 × 19	20.9		148
260	25 × 23	26		148
261	20 × 19	7.1		148
262	18 × 16	8.3		148
263	23 × 23	19.2		148
264	30 × 37	38.8		154
265	40 × 36	17.6		154
266	30 × 28	27.7		154
267	31 × 30	13.2		154
268	35 × 32	38.6		154
269	31 × 31	10		154
270	43 × 36	12.8		154
271	54 × 45	9.4		154
272	59 × 43	13		154
273	22 × 21	6.1		154
274	27 × 25	7.6		133
275	62 × 41	11.5		133
276	31 × 47	13.7		133
277	49 × 35	18.7		151
278	42 × 36	16.8		151
279	41 × 36	30	151 133	
280	31 × 30	7.6	151 133	
281	25 × 20	15.4	151 133	
282	24 × 24	13.1	151 133	
283	53 × 35	17.9	151 133	
284	43 × 38	16.3	133	
285	41 × 40	17.8	133	
286	51 × 37	23.8	133	
287	35 × 32	9.3	133	
288	23 × 21	5.1	133	
289	48 × 40	9.5	133	
290	39 × 28	14.5	133	
291	40 × 28	16.3	133	
292	34 × 34	23.8	133	
293	30 × 23	18.1	133	
294	62 × 36	12.7	133	

番号	開口部径 (cm)	長さ (cm)	備考	図面 No.
295	34 × 26	9.8		133
296	51 × 39	20.9		133
297	32 × 31	11.3		133
298	36 × 32	16.6		133
299	39 × 34	20.5		133
300	26 × 24	13.9		133
301	30 × 27	13.8		133
302	19 × 18	4.1		133
303	32 × 28	8.1		133
304	25 × 24	10.5		133
305	28 × 21	9.1		133
306	34 × 27	10.6		133
307	73 × 44	21		133
308	55 × 29	24.3		133
309	32 × 25	7.8		133
310	28 × 22	9.1		133
311	45 × 27	19.3		133
312	33 × 32	15.9		133
313	29 × 27	15		133
314	40 × 28	13.9		133
315	30 × 29	9.3		133
316	34 × 32	23.4		133
317	28 × 22	8.8		133
318	33 × 30	19.7		143
319	35 × 33	20		143
320	25 × 24	9.5		133
321	65 × 32	7.5		133
322	22 × 22	10.5		133
323	28 × 27	25.2		133
324	25 × 21	12.7		133
325	29 × 29	26.7		133
326	29 × 20	14.2		133
327	31 × 30	19.7		133
328	32 × 21	14.8		133
329	27 × 27	17		133
330	59 × 24	23.5		139
331	30 × 27	13.9		129
332	27 × 22	14		129
333	23 × 18	14.1		129
334	39 × 21	15		129
335	24 × 24	7.4		129
336	38 × 26	12		129
337	31 × 20	26.8		129
338	35 × 24	10.6		129
339	29 × 25	11.7		129
340	32 × 29	18.5		129
341	42 × 39	29.9		129
342	31 × 28	16.6		129
343	33 × 31	19		129
344	30 × 27	10.5		129
345	18 × 16	2.7		129
346	37 × 34	17.5		129
347	24 × 21	15		129
348	43 × 28	17.5		129
349	35 × 27	13		129
350	17 × 16	11.4		138
351	85 × 36	20.9		138
352	27 × 26	12		142
353	22 × (19)	8.4		142
354	30 × (25)	22		142
355	308 × (32)	19.2		142
356	51 × 24	13.3		142
357	33 × 22	12.9		142
358	25 × 21	22.4		142
359	23 × 21	9.2		142
360	26 × 21	8.6		142
361	25 × 21	7.5		42
362	60 × 37	13.3		42
363	62 × 36	8.7		142
364	28 × 22	14.3		142
365	20 × 17	9		142
366	30 × 23	8.2		123
367	60 × 30	15.7		138
368	44 × 24	9		138
369	34 × 25	15.7		138

番号	開口部径 (cm)	長さ (cm)	備考	図面 No.
370	2 × 21	16.1		134
371	29 × 21	10.6		138
372	46 × 32	18.2		138
373	28 × 20	5.7		138
374	22 × 18	7		138
375	20 × 3	8.2		138
376	43 × 40	21.7		138
377	24 × 19	16.3		138
378	30 × 29	15.3		138
379	25 × 23	14.9		138
380	38 × 28	16.2		134
381	21 × 20	9.5		138
382	30 × 22	25		38
383	64 × 21	13.2		138
384	15 × 15	9.5		138
385	28 × 18	11.1		138
386	18 × 15	11.4		138
387	18 × 18	11.1		124
388	34 × 33	21.6		124
389	36 × 19	15.9		134
390	22 × 22	10		114
391	23 × 21	11		123
392	45 × 27	22.9		123
393	61 × 35	25.7		123
394	22 × 18	15.1		123
395	55 × 25	11.8		123
396	56 × 50	18.3		23
397	21 × 30	11.6		123
398	25 × 15	8.2		130
399	44 × 30	25.9		150
400	(41) × 25	21.7		150
401	24 × 23	27.1		150
402	27 × 17	7.5		150
403	30 × 25	17.3		150
404	37 × 33	11.5		150
405	35 × 29	13.2		150
406	28 × 24	11.3		150
407	43 × 26	14.2		150
408	30 × 27	11.6		150
409	45 × 38	3.7		150
410	41 × 36	11		150
411	30 × 32	16.1		50
412	24 × 24	13.2		153
413	29 × 25	11.3		153
414	28 × 24	5.6		153
415	21 × 19	6.3		153
416	23 × 19	7.1		153
417	36 × 25	11.1		153
418	20 × 18	6.2		153
419	38 × 42	14.8		153
420	30 × 26	9.7		153
421	25 × 22	5.2		153
422	24 × 21	3.6		153
423	26 × 24	10.6		153
424	32 × 30	9.8		153
425	69 × 34	4.8		54
426	32 × 28	10		153
427	21 × 20	10.7		153
428	25 × 23	15		153
429	29 × 24	6.6		153
430	24 × 19	10.1		153
431	22 × 20	17.2		153
432	27 × 25	8.1		153
433	29 × 27	10.2		153
434	25 × 21	3.4		153
435	26 × 25	27.1		153
436	28 × 24	7.1		153
437	29 × 22	8.7		153
438	25 × 17	13.7		125
439	27 × 22	13.6		125
440	36 × 33	19.9		125
441	31 × 35	16.2		125
442	38 × 3	25		125
443	30 × 26	11		137
444	30 × 26	13.8		137

番号	開口距離 (cm)	高さ (cm)	備考	図面 No.	番号	開口距離 (cm)	高さ (cm)	備考	図面 No.	番号	開口距離 (cm)	高さ (cm)	備考	図面 No.
445	17×35	22.9		137	620	35×30	40.6		151	595	20×18	0.8		135
446	34×32	28.7		137	621	26×26	15.1		151	596	26×26	17.5		135
447	29×27	13.6		137	622	32×31	11.6		151	597	26×26	15.6		35
448	116×41	36.2		137	623	49×30	20		151	598	42×24	4.9		130
449	40×39	13.4		137	624	60×56	26.6		151	599	26×22	45.9		135
450	29×25	13.8		137	625	63×27	21		151	600	35×31	12		130
451	33×26	19.6		137	626	95×61	31		151	601	24×22	16.3		130
452	38×37	15.4		137	627	30×28	12.2		151	602	40×38	16.7		130
453	30×26	18.8		137	628	28×25	9.8		151	603	33×25	15.2		130
454	20×19	11.8		37	629	25×24	11.6		151	604	26×24	8.5		94
455	31×26	20.3		137	630	26×25	8.2		151	606	38×(30)	15		94
456	23×22	11.1		137	631	24×22	7.9		151	606	28×(26)	10.1		94
457	30×26	7.5		137	632	28×25	9.3		151	607	3×18	10.9		94
458	58×37	24.2		137	633	32×27	19.3		151	608	22×20	13.4		94
459	30×26	23.9		137	634	40×35	24.7		151	609	25×24	27.2		94
460	27×24	23.4		137	635	36×23	9.8		151	610	26×22	26.9		94
461	39×35	22.2		137	636	32×29	25.3		151	611	23×22	18.3		98
462	33×30	28.7		137	637	38×36	22.2		151	612	23×(18)	12.2		98
463	20×20	7.2		137	638	24×23	25.7		151	613	28×(27)	4		98
464	34×30	25.1		137	639	24×23	21.8		31	614	42×(24)	9.6		98
465	20×19	14.7		147	640	25×18	23.7		31	615	38×25	28.2		98
466	44×32	13.8		137	641	25×13	7		31	616	38×28	11		94
467	56×60	48.6		37	642	31×31	26.7		131	617	20×20	15.4		94
468	38×38	22.3		137	643	36×31	39.7		131	618	26×22	11.1		94
469	20×19	14.8		137	644	33×25	21.3		131	619	26×24	23.2		94
470	28×26	11.5		137	645	37×31	10.9		131	620	35×32	17.8		98
471	55×35	49		137	646	33×31	11.7		131	621	34×32	21.6		98
472	63×50	40.4		137	647	35×35	23.7		131	622	38×25	41.5		98
473	37×33	18.7		137	648	37×36	12.1		131	623	22×20	11.1		98
474	30×30	13.1		137	649	35×32	18.9		131	624	22×20	6.7		98
475	51×47	21.6		137	650	32×29	44.9		131	625	23×20	8.9		98
476	50×34	4		137	651	26×24	11.4		131	626	25×22	17.4		98
477	38×43	37.1		137	652	33×32	19.5		131	627	30×27	16.6		98
478	24×21	12.1		137	653	25×24	10.9		131	628	32×42	58.7		98
479	30×30	15.8		137	654	32×22	12.3		131	629	27×24	27.8		98
480	57×47	30.5		37	655	71×44	16.3		31	630	30×26	25.3		98
481	34×29	14.8		137	656	28×25	16.5		31	631	20×18	15.5		98
482	28×25	14.5		137	657	27×22	15.3		131	632	20×20	10.8		98
483	60×37	30		137	658	25×23	17		131	633	28×22	22.4		98
484	32×27	14.3		137	659	45×44	17.9		131	634	31×30	9.5		98
485	35×34	23.4		137	660	42×30	22.6		131	635	30×30	24.9		98
486	37×25	16.9		137	661	37×34	26.5		131	636	24×22	5.3		98
487	36×26	18.1		137	662	37×36	19		131	637	25×25	20.9		98
488	32×27	13.5		137	663	42×39	9		131	638	45×42	10.8		98
489	44×29	17.2		137	664	26×22	8.3		131	639	24×23	21.9		98
490	30×29	14.4		137	665	29×27	16.8		131	640	28×28	20.4		98
491	26×25	19.4		137	666	30×28	8.8		130	641	32×27	35.9		98
492	23×23	8.2		137	667	26×24	5.6		139	642	32×30	38.5		100
493	39×35	11.1		37	668	31×27	14.3		139	643	38×32	12.6		100
494	29×21	5.6		137	669	39×35	12.6		139	644	33×28	26.4		100
495	25×22	15.3		137	670	45×38	24.4		139	645	(22)×16	16		100
496	42×37	11.5		137	671	40×36	17.4		139	646	28×(24)	27.6		100
497	29×25	15.2		137	672	35×31	16.3		39	647	36×(33)	25.2		100
498	20×19	7.2		137	673	33×29	5.5		139	648	(38)×31	42.3		100
499	53×45	13.2		137	674	19×18	11.7		139	649	26×21	26.6		100
500	36×35	17.2		150	675	30×26	4.4		139	650	34×30	37.1		100
501	62×39	46.3		150	676	21×20	9.2		139	651	28×26	21.1		100
502	80×16	15.4		150	677	28×25	16.3		139	652	30×26	43.5		100
503	35×31	18.9		150	678	25×24	12.4		139	653	20×25	30.8		100
504	25×22	6		150	679	21×20	16.7		139	654	22×20	21.4		100
505	43×39	23.5		137	680	26×25	15.7		139	655	30×30	51.2		100
506	100×51	25		137	681	28×25	3		139	656	30×28	37.3		100
507	62×37	21.4		137	682	40×34	17.4		139	657	28×28	33.1	白紙475	100
508	23×23	10.4		37	683	70×60	28.4		139	658	22×22	16.5		100
509	29×28	16.3		137	684	25×24	21.9		139	659	32×22	8.9		100
510	32×31	22.2		137	685	31×30	13.1		139	660	18×17	9.6		100
511	31×28	17.6		137	686	34×29	11.8		139	661	25×22	8.9		100
512	26×24	24.2		137	687	29×28	25.4		139	662	18×18	5.3		100
513	23×23	11.7		137	688	25×21	19.2		139	663	24×22	6.3		100
514	23×22	16.3		137	689	25×23	14.2		139	664	26×23	19.9		100
515	26×25	11.9		151	500	(45)×35	12.7		139	665	36×27	22.1		100
516	25×25	7.8		151	501	35×27	20.8		139	666	30×19	10.9		100
517	30×49	29.4		151	662	25×25	24.5		139	667	23×23	27.8		100
518	36×50			151	663	26×25	35		139	668	26×24	22.1		100
519	28×26	17		151	694	50×30			133	669	27×25	11.5		98

序号	洞口规格 (cm)	洞口 (cm)	备注	图例 No.
670	22×20	8.9		96
671	38×32	9.7		96
672	30×10	31.2		96
673	50×(37)	36		96
674	31×8	14.9		96
675	40×44	12.5		96
676	34×30	35.9		96
677	38×27	17.5		96
678	23×19	15.4		96
679	23×18	8.2		96
680	火警			
681	16×14	13.1		96
682	27×21	28.7		96
683	12×80	36.6		96
684	28×24	31.7		96
685	28×26	3.1		96
686	24×22	24.7		96
687	25×24	34.2		96
688	28×20	10		96
689	27×19	28.2		96
690	30×36	22		97
691	28×23	21.5		97
692	34×21	44.5		97
693	32×22	37		97
694	31×27	56		97
695	30×28	31.3		97
696	27×22	32.6		97
697	25×27	12.9		97
698	26×25	22.2		97
699	28×21	21.1		97
700	29×25	17		97
701	29×28	23.8		94
702	33×26	31		94
703	41×40	34.8		94
704	36×31	28.5		94
705	22×18	8.3		94
706	29×26	14.8		94
707	31×17	14.7		94
708	28×24	16.5		94
709	32×20	85.3		94
710	21×28	15.6		94
711	40×38	39.5		94
712	39×32	22.9		96
713	19×16	23.9		96
714	28×25	16.8		96
715	21×22	18		96
716	54×80	45.8		96
717	26×24	49.8		96
718	34×(1'2)	15.3		96
719	38×36	29.3		96
720	40×34	40.5		96
721	43×28	20.7		96
722	30×28	7.2		177
723	34×24	10.5		177
724	51×49	11.6		177
725	36×31	16.7		177
726	33×30	0.6		177
727	35×24	10.7		177
728	35×21	18.6		177
729	58×54	21.6		177
730	33×34	8.9		177
731	28×21	8.2		177
732	28×22	10		177
733	30×28	9.7		177
734	34×30	10		177
735	28×30	8.4		177
736	26×22	8.7		177
737	35×30	10.3		177
738	28×26	14		177
739	22×30	24.5		177
740	30×30	24.8		177
741	30×34	16.9		165
742	31×33	21.3		170
743	31×44	17.6		174
744	95×33	29.6		170

序号	洞口规格 (cm)	洞口 (cm)	备注	图例 No.
745	43×33	21.0		170
746	58×60	35.1		170
747	50×33	31		173
748	48×50	13		173
749	48×46	41.3		173
750	30×28	32.5		179
751	33×22	37.9		179
752	22×20	32		179
753	60×40			179
754	28×20	24.6		168
755	24×21	33.4		168
756	20×20	11.2		179
757	31×30	11.5		174
758	39×36	8.3		165
759	49×45	13.1		166
760	37×44	9.8		166
761	19×15	18.4		174
762	25×25	12.2		160
763	21×20	9.7		168
764	28×25	33.2		168
765	56×53	42.7		163
766	A(160)×62(B445×43)	A(160) (B) 56		156
767	54×52	16.6		97
768	33×30	22.6		173
769	29×26	9.9		173
770	30×28	47.1		173
771	43×40	47.7		773
772	24×21	41.1		173
773	34×31	4.8		173
774	39×24	24		173
775	28×19	18.9		173
776	25×23	28.1		173
777	21×20	14.6		173
778	101×59	33.2		173
779	28×27	13.8		173
780	34×28	14.2		173
781	29×28	50.8		156
782	30×26	42.9		156
783	30×22	59.2		156
784	32×25	43.1		135
785	30×28	50.3		157
786	39×31	38.2		157
787	35×34	44.8		157
788	34×30	7.6		157
789	38×56	36.8		159
790	41×35	32.6		180
791	45×43	28.3		192
792	69×51	31.6		159
793	37×37	9.3		159
794	28×26	16.5		90
795	28×26	22.5		59 6C
796	63×62	38.7		59
797	57×48	10.1		59
798	23×21	11.8		59
799	31×29	25.9		59
800	25×25	16.1		39
801	56×54	35.8		39
802	21×22	17.4		59
803	31×29	37.9		59
804	52×47	38.1		59
805	50×43	30.5		59
806	28×18	13.7		47
807	44×38	13.8		47
808	28×18	13.7		47 7C
809	40×36	9.3		75
810	26×22	11.5		75
811	26×26	12.8		75
812	22×20	13		75
813	23×21	8.2		75
814	26×24	8.1		75
815	33×29	13.1		75
816	30×30	19.1		75
817	31×28	10.2		75
818	31×44	17.4		75
819	42×40	34.4		75

序号	洞口规格 (cm)	洞口 (cm)	备注	图例 No.
820	27×25	29.2		75
821	38×36	26.9		75
822	36×32	30.3		75
823	39×22	30.6		75
824	68×50	23.5		75
825	58×44	21.1		75
826	33×26	20.1		75
827	26×26	18.6		75
828	36×34	15.6		75
829	40×30	23.2		77
830	32×31	30		77
831	33×22	27		77
832	24×(18)	11.3		77
833	30×30	27.5		77
834	64×45	27.5		77
835	54×33	31.2		77
836	40×35	30		77
837	33×34	22.6		77
838	38×21	36.7		77
839	38×21	14.3		77
840	50×46	19.3		77
841	34×29	16.2		77
842	40×37	23.1		77
843	38×30	22		77
844	34×24	21.8		77
845	69×61	17.3		79
846	32×28	12.6		79
847	38×24	18		76
848	36×24	44		76
849	26×20	22.7		76
850	26×21	28.6		76
851	27×23	28.9		76
852	30×20	37.0		76
853	31×21	39.1		76
854	35×32	32.1		76
855	36×31	39.6		76
856	29×28	23.2		76
857	25×26	15.9		76
858	26×25	16.3		76
859	29×28	12.8		79
860	31×28	9.9		76
861	29×18	37.5		76
862	28×23	14.1		76
863	34×32	16.3		76
864	28×27	29.6		76
865	26×21	23.6		76
866	31×30	33		79
867	32×32	22.7		79
868	42×40	31.5		79
869	35×33	18.9		79
870	34×33	28.5		79
871	28×27	20		79
872	32×31	12.7		79
873	37×34	13.7		79
874	46×43	26.2		64 79
875	23×24	26.1		64 79
876	29×26	21.2		64
877	21×20	10.3		62
878	36×22	13		62 77
879	27×25	8.2		62
880	40×34	11.7		62
881	46×43	10.2		77
882	36×28	13.4		77
883	29×25	17.6		47 82
884	36×30	13.4		82
885	28×25	9.9		82
886	18×18	10		82
887	31×30	12.9		82
888	36×33	13.7		82
889	67×47	4.6		82
890	33×30	9.3		82
891	33×24	18.1		82
892	37×28	19.9		82
893	28×25	7.1		82
894	20×16	16.5		82

番号	開口形状 (cm)	高さ (cm)	備考	図面 No.	寸寸	開口形状 (cm)	高さ (cm)	備考	図面 No.	寸寸	開口形状 (cm)	高さ (cm)	備考	図面 No.
895	38×28	19.5		52	970	26×20	16.1		71	1043	40×30	10.3		67
896	20×18	11.9		52	971	30×28	19.6		71	1046	42×30	10.7		67 73
897	30×19	7.41		52	972	30×30	12.9		82	1047	40×34	10.7		73
898	25×22	15.8		52	973	34×30	26.4		50	1048	34×33	16.5		73
899	24×20	20.1		52	974	30×26	43.4		50	1049	43×33	27.8		73
900	22×20	20.4		52	975	30×30	33.3		60	1050	31×29	14.8		67
901	26×24	11		52	976	25×28	43.7		60	1051	31×32	7.8		67
902	36×28	15.4		52	977	26×23	28		60	1052	36×30	17		67
903	26×26	19.9		52	978	23×20	8.3		38	1053	31×30	14		67
904	33×33	20.1		52	979	25×20	30.5		38	1054	32×30	17		66
905	30×30	22.6		51	980	22×18	4.4		38	1035	28×26	13.9		66
906	30×28	12.8		64	981	34×28	38.2		38	1036	37×30	20.2		66
907	37×30	25.4		64	982	22×18	18.5		58	1057	22×24	12.1		66
908	28×28	29.2		64	983	26×23	28.2		58	1058	58×42	16		66
909	62×40	21.2		61	984	28×25	31.4		58	1059	44×27	24		66
910	35×31	30.3		61	985	24×22	30.1		58	1060	31×25	7.4		66
911	32×31	23.5		64	986	24×22	12		58	1061	32×30	11.4		66
912	24×32	37.4		64	987	21×20	11.3		58	1062	32×30	10.9		66
913	49×75	24.6		64	988	50×23	94.6		58	1063	33×28	10.8		66
914	3.×26	11.3		64	989	32×30	26.5		58	1064	34×27	8.1		66
915	32×30	29.9		64	990	35×27	30.8		58	1065	28×26	9.9		66
916	45×38	17.8		64	991	20×27	15.5		58	1066	28×25	10.7		66
917	27×23	14.8		63	992	33×32	40	38.61	61	1067	32×29	17.3		66
918	30×26	20.7		63	993	31×27	24.6	38.61	61	1068	31×29	9.3		66
919	38×32	29.8		63	994	26×24	31		61	1069	30×25	16.8		66
920	40×26	30.1		63	995	28×24	11		61	1070	31×28	14.8		69
921	40×32	1.5		63	996	33×32	33.3		61	1071	38×37	22.5		69
922	25×24	26.9		63	997	30×26	26.2		51	1072	44×29	24.4		66
923	31×27	23.5		63	998	36×26	39.8		51	1073	44×40	17.9		66
924	26×21	21.1		63	999	34×28	23.3		61	1074	25×25	8.7		66
925	19×17	14.9		63	1000	30×28	17.6		57	1075	50×42	31.1		66
926	28×26	19.8		63	1001	30×28	22.5		57	1076	59×46	33.5		66
927	24×23	16.1		63	1002	31×31	37.2		57	1077	46×44	30.8		69
928	31×30	30.9		63	1003	28×18	6.5		57	1078	48×46	25.2		69
929	34×30	24.4		63	1004	30×26	23.8		57	1079	65×52	14.3		66
930	24×23	16.8		68	1005	32×26	26		80	1080	45×42	23.6		66
931	19×18	15.3		68	1006	39×36	33.6		61	1081	59×15	22.1		66
932	36×31	7.8		63	1007	38×34	24.8		63	1082	72×68	13.9		36 66
933	26×21	12.1		63	1008	45×38	40.6		33 61	1083	49×45	21.1		57
934	37×28	41.3		63	1009	32×32	11.1		53	1084	42×37	12.1		57
935	28×27	15.1		63	1010	34×32	32.3		63	1085	44×40	17.7		56
936	26×25	24.2		63	1011	40×31	43.6		33 61	1086	51×45	20.2		56
937	30×30	31.4		63	1012	37×28	32.4		53 51	1087	41×36	17.5		56
938	27×26	14.7		51	1013	32×30	30.1		53 61	1088	26×24	7.2		56
939	66×40	5.2		51	1014	26×31	26.6		56	1089	31×29	11.2		57
940	3×27	2.2		51	1015	41×37	53.3		38	1090	27×30	10.8		66
941	36×31	30.7		51	1016	18×16	13.2		38	1091	24×24	10.8		66
942	32×28	17.6		51	1017	25×22	13.9		39	1092	32×30	25.3		66
943	36×35	43.9		51	1018	(25)×20	15.2		33	1093	22×18	6.9		69
944	46×36	9.9		51	1019	24×24	17.4		53	1094	28×26	7.8		69
945	22×21	21		51	1020	27×22	11.6		58	1095	24×22	13.2		69
946	34×31	33.6		51	1021	27×26	23.5		53	1096	26×24	13.7		66
947	63×41	44		51	1022	27×23	11.6		53	1097	32×30	13		66
948	27×26	37.2		51	1023	(26)×25	18.5		53	1098	38×31	9.5		66
949	66×61	22.6		51	1024	39×36	14.7		54	1099	23×31	9.3		66
950	25×24	18.3		51	1025	29×28	16.4		69 80	1100	34×31	10.4		66
951	36×34	25.4		51	1026	31×24	9.1		69 80	1101	43×36	8.7		66
952	26×26	16.1		51	1027	28×27	9.9		69 80	1102	36×30	25.9		36 66
953	49×35	29.3		51	1028	24×22	8.8		69 80	1103	32×33	11.5		56
954	25×22	23.7		51	1029	27×20	9		57	1104	25×21	8.2		56
955	22×27	18.3		82	1030	28×20	19		57	1105	38×3(3)	30.6		56
956	28×24	21.5		50	1031	24×22	13.4		57	1106	43×32	28.3		56
957	38×37	21.3		50	1032	46×46	24		57	1107	32×30	19.8		66
958	22×22	16.7		50	1033	44×38	26.1		57	1108	46×42	15.9		66
959	24×24	18.6		50	1034	38×30	12.6		57	109	47×41	14.1		66
960	29×26	26.4		50	1035	41×30	18		57	110	43×30	11		66
961	21×30	23.3		50	1036	27×26	12.7		57	1111	53×49	22.6		66
962	34×30	32.9		50	1037	22×25	7.9		37	1112	38×32	29.1		78
963	20×14	7.9		50	1038	28×26	18.4		57	1113	48×44	20.8		78
964	26×22	26.4		50	1039	29×22	8		59	1114	38×36	21.6		78
965	26×30	10.1		50	1040	27×26	12		69	1115	45×45	27.4		78
966	38×34	27.8		50	1041	23×18	6.5		69	1116	42×38	41.9		78
967	24×24	22.8		50	1042	26×24	10.8		69	1117	42×40	30.6		78
968	31×33	17		50	1043	23×22	8.9		69	1118	32×31	24.9		78
969	31×30	31.4		71	1044	46×34	11		67	1119	33×33	24		78

番号	開口幅径 (cm)	深さ (cm)	備考	図面 No.
1130	40 × 38	14.6		63 74
1121	34 × 29	10.5		63 74
1122	24 × 25			66
1123	21 × 19			71
1124	35 × 34	44.5		361
1125	34 × 30	28.1		182
1126	32 × 26	22.1		70
1127	34 × 34	33.5		70
1128	42 × 30	37.5		70
1129	38 × 37	25.7		70
1130	48 × 42	20.5		70
1131	40 × 38	37.4		70
1132	34 × 32	33		66
1133	38 × 30	22.9		66
1134	36 × 32	22.9		66
1135	39 × 35	20.8		66
1136	30 × 27	6.1		56
1137	36 × 25	8.6		56
1138	44 × 40	8.7		56
1139	29 × 24	8.9		66
1140	50 × 42	33.2		66
1141	38 × 32	11.8		78
1142	36 × 28	13.4		78
1143	32 × 30	11.2		78
1144	37 × 37	12.1		78
1145	34 × 36	10.7		78
1146	42 × 42	33.0		78
1147	23 × 22	21.5		78
1148	29 × 28	12.3		78
1149	26 × 24	22	65 78	
1150	29 × 23	18.2		70 78
1151	29 × 27	18.3		70 78
1152	38 × 40	19.7		78
1153	34 × 32	10.4		78
1154	48 × 45	10.9		78
1155	50 × 48	18.3		66
1156	54 × 50	25.7		66
1157	44 × 40	26.1		66
1158	29 × 26	22.1		66
1159	53 × 41	14.4		66
1160	29 × 22	11.9		66
1161	30 × 24	14.9		66
1162	41 × 36	29		66
1163	34 × 30	26.2		66
1164	23 × 18	9.1		66
1165	38 × 33	20.8		66
1166	48 × 40	8.7		66
1167	42 × 30	17.1		66
1168	58 × 24	6.8		66
1169	35 × 34	24.8		66
1170	38 × 32	1.1		66
1171	40 × 38	13.8		66
1172	32 × 29	12.7		66
1173	36 × 33	13.3		66
1174	33 × 28	14		70
1175	32 × 31	28.3		70
1176	42 × 36	8.2		70
1177	27 × 24	12.8		70
1178	30 × 30	31		70
1179	34 × 30	29.5		70
1180	32 × 27	19.9		70
1181	62 × 44	32.7		70
1182	41 × 40	10.1		70
1183	38 × 32	18.2		70
1184	46 × 35	26		70
1185	52 × 42	18.1		70
1186	43 × 36	31.7		70
1187	28 × 26	29.1		70
1188	30 × 30	19.5		70
1189	36 × 35	36		70
1190	27 × 20	10.6		66
1191	24 × 24	10.8	66 70	
1192	31 × 29	29.6		70
1193	34 × 32	25.7		70
1194	23 × 21	22.3		70

番号	開口幅径 (cm)	深さ (cm)	備考	図面 No.
1195	23 × 20	14		70
1196	35 × 33	29		70
1197	32 × 29	36.3		70
1198	22 × 20	14.9		70
1199	25 × 23	9.5		70
1200	30 × 29	9.2		70
1201	30 × 27	7.7		70
1202	28 × 26	15.1		70
1203	38 × 35	33.0		182
1204	26 × 24	18.8		182
1205	24 × 24	19.4		182
1206	38 × 36	30.6		182
1207	23 × 22	—		182
1208	27 × 26	14.8		182
1209	25 × 25	10.5		182
1210	26 × 25	21.8		182
1211	23 × 23	25.8		182
1212	26 × 24	22.9		182
1213	54 × 50	43.4		182
1214	16 × 16	38.9		182
1215	61 × 56	46.1		182
1216	48 × 48	38.3		182
1217	54 × 52	43.2		182
1218	53 × 57	42.2		182
1219	80 × 66	40.9		182
1220	53 × 53	36.5		182
1221	53 × 52	36.5		182
1222	23 × 20	—		65
1223	28 × 23	3.2		65
1224	24 × 22	6.1		66
1225	—	—		—
1226	—	—		—
1227	—	—		—
1228	22 × 19	20		65
1229	21 × 21	13.8		65
1230	39 × 34	17.2		65
1231	22 × 22	24.1		65
1232	26 × 24	23.4		66
1233	31 × 28	22.9		66
1234	34 × 30	23.6		66
1235	25 × 23	21.8		65
1236	35 × 26	9.4		65
1237	29 × 26	14.9		65
1238	33 × 31	22.3		66
1239	40 × 35	4.6		66
1240	26 × 20	15.8		74
1241	22 × 20	7.3		74
1242	55 × 48	23.9		74
1243	49 × 45	23.3		74
1244	26 × 20	59.1		74
1245	33 × 24	6.5		74
1246	39 × 37	6.9		74
1247	25 × 24	5.3		74
1248	21 × 20	6.1		74
1249	29 × 29	7.5		74
1250	33 × 28	3.4		74
1251	32 × 24	10.6		74
1252	24 × 22	12.7		74
1253	35 × 32	18.5		74
1254	25 × 22	9.3		184
1255	59 × 54	40		184
1256	69 × 62	35.7		184
1257	48 × 32	19.3		184
1258	62 × 56	27.1		184
1259	62 × 60	17.6		184
1260	63 × 62	32		184
1261	53 × 54	20.7		184
1262	50 × 47	22.3		184
1263	62 × 58	20.9		184
1264	60 × 52	20.2		184
1265	56 × 50	22.3		184
1266	58 × 54	21.5		184
1267	77 × 69	39.4		186
1268	67 × 62	—		81
1269	63 × 52	21.3		185

番号	開口幅径 (cm)	深さ (cm)	備考	図面 No.
1270	78 × 78	15.7	183	185
1271	78 × 69	42.6		185
1272	72 × 61	20.6		185
1273	65 × 53	12.3		185
1274	58 × 54	13.9		185
1275	72 × 58	38.1		185
1276	60 × 59	33.8		185
1277	50 × 47	36.2		185
1278	32 × 30	8.5		186
1279	22 × 22	17.1		286
1280	37 × 36	21.5		185
1281	31 × 28	19.2		185
1282	24 × 22	13.		185
1283	60 × 56	2.7		186
1284	28 × 25	20.7	81	183
1285	28 × 23	20.8		183
1286	27 × 21	16.1		184
1287	30 × (26)	18.5		186
1288	26 × (22)	15.5		183
1289	30 × 29	18.2		183
1290	28 × 26	16.9		184
1291	25 × 23	5.8	184	185
1292	22 × 20	13.2		186
1293	62 × 60	14.2		184
1294	44 × 42	24.1		186
1295	41 × 39	14.8		186
1296	41 × 26	18.4		186
1297	52 × 42	8.2		186
1298	32 × 29	20.7		81
1299	42 × 33	17.7		81
1300	38 × 36	23.2		81
1301	40 × 38	26.5		81
1302	28 × 25	26.7		81
1303	32 × 29	26.8		81
1304	38 × 26	13.7		81
1305	21 × 20	2.2		81
1306	34 × 30	19		81
1307	25 × 25	21		81
1308	32 × 27	24.3		81
1309	30 × 30	26		81
1310	22 × 20	21.8		81
1311	22 × 22	15		81
1312	30 × 18	18.8		81
1313	24 × 22	13.4		181
1314	19 × 17	9.1		181
1315	52 × 36	15.2		181
1316	23 × 22	12		181
1317	26 × 24	20.9		181
1318	21 × 20	22.5		185
1319	27 × 26	9.9		185
1320	50 × 48	32.8		185
1321	52 × 30	13.5		185
1322	38 × 36	27.5		185
1323	62 × 58	38.7		68 78
1324	24 × 22	27.3		68 78
1325	26 × 24	5.6		68
1326	24 × 23	9.5		68
1327	43 × 40	6.7		78
1328	32 × 30	7.4		78
1329	25 × 23	26.2		78
1330	38 × 32	9.5		78
1331	31 × 28	11.8		78
1332	21 × 18	24.8		68
1333	32 × 26	29.6		68
1334	19 × 17	8.8		68
1335	17 × 16	10.8		68
1336	26 × 22	16.3		68
1337	56 × 52	19.5		68
1338	29 × 25	16.3		68
1339	30 × 28	10.3		68
1340	32 × 30	12.6		68
1341	25 × 24	8.3		68
1342	21 × 12	15.1		68
1343	21 × 19	7.7		68
1344	30 × 24	1.6		68

番号	開口幅径 (cm)	深さ (cm)	備考	図面 No.	番号	開口幅径 (cm)	深さ (cm)	備考	図面 No.	番号	開口幅径 (cm)	深さ (cm)	備考	図面 No.
1345	54×46	29.2		68	1420	48×40	9.2		25	1495	21×17	8.5		27
1346	54×56	58.9		68	1421	40×31	1.4		38	1496	30×27	39.9		27
1347	22×21	9.6		49	1422	76×53	26.9		24	1497	33×32	40.6		27
1348	26×24	18.5		49	1423	49×36	31.9		24	1498	34×27	16.9		40
1349	30×30	13.1		49	1424	49×36	30.1		24	1499	26×26	16.5		40
1350	40×40	19.8		49	1425	45×42	37.9		24	1500	36×24	14.3		40
1351	21×33			49	1426	38×37	64.6		30	1501	37×32	19.2		40
1352	50×47			49	1427	34×32	33.2		25	1502	29×27	23.1		40
1353	47×32	4.4		49	1428	36×39	47.3		24	1503	30×31			28
1354	29×25	10		49	1429	36×35	30.1		24	1504	23×21	20.8		28
1355	26×23	15.5		49	1430	27×23	12.4		24	1505	40×28	22.8		28
1356	27×26	15.6		49	1431	43×40	26.5		24	1306	33×23	14.1		28
1357	38×37	13.2		49	1432	43×41	33.4		24	1307	34×28	34.2		35
1358	28×28	1.5		49	1433	30×30	9.7		24	1308	29×28	24.1		17
1359	50×41	12.9		49	1434	46×44	17.3		24	1509	37×25	28.9		17
1360	32×28	16.8		49	1435	30×39	30.9		25	1510	30×47	22.8		17
1361	23×22	7.8		49	1436	54×(36)	23.7		25	1511	26×23	12.7		17
1362	43×38	22		49	1437	31×28	14.9		25	1512	43×37	33.9		26
1363	29×27	6.4		49	1438	43×40	29.7		25	1513	28×24	16		12
1364	26×24	19.9		49	1439	46×41	36.8		25	1514	25×21	23.5		12
1365	22×21			49	1440	36×35	22.1		25	1515	26×26	11.5		12
1366	20×25	19.6		49	1441	59×(52)	45.2		25	1516	34×26	11		12
1367	29×27	9.9		72	1442	34×(29)	6.5		25	1517	27×23	9.4		12
1368	36×30	10.3		72	1443	46×43	24.4		25	1518	32×(32)	9		16
1369	28×23	10.6		72	1444	32×30	23.5		25	1519	50×32	9		16
1370	22×19	16.4		72	1445	31×23	19.1		25	1520	23×24	10.5		16
1371	36×32	10.3		72	1446	48×40	36.2		25	1521	43×44	9.4		16
1372	38×35	26.6		48	1447	32×29	17.1		25	1522	51×50	12.5		16
1373	32×30	13.3		48	1448	46×41	27.9		25	1523	39×30	14.6		16
1374	28×21	8.5		35	1449	36×33	30.7		25	1524	38×28	30.2		16
1375	33×28	24.6		36	1450	46×36	19.6		25	1525	41×40	27.2		16
1376	30×29	22.1		35	1451	53×50	61.2		25	1526	52×40	47.7		16
1377	38×30	11.3		35	1452	39×38	27.6		25	1527	59×44	32.7		16
1378	34×(34)	20.6		55	1453	47×45	42.2		25	1528	42×37	37.2		13
1379	25×(15)	21.1		55	1454	55×22	93.4		25	1529	43×41	22.1		13
1380	25×24	19.5		54	1455	26×22	20.7		25	1530	42×41	50.4		13
1381	30×26	19.5		54	1456	14×44	68.9		24	1531	22×18			3
1382	29×16	8.4		54	1457	46×41	39.6		23	1532	22×17			3
1383	36×29	18.1		54	1458	40×32	26		23	1533	35×28	28.5		3
1384	32×30	14.6		54	1459	41×38	24.8		23	1534	36×25	9.9		13
1385	33×28	10.8		54	1460	36×34	48		23	1535	32×28	5.8		13
1386	34×30	17.6		54	1461	53×47	30.1		23	1536	38×30	21.7		13
1387	36×24	18.6		54	1462	68×67	20.4		23	1537	34×32	7.9		13
1388	23×22	7.2		62	1463	48×33	15.2		23	1538	41×31	25.4		13
1389	28×27	32.1		62	1464	25×22	37.4		23	1539	45×42	50.7		13
1390	30×30	13.9		62	1465	39×22	34.9		23	1540	27×27	15.2		13
1391	34×32	23.5		62	1466	39×47	46.3		23	1541	44×44	34		4
1392	30×28	22.7		62	1467	45×41	56.1		23	1542	39×33	17.7		4
1393	19×19	19.7		62	1468	34×32	31.7		23	1543	47×46	31.6		4
1394	24×24	5.3		62	1469	53×20	14.9		23	1544	60×56	29		4
1395	23×24	6.3		62	1470	49×45	22.5		23	1545	25×25	32.9		4
1396	40×40	41		62	1471	27×26	39.2		22	1546	49×45	32		4
1397	27×26	21.7		62	1472	39×37	19.2		22	1547	30×27	21.6		4
1398	30×28	13.8		62	1473	26×23	9.1		22	1548	43×34	30.4		4
1399	34×32	28		62	1474	89×87	40.4		22	1549	26×20	7.7		4
1400	21×20	20.8		62	1475	28×25	13.5		22	1550	30×21	12.3		4
1401	33×28	47.9		62	1476	78×28	19.4		26	1551	33×32	5.9		4
1402	36×24	20.6		62	1477	36×29	21.9		20	1552	40×35	18.7		4
1403	36×22	22.6		62	1478	22×22	19.3		20	1553	43×34	36.1		4
1404	33×29	14.3		62	1479	33×26	47.4		20	1554	28×20	29.0		4
1405	42×30	37.1		62	1480	58×21	50.1		20	1555	37×31	14.9		4
1406	30×26	27.8		62	1481	27×25	28.3		20	1556	38×25	23.4		4
1407	39×30	39.9		62	1482	30×27	24.1		20	1557	37×23	13.1		4
1408	31×31	29.3		62	1483	45×36	16.4		20	1558	29×24	15.8		4
1409	42×40	37.9		62	1484	40×31	72.5		20	1559	53×50	56.1		4
1410	32×30	30.7		62	1485	30×12	35.8		30	1560	48×33	12.8		4
1411	28×28	31		62	1486	40×36	52.4		20	1561	23×(23)	22.6		4
1412	31×25	31.2		62	1487	33×30	30.7		20	1562	(35)×26	19.8		4
1413	28×26	36.6		62	1488	37×33	8.1		25	1563	59×50	10.4		15
1414	28×25	20.1		62	1489	42×40	43.4		25	1564	42×27	19.5		15
1415	34×33	21.1		62	1490	(39)×29	9		37	1565	22×18	12		15
1416	36×32	16.9		62	1491	30×22	13.3		37	1566	31×31	7.6		15
1417	35×28	17.1		62	1492	33×(17)	15.1		27	1567	33×28	36		15
1418	21×20	18.1		62	1493	35×(35)	6.7		27	1568	30×(36)	23.5		15
1419	33×(26)	13.2		62	1494	23×23	7.8		27	1569	21×20	5.4		15

番号	開口部径 (cm)	深さ (cm)	備考	同層 No.
1570	26×34	12.3		14
1571	45×45	37		14
1572	61×30	4.7		14
1573	37×33	15.9		21
1574	41×38	30.3		21
1575	55×35	22		21
1576	53×54	21.4	5-42	
1577	27×24	21.4	5	5
1578	22×22	16.8		5
1579	21×18	4	4	4
1580	44×41	20.4	6	6
1581	50×50	39.1	4	4
1582	60×40	43.7	1	1
1583	41×35	14.9	4	4
1584	47×37	29.6	4	4
1585	41×27	5.3	3	3
1586	50×38	19.2	3	3
1587	44×43	14.2	3	3
1588	28×23	19.8	3	3
1589	44×34	25.2	3	3
1590	32×26	29.6	8	8
1591	52×41	29.2	3	3
1592	40×30	16.3	3	3
1593	70×61	29.5	5	5
1594	50×(28)	17.9	5	5
1595	50×49	38.2	5	5
1596	41×(32)	30.3	5	5
1597	47×43	10.1	5	5
1598	33×28	9.4	4	4
1599	24×20	5.6	35	35
1600	42×40	33.9	5	5
1601	35×31	22.7	5	5-42
1602	50×45	29.8	5	5-42
1603	31×30	15.3	21	21
1604	(42)×36	10.6	21	21
1605	35×32	11.5	21	21
1606	48×44	31	5	5
1607	39×38	23.8	5	5
1608	35×33	16.3	3	3
1609	36×35	14.5	3	3
1610	95×23	9	5	5
1611	31×29	23.8	5	5
1612	39×37	15.4	5	5
1613	35×31	9.4	5	5
1614	55×50	35		
1615	47×43	23.1	5	5
1616	44×37	32.1	5	5
1617	45×38	22.1	5	5
1618	28×22	15.3	3	3
1619	47×38	26.2	3	3
1620	30×36	14.1	3	3
1621	41×40	30.9	3	3
1622	44×36	3.4	3	3
1623	41×36	19.3	5	5
1624	49×45	21.5	5	5
1625	36×32	22.2	5	5
1626	34×30	19.8	5	5
1627	48×40	14.6	5	5
1628	30×27	20.5	5	5
1629	39×29	18.7	5	5
1630	47×46	9.9	3	3
1631	29×18	15.3	4	4
1632	40×32	9.7	4	4
1633	37×(23)	13	4	4
1634	40×35	9.8	3	3
1635	40×32	8.3	3	3
1636	29×(16)	4.2	6	6
1637	24×24	13.5	6	6
1638	48×44	14.7	6	6
1639	39×36	11.9	6	6
1640	35×31	17.1	3	3
1641	39×28	19.8	3	3
1642	47×42	41.8	3	3

番号	開口部径 (cm)	深さ (cm)	備考	同層 No.
1643	29×22	5.3		3
1644	28×24	5.8		3
1645	64×60	21.1		3
1646	23×22	14.7		3
1647	32×45	27.8		3
1648	40×29	26.8		3
1649	41×41	30.1		3
1650	42×41	11.6		3
1651	35×30	26.7		3
1652	26×23	16.3		3
1653	25×23	10.2		3
1654	27×25	29.6		3
1655	28×28	18.2		3
1656	28×26	23.4		3
1657	22×21	15.7		3
1658	35×35	16		3
1659	31×26	17.6		3
1660	29×23	25		3
1661	81×67	45.6		3
1662	69×61	50.6		3
1663	42×31	28.4		3
1664	59×44	37.3		3
1665	60×48	30.5	28	28
1666	40×37	9.7	29	29
1667	26×21	8.4	29	29
1668	41×34	3.2	29	29
1669	45×32	15.5	29	29
1670	46×46	16.8	36	36
1671	40×34	36.8	39	39
1672	30×24	10.2	31	31
1673	30×26	7.2	31	31
1674	38×27	26.9	31	31
1675	19×15	15.8	37	37
1676	49×41	5.4	37	37
1677	31×28	31.4	37	37
1678	27×26	20.5	37	37
1679	23×29	10	37	37
1680	19×18	12.1	37	37
1681	21×21	9.7	37	37
1682	26×20	17.4	37	37
1683	33×37	43.2	37	37
1684	28×24	17.4	37	37
1685	40×36	33.1	37	37
1686	28×25	19.2	37	37
1687	49×44	54.2	37	37
1688	21×19	13.6	37	37
1689	23×22	22.1	37	37
1690	20×18	8.9	37	37
1691	26×24	15.7	37	37
1692	28×24	17	37	37
1693	24×22	13	37	37
1694	23×21	14.3	37	37
1695	29×22	15.4	90	90
1696	30×28	18.4	90	90
1697	24×18	15.8	90	90
1698	29×29	22.7	86	86
1699	26×25	10.6	86	86
1700	26×25	23.4	90	90
1701	40×36	23.5	90	90
1702	46×44	11.7	90	90
1703	23×20	24.2	90	90
1704	28×21	31.1	90	90
1705	18×16	29.7	90	90
1706	30×22	13.9	90	90
1707	25×18	17.3	90	90
1708	19×41	18.7	90	90
1709	34×32	23.5	90	90
1710	32×29	27.9	90	90
1711	28×25	28.4	90	90
1712	30×26	16.7	90	90
1713	18×15	8.5	90	90
1714	21×19	16.8	90	90
1715	18×16	14.1	90	90

番号	開口部径 (cm)	深さ (cm)	備考	同層 No.
1716	27×24	17.2		90
1717	28×24	20.1		90
1718	61×38	36.5		82
1719	25×22	12.4		82
1720	25×21	33.5		82
1721	33×28	14.7		82
1722	38×24	4.6		82
1723	64×44	15.7	80	80
1724	36×29	9.6	80	80
1725	33×29	14	80	80
1726	27×26	4.5	89	89
1727	43×43	15.1	89	89
1728	33×30	11	89	89
1729	43×24	24.9	89	89
1730	27×(22)	8.3	93	93
1731	50×47	25.2	83	83
1732	37×37	16.1	83	83
1733	27×26	12.7	85	85
1734	32×27	10.8	85	85
1735	27×23	9.1	85	85
1736	25×22	24.7	85	85
1737	40×33	21.4	84	84
1738	30×22	25	23	23
1739				
1740				
1741				
1742				
1743				
1744				
1745				
1746				
1747	55×22	14.6		23
1748	30×22	25		23
1749				
1750				
1751				
1752				
1753				
1754				
1755				
1756				
1757				
1758				
1759				
1760				
1761	45×43	28.5		15
1762	42×37	41.8		15
1763	73×68	56.9		15
1764	45×43	37.5		15
1765	45×43	37.7		15
1766	55×53	47.9		15
1767				
1768	186×114	67.6		15
1769	41×37	36.9		15
1770	69×66	10.5		15
1771	47×40	40.8		15
1772	52×51	38.4		15
1773	42×49	26.8		15
1774	81×79	93.1		15
1775	56×58	28.1		15
1776	68×53	35.3		33
1777	34×26	25.2		33
1778	43×42	—		33
1779	36×34	—		33
1780	30×22	—		33
1781	30×25	—		33
1782	43×40	—		33
1783	69×44	25.3		70
1784	26×19	17.3		61
1785	45×32	21.5		61
1786	44×32	33.2		72

10 出土遺物

(1) 土師器・須恵器

遺構内外合せてコンテナ約35箱(42×32×30cm)の土師器、須恵器が出土した。今回の26次調査では68棟もの古代の竪穴住居跡が検出され、大半の土師器・須恵器はここから出土したものが殆どである。なお、台太郎遺跡全体では古代の竪穴住居跡が400棟以上存在すると予想されることから、遺跡のどこを掘っても土師器、須恵器が出土し、時代の異なる中・近世の遺構などにも入っている。掲載した116点は、その中から遺構に伴っていると判断したものを優先し、次に遺構発掘後に捨てられた、或いは流れ込んだと思われるものを若干掲載した。不本意ながら平安時代の竪穴住居跡出土の土師器・須恵器については他の竪穴住居跡及び別の遺構との重複関係があるものが多く、厳密に遺構に伴っている遺物をPOSEないものが多かった。

各遺構の項では出土個体数(口縁部及び底部破片から求めた推定個体数)と出土状況・共存関係などに触れ、また遺物観察表を作成し法量・器面調整・焼成などを、Vまとめでは簡単な形態分類と大まかな年代観を記載したので、ここでは代表的な遺物の特徴のみを記述したい。

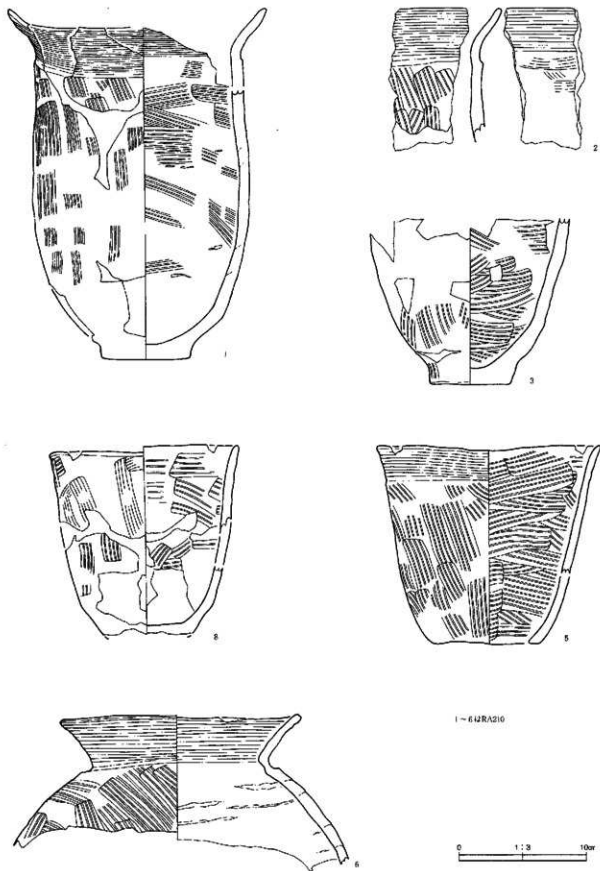
<古墳時代末～奈良時代> (第150～163図、写真図版132～144・165・166)

1の土師器甕は口唇部が丸く、底部から体部下端が少しだけ突出している。土師器甕で体部下端がやや突出するものとしては他に3・10・105があり、今回の26次調査ではそれほど多く出土しなかった。7の土師器杯は口縁部と体部の境界外面に浅い沈線が見られ底部は平底となっている。土師器杯で平底となるものには8・26・33・34・59・66・91・100などがある。8の土師器杯などは破片であるが碗のような器形となりそうである。143は小型の高杯でつくりは粗末である。17は胎孔式の甕である。小型なのは特別な用途に使われたからであろうか。19は大型の土師器杯である。底部から内湾気味に立ち上がっており、外面には口縁と体部の境界に浅い段を持ち、体部から底部は不明瞭ながらヘラケズリを施しているようである。大型の土師器杯は他に73がある。21土師器杯は口縁部が外反し、体部境界の内外面に段が付く。23土師器甕は胴部の最大径が中央部付近に求められる。24土師器甕の口唇部は角張り浅く窪む。26の土師器杯には口縁部と体部の境界に段や沈線が見られない。同様の杯は他に8・33・90・100がある。27土師器杯では口縁と体部境の内外面に段が付く。口縁部はやや内湾している。29土師器球脚甕の口縁部には縦溝状に赤色塗彩されている。恐らく胴部にも塗彩されていたと考えられるが既に取れてしまったようである。赤色塗彩された球脚甕は他に112があり、杯では412がある。35は土師器高杯で口縁部は緩やかに内湾し、脚部を欠く。口縁部と体部との境には外面にのみ段が見られる。37は土師器甕の胴部と思われる。39甕は底部が少しだけ横に張り出している。口唇部断面が角張って浅く窪む。40・42の甕も同様に口唇部が角張っている。44～48の土師器杯は口縁部と体部の境界に外面のみ沈線もしくは段が施されている。49杯では底面に線刻で「×」と見られる。同じく54の杯にも線刻「×」が施される。50土師器甕の口縁部には複数の段が施されている。同じような特徴を有する甕は38・82・102・103・399などがある。53の土師器甕は口縁部の外反が強い。57の甕には口縁部と体部境が判然としない。67の土師器杯には体部に段が複数施される。同様の特徴をもつ杯には47・69・54・390が出土している。69土師器杯は内外面に黒色処理とヘラミガキを施し、底部から内湾して立ち上がっている。73は大型の杯で口縁と体部境の外面には段を内面には隙を持つ。口縁部は直立気味に立ち上がっている。74は高杯で脚部が75となると思われる。76は土師器の甕で口縁部のみが欠損した状態で出土している。81の球脚甕は他の個体と異なり口縁部が外反せず、直立して立ち上がっており、口唇部の断面はやや丸

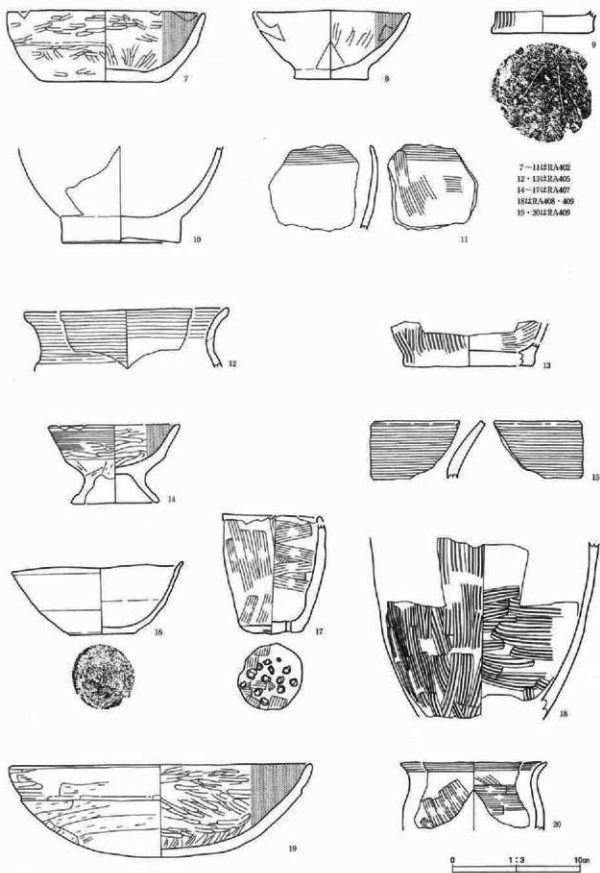
味を帯びている。89土師器甕の口縁部は幅が狭く外反が強い。94の甕の口唇部断面はやや丸味がある。95の土師器甕も同様の特徴をもつ上に、口唇部内側に浅い沈線が巡っている。97の球胴甕は胴部下半に最大径を持つ膨れのある器形を呈する。109は土師器帯の口縁部であろう。112の球胴甕にも赤色塗彩が施されており胴部に格子目状に塗られていたようである。

<平安時代> (第164～190図、写真図版145～164・167～176)

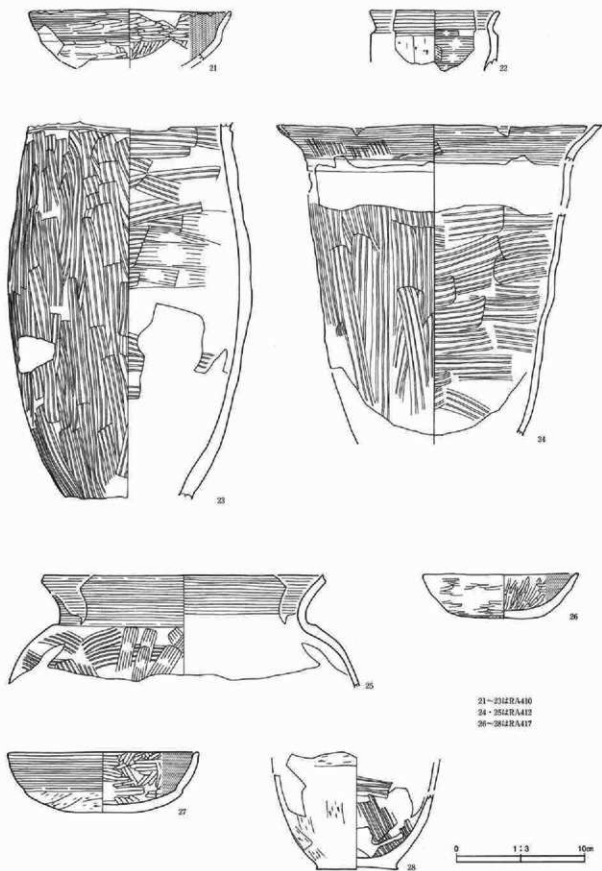
117坏には黒書が見られる。121土師器高台付坏には底部に菊花状のなでつけが施される。124には内面に黒色処理が施されており器種は鉢になるかもしれない。R A 312では土師器が少ない。出土した赤焼き坏125～135は口縁部の外反するもの(126～131・134)と外反しないもの(125・132・133・135)とがある。同住居の須恵器坏137～143では口縁部があまり外反しないものが多く底径も大きくはない。146～148甕の口縁部は短く、外反もやや弱い。R A 399より出土した土師器坏の中で164～166には底部に再調整が施される。口縁部は何れも若干外反する程度である。同じく赤焼き坏169～172でも口縁部は若干外反する程度である。甕180～183の口縁部は短く外反も弱い。189の土師器は口縁部の歪みが大いなるかもしれない。R A 401出土の坏(192・194～200)は底部糸切りのもののみで構成されている。口縁部はやや外反するものと、外反しないものが混在してある。甕類(201～208)は非ロクロとロクロ整形のものがある。207甕の口縁部は上方に挽き出されている。227土師器坏の底部には再調整が施されている。228土師器坏も摩耗しているが再調整の可能性はある。R A 408から出土した土師器高台付坏の口唇部は強く外反している。その一方で須恵器231～230の口縁部はそれほど外反しない。242は須恵器大甕で底部は丸味を帯びる。246は単孔式の甕であるが一緒に使ったであろう甕が見つからなかった。R A 413から出土した坏(247～252)では口縁部が幾分外反するものが主体を占めている。256の土師器甕は口縁部が強く外反している。261甕の口縁部は短く上方に挽き出されている。R A 415の坏(263～273)には底部回転糸切りで無調整、口縁部の外反は顕著ではない。この中で土師器坏263～265は共伴している。同様に土師器甕(274～277)の口縁部も短く、あまり外反しない。284土師器坏では底部付近を再調整している。288土師器甕の口縁部は幅が狭く、底径が口径に対して大きい。R A 424から出土した土師器坏301・302も底部付近を再調整しており口縁部は外反しない。R A 430出土の坏(312～320)には底部再調整を施したものはなく、口縁部の外反も弱いものが多い。土師器甕326・328のように短い口縁部をもつものが出ている。R A 431から出土した坏(338～348)は口縁部が若干外反するもの(339・342・345)がある。341・344赤焼き坏などは他と比べ小振りで器高も低い。338の土師器坏は大型で底面に再調整が見られる。R A 437から出土した土師器甕も器形全てを知る資料はない。R A 437には土師器甕の口縁部が外反するもの(364・365)と直立気味に立ち上がるもの(362・366)とがある。R E 049から出土した土師器高台付坏は口縁部の外反が強い。R G 320は平安時代から近世の捨て場であったようである。ここから出土した土師器・須恵器は時期幅があると思われる。



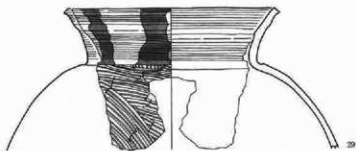
第150圖 土師器・須惠器（1）



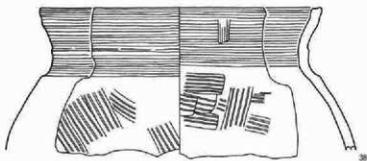
第151图 土師器・須惠器 (2)



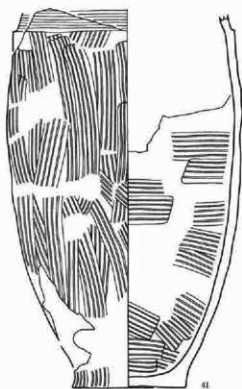
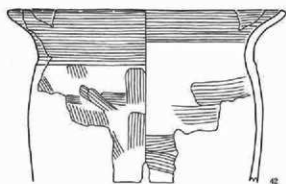
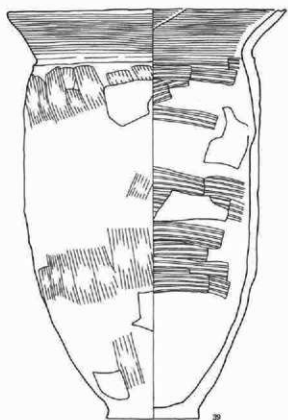
第152図 土師器・須恵器 (3)



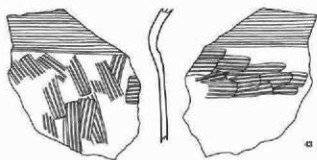
29・3042RA418
3142RA430
32-3842RA441



第153図 土師器・須恵器 (4)

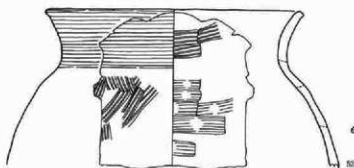
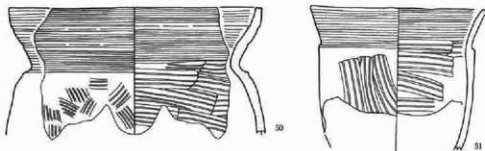


39-43ERA61

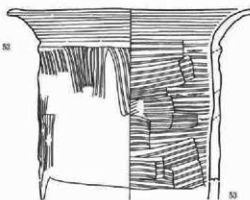


0 1:3 10cm

第154回 土師器・須恵器 (5)



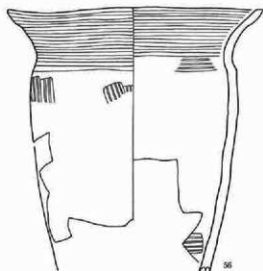
44-S212RA402
S212RA403



第155図 土師器・須恵器(6)



54



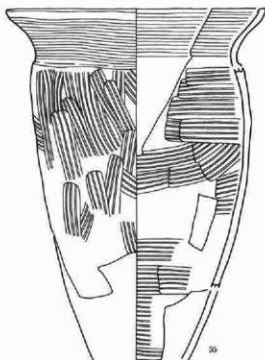
55



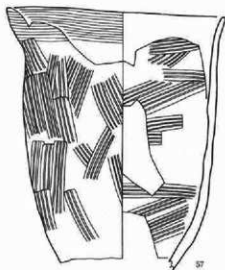
56



57

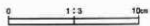


58

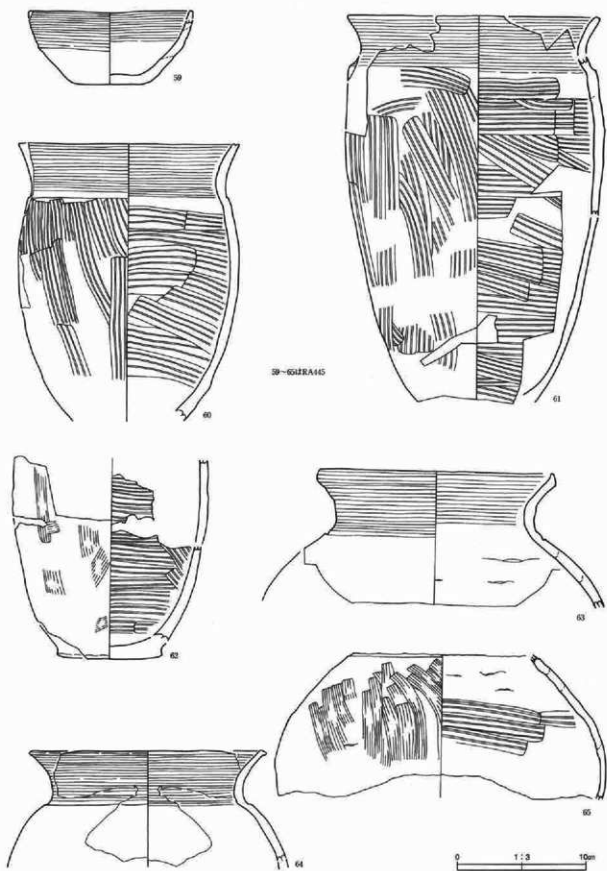


59

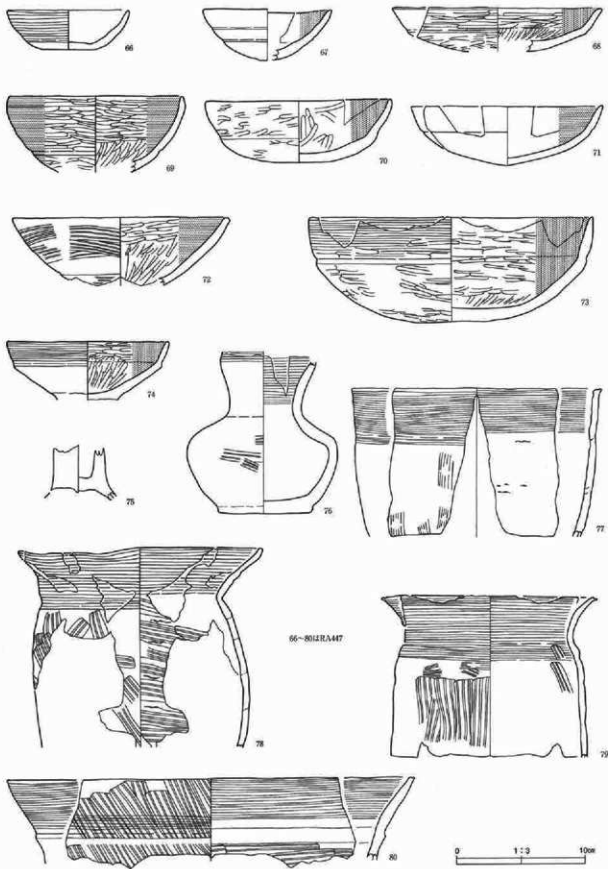
54-58・52048A444



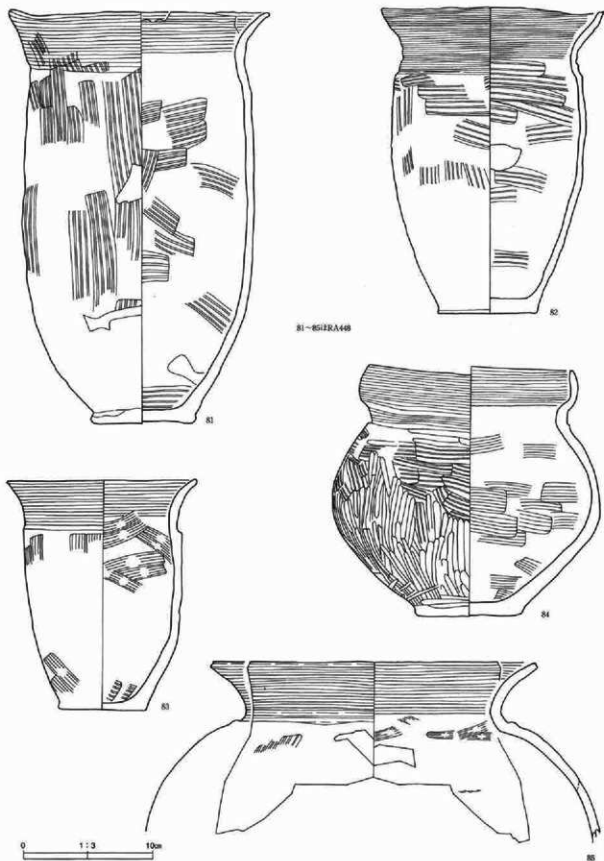
第156図 土師器・須恵器(7)



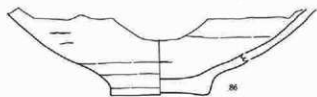
第157圖 土師器・須恵器（8）



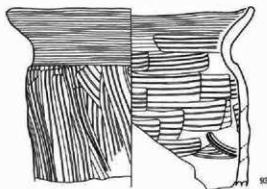
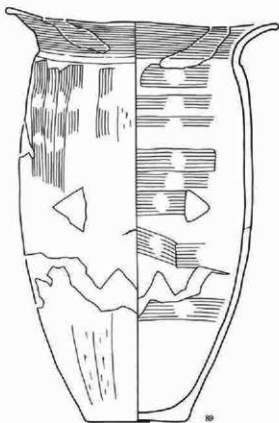
第158回 土師器・須恵器(9)



第159図 土師器・須恵器 (10)

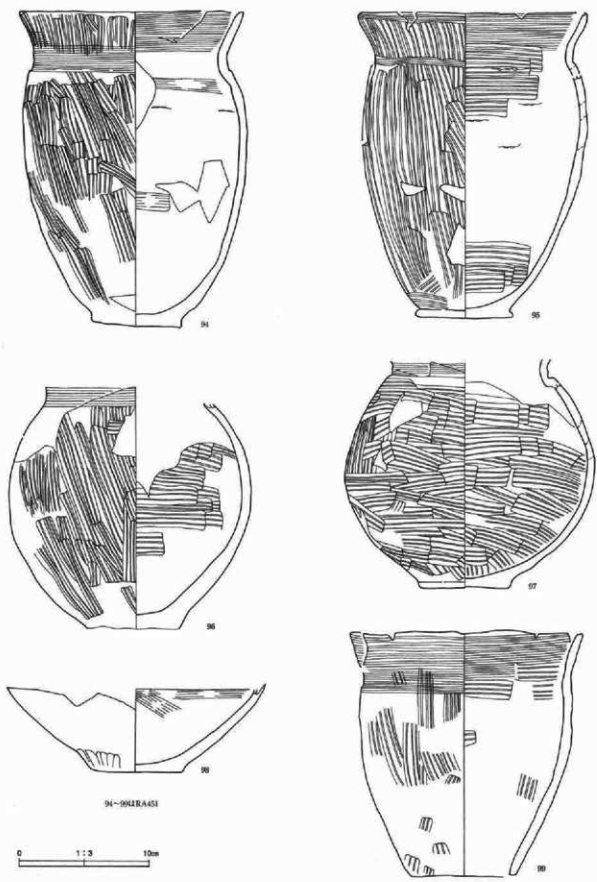


86-2RA48
87-862RA49
90-932RA451

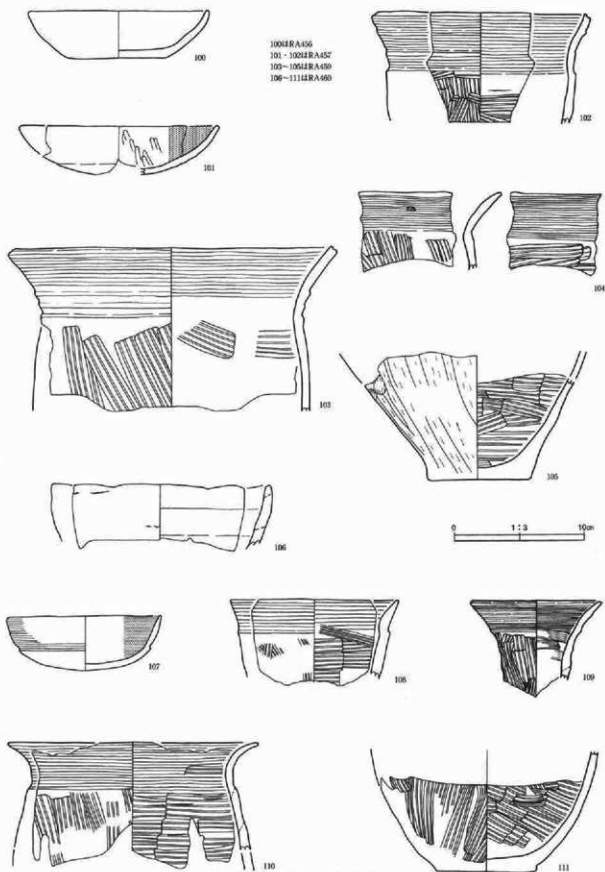


0 1:3 10mm

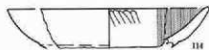
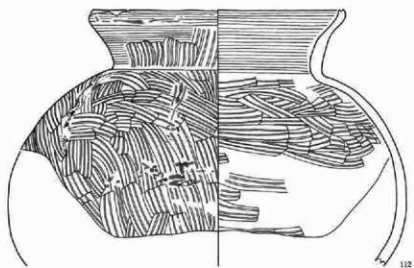
第160圖 土師器・須恵器 (11)



第161図 土師器・須恵器 (12)



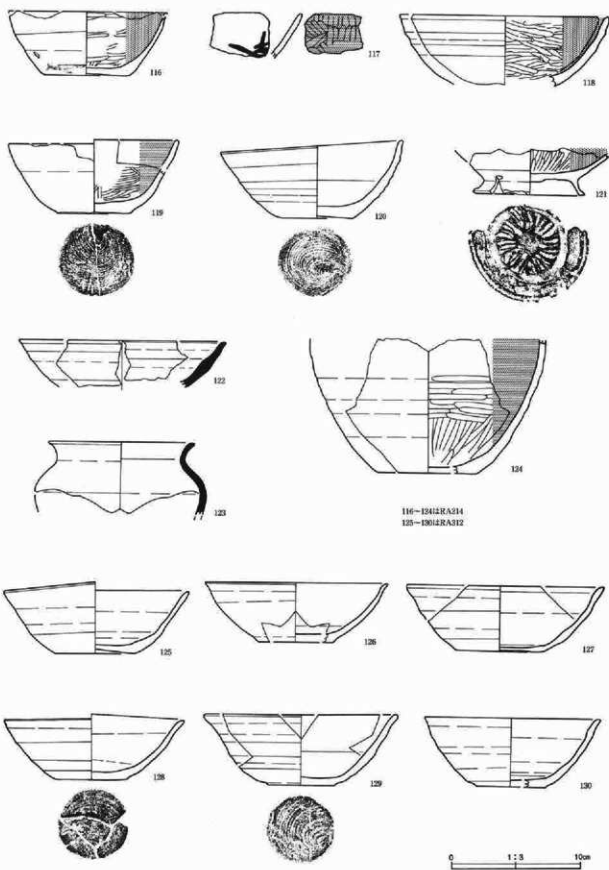
第162図 土師器・須恵器 (13)



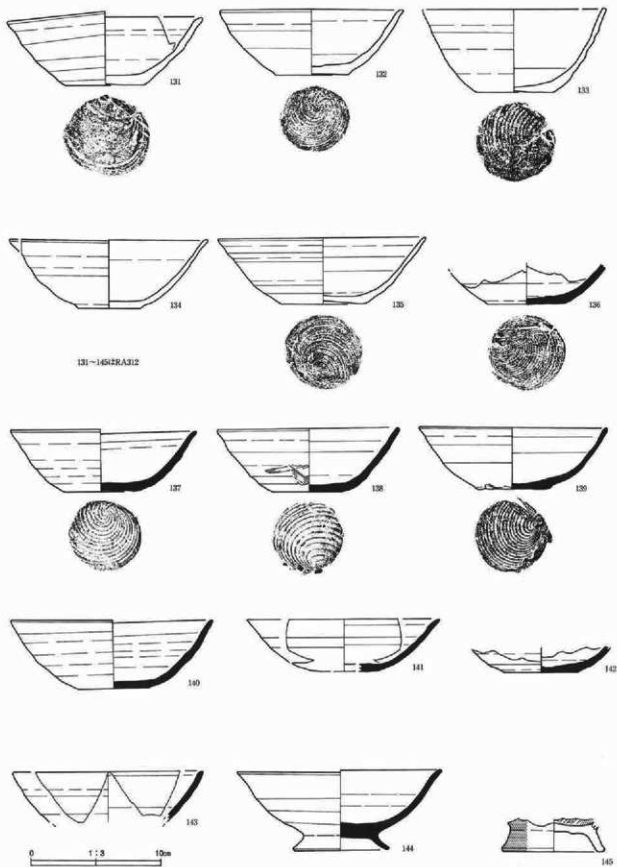
112・IISHARA60
114・IISHARA61



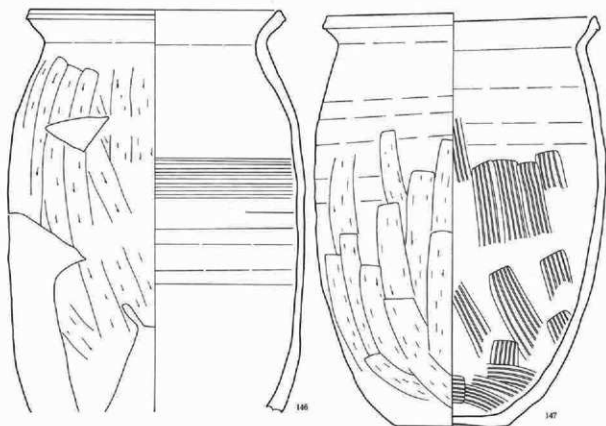
第163図 土師器・須恵器 (14)



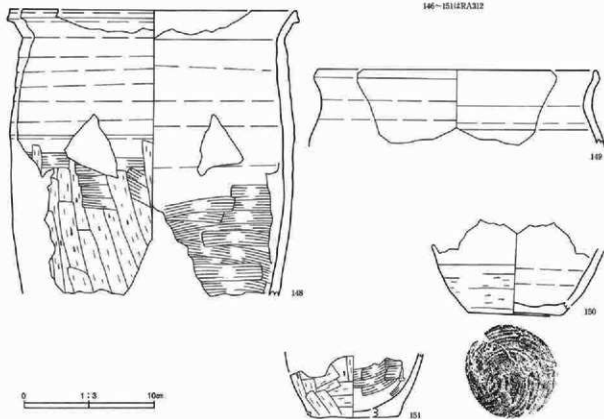
第164圖 土師器・須惠器 (15)



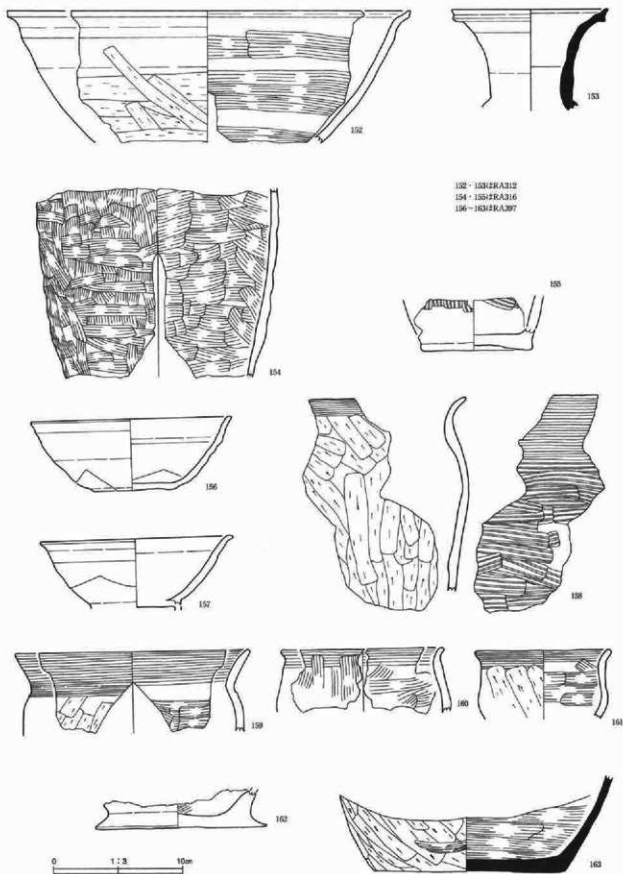
第165圖 土師器・須恵器 (16)



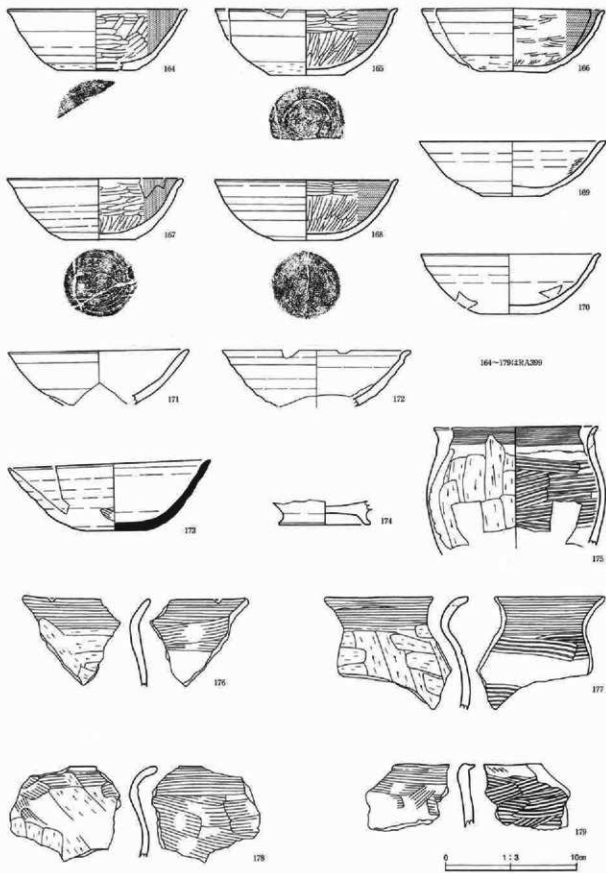
146-151(2)A312



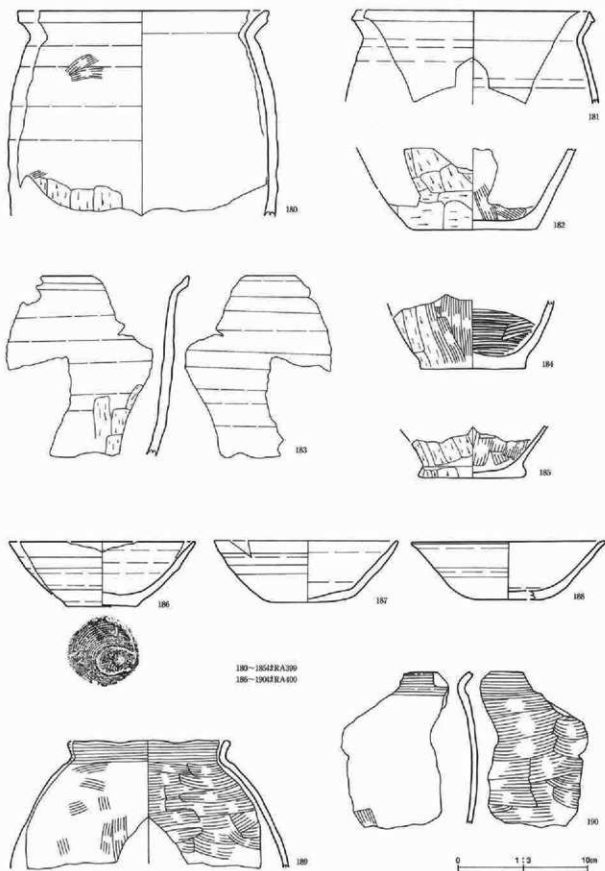
第166図 土師器・須恵器 (17)



第167圖 土師器・須恵器 (18)

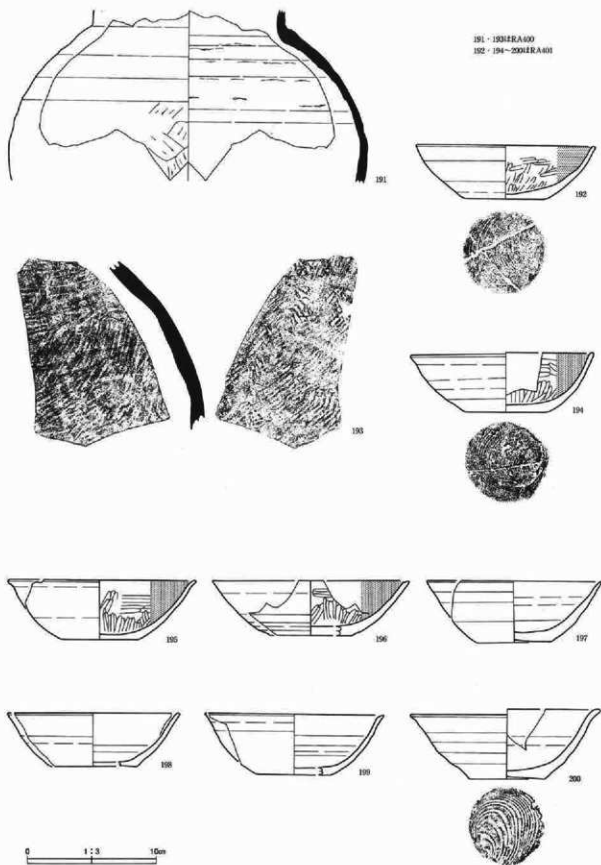


第168圖 土師器・須惠器 (19)

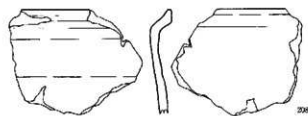
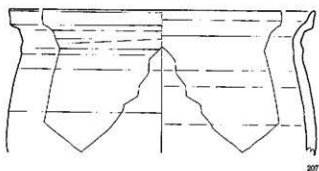
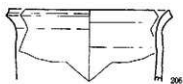
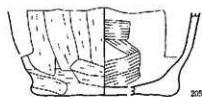
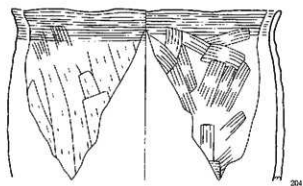
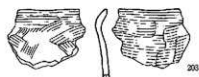
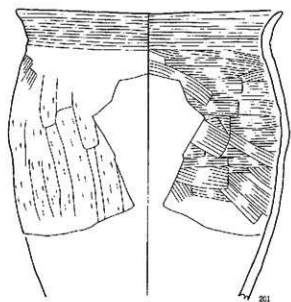


180~184FRA300
186~190FRA400

第169圖 土師器・須恵器 (20)



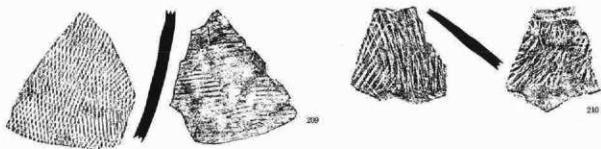
第170图 土師器・須恵器 (21)



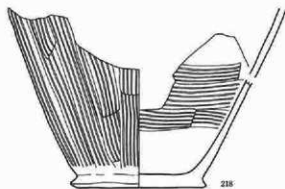
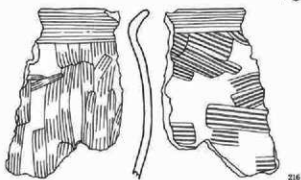
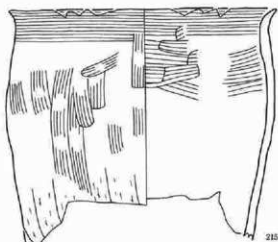
201-208(2)RA401

0 1:3 10cm

第171図 土師器・須恵器 (22)

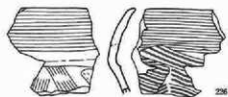
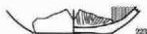
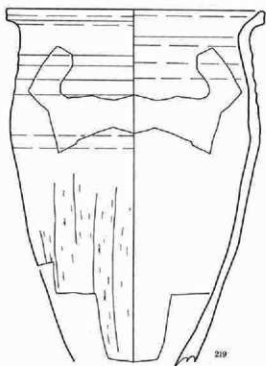


309・210GRA01
211-213GRA01

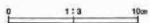


0 1:3 10cm

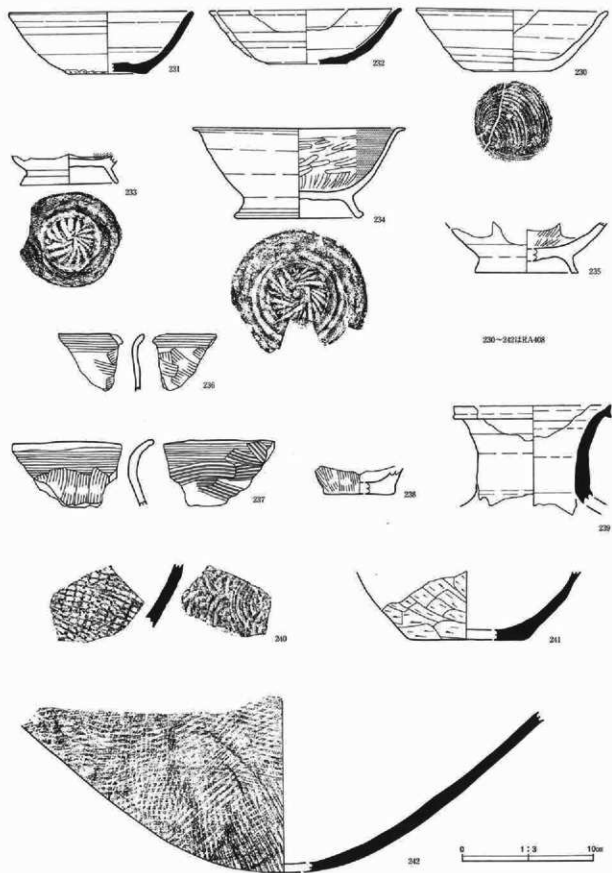
第172図 土師器・須恵器 (23)



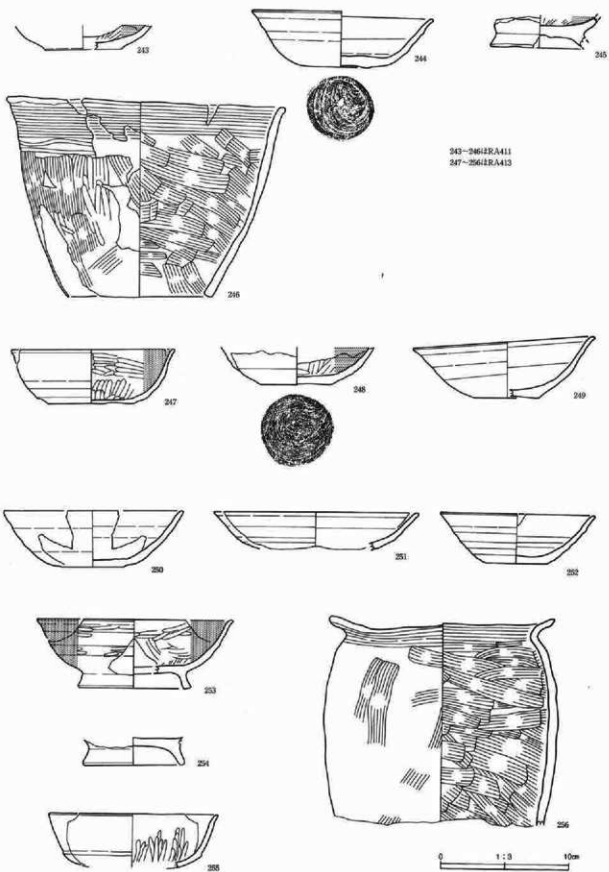
219~221A RA-603
223~224A RA-606
227~228A RA-608



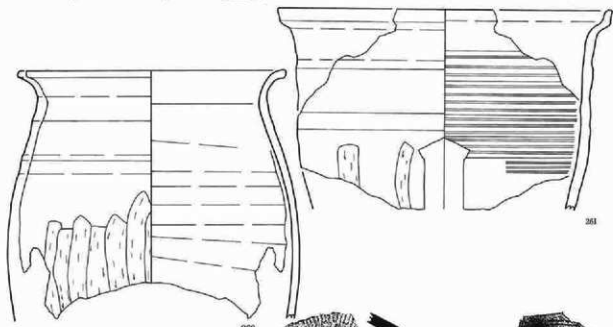
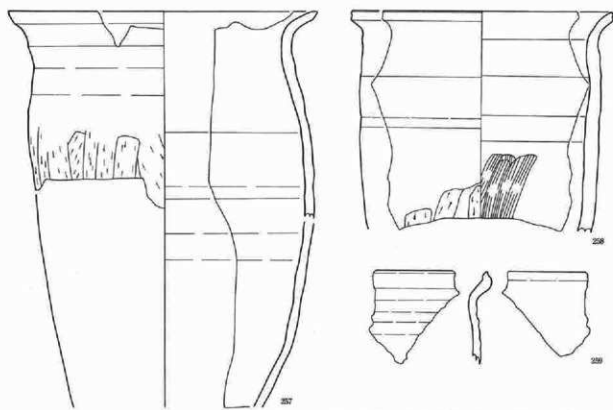
第173図 土師器・須恵器 (24)



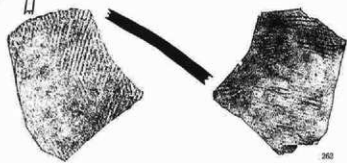
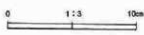
第174図 土師器・須恵器 (25)



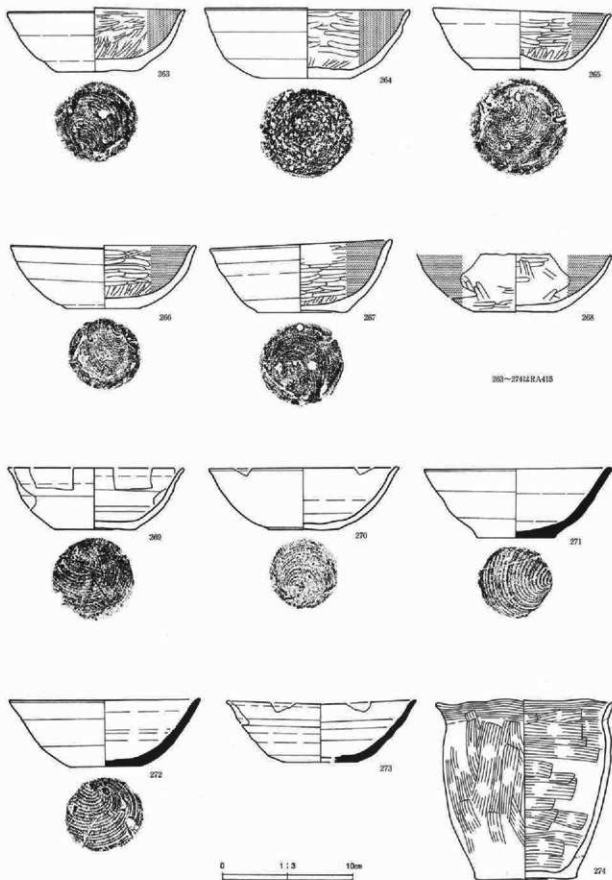
第175図 土師器・須恵器 (26)



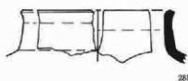
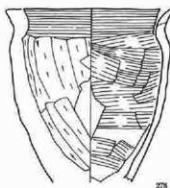
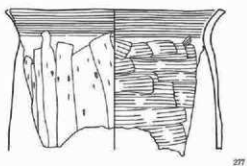
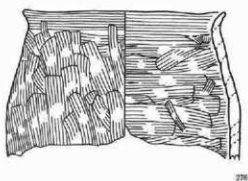
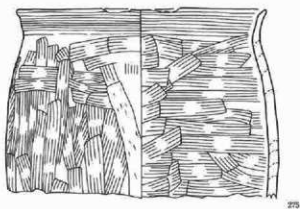
257-260 土師器



第176図 土師器・須恵器 (27)



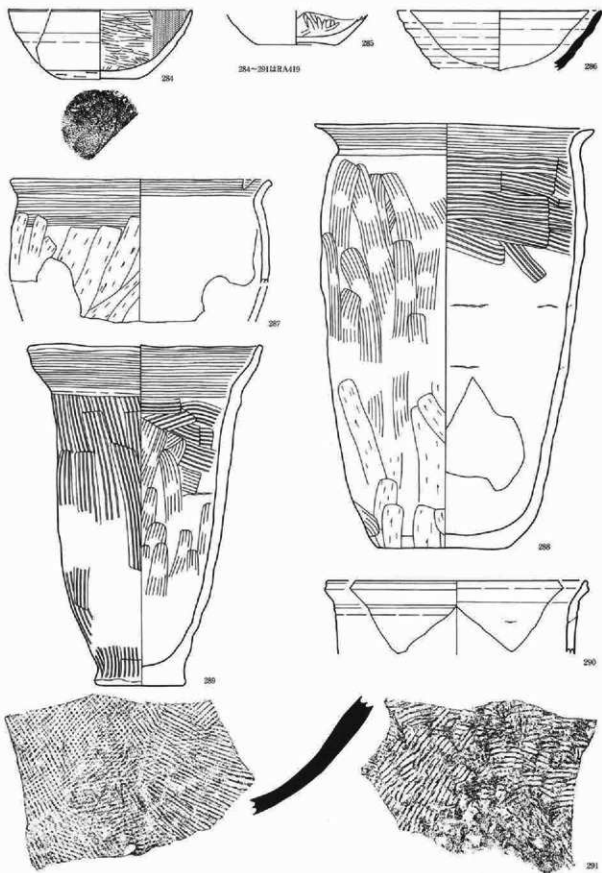
第177図 土師器・須恵器 (28)



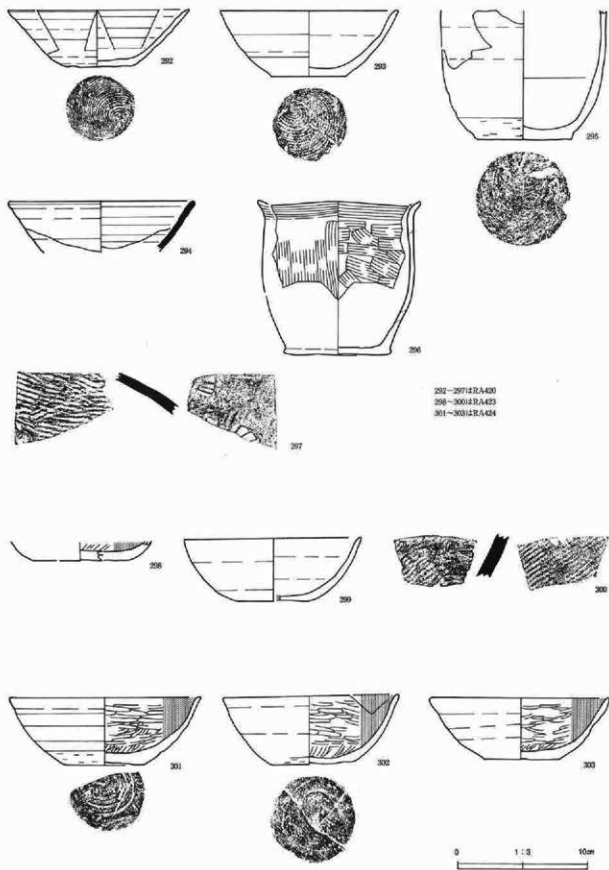
275-283(2)RA418

0 1:3 10cm

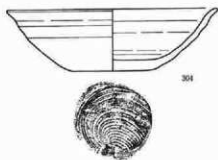
第178図 土師器・須恵器 (29)



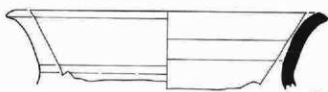
第179圖 土師器・須恵器 (30)



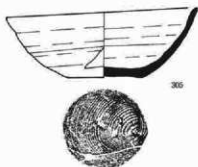
第180圖 土師器・須恵器 (31)



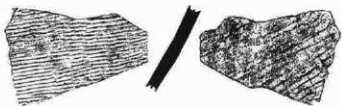
304



307

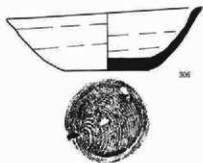


305

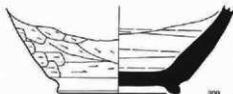


308

304~308HRA421
3004HRA427
310~311HRA429



306



309



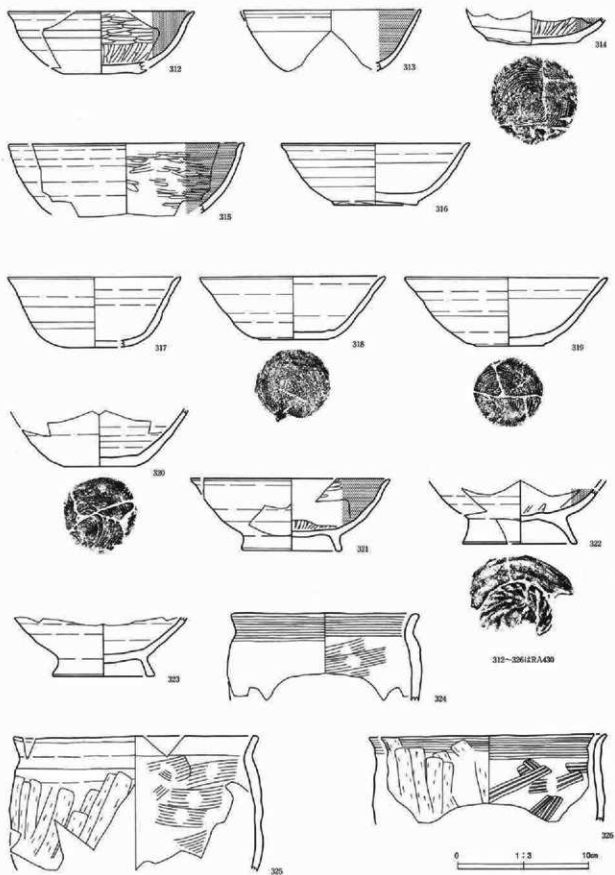
310



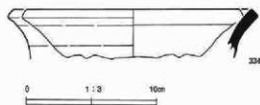
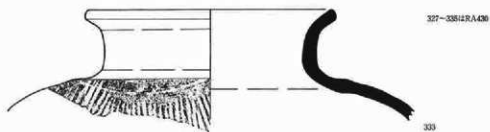
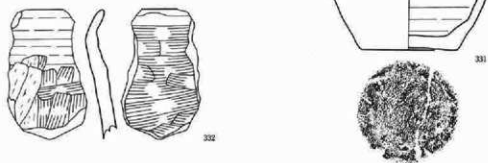
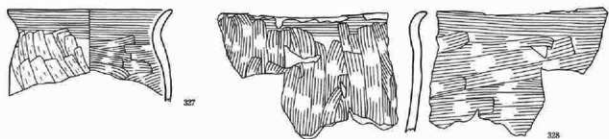
311



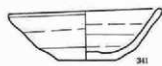
第181図 土師器・須恵器 (32)



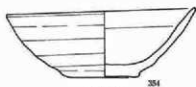
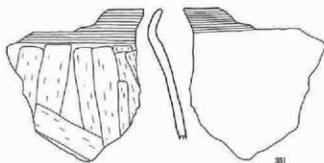
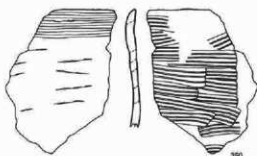
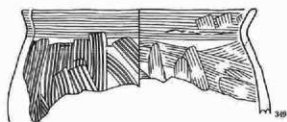
第182图 土師器・須恵器 (33)



第183圖 土師器・須惠器 (34)



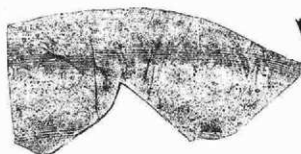
第184図 土師器・須恵器 (35)



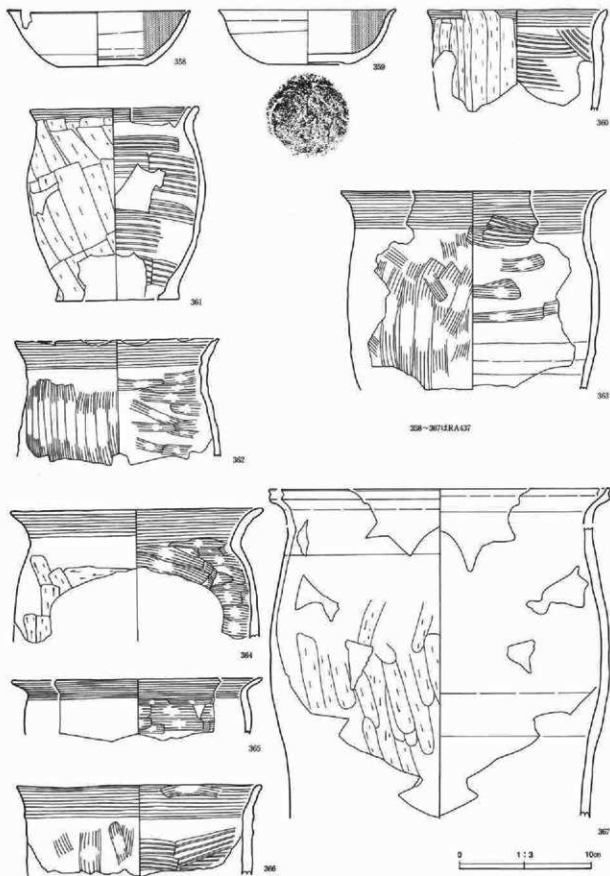
349-353 IIRA431
 353 IIRA432
 354-355 IIRA433
 356-357 IIRA435



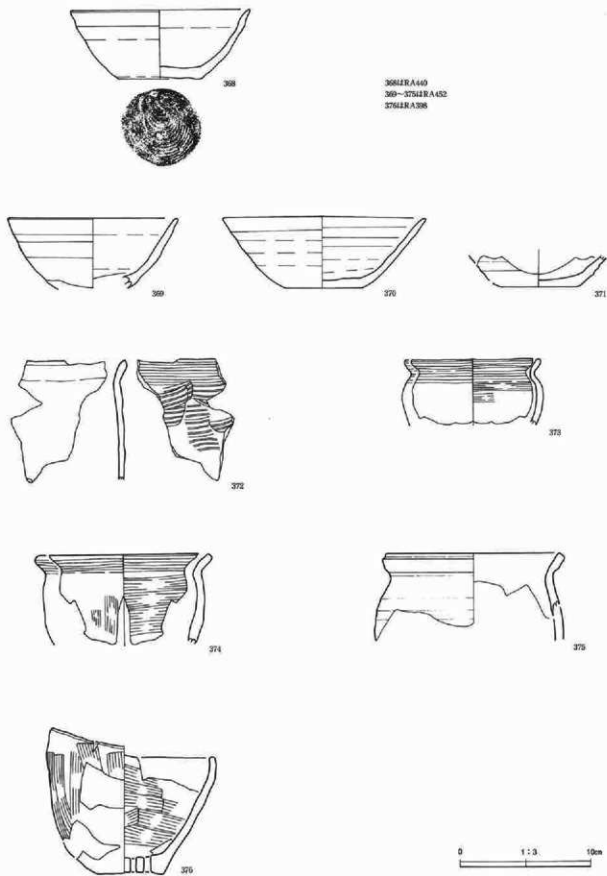
0 1:3 10cm



第185圖 土師器・須恵器 (36)

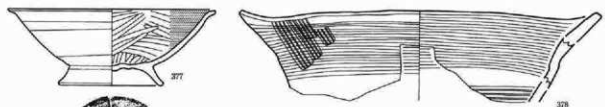


第186図 土師器・須恵器 (37)

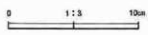
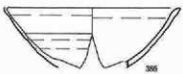
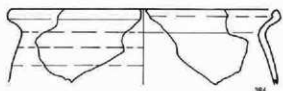
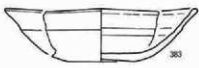
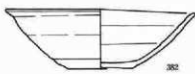
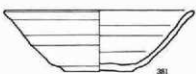
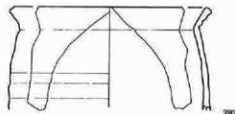


3681RA449
 369-37541RA452
 37641RA398

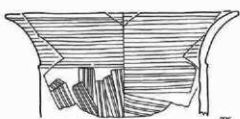
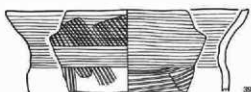
第187図 土師器・須恵器 (38)



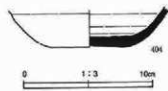
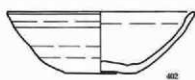
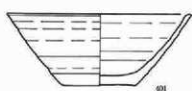
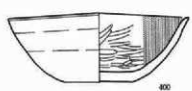
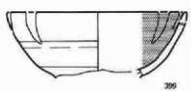
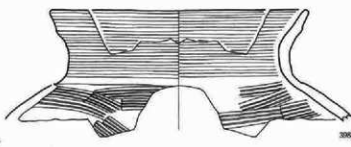
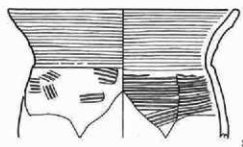
37714RD049
 378121E080
 379121E036
 380121E077
 381 - 38121E044
 382 - 382121E068
 383 - 383121E094



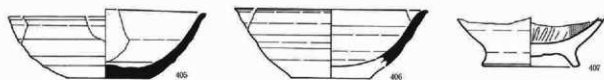
第188圖 土師器・須惠器 (39)



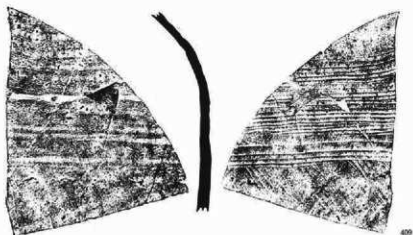
380~385:IR1088
 386:IR1034
 387:IR1045
 388:IR1073
 389~404:IR1330



第189圖 土師器・須惠器 (40)



405-410LRC000
411LRC038
412L-不明



0 1:3 10cm

第190圖 土師器・須惠器 (41)

(2) 陶磁器 (第191・192図・写真図版176・178・179)

今回の26次調査区で近世陶磁器が出土する地点をみると、東から2D・2Cグリッド、2-C・2-Dグリッドがやや多く、これらの地区で検出された遺構及び表土内から出土している。ここでは中近世のみならず、近現代の陶磁器も多量に出土したが本報告にあたり遺構に伴うもの、中近世のものを優先し掲載した。

521染付は見込みに番字がある皿であろう。520染付の高台裏には「大明成化年製」の銘が見られる。426染付の皿付はやや幅広となっている。428染付碗は見込みを蛇の目輪割し、口縁部には簡略された雨降り文を施す。430は内面無釉としている。徳利であろうか。433と434陶器碗は同一個体であろう。鉄釉は茶色に発色している。436は腰鉋の碗である。437の高台脇から腰部にかけて2重の沈線が巡っている。438は唐津の皿で長石釉を施している。439の皿は幅広の皿付きで、見込みには何らかの文様と目跡が見られる。440と441はRG343からの出土である。441には内外面に釉を施しているようで、内面の釉は風化が著しい。442の描鉢は生焼けの状態のものかもしれない。443の描鉢は見込みを平たくつくり口縁への立ち上がりに丸味を持たせずにつくり出している。446描鉢は胎土が軟質で風化が著しい。

(3) 縄文土器ほか (第193図・写真図版176・177)

出土地点は大きく2カ所に分けられる。第1に遺跡西側に位置するRG320に流れ込んだもの(413~415)で、時期は後期後葉から晩期に属するとみられる。第2に遺跡南東側の3DグリッドのIV層面から遺構外ではあるもののほぼその場で潰れたような状態で2個体の土器が出土したものである。420は角張った折り返しの口縁部に刺突文を配する甕で、その胴部破片が421・422である。破片はもっと出土したが接合せず、その中から比較的大きい破片を載せている。時期は弥生時代初頭頃だと思われ、県内では北上市金吾遺跡の試掘調査でも口縁部に刺突文が巡る甕と変形工字文を配する浅鉢とが出土している(合せ口甕棺)。420~423も出土状況から推察すると合せ口甕棺であったものかもしれないが、周囲には該期の遺構は全く確認することはできなかった。423は胴部(若しくは口頸部)に平行沈線を配している。これも弥生時代初頭に位置付けられると思われる。

(4) 金属製品 (第194・195図・写真図版180・181)

鉄製品 447は釜もしくは鍬先で平安時代の住居跡RA401から出土した。サキは当初から丸く作られているものと思われる。448は鉄鍬と思われる。先端部は欠損している。449~454は刀子であろう。449には柄に孔をもつ。455は用途不明である。時期は近代以降と思われる。456~463は釘と考えられる。406は管状に曲げたものだが用途は判然としない。465は金具の一部であろうか。

銅製品 467と468は煙管である。

銭貨 出土した銭貨は近代以降のもの以外のすべてを掲載している(第196図・写真図版182)。中世に属するものと近世に属するものがあり、中世の銭貨は墓塚から出土しているものが多い。近世の銭貨は土坑(墓ではない)や溝跡などからの出土が多い。469~471はRD822に副葬されていたとみられる。471は判

読できなかった。472と473はR D933に崩壊されたものと判断されが共に判読できなかった。475は中世墓が密に分布する3Bグリッドに位置する柱穴P P 657から出土している。

近世の銭貨はすべて寛永通寶であった。この中で479・481・483・485が占寛永である。

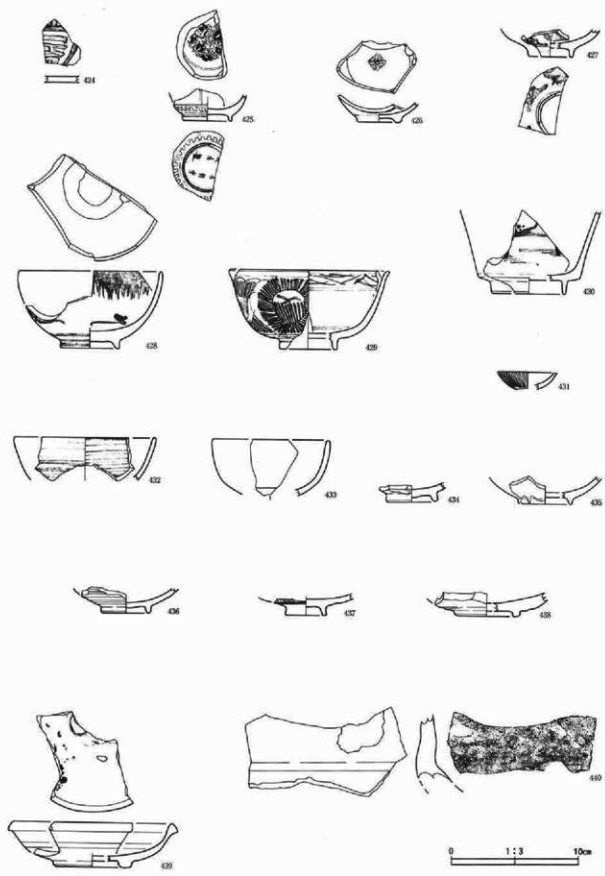
(5) 土製品ほか (第197図・写真図版180)

出土した土製品他はそのすべてを掲載している。486の切り子玉には孔の部分に487玉が付いた状態で出土した。488には外面にくまなく刺突を施している。489と490は土製の勾玉である。491～493は環状を基調とする装飾品であろう。494は自然に摩耗して円盤状になったものかもしれない。

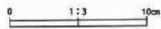
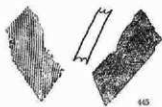
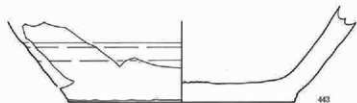
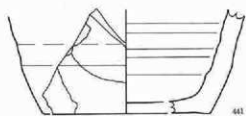
495～502は土製紡錘車である。殆どが奈良時代の竪穴住居跡からの出土であった。

(6) 石器・石製品 (第198～201図・写真図版183～186)

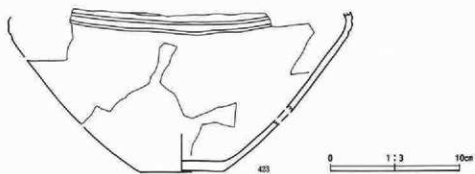
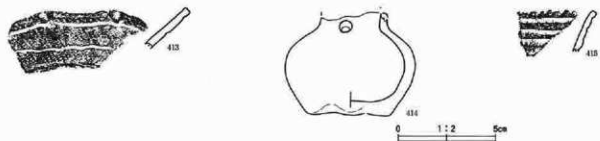
503～506は縄文時代の剥片石器である。576は円盤状石製品で端部を両面から打ち欠いて円形に整えている。509～513は砥石である。使用した面が2面以上のものが殆どで510などはかなり使い込まれ身が薄くなっている。515は片面がレンズ状に磨り減り、その反対面の中央には丸い窪みが付いている。516は扁平な方形基調の自然礫の両面はほぼ中央に煤が丸く付着していた。用途は不明である。R A 463の埋土からは多数の礫(径20～40cm前後)が一度に投げ込まれたような状態で出土した。殆どが自然礫であったが、その中で518・519は石皿的に用いられていたものようである。



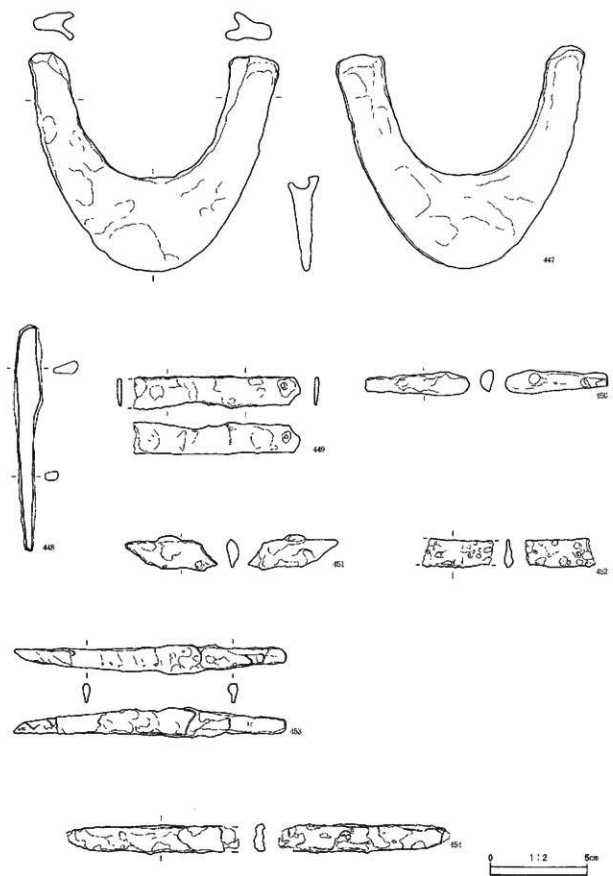
第191圖 陶磁器 (1)



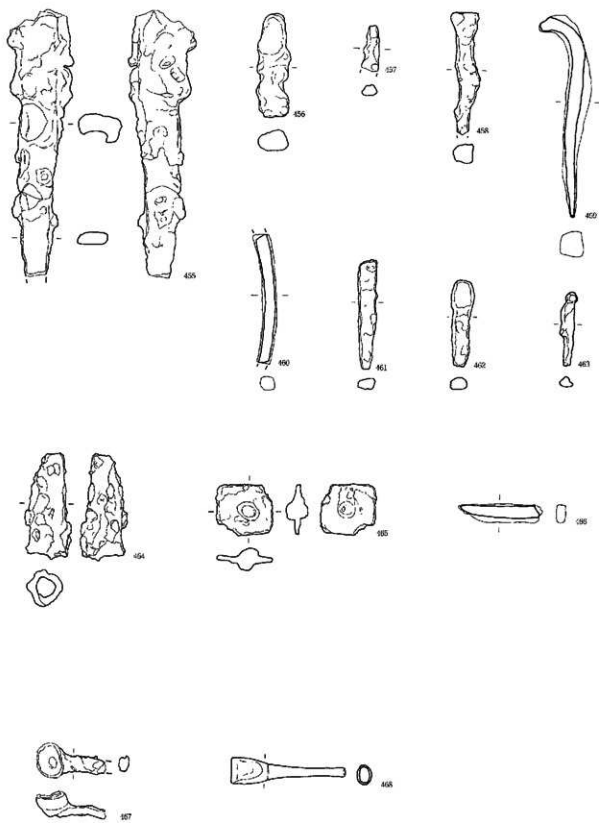
第192图 陶磁器(2)



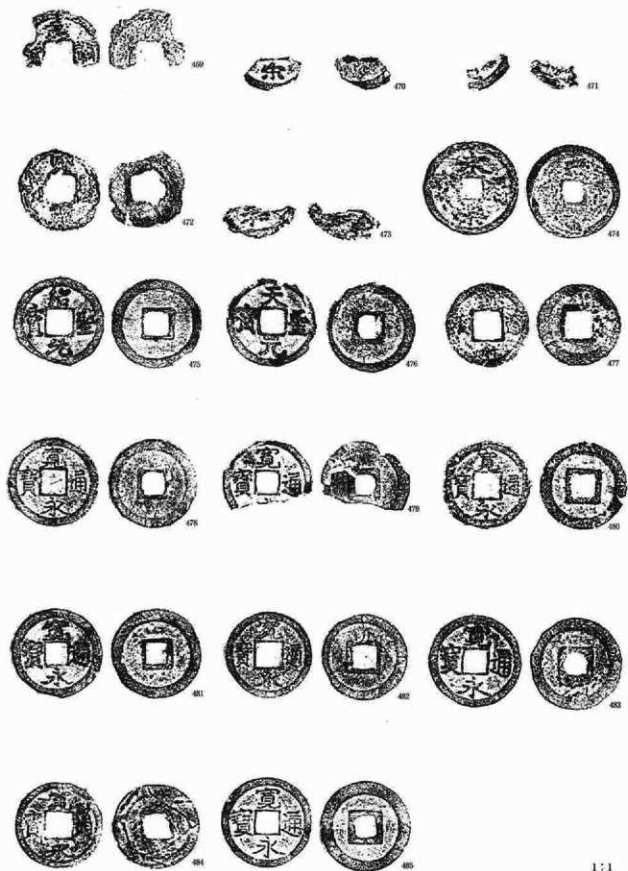
第193図 縄文土器



第194図 金屬製品(1)

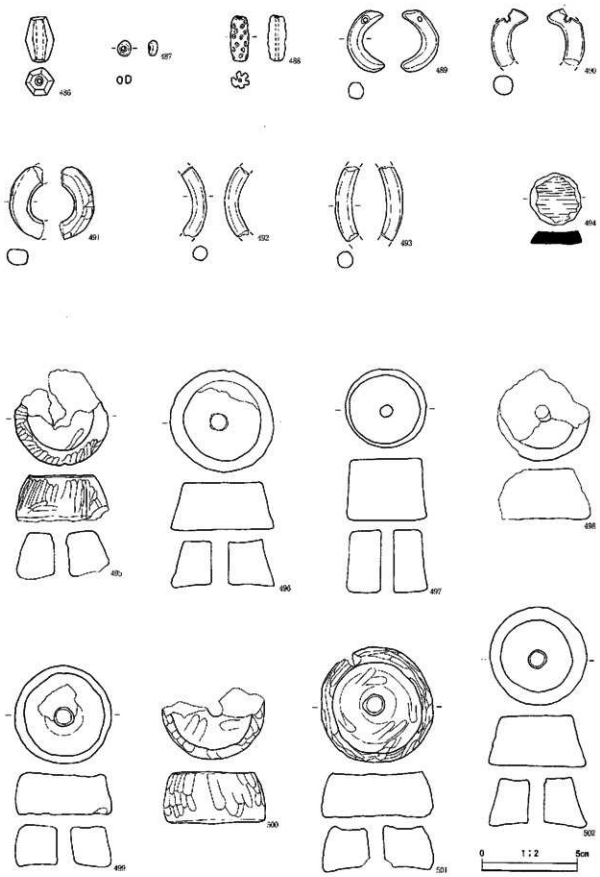


第195回 金属製品(2)

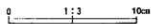
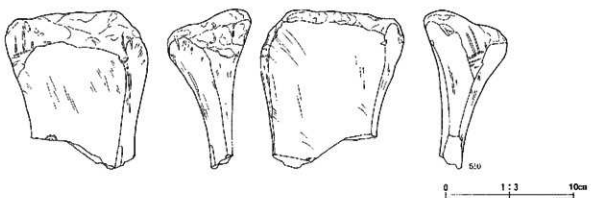
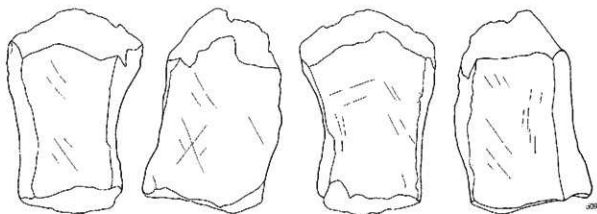
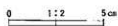
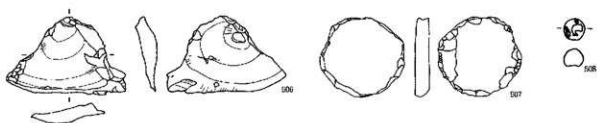
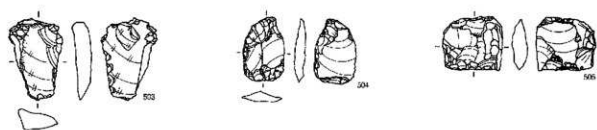


第196圖 錢貨

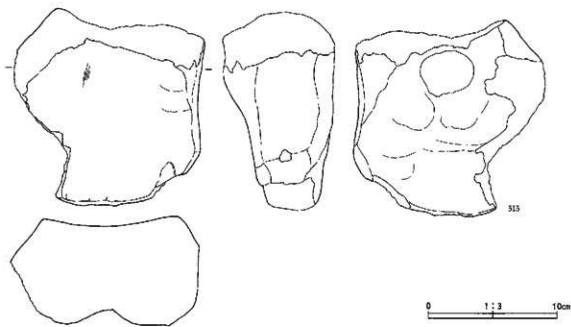
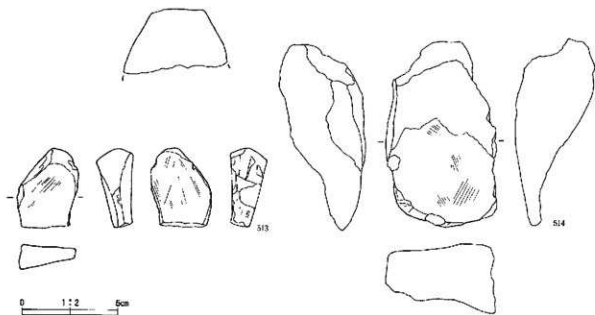
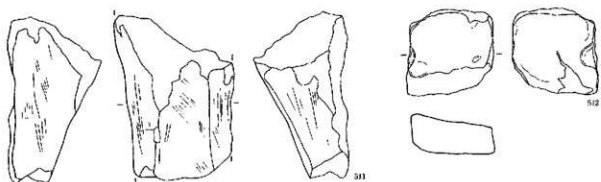
1:1



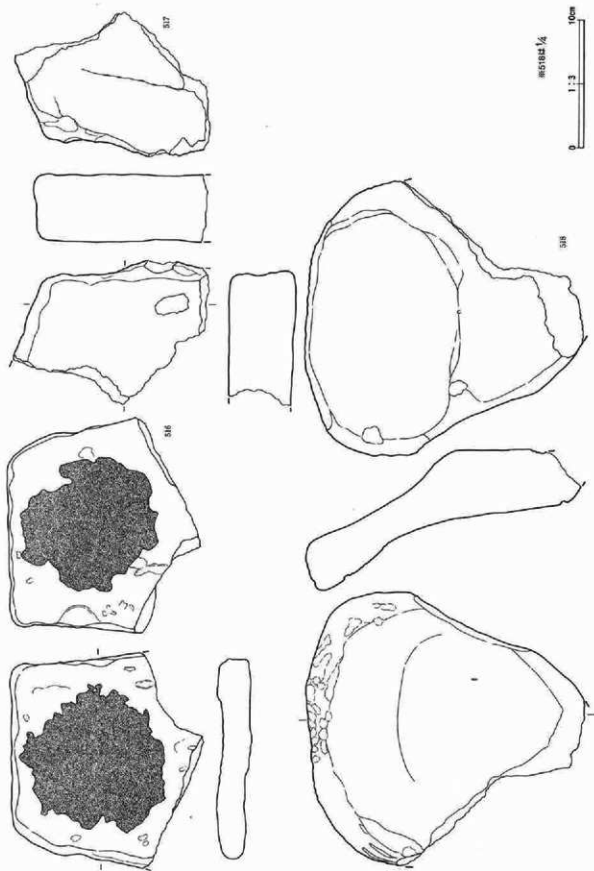
第197圖 土製品他



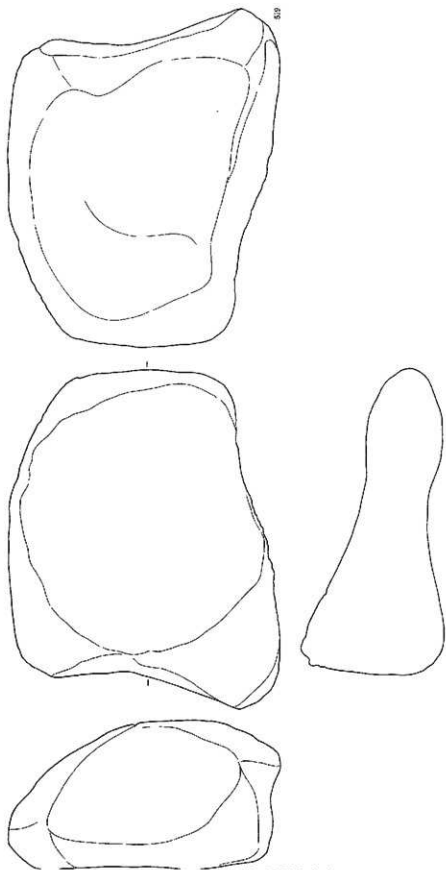
第198図 石器・石製品 (1)



第199図 石器・石製品(2)



第200圖 石器・石製品(3)



第201圖 石器・石製品（4）

土師器・須恵器観察表

番号=掲載番号

収 番 号	規 格 器 種	出 土 位 置	量 量 (cm)			外 形 測 定			内 形 測 定			色 調	そ の 他
			口 径	底 径	器 高	口 縁 部	体 部	体 部 下 半	口 縁 部	体 部	体 部 下 半		
472	1 土師器 及明透 丸鉢	RA210カマド 裏袖箱	20.2	6.9	27.5	ヨコナデ	ハケメ		ヨコナデ	ハケメ		浅黄橙	
474	2 土師器 丸鉢	RA210カマド 裏袖箱	-	-	-	ヨコナデ	ハケメ		ヨコナデ	ヘラナデ		にぶい 橙	
479	3 土師器 丸鉢	RA210カマド 裏袖箱	-	6.4	(3.0)			ハケメ		ハケメ			橙
475	4 土師器 丸鉢	RA210カマド 裏袖箱	14.5	-	(14.8)		ハケメ、ヘラナデ			ハケメ			橙
478	5 土師器 丸鉢	RA210カマド 裏1付窓	17.4	8.2	15.5	ヨコナデ	ハケメ			ハケメ			色入れる
477	6 土師器 丸鉢	RA210カマド 裏袖箱	18.7	-	(12.5)	ヨコナデ	ハケメ		ヨコナデ	不明			にぶい 黄橙
191	7 土師器 丸鉢	RA402塚山	15.5	9.1	5.6		ヘラミガキ			ヘラミガキ、黒色処理			黒
188	8 土師器 丸鉢	RA402塚上	12.0	5.7	5.4		不明			ヘラミガキ、黒色処理			浅黄橙
173	9 土師器 丸鉢	RA402塚面	-	8.0	(1.7)			ハケメ			不明		
166	10 土師器 丸鉢	RA402塚面	-	9.1	(7.6)				不明		不明		浅黄橙
184	11 土師器 器種不明	RA402塚上	-	-	-	ヨコナデ	小形			ヨコナデ	ヘラナデ		浅黄橙
158	12 土師器 丸鉢	RA605カマド	16.0	-	(4.6)	ヨコナデ				ヨコナデ			浅黄橙
174	13 土師器 丸鉢	RA405カマド	-	10.0	(2.4)			ハケメ			ヘラナデ		橙
143	14 土師器 丸鉢	RA407カマド 輪	10.2	6.8	6.1	ヨコナデ ヘラミガキ	ヘラケズ リ	不明		ヘラミガキ、黒色処理			灰白
152	15 土師器 丸鉢	RA407塚上	-	-	-	ヨコナデ				ヨコナデ			浅黄橙
147	16 土師器 丸鉢	RA407塚上	13.5	5.0	5.3		ロクロナデ			ロクロナデ			浅黄橙
148	17 土師器 丸鉢	RA407カマド 付近	7.8	5.1	9.3		ヘラナデ			ヘラナデ			浅黄橙
219	18 土師器 丸鉢	RA408・RA409 カマド	-	-	(14.0)			ハケメ			ハケメ		浅黄橙
220	19 土師器 丸鉢	RA409塚面	23.8	-	7.3	ヘラケズ リ、ハケ メ、ミガ キ	ヘラケズ リ			ヘラミガ キ、黒色 処理			黄橙
55	20 土師器 丸鉢	RA409塚上	11.0	-	(5.8)	ヨコナデ	ヘラナデ			ヨコナデ	ヘラナデ		橙
98	21 土師器 丸鉢	RA410塚上	15.6	-	(4.5)	ヨコナデ、 ヘラミガ キ	ヘラミガ キ			ヘラミガキ黒色処理			にぶい 橙
58	22 土師器 丸鉢	RA410塚上	9.2	-	(4.7)	ヨコナデ	ヘラナデ			ヨコナデ	ヘラナデ		
99	23 土師器 丸鉢	RA410塚上	-	-	(29.7)			ハケメ			ヘラナデ、ハケメ		灰白
330	24 土師器 丸鉢	RA412塚上	25.3	-	(24.3)	ハケメ、 ヨコナデ	ハケメ			ヨコナデ	ハケメ		橙
455	25 土師器 丸鉢	RA412南東 塚	21.4	-	(8.8)	ヨコナデ	ハケメ、 ヘラナデ			ヨコナデ	不明		にぶい 黄橙
326	26 土師器 丸鉢	RA417カマド 突き門	11.8	6.7	3.6		ヘラミガキ			ヘラミガキ、黒色処理			
313	27 土師器 丸鉢	RA417カマド 裏袖箱	14.8	-	4.8	ヨコナデ	ヘラケズ リ			ヘラミガキ、黒色処理			浅黄橙
333	28 土師器 丸鉢	RA417カマド 裏袖箱	-	6.2	(9.2)			ヘラケズ リ			ハケメ		橙
29	29 土師器 丸鉢	RA418塚上	15.8	-	(11.1)	ヨコナデ	ハケメ			ヨコナデ			明赤橙
344	30 土師器 丸鉢	RA418塚上	-	8.1	(6.1)			ヘラナデ			ヘラナデ		淡橙
69	31 土師器 丸鉢	RA439塚上	15.3	-	3.7	ヨコナデ、 ミガキ	ヘラミガ キ			ヘラミガキ、黒色処理			にぶい 橙
71	32 土師器 丸鉢	RA411塚上	10.0	-	3.0	ヨコナデ				ヘラミガキ、黒色処理			にぶい 黄橙
68	33 土師器 丸鉢	RA411 P17	8.6	6.2	1.9		ヘラミガキ			ヘラミガキ、黒色処理			黒
66	34 土師器 丸鉢	RA 441 塚上	14.6	8.4	3.0		不明			ヘラミガキ、黒色処理			浅黄橙
314	35 土師器 丸鉢	RA481塚上 中央	17.7	-	(8.0)	ヨコナデ	ハケメ			ヘラミガキ黒色処理	ハケメ		灰白

板番	番号	板類 種類	取土位置	沈量 (cm)			外形調整			内面調整			色調	その他	
				口径	底径	器高	口縁部	体部	体部下半	口縁部	体部	体部下半			
231	36	十加路 高環	RA441東面 柱穴	-	-	(2.8)	不明							浅黄	
316	37	上取部 直	RA441北西 壁面床面	-	-	(8.0)		ハケメ			ヘラナデ			にぶい 橙	
78	38	土加路 球殻	RA411埋上	21.5	-	(11.5)	ヨコナデ	ハケメ		ヨコナデ	ハケメ			にぶい 黄橙	
315	39	上取部 梁	RA441埋土	21.5	7.2	32.0	ヨコナデ		ヘラナデ	ヨコナデ	ハケメ			にぶい 橙	
80	40	土加路 梁	RA411床面	21.2	-	(5.0)	ヨコナデ			ヨコナデ				にぶい 橙	
299	41	十加路 梁	RA411床面 南側	-	8.8	(27.9)	ヨコナデ	ハケメ			ハケメ			黄橙	
102	42	土加路 梁	RA441南側取込 埋土、カマド周辺	23.6	-	(13.5)	ヨコナデ	ヘラナデ		ヨコナデ	ヘラナデ			橙	
72	43	十加路 梁	RA441東面 南側	-	-		ヨコナデ	ハケメ		ヨコナデ	ハケメ			にぶい 橙	
320	44	十加路 梁	RA442カマド	10.9	-	3.3	ヘラミガキ、 黒色処理			ヘラミガキ、 黒色処理				灰	
317	45	土加路 環	RA442カマド 北側	13.4	-	(4.1)	不明			ヘラミガキ 黒色処理				浅黄橙	
318	46	上取部 環	RA442カマド	15.2	-	(4.3)	ヘラミガ キ	小劣		ヘラミガキ 黒色処理				にぶい 黄橙	
321	47	土加路 環	RA442カマド 内取部	16.0	4.5	5.0	不明			ヘラミガキ、 黒色処理					
322	48	十加路 環	RA442カマド 近	15.8	-	5.1	ヨコナデ	不明		ヘラミガキ、 黒色処理				橙	
319	49	十加路 環	RA442カマド 南	-	-	(1.5)		不明				ヘラミガ キ、黒色 処理	明黄橙	底部取割 「×」	
77	50	十加路 梁	RA442埋上	19.2	-	(9.9)	ヨコナデ	ハケメ		ヨコナデ	ハケメ			にぶい 黄橙	
325	51	上取部 梁	RA442カマド 南西側	13.6	-	(11.0)	ヨコナデ	ハケメ		ヨコナデ	ハケメ			にぶい 明黄	
463	52	上取部 球殻	RA442埋土	19.3	-	(12.3)	ヨコナデ	ハケメ		ハケメ	ヘラナデ			黄橙	
454	53	土加路 梁	RA443埋上	19.0	-	(4.9)	ヨコナデ	ハケメ		ヨコナデ	ハケメ			浅黄橙	
467	54	十加路 環	RA444埋上	15.8	-	(4.3)	不明			ヘラミガキ、 黒色処理				にぶい 黄橙	外底に取割 「×」
468	55	土加路 梁	RA444カマド 北側	20.0	-	(27.5)	ヨコナデ	ハケメ		ヨコナデ	ハケメ			にぶい 橙	
469	56	土加路 梁	RA444カマド 北側、煙道	18.8	-	(20.1)	ヨコナデ	ハケメ		ヨコナデ	ハケメ			にぶい 黄	
465	57	上取部 梁	RA444カマド 北側	16.8	-	(20.6)	ヨコナデ	ハケメ			ハケメ			にぶい 黄橙	
466	58	土加路 梁	RA444カマド 北側	11.6	-	(5.8)	ヨコナデ	ヘラミガ キ		ヨコナデ	ハケメ			にぶい 橙	
353	59	十加路 環	RA445カマド 上	12.1	5.3	5.6	ヨコナデ	不明		ヨコナデ	不明			浅黄橙	
360	60	上取部 梁	RA445埋土	17.0	-	(21.8)	ヨコナデ	ハケメ		ヨコナデ	ハケメ			橙	
470	61	土加路 球殻	RA445埋土	19.5	-	(30.3)	ヨコナデ	ハケメ		ヨコナデ	ハケメ			浅黄橙	
362	62	上取部 梁	RA445埋上	-	8.2	(10.8)		ヘラナデ			ハケメ				
363	63	土加路 球殻	RA445カマド 北側	18.0	-	(10.5)	ヨコナデ	不明		ヨコナデ	不明				
359	64	十加路 球殻	RA443埋上	17.7	-	(9.0)	ヨコナデ	不明		ヨコナデ	不明			にぶい 黄橙	
366	65	上取部 球殻	RA445カマド 北側	-	-	(11.2)		ヘラナデ			ハケメ			明黄橙	赤色塗部
354	66	土加路 梁	RA447埋上	9.4	4.0	3.1	ヨコナデ	不明		不明				浅黄橙	
364	67	十加路 環	RA447埋上	9.9	-	(4.0)	不明			不明				浅黄橙	
319	68	上取部 環	RA447埋土	16.4	-	(3.4)	ヘラミガキ			ヘラミガキ、 黒色処理				橙	
357	69	土加路 環	RA447埋上	13.4	-	(6.0)	ヘラミガキ 黒色処理			ヘラミガキ 黒色処理				黄灰	
312	70	十加路 環	RA447床面 73と共に	14.4	-	4.9	ヘラミガキ			ヘラミガキ、 黒色処理				灰	
350	71	土加路 環	RA447埋土	15.4	-	4.6	不明			ヘラミガキ、 黒色処理				橙	調色不明

板番	番号	種別 種別	出上位置	寸法 (cm)			外面調整			内面調整			色調	その他
				口径	底径	高さ	1:線部	作部	作部下キ	口縁部	体部	体部下キ		
347	72	土師器 土師器	RA447纏上	16.8	-	(5.3)	ハケメカ			ヘラミガキ黒色処理			浅黄褐色	
361	73	土師器 大型杯	RA447床面 70と共に	22.0	-		ヨコナデ、 ミガキ	ヘラミガキ		ヘラミガキ			黄褐色	
353	74	土師器 高杯	RA447纏上	12.6	-	(4.6)	ヨコナデ	不変				ヘラミガキ黒色処理		
352	75	土師器 高杯	RA447纏上	-	-				ヘラミガキ				不明	にぶい 黄褐色
310	76	土師器 高杯	RA447東壁際 床面	7.0	7.1	12.7	ヨコナデ	ハケメカ			ヨコナデ			黄褐色
351	77	土師器 高杯	RA447纏上	18.9	-	(11.6)	ヨコナデ	ヘラミガキ			ヨコナデ	不明		にぶい 黄褐色
47.	78	土師器 高杯	RA447纏上	18.7	-	(15.6)	ヨコナデ	ハケメカ			ヨコナデ	ハケメカ		褐色
356	79	土師器 高杯	RA447床面	16.4	-	(12.7)	ヨコナデ	ハケメカ			ヨコナデ	ハケメカ		にぶい 黄褐色
358	80	土師器 球脚蓋	RA447付溝取 950号	31.4	-	(6.2)	ハケメカ、 ヨコナデ	ハケメカ			ヨコナデ	ハケメカ		浅黄褐色
390	81	土師器 長脚蓋	RA448中央床 面	19.8	8.0	32.2	ハケメカ、 ヘラミガキ	ハケメカ			ヨコナデ	ハケメカ		明黄褐色
311	82	土師器 高杯	RA448カマド 取脚	17.1	(7.4)	24.1	ヨコナデ	ハケメカ			ヨコナデ	ハケメカ		にぶい 黄褐色
392	83	土師器 高杯	RA448南東壁 床面	14.0	6.6	18.1	ヨコナデ	ヘラミガキ			ヨコナデ	ヨコナデ	ハケメカ	浅黄褐色
309	84	土師器 球脚蓋	RA448カマド 取脚	13.6	8.0	19.5	ヨコナデ	ハケメカ、 ヘラミガキ	ヘラミガキ		ヨコナデ	ヘラミガキ		直立した状 態で出土
393	85	土師器 球脚蓋	RA448纏上	24.8	-	(14.1)	ヨコナデ	ハケメカ			ヨコナデ	ヘラミガキ		黄褐色
391	86	土師器 球脚蓋	RA448カマド 周辺	-	7.4	(6.6)			不変			不明		黄褐色
324	87	土師器 高杯	RA449纏上	-	-	-	ヨコナデ				ヘラミガキ、 黒色処理			にぶい 黄褐色
323	88	土師器 高杯	RA449纏上	21.5	-	(6.8)	ヨコナデ				ヨコナデ			にぶい 黄褐色
164	89	土師器 高杯	RA449床面	21.2	7.7	32.5	ヨコナデ	ヘラミガキ	ヘラミガキ		ヨコナデ	ヘラミガキ		にぶい 黄褐色
228	90	土師器 高杯	RA451南東床 面	15.9	-	5.2	ヘラミガキ、 黒色処理			ヘラミガキ、 黒色処理				黒
226	91	土師器 高杯	RA451南東床 面	16.0	-	5.4	ヨコナデ	不変	不明		ヘラミガキ、 黒色処理			にぶい 黄褐色
227	92	土師器 高杯	RA451南東床 面	15.0	2.4	6.8	ヨコナデ	ハケメカ	ハケメカ		不変			にぶい 黄褐色
222	93	土師器 高杯	RA451カマド 取脚	18.3	-	(14.1)	ヨコナデ	ハケメカ			ヨコナデ	ハケメカ		にぶい 黄褐色
308	94	土師器 高杯	RA451北東壁 取脚	17.3	6.8	24.7	ハケメカ、 ヨコナデ	ハケメカ			ヨコナデ	ヘラミガキ	不明	灰褐色
306	95	土師器 高杯	RA451床面	17.8	7.2	23.9	ハケメカ、 ヨコナデ	ハケメカ			ヨコナデ	ハケメカ		灰褐色
224	96	土師器 球脚蓋	RA451カマド 取脚	-	7.1	(19.0)	ヨコナデ	ハケメカ				ハケメカ		浅黄褐色
225	97	土師器 球脚蓋	RA451床面	-	7.0	(17.8)	ヨコナデ	ハケメカ				ハケメカ		にぶい 黄褐色
300	98	土師器 球脚蓋	RA451北東壁 取脚	-	7.0	(7.1)			ミガキ?			ヘラミガキ		にぶい 黄褐色
307	99	土師器 球脚蓋	RA451南東床 面	17.8	8.0	(18.8)	ハケメカ、 ヨコナデ	ハケメカ			ヨコナデ	ハケメカ	不明	にぶい 黄褐色
381	100	土師器 高杯	RA488纏上 RA456取脚 取脚	14.0	7.2	(3.7)		不明			不明			浅黄褐色
377	101	土師器 高杯	RA457纏上	15.6	-	(3.8)		不明			ヘラミガキ 黒色処理			にぶい 黄褐色
382	102	土師器 高杯	RA457纏上	15.5	-	(8.6)	ヨコナデ	ハケメカ			ヨコナデ	ハケメカ		にぶい 黄褐色
373	103	土師器 高杯	RA459南東壁 取脚	25.2	-	(12.8)	ヨコナデ	ハケメカ			ヨコナデ	ハケメカ		明黄褐色
375	104	土師器 高杯	RA459床面	-	-	-	ヨコナデ	ハケメカ			ヨコナデ	ハケメカ		にぶい 黄褐色
370	105	土師器 高杯	RA459南東壁 取脚	-	8.0	(10.0)				ヘラミガキ			ハケメカ	褐色
379	106	土師器 高杯	RA460纏上	16.8	-	(5.1)		不明			不明			浅黄褐色

仮番	番号	種類 仕様	出土位置	法量 (cm)			外形調査			内面調査			色調	その他
				口径	底径	器高	口縁部	作部	底部下平	口縁部	作部	底部下平		
385	107	土師器 鉢	RA460西側埋 土	12.0		(4.2)	ヨコナテ	不明		ヘラミガキ、黒色処理			灰白	
458	108	土師器 甕	RA460西側埋 土	12.8	-	(6.7)	ヨコナテ	ハケム		ヨコナテ	ハケム		灰白	
374	109	土師器 甕	RA460西側埋 土	10.2	-	(7.6)	ヨコナテ	ハケム		ヨコナテ	ヘラナテ		褐色	
383	110	土師器 甕	RA460西側埋 土	19.1	-		ヨコナテ	ハケム		ヨコナテ	ハケム		にぶい 褐色	
386	111	土師器 甕	RA460西側埋 土	-	7.8	(9.5)			ハケム			ハケム	にぶい 褐色	
229	112	土師器 埴輪	RA460南内側 埋土	19.4	-	(20.1)	ハケム、 ヨコナテ	ハケム		ヨコナテ	ハケム		赤色塗彩	
371	113	土師器 埴輪	RA460南内側 埋土	-	7.8	(3.9)			不明			不明	にぶい 褐色	
303	114	土師器 鉢	RA463埋土	15.4		(3.1)		不明		ヘラミガキ黒色処理			浅黄褐色	
301	115	土師器 鉢	RA463埋土	-	5.8	(7.0)				ヘラナテ		ハケム	にぶい 褐色	
1	116	土師器 鉢	RA214輝出坑	12.3	6.4	5.0			ロクロナテ		ヘラミガキ、黒色処理			褐色
548	117	土師器 鉢	RA214床面	-	-	-	ワクロナ テ				ヘラミガ キ、黒色 処理			褐色
456	118	土師器 鉢	RA214埋土	16.2	-	(5.5)			ロクロナテ		ヘラミガキ、黒色処理			明黄褐色
214	119	土師器 鉢	RA214埋土	12.9	5.8	5.5			ロクロナテ		ヘラミガキ、黒色処理			浅黄褐色
457	120	赤褐色 土師器 鉢	RA214埋土	13.8	5.4	6.2			ロクロナテ			ロクロナテ		黄褐色
2	121	土師器 高台付平 鉢	RA214床面	-	8.6	(3.6)			ロクロナテ			ヘラミガ キ、黄色 処理		
434	122	須恵器 鉢	RA214床面	16.0	-	(3.6)	ロクロナテ				ロクロナテ			オリーブ 灰
440	123	須恵器 鉢	RA214埋土	11.2	-	(5.6)	ロクロナテ				ロクロナテ			黒
4	124	土師器 鉢	RA214埋土		7.6	10.6			ロクロナテ		ヘラミガキ黒色処理			にぶい 黄褐色
20	125	赤褐色 土師器 鉢	RA312埋土	14.4	6.2	5.6	ロクロナテ				ロクロナテ			褐色
8	126	赤褐色 土師器 鉢	RA312埋土	14.2	5.8	4.7	ロクロナテ				ロクロナテ			浅黄褐色
16	127	赤褐色 土師器 鉢	RA312埋土	14.0	7.2	5.1	ロクロナテ				ロクロナテ			黄褐色
9	128	赤褐色 土師器 鉢	RA312埋土	13.8	5.1	5.2	ロクロナテ				ロクロナテ			浅黄褐色
5	129	赤褐色 土師器 鉢	RA312埋土	15.0	5.2	5.5	ロクロナテ				ロクロナテ			褐色
14	130	赤褐色 土師器 鉢	RA312北西隅 床面	13.6	5.6	5.3	ロクロナテ				ロクロナテ			褐色
22	131	赤褐色 土師器 鉢	RA312カマド 床面	15.1	6.4	5.7	ロクロナテ				ロクロナテ			浅黄褐色
18	132	赤褐色 土師器 鉢	RA312カマド 床面	14.2	5.5	5.1	ロクロナテ				ロクロナテ			褐色
7	133	赤褐色 土師器 鉢	RA312床面	14.4	6.0	6.5	ロクロナテ				ロクロナテ			褐色
21	134	赤褐色 土師器 鉢	RA312埋土	15.6	5.4	5.0	ロクロナテ				ロクロナテ			褐色
10	135	赤褐色 土師器 鉢	RA312埋土	16.0	6.4	5.2	ロクロナテ				ロクロナテ			浅黄褐色
438	136	須恵器 鉢	RA312埋土	-	6.0	(3.1)			ロクロナ テ			ロクロナ テ		灰
23	137	須恵器 鉢	RA312埋土	14.5	4.9	5.3	ロクロナテ				ロクロナテ			浅黄褐色
453	138	須恵器 鉢	RA312北側埋 土	14.1	5.0	5.0	ロクロナテ				ロクロナテ			灰白
452	139	須恵器 鉢	RA312カマド 前床	14.6	5.3	4.9	ロクロナテ				ロクロナテ			灰白
17	140	須恵器 鉢	RA312埋土	15.7	5.4	5.4	ロクロナテ				ロクロナテ			にぶい 褐色
436	141	須恵器 鉢	RA312埋土	14.8	5.4	4.1	ロクロナテ				ロクロナテ			灰白
437	142	須恵器 鉢	RA312埋土		5.5	(1.9)			ロクロナ テ			ロクロナ テ		灰
435	143	須恵器 鉢	RA312床面	14.8	-	(4.0)	ワクロナ テ				ロクロナテ			灰白

板番	番号	種別 種	出土位置	流量 (on)			外面調整			内面調整			色調	その他
				口径	成径	節高	口縁部	体部	体部下平	口縁部	体部	体部下平		
433	144	須磨器 高台付 付環	RA312床面	13.6	7.5	6.1	ロクロナダ			ロクロナダ			灰	
459	143	上飾器 高台付 付環	RA312埋土	-	8.0	(2.5)			ロクロナ ダ			ヘラミガ キ、黒色 処理	黒	外周も黒色 処理か
460	146	赤焼き 土	RA312カマド 付近埋土	19.6	-	(31.5)	ロクロナ ダ	ヘラケズ リ	ロクロナ ダ	カキメ	ロクロナ ダ		緑	
221	147	赤焼き 土	RA312南側障 床掘り込み	20.6	8.5	32.4	ロクロナ ダ	ヘラケズ リ	ロクロナ ダ		ロクロナ ダ	ハケメ	緑	
12	148	赤焼き 土	RA312埋土	22.2	-	22.5	ロクロナ ダ	ヘラナ ダ・ヘラケ ズリ	ロクロナ ダ		ヘラナ ダ		にぶい 赤黒	
11	149	赤焼き 土	RA312埋土	21.8	-	(5.1)	ロクロナダ			ロクロナダ				
16	150	赤焼き 土	RA312カマド	-	7.4	(6.3)		ロクロナ ダ	ヘラケズ リ			ロクロナ ダ		底糸切痕
19	151	上飾器 土	RA312カマド	-	7.0	(5.1)			ヘラケズ リ			ヘラナ ダ	にぶい 黄緑	
25	152	赤焼き 土	RA312焚き口 付近床面	31.1	-	(10.4)	ロクロナ ダ	ロクロナ ダ、ヘラ ケズリ			ヘラナ ダ		にぶい 黄	
429	153	須磨器 土	RA312床面	2.0	-	(7.2)	ロクロナ ダ				ロクロナ ダ		時刻灰	
6	154	土師器 土	RA316埋土中 院東院付近	-	-	(14.8)		ヘラナ ダ			ヘラナ ダ		黄緑	
3	155	土師器 土	RA316埋土	-	8.7	(4.1)						ハケメ	黄	
82	156	赤焼き 土	RA397埋土	15.2	6.0	5.6	ロクロナダ			ロクロナダ			にぶい 黄	
81	157	赤焼き 高台付 付環	RA397埋土	14.6	7.0	5.3	ロクロナダ			ロクロナダ			黄緑	
90	158	土師器 土	RA397埋土	-	-	-	ヨコナ ダ	ヘラケズ リ			ヨコナ ダ	ハケメ	にぶい 黄	
83	159	土師器 土	RA397埋土	18.2	-	(6.4)	ヨコナ ダ	ヘラケズ リ			ヨコナ ダ	ヘラナ ダ		
85	160	土師器 土	RA397埋土	12.3	-	(5.1)	ヨコナ ダ、 ヘラナ ダ	ヘラナ ダ			ヨコナ ダ	ヘラナ ダ		
95	161	土師器 小	RA397	10.4	-	(5.4)	ヨコナ ダ	ヘラケズ リ			ヨコナ ダ	ヘラナ ダ		
91	162	土師器 土	RA397床直	-	13.0	(2.0)			不明			ヘラナ ダ	にぶい 黄緑	
439	163	須磨器 土	RA397埋土	-	14.4	(7.5)			ヘラケズ リ			ナチ	灰白	
217	164	土師器 土	RA399カマド	13.8	6.0	4.8	ロクロナ ダ	ケズリ			ヘラミガ キ、黒色 処理	洗黄緑	底ヘラ切 り	
213	165	土師器 土	RA399埋土	14.0	5.6	5.2	ロクロナ ダ	ケズリ			ヘラミガ キ、黒色 処理	にぶい 黄	底回転ヘラ 切り	
87	166	土師器 土	RA399埋土	14.1	5.2	5.1	ロクロナ ダ	ヘラケズ リ			ヘラミガ キ、黒色 処理	にぶい 黄緑		
84	167	土師器 土	RA 399 埋土	13.0	5.4	4.7	ロクロナダ			ヘラミガキ、黒色処理			灰黄	
212	168	土師器 土	RA399埋土	14.0	5.0	4.7	ロクロナダ			ヘラミガキ、黒色処理			洗黄	
206	169	赤焼き 土	RA399埋土	14.6	4.5	4.3	ロクロナダ			ロクロナダ			洗黄	
201	170	赤焼き 土	RA399カマド	14.0	4.4	4.7	ロクロナダ			ヨコナ ダ			洗黄緑	
96	171	赤焼き 土	RA399焚き口 付近	14.0	-	4.2	ロクロナ ダ				ロクロナ ダ			
97	172	赤焼き 土	RA399焚き口 付近	14.5	-	(4.3)	ロクロナダ			ロクロナダ				
216	173	須磨器 土	RA399カマド	15.7	5.0	3.2	ロクロナダ			ロクロナダ			黄	
215	174	赤焼き 高台付 付環	RA399埋土	-	7.0	(1.9)			ロクロナ ダ			ロクロナ ダ	にぶい 黄緑	
86	175	土師器 土	RA399カマド	12.5	-	(9.6)	ヨコナ ダ	ヘラケズ リ			ヨコナ ダ	ハケメ		
208	176	土師器 土	RA399埋土	-	-	-	ヨコナ ダ	ヘラケズ リ			ヨコナ ダ	ヘラナ ダ	にぶい 黄緑	
207	177	土師器 土	RA399カマド	-	-	-	ヨコナ ダ	ヘラケズ リ			ヨコナ ダ	ハケメ	にぶい 黄	

仮番	番号	種類 種類	出土位置	法原 (cm)			外面調整			内面調整			色調	その他
				口径	底径	器高	口縁部	唇部	体部下半	口縁部	唇部	体部下半		
211	178	土師器 甕	RA399埋土	-	-	-	ヨコナダ	ヘラナダ ヘラケズリ		ヨコナダ	ヘラナダ		にぶい 橙	
210	179	土師器 甕	RA399埋土	-	-	-	ヨコナダ	ヘラナダ			ハケメ		にぶい 橙	
89	180	赤焼き 甕	RA399埋土	19.8	-	(16.2)	ロクロナ ダ	ロクロナ ダ、ケズ リ		ロクロナ ダ			橙	
209	181	赤焼き 甕	RA99カマド	18.0	-	(7.2)	ロクロナ ダ			ロクロナ ダ			明褐	
94	182	土師器 甕	RA399埋土	-	9.2	5.4			ヘラケズ リ			ヘラナダ	浅黄	
88	183	赤焼き 甕	RA399埋土 口付迄	-	-	-	ロクロナ ダ	コクロナ ダ、ケズ リ				ロクロナ ダ	にぶい 橙	
192	184	土師器 甕	RA401内Pit 1 埋土	-	8.0	(5.8)			ヘラナダ ・ヘラケ ズリ			ハケメ	橙	
93	185	土師器 甕	RA399埋土		7.7	(4.0)			ヘラケズ リ			ヘラナダ	暗赤灰	
177	186	赤焼き 甕	RA400北側平 面	14.3	5.4	5.0	ロクロナ ダ				ロクロナ ダ		橙	
178	187	赤焼き 甕	RA400床直焼 土	14.5	5.7	4.9	ロクロナ ダ				ロクロナ ダ		浅黄橙	
168	188	赤焼き 甕	RA400埋土	15.3	5.0	5.5	ロクロナ ダ				ロクロナ ダ		橙	
203	189	土師器 甕	RA400埋土	12.1		(9.6)	ヨコナダ	ヘラナダ		ヨコナダ	ヘラナダ		にぶい 黄橙	
202	190	土師器 甕	RA400埋土			-	ヨコナダ	不明		ヨコナダ	ヘラナダ		にぶい 黄橙	
430	191	須恵器 甕	RA400埋土	-	-	(13.5)	ロクロナ ダ	ヘラケズ リ			ロクロナ ダ		黄灰	
171	192	土師器 甕	RA401内Pit 1 埋土	14.2	6.3	4.2	ロクロナ ダ				ヘラミガキ、 黒色処理		明黄橙	
441	193	須恵器 甕	RA400埋土					タタキ			タタキ		黄灰	
179	194	土師器 甕	RA402床面	14.3	6.6	5.6	ロクロナ ダ				ヘラミガキ、 黒色処理		橙	
169	195	土師器 甕	RA401床面	14.5	6.0	4.6	ロクロナ ダ				ヘラミガキ、 黒色処理		浅黄橙	
183	196	土師器 甕	RA401床面	15.2	6.4	4.3	ロクロナ ダ				ヘラミガキ、 黒色処理		浅黄橙	
176	197	赤焼き 甕	RA401埋土	13.6	5.8	4.8	ロクロナ ダ				ロクロナ ダ		浅黄橙	
190	198	赤焼き 甕	RA401床面	13.2	6.9	4.2	ロクロナ ダ				ロクロナ ダ		浅黄橙	
194	199	赤焼き 甕	RA401内Pit 1 埋土	14.0	5.8	4.7	ロクロナ ダ				ロクロナ ダ		浅黄橙	
193	200	赤焼き 甕	RA403北側カ マド	15.1	5.9	5.5	ロクロナ ダ				ロクロナ ダ		浅黄橙	
160	201	土師器 甕	RA401カマド 北側床面	20.8	-	(22.8)	ヨコナダ	ヘラケズ リ・ヘラ ナダ		ヨコナダ	ヘラナダ		明赤褐	
187	202	土師器 甕	RA401カマド	-	-	-	ヨコナダ	ヘラケズ リ		ヨコナダ	ヘラナダ		にぶい 橙	
180	203	土師器 甕	RA401埋土	-	-	-	ヨコナダ	ヘラナダ		ヨコナダ	ヘラナダ		灰黄緑	
197	204	土師器 甕	RA401カマド 西辺	21.0		(18.3)	ヨコナダ	ヘラケズ リ		ヨコナダ	ヘラナダ		浅黄橙	
162	205	土師器 甕	RA401カマド 北側床面	-	10.1	(6.3)			ヘラケズ リ			ヘラナダ		
189	206	赤焼き 甕	RA401埋土	13.0	-	(5.6)	ロクロナ ダ				ロクロナ ダ		浅黄橙	
196	207	赤焼き 甕	RA401埋土 内床面	23.6		(11.2)	ロクロナ ダ				ロクロナ ダ		橙	
182	208	赤焼き 甕	RA401床面	-	-	-	ロクロナ ダ				ロクロナ ダ		浅黄橙	
442	209	須恵器 甕	RA401埋土					タタキ					褐灰	
199	210	須恵器 甕	RA401カマド 南側床面					タタキ				アケ鼻		
170	211	土師器 甕	RA403床面	14.0	6.4	4.2	ロクロナ ダ				ヘラミガキ、 黒色処理		黄橙	

仮 番 号	種類 名称	出土位置	法厚 (cm)			外面調査			内面調査			色 質	その他
			口徑	底徑	器高	口縁部	体部	底部下半	口縁部	体部	底部下半		
167	赤焼き 土師器 土師器	RA403南カマ ド焼結部	14.9	6.0	4.7		ロクロナデ			ロクロナデ		にぶい 黄澄	
181	赤焼き 土師器	NA403床面	13.6		(4.5)		ロクロナデ			ロクロナデ		黄澄	
172	赤焼き 土師器	RA403床面	-	9.3	(3.1)		ロクロナデ			ロクロナデ		浅黄澄	
196	土師器 土師器	RA403南カマ ド・床面	20.5	-	(18.2)	ヨコナデ	ヘラナデ	ヘラクス リ	ヨコナデ	ハケメ		にぶい 澄	
201	土師器 土師器	RA403北カマ ド焼結部	-	-	-	ヨコナデ	ヘラナデ		ヨコナデ	ハケメ		にぶい 澄	
186	土師器 土師器	RA403睡土	-	-	-	ヨコナデ	ヘラナデ		ヨコナデ	ヘラナデ		にぶい 黄澄	
163	土師器 土師器	RA403北カマ ド焼結部	-	9.8	(14.0)			ハケメ			ハケメ	灰黄澄	
161	赤焼き 土師器	RA403睡土・ 南カマド前	20.0	-	(28.2)		ロクロナデ	ヘラクス リ	ロクロナデ		不明	黄澄	
185	赤焼き 土師器	RA403睡土	-	-	-	ロクロナ デ			ロクロナ デ			にぶい 澄	
445	須恵器 土師器	RA403床面	22.0	-	(3.5)	ロクロナ デ			ロクロナ デ			灰	
443	須恵器 土師器	RA403南カマ ド焼結部					タタキ			タタキ		黄灰	
157	土師器 土師器	RA406睡土	-	6.2	(2.0)			ロクロナ デ			ヘラミガ キ、黒色 処理		
158	赤焼き 土師器	RA406睡土	-	4.8	(1.4)			ロクロナ デ			ロクロナ デ	浅澄	
159	赤焼き 土師器	RA406睡土	-	-	-	ロクロナ デ			ロクロナ デ			澄	
205	土師器 土師器	RA406睡土	-	-	-	ヨコナデ	ケズリ、 ヘラナデ		ヨコナデ	ハケメ		にぶい 黄澄	
150	土師器 土師器	RA406睡土	-	6.4	(1.7)			ケズリ			ヘラミガ キ、黒色 処理		黄澄?
144	土師器 土師器	RA406焼結部	-	6.0	(1.8)			ロクロナ デ			ヘラミガ キ、黒色 処理	澄	
145	土師器 土師器	RA408床面	14.1	5.4	5.6		ロクロナデ			ヘラミガキ、黒色処理		黄澄	
146	須恵器 土師器	RA408睡土	14.9	6.0	4.8		ロクロナデ			ロクロナデ		灰白	
432	須恵器 土師器	RA408床面	14.0	6.0	4.8		ロクロナデ			ロクロナデ		にぶい 黄澄	
414	須恵器 土師器	RA408-RG320	14.8	6.1	4.2		ロクロナデ			ロクロナデ		黄灰	
149	土師器 高台付 土師器	RA408睡土	-	7.6	(2.4)			ロクロナ デ			ヘラミガ キ、黒色 処理	浅黄澄	
142	土師器 高台付 土師器	RA408焼結部	16.4	9.8	6.0		ロクロナデ			ヘラミガキ、黒色処理		にぶい 澄	
151	土師器 高台付 土師器	RA408睡土	-	8.0	(3.9)			ロクロナ デ			ヘラミガ キ、黒色 処理	黄灰	
156	土師器 土師器	RA408床面	-	-	-	ヨコナデ	ヘラナデ		ヘラナデ	ハケメ		にぶい 澄	
153	土師器 土師器	RA408睡土	-	-	-	ヨコナデ	ヘラナデ		ヨコナデ	ハケメ		にぶい 黄澄	
154	土師器 土師器	RA403睡土は RA408睡土の 間違い		5.4	(1.5)			ヘラナデ			不明	澄	
413	須恵器 土師器	RA408- RG320	12.2		(8.6)	ロクロナ デ			ロクロナ デ			灰	
416	須恵器 土師器	RA408- RG320					タタキ			アテ具			
415	須恵器 土師器	RA408- RG320	-	9.0	(5.3)			ヘラクス リ			不切	灰	
450	須恵器 土師器	RA408- RG320			(12.3)			タタキ				灰燻	
51	土師器 土師器	RA411睡土		6.0	(1.9)			ロクロナ デ			ヘラミガ キ、黒色 処理		
41	赤焼き 土師器	RA411床面	14.0	5.2	4.4		ロクロナデ			ロクロナデ		浅黄澄	

原番	番号	種別 器種	出上位置	法量 (mm)			外形調整			内面調整			色調	その他	
				口径	外径	器高	口縁部	体部	体部下半	口縁部	体部	体部下半			
57	345	土師器 高台付 杯	RA411床面		7.5	(2.4)			ロクロナ デ					灰緑	
26	246	土師器 杯	RA411カマド	21.1	11.0	(15.7)	ヨコナ デ	ヘラミガ キ	ヘラナ デ	ヨコナ デ	ヘラナ デ			灰白	
62	217	土師器 杯	RA413惣道部	12.5	6.4	4.3	ロクロナ デ			ヘラミガキ、黒色処理			明黄緑		
49	248	土師器 杯	RA413埴土	-	5.6	(3.0)	ロクロナ デ			ヘラミガキ黒色処理			にぶい 黄緑		
389	219	赤褐色 土師器 杯	RA413埴土	14.0	5.0	4.9	ロクロナ デ			ロクロナ デ			黄		
50	250	赤褐色 土師器 杯	RA413埴土	14.0	5.0	4.4	ロクロナ デ			ロクロナ デ			にぶい 黄		
45	251	赤褐色 土師器 杯	RA413埴土	16.0	-	(2.9)	ロクロナ デ			ロクロナ デ			にぶい 黄		
368	252	赤褐色 土師器 杯	RA413水磨 床面	12.2	4.7	(8.9)	ロクロナ デ			ロクロナ デ			淡水色		
38	253	赤褐色 高台付 杯	RA413惣道部	15.3	8.7	5.3	ヘラミガキ、黒色処理			ヘラミガキ、黒色処理					
39	253		RA413⑤												
28	254	赤褐色 高台付 杯	RA4.3カマ ド北縁部	-	7.7	(2.2)			ロクロ ナ デ				ロクロ ナ デ	黄	
53	255	土師器 杯	RA413埴土	13.0	-	(4.2)				ヘラミガキ黒色処理			黄褐色		
30	256	土師器 杯	RA413惣道部	19.5	-	(16.3)	ヨコナ デ	ヘラナ デ		ヨコナ デ	ヘラナ デ			にぶい 赤褐	
461	257	赤褐色 土師器 杯	RA413埴土	23.9	-	(31.0)	ロクロ ナ デ	ヘラケ ズ リ		ロクロナ デ			黄		
387	258	赤褐色 土師器 杯	RA413カマ ド北縁部	20.4	-	(17.2)	ロクロ ナ デ	ヘラケ ズ リ		ロクロ ナ デ	ヘラナ デ			黄	
42	259	赤褐色 土師器 杯	RA413埴土	-	-	-	ロクロナ デ			ロクロナ デ			淡黄緑		
32	260	赤褐色 土師器 杯	RA413カマ ド南縁部	20.3	-	(19.4)	ロクロ ナ デ	ロクロ ナ デ、 ヘラ ケズ リ		ロクロナ デ			にぶい 黄		
36	261	赤褐色 土師器 杯	RA413惣道部	13.0	-	(15.6)	ロクロナ デ			ロクロ ナ デ	カキメ				
444	262	灰褐色 土師器 杯	RA413カマ ド				タキ			タキ			黄灰		
61	263	土師器 杯	RA415南カマ ド	13.6	6.3	5.0	ロクロナ デ			ヘラミガキ、黒色処理			淡黄緑		
60	264	土師器 杯	RA415南カマ ド	15.9	6.0	5.5	ロクロナ デ			ヘラミガキ、黒色処理			明黄緑		
33	265	土師器 杯	RA415南カマ ド	15.9	7.2	4.6	ロクロナ デ			ヘラミガキ、黒色処理					
59	266	土師器 杯	RA415床面	14.1	5.6	4.7	ロクロナ デ			ヘラミガキ、黒色処理			淡黄緑		
34	267	土師器 杯	RA415南カマ ド	14.0	6.6	5.3	ロクロナ デ			ヘラミガキ、黒色処理			にぶい 黄		
46	268	土師器 杯	RA415埴土	-	6.0	(4.5)	ヘラミガキ黒色処理			ヘラミガキ黒色処理			黄		
37	269	赤褐色 土師器 杯	RA415埴土	13.3	6.0	5.8	ロクロナ デ			ロクロナ デ			淡黄		
514	270	赤褐色 土師器 杯	RA415南カマ ド	14.2	5.2	4.8	ロクロナ デ			ロクロナ デ			黄		
411	271	須恵器 杯	RA415南カマ ド	14.3	5.8	5.5	ロクロナ デ			ロクロナ デ			灰白		
446	272	須恵器 杯	RA415床面	14.7	5.7	5.1	ロクロナ デ			ロクロナ デ			黄灰		
449	273	須恵器 杯	RA415埴土	14.4	5.6	4.8	ロクロナ デ			ロクロナ デ			灰白		
462	274	土師器 杯	RA415南カマ ド	13.6	7.8	13.9	ヨコナ デ	ヘラナ デ		ヨコナ デ	ヘラナ デ			にぶい 黄	
31	275	土師器 杯	RA415南カマ ド	19.3	-	15.2	ヨコナ デ	ヘラナ デ、 ケズ リ		ヨコナ デ	ヘラナ デ			にぶい 黄	
35	276	土師器 杯	RA415南カマ ド	15.8	-	(11.7)	ヨコナ デ	ヘラナ デ		ヨコナ デ	ヘラナ デ			にぶい 黄	
48	277	土師器 杯	RA415南カマ ド	17.2	-	(11.7)	ヨコナ デ	ヘラナ デ		ヨコナ デ	ハケメ			にぶい 黄	
47	278	土師器 杯	RA415埴土	12.8	-	13.9	ヨコナ デ	ヘラケ ズ リ		ヨコナ デ	ヘラナ デ			にぶい 黄	
27	279	土師器 杯	RA415埴土	10.0	-	(6.9)	ヨコナ デ			ハケメ			にぶい 黄		

販売 番号	増設 品種	出土位置	法量 (cc)			外周調整			内面調整			色調	その他	
			口径	底径	器高	口縁部	体基	体部下半	口縁部	体部	体部下平			
54	280	小焼き 土師器 須恵器 大甕	RA415床面	12.2	-	(3.6)	ロクロナ デ			ロクロナ デ				
448	281	須恵器 大甕	RA415埋土	12.0	-	(1.2)	ロクロナ デ			ロクロナ デ			暗青灰	
420	282	須恵器 大甕	RA415埋土					タタキ			アチ只		灰	
410	283	須恵器 大甕	RA415南方マ ド						ヘラケズ リ			ナデ	刷灰	
341	284	土師器 環	RA419埋土	14.2	6.0	5.5	ロクロナ デ	ケズリ		ヘラミガキ黒色処理				灰再調整か
346	285	土師器 環	RA419カマ ド		6.4	(2.4)			ロクロナ デ			ヘラミガ キ、黒色 処理	にぶい 色	
345	286	須恵器 環	RA419埋土	15.6	-	(4.7)	ロクロナ デ			ロクロナ デ			灰白	
340	287	土師器 甕	RA419カマ ド	20.0	-	(11.2)	ヨコナ デ	ヘラケズ リ		ヨコナ デ	不衝		黒陶	
473	288	土師器 甕	RA419北原 坂	21.5	10.2	33.4	ヨコナ デ	ヘラケズ リ		ヨコナ デ	ハケメ		橙	
513	289	土師器 甕	RA419埋土	18.2	5.6	28.8	ヨコナ デ	ハケメ		ヨコナ デ	ハケメ	ヘラナ デ	にぶい 黄褐色	
44	290	赤焼き 土師器 大甕	RA419埋土	19.9	-	(5.7)	ロクロナ デ			ロクロナ デ			にぶい 灰	
424	291	須恵器 大甕	RA419カマ ド					タタキ					灰	
417	292	須恵器 環	RA420埋土	14.0	5.2	4.5	ロクロナ デ			ロクロナ デ			灰白	
331	293	赤焼き 土師器 環	RA420床面	13.6	5.8	5.2	ロクロナ デ			ロクロナ デ			橙	
431	294	須恵器 環	RA420埋土	14.4	-	(3.9)	ロクロナ デ			ロクロナ デ			灰	
329	295	赤焼き 土師器 大甕	RA420埋土・床 面	-	7.4	(10.1)	ロクロナ デ	ケズリ			ロクロナ デ		暗赤陶	
40	296	土師器 大甕	RA420カマ ド	12.5	8.3	11.9	ヨコナ デ	ヘラナ デ		ヨコナ デ	ヘラナ デ		にぶい 橙	
397	297	須恵器 大甕	RA420埋土					タタキ			アチ只		灰	
339	298	土師器 環	RA423赤 直	-	7.4	(1.3)			ロクロナ デ			ヘラミガ キ、黒色 処理	橙	
332	299	赤焼き 土師器 環	RA423カマ ド	13.4	5.6	5.0	ロクロナ デ			ロクロナ デ			明赤陶	
409	300	須恵器 大甕	RA423床面					タタキ					黒陶	
338	301	土師器 環	RA424床面	14.8	6.0	5.3	ロクロナ デ	ケズリ		ヘラミガキ、黒色処理			浅黄緑	底再調整
327	302	土師器 環	RA424赤 直	13.6	6.0	5.2	ロクロナ デ			ヘラミガキ、黒色処理			にぶい 橙	
328	303	土師器 環	RA424南 輪部	14.0	6.0	(4.8)	ロクロナ デ			ヘラミガキ、黒色処理			浅黄緑	
304	304	赤焼き 土師器 環	RA424赤 直	16.0	6.0	4.7	ロクロナ デ			ロクロナ デ			浅黄	
337	305	須恵器 環	RA424埋土	14.6	6.0	5.4	ロクロナ デ			ロクロナ デ			灰白	
335	306	須恵器 環	RA424赤 直	14.9	6.4	4.4	ロクロナ デ			ロクロナ デ			灰白	
425	307	須恵器 大甕	RA424赤 直	23.0	-	(6.0)	ロクロナ デ			ロクロナ デ				
428	308	須恵器 大甕	RA424埋土					タタキ			タタキ		にぶい 黄緑	
417	309	須恵器 大甕	RA427埋土		9.4	(6.5)			ヘラケズ リ			ロクロナ デ		
103	310	小焼き 土師器 大甕	RA429埋土	14.0	8.4	6.3	ロクロナ デ			ロクロナ デ			にぶい 橙	
426	311	須恵器 大甕	RA429埋土					タタキ					灰白	
127	312	土師器 環	RA430埋土	14.4	5.8	4.8	ロクロナ デ			ヘラミガキ、黒色処理			にぶい 黄緑	
123	313	土師器 環	RA430南方マ ド	13.9	-	(5.0)	ロクロナ デ			ヘラミガキ黒色処理			黄緑	
112	314	土師器 環	RA430南東 壁	-	7.0	(2.7)			ロクロナ デ			ヘラミガ キ、黒色 処理	にぶい 橙	
126	315	土師器 環	RA430埋土	18.2	-	(5.5)	ロクロナ デ			ヘラミガキ黒色処理			にぶい 黄緑	

板号	番号	建築 設備	出寸位置	法量 (cm)			外面調整			内面調整			色調	その他	
				門径	底保	段高	口縁部	体部	体部下半	口縁部	体部	体部下半			
119	310	赤焼き 土	RA430埋土	14.6	6.6	4.8		ロクロナデ			ロクロナデ			橙	
121	317	赤焼き 土	RA430埋土	13.4	-	(5.5)		ロクロナデ			ロクロナデ			浅黄橙	
118	318	赤焼き 土	RA430南カマ	15.4	5.5	4.9		ロクロナデ			ロクロナデ			黄橙	
128	319	赤焼き 土	RA430埋土・南 カマ下	15.8	3.3	5.3		ロクロナデ			ロクロナデ			橙	
101	330	赤焼き 土	RA430南カマ 下	-	5.6	(4.3)		ロクロナデ			ロクロナデ			にぶい 橙	
100	331	土師器 高台付 土	RA430西カマ 下	13.2	7.8	5.6		ロクロナデ			ヘラミガキ、 黒色処理			浅黄橙	
113	322	土師器 高台付 土	RA430埋土	-	8.8	(4.9)				ロクロナ デ			ヘラミガ キ、黒色 処理		
117	323	赤焼き 土付 土	RA430南カマ 下	-	8.0	(4.1)			ロクロナデ			ロクロナデ		橙	
138	324	土師器 土	RA430埋土	14.5	-	(6.8)		ロクロナ デ	不明		ロクロナ デ	ヘラナ デ			
105	325	土師器 土	RA432.430埋土	18.8	-	(10.4)		ナデ	ヘラズ リ		ナデ	ヘラナ デ			橙
125	326	土師器 土	RA430埋土	18.1	-	(6.7)		ロクロナ デ	ヘラズ リ		ロクロナ デ	ハケメ			浅黄橙
130	327	土師器 土	RA430南カマ 下	12.5	-	(7.1)		ロクロナ デ	ヘラズ リ		ロクロナ デ	ヘラナ デ			明赤橙
133	328	土師器 土	RA430埋土	-	-	-		ロクロナ デ	ハケメ			ヘラナ デ			橙
124	329	土師器 土	RA430南カマ 下	-	-	-			ヘラズ リ			ハケメ			にぶい 赤橙
122	330	赤焼き 土	RA130埋土	13.8	-	(6.6)		ロクロナ デ			ロクロナ デ				
120	331	赤焼き 土	RA430南カマ 下	-	7.7	(5.3)				ロクロナ デ			ロクロナ デ		浅黄橙
131	332	赤焼き 土	RA430埋土	-	-	-		ロクロナ デ	ヘラナ デ ヘラズ リ			ヘラナ デ			にぶい 黄橙
418	333	須恵器 土	RA430埋土	19.2	-	(8.0)		ロクロナ デ	タタキ		ロクロナ デ				灰
419	334	須恵器 土	RA430埋土	19.0	-	(3.8)		ロクロナ デ			ロクロナ デ				灰
427	335	須恵器 土	RA430埋土					ロクロナ デ	タタキ		ロクロナ デ				黄灰
421	336	須恵器 土	RA430埋土	12.0		5.6		ロクロナ デ			ロクロナ デ				灰
422	337	須恵器 土	RA430埋土						タタキ						浅黄
108	338	土師器 土	RA431埋土 上座・壁 北	19.8	8.4	6.8		ロクロナ デ			ヘラミガキ、 黒色土器				底ヘラ切り
106	339	土師器 土	RA431埋土	16.2	-	(5.2)		ロクロナ デ			ヘラミガキ 黒色土器				にぶい 黄橙
451	340	赤焼き 土	RA431埋土 上座	14.4	5.8	4.7		ロクロナ デ			ロクロナ デ				
109	341	赤焼き 土	RA431埋土 上座・ RA432埋土	12.2	3.5	4.7		ロクロナ デ			ロクロナ デ				浅黄橙
104	342	赤焼き 土	RA431埋土 上座	13.0	6.0	4.8		ロクロナ デ			ロクロナ デ				にぶい 橙
110	343	赤焼き 土	RA431埋土 上座・ RA432埋土	14.3	6.2	4.5		ロクロナ デ			ロクロナ デ				灰白
107	344	赤焼き 土	RA431灰化 物付埋土	13.0	5.7	3.4		ロクロナ デ			ロクロナ デ				浅黄橙
404	345	須恵器 土	RA440埋土	12.7	6.4	4.4		ロクロナ デ			ロクロナ デ				オリーブ 灰
407	346	須恵器 土	RA431埋土	14.0	6.0	4.8		ロクロナ デ			ロクロナ デ				色基し
423	347	須恵器 土	RA431埋土	15.6	5.4	5.3		ロクロナ デ			ロクロナ デ				オリーブ 灰
403	348	須恵器 土	RA431埋土	13.1	4.0	4.8		ロクロナ デ			ロクロナ デ				灰
140	349	土師器 土	RA431埋土	18.0		(8.7)		ロクロナ デ	ハケメ		ロクロナ デ	ヘラナ デ			橙
136	350	土師器 土	RA431埋土	-	-	-		ロクロナ デ	不明		ハケメ	ハケメ			にぶい 橙

板番	持号	種類 器種	呂上位置	法量 (cm)			外面調整			内面調整			色調	その他
				口径	底径	器高	I脚部	体部	体部下平	II脚部	体部	体部下平		
134	331	土師器 甕	RA431瓠上	-	-	-	ヨコナテ	ヘラケズリ		ヨコナテ	不明		にぶい 橙	
135	332	赤焼き 土	RA431瓠上	11.7	-	(4.9)	ロクロナテ			ロクロナテ				
139	333	赤焼き 土	RA432瓠上	12.2	6.2	3.5		ロクロナテ			ロクロナテ		灰白	
129	354	赤焼き 土	RA433カマド 取付輪	14.4	5.4	5.1		ロクロナテ			ロクロナテ		橙	
405	355	須恵器 甕	RA433カマド					ヘラケズリ			ロクロナテ		灰	
230	356	赤焼土 甕	RA435瓠上床面	-	7.0	(1.9)		ロクロナテ			ロクロナテ		浅黄橙	
405	357	須恵器 甕	RA435瓠上床面					ヘラケズリ ヘラ ナテ			ヘラナテ		黒	
70	358	土師器 土	RA437瓠上	13.6	6.6	5.4		ロクロナテ			ヘラミガキ、黒色処理		黄橙	
79	359	土師器 土	RA437カマド輪	14.0	6.0	4.0		ロクロナテ			ヘラミガキ、黒色処理		浅黄橙	
223	390	土師器 甕	RA473はRA437 の同径いか	13.8	-	(7.8)	ヨコナテ	ヘラケズリ		ヨコナテ	ハケメ			
65	361	土師器 甕	RA437カマド 輪部	12.9	9.3	15.0	ヨコナテ	ヘラケズリ		ヨコナテ	ハケメ			
74	362	土師器 甕	RA437瓠上	13.5	-	(8.9)	ヨコナテ	ヘラナテ		ヨコナテ	ヘラナテ		にぶい 橙	
75	363	土師器 甕	RA437カマド 取付輪	20.4	-	(15.5)	ヨコナテ	ヘラナテ		ヨコナテ	ヘラナテ			
76	364	土師器 甕	RA437カマド 取付輪	19.4	-	(10.1)	ヨコナテ	ヘラケズリ		ヨコナテ	ヘラナテ		明赤黄	
67	365	土師器 甕	RA437カマド 輪部	19.4	-	(4.3)	ヨコナテ	不明		ヨコナテ	ヘラナテ		浅黄橙	
73	366	土師器 甕	RA437瓠上	18.7	-	(7.1)	ヨコナテ	ヘラナテ		ヨコナテ	ハケメ		にぶい 橙	
64	367	赤焼き 土	RA437カマド 取付輪	26.2	-	(25.8)	ロクロナテ	ヘラケズリ			ロクロナテ		明黄明	
536	368	赤焼き 土	RA440瓠上	13.6	6.0	5.8		ロクロナテ			ロクロナテ		浅黄橙	
389	369	赤焼き 土	RA452瓠上	13.2	-	(5.5)	ロクロナテ			ロクロナテ			黄橙	
384	370	赤焼き 土	RA452瓠上	15.6	5.2	5.6		ロクロナテ			ロクロナテ		橙	
369	371	赤焼き 土	RA452瓠上	-	6.3	(2.5)			ロクロナテ		ロクロナテ		橙	
480	372	土師器 甕	RA452瓠上	-	-	-	不明	不明		ヨコナテ	ハケメ		にぶい 黄橙	
367	373	土師器 小甕	RA452瓠上	10.2	-	(5.1)	ヨコナテ	不整		ヨコナテ	ヘラナテ		にぶい 橙	
368	374	土師器 甕	RA452瓠上	13.0	-	(7.0)	ヨコナテ	ヘラナテ		ヨコナテ	ヘラナテ		浅黄橙	
481	375	須恵器 小甕	RA452カマド 取付輪	14.0	-	6.8	ロクロナテ				ロクロナテ		橙	
218	376	土師器 甕	RA 408 RA 398	12.5	5.0	11.2		ヘラナテ			ヘラナテ		淡橙	
499	377	土師器 高台付 土	RED49瓠上	16.0	8.2	6.0		ロクロナテ			ヘラミガキ、黒色処理		にぶい 橙	
500	378	土師器 甕	RF050前	28.0	-	(7.0)	ハケメ、 ヨコナテ			ヨコナテ	ハケメ		にぶい 橙	
402	379	須恵器 土	RA426瓠上	-	6.0	(3.1)			ロクロナテ		ロクロナテ		灰	
482	380	赤焼き 土	RD637瓠上	15.0	-	(8.1)	ロクロナテ				ロクロナテ		黄橙	
483	381	赤焼き 土	RD644瓠上	13.4	5.4	4.8		ロクロナテ			ロクロナテ		橙	
484	382	赤焼き 土	RA644瓠上	14.8	5.1	4.8		ロクロナテ			ロクロナテ		橙	
485	383	赤焼き 土	RD644瓠上	15.0	5.4	4.2		ロクロナテ			ロクロナテ		浅黄橙	
486	384	赤焼き 土	RD644瓠上	20.1	-	(5.9)	ロクロナテ				ロクロナテ			
487	385	土師器 土	RD806瓠上	13.7	-	(3.4)		ロクロナテ			ヘラミガキ黒色処理		にぶい 黄橙	
488	386	赤焼土	RD806瓠上	13.8	-	(4.7)		ロクロナテ			ロクロナテ		浅黄橙	

板号	番号	種類 仕様	出寸位置	注量 (cm)			外形調整			内装調整			色調	その他
				口径	深径	器高	口縁部	体部	体部下端	口縁部	体部	体部下端		
458	387	上飾器 器環	RD934埋土	10.0	-	(4.3)	ロクロナ デ	ヘラク ズリ		ロクロナ デ	ハケメ		明赤褐	
490	388	上飾器 器環	RD934埋土	14.3	-	(4.7)	ロクロナ デ			ヘラミガ キ	黒色処理			
491	389	赤松高 台付環	RD934埋土	14.2	8.0	5.8	ロクロナ デ			ロクロナ デ			浅黄橙	
195	390	上飾器 器環	RD988埋土	7.7	4.4	2.9	ロクロナ デ	ロクロナ デ	ハケメ	ヘラミガ キ	黒色処理		にぶい 黄橙	
494	391	上飾器 器環	RD988埋土	9.7	-	(3.9)	ロクロナ デ	不明		ヘラミガ キ	黒色処理		浅黄橙	
497	392	上飾器 器環	RD988埋土	15.4	-	4.7		ヘラミガ キ		ヘラミガ キ	黒色処理			
496	393	上飾器 器環	RD988埋土	17.7	-	(3.5)		ヘラミガ キ		ヘラミガ キ	黒色 処理			
498	394	上飾器 器環	RD988埋土	17.0	-	(4.4)	ヘラミガ キ	ヘラミガ キ		ヘラミガ キ	黒色処理		浅黄橙	
492	395	上飾器 器環	RD988埋土	18.8	-	(5.4)	ハケメ、 ロクロナ デ	ハケメ		ロクロナ デ	ハケメ		明褐	
498	396	上飾器 器環	RD1034埋土	17.8	-	(8.1)	ロクロナ デ	ハケメ		ロクロナ デ	ハケメ		明褐灰	
505	397	上飾器 器環	RG45埋土	18.0	-	(10.0)	ロクロナ デ	ハケメ		ロクロナ デ	ハケメ		黄	
511	398	上飾器 器環	RG45埋土	13.6	-	(9.9)	ロクロナ デ	ハケメ		ロクロナ デ	ハケメ		明黄褐	
503	399	上飾器 器環	RG320埋土	7.0	-	(5.2)	ロクロナ デ			ヘラミガ キ	黒色処理		黒褐	
507	400	上飾器 器環	RG320埋土	15.0	4.9	5.4	ロクロナ デ			ヘラミガ キ	黒色処理		にぶい 黄	
510	401	水筒器 器環	RG320埋土	14.2	5.5	(5.7)	ロクロナ デ			ロクロナ デ			にぶい 黄	
504	402	水筒器 器環	RG320埋土	14.5	5.7	4.8	ロクロナ デ			ロクロナ デ			黄	
509	403	上飾器 器環	RG320埋土	13.4	4.8	5.7	ロクロナ デ			ヘラミガ キ	黒色処理		浅黄橙	
395	404	須恵器 器環	RG320埋土	-	5.8	(2.9)			ロクロナ デ		ロクロナ デ		灰白	
394	405	須恵器 器環	RG320埋土	15.2	6.4	5.5	ロクロナ デ			ロクロナ デ			灰白	
401	406	須恵器 器環	RG320埋土	15.8	6.0	5.3	ロクロナ デ			ロクロナ デ			灰白	
508	407	上飾器 高台付環	RG320埋土	-	7.3	(3.7)			ロクロナ デ		ヘラミガ キ	黒色 処理	にぶい 黄	
396	408	須恵器 器環	RG320埋土	14.4	6.0	4.8	ロクロナ デ			ロクロナ デ			灰	
399	409	須恵器 器環	RG320埋土				ロクロナ デ	ヘラク ズリ		ロクロナ デ			黒	
400	110	須恵器 器環	RG320埋土				ロクロナ デ	タタキ		アサ具			にぶい 黄	
398	411	須恵器 器環	RG320埋土	14.7	6.4	5.0	ロクロナ デ			ロクロナ デ			オリ ン グ 灰	
506	412	上飾器 器環	RA444埋土	11.0	6.8	2.5	ヘラミガ キ			ヘラミガ キ			にぶい 黄	大外面に塗 粉
561	520	小宮土 器	RA444埋土					不明		ヘラミガ キ				
365	521	上飾器 器環	RA447埋土	-			ヘラミガ キ			ヘラミガ キ	黒色処理		浅黄橙	
378	522	上飾器 器環	RA460埋土	-	-	(3.8)	不明			不明			にぶい 黄	
175	523	赤松高 台付環	RA401埋土	-										
200	524	上飾器 器環	RA401埋土	-	-	-		ヘラク ズリ		ハケメ			にぶい 黄	
156	525	上飾器 器環	RA408埋土	-	-	-	ロクロナ デ			ヘラミガ キ	黒色 処理		浅黄橙	

陶磁器観察表

番号→掲載番号

収番	番号	器種	出土位置	法 <small>寸</small> (cm)			胎土	釉薬・絵付	制作地	生産年代	その他
				口径	底径	器高					
521	424	磁筒	RG322埋土上位				白	染付	中国	17cか	
520	425	磁筒碗	遺構外一括				白	染付	中国か	16c-	
543A	426	磁筒碗	不明		3.2	(2.1)	灰白	染付	肥前か	18c末~19c	
543B	426	磁筒碗	不明		3.7	(2.5)	灰白	染付			
540	427	磁筒碗	遺構外一括			3.6	(2.2)	灰白	染付	肥前	18c
327	428	磁筒碗	2D区II層	11.3	5.1	6.1	灰白	染付	肥前	18c中~末	
525	429	磁筒碗	RD983埋土	12.4	2.3	6.3	白	染付	不明	19c以降	
334	430	磁筒碗類	2D区		5.7	(6.6)	灰白	染付	不明	近世か	
526	431	磁筒碗類	調査区北側	4.6		(1.3)	白	内面のみ施釉	不明	19c	
515	432	陶器碗	RA412埋土	11.2		(3.1)	灰	白釉・透明釉	不明	近世以降	
528	433	陶器大皿碗	遺構外一括	9.0		(4.4)	灰白	鉄華	瀬戸・美濃	18c代か	
529	434	陶器大皿碗	遺構外一括		4.0	(1.5)	灰白	鉄釉	瀬戸・美濃	18c代	
524	435	陶器碗	RD983埋土		4.2	(2.2)	灰白	黒灰釉	大塚相馬	19c	
530	436	陶器碗	1-D区IV層		3.9	(2.0)	灰白	灰華・鉄釉	大塚相馬	18c	
535	437	陶器碗	2D区		3.1	(1.7)	浅黄緑	黒灰華	大塚相馬	19c	
517	438	陶器碗	RG224・RA237埋土部分		5.1	(1.9)	にぶい焼	炭石華	豊津	16c末か	
538	439	陶器皿	2D区II層	12.4	5.8	3.5	灰	灰華	東北在産	19c	
523	440	陶器碗	RG343埋土			(7.0)	灰				
522	441	陶器碗類	RG343埋土		12.0	(7.6)	明焼灰	鉄華か	不明	近世	
539	442	陶器楕鉢	遺構外一括				にぶい焼				
519	443	陶器楕鉢	6520と接合								
520	443	陶器楕鉢	RG224・RA237埋土部分		16.4	(4.2)	灰	無釉	不明	近世	
516	444	陶器楕鉢	RA130埋土				赤釉				
408	445	陶器楕鉢	表扱								
412	446	陶器楕鉢	RA408埋土								
518	526	陶器碗	RG320埋土				灰	灰釉	不明	18c頃か	
531	527	陶器皿	1-D区IV層				浅黄緑	釉薬不明	不明	近世か	
532	528	陶器鉢類	2C区				灰	白濁した青白色の釉	東北在産	19c	
536	529	陶器蓋か	2D区				灰	灰釉	不明	近代以降	
533	530	陶器器底不明	2D区				灰	黒鉄釉	瀬戸か	18cか	
541	531	陶器十飯	遺構外一括				浅黄緑	銅鉄釉	不明	19c頃	
542	532	磁器皿	遺構外一括				灰白	染付	不明	近代以降	

縄文土器ほか観察表

収番	番号	出土地点	器種	部位	文様の時長・その他	
					時長	その他
502	413	RG320埋土	深鉢	口縁	放射口縁、2個1対の小突起、浅い沈線、縄文RL	
505	414	RG320埋土	小型土器	口縁・底部	跡4、口縁部に穿孔2その内1つは貫通していない	
501	415	RG320埋土	深鉢	口縁	小山形口縁、平行沈線文	
545	416	遺構外一括	深鉢	口縁付近	沈線による曲線文、縄文LR	
564	417	遺構外一括	鉢	口縁	縄文L.L.、内外面に異なる	
456	418	RA399埋土	深鉢	外部	縄文L.R.、419と同一体か	
92	419	RA399埋土	深鉢	底部付近	縄文L.R.、418と同一体か	
547	420	3D IV層	壺か鉢	口縁	口縁部に外側から内側へ穿孔	
547	421	3D IV層	壺か鉢	外部	壺体L.R.、420と同一体か	
547	422	3D IV層	壺か鉢	外部	壺体L.R.、420と同一体か	
546	423	3D IV層	壺か鉢	外部・底部	平行沈線文	

金属製品観察表

仮番	番号	種類	出土位置	金属の種類	計測値 (cm)			重量 (g)	その他
					長さ	幅	厚さ		
3	447	鍔先	RA401埋土	鉄	11.4	12.3		111.6	
2	448	鍔先	RA400埋土	鉄	11.6	1.4	0.6	11.6	
1	449	刀物か	RA400埋土	鉄	8.6	1.7	0.2	7.0	
596	450	刀子	RA408埋土⑤	鉄	5.3	1.2	0.6	6.6	
598	451	刀物か	RA429カマド	鉄	4.7	1.8	0.6	5.2	
589	452	刀物か	RA312カマド	鉄	3.6	1.5	0.5	2.1	
604	453	刀子	埋土	鉄	14.0	1.6	0.4	13.4	
602	454	鍔?	RD823埋土中層	鉄	8.8	1.5	0.5	13.1	
603	455	鍔?	3E区水堀跡	鉄	14.1	3.4		85.9	
587	456	釘か	RA312埋土	鉄	5.4	1.8	1.1	15.5	
590	457	釘	RA400埋土	鉄	2.4	0.9	0.6	1.7	
594	458	釘	RA403埋土⑤	鉄	6.4	1.4	1.0	7.0	頭を潰している
5	459	釘	RA413埋土	鉄	10.6	1.3	1.2	27.3	
6	460	釘か	RA430埋土	鉄	7.2	0.9	0.7	10.1	
599	461	釘	RA448③	鉄	5.8	1.0	0.6	4.8	
605	462	釘	3D区遺構外	鉄	4.6	1.1	0.6	4.6	
606	463	釘	3D区遺構外	鉄	3.9	0.8	0.5	1.8	
595A	464	不明	RA408埋土	鉄	5.6	2.5	2.0	14.9	管状のもの
601	465	金具	RD823埋土中層	鉄	2.7	2.9	1.1	6.4	
4	466	不明	RA401埋土	鉄	4.4	1.0	0.5	2.9	
597	467	透管	RA412埋土	銅	3.6			4.5	
620	468	透管	RG320埋土	銅	6.0	1.4		4.2	
588	583	鉄滓	RA312床面						
591	531	鉄滓	RA400埋土						
592	535	鉄滓	RA401カマド						
593		鉄滓	RA401カマド						小片鉄
600									不両被
595B		釘	RA408埋土	鉄	3.6	0.9	0.6	3.9	不両被

銭貨観察表

仮番	番号	種類	出土位置	直径 (cm)	重さ (g)	金属の種類	製造年代	その他
609A	469	元祐通寶	RD822埋土中層	-	0.6	銅	1086	
609B	470	崇寧通寶	RD822埋土中層	-	0.6	銅	1038	
608	471	不明	RD822埋土中層	-	0.7	銅		中世期の銭貨
610A	472	不明	RD933埋土	2.0	1.2	銅		中世期の銭貨
610B	473	□和□	RD933埋土	-	0.9	銅		中世期の銭貨
611	474	永寧通寶	RD943埋土	2.5	3.1	銅	1408	
618	475	紹聖元寶	D857埋土	2.3	2.5	銅	1094	
615	476	天聖元寶	RG328埋土	2.4	2.2	銅	1023	
617	477	寛永通寶	二拾七番	2.2	1.5	銅	不明	
607	478	寛永通寶	KA422内松瓦葺	2.4	2.5	鉄	1739~	
610C	479	寛永通寶	RD933埋土	2.4	1.4	銅	1636~1659	古寛永
612	480	寛永通寶	RD933埋土上層	2.3	1.4	銅	1697~1781	新寛永
613A	481	寛永通寶	土坑	2.4	3.5	銅	1636~1659	古寛永
613B	482	寛永通寶	土坑	2.5	2.4	銅	1697~1781	新寛永
614	483	寛永通寶	RC242埋土	2.5	3.4	銅	1636~1659	古寛永
618	484	寛永通寶	RG320埋土	2.3	2.1	銅	1697~1781	新寛永
619	485	寛永通寶	調査区東端	2.3	2.3	銅	1636~1659	古寛永

土製品ほか観察表

仮番	番号	種 類	出土位置	計測値 (cm)			重量 (g)	その他
				上幅	下幅	高さ		
560	486	切子ド	RA441埋土	2.3	1.5	1.5	5.8	乳にガラス玉が入っていた
560B	487	瓦	RA441埋土					切子玉と共存
561	488	装飾品	RA459カマド東床西	長さ 2.4	幅 1.0	厚さ 1.0	1.5	側面に貫通していない割突
351	489	土製勾土	RA447埋土	長さ 3.3	幅 1.8	厚さ 0.8	3.9	
555	490	土製勾土	RA447埋土	長さ (3.0)	幅 1.0	厚さ 1.0	3.7	
552	491	装飾品	RA468埋土	長さ (3.9)	幅 1.1	厚さ 0.8	3.6	
553	492	装飾品	RA459カマド東床西	長さ (3.7)	幅 0.8	厚さ 0.8	2.8	
556	493	装飾品	RA459埋土	長さ (3.9)	幅 0.8	厚さ 0.8	3.6	
549	494	円盤状製品	RA408・RG320埋土	2.8	2.7	0.7	6.8	
558	495	十稜紡錘車	RA214床面	3.5	4.9	2.4	46.3	
621	496	十稜紡錘車	RA441埋土	5.1	5.4	2.5	70.1	
559	497	十稜紡錘車	RA441床西	3.7	4.3	3.2	63.1	
560	498	十稜紡錘車	RA441床西	-	-	2.6	41.1	
562	499	十稜紡錘車	RA447埋土	4.2	5.0	2.1	63.0	
563	500	十稜紡錘車	RA458埋土	-	5.4	2.7	45.0	
564	501	十稜紡錘車	RG320埋土	4.7	5.7	3.3	80.0	
622	502	十稜紡錘車	不詳	3.8	5.1	2.6	68.2	

石器・石製品観察表

仮番	番号	出土地点	器 種	計測値 (cm)			重量 (g)	その他	備 考
				長さ	幅	厚さ			
372	503	RG320埋土	不定形石器	4.3	2.8	1.1	12.03	頁岩、奥羽山脈	
370	504	RG320埋土	撿削器	3.4	2.2	0.6	5.42	頁岩、奥羽山脈	
371	505	RG320埋土	楔形石器	2.8	3.1	0.8	9.95	頁岩、奥羽山脈	
573	506	RZ023埋土	不定形石器	4.0	6.3	0.8	16.04	頁岩、奥羽山脈	
576	507	NG320埋土	石製円盤	4.4	4.2	0.7	21.32	砂岩、奥羽山脈	
574	508	RD983埋土	玉	1.1	1.1	0.9	6.81	凝灰岩 (表層)、奥羽山脈	内部不明密度大
583	509	RA408床西	砥石	16.2	10.6	9.6	1065.00	玄武岩、岩手山?	
580	510	RA444埋土	砥石	(12.5)	11.2	8.5	710.00	凝灰岩、奥羽山脈	
577	511	RA400埋土	砥石	(13.0)	(9.2)	(7.4)	720.00	凝灰岩、奥羽山脈	
578	512	RA408床西	砥石	6.7	6.7	2.5	167.90	凝灰岩、奥羽山脈	
575	513	RA400埋土	砥石	6.2	4.7	2.8	68.34	凝灰岩、奥羽山脈	
582	514	RA408床西	石皿	19.5	11.5	8.4	860.00	玄武岩、岩手山?	
581	515	RA443埋土	台石	20.7	19.8	-	2960.00	玄武岩、岩手山?	
584	516	p95埋土	不明	(15.1)	(16.8)	2.7	980.00	安山岩、奥羽山脈	2面に係付着
579	517	RA420カマド	台石	15.6	15.0	7.0	3200.00	安山岩、奥羽山脈	
585	518	RA443埋土	台石	29.2	28.7	7.0	4100.00	玄武岩、岩手山?	
586	519	RA443埋土	台石	33.2	26.8	14.7	7420.00	玄武岩、岩手山?	

V まとめ

出土遺物について

土師器の分類と年代

台太郎遺跡からは、ここ数年継続されている発掘調査によって多数の土師器が出土し、23・26次調査でもその数は掲載点数にして865点に達している。これらの土師器は概ね古墳時代末から奈良時代のもの、平安時代に位置付けられるものに分けられる。本項では、今回の23・26次調査で出土した古墳時代末から奈良時代における土師器の形態分類と大まかな年代観について検討してみた。

本来であれば台太郎遺跡のこれまでの調査成果も網羅して検証すればより大きな成果が見込めるはずであるが、今後も本遺跡の調査が継続される予定であること、報告書も作成途中のものが多いことなどから、ここでは23・26次調査の資料に限定した試案ということにしたい。

(1) 器種の分類

台太郎遺跡の土師器（古墳時代末から奈良時代のもの）は、これまで報告されている事例を参考にして次のように分類した。

器種	特徴
大 環	ロクロは使用されていない。口縁が20cm以上あり、口縁部は外反するものと内湾するものとが見られる。底部は丸底で、底部と体部の境に段（もしくは比線）をもつ。
大 皿	口縁は20cm未満でロクロは使用されていない。底部は丸底のものが目立つが、平突気味及び平底のものもある。口縁部と底部との間に段（或いは浅や浅い比線）を有するものが多く、口縁部は内湾するもの、外反するものが見られる。
高 環	底部は丸底で、口縁部と体部の境に段（或いは浅や浅い比線）を持ち、脚部は残存する個体がなく詳細は不明である。
鉢	口に傾斜するが、口に比べて器高が高い（深い）ものを観とした。口縁部は内湾するものが多い。
長 卵 甕	体部が長卵を呈し、器高は25cm以上になるもの。口縁は体部の最大幅よりも大きい同位位のものが主体をなす。
要 壺	体部が長卵を呈し、器高が25cm未満のもの。口縁は体部の最大幅よりも大きい同位位のものが多数を占める。
球 卵 甕	体部が球形をしており、口縁が体部の最大幅よりも明らかに小さいものを原則とする。
小型手捏ね土器	器高が15cmに満たない土器を一括した。底径より口径が大きい筒状のものが多い。
扁平長頸土器	粗末なつくりの筒形の土師器で土から見ることから横から潰したように扁平をしている。

(2) 古墳時代末から奈良時代の土師器の細分

① はじめに

今回の23・26次調査では、この時期に属する69棟の住居跡が検出され住居跡の重複は認められないものの、配置関係からみて数期にわたり複数の集落が営まれていたと考えられる。出土した土師器もこれに対応して、若干異なる特徴をもつものがみられる。このことから、該期の住居跡及び出土した土師器は、何時期かの段階に分けることができるのではないかという印象を持つに至った。以下、出土した土師器の形態分類と他遺跡の類例との比較、従来の編年などから本遺跡の土師器についての大凡の位置付けをしたい。

② 各器種の細分

実際に細分化を行った器種は、大型環・小型環・長卵甕・壺・球卵甕で、他の器種は個体数が少ないことと、口縁から底部まで復元できた資料が少ないことなどから細分を見合わせた。

細分に当たっては、これまで報告されている事例を意識しながら器形の特徴を基本とした。各器種毎に分類表を作成しその中に分類基準を示した。

<環大型分類表>

器 種	底部の形状	□縁部から底部にかけての段		□縁部の形状	□縁部の幅	分 類	遺 物 番 号	
		I 内外面とも有段	II 外面のみ有段				括弧なしは23次、括弧は26次	
環大型	M 丸底	I 内外面とも有段		A 外 反		M I A	5	
		II 外面のみ有段		B 内 湾		M II B	116・376・(19・73)	

<環小型分類表>

器 種	底部の形状	□縁部から底部にかけての段		□縁部の形状	□縁部の幅	分 類	遺 物 番 号		
		I 内外面とも有段	II 外面のみ有段				括弧なしは23次、括弧は26次		
環小型	M 丸底	I 内外面とも有段		A 外 反	1 幅広い	M I A 1			
					2 幅広い	M I A 2	76・(21・68)		
				B 内 湾	1 幅広い	M I B 1	6・142・169・192・(27・70)		
					2 幅広い	M I B 2	(46)		
				A 外 反	1 幅広い	M II A 1	1		
					2 幅広い	M II A 2	75		
		II 外面のみ有段		B 内 湾	1 幅広い	M II B 1	42・43・49・61・93・117・118・119・120・135・141・146・147・158・159・160・167・380・(31・32・41・48・54・67・69・101・107)		
					2 幅広い	M II B 2	33・51・377・378・379・(45・47・71)		
				A 外 反	1 幅広い	M III A 1		Ⅲ A : 136・191	
					2 幅広い	M III A 2			
				B 内 湾	1 幅広い	M III B 1	36・41	Ⅲ B : 30・77・381	
					2 幅広い	M III B 2	90・91・92・(26)		
	II 平底	I 内外面とも有段		A 外 反	1 幅広い	H I A 1	50		
					2 幅広い	H I A 2			
				B 内 湾	1 幅広い	H I B 1	169・179		
					2 幅広い	H I B 2			
				A 外 反	1 幅広い	H II A 1			
					2 幅広い	H II A 2	79		
		II 外面のみ有段		B 内 湾	1 幅広い	H II B 1	108・112・161・178・(7・34・59)		
					2 幅広い	H II B 2			
				A 外 反	1 幅広い	H III A 1		Ⅲ A : 70・127	
					2 幅広い	H III A 2	78・80		
				B 内 湾	1 幅広い	H III B 1	34・(8・33・66・90・91・100)	Ⅲ B : 69・180	
					2 幅広い	H III B 2	37・(92)		

分類表の補足をした。□縁部から底部にかけての段については明らかに段を有するもの他に、沈線に近いものも含めた。なお時代が下るに従い段は不明瞭になり、単に沈線を巡らすだけの個体が目立ち、ついには無段化するといった従来の考え方は年代限を検討する際にも意識した。□縁部の形状については外反するものの中に内傾するものを含め、内湾と分類した中に内傾及び直立気味の個体を含めた。

<長胴壺・壺分類表>

器種	体部最大径の位置	底部の形状	口唇部の形状		分類	遺物番号	
			括弧なしは23次、括弧は26次			括弧なしは23次、括弧は26次	
長胴	Ⅰ 体部上半	A 短く直立	1 平直	ⅠA1	14・32・133・150	Ⅰ1: 2・3・9・31・56・63・65・73・84・98・131・132・134・143・153・165・174・183・185・(24・42・51・55・56・60・61・78・79・80・93・102・103)	
			2 丸味	ⅠA2	64・122・152・(94)		
		B 外に張り出す	1 平直	ⅠB1	149・(39・40・41)		
			2 丸味	ⅠB2	72・96・151・187・188・(95)		
		C その他	1 平坦	ⅠC1	24・173・(82)		
			2 丸味	ⅠC2	20・83・111・139・164・(83・89)		
	Ⅱ 体部下半	A 短く直立	1 平直	ⅡA1	(1)	Ⅱ1: 13・58	
			2 丸味	ⅡA2			
		B 外に張り出す	1 平直	ⅡB1	59・(81)		
			2 丸味	ⅡB2			
C その他	1 平坦	ⅡC1	67	Ⅱ2: 45・66・171・181・190			
	2 丸味	ⅡC2					

体部最大径の位置に関しては所謂胴部下膨れの寛を意識したもので、下膨れの寛をⅡ類とし、そうでないものをⅠ類に分類した。底部の形状とは体部下端から底部にかけての形状を意味する。口唇部の形状については平坦と分類した中に角状あるいは沈線状に窪むものも含め、そういった特徴のあまりみられない個体を丸味と分類した。口縁部付近に複数の段（若しくは沈線）をもつ壺はここで言うⅠ類に施される。

<球胴壺分類表>

器種	体部最大径の位置	口唇部の形状		分類	遺物番号	
		括弧なしは23次、括弧は26次			括弧なしは23次、括弧は26次	
球胴壺	Ⅰ 上半から中央	A 平坦	1 大	ⅠA1	4・110・115・(85)	
			2 小	ⅠA2	(112)	
		B 丸味	1 大	ⅠB1	48・74・86・104・156・157・383・389・(54)	
			2 小	ⅠB2	68・103・123	
	Ⅱ 下半	A 平坦	1 大	ⅡA1		Ⅱ: 96・97
			2 小	ⅡA2		
B 丸味	1 大	ⅡB1	12・16・17			
	2 小	ⅡB2	105			

③ 細分した土師器の各遺構における共存状況

分類した土師器の共存状況を、各遺構別に一覧表にまとめた（次ページ）。本来であれば口縁部から底部まで復元できた個体を用いるべきであるが、そうすると検討資料が少なくなってしまうため、各部位の特徴を掴めるものは可能な限り表に加えて作成している。以下この一覧表をもとに台太郎遺跡出土土師器の出土状況について整理したい。

まず、各遺構内での細分した各器種の共存状況と各器種のうち何類かが一緒に出土している例がある。その場合は、その出土点数が多い遺構に於いては、何類かの別形態を呈するものが共にみられることが多く、一つの形態で構成される例は少ない。

因みに細分した各器種のうち、複数の遺構から出土するものには23次調査が16類、26次調査では11類ある。同一分類（似たような特徴）の土師器を出土する遺構間には、互いに時期的な関係があると思われる。

その一方で、全体的な出土量とともに、出土する遺構も多い細分各器種、例えば坏小型のMⅡB1類（丸底で外面に段があり、口縁部は内湾して幅が広い坏）のようなものは、台太郎遺跡（この地域）の代表的、普遍的器形で時期幅も広いと解釈することもできると思われる。こうしたことを踏まえ、一覧表をもとに各遺構の土師器の共存状況を全体的に検証し類型化を行うと次のようになる。

区分	類型化する際の基準・特徴など		遺構名
	坏 型	変 類	
I	坏大型をもつ。坏小型は丸底で口縁と底部の境に段をもつ（MⅠA2・MⅠB1・MⅠA1・MⅠA2・MⅡB1・MⅡB2）	詳細不明だが各器種は平坦なものが多い。	RA203、239、409、447、R038
Ⅱ	坏小型は丸底で口縁部と底部の境に段をもつものによって構成される（MⅠA2・MⅠB1・MⅠA1・MⅠA2・MⅡB1・MⅡB2）	底部最大径の位置が体部上半のものと同体部下半のものがみられる。底部は径が小さく形状は短く直立したり、外に張り出すものが多い。	RA201、204、206、207、211、225、230、234、235、241、247、273、275、279、410、417、439、444、457、460
Ⅲ	坏小型は丸底のものと同径のもののみみられる。（MⅠB1・H類）	口縁部は丸味をもつものが多いが全身を把握できる種の資料はなく詳細は不明である。	RA209、219、277、441
Ⅳ	坏小型は平底のものが主体となる。口縁部から底部にかけての境は不明瞭になる。（HⅢ類）	底部最大径の位置が体部上半にあるもので構成されるが資料が少ないため詳細は不明である。	RA231、233、236、240、404、445、451、456

類型化する基準の第一は坏型を対象として行った。坏大型の有無と坏小型の底部形状や口縁部と底部の境にある段に着目し、その結果Ⅰ～Ⅳの4つに区分された。次に坏型による類型化を前提として、Ⅰ～Ⅳの区分に共存する変類について検証してみたが、区分別に形態分類が異なるといった傾向を示すには至らなかった。そのため単に共存する変類の特徴を抽出するだけに留めた。強いて挙げるならば、所謂下彫れの變はⅢ・Ⅳには殆どみられなくなること、また分類の基準には用いなかったが、口縁部の段（段及び沈線）が噴数施される變はⅠ・Ⅱに多く、Ⅲ・Ⅳには少なくなるといった傾向がみられるようである。

④ 類型した土師器群の年代観

ところでこうした細分及び類型化は、古墳時代末～奈良時代の土師器変遷と密接な関係にあると思われる。本県における当該期の編年には近年では八木1992があり、東北地方北部でみれば字部1989・2000があるので、次にこれらを参考にして類型土師器群の時間的関係について考えたい。

I類型の土師器群は、坏大型をもち、坏は丸底で底部と口縁部の境に段を有するもので構成される。RA203・239・409・447住居跡、RE038竪穴状遺構の土師器群を位置付けた。八木編年のA～B群・字部編年のⅠ～Ⅱ群及びⅠ～2段階に相当すると思われる。具体的にはRA203出土の坏大型5は滝沢村高柳遺跡（Dh63住居跡2）・八戸市根城SⅠ111住居の資料・八戸市丹後谷地遺跡の資料と類似していると思われる。RE038出土の坏大型376は上田面遺跡（C06住）・八戸市田面水平遺跡（59号竪穴住居跡2）などの土師器に類似しているという印象を持つが、時期は7世紀代と広く捉えるに留めておきたい。本稿では大型坏の有無に着目して分類してみたが、本県では8世紀代にも大型の坏は存在するようで坏大型があるからといって安易に7世紀代と考えるのは問題があるかもしれない。宮城県南部などでは7世紀中頃以降には大型の坏は見られなくなるようだが、時期が下っても見られるのは器種構成の面での特徴といえるかもしれない。

Ⅱ類型の土師器群とは、坏は丸底で底部と口縁部の境に段を有するものによって構成され、I類型のように坏大型や、Ⅲ・Ⅳ類型のように平底の坏を伴わない。八木編年のC群・字部編年のⅡ～Ⅲ群及び3段階を中心にした時期と思われる。ここで西氏の編年とは別に年代観を想定したものを次に示しておきたい。RA279住居跡からは本遺跡では珍しく土師器と共存して須恵器の高台付坏193が出土している。これは宮城県函谷町長根産の須恵器に酷似しており、仮に193が長根産産の製品であるとすれば、RA279の土師器群は8世紀初頭が上限と考えられる。以上のことを踏まえてⅡ類型の土師器群については8世紀前半を主体としつつ、

8世紀初頭から中葉の範囲で捉えたい。それからR A244住居跡出土の坏135、R A273住居跡出土の坏146、R A442住居跡出土の坏49、R A444住居跡出土の坏54には何れも底面に「×」と線刻されている。この「×」線刻はI類型に位置付けたR E038竪穴状遺構出土の坏377・379やR A239住居跡出土の坏117にも見られ、互いに密接な関係にあると考えられる。このことからR A244・273・442・444住居跡出土土器群に関してはI類型としたR E038竪穴状遺構やR A239住居跡から変遷していると推測し、8世紀代でも古いほうに位置付けたい。次にR A235住居跡に於いて他の坏とは雰囲気が違う土師器坏90・91・92が出土している。やや小ぶりで内面黒色処理はなされず、口縁部付近はヨコナデ調整としている。一様に赤っぽい焼き上がり意識し、加えて内外面を赤色塗彩している。一見して他の坏との区別がつくこれらの坏についてはその位置付けに苦慮している。共伴した坏93を見ると底部は平底気味であり、外面の段も簡略化されてきている。Ⅲ・Ⅳ類型に含めた方が適当であったかもしれない。赤色塗彩は球胴壺に見られるものが多く、本遺跡のように坏に施されるのは極めて珍しい事例である。当初は宮城県などで事例の多い関東系の土師器を模したものだと思っただけで、違うようである。

Ⅲ・Ⅳ類型の土器群は、坏の底部が丸底と平底になるものと、平底となる坏が多くなる段階とで構成される。八木編年のⅠ・Ⅱ群、宇部編年Ⅳ群に対応し、時期は8世紀後葉から末葉にあたる。これまでの事例から8世紀の土師器坏には新しくなるにつれて小型化、境界の無段化、平底化の傾向が指摘されている。こうした考えに則ってⅢ類型を8世紀後葉、Ⅳ類型を8世紀末葉に位置付けたい。R A234住居跡川土土師器の中には坏がなかったため时期的位置付けには自信がない。一応、83長胴壺がR A235住居跡出土の長胴壺95に類似すること、R A235住居跡ではカマドの作り替えが行われており、住居として機能していた時期が長いのではないかと考え共に8世紀中葉から後葉の段階としたい。

宇部2000では馬淵川流域在土器（7～8世紀前半）のあり方として、坏は九底で外面に段をもつものがあるが、人別して口縁部が内湾する坏と外傾する坏の2系統が存在し、同じく壺には胴部上下が膨らみ、底部が強く突き出る壺と胴部下半が膨らむ壺が認められるとしている。そして後者は共に東北南部の系統、前者は何れも在地的なものとして位置付けている。そしてこの在地的な壺の口縁部には簡歯文・横走沈線文・多条沈線文を施すものがあると指摘している。本遺跡でも23次調査で、壺2・3・8・24・31・62・65・111・131・139・143・149・152・153、球胴壺4・12・48・68・104・105、坏147に、26次調査では、壺50・78・82・102・103、球胴壺29・38、加えて坏54・67などには横走沈線文・多条沈線文が認められ、何れも宇部氏のいう在地的な土師器に施されていた。また東北南部の系統としている土器に相当するものとして、例えば23次調査の坏類では、壺類には16・67・171などが出土している。本遺跡の今回の調査で見られる限りは、在地的な土器の中に馬淵川流域系統の土器が見られ、東北南部の系統の土器が散見され、その多くは在地的土器と一緒に川土するといった傾向にあるようである。

⑤ 小結

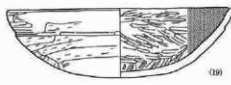
以上のように、ここで扱った台太郎遺跡23・26次調査で出土した土師器の年代については、上限を7世紀代、下限を8世紀末と一応考えている。しかし、各時期の年代観については、I類型を7世紀代、II類型は8世紀前半を主体とし8世紀初頭から中葉を含む、III類型を8世紀後葉、IV類型を8世紀末葉と位置付けたものの、数少ない資料の検証に立脚しているため甚だ大雑把な括りとなっている。土師器の形態分類だけでは不十分な感を持っており、須臾器と共伴する事例が今後増加すれば7・8世紀の土器様相もより明確になるであろう。現時点では7世紀代～8世紀末の集落跡で、その时期的中心は8世紀前半頃とすることができるといった印象を持つ。類似資料の増加を待ち、本遺跡の中で見られる在地的な土器の特徴をより具体的に示

し、馬淵川流域の土器や東北部系統の土器とのあり方について再度検討する必要がある。

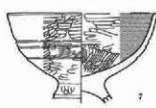
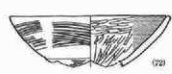
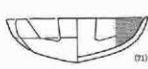
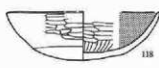
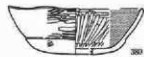
9世紀初頭には本遺跡から西に約2kmの地点に古代城柵志波城が築かれる。土器様相も大きな画期を迎えるこの段階の遺構・遺物が広大な面積を調査しているにもかかわらず本遺跡では見られない。9世紀中葉～10世紀代の遺構・遺物は多数検出されている中で本遺跡でも集落のあり方にも大きな変容が想定されるのである。7世紀代から8世紀末まで継続的に営まれていた集落が9世紀初頭には一旦何処かへ移り、志波城が廃絶して暫く後、再びこの地に集落が展開していくようにみえる。そしてまた、台太郎遺跡周辺にも後期の集落は多く分布するようになる。本遺跡の周辺で9世紀初頭頃の遺跡としては、西隣にあたる飯岡沢田遺跡があげられる。遺跡の詳細な内容については調査継続中の遺跡でもあり見解が異なるかもしれないが、単なる集落ではなく群集墳も多数検出されており、墓域と日常生活の場とが分けられないような遺構分布をしている。恐らくは近隣集落（台太郎遺跡ほか）の有力者が飯岡沢田遺跡や飯岡才川遺跡などに埋葬されていたものと推察される。今後も本遺跡の発掘調査は予定されており9世紀以降の土器様相についてもまとめる必要がある。

台太郎遺跡では近年、当センターと笠岡市教育委員会とにより大規模な発掘調査が継続されており遺跡のほぼ全域が調査される予定になっている。将来的には遺跡の全容が明らかになるはずである。23・26次調査は遺跡の南半部を主な対象としており、広範囲に渡り調査したため遺跡中央より南半部の様相はかなり明らかになってきた。調査区の南端部からは湿地が検出されこれが遺跡としての南端部でもあると考えることができそうである。本遺跡では古墳時代末から平安時代の聚住住居跡は400棟以上が確認され古代志波郡でも有数な大規模な集落であったことが判明した。中世に於いては墓塚が密集して330基検出された。これは一般農民の墓域であると考えられ、13世紀後半から15世紀頃まで営まれていたようである。墓地に隣接して2重に巡る方形の堀に囲まれた御堂のような施設も確認された他、周辺には何か所か厨屋敷跡が存在し、村落を構成していることも把握できた。そして遺跡中央部には環濠を巡らせた地元有力者の屋敷跡と見られる遺構も確認されており、中世の村落様相についても良好な資料が得られた。これら検出された遺構群のまとめについては23次調査の報告書に記載している。

I期土器群 (1)



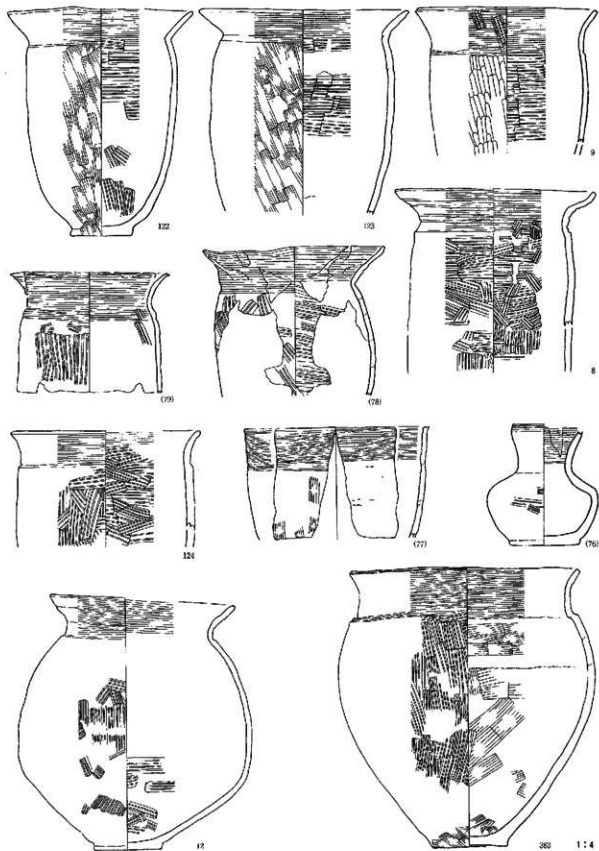
I期は大形の杯を伴う。小型の杯は内外面に段を持つものと外面にのみ段を持つものがある。



1:4

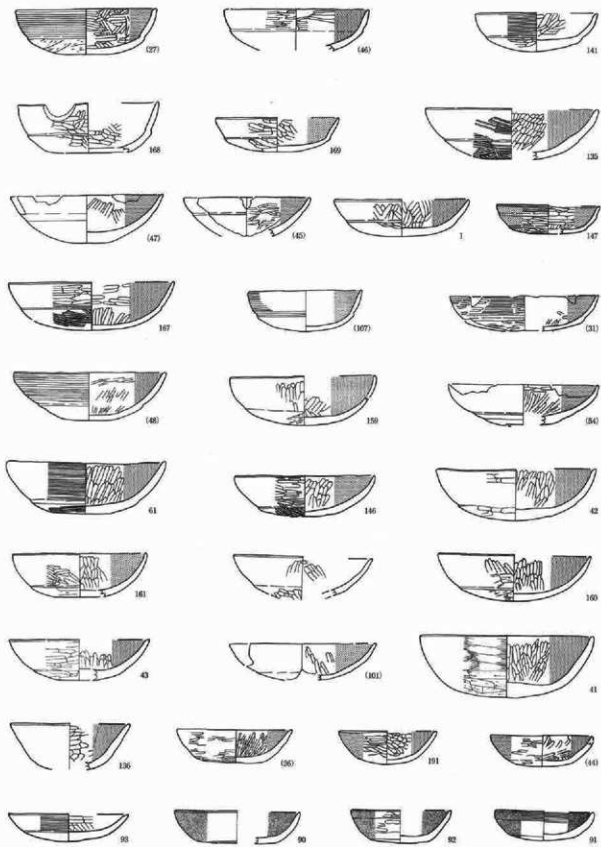
第202図 出土土器集成図1

I期土器群(2)



第203圖 出土土器集成圖2

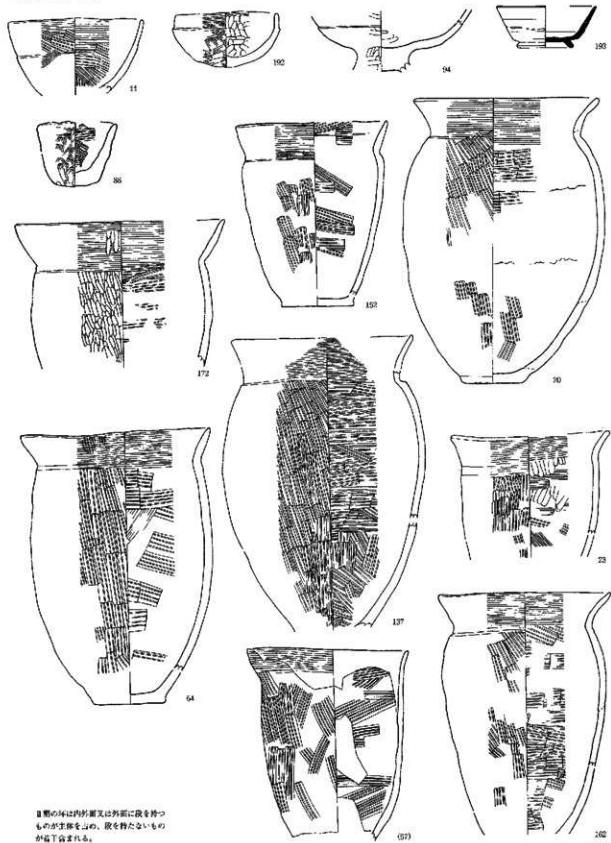
II期土器群 (1)



第204图 出土土器集成图 3

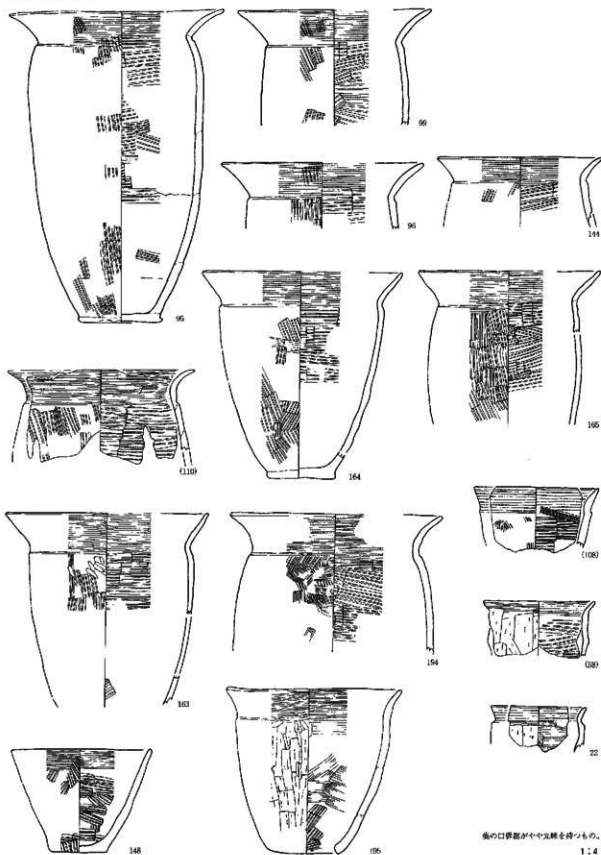
1:4

Ⅱ期土器群（2）



第205図 出土土器集成図4

II期土器群 (3)

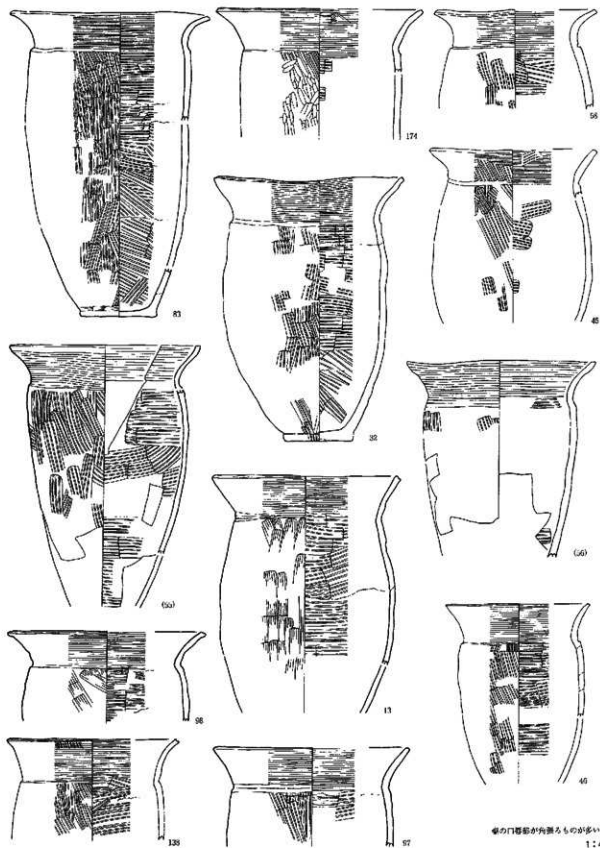


袋の口縁部がやや丸味を持つもの。

1:4

第206図 出土土器集成図5

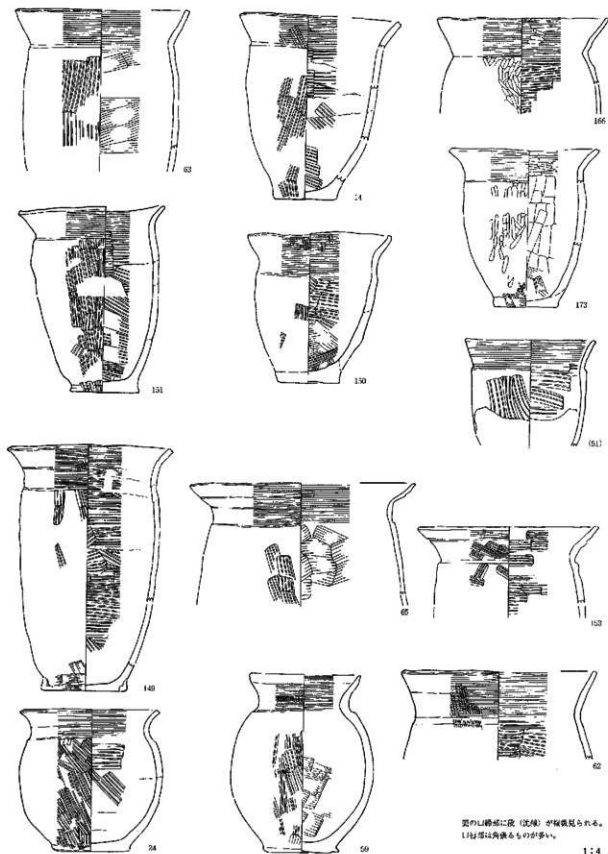
II期土器群(4)



※の門番部が内側入りのが多い。
1:4

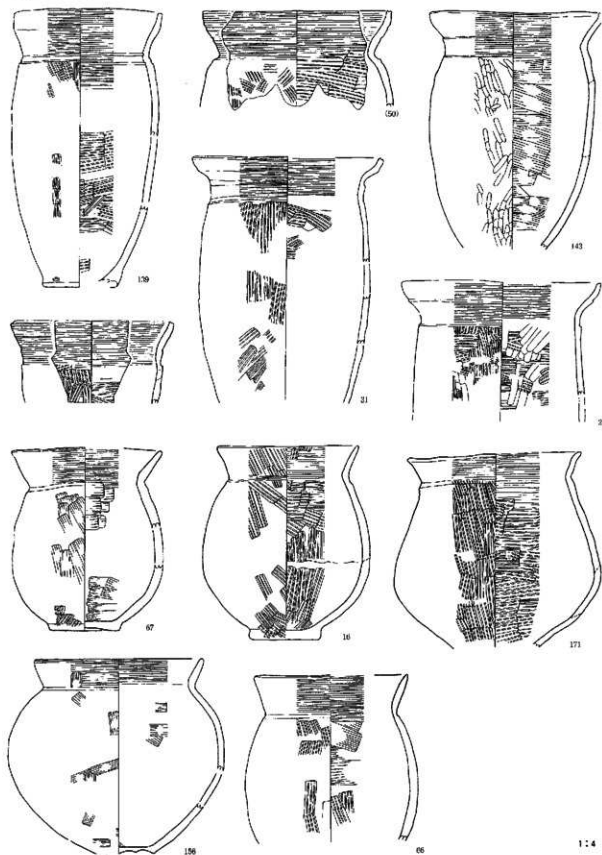
第207図 出土土器集成図6

Ⅱ期土器群 (5)



第208図 出土土器集成図7

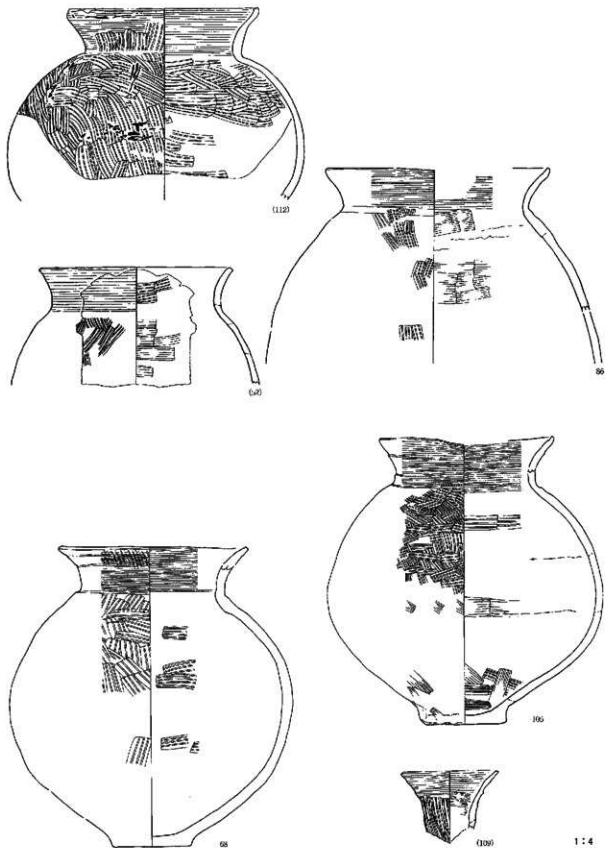
II期土器群(6)



第209图 出土土器集成图8

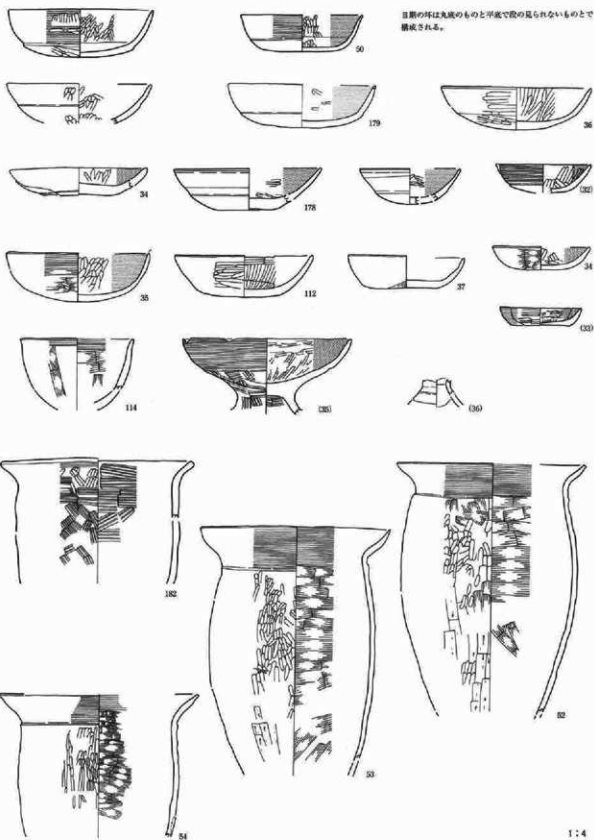
1:4

II期土器群 (7)



第210圖 出土土師器集成圖9

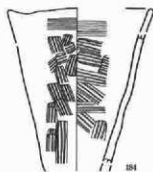
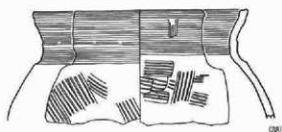
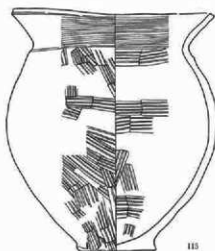
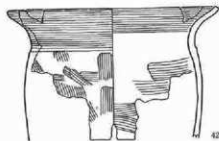
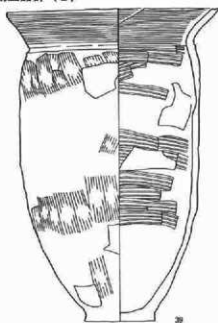
Ⅲ期土器群 (1)



第211図 出土土師器集成図10

1:4

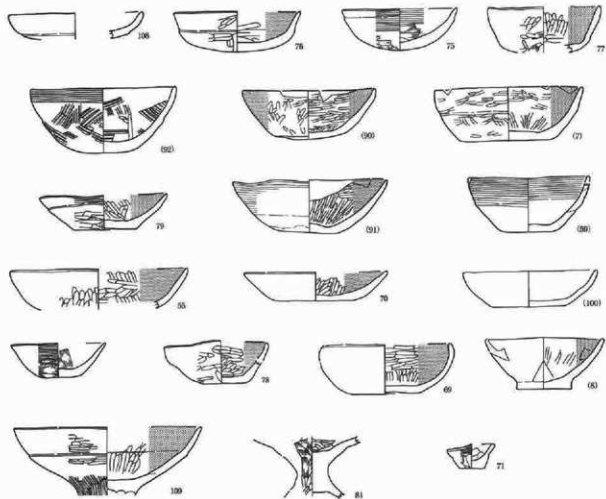
III期土器群 (2)



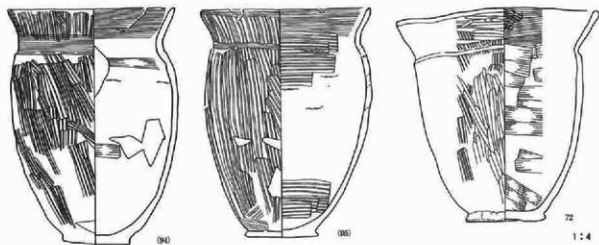
第212圖 出土土器集成圖11

1:4

IV期土器群 (1)



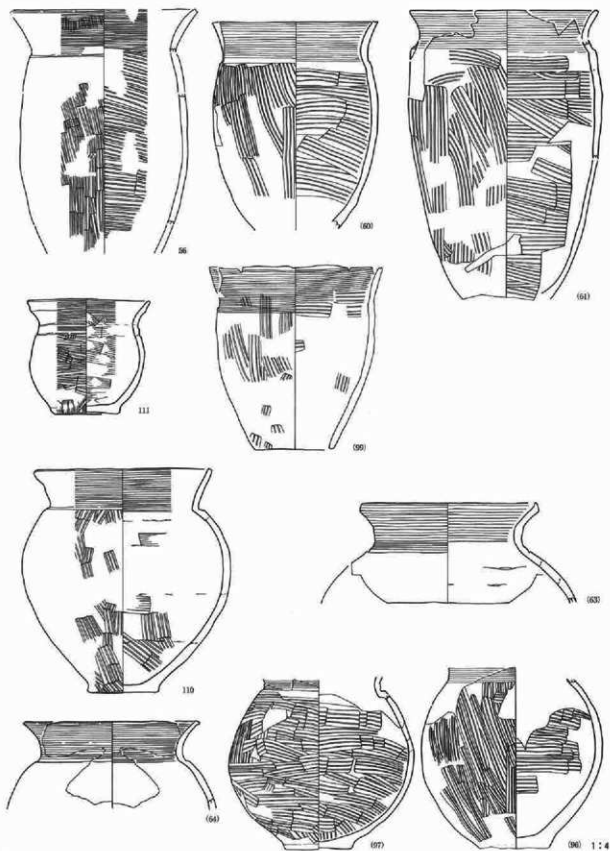
IV期は杯の平底化・無段化がより顕著になる段階。



第213図 出土土師器集成図12

1:4

IV期土器群 (2)



第214图 出土土器集成图13

引用・参考文献

- 井上喜久男 1992 『地張海磁』 ニュー・サイエンス社
 宇部 順保 1989 『青森県における7・8世紀の上層部—馬淵川下流域を中心として』 北海道考古学第25
 字部 順保 2000 『古代東北地方北部の沈黙のある土器器』 考古学ジャーナル462
 大橋 康二 1993 『肥前陶磁』 考古学ライブラリー55 ニュー・サイエンス社
 京岡 俊一 昭和40年 『若手県福岡岡 瀬野遺跡』 福岡町教育委員会
 工藤 愛樹 平成10年 『古代蝦夷の考古学』 吉川弘文館
 笠生 衛 平成7年 『東国における中世墓地の諸相』 研究紀要16 財団法人工業界文化財センター
 水井久夫男 1994 『中世の出土銭—出土銭の調査と分類— 兵庫埋蔵財調査会
 村田 晃一 2000 『宮城県における8世紀前後の上層部』 第3回東北古代土器研究会(宮城大会)資料
 一戸町教育委員会 1982 『一戸バイパス関係埋蔵文化財報告書Ⅱ』 一戸町文化財調査報告書第2集
 一戸町教育委員会 1999 『結帯城跡』 一戸町文化財調査報告書第41集
 磐田市教育委員会 1993 『一の谷中世墳墓群遺跡』 本文編
 若手県教育委員会 1980 『東北縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告書Ⅲ』 若手県文化財調査報告書第52集
 若手県教育委員会 1980 『東北縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告書Ⅳ』 若手県文化財調査報告書第53集
 若手県文化財愛護協議会 昭和49年 『内史略(1)~(4)』 若手史叢 第3巻
 (財)若手県埋文センター 昭和52・53・54年度 『二戸バイパス関連 上田面・大洞・火行塚遺跡』 若手県埋文センター文化財調査報告書第23集
 (財)若手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1983 『龍山遺跡第2次発掘調査報告書』 若手県埋文センター文化財調査報告書第65集
 (財)若手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1986 『本神遺跡発掘調査報告書』 若手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第96集
 (財)若手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1999 『台人部遺跡第15次調査発掘調査報告書』 若手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第309集
 (財)若手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2001 『台人部遺跡第18次調査発掘調査報告書』 若手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第369集
 金ヶ崎町教育委員会 1990 『柏山館跡遺跡』 金ヶ崎町文化財報告書第18集
 古代城郭官衙遺跡検討会 1992 『古代新渡部と副藤体の土器様相』 第18回古代城郭官衙遺跡検討会資料
 古代城郭官衙遺跡検討会 1998 『東北地方の古代集落』 第24回古代城郭官衙遺跡検討会資料
 古代の上層部研究会第4回シンポジウム 1996 『古代の土器研究—律令土器様式の西・東4 煮炊具—』 古代の土器研究会
 古代の上層部研究会第5回シンポジウム 1997 『古代の土器研究—律令土器様式の西・東5 7世紀の土器—』 古代の土器研究会
 (財)瀬戸市埋蔵文化財センター 2001 『戦国・織豊期の陶磁器流通と瀬戸・美濃大窯製品』 (財)瀬戸市埋蔵文化財センター設立10周年記念シンポジウム・講演会資料集
 仙台市教育委員会 昭和57年 『築遺跡』 仙台市文化財調査報告書第43集
 仙台市教育委員会 1998 『柳井台遺跡』 仙台市文化財調査報告書第230集
 大東町教育委員会 1984 『伊勢館—昭和57年度伊勢館遺跡発掘調査報告書』 大東町文化財調査報告書第8集
 滝沢村教育委員会 昭和62年 『跡部川遺跡』 滝沢村文化財調査報告書第4集
 滝沢村教育委員会 昭和62年 『高柳遺跡』 若手県滝沢村文化財調査報告書第7集
 滝沢村教育委員会 平成元年 『高柳遺跡 幸小路Ⅱ遺跡』 若手県滝沢村文化財調査報告書第9集
 東北中世考古学会 平成11年 『東北地方の中世出土貨幣』 東北中世考古学会第5回研修会資料集
 郡南村教育委員会 1979 『若手県紫波郡郡南村 百木土遺跡発掘調査報告書』
 郡南村教育委員会 1981 『西渡流遺跡発掘調査報告書』
 郡立学校発掘調査会 1990 『白障』
 南都農書刊行会 昭和三・四年 『南都農書』 第2・5冊
 日本考古学協会 1997年度秋田大会 『蝦夷・律令国家・日本海—シンポジウムⅡ—資料集— 日本考古学協会 1997年度秋田大会実行委員会
 日本貿易陶磁研究会 1998 『貿易陶磁研究 No1-5』 六一書房
 八戸市教育委員会 昭和63年 『田面木平遺跡(1) 八戸新都市区域内埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅴ』 八戸市埋蔵文化財調査報告書第20集
 八戸市教育委員会 平成元年 『八戸新都市区域内埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅵ 田面木平(1)遺跡』 八戸市埋蔵文化財調査報告書第34集
 八戸市教育委員会 平成2年 『丹後平古墳 八戸新都市区域内埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅹ』 八戸市埋蔵文化財調査報告書第44集
 八戸市教育委員会 平成7年 『丹後半平(1)遺跡 丹後半古墳 八戸新都市区域内埋蔵文化財発掘調査報告書ⅩⅡ(1) 八戸市埋蔵文化財調査報告書第66集
 盛岡市 平成2年 『もりおかの地名』
 盛岡市 昭和54年 『盛岡古史 近世期上』 復刻版第二巻
 盛岡市教育委員会 1981 『志波城跡Ⅰ 太川方Ⅷ遺跡範囲確認調査報告』
 盛岡市教育委員会 2000 『竹鼻遺跡』 『盛岡市内遺跡群』 盛岡市教育委員会—昭和36・38年『若手県史 第三巻 中世篇下』・『若手県史 第5巻 近世篇2』

写 真 图 版



道跡全景



道跡全景

写真図版1 道跡全景



写真図版2 遺跡近景 2-D他（上が西）



写真図版3 遺跡近景 4-C~5-B (上が北)



写真図版 4 遺跡近景 2D~4B (上が西)



道路全景



道路全景

写真図版 5 遺跡全景



RA210 竪穴住居跡 平面



断面 (北から)



カマド断面 (西から)

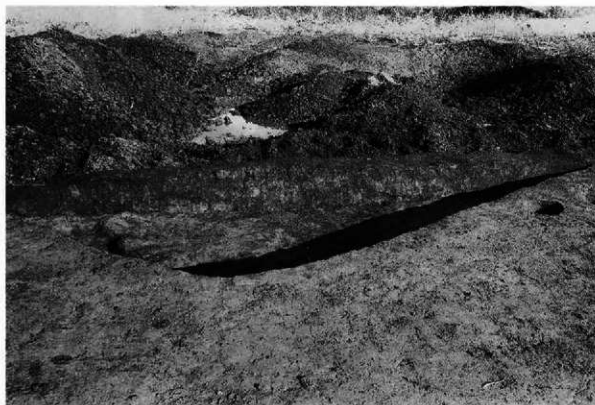


遺物出土状況

写真図版 6 RA210 竪穴住居跡



RA234 壁穴住居跡 平面

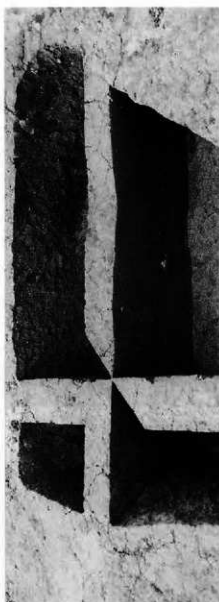


断面（西から）

写真図版7 RA234 壁穴住居跡



RA237 雙穴住居跡 平面



断面 (南から)



断面 (東から)

写真図版 8 RA237 雙穴住居跡



RA402 竪穴住居跡 平面



断面 (南から)

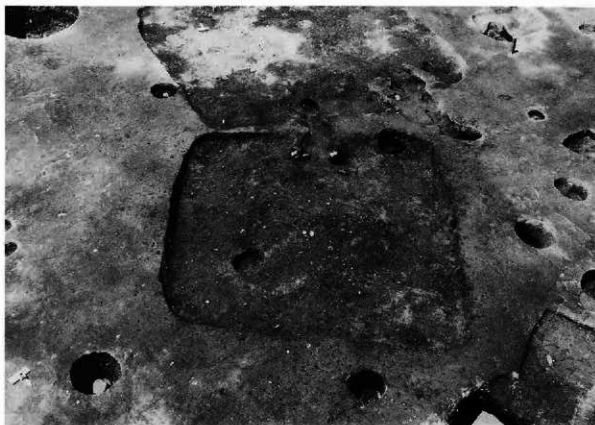


カマド断面 (南東から)



遺物出土状況

写真図版 9 RA402 竪穴住居跡



RA404 竪穴住居跡 平面



断面 (南から)



カマド平面



カマド断面 (南から)

写真図版10 RA404 竪穴住居跡



RA405 竪穴住居跡 平面



断面 (南から)



カマド断面 (南から)

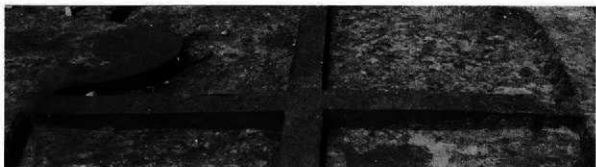


カマド断面 (東から)

写真図版11 RA405 竪穴住居跡



RA407 竪穴住居跡 平面



断面 (西から)



カマド平面



カマド断面 (西から)

写真図版12 RA407 竪穴住居跡



RA409 竪穴住居跡 平面



断面 (南から)



カマド断面 (西から)

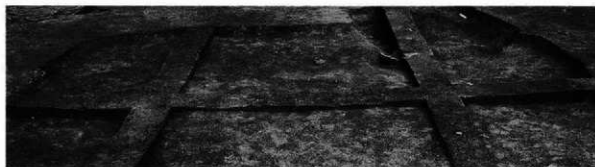


遺物出土状況

写真図版13 RA409 竪穴住居跡



RA410 竪穴住居跡 平面



断面（西から）



カマド断面（南から）



カマド断面（東南から）

写真図版14 RA410 竪穴住居跡



RA412 竪穴住居跡 平面



断面 (北から)



断面 (西から)

写真図版15 RA412 竪穴住居跡



RA414 竪穴住居跡 平面



断面 (北から)



カマド断面 (西から)



カマド断面 (南から)

写真図版16 RA414 竪穴住居跡



RA416 竪穴住居跡 平面



断面 (南から)



カマド断面 (西から)



カマド断面 (南から)

写真図版17 RA416 竪穴住居跡



RA417 竪穴住居跡 平面



断面 (西から)



カマド断面 (南から)



カマド断面 (東から)

写真図版18 RA417 竪穴住居跡



RA418 雙穴住居跡 平面



断面 (西から)



カマド平面



カマド断面 (南から)

写真図版19 RA418 雙穴住居跡



RA421 竪穴住居跡 平面



断面（西から）



カマド断面（北から）

写真図版20 RA421 竪穴住居跡



RA438・439 竪穴住居跡 平面



断面（南から）

写真図版21 RA438・439 竪穴住居跡



RA441 竪穴住居跡 平面



断面 (南から)



カマド断面 (南から)



遺物出土状況

写真図版22 RA441 竪穴住居跡



RA442 竪穴住居跡 平面



断面 (西から)



カマド断面 (南から)



カマド断面 (西から)

写真図版23 RA442 竪穴住居跡



RA444 竪穴住居跡 平面



断面 (西から)



カマド断面 (南から)



遺物出土状況

写真図版24 RA444 竪穴住居跡



RA445 竪穴住居跡 平面



断面（南から）



カマド断面（南から）



遺物出土状況

写真図版25 RA445 竪穴住居跡



RA446 竪穴住居跡 平面



断面 (南から)



カマド断面 (西から)



カマド断面 (南から)

写真図版26 RA446 竪穴住居跡

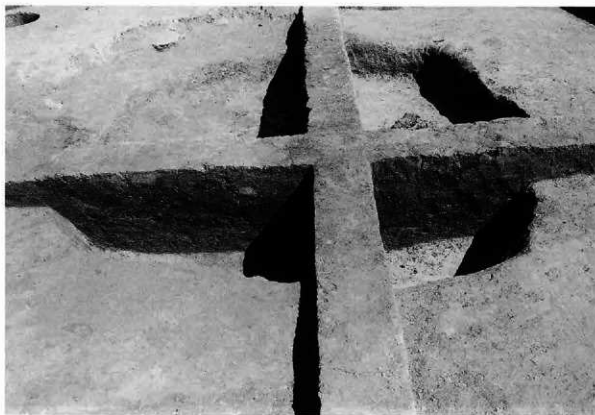


RA447 竪穴住居跡 平面



断面 (南から)

写真図版27 RA447 竪穴住居跡(1)



RA447 竪穴住居跡 断面 (西から)



カマド断面 (西から)



遺物出土状況



遺物出土状況



遺物出土状況

写真図版28 RA447 竪穴住居跡(2)



RA448 雙穴住居跡 平面



遺物出土狀況



遺物出土狀況



遺物出土狀況



遺物出土狀況

写真図版29 RA448 雙穴住居跡



RA449 竪穴住居跡 平面



断面（北から）



断面（西から）

写真図版30 RA449 竪穴住居跡



RA451 壑穴住居跡 平面



断面 (南から)

写真図版31 RA451 壑穴住居跡(1)



カマド断面 (南から)



カマド断面 (西から)



カマド断面 (南から)



遺物出土状況



遺物出土状況



遺物出土状況



遺物検出



遺物検出



RA455 壑穴住居跡 平面



RA453 壑穴住居跡 平面

写真図版33 RA453・455 壑穴住居跡



RA456 竪穴住居跡 平面



断面 (南から)

写真図版34 RA456 竪穴住居跡



RA457 竪穴住居跡 平面



断面（北西から）



カマド断面（西から）



カマド断面（南から）

写真図版35 RA457 竪穴住居跡



RA458 竪穴住居跡 平面



断面（西から）



カマド断面（東から）



カマド平面

写真図版36 RA458 竪穴住居跡



RA459 竪穴住居跡 平面



断面（西から）



カマド断面（南から）



遺物出土状況

写真図版37 RA459 竪穴住居跡



RA460 竪穴住居跡 平面



断面（南から）



遺物出土状況



遺物出土状況

写真図版38 RA460 竪穴住居跡



RA461 鑿穴住居跡 平面



断面 (南から)



Pit 1 断面 (北から)



遺物出土状況



RA214 竪穴住居跡 平面



断面 (東から)

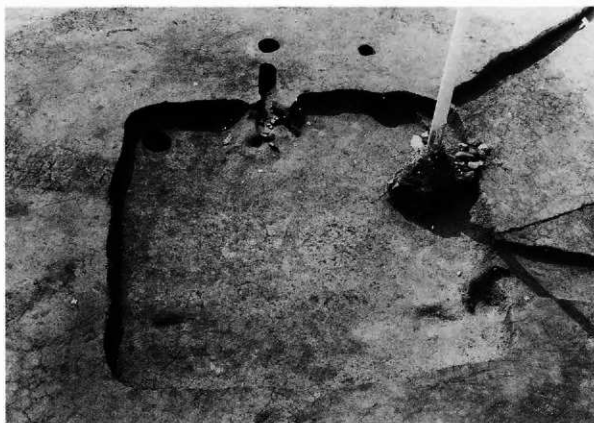


カマド断面 (南から)



カマド平面

写真図版40 RA214 竪穴住居跡



RA312 竪穴住居跡 平面



断面 (西から)



カマド断面 (東から)



遺物出土状況

写真図版41 RA312 竪穴住居跡



RA316 竪穴住居跡 平面



断面 (南から)



カマド断面 (南から)



遺物出土状況

写真図版42 RA316 竪穴住居跡



RA397 竪穴住居跡 平面



断面 (南から)



カマド断面 (南から)



カマド断面 (西から)

写真図版43 RA397 竪穴住居跡



RA399 竪穴住居跡 平面



断面 (南から)



カマド断面 (南から)



カマド断面 (西から)

写真図版44 RA399 竪穴住居跡



RA400 竪穴住居跡 平面



断面 (南から)



カマド断面 (南から)

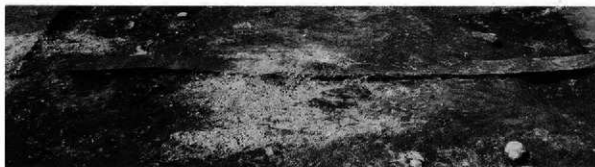


カマド断面 (西から)

写真図版45 RA400 竪穴住居跡



RA401 竪穴住居跡 平面



断面 (南から)



カマド断面 (西から)



カマド断面 (南から)

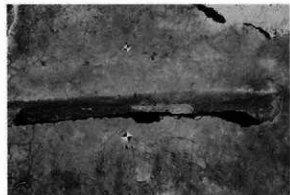
写真図版46 RA401 竪穴住居跡



RA403 竪穴住居跡 平面



断面 (南から)



カマド断面 (南から)



南側カマド・煙道部

写真図版47 RA403 竪穴住居跡



RA406 竪穴住居跡 平面



断面 (南から)



カマド平面



カマド断面 (西から)

写真図版48 RA406 竪穴住居跡



RA408 竪穴住居跡 平面



断面 (南から)



カマド (南から)



カマド断面 (東から)

写真図版49 RA408 竪穴住居跡



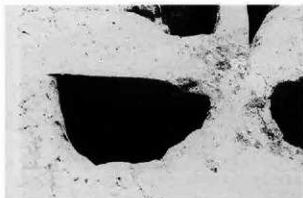
RA411 竪穴住居跡 平面



断面 (西から)



カマド断面 (北から)



カマド断面 (東から)

写真図版50 RA411 竪穴住居跡



RA413 竪穴住居跡 平面



断面 (北から)

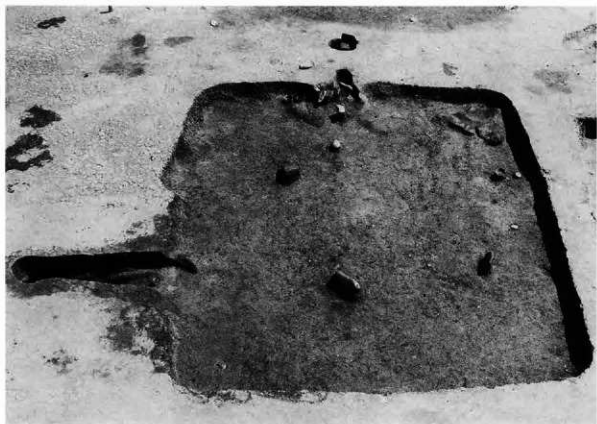


カマド断面 (南から)



遺物出土状況

写真図版51 RA413 竪穴住居跡



RA415 竪穴住居跡 平面



断面 (南から)



東側カマド断面 (南から)



南側カマド (北から)

写真図版52 RA415 竪穴住居跡



RA419 竪穴住居跡 平面



断面 (西から)



カマド断面 (南から)



遺物出土状況

写真図版53 RA419 竪穴住居跡



RA420 竪穴住居跡 平面



断面（東から）



カマド断面（西から）



遺物出土状況

写真図版54 RA420 竪穴住居跡



RA422 竪穴住居跡 平面



断面 (西から)



カマド平面



カマド断面 (西から)

写真図版55 RA422 竪穴住居跡



RA423 竪穴住居跡 平面



断面 (東から)



カマド断面 (南から)



カマド断面 (東から)

写真図版56 RA423 竪穴住居跡



RA424 竪穴住居跡 平面



断面 (東から)

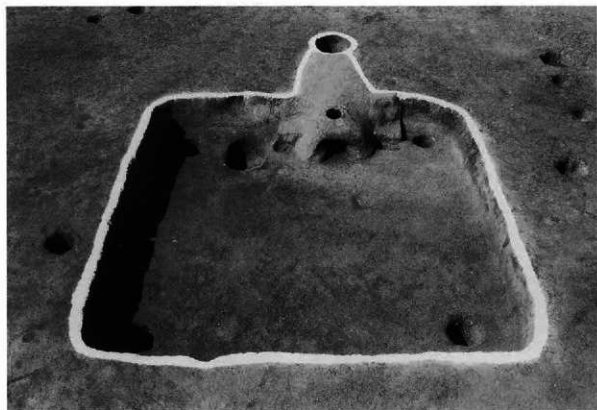


カマド断面 (南から)



カマド本体 (東から)

写真図版57 RA424 竪穴住居跡



RA424 竪穴住居跡 平面



カマド全景



カマド正面から

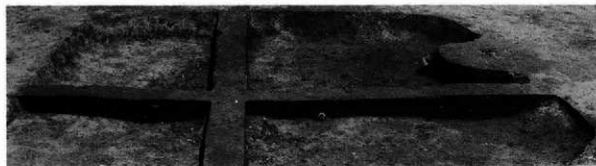


カマド上から

写真図版58 復元したRA424 竪穴住居跡



RA425 竪穴住居跡 平面



断面 (南から)



カマド断面 (西から)



カマド断面 (東から)

写真図版59 RA425 竪穴住居跡



RA426 竪穴住居跡 平面



断面 (南から)



カマド断面 (東から)



カマド断面 (北から)

写真図版60 RA426 竪穴住居跡



RA427 竪穴住居跡 平面



断面 (南から)



断面 (東から)

写真図版61 RA427 竪穴住居跡



RA429 竪穴住居跡 平面



断面 (北から)



カマド断面 (西から)



カマド断面 (南から)

写真図版62 RA429 竪穴住居跡



RA430 鑿穴住居跡 平面



断面 (北から)

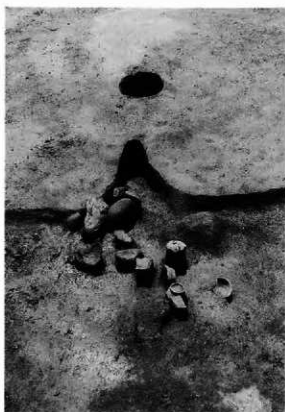


Pit 1 平面



Pit 2 平面

写真図版63 RA430 鑿穴住居跡(1)



南側カマド平面



南側カマド断面(北から)



南側カマド断面(西から)



西側カマド平面



西側カマド断面(西から)



遺物出土状況



RA426・431・432・434 竪穴住居跡 平面



断面 (北から)



断面 (西から)

写真図版65 RA426・431・432・434 竪穴住居跡



RA431 竪穴住居跡 出土遺物



RA431 竪穴住居跡 Pit 1 平面



RA431 竪穴住居跡 Pit 2 平面



RA431 竪穴住居跡 Pit 2 断面 (南から)



RA432 竪穴住居跡 カマド断面 (北から)



RA432 竪穴住居跡 カマド断面 (西から)



RA432 竪穴住居跡 カマド断面 (西から)



RA432 竪穴住居跡 カマド平面



RA433 竪穴住居跡 平面



断面 (東から)



カマド断面 (北から)



遺物出土状況



RA435 竪穴住居跡 平面



断面 (東から)



カマド断面 (カマド)



遺物出土状況

写真図版68 RA435 竪穴住居跡



RA437 竪穴住居跡 平面



カマド (西から)



断面 (南から)



断面 (西から)

写真図版69 RA437 竪穴住居跡



RA440 竪穴住居跡 平面



断面 (南から)



カマド断面 (西から)



カマド断面 (西から)

写真図版70 RA440 竪穴住居跡



RA452 竪穴住居跡 平面



断面 (北から)



カマド断面 (南から)



遺物出土状況



RA398 竪穴住居跡 平面



断面 (南から)

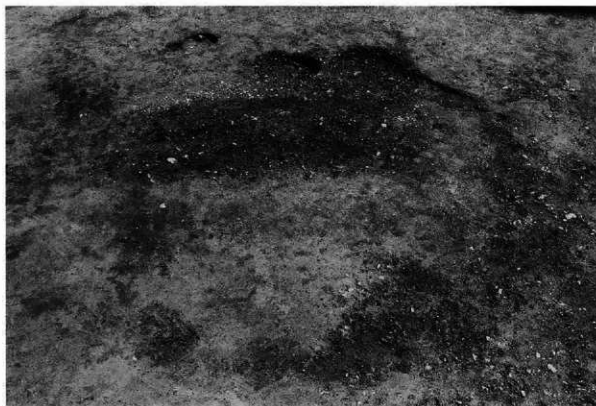


カマド断面 (北から)



カマド断面 (西から)

写真図版72 RA398 竪穴住居跡



RA428 竪穴住居跡 平面



断面 (西から)

写真図版73 RA428 竪穴住居跡



RA436 壘穴住居跡 平面



断面 (南から)



断面 (西から)

写真図版74 RA436 壘穴住居跡

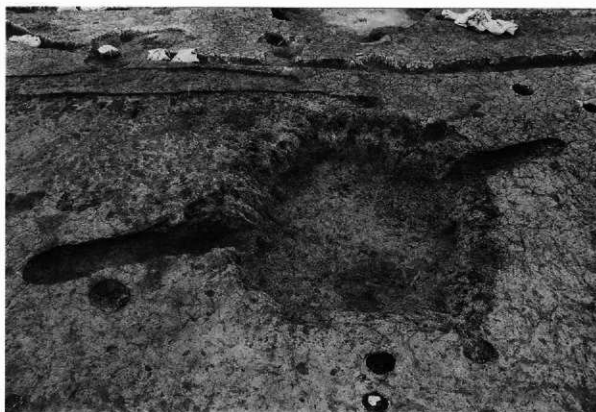


RA232 竪穴建物跡 平面



断面 (南から)

写真図版75 RA232 竪穴建物跡



RA443 竪穴建物跡 平面



断面 (東から)

写真図版76 RA443 竪穴建物跡



RA450 竪穴建物跡 平面



断面 (西から)



断面 (南から)

写真図版77 RA450 竪穴建物跡



RA454 罌穴建物跡 平面



断面（南東から）

写真図版78 RA454 罌穴建物跡

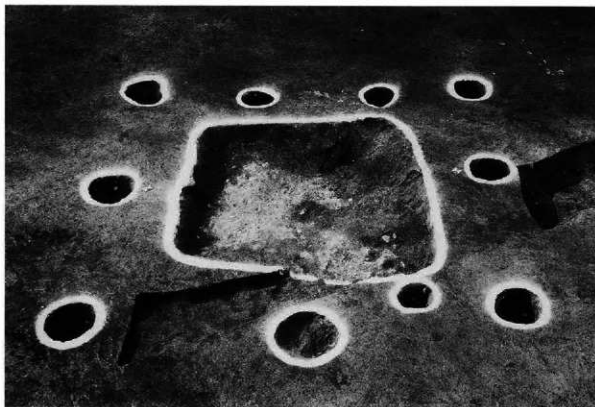


RE048 竪穴状遺構平面



RE049 竪穴状遺構平面

写真図版79 RE048・049 竪穴状遺構

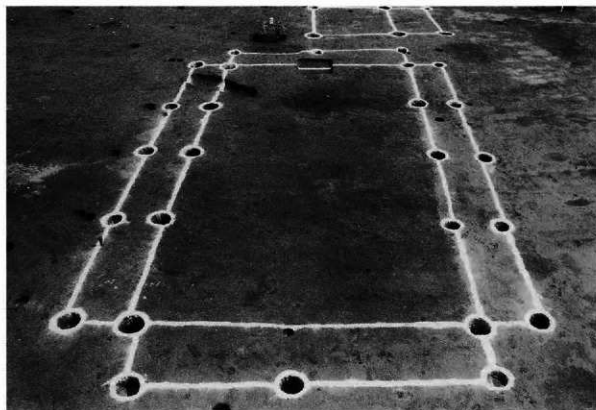


RB031 掘立柱建物跡平面

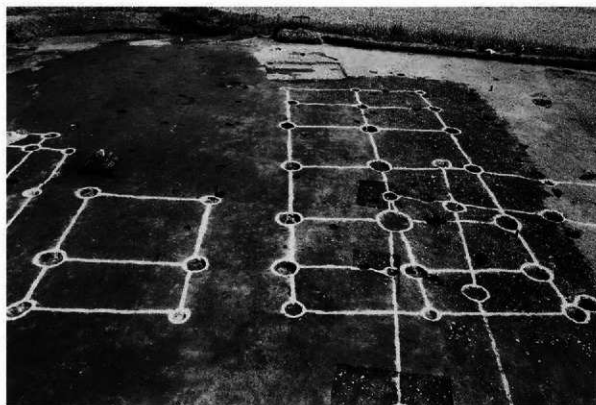


RB034 掘立柱建物跡平面

写真図版80 RB031・034 掘立柱建物跡

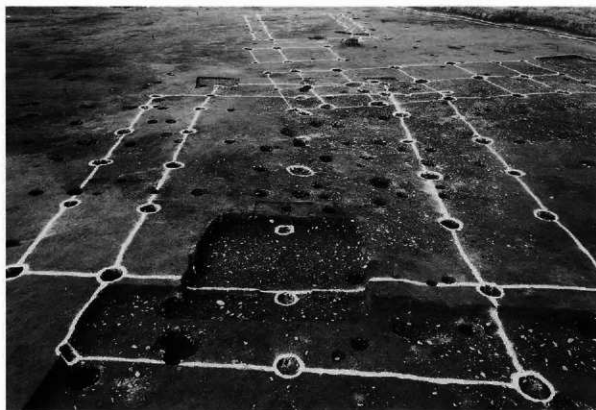


RB035 掘立柱建物跡平面

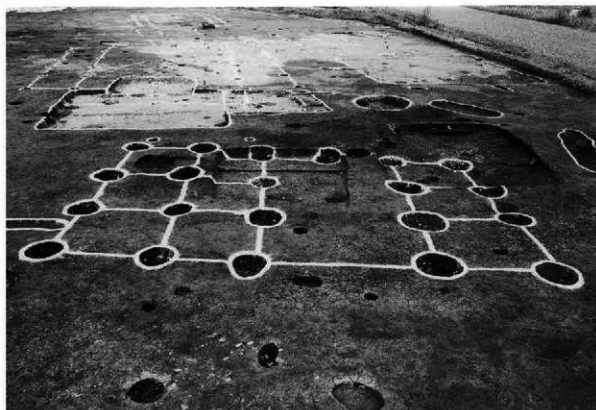


RB036・037 掘立柱建物跡平面

写真図版81 RB035~037 掘立柱建物跡

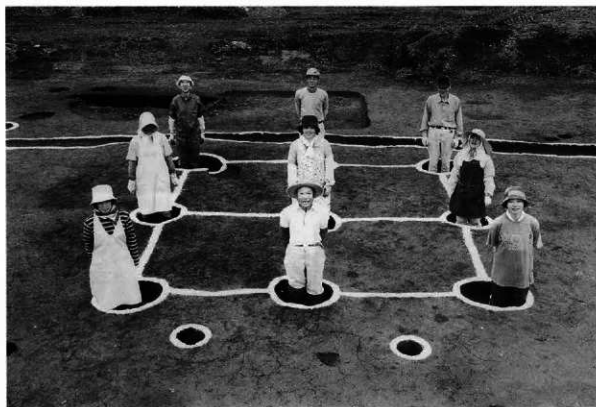


RB038 掘立柱建物跡平面

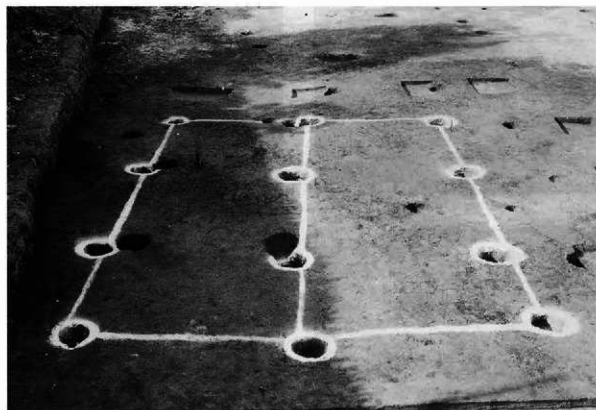


RB039 掘立柱建物跡平面

写真図版82 RB038・039 掘立柱建物跡

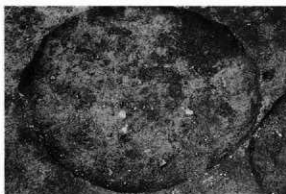


RB040 掘立柱建物跡平面



RB041 掘立柱建物跡平面

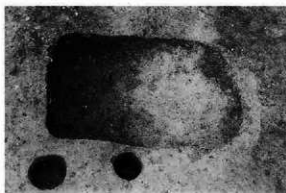
写真図版83 RB040・041 掘立柱建物跡



RD586 土坑平面



RD586 土坑断面 (西から)



RD596 土坑平面



RD596 土坑断面 (南から)



RD622 土坑平面



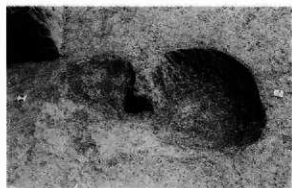
RD622 土坑断面 (南から)



RB034 獨立柱建物跡平面



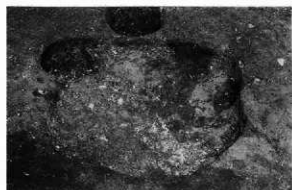
RD626 土坑断面 (西から)



RD633・634 土坑平面



RD633・634 土坑断面 (西から)



RD635 土坑平面



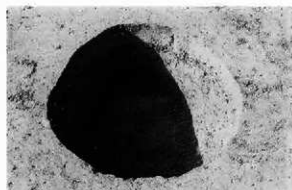
RD635 土坑断面 (東から)



RD636 土坑平面



RD636 土坑断面 (南から)



RD637 土坑平面



RD637 土坑断面 (南から)

写真図版85 RD633～637 土坑



RD639 土坑平面



RD639 土坑断面 (南から)



RD643 土坑平面



RD643 土坑断面 (南から)



RD644 土坑平面



RD644 土坑断面 (南から)



RD645 土坑平面



RD645 土坑断面 (南から)

写真図版86 RD639・643～645 土坑



RD660 土坑平面



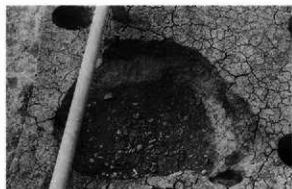
RD660 土坑断面 (北から)



RD692 土坑平面



RD692 土坑断面 (南から)



RD796 土坑平面



RD796 土坑断面 (南から)



RD808 土坑平面



RD810 土坑平面

写真図版87 RD660・692・796・808・810 土坑



RD814 土坑断面 (南東から)



RD819 土坑断面 (西から)



RD820 土坑断面 (南から)



調査区全景



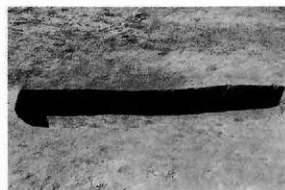
RD822・823 土坑平面



RD822・823 土坑断面 (西から)



RD825 土坑平面

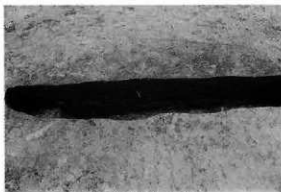


RD825 土坑断面 (東から)

写真図版88 RD814・819・820・822・823・825 土坑



RD826 土坑平面



RD826 土坑断面 (南から)



RD827 土坑平面



RD827 土坑断面 (北から)



RD828 土坑平面



RD828 土坑断面 (北から)



RD829 土坑断面 (西から)



調査区全景

写真図版89 RD826～829土坑



RD830 土坑平面



RD830 土坑・RG325 溝跡断面 (南から)



RD831・832 土坑平面



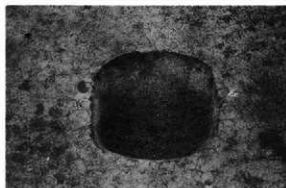
RD831・832 土坑断面 (南から)



RD833 土坑平面



RD833 土坑断面 (東から)

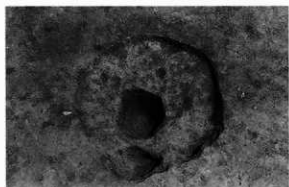


RD926 土坑平面



RD926 土坑断面 (南から)

写真図版90 RD830～833・926 土坑



RD927 土坑平面



RD927 土坑断面 (南から)



RD928 土坑平面



RD928 土坑断面 (西から)



RD929 土坑平面



RD929 土坑断面 (北から)



RD930 土坑平面



RD930 土坑断面 (西から)

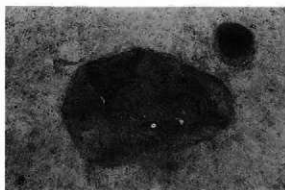
写真図版91 RD927~930 土坑



RD931 土坑平面



RD931 土坑断面 (西から)



RD933 土坑平面



RD933 土坑断面 (南から)



RD934 土坑平面



RD934 土坑断面 (南西から)



RD935・936 土坑平面



RD935・936 土坑断面 (東から)

写真図版92 RD931・933~936 土坑



RD937 土坑平面



RD937 土坑断面 (南西から)



RD939 土坑断面 (南から)



RD940 土坑平面



RD940 土坑断面 (南から)



RD941 土坑平面

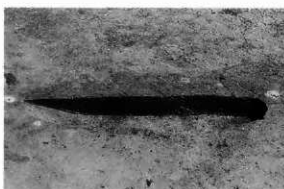


RD941 土坑断面 (北東から)

写真図版93 RD937・939~941 土坑



RD942 土坑平面



RD942 土坑断面 (西から)



RD943 土坑平面



RD943 土坑断面 (北から)



RD943 土坑平面



RD943 土坑断面 (西から)



RD944 土坑平面



RD944 土坑断面 (西から)

写真図版94 RD942~944 土坑



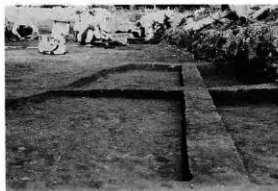
RD945 土坑平面



RD945 土坑断面 (西から)



RD946 土坑平面



RD946 土坑断面 (西から)



RD947 土坑平面



RD947 土坑断面 (西から)



RD948 土坑平面



RD948 土坑断面 (南から)

写真図版95 RD945~948土坑



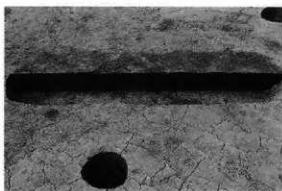
RD949 土坑平面



RD949 土坑断面 (東南から)



RD950 土坑平面



RD950 土坑断面 (東南から)



RD951 土坑平面



RD951 土坑断面 (南から)



RD953 土坑平面



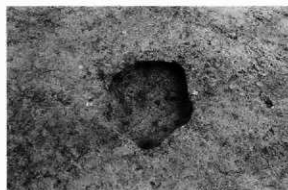
RD953 土坑断面 (東から)



RD954 土坑平面



RD954 土坑断面 (南から)



RD955 土坑平面



RD955 土坑断面 (南から)



RD956 土坑平面



RD956 土坑断面 (東から)



RD971 土坑平面



RD971 土坑断面 (南から)

写真図版97 RD954～956・971 土坑



RD972 土坑平面



RD972 土坑断面 (西から)



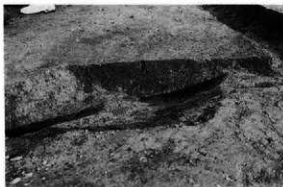
RD973 土坑平面



RD973 土坑断面 (西から)



RD974 土坑平面



RD974 土坑断面 (西から)



RD975 土坑平面



RD975 土坑断面 (西から)

写真図版98 RD972~975 土坑



RD976 土坑平面



RD976 土坑断面 (北から)



RD977 土坑平面



RD977 土坑断面 (南から)



RD978 土坑平面



RD978 土坑断面 (西から)



RD979 土坑平面



RD979 土坑断面 (南から)

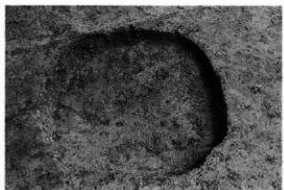
写真図版99 RD976～979 土坑



RD980 土坑平面



RD980 土坑断面 (南から)



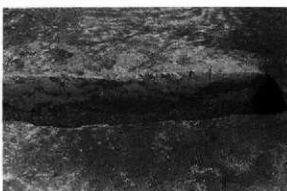
RD981 土坑平面



RD981 土坑断面 (西から)



RD982 土坑平面



RD982 土坑断面 (西から)



RD983 土坑平面



RD983 土坑断面 (西から)

写真図版100 RD980~983 土坑



RD984 土坑平面



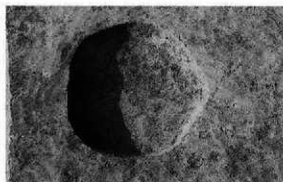
RD984 土坑断面 (南から)



RD985 土坑平面



RD985 土坑断面 (南から)



RD986 土坑平面



RD986 土坑断面 (南から)



RD987 土坑平面



RD987 土坑断面 (南から)

写真図版101 RD984～987 土坑



RD988 土坑平面



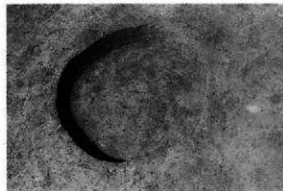
RD988 土坑断面 (南から)



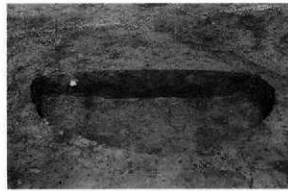
RD989 土坑平面



RD989 土坑断面 (南から)



RD990 土坑平面



RD990 土坑断面 (南から)



RD991 土坑平面



RD991 土坑断面 (南から)

写真図版102 RD988~991 土坑



RD992 土坑断面 (南から)



調査前風景



RD993 土坑平面



RD993 土坑断面 (西から)



RD994 土坑平面



RD994 土坑断面 (西から)



RD995 土坑平面



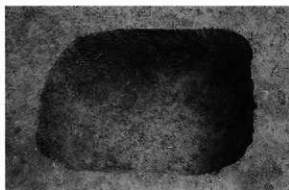
RD995 土坑断面 (南から)



RD996 土坑断面 (南から)



調査前風景



RD997 土坑平面



RD997 土坑断面 (西から)



RD998 土坑平面



RD998 土坑断面 (北から)



RD999 土坑断面 (南から)



現況 (3-D他)



調査区全景



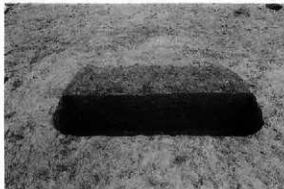
RD1001 土坑平面



RD1001 土坑断面 (南から)



RD1002 土坑平面



RD1002 土坑断面 (南から)

写真図版105 RD1001・1002 土坑



RD1003 土坑平面



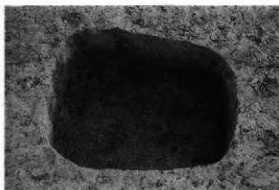
RD1003 土坑断面 (南から)



RD1004 土坑平面



RD1004 土坑断面 (南から)



RD1005 土坑平面



RD1005 土坑断面 (南から)

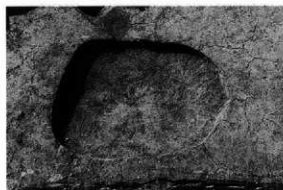


RD1006 土坑平面



RD1006 土坑断面 (東から)

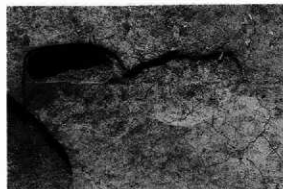
写真図版106 RD1003~1006 土坑



RD1007 土坑平面



RD1007 土坑断面 (東から)



RD1008・1009 土坑平面



RD1008・1009 土坑断面 (南西から)



RD1010 土坑平面



RD1010 土坑断面 (東から)



RD1011 土坑平面



RD1011 土坑断面 (南から)

写真図版107 RD1007～1011 土坑



RD1012 土坑平面



RD1012 土坑断面 (南東から)



RD1013 土坑平面



RD1013 土坑断面 (南から)



RD1014 土坑平面



RD1014 土坑断面 (南から)



RD1015 土坑平面



RD1015 土坑断面 (東から)

写真図版108 RD1012~1015 土坑



RD1016 土坑平面



RD1016 土坑断面 (南から)



RD1017 土坑平面



RD1017 土坑断面 (南から)



RD1018 土坑平面



RD1018 土坑断面 (南から)



RD1019 土坑平面



RD1019 土坑断面 (南から)

写真図版109 RD1016~1019 土坑



RD1020 土坑平面



RD1020 土坑断面 (東から)



RD1021 土坑平面



RD1021 土坑断面 (東から)



RD1022 土坑平面



RD1022 土坑断面 (西から)



RD1023 土坑平面



RD1023 土坑断面 (南から)

写真図版110 RD1020~1023 土坑



RD1024 土坑平面



RD1024 土坑断面 (南から)



RD1025 土坑平面



RD1025 土坑断面 (南から)



RD1026 土坑平面



RD1026 土坑断面 (東から)



RD1027 土坑平面



RD1027 土坑断面 (南東から)

写真図版111 RD1024~1027 土坑



RD1028 土坑平面



RD1028 土坑断面 (東から)



RD1029 土坑平面



RD1029 土坑断面 (南から)



RD1030 土坑平面



RD1030 土坑断面 (南西から)



RD1031 土坑平面



RD1031 土坑断面 (東から)

写真図版112 RD1028~1031 土坑



RD1032 土坑平面



RD1032 土坑断面 (東から)



RD1033 土坑平面



RD1033 土坑断面 (南から)



RD1034 土坑平面



RD1034 土坑断面 (東南から)

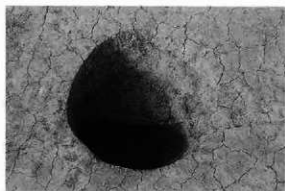


RD1035 土坑平面

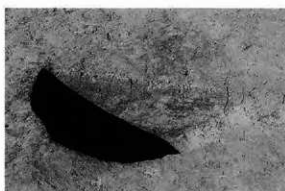


RD1035 土坑断面 (南から)

写真図版113 RD1032~1035 土坑



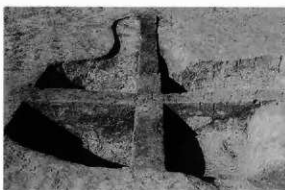
RD1036 土坑平面



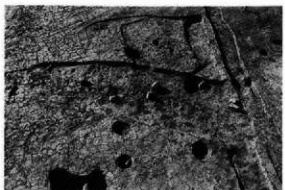
RD1036 土坑断面 (南東から)



RD1037 土坑平面



RD1037 土坑断面 (東から)



RD1038 土坑平面



RD1038 土坑断面 (東から)



現況 (2-D)



現況 (1-C)



RF024 平面



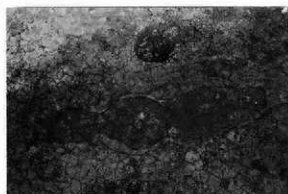
RF024 平面



RF024 断面 (南から)



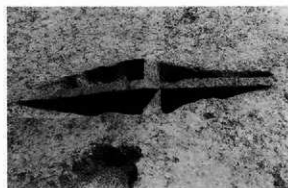
RF024 断面 (西から)



RF052 平面



RF052 平面



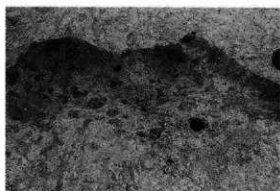
RF052 断面 (西から)



RF052 断面 (南から)



RF053 平面



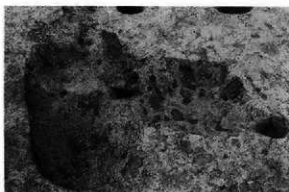
RF054 平面



RF054 断面 (西から)



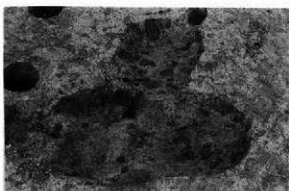
RF054 断面 (南から)



RF055・056 平面



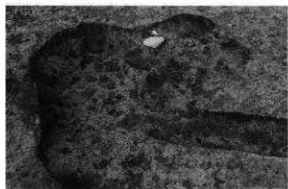
RF055・056 断面 (南から)



RF055・056 平面



RF055・056 断面 (西から)



RF057・058 平面



RF057・058 断面 (西から)



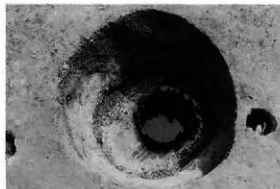
RF059 平面



RF059 断面 (南から)



RI 011 井戸跡



RI 011 井戸跡



RI 011 井戸跡



RI 012 井戸跡平面



RI 012 井戸跡断面 (北から)



RI 013 井戸跡平面



RI 013 井戸跡断面 (南から)



RG045 溝跡平面

写真図版118 RI 012・013井戸跡, RG045溝跡



RG045 溝跡平面



RG045 溝跡断面 (南から)



RG045 溝跡断面 (南から)



RG229 溝跡断面 (南から)



RG231 溝跡断面 (南から)



RG235 溝跡断面 (南から)



RG235・352 溝跡断面 (南から)

写真図版119 RG045・229・231・235・352 溝跡



RG073・088 溝跡平面



RG073 溝跡断面 (南から)



RG088 溝跡断面 (西から)



RG170 溝跡平面



RG200 溝跡平面



RG170 溝跡断面 (北から)



RG200 溝跡断面 (西から)

写真図版120 RG073・088・170・200 溝跡



RG223 溝跡平面



RG223 溝跡断面 (南から)



RG224 溝跡断面 (南から)



RG224 溝跡平面



RG228 溝跡平面



RG228 溝跡断面 (西から)

写真図版121 RG223・224・228 溝跡



RG242・321・322 溝跡平面



RG242 溝跡断面 (東から)



RG321 溝跡断面 (南から)



RG322 溝跡断面 (南から)



RG319・323 溝跡断面 (東から)



RG319・323 溝跡平面



RG307 溝跡平面



RG307 溝跡断面 (東から)



RG315 溝跡平面



RG318 溝跡平面



RG315 溝跡断面 (南から)



RG318 溝跡断面 (南西から)

写真図版123 RG307・315・318 溝跡



RG320 溝跡平面



RG320 溝跡断面 (西から)



RG325 溝跡平面



RG325 溝跡断面 (南から)



RG324・327 溝跡断面 (北から)



RG324・327 溝跡平面

写真図版124 RG320・324・325・327 溝跡



RG328 溝跡平面



RG326 溝跡断面 (西から)



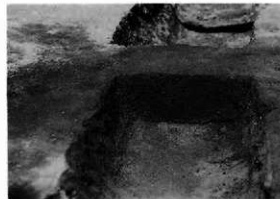
RG329 溝跡断面 (東から)



RG329 溝跡平面



RG331 溝跡断面 (西から)



RG332 溝跡断面 (西から)

写真図版125 RG326・328・329・331・332 溝跡



RG331～336・338 溝跡平面



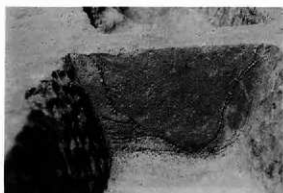
RG333 溝跡断面 (南から)



RG334 溝跡断面 (南から)



RG331～336・338 溝跡平面



RG335 溝跡断面 (北東から)



RG336 溝跡断面 (東から)



RG341 溝跡平面



RG342 溝跡平面



RG339・340・354~358 溝跡平面



RG339・340・354~358 溝跡平面

写真図版127 RG339~342・354~358 溝跡



RG354 溝跡断面 (西から)



RG355 溝跡断面 (西から)



RG356 溝跡断面 (西から)



RG357 溝跡断面 (東から)



RG358 溝跡断面 (東から)



RG340・351 溝跡断面 (南東から)



RG340・351 溝跡平面

写真図版128 RG340・351・354～358 溝跡



RZ023 性格不明遺構平面



RZ023 性格不明遺構平面



断面（西から）



断面（西から）



RZ028 円形周溝跡平面



断面（北から）



断面（東から）



RZ027 方形周溝跡平面



断面（東から）



断面（西から）



断面（南から）

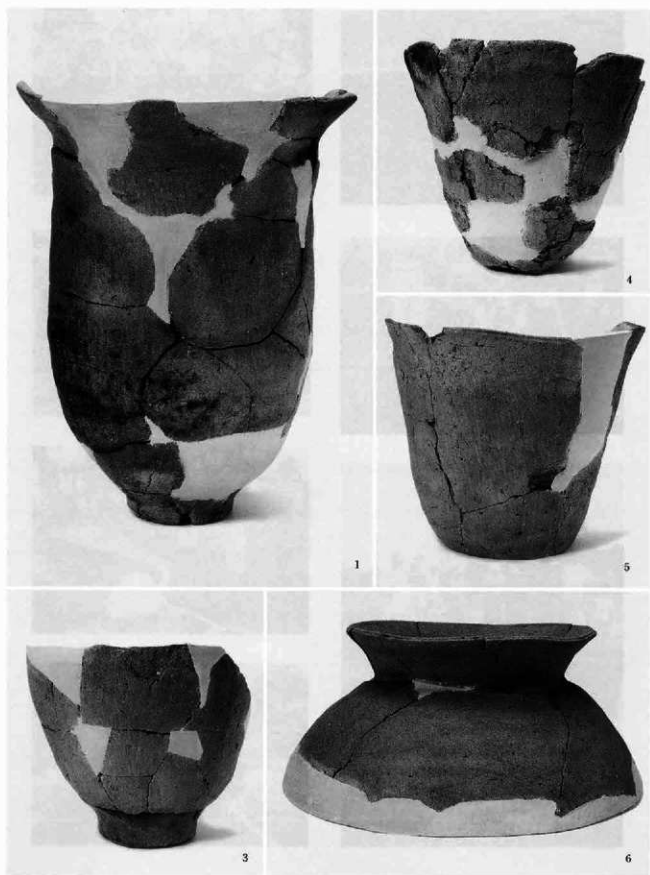


断面（北から）

写真図版130 RZ027 方形周溝跡

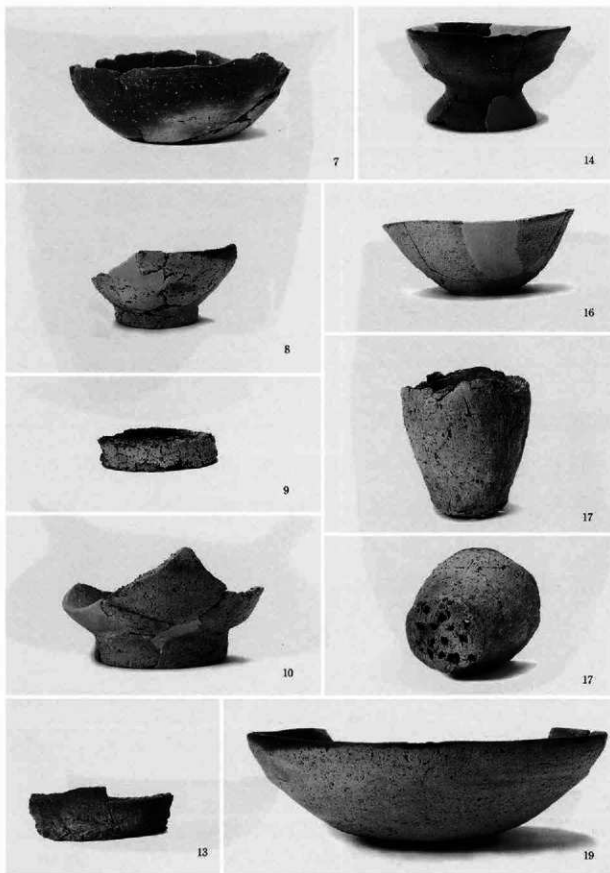


写真図版131 現地説明会



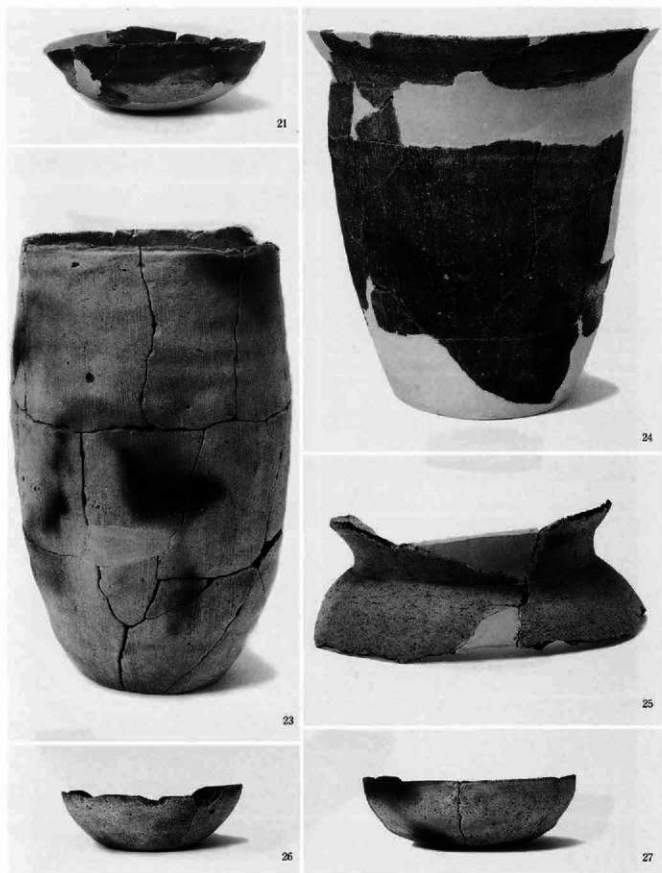
写真図版132 土師器・須恵器(1)

2:5



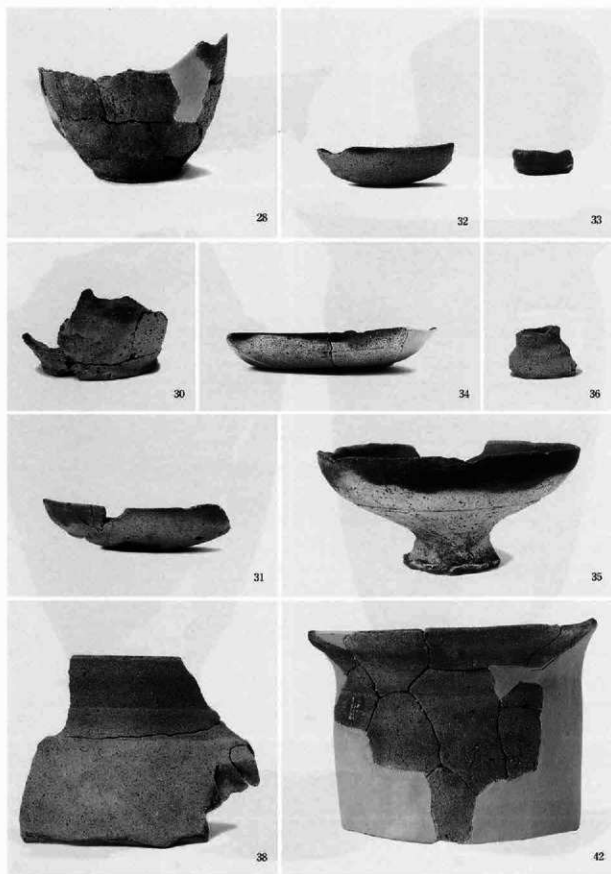
写真図版133 土師器・須恵器(2)

2:5



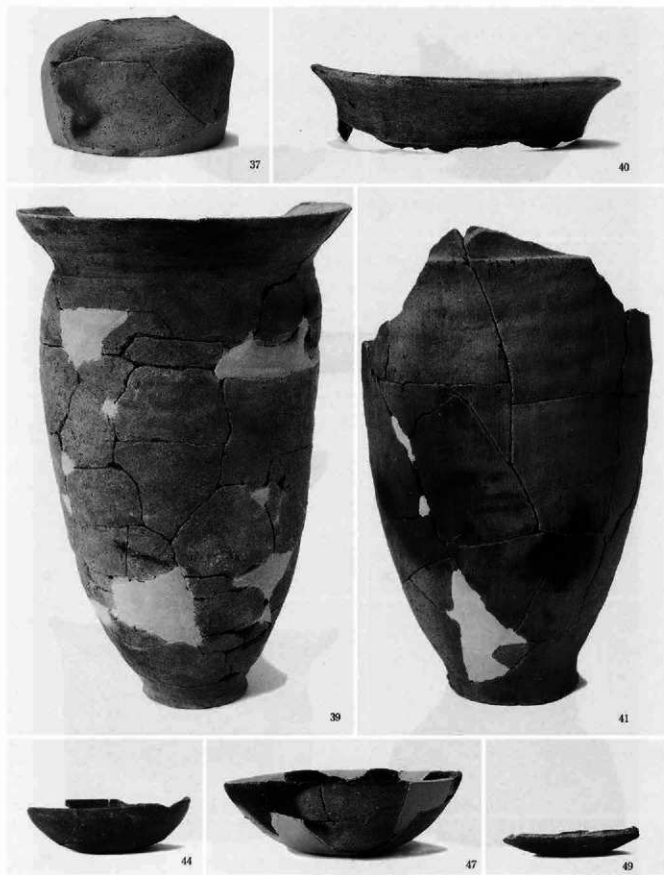
写真図版134 土師器・須恵器(3)

2:5



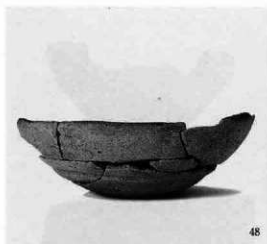
写真図版135 土師器・須恵器(4)

2:5



写真図版136 土師器・須恵器(5)

2:5



48



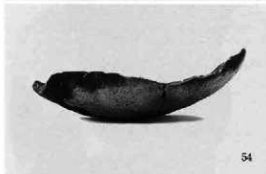
52



51



53



54



520



57

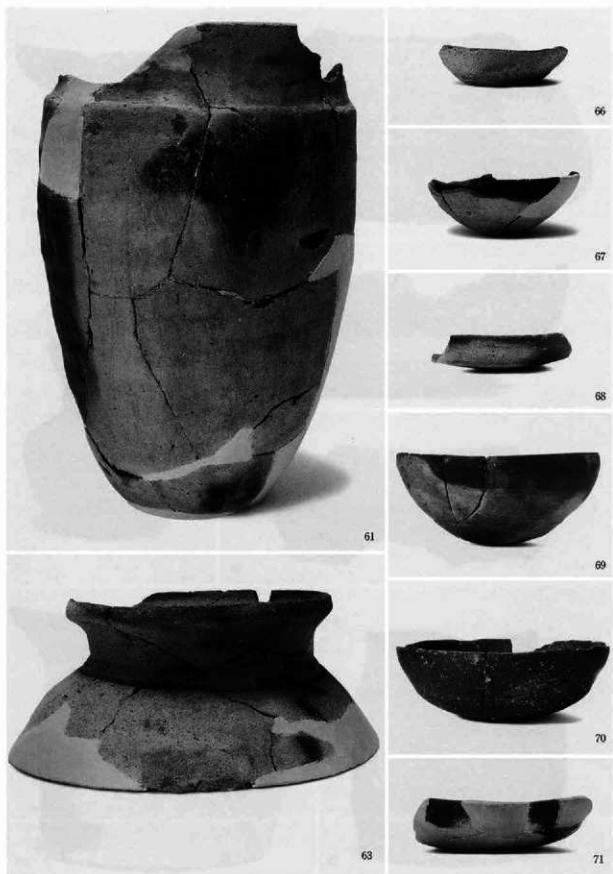
写真図版137 土師器・須恵器(6)

2:5



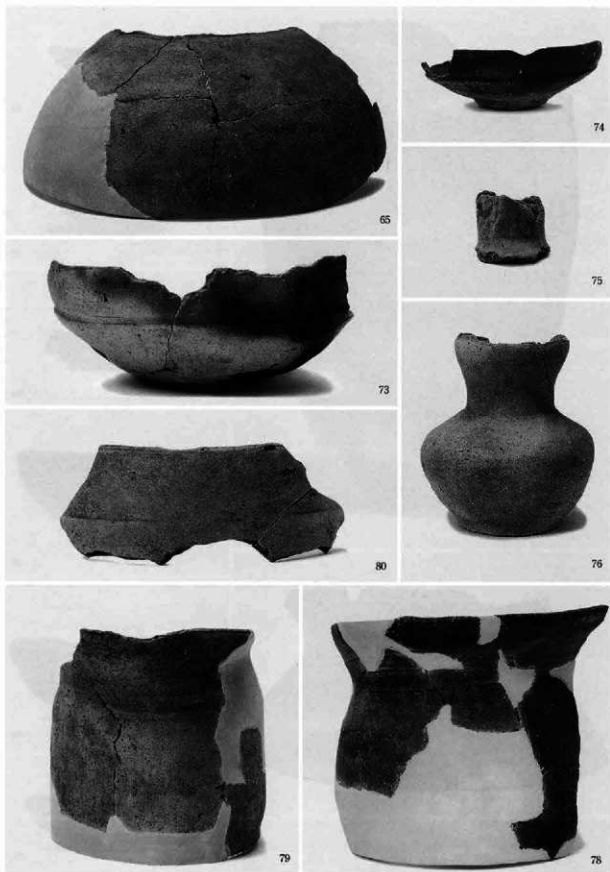
写真図版138 土師器・須恵器(7)

2:5



写真図版139 土師器・須恵器(8)

2:5



写真図版140 土師器・須恵器(9)

2:5



81



82



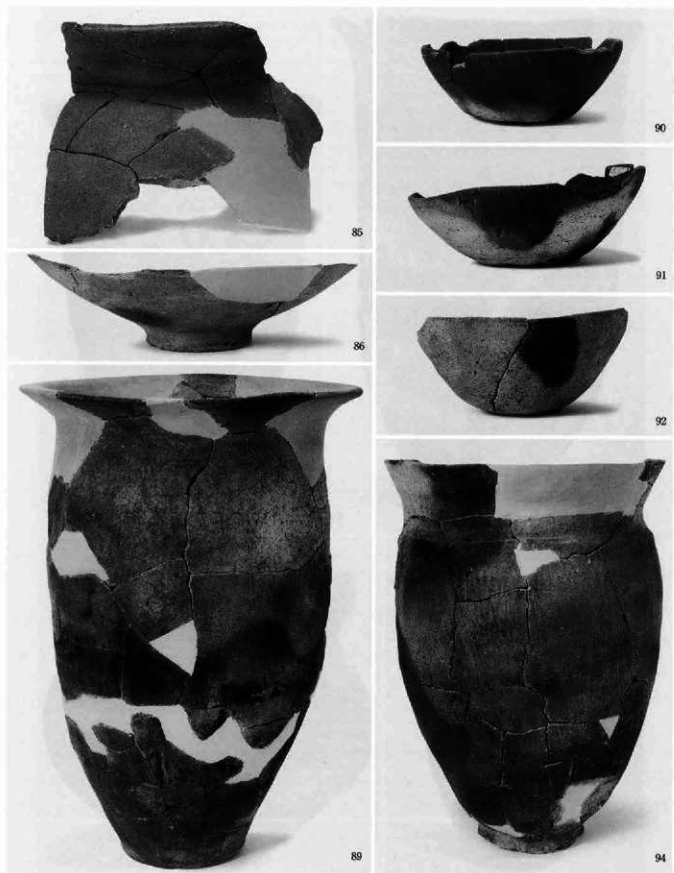
83



84

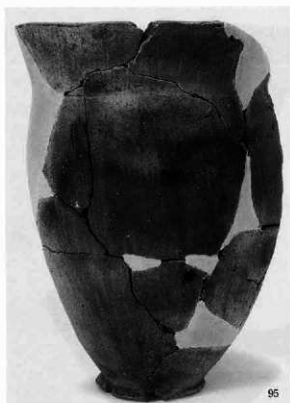
写真図版141 土師器・須恵器(10)

2:5



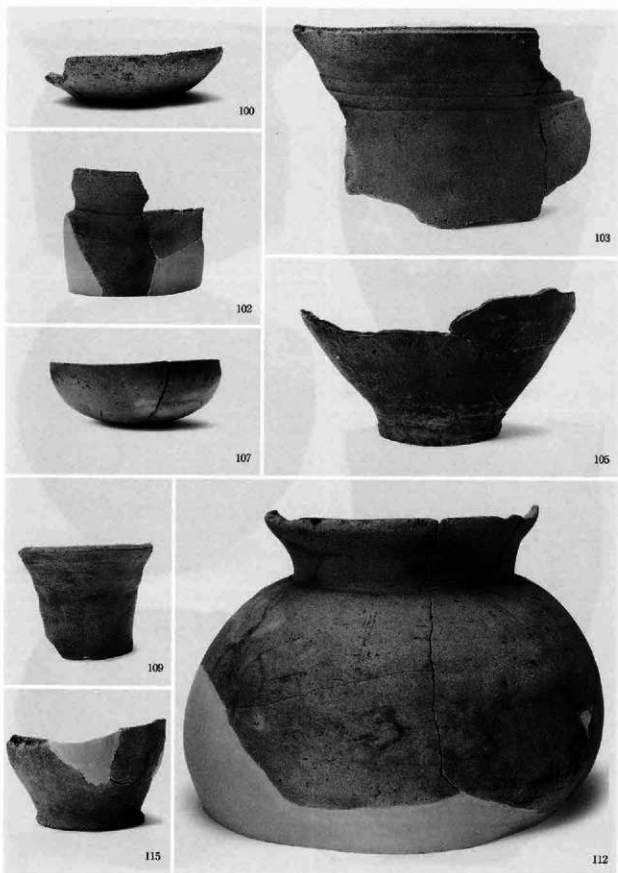
写真図版142 土師器・須恵器(11)

2:5



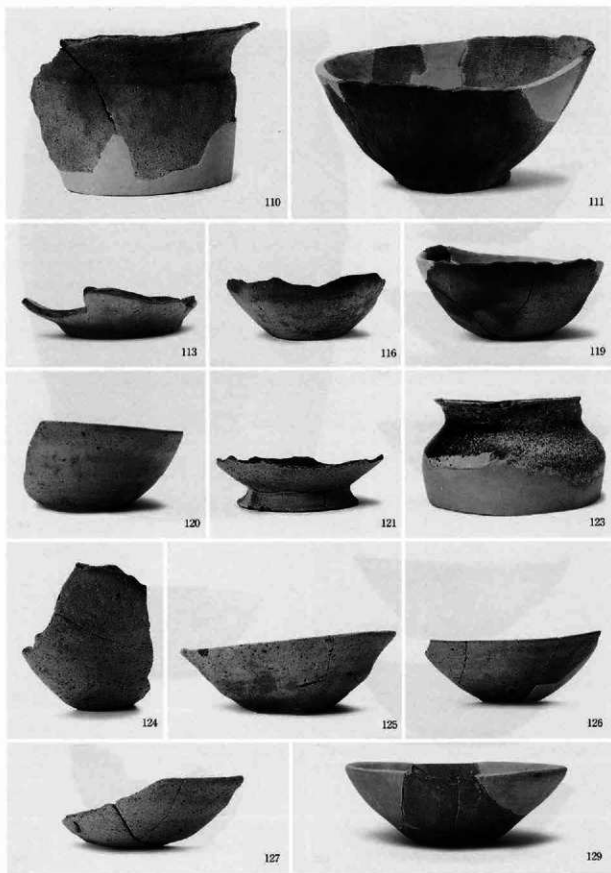
写真図版143 土師器・須恵器(12)

2:5



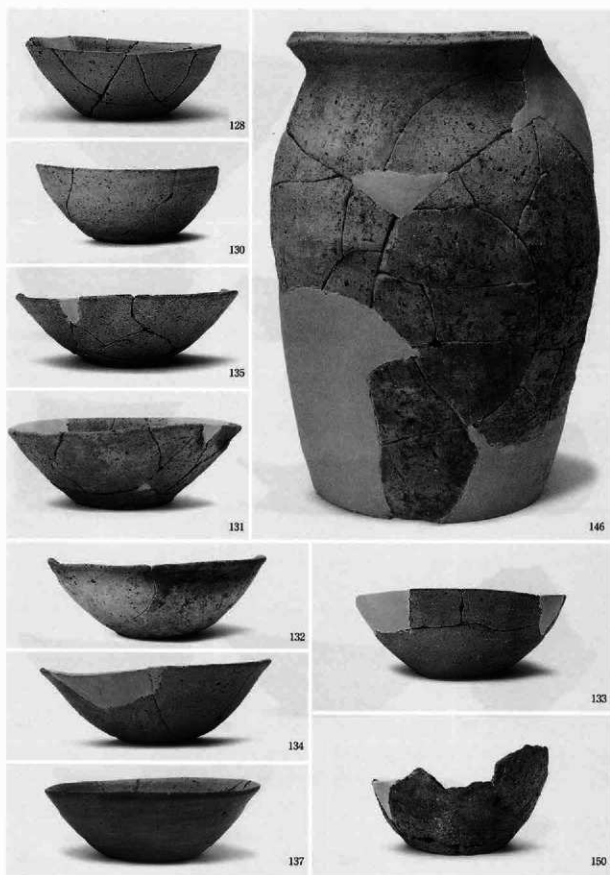
写真図版144 土師器・須恵器(13)

2:5



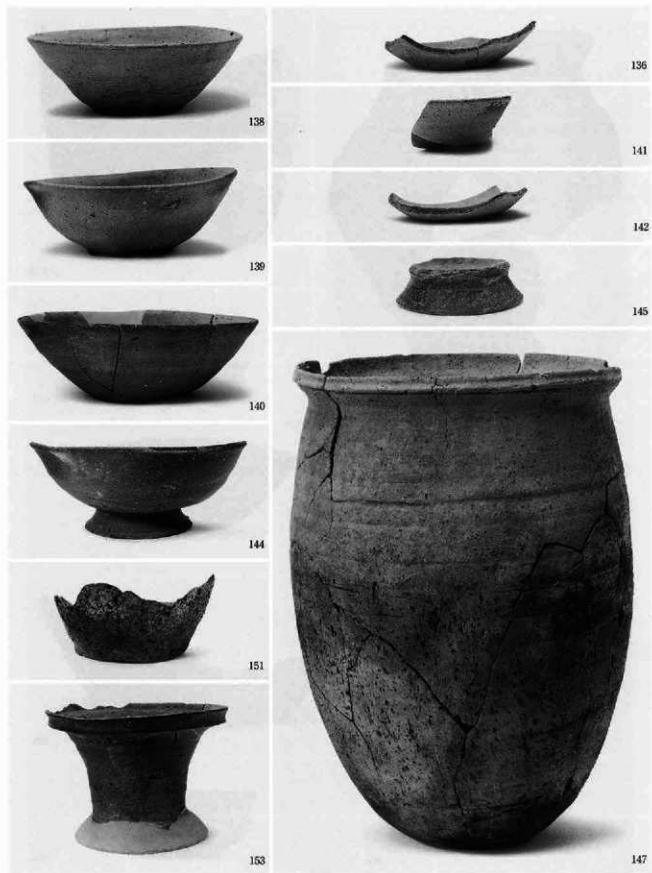
写真図版145 土師器・須恵器(14)

2 : 5

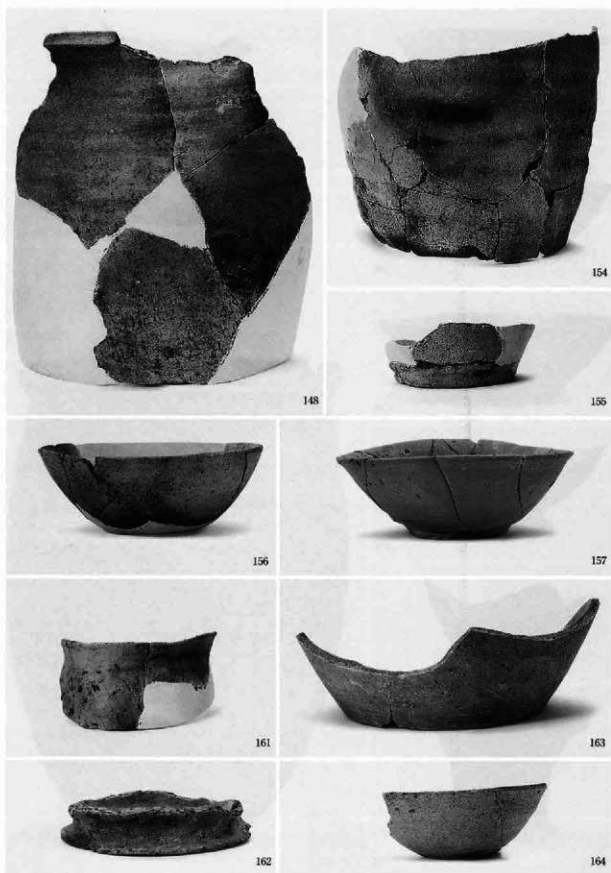


写真図版146 土師器・須恵器(15)

2:5

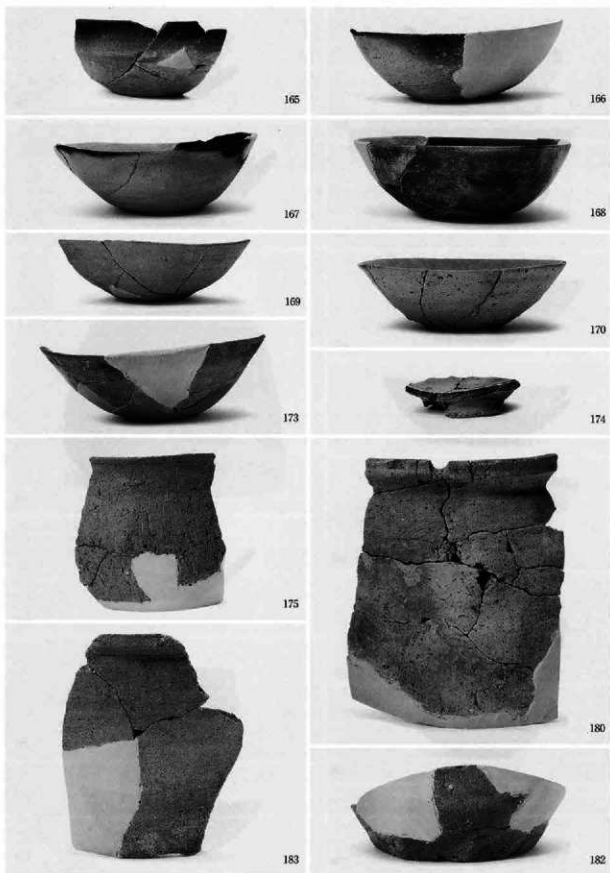


写真図版147 土師器・須恵器(16)



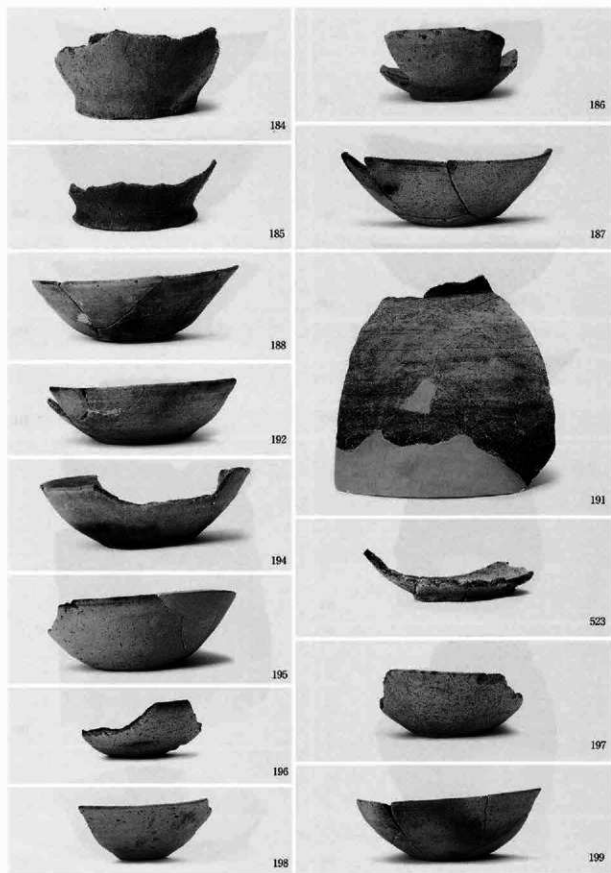
写真図版148 土師器・須恵器(17)

2:5



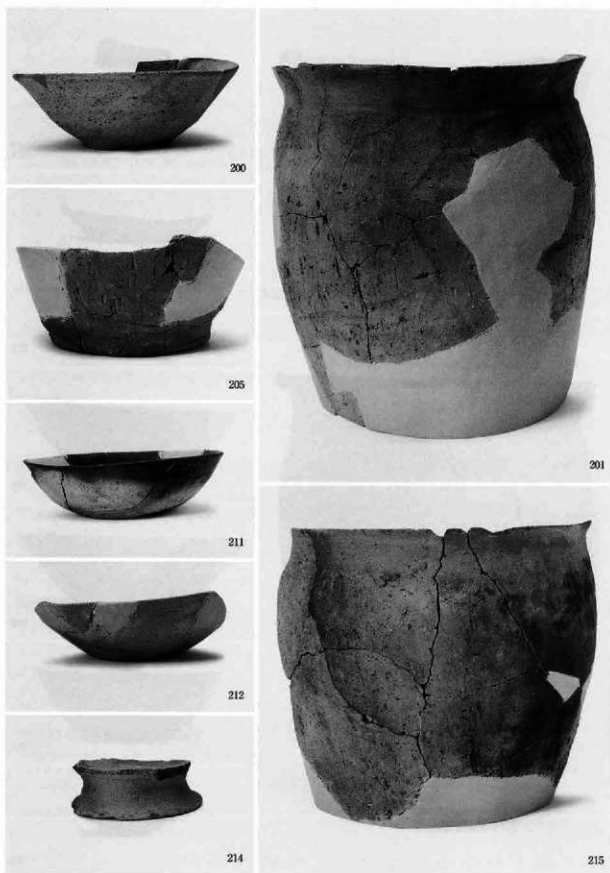
写真図版149 土師器・須恵器(18)

2/5



写真図版150 土師器・須恵器(19)

2:5



写真図版151 土器器・須恵器(20)

2:5



218



219



223



224



227



228



229



230



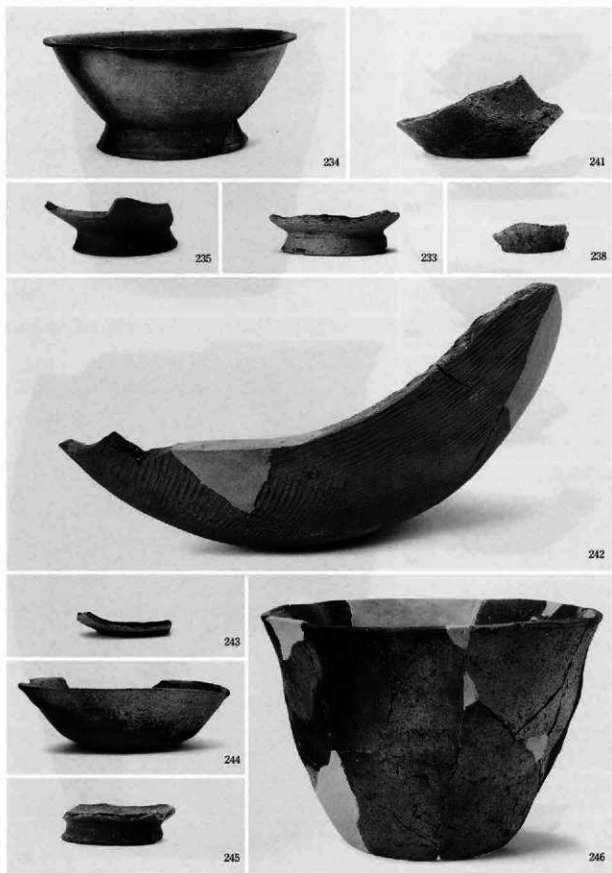
231



232

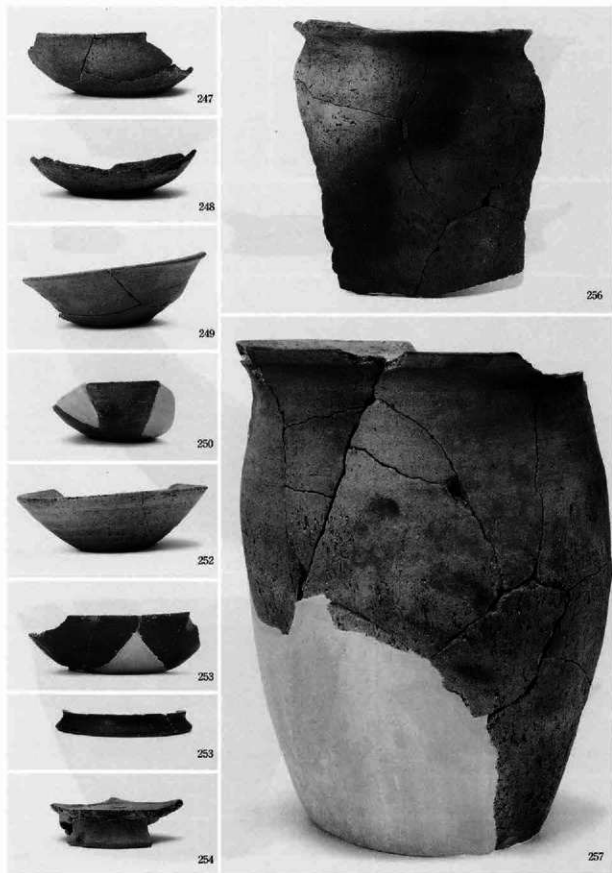
2 : 5

写真図版152 土師器・須恵器(21)



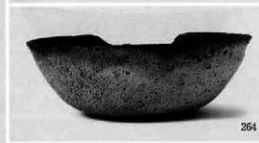
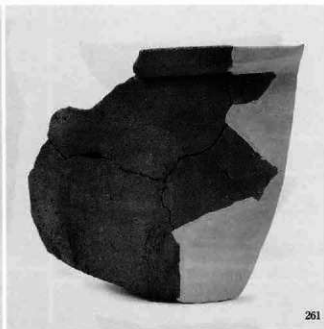
写真図版153 土師器・須恵器(22)

2 : 5



写真図版154 土師器・須恵器(23)

2:5



写真図版155 土師器・須恵器(24)

2:5



268



269



270



271



272



273



275



277



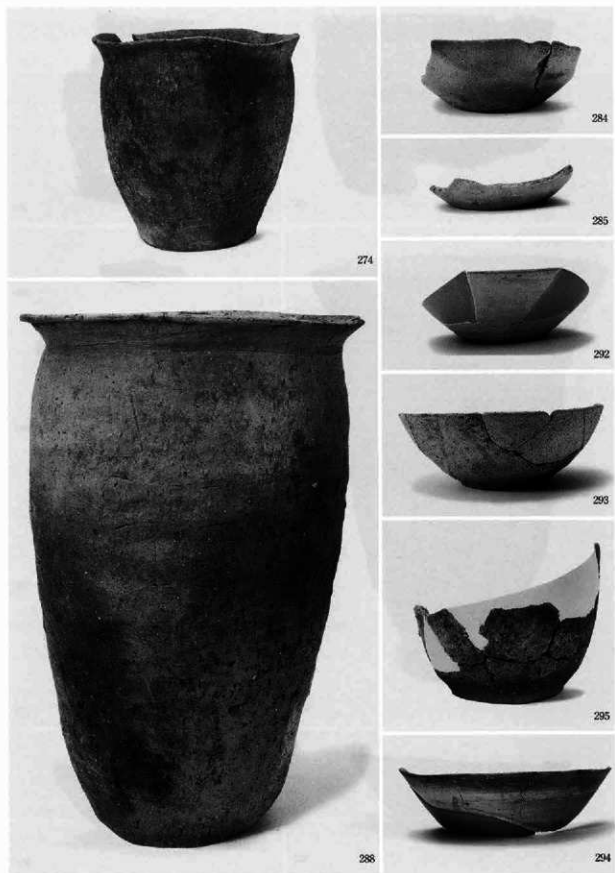
278



279

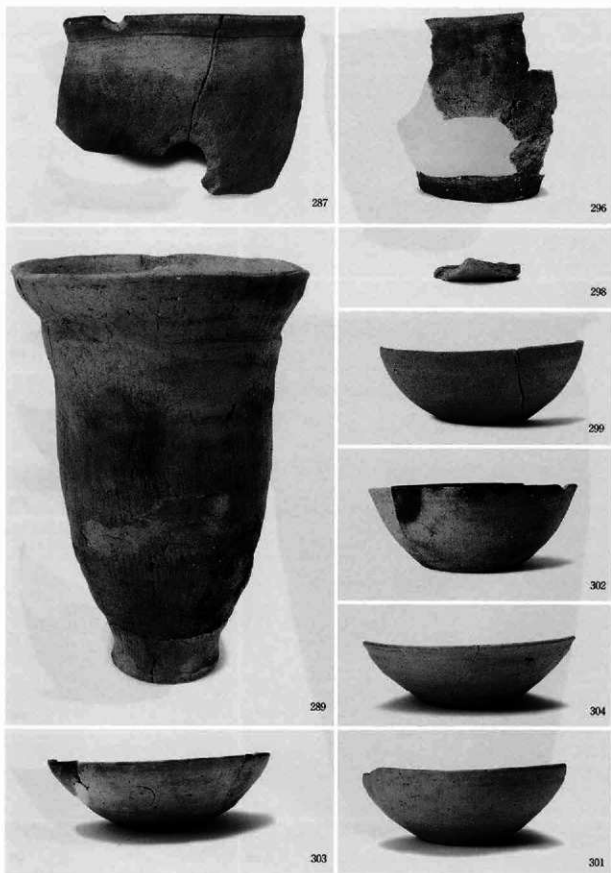
写真図版156 土師器・須恵器(25)

2:5



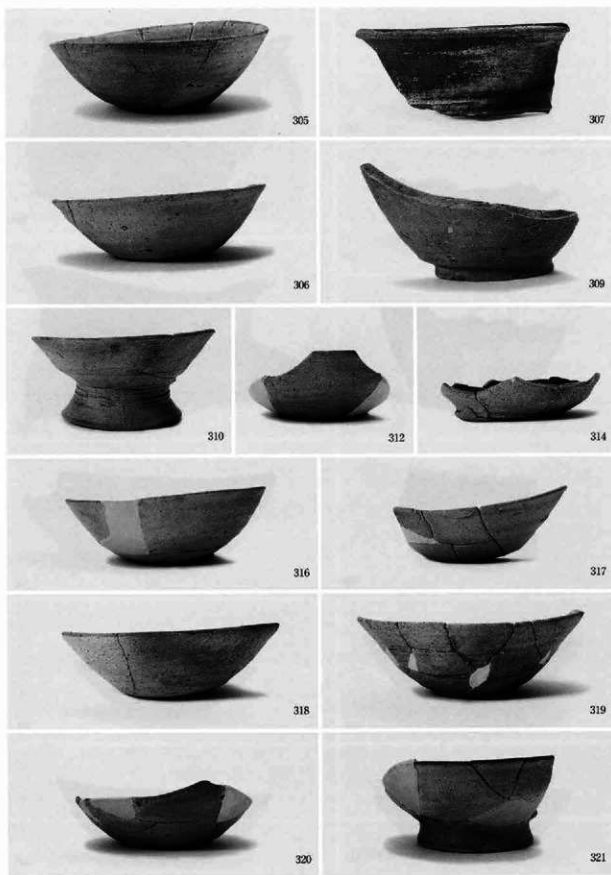
写真図版157 土師器・須恵器(26)

2:5



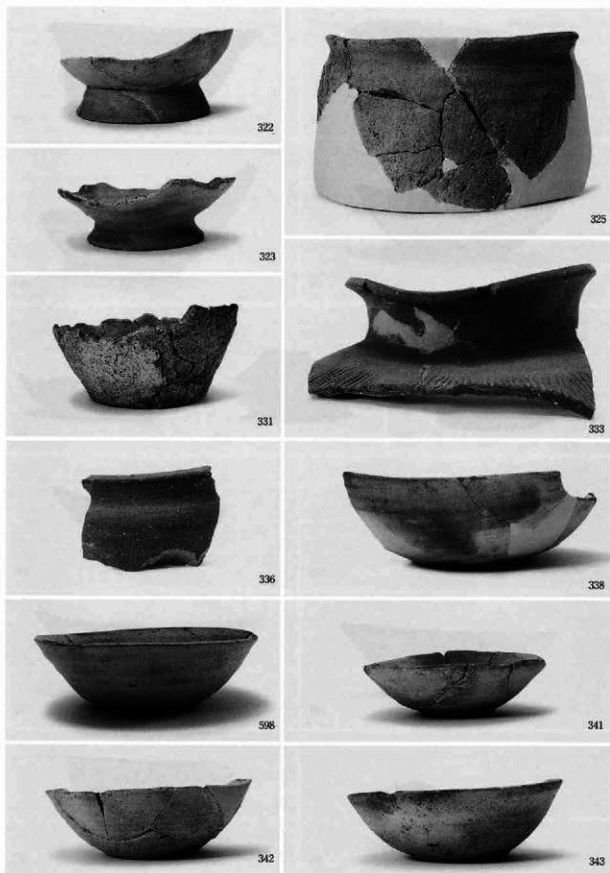
写真図版158 土師器・須恵器(27)

2:5



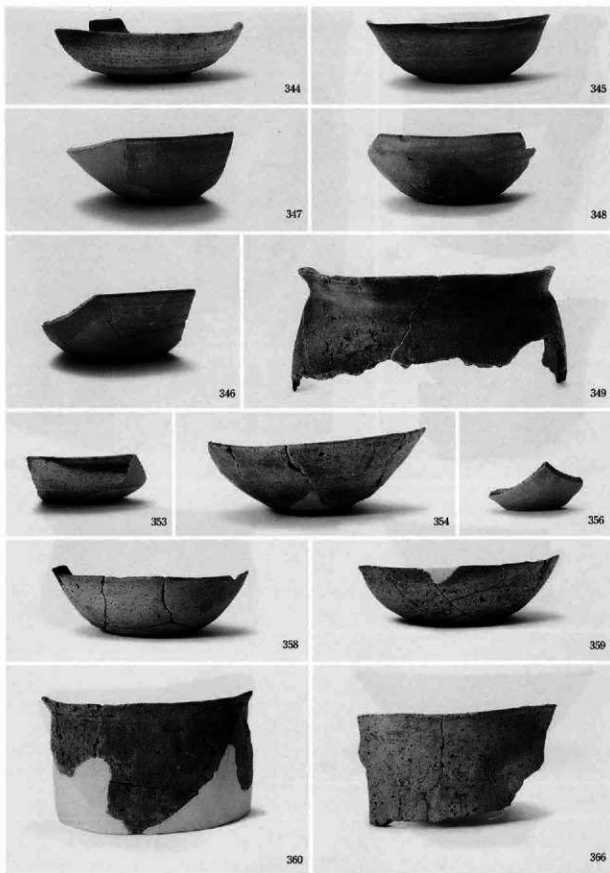
写真図版159 土師器・須恵器(28)

2:5



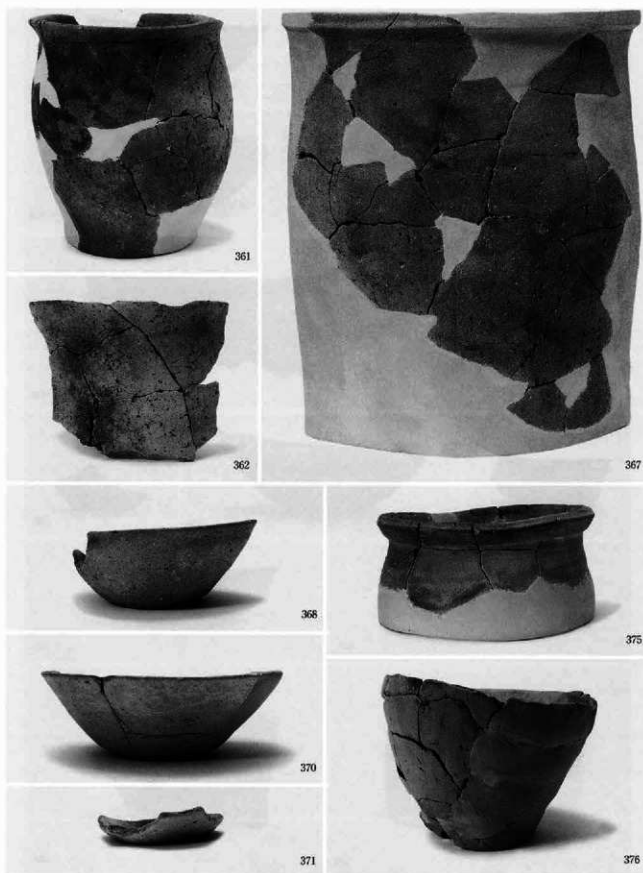
写真図版160 土師器・須恵器(29)

2:5



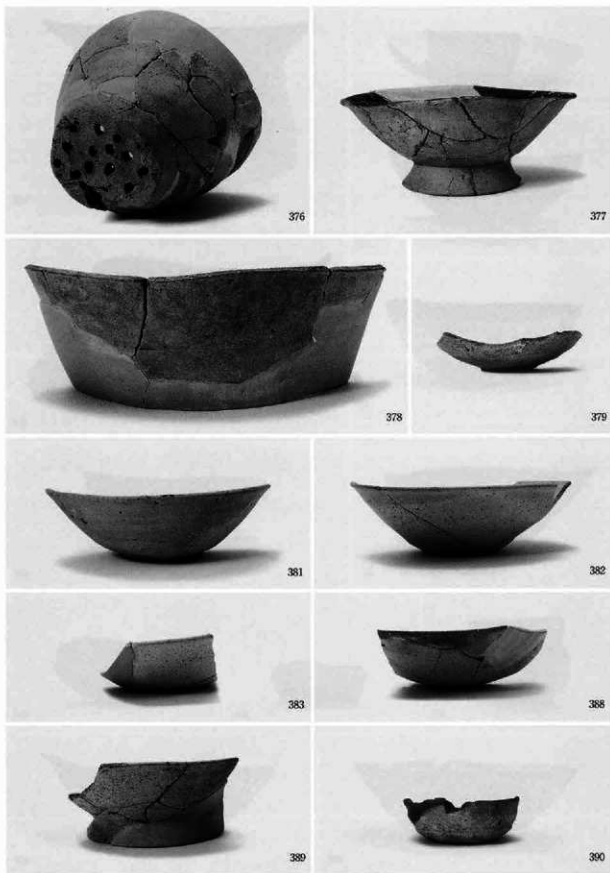
写真図版161 土師器・須恵器(30)

2 : 5



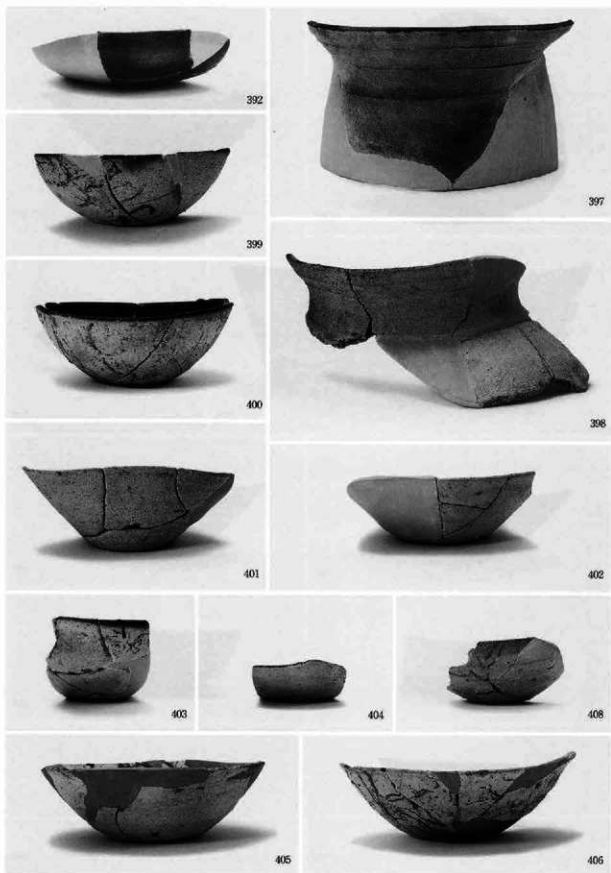
写真図版162 土師器・須恵器(31)

2:5



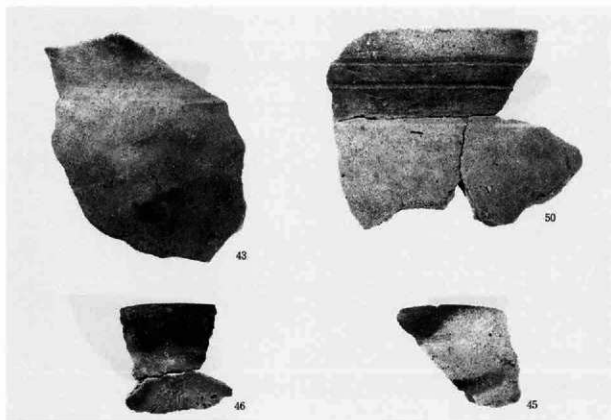
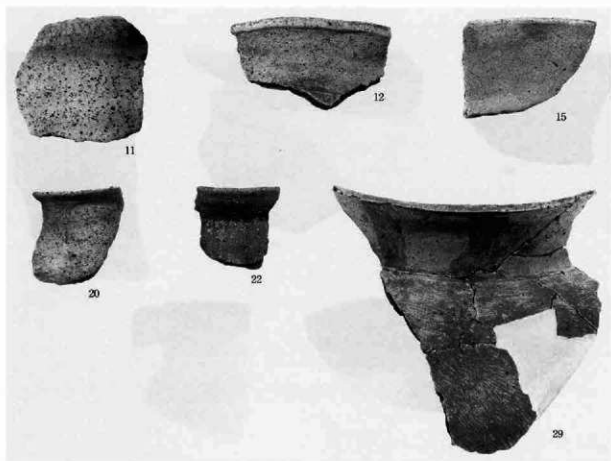
写真図版163 土師器・須恵器(32)

2:5



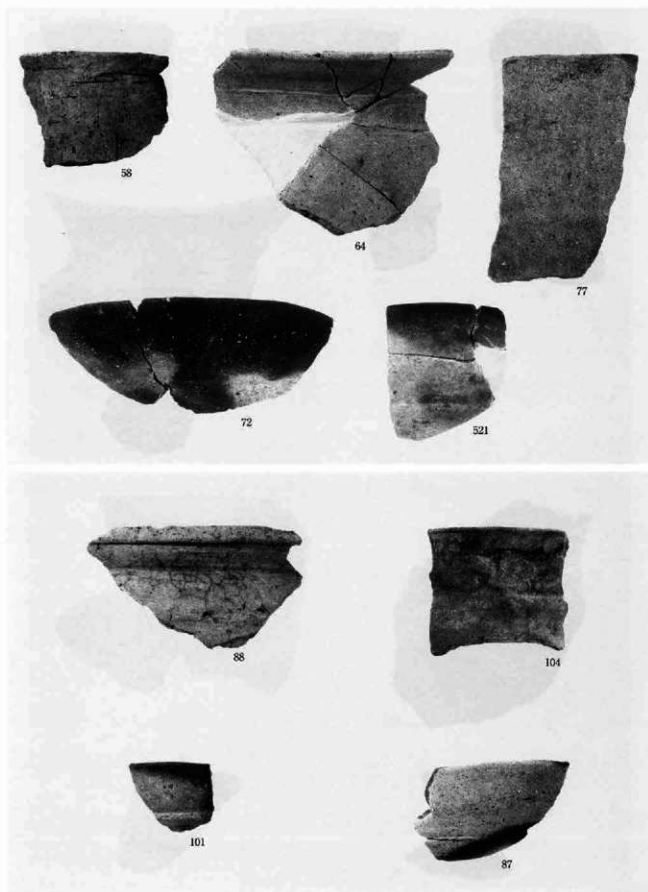
写真図版164 土師器・須恵器(33)

2:5



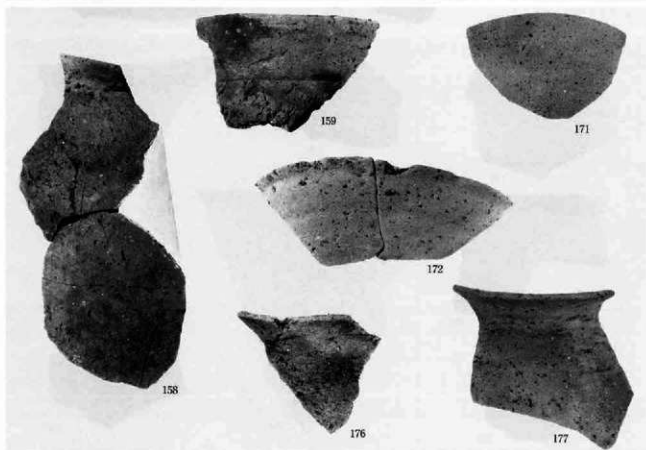
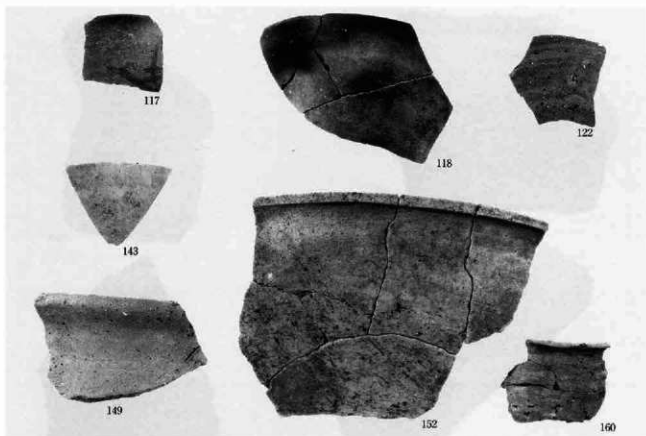
写真図版165 土師器・須恵器(34)

1:2



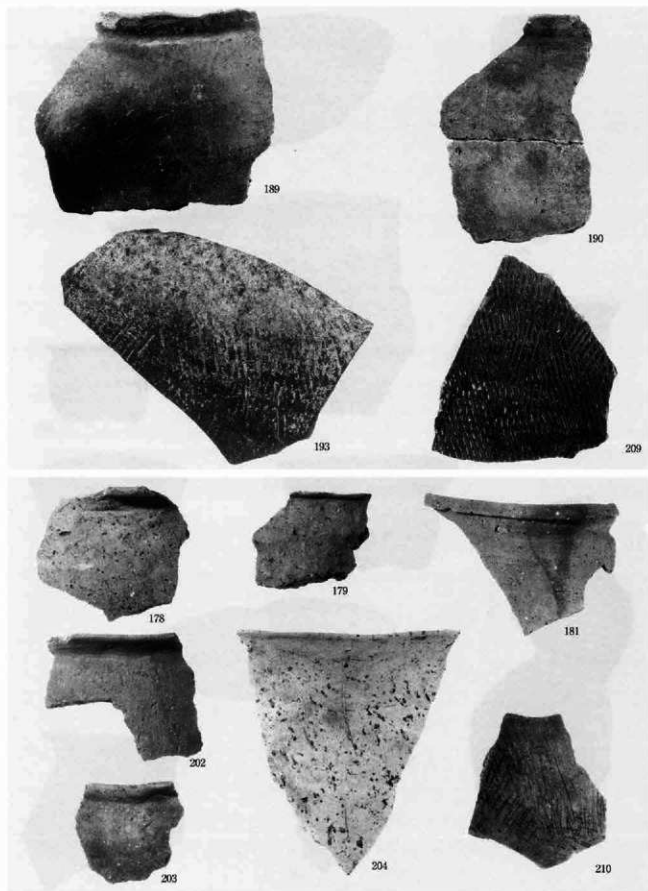
写真図版166 土師器・須恵器(35)

1:2



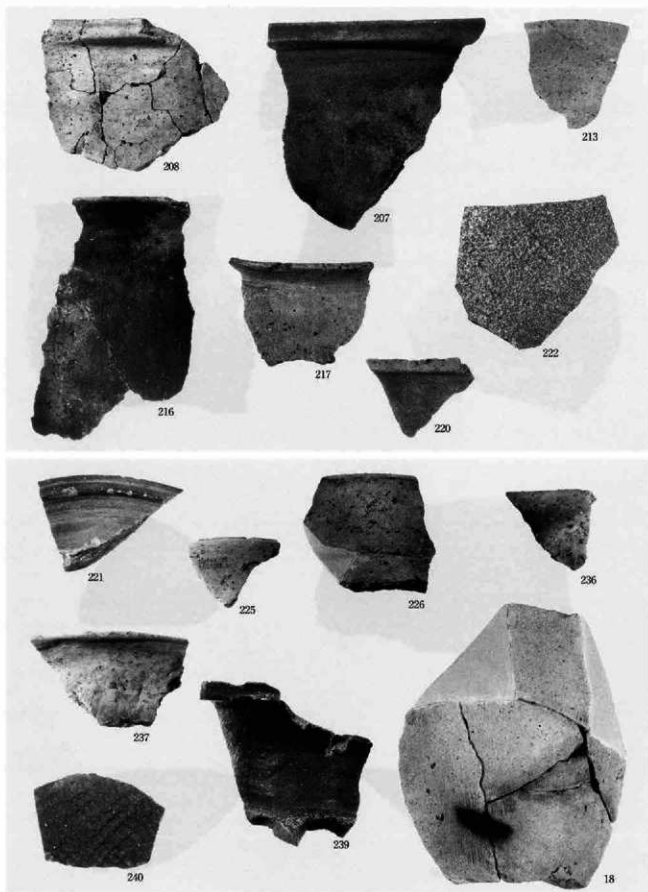
写真図版167 土師器・須恵器(36)

1:2



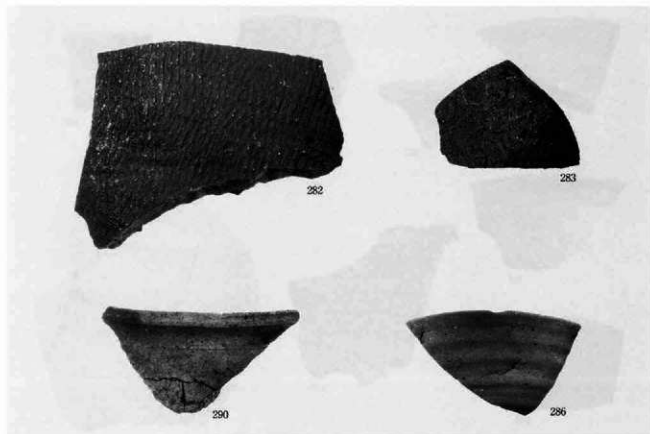
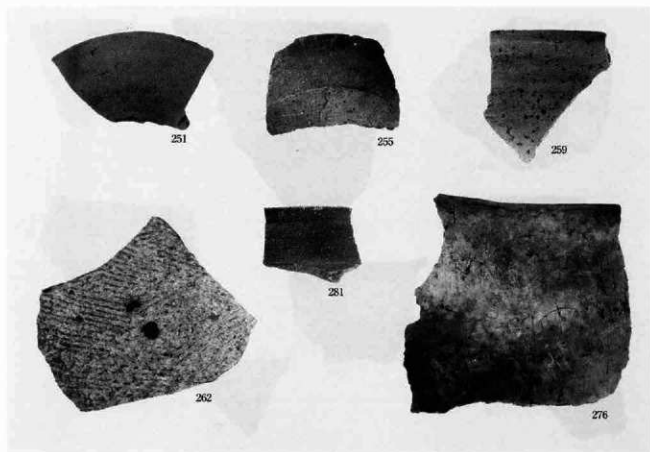
写真図版168 土師器・須恵器(37)

1:2



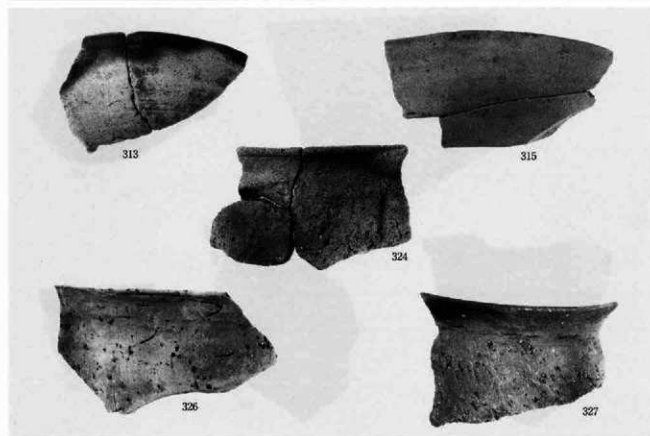
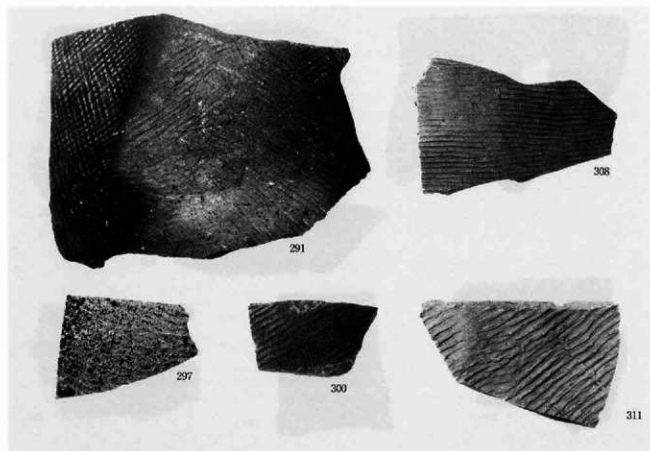
写真図版169 土師器・須恵器(38)

1:2



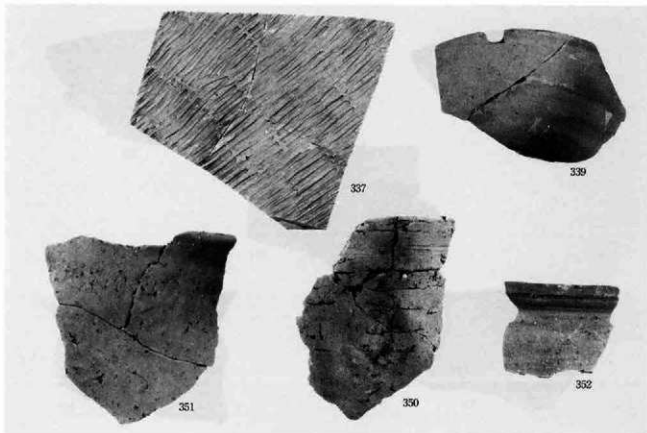
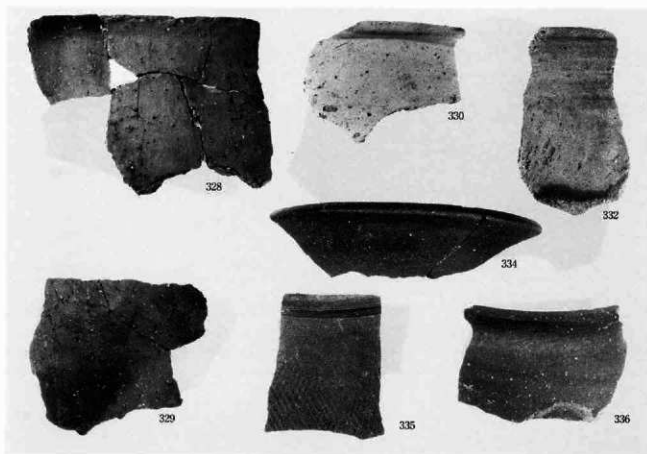
写真図版170 土師器・須恵器(39)

1:2



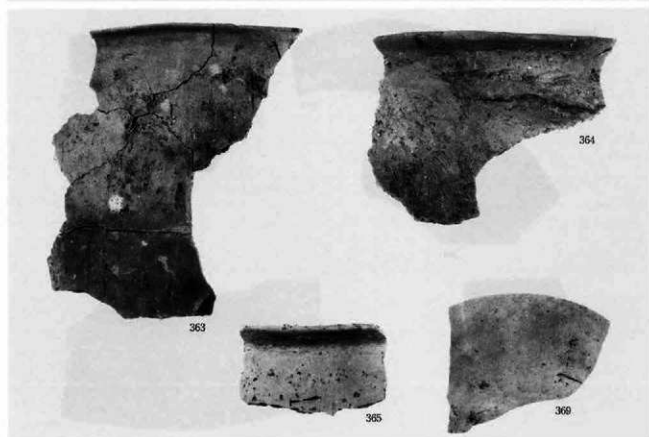
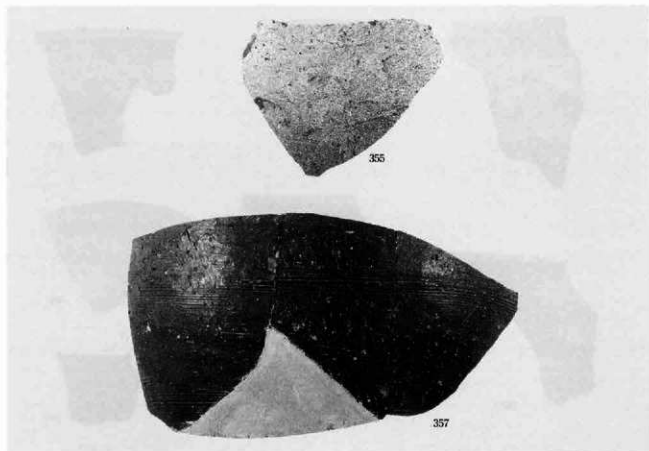
写真図版171 土師器・須恵器(40)

1:2



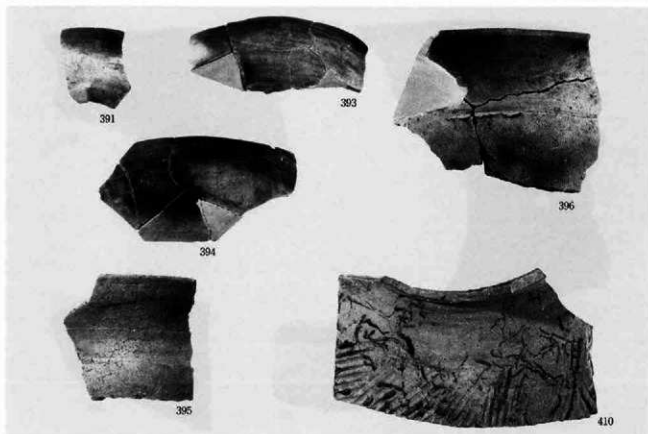
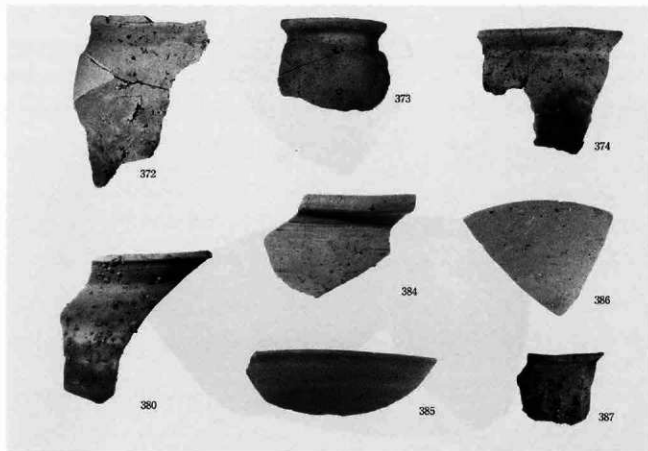
写真図版172 土師器・須恵器(41)

1:2



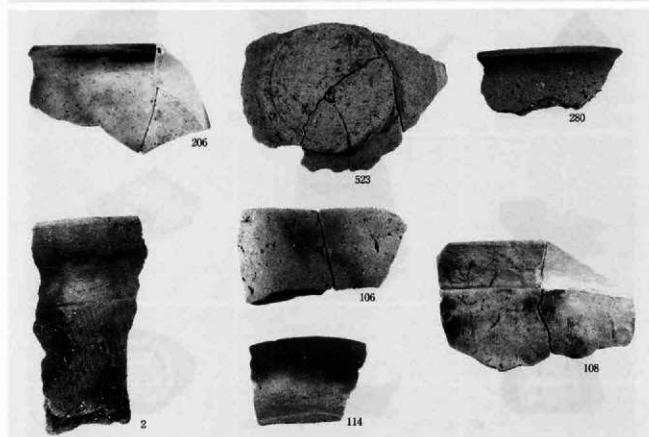
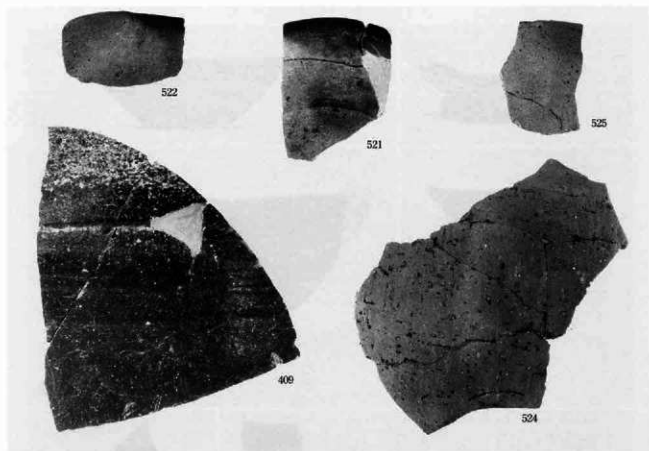
写真図版173 土師器・須恵器(42)

1:2



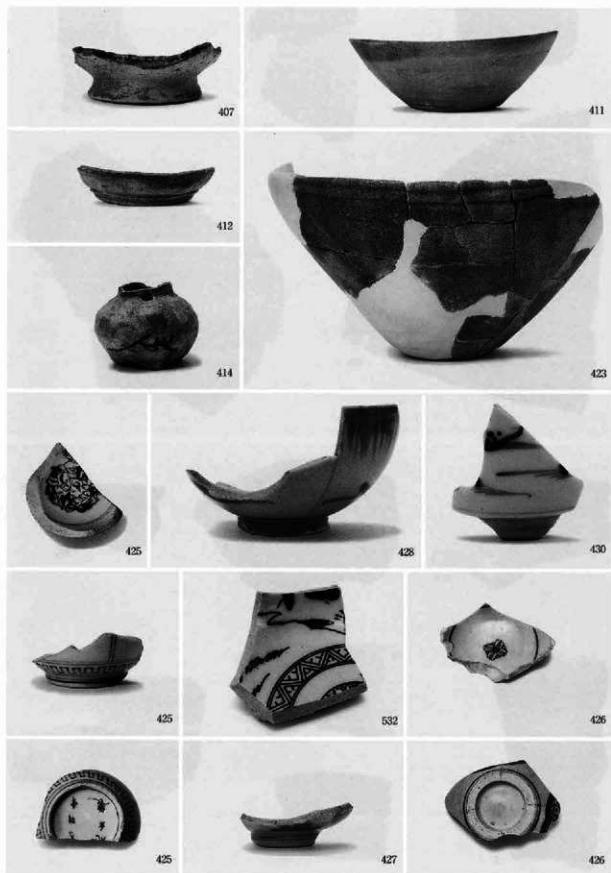
写真図版174 土師器・須恵器(43)

1:2



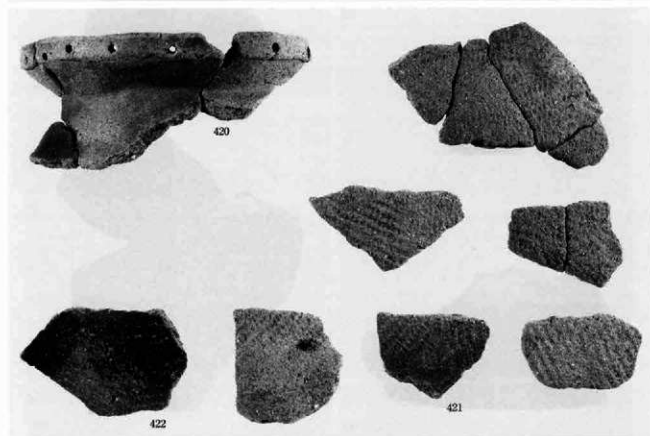
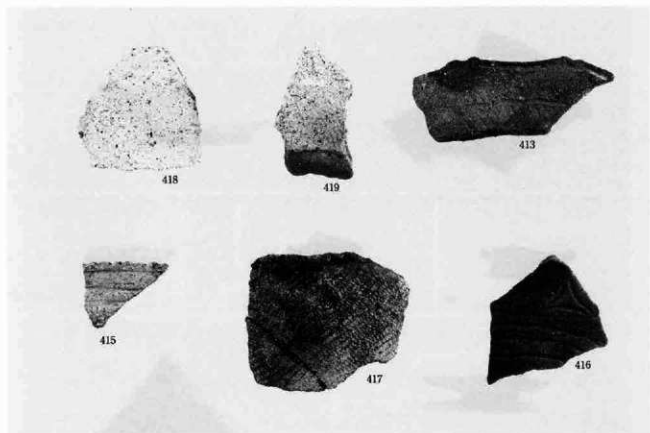
写真図版175 土師器・須恵器(44)

1:2



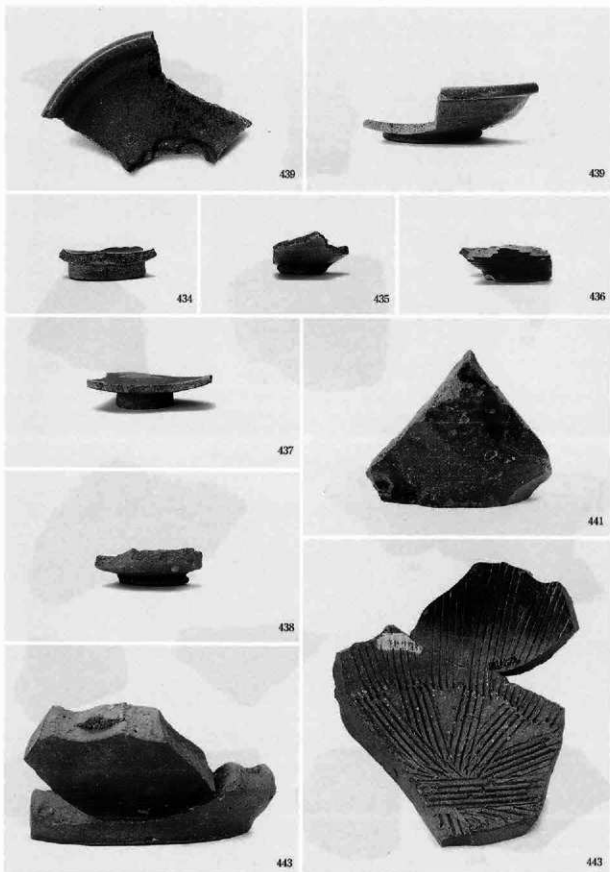
写真図版176 土師器・須恵器(45)、縄文土器(1)・陶磁器(1)

2:5



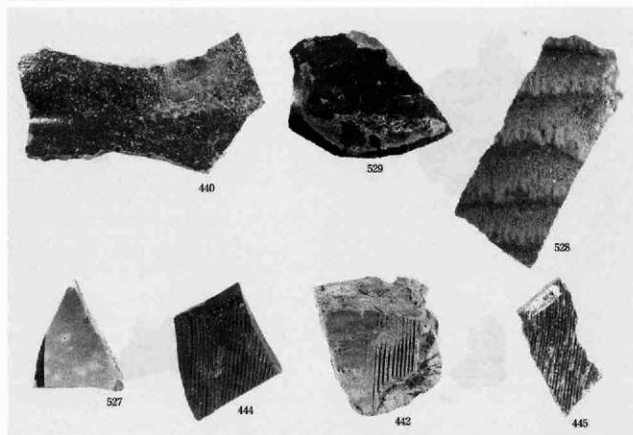
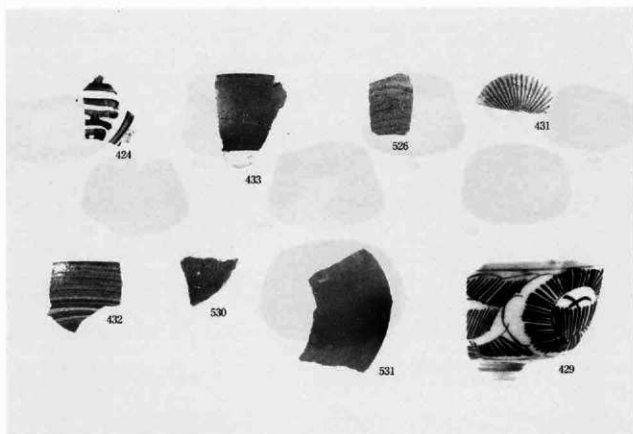
写真図版177 縄文土器(2)

1:2



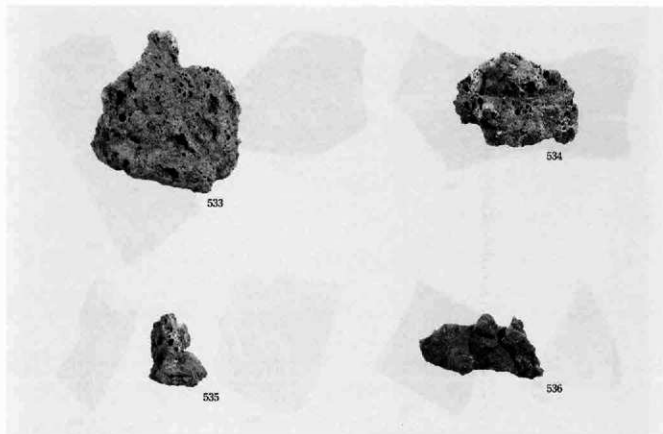
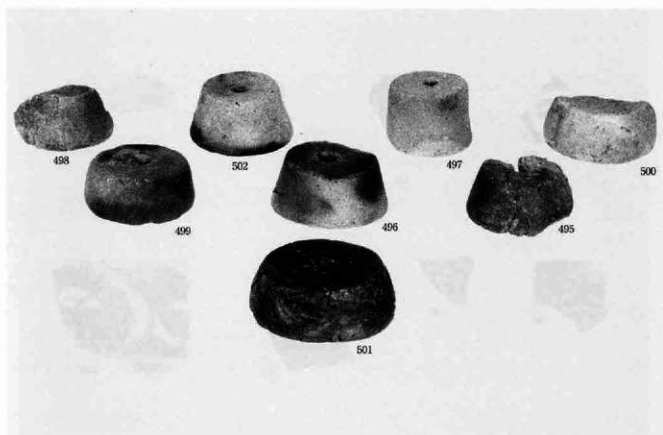
写真图版178 陶磁器(2)

2:5



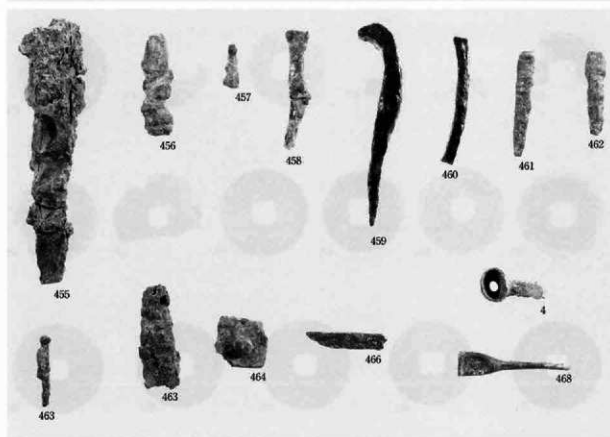
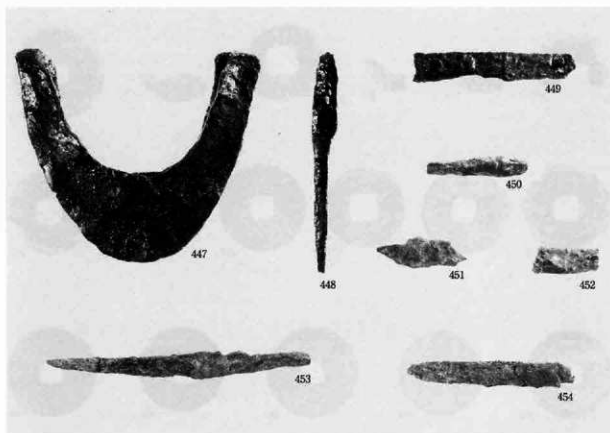
写真图版179 陶磁器(3)

1:2



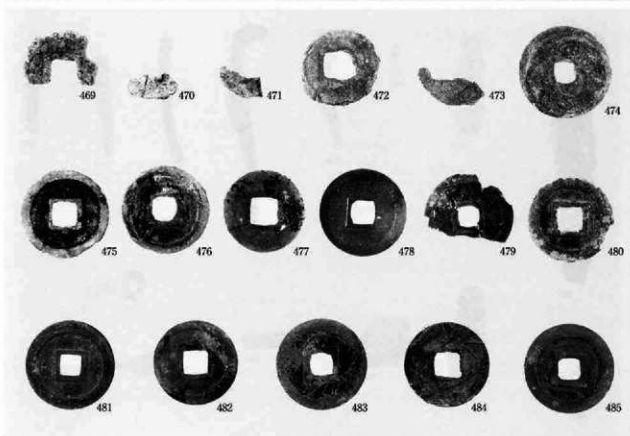
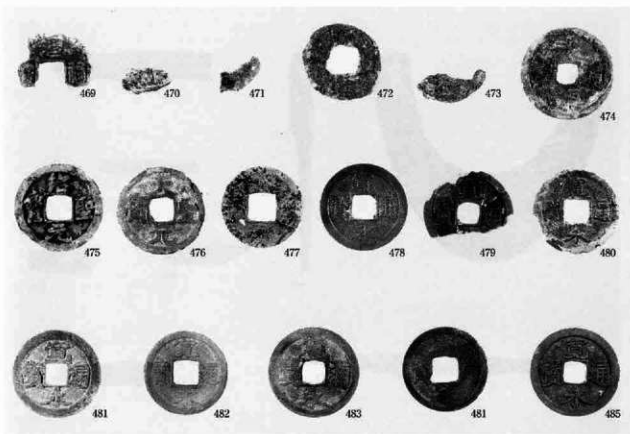
写真図版180 土製品、鉄製品(1)

1:2



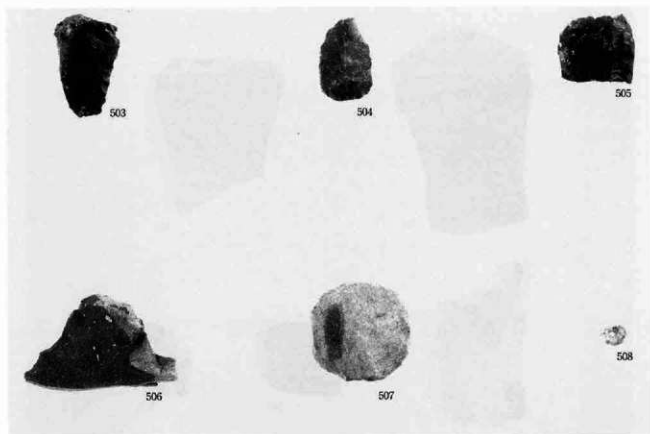
写真図版181 鉄製品(2)

1:2



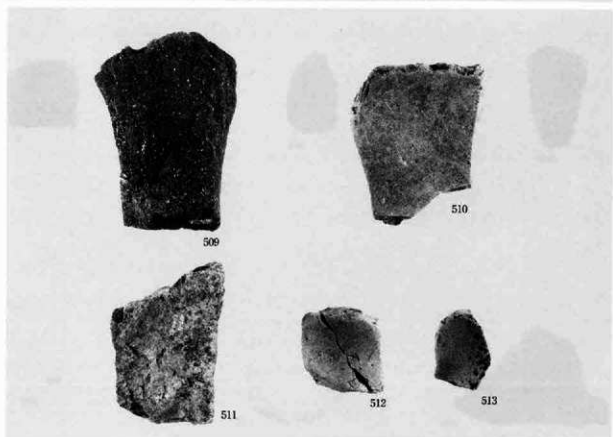
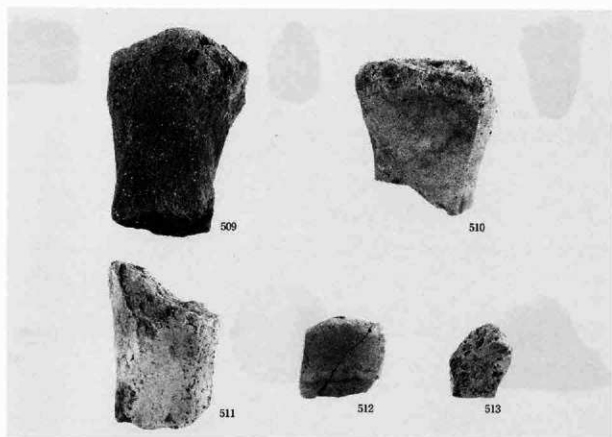
写真図版182 錢貨

原寸



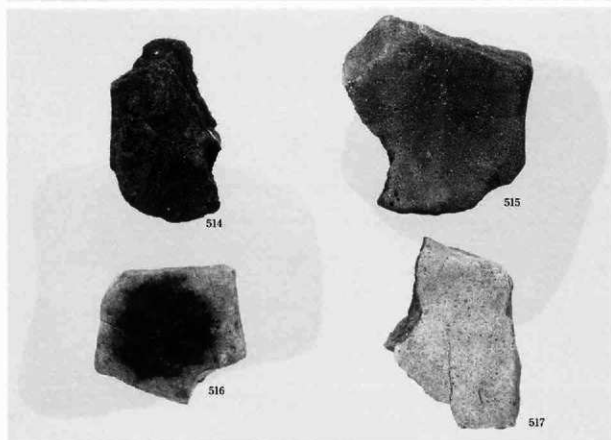
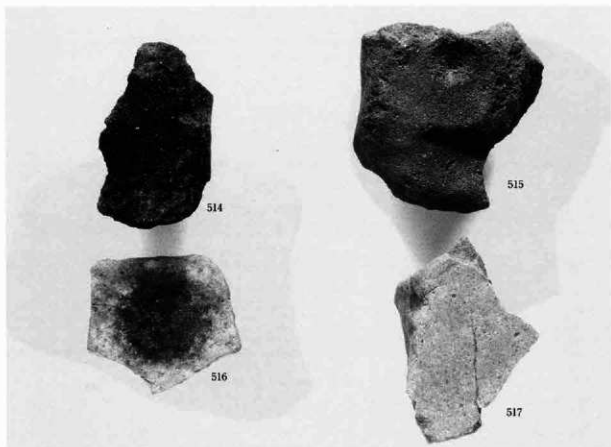
写真図版183 石器・石製品(1)

1:2



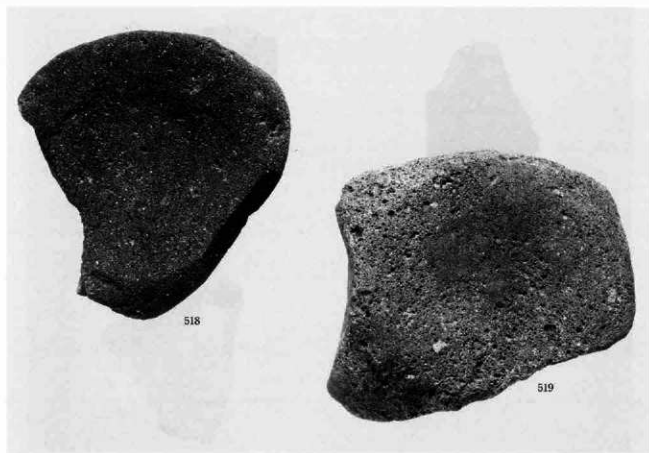
写真図版184 石器・石製品(2)

1:3



写真図版185 石器・石製品(3)

1:4



写真図版186 石器・石製品(4)

1:4

報告書抄録

ふりがな	だいたろういせきだいにじゅうろくじはっくつちょうさほうこくしょ							
書名	台太郎遺跡第26次発掘調査報告書							
副書名	盛岡南新都市計画整備事業関連遺跡発掘調査							
巻次								
シリーズ名	岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第416集							
編著者名	杉沢昭太郎 半澤武彦 古館貞身							
編集機関	(財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター							
所在地	〒020-0853 岩手県盛岡市下飯岡11地割185番地 TEL 019-638-9001							
発行年月日	西暦 2001年11月29日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
台太郎 遺跡 第23次 調査	岩手県 盛岡市 向中野 字向中野 16-15ほか	03201	LE16-2269	39度 40分 43秒	141 度 8分 40秒	1999年 4月 19日 から 10月 30日	13,662 ㎡	盛岡南新都市 計画整備 事業にとも なう事前調 査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
台太郎遺跡 (26次)	集落	古墳時代末 ～奈良時代	竪穴住居跡34棟、竪穴状 遺構1棟		土師器(坏、高坏、 甕、甗など) 須恵器(高台付坏)			
		平安時代	竪穴住居跡34棟、掘立柱 建物跡1棟、竪穴状遺構 1棟、溝1条、土坑3基、 円形周溝ほか1基		土師器(墨書あり、 坏、高台付坏、甕 など) 須恵器、鉄 器(鋤先)			
	墓地 集落 ほか	中世	墓塚29基、竪穴建物跡4棟、 掘立柱建物跡6棟、竪穴状 遺構1棟、焼土・炉跡7居、 溝6条、井戸2基、土坑21 基、その他1基		陶磁器(青磁、白磁、 染付、瀬戸、常滑、 東北在地など) かわらけ 銭貨(北宋ほか) 木製品(漆器、木 桶など)			
	民家 ほか	近世及びそ れ以降等	掘立柱建物跡2棟、土坑69 基、井戸1基、溝38条、そ の他1基		陶磁器、銭貨、鉄器、 木製品			

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第416集

台太郎遺跡第26次発掘調査報告書

盛岡南新都市計画整備事業関連遺跡発掘調査

印刷 平成14年11月22日

発行 平成14年11月29日

発行 (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
〒020-0853 岩手県盛岡市下飯岡11地割185番地
TEL (019) 638-9001
FAX (019) 638-8563

印刷 株式会社 杜陵印刷
〒020-0122 岩手県盛岡市みたけ2-22-50
TEL (019) 641-8000
FAX (019) 641-8085

© (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター2002

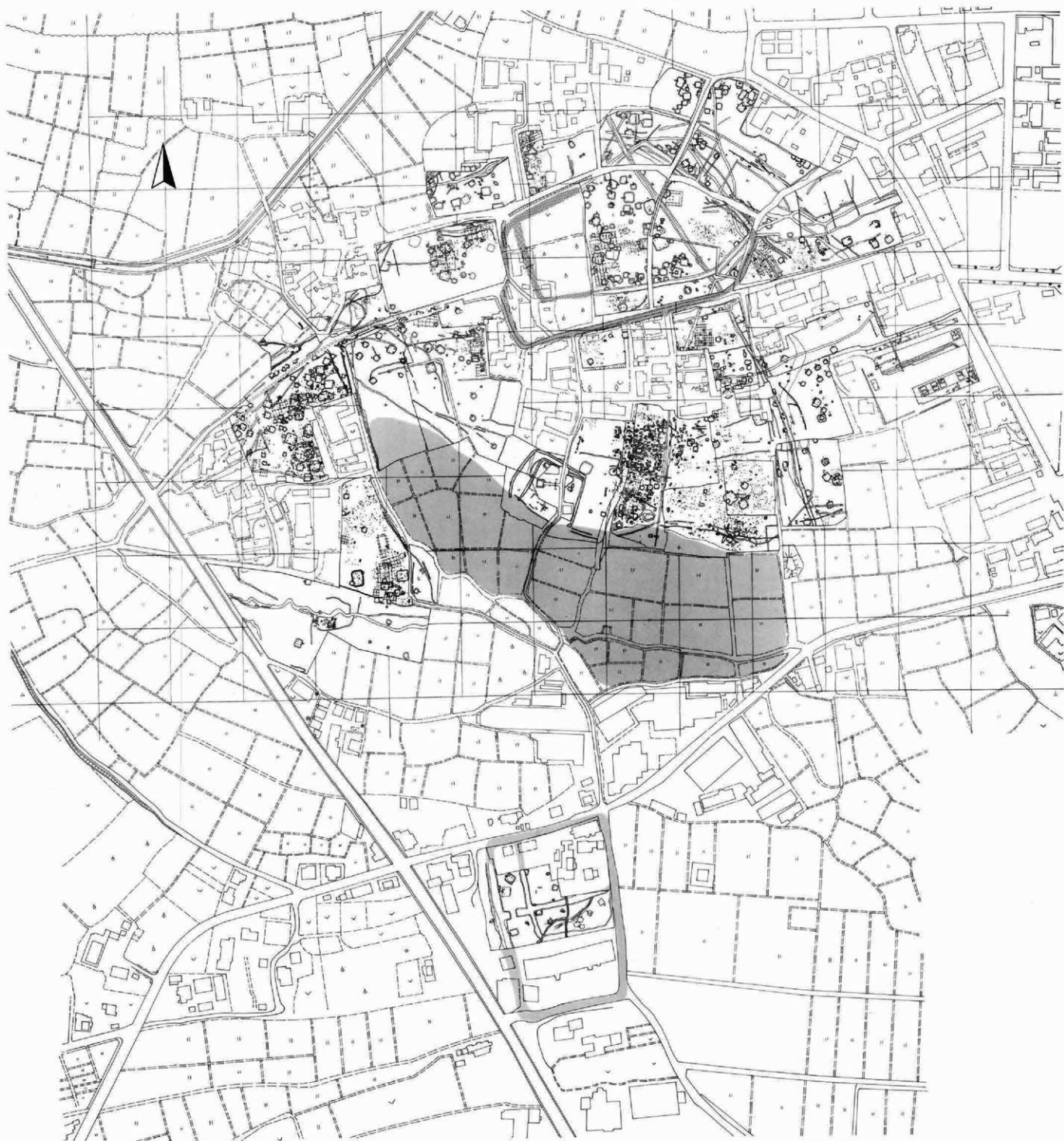
岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書 第416集

だい たらう

台太郎遺跡第26次発掘調査報告書

盛岡南新都市計画整備事業関連遺跡発掘調査

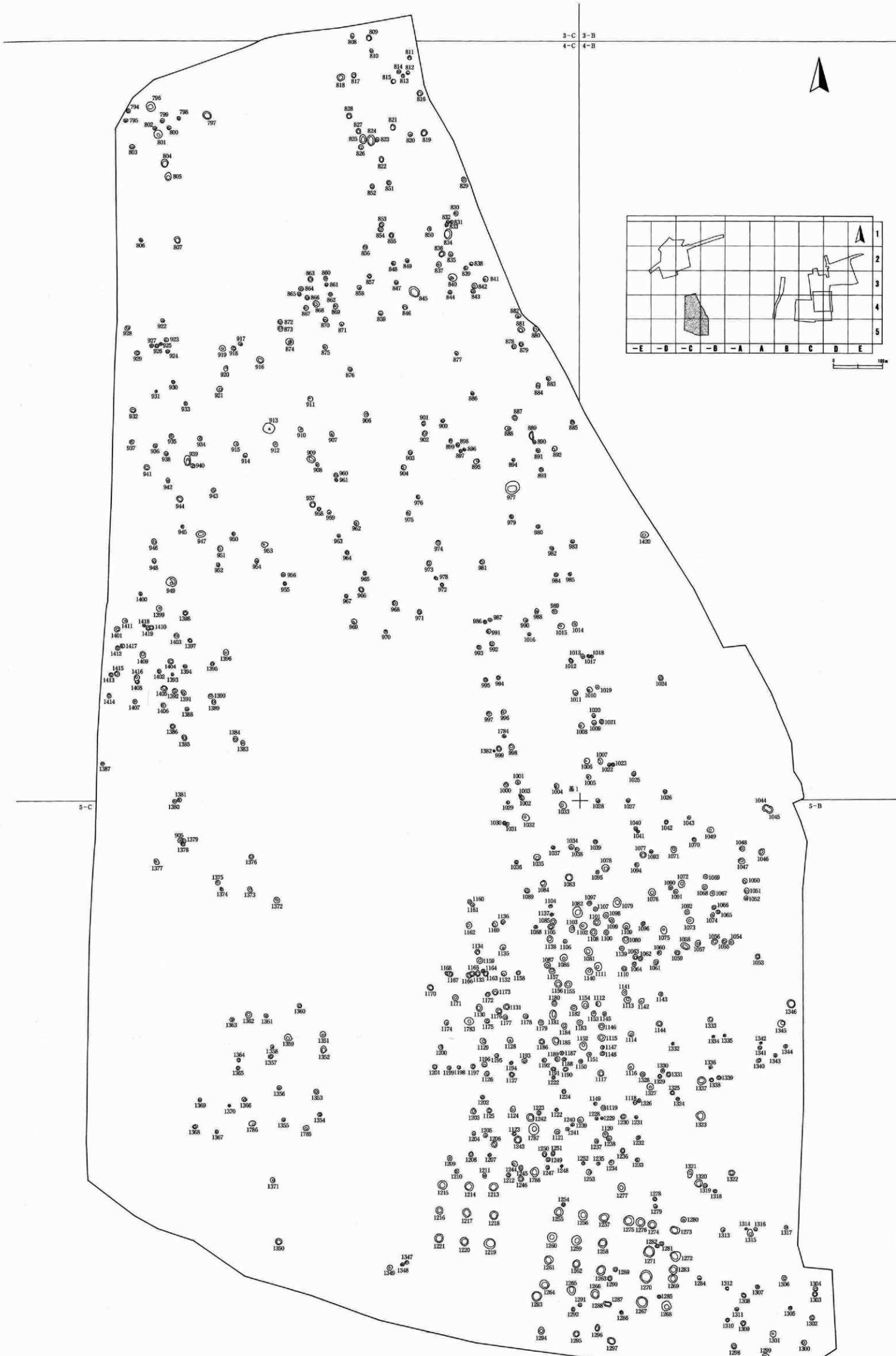
折込図版（3枚）



付図1 台太郎遺跡15・18・23・26次、
向中野館跡遺構配置図



付図2 柱穴群



付圖3 柱穴群

the 1990s, the number of people with a university degree has increased in all countries.

There are several reasons for this. First, the number of people who have completed a university degree has increased in all countries. Second, the number of people who have completed a university degree has increased in all countries. Third, the number of people who have completed a university degree has increased in all countries. Fourth, the number of people who have completed a university degree has increased in all countries. Fifth, the number of people who have completed a university degree has increased in all countries.

There are several reasons for this. First, the number of people who have completed a university degree has increased in all countries.

Second, the number of people who have completed a university degree has increased in all countries.

Third, the number of people who have completed a university degree has increased in all countries.

Fourth, the number of people who have completed a university degree has increased in all countries.

Fifth, the number of people who have completed a university degree has increased in all countries.

Sixth, the number of people who have completed a university degree has increased in all countries.

Seventh, the number of people who have completed a university degree has increased in all countries.

Eighth, the number of people who have completed a university degree has increased in all countries.

Ninth, the number of people who have completed a university degree has increased in all countries.

Tenth, the number of people who have completed a university degree has increased in all countries.

Eleventh, the number of people who have completed a university degree has increased in all countries.

Twelfth, the number of people who have completed a university degree has increased in all countries.

Thirteenth, the number of people who have completed a university degree has increased in all countries.

Fourteenth, the number of people who have completed a university degree has increased in all countries.

Fifteenth, the number of people who have completed a university degree has increased in all countries.

Sixteenth, the number of people who have completed a university degree has increased in all countries.

Seventeenth, the number of people who have completed a university degree has increased in all countries.

Eighteenth, the number of people who have completed a university degree has increased in all countries.

Nineteenth, the number of people who have completed a university degree has increased in all countries.

Twentieth, the number of people who have completed a university degree has increased in all countries.